

厚生労働行政推進調査事業費補助金

政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業）

分娩取扱施設における出産に係る費用構造の把握のための調査研究

令和6年度 総括研究報告書

研究代表者 野口 晴子

令和 7（2025）年 5 月

別添 2

目 次

I. 総括研究報告

分娩取扱施設における出産に係る費用構造の把握のための調査研究.....	1
-------------------------------------	---

研究代表者 野口 晴子 早稲田大学 政治経済学術院

(参考資料 1-1) 病院票 A 票

(参考資料 1-2) 病院票 B 票

(参考資料 1-3) 診療所票 A 票

(参考資料 1-4) 診療所票 B 票

(参考資料 1-5) 助産所票

(参考資料 2) 第 8 回「妊娠・出産・産後における妊産婦等の支援策等に関する検討会（資料 3）」、令和 7 年 3 月 19 日

(参考資料 3) 第 9 回「妊娠・出産・産後における妊産婦等の支援策等に関する検討会（資料 1）」、令和 7 年 4 月 16 日

II. 分担研究報告

1. 『分娩取扱施設における出産に係る費用構造の把握のための調査』について－調査設計、及び、対象施設の抽出方法に係る検討－	15
---	----

研究代表者 野口 晴子 早稲田大学 政治経済学術院

研究分担者 片岡 弥恵子 聖路加国際大学 大学院看護学研究科

研究分担者 増澤 祐子 新潟県立看護大学 看護学部

2. 『分娩取扱施設における出産に係る費用構造の把握のための調査』について－有効回答数（率）に係る検証－	22
--	----

研究代表者 野口 晴子 早稲田大学 政治経済学術院

研究分担者 片岡 弥恵子 聖路加国際大学 大学院看護学研究科

研究分担者 増澤 祐子 新潟県立看護大学 看護学部

3. 分娩取扱施設における出産に係る費用構造の把握のための調査』について－悉皆調査（A 票：分娩施設の概要、及び、病棟における医療体制等）に係る結果－	35
---	----

研究分担者 片岡 弥恵子 聖路加国際大学 大学院看護学研究科

研究分担者 増澤 祐子 新潟県立看護大学 看護学部

研究代表者 野口 晴子 早稲田大学 政治経済学術院

4. 分娩取扱施設における出産に係る費用構造の把握のための調査』について－標本調査(B票:患者(産婦)票、タイムスタディ、分娩取扱施設の収益等)に係る結果－	51
研究代表者 野口 晴子	早稲田大学 政治経済学術院
研究分担者 片岡 弥恵子	聖路加国際大学 大学院看護学研究科
研究分担者 増澤 祐子	新潟県立看護大学 看護学部
5. 『分娩にかかわる医療者のタイムスタディ調査』について－修正デルファイ法を用いたタイムスタディ調査での必須観察項目の検討の計画－	81
研究分担者 増澤 祐子	新潟県立看護大学 看護学部
研究分担者 片岡 弥恵子	聖路加国際大学 大学院看護学研究科
研究代表者 野口 晴子	早稲田大学 政治経済学術院
研究成果の刊行に関する一覧表	87

別添 3

令和6年度厚生労働行政推進調査事業費補助金
政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業）
総括研究報告書

分娩取扱施設における出産に係る費用構造の把握のための調査研究

研究代表者 野口晴子 早稲田大学 政治経済学術院

研究要旨

本研究では、分娩を取り扱う医療機関等を対象に、出産等の費用構造等の実態を把握することを目的として、第1に、令和5年度に実施した予備的なパイロット調査とヒアリングから得られた結果を基に、令和6年度に『分娩取扱施設における出産に係る費用構造の把握のための調査』を実施した。本研究の結果についてはいくつか留意すべき点がある。第1に、分析に用いたデータは、外れ値や誤答と思われるものが含まれているため、あくまでも速報値であり、令和7年度に研究班が精査を行う予定である。第2に、修正や調整が可能と判断したデータについては、研究班により統計的な処理を施した。第3に、以上の理由により、群間での違いに対する統計的な検定は殆ど行っておらず、群間での統計的な有意差についても、データの精査後に研究班にて行う予定である。第2に、当該調査でのタイムスタディが自計式であることから、令和7年度に計画されている他計式でのタイムスタディへ向け、修正デルファイ法を実施し、タイムスタディ表の作成準備を行った。

パイロット調査における個別の調査項目に対する回答率の結果から、比較的回答率の高かった調査項目については悉皆調査（以下、A票）、回答率が低い調査項目については無作為抽出による標本調査（以下、サンプル調査、B票）を実施することとした。

サンプル調査については、①分娩施設の機能、②分娩件数、③経営主体で層別化を行い、Stata18.0で乱数を発生させ、抽出率1/2で調査対象者を無作為抽出した。その結果、最終的な調査対象数は、病院A票が911件、病院B票が500件、診療所A票が936件、診療所B票が469件、助産所が326件、A票が計2,173件、B票が計1,295件となった。

回収状況を要約すると、悉皆調査（以下、A票）が2,173件中1,012件（46.6%）、サンプル調査（以下、B票）が1,295件中502件（38.8%）、患者（産婦）票に回答した施設が1,295件中448件（34.6%）、患者（産婦）数は3,885名中1,072名（27.6%）、うちタイムスタディに対する回答は908名であった。本研究の調査設計において、令和5年度に実施したパイロット調査の有効回答率（約30%）に基づき、1,000例程度の患者（産婦）票を収集することを想定し、B票の標本数を決定したが、想定通り、1,072名（うち、タイムスタディ908名）についての回答を得ることが出来た。

以下が、結果についての要約である。

- (1) 1 か月間の「全分娩数」の平均は、総合・地域周産期母子医療センターは 43 件、それ以外の病院 36 件、診療所 36 件であった。助産所における 1 年間の分娩取扱件数の平均は 13 件であった。
- (2) 「無痛分娩」は、総合・地域周産期母子医療センター42%、それ以外の病院 48%、診療所 44%で実施されていた。「無痛分娩」の平均設定価格は、総合・地域周産期母子医療センターとそれ以外の病院は約 12 万円、診療所は約 9 万円であった。
- (3) 「お祝い膳」は、総合・地域周産期母子医療センターで 79%、それ以外の病院で 84%、診療所で 76%、助産所で 31%で提供。料金は、80%以上の施設で個別に明示されず、入院料等に含まれていた。
- (4) 病院では混合病棟が 68%であり、「病棟における産科患者の入院割合」は総合・地域周産期母子医療センターで 60%、それ以外の病院で 47%であった。
- (5) 「1 日当たりの室料差額料金」の平均は、総合・地域周産期母子医療センターが 43,233 円で、25,107 円のそれ以外の病院よりも高かった。
- (6) 「帝王切開」は、総合・地域周産期母子医療センターで 14%と最も多かった。「無痛分娩」は総合・地域周産期母子医療センター11%、それ以外の病院が 7%、診療所が 13%だった。
- (7) 入院中の助産ケアについて、「授乳指導」は、平均的な 1 日あたりの回数が 4.6 回、1 入院あたりの合計回数が 19.4 回であり、産後入院中は多数回の授乳指導が行われていた。「沐浴指導」の実施回数は、初産婦で平均 1.7 回、経産婦で 1.5 回であり、経産婦にも実施されていた。「育児技術指導」の延べ時間（平均）は初産婦で 257 分、経産婦で 218 分であり、「退院指導」の時間は初産婦で 45.4 分、経産婦で 41.6 分であった。
- (8) 「お祝い膳」以外のサービス（写真撮影、足形、エステ）の提供は、「初産婦」より「経産婦」の方が割合が高く、総合・地域周産期母子医療センターが他施設と比べて割合が低かった。
- (9) 「産婦合計負担額」の平均値は、無痛分娩（603,338 円）＞帝王切開（511,299 円）＞その他の分娩（485,636 円）の順で高かった。
- (10) 「産婦合計負担額」は、総合・地域周産期母子医療センター（537,358 円）＞診療所（513,405 円）＞それ以外の病院（503,551 円）＞助産所（448,154 円）の順で高かった。「入院料」、「室料差額」、「一部負担金等」では総合・地域周産期母子医療センターが高いが、それ以外の項目については診療所が高い傾向。
- (11) 正常な経膣分娩等を含む「その他の分娩」において、娩出 2 時間前後に関わった職種別延人数は「産婦人科医」が 0.8 人、「助産師」が 2.3 人、「看護師」が 0.4 人であった。
- (12) 平均的な妊婦健診（病院+診療所）の費用の平均は 113,425 円（中央値 115,800 円）、うち望ましい基準に含まれない健診項目の費用は 10,882 円（中央値 3,460 円）であった。
- (13) 病院+診療所における産後ケアのでの 1 か月 間の延べ利用者数の平均は約 7.5 人（中央値 3 人）、助産所では約 8.2 人（中央値 2 人）

(14) 年度別の損益率の状況について、回答のあった病院（74 施設）では、令和 4 年度が▲5.4%、令和 5 年度が▲6.9%であった。うち、「総合・地域周産期母子医療センター」（39 施設）では、令和 4 年度が▲5.9%、令和 5 年度が▲6.9%であり、「それ以外の病院」（35 施設）では、令和 4 年度が▲8.1%、令和 5 年度が▲6.5%であった。また、診療所（医療法人、43 施設）では、令和 4 年度が 6.3%、令和 5 年度が 3.6%であった。

次に、タイムスタディに係る令和 6 年度に実施した修正デルファイ法の結果、入院診療計画書の立案、入院診療計画書の説明、病棟内の場所説明、内診、CTG 装着、CTG 判読、間欠的児心音聴取、陣痛観察、出血/破水の観察、レオポルド触診法、足浴、腰背部等のマッサージ・指圧・温罨法、体位変換、呼吸/努責のリード、動くこと（歩行・移動等）の支援、スクワット/ボールの活用、傾聴（産婦の思いを聴く）、「状況/治療・検査/ケアの説明（産科的処置）の事前説明と IC：誘発分娩、促進分娩、硬膜外麻酔分娩、吸引・鉗子分娩等」、家族への説明、「家族へのケア（夫や上の子どもを含めた家族での出産体験の支援、写真撮影、足形等）」、配膳/下膳、食事摂取補助、水分補給補助、トイレ歩行補助、床上排泄補助、導尿、清拭、更衣、シャワー浴/入浴の準備補助、パットの交換、シーツ交換、寝具/ベッド周辺の整頓、車椅子での移動、ベッド・ストレッチャーでの移動、歩行補助、看護師・助産師への指示出し、医師への報告、リーダーへの報告、看護者間の申し送り、当該産婦に関するカンファレンス/ミーティング、バイタルサイン測定、血中酸素飽和度測定、採血、羊水（BTB/エムニケータ等）、与薬/点滴/注射準備、血管確保、点滴実施/交換、内服薬の与薬、点滴流量変更、静脈注射/静脈内投与、筋肉注射、分娩録/医師・看護記録の入力、麻薬・鎮痛薬の準備/管理、麻酔薬の注入、硬膜外麻酔中の観察（カテーテル挿入部/薬効/麻酔合併症）、カテーテル抜去、分娩室/分娩セットの準備、分娩介助（会陰保護/児娩出/胎盤娩出等）、分娩出血量計測、胎盤計測、会陰腔壁損傷の観察、会陰縫合の介助、物品の洗浄/処理、分娩室の片づけ/整備、会陰切開、吸引/鉗子、分娩中の点滴管理、産婦への支援（汗ふき/水分摂取/手を握る/呼吸リード等）、早期母子接触/初回授乳の支援、会陰・腔壁縫合、連結ガーゼ/タンポン挿入、子宮マッサージ、双手圧迫、胎盤用手剥離、新生児の観察、新生児の計測、新生児蘇生、新生児バイタルサイン/SpO2 測定については、1 回目の個別評価の集計結果にて採用となった。尚、タイムスタディ調査へ向けた修正デルフォイ法については、合意が得られなかった他の項目については、2 回目の個別評価を行う予定である。

研究分担者

片岡 弥恵子

聖路加国際大学 大学院看護学研究科
教授

増澤 祐子

新潟県立看護大学 看護学部
准教授

A. 研究目的

「こども未来戦略方針」（令和 5 年 6 月 13 日閣議決定）では、出産等の経済的負担の軽減を目的として、令和 5 年 4 月からの出産育児一時金の大幅な引上げ（42 万円から 50 万円に引き上げ）を行うとともに、出産費用の見える化について

令和 6 年度からの実施に向けて具体化を進めていくこととされており、その上で、これらの効果等の検証を行い、令和 8 年度を目途に、出産費用（正常分娩）の保険適用の導入等の検討を行うこととされている。

現状、我が国における「出産」については、健康保険法上、療養の給付の対象ではなく、妊娠 12 週以降の出産に対して出産育児一時金が支給されている。正常分娩の出産費用の支払いは医療機関と妊産婦等の間で決められており、地域や医療機関等（医療機関及び助産所）によって様々である。また、その内訳についても、医療行為のみならず様々な医療に該当しないサービス等も含まれており、出産費用の平均値は都道府県や公的病院、私的病院、診療所等の設置主体等によって幅があることは知られている。

令和 3 年度厚生労働科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）「医学的適応による生殖機能維持の支援と普及に向けた総合的研究」の分担研究である「出産育児一時金（出産費用）に関する研究」（田倉班）では、出産費用の水準は、地域特性と施設特性（私的病院など）、および妊婦年齢、出産回数のみならず、施設ブランドや付帯サービス、世帯収入（施設選択に大きく影響）や情報提供のあり方に、大きく依存していることが示唆された。

加えて、分娩取扱医療機関等は正常分娩のみならず、外来における妊婦健診等も一体的に行っている医療機関も多くあり、当該医療機関等の費用構造や人員配置の実態を調査する上では、妊婦健診も含めた調査を行うことが必要である。

以上を踏まえ、第 1 に、本研究は、正常分娩を取り扱う医療機関等を対象に、出産等の費用構造等の実態を把握することを目的とする。正常分娩は自費診療であり、費用構造を明らかにした大規模調査は行われていない。そこで、本研究では、令和 5 年度に実施された予備的なパイロット調査とヒアリングから得られた結果を参考に、全国の分娩取扱施設を対象とした『分娩取扱施設における出産に係る費用構造の把握のための調査』を、悉皆調査と標本調査（以下、サンプル調査）を並行して実施することとした。

第 2 に、令和 6 年度に実施した調査で、各患者（産婦）の分娩に関わった医師・助産師・看護師を対象としたタイムスタディは自計式であったことから、令和 7 年度には、他計式のタイムスタディを計画している。今年度は、タイムスタディ表作成のために、病院（周産期母子医療センターを含む）、診療所（各 1 か所）に勤務する産科医師 3 名、小児科医師（新生児科）2 名、病院など勤務の助産師 4 名、助産所勤務の助産師 3 名程度、合計 12 名程度を対象に、修正デルファイ法を用いて、必須観察項目を検討した。

B. 研究方法

B-1. 調査内容

質問票は、大きく、悉皆調査用（以下、「A 票」）とサンプル調査（以下、「B 票」）の 2 つから構成されている。更に、分娩施設の機能別に、「病院 A 票」・「病院 B 票」、「診療所 A 票」・「診療所 B 票」、及び、「助産所票」の 5 種類に分類されている。助産所を対象とした調査は全質問項目について悉皆で実施

したため、「A 票」と「B 票」の区別はない。

各調査票の具体については、参考資料 1-1～1-5 に示す通りであるが、以下では、概要について示す。尚、（ ）内の数値は質問内容における凡その項目数を示しているが、分娩施設の機能により数が異なることに留意されたい。

【A 票】

①分娩取扱施設の基本情報（12～15）

- ・施設名
- ・施設所在地
- ・施設種別
- ・設置主体
- ・周産期医療情報システム参加の有無、等

②構造設備・体制・分娩取扱実績等（113～168）

- ・構造設備
- ・分娩取扱施設の医療体制
- ・分娩取扱実績
- ・助産師の従事時間（※助産所のみ）
- ・その他（無痛分娩の実施の有無と価格、付帯サービス提供の有無と価格、等）
- ・病院については病棟構成・配置職員数、等

③外来概要（15～37）

- ・外来体制
- ・外来の状況
- ・妊婦健診に係る補助
- ・各健診等の内容・費用
- ・産後ケア、等

【B 票】

※但し、助産所については、悉皆調査のため、A 票と B 票の区別はない。

①従事時間、等（31～61）

- ・看護職（助産師、看護師、准看護師）
- ・医師
- ・病院については病棟に配置された看護職・医師の従事時間等

②患者（産婦）票（82～91）

- ・産婦の概要
- ・分娩の概要
- ・医療行為・処置
- ・入院中の助産ケア
- ・新生児の概要
- ・入院料・分娩料等の費用、等

③医師・助産師・看護師を対象とした分娩前後でのタイムスタディ

④直近 2 年間（令和 5 年 3 月まで／令和 6 年 6 月まで）の収益（10～11）

- ・基本データ
- ・医業収益（病院全体・周産期部門）
- ・介護収益
- ・医業・介護費用
- ・損益差額
- ・職種別給与
- ・資産・負債
- ・キャッシュフロー
- ・設備投資額、等

B-2. サンプル調査に係る抽出方法

パイロット調査における個別の調査項目に対する回答率の結果から、第 1 に、比較的回答率の高かった調査項目については悉皆調査（以下、A 票）、回答率が低い調査項目については無作為抽出による標本調査（以下、サンプル調査、B 票）を実施することとした。第 2 に、当該調査

の結果から、分娩施設の機能、及び、当該施設が所在する市区町村の財政状況や二次医療圏の競争環境により、回答率に偏りが発生することが判明したため、医療施設の機能や地域属性等に配慮した抽出方法を検討することとした。

まず、全国の分娩取扱する 2,173 施設（病院・診療所が 1,847 件；助産所が 326 件）を母集団として、推定量の 95%信頼区間を ± 0.02 （ $\pm 2\%$ ポイント）以内とする標本数を算出したところ、約 900～1,140 件であった。

次に、サンプル調査の対象施設を層化抽出法・比例割当（ネイマン割当（最適割当））によって選定することとし、①分娩施設の機能（周産期母子医療センター（総合又は地域）、周産期母子医療センター（総合又は地域）以外の病院、診療所）、②分娩件数（300 件以上、300 件未満）、③経営主体別（公立、公的、民間）で層別化を行った場合、及び、当該 3 項目に④同一地域内での競争環境（同一二次医療圏内の分娩件数 300 件を超える施設割合 $\leq 60\%$ （中央値）、 $> 60\%$ （中央値））と⑤所在する市区町村の財政状況（市区町村の財政力指数 ≤ 0.79 （中央値）、 > 0.79 （中央値））を加えた 5 項目で層別化を行った場合それぞれについて、抽出率を 1/2 と 1/3 とした検討を行った。

その結果、選定された標本内で、抽出率 1/2 の方が抽出率 1/3 の標本よりも、各都道府県の構成割合と分娩件数ともに母集団により近い分布を示しており、また、層別化に用いた項目数による差が観察されなかった。よって、令和 6 年度調査では、抽出率を 1/2 とし、個別施設の抽出においては、層化されたクラスター

に格納された施設について、Stata18.0 によって乱数を発生させることにより無作為抽出を行った。最終的な調査対象数は、病院 A 票が 911 件、病院 B 票が 500 件、診療所 A 票が 936 件、診療所 B 票が 469 件、助産所が 326 件、A 票が計 2,173 件、B 票が計 1,295 件であった。

B-3. 調査実施期間、調査委託業者

病院と診療所の調査期間は、令和 6 年 9 月の 1 か月としたが、助産所については分娩数が少ないため、令和 6 年 9 月又は 10 月のいずれかの 1 か月とした。尚、今回のパイロット調査に当たっては、合い見積りの結果、株式会社サーベイリサーチセンターを委託業者として選定した。

（倫理面への配慮）

本研究では、『分娩取扱施設における出産に係る費用構造の把握のための調査』を実施するに当たり、早稲田大学「人を対象とする研究に関する倫理審査委員会」にて、実施承諾を受けている

（承認番号：2024-044；承認日：令和 6 年 5 月 4 日）。本研究が実施するのは、介入をとまわず、調査対象者に対する侵襲は発生しない調査である。その上で、対象者の保護に関しては、本研究に関する研究者は「個人情報保護法」及び各自自治体が定めた「個人情報保護条例」等「個人情報の取り扱い」に関する諸規則を遵守した。また、医学研究に関わる部分は「ヘルシンキ宣言」などに従った。その他については、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に従って本研究を実施した。

本研究にて使用する全てのデータの構築・整備・解析に当たっては、施錠可能な物理的スペース、具体的には、研究代表者（野口）、分担研究者（片岡・増澤）の研究室において、学内外のネットワークに接続していないスタンドアロンのサーバー（2U Xeon IceLake x2 搭載計算機：HPCT R227s）で行った。尚、当該研究室への入退管理を徹底させ、業務時間帯以外は施錠など、運用管理規程に基づき許可された者以外立ち入ることが出来ない対策を講じた。更に、各研究機関における個人情報保護方針の策定・公開、及び、組織的安全管理対策（体制、運用管理規程）の実施を徹底させた。

B-4. タイムスタディ調査への準備

本研究では、他計式前向きのタイムスタディ調査に向け、調査表作成のために修正デルファイ法を用いた必須観察項目の検討を行った。

タイムスタディ表作成のための修正デルファイ法の参加者（パネルメンバー）は、病院（周産期母子医療センターを含む）、診療所（各1か所）に勤務する産科医師3名、小児科医師（新生児科）2名、病院など勤務の助産師4名、助産所勤務の助産師3名程度、合計12名程度とした。対象者は、便宜的抽出法を用いて、リクルートを行った。共同研究者、研究協力者から研究対象者（候補）を紹介してもらい、研究説明後、同意が得られた後、パネルメンバーとした。分娩期のタイムスタディ調査で用いる観察項目を作成するために、研究対象者（パネルメンバー）へ、タイムスタディ表の観察項目の必要性について修正デルファイ法

を実施し、タイムスタディ表を作成する検討を行った。

タイムスタディ表作成のための修正デルファイ法の調査期間は、令和7年3月から令和7年5月であった。

（倫理面への配慮）

本研究では、『分娩にかかわる医療者のタイムスタディ調査』を実施するに当たり、聖路加国際大学研究倫理委員会の承認を受け、研究機関の長より実施許可を受けている（承認番号：24-A082；承認日：令和7年2月13日）。対象者の個人の人権擁護として、「ヘルシンキ宣言」

「人を対象とする生命科学・医学研究に関する倫理指針」を遵守して人権擁護に配慮した。なお、本研究は観察研究のため、対象となる個人に直接的な介入はなく、個人の人権は擁護される。研究対象者（候補）へ書面にて研究説明後、研究参加への適切な同意取得にて、インフォームド・コンセントを行った。個人情報の保護と対象者識別として、研究対象者をA、B、Cとアルファベットで示し、対象者名とアルファベットの対応表を作成した。データには、アルファベットを用いて記載した。データと対応表は、別の場所に保管した。また解析の段階でパソコンを使用する際には研究者のみがアクセスできるようパスワードの管理を徹底した。すべてのデータファイルには、パスワードをかけた。データは、研究者のパソコンのハードディスクに保存し、2段階認証が必要なアカウントのクラウド上にバックアップを保存した。研究協力によって生じる危険性・不利益、それに対する配慮として、内容の確認や意見投票

について1回60分程度、2回の時間的拘束が生じる。負担が生じた場合には、中止することができるようにした。途中で中止したい旨を研究者に伝えられるように十分な配慮を行った。本研究への参加は対象者の自由意思により決定された。また一旦同意した後であっても、各データを統合する前までは、それを撤回することが出来るようにした。また、本研究への協力による研究対象者の費用負担はなかった。研究に関する説明同意文書に連絡先を明記し、相談があった場合は、担当者が対応することとした。

C. 研究結果

C-1. 回答状況

調査全体の回収状況を要約すると、悉皆調査（以下、A票）が2,173件中1,012件（46.6%）、サンプル調査（以下、B票）が1,295件中502件（38.8%）、患者（産婦）票に回答した施設が1,295件中448件（34.6%）、患者（産婦）数は3,885名中1,072名（27.6%）、うちタイムスタディに対する回答は908名であった。本研究の調査設計において、令和5年度に実施したパイロット調査の有効回答率（約30%）に基づき、1,000例程度の患者（産婦）票を収集することを想定し、B票の標本数を決定したが、想定通り、1,072名（うち、タイムスタディ908名）についての回答を得ることが出来た。

C-2. 悉皆調査（以下、A票）に係る結果

C-2-1. 分娩施設の概要

- (1)「夜勤帯・休日に、分娩において緊急事態が生じた際に、駆け付けることができるように待機している人数（院

内）」については、「産婦人科医師」の平均人数は、それ以外の病院と診療所が最も多かった。「小児科医師」は、総合・地域周産期母子医療センターで最も多かった。「院外」での待機については、「産婦人科医師」の平均人数は、それ以外の病院が最も多かった。「小児科医師」は、総合・地域周産期母子医療センターとそれ以外の病院は同数であり、「麻酔科医師」は総合・地域周産期母子医療センターで多かった。

- (2)1か月間の「全分娩数」の平均は、総合・地域周産期母子医療センターは43件、それ以外の病院36件、診療所36件であった。
- (3)「無痛分娩」は、総合・地域周産期母子医療センター42%、それ以外の病院48%、診療所44%で実施されていた。「無痛分娩」の平均設定価格は、総合・地域周産期母子医療センターとそれ以外の病院は約12万円、診療所は約9万円であった。
- (4)「出産目的で入院する妊産婦の最も多くみられる入院日数」は、帝王切開分娩で平均7日程度、経膈分娩で初産婦5～6日程度、経産婦5日程度であり、施設種別で大きな差はなかった。
- (5)「お祝い膳」は、総合・地域周産期母子医療センターで79%、それ以外の病院で84%、診療所で76%、助産所の31%で提供されていた。料金は、80%以上の施設で料金が個別に明示されず、入院料等に含まれていた。「写真撮影」を提供しているのは、総合・地域周産期母子医療センターは19%、それ以外の病院50%、診療所57%、助産所

の45%であった。提供している施設の60%以上の施設で料金が個別に明示されず、入院料等に含まれていた。「エステ」は、診療所で50%、助産所で33%、それ以外の病院で24%、総合・地域周産期母子医療センターの7%で提供されていた。料金は、70%以上の施設で料金が個別に明示されず、入院料等に含まれていた。

C-2-2. 助産所について

- (6) 「入所施設を有する助産所」が78%、「入所施設を有さない助産所」が22%であった。「入所施設を有する助産所(N=158)の入所定員は、平均3名であった。
- (7) 助産所における1年間の分娩取扱件数の平均は13件。「初産婦」3件、「経産婦」10件で「経産婦」の方が多い。
- (8) 分娩場所別では、「自助産所内での分娩」が最も多く平均11.7件、続いて「自宅等への出張分娩」が1.4件、「オープンシステムによる分娩」は0.6件であった。「母体搬送」件数は、分娩第1期中は平均0.7件、第2期中は平均0.1件、第3期0.1件、第4期0.2件であった。
- (9) 分娩時の体制として、「自院の助産師で複数体制としている」のが44%、「自院と他院の助産師にて複数人体制としている」のが48%であり、「助産師が1名で対応しているという助産所はなかった。

C-2-3. 病棟（ユニット）における医療提供体制

- (10) 「病棟（ユニット）票」は病院を対象として調査を実施し、325件（総合・地域周産期母子医療センター142件、それ以外の病院183件）からの回答があり、1施設あたりの「病棟・ユニット数」は約1.1、「1病棟・ユニット当たりの病床数」は約30床であった。

- (11) 病棟構成全般をみると、「混合病棟」が68%と多く、なかでも「婦人科および他科診療科での混合病棟」が38%であった。
- (12) 「病棟における産科患者の入院割合」は総合・地域周産期母子医療センターで60%、それ以外の病院で47%であった。
- (13) 「全室個室」の割合は、総合・地域周産母子医療センターで19%、それ以外の病院で25%だった。
- (14) 「1日当たりの室料差額料金」の平均は、総合・地域周産期母子医療センターが43,233円で、25,107円のそれ以外の病院よりも高かった。
- (15) 「産婦人科医師」については、診療業務に従事した医師数、医師の対応時間ともに、「産褥入院中」に比べて「分娩期」の方が多かった。「小児科・新生児科医師」については、医師の対応時間が、「分娩期」に比べて「産褥入院中」の方が長かった。
- (16) 「看護職」については、ケアに従事した時間数が、「分娩期」に比べて「産褥入院中」の方が長かった。

C-3. 標本調査（以下、B票）に係る結果

C-3-1. 患者（産婦）票の結果

- (1) 「分娩の状況（助産所除く）」は、「帝王切開」8%、「無痛分娩」11%、正常な経膈分娩等を含む「その他の分娩」が81%であった。
- (2) 「帝王切開」の割合は、総合・地域周産期母子医療センターで14%と最も多かった。
- (3) 「無痛分娩」の割合は、総合・地域周産期母子医療センターが11%、それ以外の病院が7%、診療所が13%であり、診療所での実施割合が最も高かった。
- (4) 分娩施設の割合を分娩経験別にみると、総合・地域周産期母子医療センターとそれ以外の病院では、「経産婦」より「初産婦」の割合が高いが、診療所と助産所は、「初産婦」より「経産婦」の割合が高かった。助産所の分娩においては、「経産婦」（74%）の割合が「初産婦」（27%）と比べ高かった。
- (5) 分娩経験や分娩の状況によらず、ほぼ80%以上の分娩が住所のある都道府県内で完結していた。
- (6) 「経産婦」は「初産婦」と比べ、年齢が高く、「妊娠週数」と「在院日数」が短かった。
- (7) 「社会的ハイリスクへの該当」割合は初産婦で高く、とりわけ総合・地域周産期母子医療センターで該当割合が高かった。
- (8) 助産所からの搬送先では、「嘱託医療機関」の割合が最も高かった。
- (9) 入院中の助産ケアについて、「授乳指導」は、平均的な1日あたりの回数が4.6回、1入院あたりの合計回数が19.4回であり、産後入院中は多数回の授乳指導が行われていた。「沐浴指導」の実施回数は、初産婦で平均1.7回、経産婦で1.5回であり、経産婦にも実施されていた。
- (10) 「育児技術指導」の延べ時間（平均）は初産婦で257分、経産婦で218分であり、「退院指導」の時間は初産婦で45分、経産婦で42分であった。
- (11) 「お祝い膳」以外のサービス（写真撮影、足形、エステ）の提供は、「初産婦」に比べて「経産婦」の方が割合が高かった。「お祝い膳」以外のサービス（写真撮影、足形、エステ）の提供は、総合・地域周産期母子医療センターが他施設と比べて割合が低かった。
- (12) 「産婦合計負担額」の平均値は、無痛分娩（603,338円）＞帝王切開（511,299円）＞その他の分娩（485,636円）の順で高かった。「産婦合計負担額」の平均は、「経産婦」が476,365円に対して、「初産婦」は523,711円であった。
- (13) 「産婦合計負担額」は、総合・地域周産期母子医療センター（537,358円）＞診療所（513,405円）＞それ以外の病院（503,551円）＞助産所（448,154円）の順で高かった。「入院料」、「室料差額」、「一部負担金等」では総合・地域周産期母子医療センターが高いが、それ以外の項目については診療所が高い傾向。
- (14) 正常な経膈分娩等を含む「その他の分娩」において、娩出2時間前後に関わった職種別延べ人数は「産婦人科医」が0.8人、「助産師」が2.3人、「看護師」が0.4人であった。

C-3-2. 妊婦健診と産後ケア

(15) 平均的な妊婦健診（病院+診療所）の費用の平均は 113,425 円（中央値 115,800 円）。うち望ましい基準に含まれない健診項目（以下、基準外）の費用は 10,882 円（中央値 3,460 円）であった。

(16) 妊婦の平均的な妊婦健診の受診回数の平均値は約 13.4 回で、中央値も 13.4 回。産後ケア事業の短期入所型（1泊2日ショートステイ型）の費用の平均値は、病院+診療所で 42,768 円（中央値 36,000 円）、助産所で 51,462 円（中央値 55,000 円）であった。

(17) 病院+診療所における産後ケアの1か月間の延べ利用者数の平均は約 7.5 人（中央値 3 人）。助産所では約 8.2 人（中央値 2 人）であった。

C-3-3. 分娩取扱施設の収益等

(18) 回答のあった「病院」（74 施設、平均病床数 448）では、令和 4 年度が▲5.4%、令和 5 年度が▲6.9%であった。うち、「総合・地域周産期母子医療センター」（39 施設、平均病床数 541）では、令和 4 年度が▲5.9%、令和 5 年度が▲6.9%であり、「それ以外の病院」（35 施設、平均病床数 321）では、令和 4 年度が▲8.1%、令和 5 年度が▲6.5%であった。

(19) 「診療所」（医療法人、43 施設）では、令和 4 年度が 6.3%、令和 5 年度が 3.6%であった。「助産所」の年度別の「損益率」は、個人（14 施設）が、令和 4 年度が 15.5%、令和 5 年度が 11.7%であり、個人以外（4 施設）が、

令和 4 年度が 3.0%、令和 5 年度が▲3.6%であった。

(20) 職種別給与の令和 5 年度の平均値は、回答のあった病院全体（回答 65 施設）で 16,218,170 円、総合・地域周産期母子医療センター（回答 32 施設）で 14,303,900 円、それ以外の病院（回答 33 施設）で 18,079,260 円、診療所（医療法人、回答 44 施設）で 25,446,140 円であった。

(21) 令和 5 年度の「助産所における給与」の平均値について、回答のあった助産所全体で、管理者（回答 15 施設）で 4,208,539 円、助産師（28 施設）で 3,173,848 円であった。

C-4. タイムスタディ調査へ向けた修正デルフォイ法に係る結果

令和 6 年度に実施した 1 回目までの個別評価結果、入院診療計画書の立案（中央値＝7）、入院診療計画書の説明（中央値＝7）、病棟内の場所説明（中央値＝9）、内診（中央値＝9）、CTG 装着（中央値＝9）、CTG 判読（中央値＝9）、間欠的児心音聴取（中央値＝9）、陣痛観察（中央値＝9）、出血/破水の観察（中央値＝9）、レオポルド触診法（中央値＝9）、足浴（中央値＝9）、腰背部等のマッサージ・指圧・温罨法（中央値＝8.5）、体位変換（中央値＝9）、呼吸/努責のリード（中央値＝9）、動くこと（歩行・移動等）の支援（中央値＝9）、スクワット/ボールの活用（中央値＝7.5）、傾聴（産婦の思いを聴く）（中央値＝9）、「状況/治療・検査/ケアの説明（産科的処置）の事前説明と IC：誘発分娩、促進分娩、硬膜外麻酔分娩、吸引・鉗子分娩

等」(中央値=9)、家族への説明(中央値=9)、「家族へのケア(夫や上の子どもを含めた家族での出産体験の支援、写真撮影、足形等)」(中央値=9)、配膳/下膳(中央値=8)、食事摂取補助(中央値=8)、水分補給補助(中央値=8)、トイレ歩行補助(中央値=8)、床上排泄補助(中央値=7)、導尿(中央値=7)、清拭(中央値=9)、更衣(中央値=8.5)、シャワー浴/入浴の準備補助(中央値=7.5)、パットの交換(中央値=8.5)、シーツ交換(中央値=9)、寝具/ベッド周辺の整頓(中央値=9)、車椅子での移動(中央値=8)、ベッド・ストレッチャーでの移動(中央値=7)、歩行補助(中央値=8.5)、看護師・助産師への指示出し(中央値=9)、医師への報告(中央値=9)、リーダーへの報告(中央値=8.5)、看護者間の申し送り(中央値=9)、当該産婦に関するカンファレンス/ミーティング(中央値=9)、バイタルサイン測定(中央値=9)、血中酸素飽和度測定(中央値=8)、採血(中央値=8)、羊水(BTB/エムニケータ等)(中央値=7)、与薬/点滴/注射準備(中央値=9)、血管確保(中央値=8.5)、点滴実施/交換(中央値=9)、内服薬の与薬(中央値=7.5、点滴流量変更(中央値=8)、静脈注射/静脈内投与(中央値=8)、筋肉注射(中央値=7.5)、分娩録/医師・看護記録の入力(中央値=9)、麻薬・鎮痛薬の準備/管理(中央値=8)、麻酔薬の注入(中央値=8)、硬膜外麻酔中の観察(カテーテル挿入部/薬効/麻酔合併症)(中央値=8)、カテーテル抜去(中央値=8)、分娩室/分娩セットの準備(中央値=9)、分娩介助(会陰保護/児娩出/胎盤娩

出等)(中央値=9)、分娩出血量計測(中央値=9)、胎盤計測(中央値=9)、会陰腔壁損傷の観察(中央値=9)、会陰縫合の介助(中央値=9)、物品の洗浄/処理(中央値=9)、分娩室の片づけ/整備(中央値=9)、会陰切開(中央値=7.5)、吸引/鉗子(中央値=7.5)、分娩中の点滴管理(中央値=9)、産婦への支援(汗ふき/水分摂取/手を握る/呼吸リード等)(中央値=9)、早期母子接触/初回授乳の支援(中央値=9)、会陰・腔壁縫合(中央値=9)、連結ガーゼ/タンポン挿入(中央値=7.5)、子宮マッサージ(中央値=8)、双手圧迫(中央値=8)、胎盤用手剥離(中央値=8)、新生児の観察(中央値=9)、新生児の計測(中央値=9)、新生児蘇生(中央値=9)、新生児バイタルサイン/SpO2測定(中央値=9)については、1回目の個別評価の集計結果にて採用となった。

D. 考察/E. 結論

本研究では、令和5年度に実施された予備的なパイロット調査とヒアリングから得られた結果を参考に、全国の分娩取扱施設を対象とした悉皆調査と標本調査(以下、サンプル調査)を並行して実施した。

記述統計量による解析を行った結果、様々な観点から、分娩取扱施設の実態が明らかにされたが、本研究の結果についてはいくつか留意すべき点がある。第1に、分析に用いたデータは、外れ値や誤答と思われるものが含まれているため、あくまでも速報値であり、令和7年度に研究班が精査を行う予定である。第2に、修正や調整が可能と判断したデータ

については、研究班により統計的な処理を施した。第3に、以上の理由により、群間での違いに対する統計的な検定は殆ど行っておらず、群間での統計的な有意差についても、データの精査後に研究班にて行う予定である。

タイムスタディ調査へ向けた修正デルフォイ法については、合意が得られなかった他の項目については、2回目の個別評価を行う予定である。

F. 健康危険情報

特に無し。

G. 研究発表

1. 論文発表

特に無し。

2. 学会発表

特に無し。

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得

特に無し。

2. 実用新案登録

特に無し。

3. その他

特に無し。

参考文献

厚生労働省. (2025) 第9回「妊娠・出産・産後における妊産婦等の支援策等に関する検討会（資料1）」, 令和7年4月16日.
<https://www.mhlw.go.jp/content/12401000/>

[001476650.pdf](#)（閲覧日：令和7年5月15日）

厚生労働省. 『周産期母子医療センター一覧』.

<https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/001238158.pdf>（閲覧日：令和7年5月14日）.

厚生労働省. 『「出産ナビ」へようこそ』. <https://www.mhlw.go.jp/stf/birth-navi/index.html>（閲覧日：令和7年5月14日）.

厚生労働省. 『特定機能病院一覧』.

<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10800000-Iseikyoku/0000164412.pdf>（閲覧日：令和7年5月14日）.

厚生労働省. 『令和4年度病床機能報告』. https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/open_data_00008.html（閲覧日：令和7年5月14日）.

総務省統計局. 『統計でみる市区町村のすがた』¹ <https://www.stat.go.jp/data/s-sugata/index.html>（閲覧日：令和7年5月14日）

田倉智之. (2021) 「出産育児一時金（出産費用）に関する研究」. 令和3年度厚生労働科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）「医学的適応による生殖機能維持の支援と普及に向けた総合的研究」分担研究報告書. https://mhlw-grants.niph.go.jp/system/files/report_pdf/202107004A-buntan5.pdf（閲覧日：令和7年5月14日）

Fitch, K., Bernstein, S. J., Aguilar, M. D.,
Burnand, B., LaCalle, J. R., Lazaro, P., ... &
Kahan, J. P. (2000). RAND/UCLA
appropriateness method user's manual. Santa
Monica, CA: RAND corporation.

Diamond, I. R., Grant, R. C., Feldman, B. M.,
Pencharz, P. B., Ling, S. C., Moore, A. M.,
& Wales, P. W. (2014). Defining consensus:
a systematic review recommends
methodologic criteria for reporting of Delphi
studies. *Journal of clinical epidemiology*,
67(4), 401-409.
<https://doi.org/10.1016/j.jclinepi.2013.12.00>

Sinha, I. P., Smyth, R. L., & Williamson, P. R.
(2011). Using the Delphi technique to
determine which outcomes to measure in
clinical trials: recommendations for the
future based on a systematic review of
existing studies. *PLoS medicine*, 8(1),
e1000393.
<https://doi.org/10.1371/journal.pmed.10003>
93

分娩取扱施設における出産に係る費用構造の把握のための調査研究 調査票（A票）

ID

パスワード

1. 分娩取扱施設の基本情報

令和6年9月1日時点

		回答欄	留意点等
1	施設名	ふりがな	名称を記載してください。
2		漢字	
3	施設所在地	郵便番号	貴施設の所在地を記載してください。
4		都道府県	
5		市区町村	
6		上記以下	
7	回答担当者氏名	ふりがな	ご回答いただいている担当の方のお名前、所属部署、電話番号、メールアドレスをお書きください。調査票に関してご連絡を差し上げることがあります。
8		漢字	
9	回答担当者所属部署		
10	回答担当者電話番号		
11	回答担当者メールアドレス		
12	施設種別（複数選択可）	1.特定機能病院 2.総合周産期母子医療センター 3.地域周産期母子医療センター 4.産科単科病院 5.こども病院 6.上記以外（ ）	1.特定機能病院とは、厚生労働大臣より特定機能病院として名称の承認を得ている病院をいいます。 2.総合周産期母子医療センターとは「周産期医療体制整備指針」（平成22年1月26日付医政発0126第1号の別添2）により、常時の母体及び新生児搬送受入体制を有し、合併症妊娠（重症妊娠高血圧症候群、切迫早産等）、胎児・新生児異常（超低出生体重児、先天異常児等）等母体又は児におけるリスクの高い妊娠に対する医療、高度な新生児医療等の周産期医療を行うことができるとともに、必要に応じて当該施設の関係診療科又は他の施設と連携し、産科合併症以外の合併症（脳血管障害、心疾患、敗血症、外傷等）を有する母体に対応することができる医療施設として、都道府県に指定されている病院をいいます。 3.地域周産期母子医療センターとは、「周産期医療体制整備指針」（平成22年1月26日付医政発0126第1号の別添2）により、産科及び小児科（新生児医療を担当するもの）等を備え、周産期に係る比較的高度な医療行為を行うことができる医療施設として、都道府県に認定されている病院をいいます。 4.産科を主とする病院の場合はこちらを選択してください。 5.小児科を主とする病院の場合はこちらを選択してください。
13	設置主体（いずれか1つ選択）	1.国立（国、独立行政法人国立病院機構、独立行政法人労働者健康安全機構、国立高度専門医療研究センター、行政法人地域医療機能推進機構） 2.公立（都道府県、市町村、地方独立行政法人） 3.公的（日赤、済生会、北海道社会事業協会、厚生連、国民健康保険団体連合会） 4.社会保険関係（健康保険組合及びその連合会、共済組合及びの連合会、国民健康保険組合） 5.医療法人（社会医療法人は含まない） 6.その他の法人（公益法人、学校法人、社会福祉法人、医療生協、会社、社会医療法人等、その他法人） 7.個人	貴院の設置主体を選択してください。
14	周産期救急情報システムへの参加の有無（いずれか1つ選択）	1.直接活用 2.直接活用していないがコーディネーターを通して活用 3.システムがない	貴施設の所在する都道府県の「周産期救急情報システム（周産期医療情報センターが運営する病床の空床状況や重症例や産科合併症以外の合併症による母体救急患者の受入れ可能状況等の情報収集、情報提供を行うシステム）」について、活用状況を選択してください。 空床状況等の情報に直接アクセスして活用している場合は1を選択してください。 情報システムに直接アクセスしていないが搬送コーディネーター等の調整者を通して活用している場合は2を選択してください。 周産期救急情報システムは活用していない場合は3を選択してください。

2－1．病院票

令和6年9月1日時点

(1) 構造設備

		回答欄		留意点等
1	分娩室数		室	貴施設で分娩室として使用している部屋数を記載してください。(LDR室・陣痛室は除きます。)
2	分娩台数		台	
3	L D R室数		室	陣痛室・分娩室・回復室が一体となった個室であるLDR (Labor Delivery Recovery) の室数を記載してください。(分娩室・陣痛室は除きます)
4	陣痛室数		室	
5	分娩室用超音波画像診断装置台数		台	分娩室・LDR室・陣痛室のいずれかに、分娩時専用の超音波診断装置を有している場合に台数を記載してください。 ※外来や入院病棟においてある超音波診断装置を併用している場合は0台とご回答ください。
6	集中監視システム機器	1.有 2.無		分娩進行等の把握を目的とした集中監視システム機器を使用している場合は有を選択してください。
7	分娩監視装置閲覧モニターの設置場所をすべて記載してください。 (例：医局・当直室・ナースステーション・外来)			
8	分娩監視装置台数		台	分娩の際や分娩以外の目的で入院している妊婦に対して使用可能な分娩監視装置の台数を記載してください。 ※故障などで作動しない装置は数に計上しないでください。 ※外来や救急外来などで使用している装置は数に含めないでください。
9	保育器 (開放式) (インファントウォーマー)		台	新生児ウォーマーの台数を記載してください。 ※壊れているなどの場合には数に計上しないでください。

(2) 分娩取扱施設の医療体制

10	常勤勤務の週あたりの勤務時間数		時間	貴施設で取り決められている、常勤職員の最低勤務時間数を記載ください。
----	-----------------	--	----	------------------------------------

11	産婦人科医師数	常勤医師数		人	主に産婦人科診療に従事する常勤医師数 (産科及び婦人科診療に従事する医師を含みます。) を記載してください。
12		非常勤医師の常勤換算		人	
13	産婦人科医師数のうち分娩を取り扱う医師数	常勤医師数		人	産婦人科常勤医師数のうち、分娩を取り扱う常勤医師数を記載してください。
14		非常勤医師の常勤換算		人	産婦人科非常勤医師数のうち、分娩を取り扱う非常勤医師数を記載してください。
15	小児科医師数 (新生児科医含)	常勤医師数		人	主として小児 (新生児含) の診療に従事している常勤医師数を記載してください。
16		非常勤医師の常勤換算		人	主として小児 (新生児含) の診療に従事する非常勤医師数を常勤換算で記載してください。
17	麻酔科医師数	常勤医師数		人	麻酔科診療に従事する常勤医師数を記載してください。主に産婦人科診療に従事する医師 (産婦人科医師) は除いてください。
18		非常勤医師の常勤換算		人	麻酔科診療に従事する非常勤医師数を常勤換算で記載してください。主に産婦人科診療に従事する医師 (産婦人科医師) は除いてください。

夜間・休日の体制

		夜勤医師		宿直医師		
19	平日夜間	産婦人科		人		人
20		小児科 (新生児科医含)		人		人
21		麻酔科		人		人
		日勤医師		日直医師		
22	祝日休日などの休診日の日中	産婦人科		人		人
23		小児科 (新生児科医含)		人		人
24		麻酔科		人		人
		夜勤医師		宿直医師		
25	祝日休日などの休診日の夜間	産婦人科		人		人
26		小児科 (新生児科医含)		人		人
27		麻酔科		人		人

※宿直医師、日直医師は宿日直許可を得て、宿直又は日直として勤務している医師を指します。
※日勤医師、夜勤医師は宿日直許可を得ず、勤務している医師を指します。
※整数値で回答してください。
※分娩の有無にかかわらず、通常の体制について回答してください。

オンコールの人数

28	夜勤帯及び休日に、分娩において緊急事態が生じた際に、駆けつけることができるように <u>院内</u> に待機している人数	産婦人科医師		人	※整数値で回答してください。
29		小児科医師 (新生児科医含)		人	
30		麻酔科医師		人	
31		その他		人	
32	夜勤帯及び休日に、分娩において緊急事態が生じた際に、駆けつけることができるように <u>院外</u> に待機している人数	産婦人科医師		人	
33		小児科医師 (新生児科医含)		人	
34		麻酔科医師		人	
35		その他		人	

回答欄

留意点等

病院に配置されている職員数（常勤数、非常勤の常勤換算）			
36	薬剤師	常勤	人
37		非常勤（常勤換算）	人
38	保健師	常勤	人
39		非常勤（常勤換算）	人
40	助産師	常勤	人
41		非常勤（常勤換算）	人
42	看護師	常勤	人
43		非常勤（常勤換算）	人
44	准看護師	常勤	人
45		非常勤（常勤換算）	人
46	看護補助者	常勤	人
47		非常勤（常勤換算）	人
48	保育士	常勤	人
49		非常勤（常勤換算）	人
50	管理栄養士	常勤	人
51		非常勤（常勤換算）	人
52	栄養士	常勤	人
53		非常勤（常勤換算）	人
54	公認心理師	常勤	人
55		非常勤（常勤換算）	人
56	臨床心理士（公認心理師を除く）	常勤	人
57		非常勤（常勤換算）	人
58	精神保健福祉士	常勤	人
59		非常勤（常勤換算）	人
60	（社会福祉士）医療ソーシャルワーカー	常勤	人
61		非常勤（常勤換算）	人
62	その他の職員	常勤	人
63		非常勤（常勤換算）	人

(3) 分娩取扱施設の実績 (令和6年9月1日～30日の1ヶ月)

64	全分娩件数（人工妊娠中絶は除く）（12週以降）			件
65	全分娩件数のうち、早産の経陰分娩件数 （37週未満）	a. 鉗子分娩		件
66		b. 吸引分娩		件
67		c. 上記以外		件
68	全分娩件数のうち、経陰分娩件数 （37週以降）	a. 鉗子分娩		件
69		b. 吸引分娩		件
70		c. 上記以外		件
71	全分娩件数のうち、早産の帝王切開術数 （37週未満）	a. 予定帝王切開術数		件
72		b. 緊急帝王切開術数		件
73	全分娩件数のうち、帝王切開術数 （37週以降）	a. 予定帝王切開術数		件
74		b. 緊急帝王切開術数		件
75	全分娩件数のうち、無痛分娩件数（65～74の項目の内数）	a. 硬膜外麻酔		件
76		b. 脊椎くも膜下硬膜外併用麻酔		件
77		c. その他の麻酔		件
78	65～77に当てはまらない分娩			件
79	院内助産の実施の有無		1.有 2.無	
80	全分娩件数のうち、院内助産の分娩件数			件
81	出産目的で入院する妊産婦の入院日数として、最も多い入院日数（分娩日を0日として、退院までの日数を記載）	a. 経陰分娩（初産婦）		日
82		b. 経陰分娩（経産婦）		日
83		c. 帝王切開分娩		日

令和6年9月1日～9月30日の期間の人工妊娠中絶を除く分娩件数を記載してください。※死産は含みます。※多胎は1件としてください。

※分娩前の入院日数は含みません。

(4) その他			回答欄	留意点等
84	出産に係る入院時に妊産婦に一律に提供している物品等（自由記載）			分娩を伴う入院の際に追加料金なく提供している（入院料等に含まれている）物品等を記載してください。 例：新生児用おむつ、産褥ナプキン等
85	上記の妊産婦に一律に提供している物品等の合計金額			円
86	無痛分娩	a.実施	1.有 2.無	
87		b.設定価格		
88	付帯サービスの種類や有無、価格	お祝い膳	1.有 2.無 3.妊産婦が選択	円
89		入院料等の他の料金に含まれている	1.はい 2.いいえ	
90		（前問で2を選択した場合）設定価格		
91		写真撮影	1.有 2.無 3.妊産婦が選択	円
92		入院料等の他の料金に含まれている	1.はい 2.いいえ	
93		（前問で2を選択した場合）設定価格		
94		足形	1.有 2.無 3.妊産婦が選択	円
95		入院料等の他の料金に含まれている	1.はい 2.いいえ	
96		（前問で2を選択した場合）設定価格		
97		エステ（※乳房マッサージは除く）	1.有 2.無 3.妊産婦が選択	円
98		入院料等の他の料金に含まれている	1.はい 2.いいえ	
99		（前問で2を選択した場合）設定価格		
100	その他（自由記載）			
101	胎盤の処理			円
102	先天性代謝異常等検査	a.実施	1.有 2.無	円
103		b.設定価格		
104	新生児聴覚検査	a.実施	1.有 2.無	円
105		b.設定価格		
106		c.自治体の補助の有無	1.有 2.無	
107		d.（cで有の場合）自治体の補助額		
108	ビタミンK2内服	a.実施	1.有 2.無	円
109		b.設定価格		
110	新生児1か月健診	a.実施	1.有 2.無	円
111		b.設定価格		
112		c.自治体の補助の有無	1.有 2.無	
113		d.（cで有の場合）自治体の補助額		

1病棟・ユニット目

2－2．病棟票・ユニット票（3つ以上の病棟・ユニットを有する場合は、各病棟・ユニットごとに記載※5.6ページをコピーして記載ください。）

病棟及びユニットについてご回答ください。ユニットに関して、ユニットが病棟に属する場合、ユニット票 1 枚、病棟票（病棟内でユニットを除く部分） 1 枚の計 2 枚にご回答ください。また分娩棟など、分娩室やLDRのみを有し、当該棟のみで看護配置が行われている場合は、分娩棟として 1 枚ご回答ください。

（1）病棟・ユニット構成等 令和6年9月1日時点

			回答欄		
1	病棟・ユニットの病床数				床
2	病棟構成（いずれか 1 つ選択）	1.産科単独病棟 2.産科区域の特定がある混合病棟 3.混合病棟 4.産科のみで複数の病棟・ユニットに分かれている。			
3	（上記の間で 2、3 を選んだ場合のみ回答）産科以外の診療科で当てはまるものを選択してください。		1.婦人科 2.産科・婦人科以外の他科診療科 3.婦人科および他科診療科		
4	（ 2 の間で 4 を選んだ場合に回答）本回答用紙に当てはまる病棟・ユニット区分を選択してください。		1.妊婦用 2.褥婦用 3.分娩用 4.妊産婦用 5.MFICU用		
5	妊産婦が入院する部屋が全室個室の場合は「はい」を選択してください。		1.はい 2.いいえ		
6	病棟・ユニットの部屋の構成とその室料差額について病床数とその入院料＋室料差額の金額を記載してください。病床数が多い順に記載してください。		個室（パターン1）		床
7			一日あたりの料金		円
8			個室（パターン2）		床
9			一日あたりの料金		円
10			個室（パターン3）		床
11			一日あたりの料金		円
12			個室（パターン4）		床
13			一日あたりの料金		円
14			個室（パターン5）		床
15			一日あたりの料金		円
16			2床室（パターン1）		床
17			一日あたりの料金		円
18			2床室（パターン2）		床
19			一日あたりの料金		円
20			3床室（パターン1）		床
21			一日あたりの料金		円
22			3床室（パターン2）		床
23			一日あたりの料金		円
24			4床室（パターン1）		床
25			一日あたりの料金		円

留意点等

病床数を記載ください。分娩室・LDR室・陣痛室・新生児用ベッドを除き、産後ケア用ベッドは含めてください。ただし、産後ケア用ベッドと他のベッドで看護配置が分かれている場合には、別票に記載ください。

平時の状況を記載ください。（例えば、災害時や感染症拡大時等の運用は除きます）

1.妊産婦のみ入院する病棟の場合はこちらを選択してください。

2.妊娠を伴わない婦人科疾患の患者と妊産婦が入院する病棟が同じ場合はこちらを選択してください。

3.妊娠を伴わず、婦人科疾患も伴わない（消化器疾患や循環器疾患等）患者と妊産婦が入院する病棟が同じ場合はこちらを選択してください。

4. 例）妊婦用病棟、褥婦用病棟、分娩のみ行う病棟、MFICUなどに分かれている。

個室（特別室など含）、2床室、3～4床室、その他（5床室以上）に自費入院する際の、入院料＋室料差額を記載してください。

注 1：室料差額が入院料に包括されている場合で、各部屋毎に入院料が異なる場合には、入院料を記載してください。

注 2：妊産婦の家族等が入院できる場合でも、妊産婦 1 名が対象となる場合は個室の欄に記載してください。

※上記に当てはまらない場合は36に記載してください。例 （8）床室。

※分娩棟・LDR棟について記載する場合は、その利用料を個室の欄に記載してください。

		回答欄		留意点等	
26		4 床室 (パターン 2)		床 円 床 円 床 円 床 円 床 円 床 円	個室（特別室など含）、2 床室、3 ～ 4 床室、その他（5 床室以上）に自費入院する際の、入院料 + 室料差額を記載してください。 注 1：室料差額が入院料に包括されている場合で、各部屋毎に入院料が異なる場合には、入院料を記載してください。 注 2：妊産婦の家族等が入院できる場合でも、妊産婦 1 名が対象となる場合は個室の欄に記載してください。 ※上記に当てはまらない場合は36に記載してください。例 （8）床室。 ※分娩棟・LDR棟について記載する場合は、その利用料を個室の欄に記載してください。
27		一日あたりの料金			
28		5 床室 (パターン 1)			
29		一日あたりの料金			
30		5 床室 (パターン 2)			
31		一日あたりの料金			
32		6 床室 (パターン 1)			
33		一日あたりの料金			
34		6 床室 (パターン 2)			
35		一日あたりの料金			
36		() 床室※			
37		一日あたりの料金			

(2) 患者のべ数等 (令和 6 年 9 月 1 日～9 月 30 日)				
38	入院患者のべ数 (※)		人	※産後、母親が入院している期間に病院内にいる新生児は含まない。退院後、なんらかの理由で入院となった新生児は含む

(3) 病棟に配置されている職員数 (常勤数、非常勤の常勤換算) (令和 6 年 9 月 1 日時点)					
39	助産師	常勤		人	助産師であり、主として助産師の業務を行っている常勤職員
40		非常勤 (常勤換算)			助産師であり、主として助産師の業務を行っている非常勤職員の常勤換算
41	看護師	常勤		人	看護師であり、主として看護師の業務を行っている常勤職員
42		非常勤 (常勤換算)			看護師であり、主として看護師の業務を行っている非常勤職員の常勤換算
43	准看護師	常勤		人	准看護師であり、主として准看護師の業務を行っている常勤職員
44		非常勤 (常勤換算)			准看護師であり、主として准看護師の業務を行っている非常勤職員の常勤換算
45	看護補助者	常勤		人	看護補助者であり、主として看護補助の業務を行っている常勤職員
46		非常勤 (常勤換算)			看護補助者であり、主として看護補助の業務を行っている非常勤職員の常勤換算
47	保育士	常勤		人	保育士であり、主として保育士の業務を行っている常勤職員
48		非常勤 (常勤換算)			保育士であり、主として保育士の業務を行っている非常勤職員の常勤換算
49	医師事務作業補助者	常勤		人	医師事務作業補助者であり、主として医師事務作業の補助業務を行っている常勤職員
50		非常勤 (常勤換算)			医師事務作業補助者であり、主として医師事務作業の補助業務を行っている非常勤職員の常勤換算
51	その他の職員			人	

(4) オンコールの人数					
52	夜勤帯及び休日に、分娩において緊急事態が生じた際に、駆けつけることができるように <u>院内</u> に待機している人数	助産師		人	※整数値で回答してください。
53		看護師			
54	夜勤帯及び休日に、分娩において緊急事態が生じた際に、駆けつけることができるように <u>院外</u> に待機している人数	助産師		人	
55		看護師			

2病棟・ユニット目

2－2．病棟票・ユニット票（3つ以上の病棟・ユニットを有する場合は、各病棟・ユニットごとに記載※5.6ページをコピーして記載ください。）

病棟及びユニットについてご回答ください。ユニットに関して、ユニットが病棟に属する場合、ユニット票 1 枚、病棟票（病棟内でユニットを除く部分） 1 枚の計 2 枚にご回答ください。また分娩棟など、分娩室やLDRのみを有し、当該棟のみで看護配置が行われている場合は、分娩棟として 1 枚ご回答ください。

（1）病棟・ユニット構成等 令和6年9月1日時点

		回答欄			
1	病棟・ユニットの病床数				床
2	病棟構成（いずれか 1 つ選択）	1.産科単独病棟 2.産科区域の特定がある混合病棟 3.混合病棟 4.産科のみで複数の病棟・ユニットに分かれている。			
3	（上記の間で 2、3 を選んだ場合のみ回答）産科以外の診療科で当てはまるものを選択してください。	1.婦人科 2.産科・婦人科以外の他科診療科 3.婦人科および他科診療科			
4	（2の間で 4 を選んだ場合に回答）本回答用紙に当てはまる病棟・ユニット区分を選択してください。	1.妊婦用 2.褥婦用 3.分娩用 4.妊産婦用 5.MFICU用			
5	妊産婦が入院する部屋が全室個室の場合は「はい」を選択してください。		1.はい 2.いいえ		
6	病棟・ユニットの部屋の構成とその室料差額について病床数とその入院料＋室料差額の金額を記載してください。病床数が多い順に記載してください。	個室（パターン1）			床
7		一日あたりの料金			
8		個室（パターン2）			床
9		一日あたりの料金			
10		個室（パターン3）			床
11		一日あたりの料金			
12		個室（パターン4）			床
13		一日あたりの料金			
14		個室（パターン5）			床
15		一日あたりの料金			
16		2床室（パターン1）			床
17		一日あたりの料金			
18		2床室（パターン2）			床
19		一日あたりの料金			
20		3床室（パターン1）			床
21		一日あたりの料金			
22		3床室（パターン2）			床
23		一日あたりの料金			
24		4床室（パターン1）			床
25		一日あたりの料金			

留意点等

病床数を記載ください。分娩室・LDR室・陣痛室・新生児用ベッドを除き、産後ケア用ベッドは含めてください。ただし、産後ケア用ベッドと他のベッドで看護配置が分かれている場合には、別票に記載ください。

平時の状況を記載ください。（例えば、災害時や感染症拡大時等の運用は除きます）

1.妊産婦のみ入院する病棟の場合はこちらを選択してください。

2.妊娠を伴わない婦人科疾患の患者と妊産婦が入院する病棟が同じ場合はこちらを選択してください。

3.妊娠を伴わず、婦人科疾患も伴わない（消化器疾患や循環器疾患等）患者と妊産婦が入院する病棟が同じ場合はこちらを選択してください。

4. 例）妊婦用病棟、褥婦用病棟、分娩のみ行う病棟、MFICUなどに分かれている。

個室（特別室など含）、2床室、3～4床室、その他（5床室以上）に自費入院する際の、入院料＋室料差額を記載してください。

注1：室料差額が入院料に包括されている場合で、各部屋毎に入院料が異なる場合には、入院料を記載してください。

注2：妊産婦の家族等が入院できる場合でも、妊産婦 1 名が対象となる場合は個室の欄に記載してください。

※上記に当てはまらない場合は36に記載してください。例 （8）床室。

※分娩棟・LDR棟について記載する場合は、その利用料を個室の欄に記載してください。

		回答欄		留意点等	
26		4 床室 (パターン 2)		床 円 床 円 床 円 床 円 床 円 床 円	個室（特別室など含）、2 床室、3 ～ 4 床室、その他（5 床室以上）に自費入院する際の、入院料 + 室料差額を記載してください。 注 1：室料差額が入院料に包括されている場合で、各部屋毎に入院料が異なる場合には、入院料を記載してください。 注 2：妊産婦の家族等が入院できる場合でも、妊産婦 1 名が対象となる場合は個室の欄に記載してください。 ※上記に当てはまらない場合は36に記載してください。例 （8）床室。 ※分娩棟・LDR棟について記載する場合は、その利用料を個室の欄に記載してください。
27		一日あたりの料金			
28		5 床室 (パターン 1)			
29		一日あたりの料金			
30		5 床室 (パターン 2)			
31		一日あたりの料金			
32		6 床室 (パターン 1)			
33		一日あたりの料金			
34		6 床室 (パターン 2)			
35		一日あたりの料金			
36		() 床室※			
37		一日あたりの料金			

(2) 患者のべ数等 (令和 6 年 9 月 1 日～9 月 30 日)				
38	入院患者のべ数 (※)		人	※産後、母親が入院している期間に病院内にいる新生児は含まない。退院後、なんらかの理由で入院となった新生児は含む

(3) 病棟に配置されている職員数 (常勤数、非常勤の常勤換算) (令和 6 年 9 月 1 日時点)					
39	助産師	常勤		人	助産師であり、主として助産師の業務を行っている常勤職員
40		非常勤 (常勤換算)			助産師であり、主として助産師の業務を行っている非常勤職員の常勤換算
41	看護師	常勤		人	看護師であり、主として看護師の業務を行っている常勤職員
42		非常勤 (常勤換算)			看護師であり、主として看護師の業務を行っている非常勤職員の常勤換算
43	准看護師	常勤		人	准看護師であり、主として准看護師の業務を行っている常勤職員
44		非常勤 (常勤換算)			准看護師であり、主として准看護師の業務を行っている非常勤職員の常勤換算
45	看護補助者	常勤		人	看護補助者であり、主として看護補助の業務を行っている常勤職員
46		非常勤 (常勤換算)			看護補助者であり、主として看護補助の業務を行っている非常勤職員の常勤換算
47	保育士	常勤		人	保育士であり、主として保育士の業務を行っている常勤職員
48		非常勤 (常勤換算)			保育士であり、主として保育士の業務を行っている非常勤職員の常勤換算
49	医師事務作業補助者	常勤		人	医師事務作業補助者であり、主として医師事務作業の補助業務を行っている常勤職員
50		非常勤 (常勤換算)			医師事務作業補助者であり、主として医師事務作業の補助業務を行っている非常勤職員の常勤換算
51	その他の職員			人	

(4) オンコールの人数					
52	夜勤帯及び休日に、分娩において緊急事態が生じた際に、駆けつけることができるように <u>院内</u> に待機している人数	助産師		人	※整数値で回答してください。
53		看護師			
54	夜勤帯及び休日に、分娩において緊急事態が生じた際に、駆けつけることができるように <u>院外</u> に待機している人数	助産師		人	
55		看護師			

3－1．外来概要

令和6年9月1日時点

(1) 外来体制

a.人員配置（常勤職員数＋常勤換算された非常勤職員数）

※病棟と独立して外来に人員配置している場合についてのみご回答ください。病棟に配置されている職員が外来業務を兼務している場合は、病棟票で回答いただいているため、ここでは対象外とします。

	回答欄	留意点等
1 助産師		人 人 人 人 人 人
2 看護師		
3 准看護師		
4 看護補助者		
5 医師事務作業補助者		
6 その他の職員		

※1 常勤とは、貴施設で定められた勤務時間をすべて勤務する者をいいます。ただし、貴施設で定めた1週間の勤務時間が32時間未満の場合は、32時間以上勤務している者を常勤として計上し、その他は非常勤としてください。
※2 非常勤とは、貴施設と雇用関係にあつて※1の常勤でない職員としてください。貴院の1週間の所定労働時間を基本として、下記のように常勤換算して小数点第一位まで（小数点第二位を四捨五入）をご記入ください。
例1：1週間の通常の勤務時間が40時間の病院で、週2日（各日3時間）勤務の看護師が1人と、週3日（各日5時間）勤務の看護師が2人いる場合（所定の勤務時間数を超えて行われた時間外勤務は含みません）
非常勤看護師数＝{（2日×3時間×1人）＋（3日×5時間×2人）}／40時間＝0.9人
なお、非常勤職員が月単位で管理をされている場合には、1か月の所定労働時間を用いて、1か月の勤務時間について常勤換算して計上してください。
例2：1週間の勤務を28時間としている場合、常勤勤務の看護師が1名、週2日（各日4時間）勤務の看護師が2名いる場合、看護師数＝{（2.8時間×1人）＋（2日×4時間×2）}／32時間＝1.4人

(2) 外来の状況

1	一日当たりの平均妊婦健診数 （令和6年9月1日～30日の1ヶ月平均）		人	産婦（産褥婦）に対する健診を除きます。妊婦健診数のため、疾病等により保険診療として行ったものは除いてください。
2	1のうちの平均助産師外来受診数 （令和6年9月1日～30日の1ヶ月平均）		人	産婦（産褥婦）に対する健診を除きます。
3	一日当たりの平均産婦健診数 （令和6年9月1日～30日の1ヶ月平均）		人	産婦（産褥婦）に対する健診数を記載ください。産婦健診数のため、疾病等により保険診療として行ったものは除いてください。
4	3のうちの平均助産師外来受診数 （令和6年9月1日～30日の1ヶ月平均）		人	産婦（産褥婦）に対する健診数を記載ください。

※1から4の平均数は、9月1日～30日の総数を、外来実施日数で割った数を、小数点第一位（小数点第二位を四捨五入）で求めてください。
なお、半日の外来の日は0.5として数えてください。
水曜が休診、土曜が午後休診、日曜・祝日が休診の場合、分母は、1×15日＋0.5×4日＝17日（9月16日、23日を祝日としております。）

3－2．補助

(1) 妊婦健診

	回答欄	留意点等
1	妊婦の初回受診(妊婦健診の対象とならない妊娠確認のための受診)に係る費用の平均額	円 令和6年9月に分娩された妊婦（多胎は除いてください。また、セミオープンシステムや里帰りなどで途中から貴施設で妊婦健診を受診された方は除いてください。）について、妊婦の初回受診(妊婦健診の対象とならない妊娠確認のための受診)の費用（診察料を含む）の一人当たり平均額をお答えください（小数点以下は四捨五入してください）。 例：分娩された4人について、それぞれ初回受診の費用が8000円、10000円、10000円、14000円だった場合、 （8000＋10000＋10000＋14000）/4＝10500円
2	妊婦の平均的な妊婦健診の受診回数	回 令和6年9月に分娩された妊婦（多胎は除いてください。また、セミオープンシステムや里帰りなどで途中から貴施設で妊婦健診を受診された方は除いてください。）について、妊婦健診として受診した平均的な回数を小数点1桁までお答えください。 例：分娩された4人について、それぞれ妊婦健診の回数が12回、13回、14回、15回だった場合、（12＋13＋14＋15）/4＝13.5回
3	妊婦の平均的な妊婦健診の費用の合計額	円 令和6年9月に分娩された妊婦（多胎は除いてください。また、セミオープンシステムや里帰りなどで途中から貴施設で妊婦健診を受診された方は除いてください。）について、妊婦健診の費用（自治体で補助される費用も含みます）の一人当たり平均額をお答えください（小数点以下は四捨五入してください）。 例：分娩された4人について、それぞれ妊婦健診の費用が10万円、11万円、12万円、13万円だった場合、（10＋11＋12＋13）/4＝11.5万円
4	3のうち、自治体の補助を除いた、平均的な妊婦の窓口負担の合計額	円 3のうち、自治体の補助を除いた、窓口での妊婦への請求額の平均額をお答えください（小数点以下は四捨五入してください）。
5	3のうち、妊婦健診の望ましい基準に含まれない健診項目の費用の合計額	円 3のうち、妊婦健診の望ましい基準に含まれる項目を除いた健診項目の費用の一人当たり平均額をお答えください（小数点以下は四捨五入してください）。

※妊婦健診の望ましい基準

【厚生労働省「妊婦に対する健康診査についての望ましい基準」に示されている項目】

- 1.超音波検査（4回） 2.血液型等の検査（ABO血液型、Rh血液型及び不規則抗体に係るもの） 3.B型肝炎抗原検査
4.C型肝炎抗体検査 5.HIV抗体検査 6.梅毒血清反応検査 7.風疹ウイルス抗体検査 8.血糖検査 9.血算検査
10.HTLV-1抗体検査 11.子宮頸がん検診 12.性器クラミジア検査 13.B群溶血性レンサ球菌検査

3－3．各健診等における内容・費用

(1) 各健診等

a. 妊婦健診において所在地自治体の補助に含まれない検査で、基礎疾患のない一般的な妊婦に対して実施している項目（保険診療を除く）

	項目	費用	回数
1		円	回
2		円	回
3		円	回
4		円	回
5		円	回

例）超音波検査・血糖検査・血算検査（助成回数を超える分）、トキソプラズマ検査、サイトメガロウイルス検査、麻疹ウイルス抗体検査、NSTなど

b. 妊婦健診以外の妊婦を対象とした診察・ケア（保険診療を除く）

	項目	費用	1か月間の 外来人数
6		円	人
7		円	人
8		円	人

留意点

※ 1 令和 6 年 9 月の1か月間の人数

※ 2 胎児超音波外来、ハイリスク外来（多胎、合併症等）、出生前検査に関する外来、周産期麻酔外来など、通常の妊婦健診を行う外来以外の、妊産婦に係る専門的な外来の標準的な費用を記載してください。

※ 3 妊婦健診と同時に行っている場合には、妊婦健診分の費用を除く。

※ 4 妊婦の選択等により、費用が大きく差がある（概ね5,000円以上）場合は、選択数が多い2つを①、②として記載ください。 例：出生前検査に関する外来①、出生前検査に関する外来②

例）NIPTなどの出生前検査、4D超音波など

c. 産婦健診 ※行っていない場合は、空欄としてください。

		産婦健診費用①	自治体の 補助・助成の有 無	(1.有の場合) 自治体の補助額② ※所在自治体との委託契約の 内容を基に回答ください	産婦への請求 (①-②)	検査項目 ※該当する番号を全てお書き ください。 1.血圧 2.体重 3.尿検査 4.内診 5.超音波検査 6.採血 7.メンタルヘルスの評価	左記の選択肢にない検査項目
9	分娩後2週間頃	円	1.有 2.無	円	円		
10	分娩後4週間頃	円	1.有 2.無	円	円		
11	その他 (分娩後()週間頃)	円	1.有 2.無	円	円		

d. 産婦健診以外の産婦を対象とした診察・ケア（保険診療・産後ケアを除く）

	項目	費用	1ヶ月間の 外来人数
12		円	人
13		円	人
14		円	人

(2)産後ケア

15	産後ケアの実施の有無		1.有 2.無
16	産後ケアの実施が有の場合	短期入所型（ショートステイ型）	1.有 2.無
17		通所型（デイサービス型）	1.有 2.無
18		居宅訪問型（アウトリーチ型）	1.有 2.無

	項目※行っていない場合は、空欄としてください。		費用	1ヶ月間の延べ利用者数*	
19	短期入所型（ショートステイ型）	1泊2日	円	人	・費用については、市町村からの委託を受けて実施する産後ケア事業のうち利用が一番多い市町村について（市町村からの委託を受けていない場合は平均的な費用について）、1泊2日利用した場合の費用（利用者の自己負担と自治体からの補助の合計）を記載してください。 ・延べ利用人数については、例えば3泊4日利用した場合は4人として計上してください。
20	通所型（デイサービス型）	1日	円	人	・費用については、市町村からの委託を受けて実施する産後ケア事業のうち利用が一番多い市町村について（市町村からの委託を受けていない場合は平均的な費用について）記載してください。 ・利用者数については、市町村からの委託を受けて実施している分と市町村からの委託を受けて実施している分と、それ以外で実施している分を合わせて計上してください。
21		半日	円	人	・1日利用とは別に、半日利用の費用を設定している場合に記載ください。
22	居宅訪問型（アウトリーチ型）	1回	円	人	・費用については、市町村からの委託を受けて実施する産後ケア事業のうち利用が一番多い市町村について（市町村からの委託を受けていない場合は平均的な費用について）記載してください。 ・利用者数については、市町村からの委託を受けて実施している分と市町村からの委託を受けて実施している分と、それ以外で実施している分を合わせて計上してください。

* 令和 6 年 9 月 1 日から令和 6 年 9 月 30 日の数値をご記入ください。

調査へのご協力ありがとうございました。現在、「妊娠・出産・産後における妊産婦等の支援策等に関する検討会」において、妊娠・出産・産後に関する様々な支援等の更なる強化の方向性について議論が行われています。この議論に関して、ご意見があれば以下に記載をお願いします。

(自由記述欄)

分娩取扱施設における出産に係る費用構造の把握のための調査研究 調査票（B票）
病棟票・ユニット票（3つ以上の病棟・ユニットを有する場合は、各病棟・ユニットごとに記載※各ページをコピーして記載ください。）

ID

1. 看護職（助産師、看護師、准看護師）の従事時間等

- ※従事時間数は概算での記載でかまいません。複数の業務に従事している場合は主として従事した業務に時間を計上してください。
- ※「ケア」には、合併症のある産婦への投薬や異常分娩の対応等の診療の補助業務も含まれます。
- ※各事項に関する直接のケア以外の対応（記録や電話相談等）に要する時間は、各項目の従事時間に計上してください。
- ※病棟師長等、専ら管理業務に従事する看護職員は回答には含めないようにしてください。

1病棟・ユニット目

以下の項目については、原則として記載のとおり、1ヶ月間での集計を御願いたいと思いますが、1ヶ月間での集計が困難である場合は、「9月1日～30日の1ヶ月の」とあるところを「調査票到着日以降の初回の月曜日から日曜日の1週間」と読み替えてご回答ください。その場合、右の欄にチェックを御願います。

☐月曜日から日曜日の1週間で回答

回答欄				留意点等	
1	病棟（ユニット）における、産科の患者の入院割合（概算）	9月1日～30日の1か月の割合		割合	9月1日～30日の1か月における、病棟（ユニット）の全入院患者数のうちの産科以外の患者（他科患者）の割合（0～10割）を概算で記載してください。
2	全看護職の総労働時間数	9月1日～30日の1か月の総労働時間数	aからiを足しあげた数値に一致		
3	分娩期のケア	全看護職の分娩期のケアに従事した時間数	a	時間	9月1日～30日の1か月あたりの、全看護職の総労働時間のトータルのべ時間を記載してください。例えば、看護職20名で1日8時間で20日間ずっと従事した場合は、20×8×20＝3200時間 また、この欄の数字は、aからiを足した数値となります。記載の際は必ず一致することを計算してご確認お願いいたします。
4		（うち）助産師が分娩期のケアに従事した時間数	(aのうち)	時間	
5	産褥入院中（新生児含む）のケア（授乳、育児等の保健指導を含む）	全看護職の産褥入院中（新生児含む）のケアに従事した時間数	b	時間	9月1日～30日の1か月あたりの全助産師の分娩期のケアに従事したのべ時間を積算して記載してください。
6		（うち）助産師が産褥入院中（新生児含む）に従事した時間数	(bのうち)	時間	
7	入院中の妊婦のケア（妊婦健康診査や保健指導を含む）	全看護職の入院中の妊婦のケアに従事した時間数	c	時間	9月1日～30日の1か月あたりの全看護職の入院中の妊婦のケアに従事したのべ時間を積算して記載してください。
8		（うち）助産師が入院中の妊婦のケアに従事した時間数	(cのうち)	時間	
9	外来の妊婦のケア（妊婦健康診査や保健指導を含む）	全看護職の外来の妊婦のケアに従事した時間数	d	時間	9月1日～30日の1か月あたりの全助産師の入院中の妊婦のケアに従事したのべ時間を積算して記載してください。
10		（うち）助産師が外来の妊婦のケアに従事した時間数	(dのうち)	時間	
11	産婦健康診査（産後1か月までの褥婦と新生児）	実施有無	1.有 2.無	件	9月1日～30日の1か月あたりの実施のべ件数を記載してください。
12		9月1日～30日の1か月の実施件数			
13		全看護職の産婦健康診査に従事した時間数	e		
14		（うち）助産師が産婦健康診査に従事した時間数	(eのうち)		
15	妊婦やパートナーを対象とした妊娠期の集団指導（母親学級・両親学級、エクササイズ等）（※市町村からの委託や補助を受けて実施する場合も含む）	実施有無	1.有 2.無	件	9月1日～30日の1か月あたりの実施のべ件数を記載してください。
16		9月1日～30日の1か月の実施件数			
17		全看護職の妊娠期の集団指導に従事した時間数	f		
18		（うち）助産師が妊娠期の集団指導に従事した時間数	(fのうち)	時間	9月1日～30日の1か月あたりの全助産師の妊娠期の集団指導に従事したのべ時間を積算して記載してください。
19	妊婦への訪問指導（※市町村からの委託や補助を受けて実施する場合も含む）	実施有無	1.有 2.無	件	9月1日～30日の1か月あたりの実施のべ件数を記載してください。
20		9月1日～30日の1か月の実施件数			
21		全看護職の妊婦への訪問指導に従事した時間数	g		
22		（うち）助産師が妊婦への訪問指導に従事した時間数	(gのうち)		
23	乳児家庭全戸訪問事業（※市町村からの委託や補助を受けて実施するもの）	実施有無	1.有 2.無	件	9月1日～30日の1か月あたりの実施のべ件数を記載してください。
24		9月1日～30日の1か月の実施件数			
25		全看護職の乳児家庭全戸訪問事業に従事した時間数	h		
26		（うち）助産師が乳児家庭全戸訪問事業に従事した時間数	(hのうち)		
27	褥婦、新生児への訪問指導（※市町村からの委託や補助を受けて実施する場合も含む）	実施有無	1.有 2.無	件	9月1日～30日の1か月あたりの実施のべ件数を記載してください。
28		9月1日～30日の1か月の実施件数			
29		全看護職の褥婦、新生児への訪問指導に従事した時間数	i		
30		（うち）助産師が褥婦、新生児への訪問指導に従事した時間数	(iのうち)		

回答欄			留意点等		
31	産前・産後サポート事業 (※市町村からの委託や補助を受けて実施するもの)	実施有無	1.有 2.無	件 時間 時間	9月1日～30日の1か月あたりの実施のべ件数を記載してください。 9月1日～30日の1か月あたりの全看護職の産前・産後サポート事業に従事したのべ時間を積算して記載してください。 9月1日～30日の1か月あたりの全助産師の産前・産後サポート事業に従事したのべ時間を積算して記載してください。
32		9月1日～30日の1か月の実施件数			
33		全看護職の産前・産後サポート事業に従事した時間数	j		
34		(うち) 助産師が産前・産後サポート事業に従事した時間数	(jのうち)		
35	産後ケア (※市町村からの委託や補助を受けて実施する産後ケア事業と、自費での産後ケアの双方を含む)	実施有無	1.有 2.無	件 時間 時間	9月1日～30日の1か月あたりの実施のべ件数を記載してください。 9月1日～30日の1か月あたりの全看護職の産後ケアに従事したのべ時間を積算して記載してください。 9月1日～30日の1か月あたりの全助産師の産後ケアに従事したのべ時間を積算して記載してください。
36		9月1日～30日の1か月の実施件数			
37		全看護職の産後ケアに従事した時間数	k		
38		(うち) 助産師が産後ケアに従事した時間数	(kのうち)		
39	その他	実施有無	1.有 2.無	時間	その他の業務内容について自由に記載してください。 例) 他科患者の看護業務等 9月1日～30日の1か月の全看護職のその他の業務に従事したのべ時間を積算して記載してください。
40		その他の業務の内容 (自由記載)			
41		全看護職のその他の業務に従事した時間数	l		

2. 医師の従事時間等

※従事時間数は概算での記載でかまいません。複数の業務に従事している場合は主として従事した業務に時間を計上してください。
※各事項に関する直接の診療以外（記録や電話連絡等）に要する時間は、各項目の従事時間に計上してください。

以下の項目については、原則として記載のとおり、1ヶ月間での集計を御願いしたいと思いますが、1ヶ月間での集計が困難である場合は、「9月1日～30日の1ヶ月の」とあるところを「調査票到着日以降の初回の月曜日から日曜日の1週間」と読み替えてご回答ください。その場合、右の欄にチェックを御願います。			☐ 月曜日から日曜日の1週間で回答		
回答欄			留意点等		
1	分娩期の産婦の診療業務に従事した全医師数	9月1日～30日の1か月に分娩期の産婦の診療業務に従事した全医師数	aからdを足しあげた数値に一致	名 名 名 名	9月1日～30日の1か月に分娩期の産婦の診療業務に従事した全医師数（実数）を記載してください。
		(うち) 産婦人科医師数	a		
		(うち) 小児科・新生児科医師数	b		
		(うち) 麻酔科医師数	c		
		(うち) 上記以外の診療科医師数	d		
6	分娩期の産婦の診療業務に従事した全医師の対応時間数	9月1日～30日の1か月に分娩期の産婦の診療業務に従事した全医師の対応時間数	eからhを足しあげた数値に一致	時間 時間 時間 時間	9月1日～30日の1か月あたりの、全医師の分娩期の産婦の診療業務に従事したのべ時間を積算して記載してください。
		(うち) 産婦人科医師	e		
		(うち) 小児科・新生児科医師	f		
		(うち) 麻酔科医師	g		
		(うち) 上記以外の診療科医師	h		
11	産褥入院中の褥婦の診療業務に従事した全医師数	9月1日～30日の1か月に産褥期の褥婦の診療業務に従事した全医師数	iからlを足しあげた数値に一致	名 名 名 名	9月1日～30日の1か月に産褥入院中の褥婦の診療業務に従事した全医師数（実数）を記載してください。
		(うち) 産婦人科医師数	i		
		(うち) 小児科・新生児科医師数	j		
		(うち) 麻酔科医師数	k		
		(うち) 上記以外の診療科医師数	l		
16	産褥入院中の褥婦の診療業務に従事した全医師の対応時間数	9月1日～30日の1か月に産褥期の褥婦の診療業務に従事した全医師の対応時間数	mからpを足しあげた数値に一致	時間 時間 時間 時間	9月1日～30日の1か月あたりの、全医師の産褥期の褥婦の診療業務に従事したのべ時間を積算して記載してください。
		(うち) 産婦人科医師	m		
		(うち) 小児科・新生児科医師	n		
		(うち) 麻酔科医師	o		
		(うち) 上記以外の診療科医師	p		

分娩取扱施設における出産に係る費用構造の把握のための調査研究 調査票（B票）
病棟票・ユニット票（3つ以上の病棟・ユニットを有する場合は、各病棟・ユニットごとに記載※各ページをコピーして記載ください。）

1. 看護職（助産師、看護師、准看護師）の従事時間等

※従事時間数は概算での記載でかまいません。複数の業務に従事している場合は主として従事した業務に時間を計上してください。
※「ケア」には、合併症のある産婦への投薬や異常分娩の対応等の診療の補助業務も含まれます。
※各事項に関する直接のケア以外の対応（記録や電話相談等）に要する時間は、各項目の従事時間に計上してください。
※病棟師長等、専ら管理業務に従事する看護職員は回答には含めないようにしてください。

2病棟・ユニット目

以下の項目については、原則として記載のとおり、1ヶ月間での集計を御願いしたいと思いますが、1ヶ月間での集計が困難である場合は、「9月1日～30日の1ヶ月の」とあるところを「調査票到着日以降の初回の月曜日から日曜日の1週間」と読み替えてご回答ください。その場合、右の欄にチェックを御願います。

☐月曜日から日曜日の1週間で回答

回答欄			留意点等	
1	病棟（ユニット）における、産科の患者の入院割合（概算）	9月1日～30日の1か月の割合	割合	9月1日～30日の1か月における、病棟（ユニット）の全入院患者数のうちの産科以外の患者（他科患者）の割合（0～10割）を概算で記載してください。
2	全看護職の総労働時間数	9月1日～30日の1か月の総労働時間数		9月1日～30日の1か月あたりの、全看護職の総労働時間のトータルのべ時間を記載してください。例えば、看護職20名で1日8時間で20日間ずつ従事した場合は、20×8×20＝3200時間 また、この欄の数字は、aからを足した数値となります。記載の際は必ず一致することを計算してご確認お願いいたします。
3	分娩期のケア	全看護職の分娩期のケアに従事した時間数	時間	9月1日～30日の1か月あたりの全看護職の分娩期のケアに従事したのべ時間を積算して記載してください。
4		（うち）助産師が分娩期のケアに従事した時間数	時間	9月1日～30日の1か月あたりの全助産師の分娩期のケアに従事したのべ時間を積算して記載してください。
5	産褥入院中（新生児含む）のケア（授乳、育児等の保健指導を含む）	全看護職の産褥入院中（新生児含む）のケアに従事した時間数	時間	9月1日～30日の1か月あたりの全看護職の産褥入院中（新生児期含む）のケアに従事したのべ時間を積算して記載してください。
6		（うち）助産師が産褥入院中（新生児含む）に従事した時間数	時間	9月1日～30日の1か月あたりの全助産師の産褥入院中（新生児期含む）のケアに従事したのべ時間を積算して記載してください。
7	入院中の妊婦のケア（妊婦健康診査や保健指導を含む）	全看護職の入院中の妊婦のケアに従事した時間数	時間	9月1日～30日の1か月あたりの全看護職の入院中の妊婦のケアに従事したのべ時間を積算して記載してください。
8		（うち）助産師が入院中の妊婦のケアに従事した時間数	時間	9月1日～30日の1か月あたりの全助産師の入院中の妊婦のケアに従事したのべ時間を積算して記載してください。
9	外来の妊婦のケア（妊婦健康診査や保健指導を含む）	全看護職の外来の妊婦のケアに従事した時間数	時間	9月1日～30日の1か月あたりの全看護職の外来の妊婦のケアに従事したのべ時間を積算して記載してください。
10		（うち）助産師が外来の妊婦のケアに従事した時間数	時間	9月1日～30日の1か月あたりの全助産師の外来の妊婦のケアに従事したのべ時間を積算して記載してください。
11	産婦健康診査（産後1か月までの褥婦と新生児）	実施有無		9月1日～30日の1か月あたりの実施のべ件数を記載してください。
12		9月1日～30日の1か月の実施件数	件	
13		全看護職の産婦健康診査に従事した時間数	時間	
14		（うち）助産師が産婦健康診査に従事した時間数	時間	
15	妊婦やパートナーを対象とした妊娠期の集団指導（母親学級・両親学級、エクササイズ等）（※市町村からの委託や補助を受けて実施する場合も含む）	実施有無		9月1日～30日の1か月あたりの実施のべ件数を記載してください。
16		9月1日～30日の1か月の実施件数	件	
17		全看護職の妊娠期の集団指導に従事した時間数	時間	
18		（うち）助産師が妊娠期の集団指導に従事した時間数	時間	
19	妊婦への訪問指導（※市町村からの委託や補助を受けて実施する場合も含む）	実施有無		9月1日～30日の1か月あたりの実施のべ件数を記載してください。
20		9月1日～30日の1か月の実施件数	件	
21		全看護職の妊婦への訪問指導に従事した時間数	時間	
22		（うち）助産師が妊婦への訪問指導に従事した時間数	時間	
23	乳児家庭全戸訪問事業（※市町村からの委託や補助を受けて実施するもの）	実施有無		9月1日～30日の1か月あたりの実施のべ件数を記載してください。
24		9月1日～30日の1か月の実施件数	件	
25		全看護職の乳児家庭全戸訪問事業に従事した時間数	時間	
26		（うち）助産師が乳児家庭全戸訪問事業に従事した時間数	時間	
27	褥婦、新生児への訪問指導（※市町村からの委託や補助を受けて実施する場合も含む）	実施有無		9月1日～30日の1か月あたりの実施のべ件数を記載してください。
28		9月1日～30日の1か月の実施件数	件	
29		全看護職の褥婦、新生児への訪問指導に従事した時間数	時間	
30		（うち）助産師が褥婦、新生児への訪問指導に従事した時間数	時間	

回答欄			留意点等		
31	産前・産後サポート事業 (※市町村からの委託や補助を受けて実施するもの)	実施有無	1.有 2.無	件 時間 時間	9月1日～30日の1か月あたりの実施のべ件数を記載してください。 9月1日～30日の1か月あたりの全看護職の産前・産後サポート事業に従事したのべ時間を積算して記載してください。 9月1日～30日の1か月あたりの全助産師の産前・産後サポート事業に従事したのべ時間を積算して記載してください。
32		9月1日～30日の1か月の実施件数			
33		全看護職の産前・産後サポート事業に従事した時間数	j		
34		(うち) 助産師が産前・産後サポート事業に従事した時間数	(jのうち)		
35	産後ケア (※市町村からの委託や補助を受けて実施する産後ケア事業と、自費での産後ケアの双方を含む)	実施有無	1.有 2.無	件 時間 時間	9月1日～30日の1か月あたりの実施のべ件数を記載してください。 9月1日～30日の1か月あたりの全看護職の産後ケアに従事したのべ時間を積算して記載してください。 9月1日～30日の1か月あたりの全助産師の産後ケアに従事したのべ時間を積算して記載してください。
36		9月1日～30日の1か月の実施件数			
37		全看護職の産後ケアに従事した時間数	k		
38		(うち) 助産師が産後ケアに従事した時間数	(kのうち)		
39	その他	実施有無	1.有 2.無	時間	その他の業務内容について自由に記載してください。 例) 他科患者の看護業務等 9月1日～30日の1か月の全看護職のその他の業務に従事したのべ時間を積算して記載してください。
40		その他の業務の内容 (自由記載)			
41		全看護職のその他の業務に従事した時間数	l		

2. 医師の従事時間等

※従事時間数は概算での記載でかまいません。複数の業務に従事している場合は主として従事した業務に時間を計上してください。
※各事項に関する直接の診療以外（記録や電話連絡等）に要する時間は、各項目の従事時間に計上してください。

以下の項目については、原則として記載のとおり、1ヶ月間での集計を御願いしたいと思いますが、1ヶ月間での集計が困難である場合は、「9月1日～30日の1ヶ月の」とあるところを「調査票到着日以降の初回の月曜日から日曜日の1週間」と読み替えてご回答ください。その場合、右の欄にチェックを御願います。			☐ 月曜日から日曜日の1週間で回答		
回答欄			留意点等		
1	分娩期の産婦の診療業務に従事した全医師数	9月1日～30日の1か月に分娩期の産婦の診療業務に従事した全医師数	aからdを足しあげた数値に一致	名 名 名 名 名	9月1日～30日の1か月に分娩期の産婦の診療業務に従事した全医師数（実数）を記載してください。
2		(うち) 産婦人科医師数	a		
3		(うち) 小児科・新生児科医師数	b		
4		(うち) 麻酔科医師数	c		
5		(うち) 上記以外の診療科医師数	d		
6	分娩期の産婦の診療業務に従事した全医師の対応時間数	9月1日～30日の1か月に分娩期の産婦の診療業務に従事した全医師の対応時間数	eからhを足しあげた数値に一致	時間	9月1日～30日の1か月あたりの、全医師の分娩期の産婦の診療業務に従事したのべ時間を積算して記載してください。
7		(うち) 産婦人科医師	e	時間	
8		(うち) 小児科・新生児科医師	f	時間	
9		(うち) 麻酔科医師	g	時間	
10		(うち) 上記以外の診療科医師	h	時間	
11	産褥入院中の褥婦の診療業務に従事した全医師数	9月1日～30日の1か月に産褥期の褥婦の診療業務に従事した全医師数	iからlを足しあげた数値に一致	名 名 名 名 名	9月1日～30日の1か月に産褥入院中の褥婦の診療業務に従事した全医師数（実数）を記載してください。
12		(うち) 産婦人科医師数	i		
13		(うち) 小児科・新生児科医師数	j		
14		(うち) 麻酔科医師数	k		
15		(うち) 上記以外の診療科医師数	l		
16	産褥入院中の褥婦の診療業務に従事した全医師の対応時間数	9月1日～30日の1か月に産褥期の褥婦の診療業務に従事した全医師の対応時間数	mからpを足しあげた数値に一致	時間	9月1日～30日の1か月あたりの、全医師の産褥期の褥婦の診療業務に従事したのべ時間を積算して記載してください。
17		(うち) 産婦人科医師	m	時間	
18		(うち) 小児科・新生児科医師	n	時間	
19		(うち) 麻酔科医師	o	時間	
20		(うち) 上記以外の診療科医師	p	時間	

3. 患者票

1事例目

産婦の選択の方法：

①本調査票到着日を0日として、7日目（7日目が休日にあたる場合はその次の平日）以降に初めて入院された産婦を**1例目**として記載をお願いします。

②1例目の分娩日（もしくは受け持ち終了）の翌日以降に入院された初めの産婦を**2例目**として記載をお願いいたします。

③2例目の分娩日（もしくは受け持ち終了）の翌日以降に入院された初めの産婦を**3例目**として記載をお願いいたします。

患者票は前向き調査をお願いしています。

指定の年月日にあった入院については分娩が伴わない場合（前駆陣痛等の自費診療による入院であって、胎動減少等の保険診療を目的とした入院は除く）でもそのまま記載をお願いします。

(1) 産婦の概要

回答欄			留意点等
1	年齢		歳 対象となる産婦の入院日における年齢を記載してください。
2	産婦の住所	都道府県	
3		市区町村	
4	身長		cm 産婦の身長を記載してください。
5	非妊時体重		kg 産婦の妊娠前の体重を記載してください。
6	妊娠中の体重増加量		kg 入院後計測を行わなかった場合は、直近の妊婦健診での体重を元に記載してください。
7	出産時の妊娠週数		週 日 出産の時の妊娠週数を記載してください。
8	出産経験(いずれか1つ選択)		1.初産 2.経産
9	在院日数 (入院日及び退院日を含める)		日 入院してから退院までの日数を記載してください。 ※入院日及び退院日も含めてください。 ※例えば前駆陣痛などで一旦退院した場合は、再度入院した日からの日数を記載してください。 ※保険診療、自費診療は関係なく、入院した日数を記載してください。
10	既往歴（自由記載）		
11	産科合併症（HDPやGDMなど） （自由記載）		
12	出生前の胎児異常の診断の有無		1.有 2.無 出生前に心奇形等の診断を受けている場合にはありを選択してください。
13	社会的ハイリスクへの該当		1.有 2.無 社会的ハイリスクについては、貴施設の判断で記載ください。

(2) 分娩の概要

14	入院の経緯(いずれか1つ選択)		1.陣痛発来 2.前期破水 3.計画分娩 4.無痛分娩目的 5.その他（ ）		入院となった経緯を記載してください。
15	分娩時間	第 1 期		時間 分	分娩第 1 期の時間を記載してください。
16		第 2 期		時間 分	分娩第 2 期の時間を記載してください。
17		第 3 期		時間 分	分娩第 3 期の時間を記載してください。
18	入院から分娩第 3 期終了までの時間			時間 分	入院から分娩第 3 期終了までの時間を記載してください。
19	第 3 期終了から帰室までの時間			時間 分	第 3 期終了から、入院する病室へ移動するまでの時間を記載してください。

(3) 医療行為

a.分娩時

20	子宮頸管拡張	1.有 2.無	日	子宮頸管拡張を行った場合は有を選択してください。
21	上記の子宮頸管拡張を行う場合の使用薬剤等 (ラミナリア、ミニメトロ、プロウペス等)			複数使用している場合はその名称と使用した個数を記載してください。
22	上記の子宮頸管拡張に係った日数			子宮頸管拡張のみを行った日数を記載してください。
23	感染予防の抗菌薬内服	1.有 2.無	日	分娩の際に子宮内感染の予防目的で抗菌薬の点滴を行った場合は有を選択してください。（母体のGBS感染に対する抗菌薬投与は含めません。）
24	感染予防の抗菌薬点滴	1.有 2.無		
25	血管確保	1.有 2.無		
26	陣痛促進	1.有 2.無		
27	陣痛誘発	1.有 2.無		
28	陣痛促進・誘発時の使用薬剤名			
29	会陰切開	1.有 2.無		
30	会陰縫合	1.有 2.無	会陰縫合を行った際には有を選択してください。	

b.入院中			回答欄	留意点等
31	退院診察	日程	産後()日目	
32		内診	1.有 2.無	
33		経膣超音波	1.有 2.無	
34		採血検査の項目		
35		尿検査	1.有 2.無	
(4) 入院中の助産ケア				複数の助産ケアの項目を一体的に提供した場合は、主たる助産ケアの項目に計上してください。
36	母子同室の有無		1.有 2.無	入院期間中に母子同室がある場合は有を選択してください。
37	授乳指導の回数とかかる時間	平均的な 1 日あたりの回数		個別指導及び集団指導を含みます。
38		1 入院あたりの合計回数		
39		1 回あたりの平均的な時間 (個別指導の場合)		
40		1 回あたりの平均的な時間 (集団指導の場合)		
41	個別の乳房・乳頭のケア（乳房マッサージ等）	平均的な 1 日あたりの回数		産後授乳指導の時間の 1 回あたりの平均時間を記載ください。 集団指導の場合は、1 人あたりの指導時間に換算して計上ください。 （例：〔集団指導の時間〕÷〔集団指導の対象人数〕）
42		1 入院あたりの合計回数		
43		1 回あたりの時間		
44	沐浴指導の回数とかかる時間	1 入院あたりの合計回数		個別指導及び集団指導を含みます。
45		1 回あたりの平均的な時間 (個別指導の場合)		
46		1 回あたりの平均的な時間 (集団指導の場合)		
47	調乳指導の回数とかかる時間	1 入院あたりの合計回数		個別指導及び集団指導を含みます。
48		1 回あたりの平均的な時間 (個別指導の場合)		
49		1 回あたりの平均的な時間 (集団指導の場合)		
50	育児技術に係る指導にかかる時間（延べ時間）			抱っこ、おむつ・衣類交換、児の健康状態の見方等の育児技術に関する指導を行った合計時間を記載ください。個別指導及び集団指導を含みます。 集団指導の場合は、1 人あたりの指導時間に換算して計上ください。 （例：〔集団指導の時間〕÷〔集団指導の対象人数〕）
51	退院指導にかかる時間			
52	上記以外に行っている指導の内容（自由記載）			
(5) 付帯サービス				
53	付帯サービスの種類と実施の有無	お祝い膳	1.有 2.無	
54		写真撮影	1.有 2.無	
55		足形	1.有 2.無	
56		エステ（※乳房マッサージは除く）	1.有 2.無	
57		その他（自由記載）		

(6) 新生児関連

a.新生児の概要

回答欄

留意点等

58	出生時の体重		g	出生時の体重を記載してください。
59	在院日数（出生及び退院日を含める）		日	出生日から退院日までの日数を記載してください。

b.新生児へ提供した医療等

60	新生児の診察	小児科医による診察日数（入院中に限る）		日	小児科医師により診察が行われた日数を記載してください。
61		産科医による診察日数（入院中に限る）		日	
62	検査等	採血検査の項目	1.有 2.無		
63		黄疸検査	1.有 2.無		
64		出生直後血糖測定対象かどうか	1.対象 2.対象外		
65		SpO2モニター装着（出生直後等）	1.有 2.無		
66		アプニアセンサー装着	1.有 2.無		
67		先天性代謝異常等検査	1.有 2.無		
68		新生児聴覚検査	1.有 2.無		
69		その他新生児へ提供した検査等	(自由記載)		
70	治療等	保育器収容（酸素投与のため）	1.有 2.無		
71		保育器収容（保温のため）	1.有 2.無		
72		光線療法	1.有 2.無		
73		ワクチン接種	1.有 2.無		
74		その他新生児へ提供した治療等	(自由記載)		
75	新生児への処置・ケア（臍処置、沐浴）	臍処置	1.有 2.無		
76		皮膚ケア	1.有 2.無		
77		ビタミンK2内服	1.有 2.無		
78		沐浴・ドライケア（清拭）の回数（入院中に限る）		回	
79		その他新生児へ提供した処置・ケア	(自由記載)		

(7) 費用

出産育児一時金の直接支払制度の専用請求書への記載内容を記載してください。

80	入院料		円
81	室料差額		円
82	分娩介助料		円
83	分娩料		円
84	新生児管理保育料		円
85	検査・薬剤料		円
86	処置・手当料		円
87	産科医療保障制度の掛金		円
88	その他		円
89	一部負担金等		円
90	産婦合計負担額		円
91	代理受取額		円

3. 患者票

2事例目

産婦の選択の方法：
①本調査票到着日を0日として、7日目（7日目が休日にあたる場合はその次の平日）以降に初めて入院された産婦を**1例目**として記載をお願いします。
②1例目の分娩日（もしくは受け持ち終了）の翌日以降に入院された初めの産婦を**2例目**として記載をお願いいたします。
③2例目の分娩日（もしくは受け持ち終了）の翌日以降に入院された初めの産婦を**3例目**として記載をお願いいたします。
患者票は前向き調査をお願いしています。
指定の年月日にあった入院については分娩が伴わない場合（前駆陣痛等の自費診療による入院であって、胎動減少等の保険診療を目的とした入院は除く）でもそのまま記載をお願いします。

(1) 産婦の概要

		回答欄	留意点等
1	年齢		対象となる産婦の入院日における年齢を記載してください。
2	産婦の住所	都道府県	里帰りした先の住所ではなく、産婦の居住場所の住所を記載してください。 注：札幌市、仙台市、さいたま市、千葉市、横浜市、川崎市、相模原市、新潟市、静岡市、浜松市、名古屋市、京都市、大阪市、堺市、神戸市、岡山市、広島市、北九州市、福岡市、熊本市の場合は、その先の区まで記載してください。
3		市区町村	
4	身長		産婦の身長を記載してください。
5	非妊時体重		産婦の妊娠前の体重を記載してください。
6	妊娠中の体重増加量		入院後計測を行わなかった場合は、直近の妊婦健診での体重を元に記載してください。
7	出産時の妊娠週数	週 日	出産の時の妊娠週数を記載してください。
8	出産経験(いずれか1つ選択)	1.初産 2.経産	
9	在院日数 (入院日及び退院日を含める)		入院してから退院までの日数を記載してください。 ※入院日及び退院日も含めてください。 ※例えば前駆陣痛などで一旦退院した場合は、再度入院した日からの日数を記載してください。 ※保険診療、自費診療は関係なく、入院した日数を記載してください。
10	既往歴（自由記載）		
11	産科合併症（HDPやGDMなど） (自由記載)		
12	出生前の胎児異常の診断の有無	1.有 2.無	出生前に心奇形等の診断を受けている場合には有を選択してください。
13	社会的ハイルスクへの該当	1.有 2.無	社会的ハイルスクについては、貴施設の判断で記載ください。

(2) 分娩の概要

14	入院の経緯(いずれか1つ選択)	1.陣痛発来 2.前期破水 3.計画分娩 4.無痛分娩目的 5.その他（ ）	入院となった経緯を記載してください。
15	分娩時間	第1期 時間 分	分娩第1期の時間を記載してください。
16		第2期 時間 分	分娩第2期の時間を記載してください。
17		第3期 時間 分	分娩第3期の時間を記載してください。
18	入院から分娩第3期終了までの時間	時間 分	入院から分娩第3期終了までの時間を記載してください。
19	第3期終了から帰室までの時間	時間 分	第3期終了から、入院する病室へ移動するまでの時間を記載してください。

(3) 医療行為

		回答欄	
20	子宮頸管拡張	1.有 2.無	子宮頸管拡張を行った場合は有を選択してください。
21	上記の子宮頸管拡張を行う場合の使用薬剤等 (ラミナリア、ミニメトロ、プロウベス等)		複数使用している場合はその名称と使用した個数を記載してください。
22	上記の子宮頸管拡張に係った日数	日	子宮頸管拡張のみを行った日数を記載してください。
23	感染予防の抗菌薬内服	1.有 2.無	
24	感染予防の抗菌薬点滴	1.有 2.無	分娩の際に子宮内感染の予防目的で抗菌薬の点滴を行った場合は有を選択してください。（母体のGBS感染に対する抗菌薬投与は含めません。）
25	血管確保	1.有 2.無	血管確保を行った際には、有を選択してください。
26	陣痛促進	1.有 2.無	陣痛促進を行った際には有を選択してください。
27	陣痛誘発	1.有 2.無	陣痛誘発を行った際には有を選択してください。
28	陣痛促進・誘発時の使用薬剤名		上記の際に使用した薬剤を記載してください。（商品名）
29	会陰切開	1.有 2.無	会陰切開を行った場合は有を選択して下さい。
30	会陰縫合	1.有 2.無	会陰縫合を行った際には有を選択してください。

			回答欄	留意点等
b.入院中				
31	退院診察	日程	産後()日目	
32		内診	1.有 2.無	
33		経膈超音波	1.有 2.無	
34		採血検査の項目		
35		尿検査	1.有 2.無	
(4) 入院中の助産ケア				
36	母子同室の有無		1.有 2.無	
37	授乳指導の回数とかかる時間	平均的な 1 日あたりの回数		
38		1 入院あたりの合計回数		
39		1 回あたりの平均的な時間 (個別指導の場合)		
40		1 回あたりの平均的な時間 (集団指導の場合)		
41	個別の乳房・乳頭のケア（乳房マッサージ等）	平均的な 1 日あたりの回数		
42		1 入院あたりの合計回数		
43		1 回あたりの時間		
44	沐浴指導の回数とかかる時間	1 入院あたりの合計回数		
45		1 回あたりの平均的な時間 (個別指導の場合)		
46		1 回あたりの平均的な時間 (集団指導の場合)		
47	調乳指導の回数とかかる時間	1 入院あたりの合計回数		
48		1 回あたりの平均的な時間 (個別指導の場合)		
49		1 回あたりの平均的な時間 (集団指導の場合)		
50	育児技術に係る指導にかかる時間（延べ時間）			
51	退院指導にかかる時間			
52	上記以外に行っている指導の内容（自由記載）			
(5) 付帯サービス				
53	付帯サービスの種類と実施の有無	お祝い膳	1.有 2.無	
54		写真撮影	1.有 2.無	
55		足形	1.有 2.無	
56		エステ（※乳房マッサージは除く）	1.有 2.無	
57		その他（自由記載）		

複数の助産ケアの項目を一体的に提供した場合は、主たる助産ケアの項目に計上してください。

入院期間中に母子同室がある場合は有を選択してください。

個別指導及び集団指導を含みます。

産後授乳指導の時間の 1 回あたりの平均時間を記載ください。
集団指導の場合は、1 人あたりの指導時間に換算して計上ください。
（例：〔集団指導の時間〕÷〔集団指導の対象人数〕）

個別指導及び集団指導を含みます。

集団指導の場合は、1 人あたりの指導時間に換算して計上ください。
（例：〔集団指導の時間〕÷〔集団指導の対象人数〕）

個別指導及び集団指導を含みます。

集団指導の場合は、1 人あたりの指導時間に換算して計上ください。
（例：〔集団指導の時間〕÷〔集団指導の対象人数〕）

抱っこ、おむつ・衣類交換、児の健康状態の見方等の育児技術に関する指導を行った合計時間を記載ください。個別指導及び集団指導を含みます。
集団指導の場合は、1 人あたりの指導時間に換算して計上ください。
（例：〔集団指導の時間〕÷〔集団指導の対象人数〕）

		回答欄	留意点等
(6) 新生児関連			
a.新生児の概要			
58	出生時の体重		出生時の体重を記載してください。
59	在院日数（出生及び退院日を含める）		出生日から退院日までの日数を記載してください。
b.新生児へ提供した医療等			
60	新生児の診察	小児科医による診察日数（入院中に限る）	小児科医師により診察が行われた日数を記載してください。
61		産科医による診察日数（入院中に限る）	産科医が新生児を診察した場合には、その日数を記載ください。
62	検査等	採血検査の項目	1.有 2.無
63		黄疸検査	1.有 2.無
64		出生直後血糖測定対象かどうか	1.対象 2.対象外
65		SpO2モニター装着（出生直後等）	1.有 2.無
66		アプニアセンサー装着	1.有 2.無
67		先天性代謝異常等検査	1.有 2.無
68		新生児聴覚検査	1.有 2.無
69		その他新生児へ提供した検査等	（自由記載）
70	治療等	保育器収容（酸素投与のため）	1.有 2.無
71		保育器収容（保温のため）	1.有 2.無
72		光線療法	1.有 2.無
73		ワクチン接種	1.有 2.無
74		その他新生児へ提供した治療等	（自由記載）
75	新生児への処置・ケア（臍処置、沐浴）	臍処置	1.有 2.無
76		皮膚ケア	1.有 2.無
77		ビタミンK2内服	1.有 2.無
78		沐浴・ドライケア（清拭）の回数（入院中に限る）	回
79		その他新生児へ提供した処置・ケア	（自由記載）
(7) 費用			
出産育児一時金の直接支払制度の専用請求書への記載内容を記載してください。			
80	入院料		円
81	室料差額		円
82	分娩介助料		円
83	分娩料		円
84	新生児管理保育料		円
85	検査・薬剤料		円
86	処置・手当料		円
87	産科医療保障制度の掛金		円
88	その他		円
89	一部負担金等		円
90	産婦合計負担額		円
91	代理受取額		円

3. 患者票

3事例目

産婦の選択の方法：
①本調査票到着日を0日として、7日目（7日目が休日にあたる場合はその次の平日）以降に初めに入院された産婦を**1例目**として記載をお願いします。
②1例目の分娩日（もしくは受け持ち終了）の翌日以降に入院された初めの産婦を**2例目**として記載をお願いいたします。
③2例目の分娩日（もしくは受け持ち終了）の翌日以降に入院された初めの産婦を**3例目**として記載をお願いいたします。
患者票は前向き調査をお願いしています。
指定の年月日にあった入院については分娩が伴わない場合（前駆陣痛等の自費診療による入院であって、胎動減少等の保険診療を目的とした入院は除く）でもそのまま記載をお願いします。

(1) 産婦の概要

		回答欄	留意点等
1	年齢		対象となる産婦の入院日における年齢を記載してください。
2	産婦の住所	都道府県	里帰りした先の住所ではなく、産婦の居住場所の住所を記載してください。 注：札幌市、仙台市、さいたま市、千葉市、横浜市、川崎市、相模原市、新潟市、静岡市、浜松市、名古屋市、京都市、大阪市、堺市、神戸市、岡山市、広島市、北九州市、福岡市、熊本市の場合は、その先の区まで記載してください。
3		市区町村	
4	身長		産婦の身長を記載してください。
5	非妊時体重		産婦の妊娠前の体重を記載してください。
6	妊娠中の体重増加量		入院後計測を行わなかった場合は、直近の妊婦健診での体重を元に記載してください。
7	出産時の妊娠週数	週 日	出産の時の妊娠週数を記載してください。
8	出産経験(いずれか1つ選択)	1.初産 2.経産	
9	在院日数 (入院日及び退院日を含める)		入院してから退院までの日数を記載してください。 ※入院日及び退院日も含めてください。 ※例えば前駆陣痛などで一旦退院した場合は、再度入院した日からの日数を記載してください。 ※保険診療、自費診療は関係なく、入院した日数を記載してください。
10	既往歴（自由記載）		
11	産科合併症（HDPやGDMなど） (自由記載)		
12	出生前の胎児異常の診断の有無	1.有 2.無	出生前に心奇形等の診断を受けている場合には有を選択してください。
13	社会的ハイルスクへの該当	1.有 2.無	社会的ハイルスクについては、貴施設の判断で記載ください。

(2) 分娩の概要

14	入院の経緯(いずれか1つ選択)	1.陣痛発来 2.前期破水 3.計画分娩 4.無痛分娩目的 5.その他（ ）	入院となった経緯を記載してください。
15	分娩時間	第1期 時間 分	分娩第1期の時間を記載してください。
16		第2期 時間 分	分娩第2期の時間を記載してください。
17		第3期 時間 分	分娩第3期の時間を記載してください。
18	入院から分娩第3期終了までの時間	時間 分	入院から分娩第3期終了までの時間を記載してください。
19	第3期終了から帰室までの時間	時間 分	第3期終了から、入院する病室へ移動するまでの時間を記載してください。

(3) 医療行為

20	子宮頸管拡張	1.有 2.無	子宮頸管拡張を行った場合は有を選択してください。
21	上記の子宮頸管拡張を行う場合の使用薬剤等 (ラミナリア、ミニメトロ、プロウベス等)		複数使用している場合はその名称と使用した個数を記載してください。
22	上記の子宮頸管拡張に係った日数	日	子宮頸管拡張のみを行った日数を記載してください。
23	感染予防の抗菌薬内服	1.有 2.無	
24	感染予防の抗菌薬点滴	1.有 2.無	分娩の際に子宮内感染の予防目的で抗菌薬の点滴を行った場合は有を選択してください。（母体のGBS感染に対する抗菌薬投与は含めません。）
25	血管確保	1.有 2.無	血管確保を行った際には、有を選択してください。
26	陣痛促進	1.有 2.無	陣痛促進を行った際には有を選択してください。
27	陣痛誘発	1.有 2.無	陣痛誘発を行った際には有を選択してください。
28	陣痛促進・誘発時の使用薬剤名		上記の際に使用した薬剤を記載してください。（商品名）
29	会陰切開	1.有 2.無	会陰切開を行った場合は有を選択して下さい。
30	会陰縫合	1.有 2.無	会陰縫合を行った際には有を選択してください。

			回答欄	留意点等
b.入院中				
31	退院診察	日程	産後()日目	
32		内診	1.有 2.無	
33		経膈超音波	1.有 2.無	
34		採血検査の項目		
35		尿検査	1.有 2.無	
(4) 入院中の助産ケア				
36	母子同室の有無		1.有 2.無	
37	授乳指導の回数とかかる時間	平均的な 1 日あたりの回数		
38		1 入院あたりの合計回数		
39		1 回あたりの平均的な時間 (個別指導の場合)		
40		1 回あたりの平均的な時間 (集団指導の場合)		
41	個別の乳房・乳頭のケア（乳房マッサージ等）	平均的な 1 日あたりの回数		
42		1 入院あたりの合計回数		
43		1 回あたりの時間		
44	沐浴指導の回数とかかる時間	1 入院あたりの合計回数		
45		1 回あたりの平均的な時間 (個別指導の場合)		
46		1 回あたりの平均的な時間 (集団指導の場合)		
47	調乳指導の回数とかかる時間	1 入院あたりの合計回数		
48		1 回あたりの平均的な時間 (個別指導の場合)		
49		1 回あたりの平均的な時間 (集団指導の場合)		
50	育児技術に係る指導にかかる時間（延べ時間）			
51	退院指導にかかる時間			
52	上記以外に行っている指導の内容（自由記載）			
(5) 付帯サービス				
53	付帯サービスの種類と実施の有無	お祝い膳	1.有 2.無	
54		写真撮影	1.有 2.無	
55		足形	1.有 2.無	
56		エステ（※乳房マッサージは除く）	1.有 2.無	
57		その他（自由記載）		

複数の助産ケアの項目を一体的に提供した場合は、主たる助産ケアの項目に計上してください。

入院期間中に母子同室がある場合は有を選択してください。

個別指導及び集団指導を含みます。

産後授乳指導の時間の 1 回あたりの平均時間を記載ください。
集団指導の場合は、1 人あたりの指導時間に換算して計上ください。
（例：〔集団指導の時間〕÷〔集団指導の対象人数〕）

個別指導及び集団指導を含みます。

集団指導の場合は、1 人あたりの指導時間に換算して計上ください。
（例：〔集団指導の時間〕÷〔集団指導の対象人数〕）

個別指導及び集団指導を含みます。

集団指導の場合は、1 人あたりの指導時間に換算して計上ください。
（例：〔集団指導の時間〕÷〔集団指導の対象人数〕）

抱っこ、おむつ・衣類交換、児の健康状態の見方等の育児技術に関する指導を行った合計時間を記載ください。個別指導及び集団指導を含みます。
集団指導の場合は、1 人あたりの指導時間に換算して計上ください。
（例：〔集団指導の時間〕÷〔集団指導の対象人数〕）

(6) 新生児関連

a.新生児の概要

回答欄

留意点等

58	出生時の体重		g	出生時の体重を記載してください。
59	在院日数（出生及び退院日を含める）		日	出生日から退院日までの日数を記載してください。

b.新生児へ提供した医療等

60	新生児の診察	小児科医による診察日数 （入院中に限る）		日	小児科医師により診察が行われた日数を記載してください。
61		産科医による診察日数 （入院中に限る）		日	産科医が新生児を診察した場合には、その日数を記載ください。
62	検査等	採血検査の項目	1.有 2.無		
63		黄疸検査	1.有 2.無		
64		出生直後血糖測定対象 かどうか	1.対象 2.対象外		
65		SpO2モニター装着 （出生直後等）	1.有 2.無		
66		アプニアセンサー装着	1.有 2.無		
67		先天性代謝異常等検査	1.有 2.無		
68		新生児聴覚検査	1.有 2.無		
69		その他新生児へ提供した 検査等	（自由記載）		
70	治療等	保育器収容 （酸素投与のため）	1.有 2.無		
71		保育器収容（保温のため）	1.有 2.無		
72		光線療法	1.有 2.無		
73		ワクチン接種	1.有 2.無		
74		その他新生児へ提供した 治療等	（自由記載）		
75	新生児への処置・ケア（臍処置、 沐浴）	臍処置	1.有 2.無		
76		皮膚ケア	1.有 2.無		
77		ビタミンK2内服	1.有 2.無		
78		沐浴・ドライケア（清拭）の 回数（入院中に限る）		回	
79		その他新生児へ提供した 処置・ケア	（自由記載）		

(7) 費用

出産育児一時金の直接支払制度の専用請求書への記載内容を記載してください。

80	入院料		円
81	室料差額		円
82	分娩介助料		円
83	分娩料		円
84	新生児管理保育料		円
85	検査・薬剤料		円
86	処置・手当料		円
87	産科医療保障制度の掛金		円
88	その他		円
89	一部負担金等		円
90	産婦合計負担額		円
91	代理受取額		円

記載方法：★分娩が複数日にわたる場合はお手数ですが、p15～p17を印刷いただき、記載いただけますと幸いです。

①入院、児娩出、分娩終了、帰室（分娩室やLDRから産婦が入院している部屋に入る時刻）については、該当する時間に●を記載してください。②無痛分娩のタイムスタディの場合には麻酔の導入を行った時刻を★、麻酔を使用していた期間を⇔で記載ください。

③「経過」には、分娩の進行や異常所見の出現等、産婦の経過において契機となる状態が出現した場合に記載をお願いいたします。④医師（産婦人科）、医師（麻酔科）、医師（小児科）、助産師、看護師、准看護師の項目は妊産婦に対面で接していた（診療・看護・助産ケア等していた）時間に⇔を記載ください。

⑤ベッドサイド以外での分娩監視装置監視者の項目に関しては、産婦には接していないが、分娩監視装置のモニターを監視している時間を⇔で表し、監視している者を⇔の上に記載ください。

複数人いる場合は複数記載してください。

⑥分娩監視装置使用時間は妊婦に対して分娩監視装置を使用している時間を⇔で記載ください。⑦「実施したケア等の内容」の欄は、各時間の実施したケアについて該当するものをチェックしてください。該当するケア以外のものを実施した場合は、その内容を「その他」欄にご記入をお願いいたします。

タイムスタディ
(記載例)

		6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4	5	6	
入院				●													●										
児娩出																	●										
分娩終了（分娩第3期終了）																	●										
帰室																			●								
無痛分娩（麻酔導入は★、麻酔期間は⇔）																											
帝王切開の場合は手術の時間を記入																											
経過										14:00 破水 羊混±							羊混 +、怒 責時遅 発一過 性徐脈 あり										
医師 (産婦人科)	A			⇔					⇔								⇔	⇔									
	B																										
	C																										
	D																										
	E																										
医師 (麻酔科)	A																										
	B																										
	C																										
	D																										
医師 (小児科・新生児科)	A																⇔										
	B																										
	C																										
	D																										
助産師	A		⇔	⇔	⇔		⇔	⇔	⇔	⇔							⇔	⇔									
	B			⇔	⇔			⇔		⇔																	
	C											⇔	⇔				⇔	⇔									
	D									⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔									
	E										⇔	⇔					⇔	⇔									
	F																	⇔	⇔								
	G																		⇔								
看護師	A																⇔	⇔									
	B																										
	C																										
	D																										
准看護師	A																										
	B																										
	C																										
その他	A			医A						医A				医E													
ベッドサイド以外での分娩監視装置監視者				⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔									
分娩監視装置使用時間				⇔			⇔	⇔		⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔									
CTGのレベル分類				1		1		1		1		1		1		1	3										
実施した ケア等 の内容	内診			✓						✓				✓			✓										
	ドップラー聴取			✓						✓				✓			✓										
	点滴管理 ¹⁾				✓	✓			✓							✓	✓	✓	✓								
	バイタルサイン測定			✓			✓	✓			✓	✓		✓	✓	✓	✓	✓	✓								
	産痛緩和 ²⁾				✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓										
	温電法 ³⁾															✓											
	足浴								✓																		
	シャワー浴														✓												
	入浴 ⁴⁾																										
	トイレ歩行				✓			✓							✓	✓				✓							
	食事介助					✓													✓								
	体位交換・歩行のサポート ⁵⁾													✓			✓										
	清拭・更衣																		✓								
	破水・出血の観察／バット交換			✓			✓							✓		✓	✓		✓	✓							
	その他 ⁶⁾																	輪状マッサージ									

※実施したケア内容について、該当する箇所にチェックをいれてください。

- 1) オキシトシン等の滴下管理を含む
- 2) 温電法、足浴、シャワー浴、入浴といったここに掲載されているケア以外の方法（マッサージ等）での産痛緩和を実施した場合にチェック
- 3) ホットバック等を使用した温電法を行った場合にチェック
- 4) 湯舟にお湯をためて入浴した場合にチェック
- 5) 分娩の進行を促進する等を目的として、産婦の体位を調整する、歩行に付き添うなどした場合にチェック
- 6) アロマや酸素投与などのその他の処置やケアを自由記載で記載してください

タイムスタディ（分娩）

1事例目1日目

		6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4	5	
入院																										
児娩出																										
分娩終了（分娩第3期終了）																										
帰室																										
無痛分娩（麻酔導入は★、麻酔期間は⇒）																										
帝王切開の場合は手術の時間を記入																										
経過																										
医師 （産婦人科）	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
	E																									
	F																									
医師 （麻酔科）	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
医師 （小児科・新生児科）	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
助産師	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
	E																									
	F																									
	G																									
看護師	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
准看護師	A																									
	B																									
	C																									
その他	A																									
ベッドサイド以外での分娩監視装置監視者																										
分娩監視装置使用時間																										
CTGのレベル分類																										
実施したケア等の内容	内診	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	ドップラー聴取	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	点滴管理 ¹⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	バイタルサイン測定	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	産痛緩和 ²⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	温電法 ³⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	足浴	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	シャワー浴	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	入浴 ⁴⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	トイレ歩行	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	食事介助	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	体位交換・歩行のサポート ⁵⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	清拭・更衣	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	破水・出血の観察／パット交換	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
その他 ⁶⁾																										

※実施したケア内容について、該当する箇所にチェックをいれてください。
1）オキシトシン等の点滴管理を含む 2）温電法、足浴、シャワー浴、入浴といったここに掲載されているケア以外の方法（マッサージ等）での産痛緩和を実施した場合にチェック 3）ホットパック等を使用した温電法を行った場合にチェック
4）湯舟にお湯をためて入浴した場合にチェック 5）分娩の進行を促進する等を目的として、産婦の体位を調整する、歩行に付き添うなどした場合にチェック 6）アロマや酸素投与などのその他の処置やケアを自由記載で記載してください

タイムスタディ（分娩）

1 事例目 2 日目

		6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4	5	6
入院																										
児娩出																										
分娩終了（分娩第3期終了）																										
帰室																										
無痛分娩（麻酔導入は★、麻酔期間は⇒）																										
帝王切開の場合は手術の時間を記入																										
経過																										
医師 （産婦人科）	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
	E																									
	F																									
医師 （麻酔科）	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
医師 （小児科・新生児科）	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
助産師	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
	E																									
	F																									
	G																									
看護師	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
准看護師	A																									
	B																									
	C																									
その他	A																									
ベッドサイド以外での分娩監視装置監視者																										
分娩監視装置使用時間																										
CTGのレベル分類																										
実施したケア等の内容	内診	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	ドップラー聴取	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	点滴管理 ¹⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	バイタルサイン測定	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	産痛緩和 ²⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	温電法 ³⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	足浴	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	シャワー浴	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	入浴 ⁴⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	トイレ歩行	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	食事介助	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	体位交換・歩行のサポート ⁵⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	清拭・更衣	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	破水・出血の観察／パット交換	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
その他 ⁶⁾																										

※実施したケア内容について、該当する箇所にチェックをいれてください。
1）オキシトシン等の点滴管理を含む 2）温電法、足浴、シャワー浴、入浴といったここに掲載されているケア以外の方法（マッサージ等）での産痛緩和を実施した場合にチェック 3）ホットパック等を使用した温電法を行った場合にチェック
4）湯舟にお湯をためて入浴した場合にチェック 5）分娩の進行を促進する等を目的として、産婦の体位を調整する、歩行に付き添うなどした場合にチェック 6）アロマや酸素投与などのその他の処置やケアを自由記載で記載してください

タイムスタディ（分娩）

1事例目3日目

		6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4	5	6
入院																										
児娩出																										
分娩終了（分娩第3期終了）																										
帰室																										
無痛分娩（麻酔導入は★、麻酔期間は⇒）																										
帝王切開の場合は手術の時間を記入																										
経過																										
医師 （産婦人科）	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
	E																									
	F																									
医師 （麻酔科）	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
医師 （小児科・新生児科）	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
助産師	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
	E																									
	F																									
	G																									
看護師	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
准看護師	A																									
	B																									
	C																									
その他	A																									
ベッドサイド以外での分娩監視装置監視者																										
分娩監視装置使用時間																										
CTGのレベル分類																										
実施したケア等の内容	内診	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	ドップラー聴取	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	点滴管理 ¹⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	バイタルサイン測定	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	産痛緩和 ²⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	温電法 ³⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	足浴	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	シャワー浴	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	入浴 ⁴⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	トイレ歩行	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	食事介助	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	体位交換・歩行のサポート ⁵⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	清拭・更衣	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	破水・出血の観察／パット交換	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
その他 ⁶⁾																										

※実施したケア内容について、該当する箇所にチェックをいれてください。
1）オキシトシン等の点滴管理を含む 2）温電法、足浴、シャワー浴、入浴といったここに掲載されているケア以外の方法（マッサージ等）での産痛緩和を実施した場合にチェック 3）ホットパック等を使用した温電法を行った場合にチェック
4）湯舟にお湯をためて入浴した場合にチェック 5）分娩の進行を促進する等を目的として、産婦の体位を調整する、歩行に付き添うなどした場合にチェック 6）アロマや酸素投与などのその他の処置やケアを自由記載で記載してください

タイムスタディ（分娩）

2事例目

1日目

		6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4	5	6
入院																										
児娩出																										
分娩終了（分娩第3期終了）																										
帰室																										
無痛分娩（麻酔導入は★、麻酔期間は⇒）																										
帝王切開の場合は手術の時間を記入																										
経過																										
医師 （産婦人科）	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
	E																									
	F																									
医師 （麻酔科）	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
医師 （小児科・新生児科）	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
助産師	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
	E																									
	F																									
	G																									
看護師	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
准看護師	A																									
	B																									
	C																									
その他	A																									
ベッドサイド以外での分娩監視装置監視者																										
分娩監視装置使用時間																										
CTGのレベル分類																										
実施したケア等の内容	内診	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	トッブラー聴取	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	点滴管理 ¹⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	バイタルサイン測定	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	産痛緩和 ²⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	温電法 ³⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	足浴	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	シャワー浴	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	入浴 ⁴⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	トイレ歩行	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	食事介助	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	体位交換・歩行のサポート ⁵⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	清拭・更衣	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	破水・出血の観察／パット交換	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	その他 ⁶⁾																									

※実施したケア内容について、該当する箇所にチェックをいれてください。

1）オキシトシン等の点滴管理を含む 2）温電法、足浴、シャワー浴、入浴といったここに掲載されているケア以外の方法（マッサージ等）での産痛緩和を実施した場合にチェック 3）ホットパック等を使用した温電法を行った場合にチェック

4）湯舟にお湯をためて入浴した場合にチェック 5）分娩の進行を促進する等を目的として、産婦の体位を調整する、歩行に付き添うなどした場合にチェック 6）アロマや酸素投与などのその他の処置やケアを自由記載で記載してください

タイムスタディ（分娩） **2事例目** **2日目**

[illegible]

※実施したケア内容について、該当する箇所にチェックをいれてください。

1) オキシトシン等の滴下管理を含む 2) 温罨法、足浴、シャワー浴、入浴といったここに掲載されているケア以外の方法（マッサージ等）での産痛緩和を実施した場合にチェック 3) ホットパック等を使用した温罨法を行った場合にチェック

4) 湯舟にお湯をためて入浴した場合にチェック 5) 分娩の進行を促進する等を目的として、産婦の体位を調整する、歩行に付き添うなどした場合にチェック 6) アロマや酸素投与などのその他の処置やケアを自由記載で記載してください

タイムスタディ（分娩）

2事例目

3日目

		6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4	5	6
入院																										
児娩出																										
分娩終了（分娩第3期終了）																										
帰室																										
無痛分娩（麻酔導入は★、麻酔期間は⇒）																										
帝王切開の場合は手術の時間を記入																										
経過																										
医師 （産婦人科）	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
	E																									
	F																									
医師 （麻酔科）	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
医師 （小児科・新生児科）	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
助産師	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
	E																									
	F																									
	G																									
看護師	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
准看護師	A																									
	B																									
	C																									
その他	A																									
ベッドサイド以外での分娩監視装置監視者																										
分娩監視装置使用時間																										
CTGのレベル分類																										
実施したケア等の内容	内診	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	ドップラー聴取	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	点滴管理 ¹⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	バイタルサイン測定	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	産痛緩和 ²⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	温電法 ³⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	足浴	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	シャワー浴	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	入浴 ⁴⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	トイレ歩行	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	食事介助	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	体位交換・歩行のサポート ⁵⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	清拭・更衣	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	破水・出血の観察／パット交換	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
その他 ⁶⁾																										

※実施したケア内容について、該当する箇所にチェックをいれてください。
1）オキシトシン等の点滴管理を含む 2）温電法、足浴、シャワー浴、入浴といったここに掲載されているケア以外の方法（マッサージ等）での産痛緩和を実施した場合にチェック 3）ホットパック等を使用した温電法を行った場合にチェック
4）湯舟にお湯をためて入浴した場合にチェック 5）分娩の進行を促進する等を目的として、産婦の体位を調整する、歩行に付き添うなどした場合にチェック 6）アロマや酸素投与などのその他の処置やケアを自由記載で記載してください

タイムスタディ（分娩）

3事例目1日目

		6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4	5	
入院																										
児娩出																										
分娩終了（分娩第3期終了）																										
帰室																										
無痛分娩（麻酔導入は★、麻酔期間は⇒）																										
帝王切開の場合は手術の時間を記入																										
経過																										
医師 （産婦人科）	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
	E																									
	F																									
医師 （麻酔科）	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
医師 （小児科・新生児科）	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
助産師	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
	E																									
	F																									
	G																									
看護師	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
准看護師	A																									
	B																									
	C																									
その他	A																									
ベッドサイド以外での分娩監視装置監視者																										
分娩監視装置使用時間																										
CTGのレベル分類																										
実施したケア等の内容	内診	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	ドップラー聴取	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	点滴管理 ¹⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	バイタルサイン測定	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	産痛緩和 ²⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	温電法 ³⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐															

※実施したケア内容について、該当する箇所にチェックをいれてください。
1）オキシトシン等の点滴管理を含む 2）温電法、足浴、シャワー浴、入浴といったここに掲載されているケア以外の方法（マッサージ等）での産痛緩和を実施した場合にチェック 3）ホットパック等を使用した温電法を行った場合にチェック
4）湯舟にお湯をためて入浴した場合にチェック 5）分娩の進行を促進する等を目的として、産婦の体位を調整する、歩行に付き添うなどした場合にチェック 6）アロマや酸素投与などのその他の処置やケアを自由記載で記載してください

タイムスタディ（分娩）

3事例目2日目

		6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4	5	6
入院																										
児娩出																										
分娩終了（分娩第3期終了）																										
帰室																										
無痛分娩（麻酔導入は★、麻酔期間は⇒）																										
帝王切開の場合は手術の時間を記入																										
経過																										
医師 （産婦人科）	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
	E																									
	F																									
医師 （麻酔科）	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
医師 （小児科・新生児科）	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
助産師	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
	E																									
	F																									
	G																									
看護師	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
准看護師	A																									
	B																									
	C																									
その他	A																									
ベッドサイド以外での分娩監視装置監視者																										
分娩監視装置使用時間																										
CTGのレベル分類																										
実施したケア等の内容	内診	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	ドップラー聴取	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	点滴管理 ¹⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	バイタルサイン測定	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	産痛緩和 ²⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	温電法 ³⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	足浴	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	シャワー浴	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	入浴 ⁴⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	トイレ歩行	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	食事介助	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	体位交換・歩行のサポート ⁵⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	清拭・更衣	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐				

※実施したケア内容について、該当する箇所にチェックをいれてください。
1）オキシトシン等の点滴管理を含む 2）温電法、足浴、シャワー浴、入浴といったここに掲載されているケア以外の方法（マッサージ等）での産痛緩和を実施した場合にチェック 3）ホットパック等を使用した温電法を行った場合にチェック
4）湯舟にお湯をためて入浴した場合にチェック 5）分娩の進行を促進する等を目的として、産婦の体位を調整する、歩行に付き添うなどした場合にチェック 6）アロマや酸素投与などのその他の処置やケアを自由記載で記載してください

タイムスタディ（分娩）

3事例目3日目

		6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4	5	
入院																										
児娩出																										
分娩終了（分娩第3期終了）																										
帰室																										
無痛分娩（麻酔導入は★、麻酔期間は⇒）																										
帝王切開の場合は手術の時間を記入																										
経過																										
医師 （産婦人科）	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
	E																									
	F																									
医師 （麻酔科）	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
医師 （小児科・新生児科）	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
助産師	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
	E																									
	F																									
	G																									
看護師	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
准看護師	A																									
	B																									
	C																									
その他	A																									
ベッドサイド以外での分娩監視装置監視者																										
分娩監視装置使用時間																										
CTGのレベル分類																										
実施したケア等の内容	内診	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	ドップラー聴取	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	点滴管理 ¹⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	バイタルサイン測定	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	産痛緩和 ²⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	温電法 ³⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	足浴	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	シャワー浴	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	入浴 ⁴⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	トイレ歩行	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	食事介助	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	体位交換・歩行のサポート ⁵⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	清拭・更衣	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	破水・出血の観察／パット交換	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
その他 ⁶⁾																										

※実施したケア内容について、該当する箇所にチェックをいれてください。
1）オキシトシン等の点滴管理を含む 2）温電法、足浴、シャワー浴、入浴といったここに掲載されているケア以外の方法（マッサージ等）での産痛緩和を実施した場合にチェック 3）ホットパック等を使用した温電法を行った場合にチェック
4）湯舟にお湯をためて入浴した場合にチェック 5）分娩の進行を促進する等を目的として、産婦の体位を調整する、歩行に付き添うなどした場合にチェック 6）アロマや酸素投与などのその他の処置やケアを自由記載で記載してください

4. 収益等（病院）

(1) 基本データ

① 直近の2事業年（度）（個人立以外の病院のみ記入してください。）

令和5年3月末までに終了した事業年（度）	令和	年	月	～	令和	年	月
令和6年3月末までに終了した事業年（度）	令和	年	月	～	令和	年	月

※個人立の場合は、令和4年1月1日から令和4年12月31日まで及び令和5年1月1日から令和5年12月31日までの期間が直近の2事業年（度）となるため、記入の必要はありません。

② 貴院の活動状況（令和6年3月31日現在、該当する番号に○を付けてください。）

1.直近の2事業年（度）の間及び現在、活動している

2.その他（直近の2事業年（度）の途中で開設、現在は休止、廃止等）

※回答が「2」の場合は、ここでこれ以降の調査は終了となります。このまま本調査票をご返送ください。

③ 貴院の開設者が保有する施設の状況（令和6年3月31日現在、該当する番号に○を付けてください。）

1.調査対象病院のみ保有している

2.調査対象病院以外の施設（病院、診療所、介護保険施設等）も保有している

④ 病床の状況（許可病床数を記入してください。0の場合は0を記入してください。）

	一般病床	療養病床	精神科病床	結核病床	感染症病床	合 計
令和5年3月末までに終了した事業（度）の末日時点	床	床	床	床	床	床
（うち） 介護療養型医療施設分		床	床			床
令和6年3月末までに終了した事業（度）の末日時点	床	床	床	床	床	床
（うち） 介護療養型医療施設分		床	床			床

⑤ 消費税の経理方式（該当する番号に○を付けてください。）

1.税込

2.税抜

※次頁以降で記入していただく金額等は、ここで選択した経理方式に従って記入してください。

(2) 損益

※産婦人科部門の損益について、病院全体と分けて会計処理されている医療機関においては、（産婦人科部門）欄も併せて記載いただきますよう、ご協力をお願いいたします。

- 直近の2事業年（度）それぞれの収益及び費用の額を記入してください。
○個人立病院は、令和4年1月1日から令和4年12月31日まで及び令和5年1月1日から令和5年12月31日までの期間が直近の2事業年（度）となります。
○法人全体で包括して経理を行っているような場合でも、調査対象となった病院分のみを推計して記入してください。
○数字を記入する欄が0の場合は「0」を必ず記入してください。

① 医業収益

科 目		金額（令和5年3月末までの事業年（度））					金額（令和6年3月末までの事業年（度））				
		億	百万	千	円		億	百万	千	円	
1 入院診療収益	1-1.保険診療収益（患者負担含む）										
	1-2.公害等診療収益										
	1-3.その他の診療収益										
2 特別の療養環境収益											
3 外来診療収益	3-1.保険診療収益（患者負担含む）										
	3-2.公害等診療収益										
	3-3.他の診療収益										
4 その他の医業収益											
医業収益合計											

(産婦人科部門)

科 目		金額（令和5年3月末までの事業年（度））					金額（令和6年3月末までの事業年（度））				
		億	百万	千	円		億	百万	千	円	
1 入院診療収益	1-1.保険診療収益（患者負担含む）										
	1-2.公害等診療収益										
	1-3.その他の診療収益										
2 特別の療養環境収益											
3 外来診療収益	3-1.保険診療収益（患者負担含む）										
	3-2.公害等診療収益										
	3-3.他の診療収益										
4 その他の医業収益											
医業収益合計											

② 介護収益

病院としての介護保険事業を実施の有無（該当する番号に○を付けてください。）

1.実施している

2.実施していない

※病院として介護保険事業を実施している場合（「1」を選択）、収益を下記の表に記入してください。

科 目		金額（令和5年3月末までの事業年（度））					金額（令和6年3月末までの事業年（度））				
		億	百万	千	円		億	百万	千	円	
1 介護収益合計											

③ 医業・介護費用
【病院全体】

科 目	金額（令和５年３月末までの事業年（度））					金額（令和６年３月末までの事業年（度））				
	億	百万	千		円	億	百万	千		円
1 材料費((a)~(c))の合計										
1-1.医薬品費a										
1-2.診療材料費・医療消耗器具備品費b										
1-2-1.（うち）特定保険医療材料費（※１）										
1-3.給食用材料費c										
2 給与費										
2-1.（うち）通勤手当										
2-2.（うち）法定福利費										
3 委託費										
3-1.（うち）給食委託費										
3-2.（うち）人材委託費										
3-2-1.（うち）紹介手数料										
4 設備関係費										
4-1.（うち）減価償却費										
4-1-1.（うち）建物減価償却費										
4-1-2.（うち）医療機器減価償却費										
4-2（うち）設備機器賃借料										
4-2-1.（うち）医療機器賃借料										
4-3.（うち）土地賃借料										
4-4.（うち）消費税課税対象費用（※１）（設備機器賃借料を除く）										
5 経費（水道光熱費、医業貸倒損失等）										
5-1.（うち）水道光熱費										
5-2.（うち）消費税課税対象費用（※１）（水道光熱費を除く）										
6 その他の医業・介護費用										
6-1.（うち）消費税課税対象費用（※１）										
6-2.（うち）控除対象外消費税等負担額（※２）										
7 医業・介護費用合計										

※１ 特定保険医療材料費、消費税課税対象費用を区分して経理していない等、記入が困難な場合は、「－」を記入してください。
※２ 経理方式が税抜の場合のみ記入してください。

【産婦人科部門】

科 目	金額（令和５年３月末までの事業年（度））					金額（令和６年３月末までの事業年（度））				
	億	百万	千		円	億	百万	千		円
1 材料費((a)~(c))の合計										
1-1.医薬品費a										
1-2.診療材料費・医療消耗器具備品費b										
1-2-1.（うち）特定保険医療材料費（※１）										
1-3.給食用材料費c										
2 給与費										
2-1.（うち）通勤手当										
2-2.（うち）法定福利費										
3 委託費										
3-1.（うち）給食委託費										
3-2.（うち）人材委託費										
3-2-1.（うち）紹介手数料										
4 設備関係費										
4-1.（うち）減価償却費										
4-1-1.（うち）建物減価償却費										
4-1-2.（うち）医療機器減価償却費										
4-2（うち）設備機器賃借料										
4-2-1.（うち）医療機器賃借料										
4-3.（うち）土地賃借料										
4-4.（うち）消費税課税対象費用（※１）（設備機器賃借料を除く）										
5 経費（水道光熱費、医業貸倒損失等）										
5-1.（うち）水道光熱費										
5-2.（うち）消費税課税対象費用（※１）（水道光熱費を除く）										
6 その他の医業・介護費用										
6-1.（うち）消費税課税対象費用（※１）										
6-2.（うち）控除対象外消費税等負担額（※２）										
7 医業・介護費用合計										

※１ 特定保険医療材料費、消費税課税対象費用を区分して経理していない等、記入が困難な場合は、「－」を記入してください。
※２ 経理方式が税抜の場合のみ記入してください。

④ 損益差額

【病院全体】

科 目	金額（令和５年３月末までの事業年（度））				金額（令和６年３月末までの事業年（度））			
	億	百万	千	円	億	百万	千	円
１ 損益差額（医業収益合計＋介護収益合計－医業・介護費用合計）								

【産婦人科部門】

科 目	金額（令和５年３月末までの事業年（度））				金額（令和６年３月末までの事業年（度））			
	億	百万	千	円	億	百万	千	円
１ 損益差額（医業収益合計＋介護収益合計－医業・介護費用合計）								

⑤ その他の収益・その他の費用

【病院全体】

科 目	金額（令和５年３月末までの事業年（度））				金額（令和６年３月末までの事業年（度））			
	億	百万	千	円	億	百万	千	円
１ その他の収益								
１-1.（うち）補助金・負担金等のうち人件費補助・運営費補助（新型コロナウイルス感染症関連及び看護職員等処遇改善事業補助金を除く）								
１-2.（うち）補助金・負担金等のうち設備費補助（新型コロナウイルス感染症関連を除く）								
１-3.（うち）新型コロナウイルス感染症関連の補助金（従業員向けの慰労金を除く）								
１-4.（うち）看護職員等処遇改善事業補助金								
２ その他の費用								

※長期前受金戻入による収益は「（うち）補助金・負担金等のうち設備費補助」の欄に含めて記入してください。

【産婦人科部門】

科 目	金額（令和５年３月末までの事業年（度））				金額（令和６年３月末までの事業年（度））			
	億	百万	千	円	億	百万	千	円
１ その他の収益								
１-1.（うち）補助金・負担金等のうち人件費補助・運営費補助（新型コロナウイルス感染症関連及び看護職員等処遇改善事業補助金を除く）								
１-2.（うち）補助金・負担金等のうち設備費補助（新型コロナウイルス感染症関連を除く）								
１-3.（うち）新型コロナウイルス感染症関連の補助金（従業員向けの慰労金を除く）								
１-4.（うち）看護職員等処遇改善事業補助金								
２ その他の費用								

※長期前受金戻入による収益は「（うち）補助金・負担金等のうち設備費補助」の欄に含めて記入してください。

⑥ 特別利益・特別損失

科 目	金額（令和５年３月末までの事業年（度））				金額（令和６年３月末までの事業年（度））			
	億	百万	千	円	億	百万	千	円
１ 特別利益								
２ 特別損失								

⑦ 総損益差額

科 目	金額（令和５年３月末までの事業年（度））				金額（令和６年３月末までの事業年（度））			
	億	百万	千	円	億	百万	千	円
１ 総損益差額（損益差額＋その他の収益－その他の費用＋特別利益－特別損失）								

⑧ 税金（法人税・住民税）

科 目	金額（令和５年３月末までの事業年（度））				金額（令和６年３月末までの事業年（度））			
	億	百万	千	円	億	百万	千	円
１ 税金（法人税・住民税）合計								

※個人立病院については記入の必要はありません。

⑨ 税引後の総損益差額

科 目	金額（令和５年３月末までの事業年（度））				金額（令和６年３月末までの事業年（度））			
	億	百万	千	円	億	百万	千	円
１ 税引後の総損益差額（総損益差額－税金）								

※個人立病院については記入の必要はありません。

(3) 給与

- 直近の2事業年（度）における、調査対象となった病院で直接業務に従事する**常勤職員**に対して支払った給与の状況について、職種別に記入してください。
個人立病院は、令和4年1月1日から令和4年12月31日まで及び令和5年1月1日から令和5年12月31日までの期間が直近の2事業年（度）となります。
- 各事業年（度）の「延べ人員（人月）」欄に記入する人月数は、各事業年（度）における月別給与支給人員の年（度）間合計です。例えば、2人の職員が在籍し、そのうちの1人が1年間（12ヶ月）従事しており、もう1人が半年間（6ヶ月）だけ従事していた場合には、「延べ従事人月」は18人月となります。
- 数字を記入する欄が0の場合は「0」を必ず記入してください。

① 令和5年3月末までの事業年（度）の常勤職員給料・賞与

常 勤 職 員 （令和5年3月末までの事業年（度））											
職 種	延べ人員（人月）		給 料	億 百 万 千 円			賞 与	億 百 万 千 円			
	人	月									
1 病院長（個人立の開設者本人を除く）											
2 医 師											
2-1.産婦人科医師											
2-2.小児科医師											
2-3.麻酔科医師											
3 歯科医師											
4 薬剤師											
5 助産師											
6 看護職員（助産師除く）											
7 看護補助職員											
8 医療技術員											
9 歯科衛生士											
10 歯科技工士											
11 事務職員（上記の職種に従事している者を除く）											
12 その他の職員											
13 役員（上記の職種に従事している者を除く）											
14 合 計											

② 令和6年3月末までの事業年（度）の常勤職員給料・賞与

常 勤 職 員 （令和6年3月末までの事業年（度））												
職 種	延べ人員（人月）		給 料	億 百 万 千 円				賞 与	億 百 万 千 円			
	人	月					円					円
1 病院長（個人立の開設者本人を除く）												
2 医 師												
2-1.産婦人科医師												
2-2.小児科医師												
2-3.麻酔科医師												
3 歯科医師												
4 薬剤師												
5 助産師												
6 看護職員（助産師除く）												
7 看護補助職員												
8 医療技術員												
9 歯科衛生士												
10 歯科技工士												
11 事務職員（上記の職種に従事している者を除く）												
12 その他の職員												
13 役員（上記の職種に従事している者を除く）												
14 合 計												

分俸手当がある場合は、1分俸あたりの分俸手当の金額を記入ください。

円

(4) 資産・負債

- 直近の2事業年（度）の末日における資産及び負債の額を記入してください。個人立病院は、令和4年12月31日及び令和5年12月31日が直近の2事業年（度）の末日となります。
- 法人全体で包括して貸借対照表が作成されているような場合には、面積、病床数、従事者数の割合など、調査対象となった病院分の実態を最も適切に反映していると思われる係数で按分し、調査対象となった病院分の金額を記入してください。
- 数字を記入する欄が0の場合は「0」を必ず記入してください。

① 資 産 の 部

科 目	金額（令和5年3月末までの事業年（度））				金額（令和6年3月末までの事業年（度））			
	億	百万	千	円	億	百万	千	円
1 流動資産								
2 固定資産								
3 繰延資産								
4 資 産 合 計								

② 負 債 の 部

科 目	金額（令和5年3月末までの事業年（度））				金額（令和6年3月末までの事業年（度））			
	億	百万	千	円	億	百万	千	円
5 流動負債								
6 固定負債								
6-1.（うち）長期借入金								
7 負 債 合 計								

(5) キャッシュフロー

① 「キャッシュ・フロー計算書」を作成している病院

- 「キャッシュ・フロー計算書」を作成している病院は記入してください。
- 直近の2事業年（度）それぞれのキャッシュ・フローの額を記入してください。
個人立病院は、令和4年1月1日から令和4年12月31日まで及び令和5年1月1日から令和5年12月31日までの期間が直近の2事業年（度）となります。
- 法人全体で包括してキャッシュ・フロー計算書が作成されているような場合には、収益額、面積、病床数、従事者数の割合など、調査対象となった病院分の実態を最も適切に反映していると思われる係数で按分し、調査対象となった病院分の金額を記入してください。
- 数字を記入する欄が0の場合は「0」を必ず記入してください。金額がマイナスになる場合は「－」を付してください。

科 目	金額（令和5年3月末までの事業年（度））							金額（令和6年3月末までの事業年（度））						
		億	百万		千		円		億	百万		千		円
1 業務活動によるキャッシュ・フロー														
2 投資活動によるキャッシュ・フロー														
3 財務活動によるキャッシュ・フロー														
3-1.（うち）短期借入れによる収入														
3-2.（うち）長期借入れによる収入														
3-3.（うち）短期借入金の返済による支出														
3-4.（うち）長期借入金の返済による支出														
4 現金等の増加額（又は減少額）														
5 現金等の期首残高														
6 現金等の期末残高														

② 「キャッシュ・フロー計算書」を作成していない病院

- 「キャッシュ・フロー計算書」を作成していない病院は下記の項目のみ記入してください。
- 直近の2事業年（度）それぞれの金額を記入してください。
- 個人立病院については記入の必要はありません。
- 数字を記入する欄が0の場合は「0」を必ず記入してください。

科 目	金額（令和5年3月末までの事業年（度））							金額（令和6年3月末までの事業年（度））						
		億	百万		千		円		億	百万		千		円
1 短期借入れによる収入														
2 長期借入れによる収入														
3 短期借入金の返済による支出														
4 長期借入金の返済による支出														

(6) 設備投資額

- 直近の2事業年（度）中に新規に取得した資産にかかる取得価額を記入してください。
個人立病院は、令和4年1月1日から令和4年12月31日まで及び令和5年1月1日から令和5年12月31日までの期間が直近の2事業年（度）となります。
- 上記の金額のうち、直近の2事業年（度）中に新規にリース契約を締結した場合には、当該設備の取得価額（リース期間中のリース料総額）を「（うち）リース分」の欄に記入してください。ただし、固定資産に計上されているものに限りです。
- 数字を記入する欄が0の場合は「0」を必ず記入してください。

① 設備投資額

科 目	金額（令和5年3月末までの事業年（度））							金額（令和6年3月末までの事業年（度））						
		億	百万		千		円		億	百万		千		円
1 設備投資額（土地を含む）														
1-1.（うち）建物（建物附属設備を含み、土地を除く）														
1-2.（うち）医療機器														
1-2-1.（うち）リース分														
1-3.（うち）調剤用機器														
1-3-1.（うち）リース分														
1-4.（うち）医療情報システム用機器														
1-4-1.（うち）リース分														
2 設備投資額のうち消費税課税対象の投資額														

② 医療機器の価格（リース）

※複数ある場合は合計金額を記載ください。

科 目	リース費 金額（令和5年3月末までの事業年（度））							金額（令和6年3月末までの事業年（度））						
		億	百万		千		円		億	百万		千		円
1 分娩台														
2 分娩室用超音波画像診断装置台														
3 集中監視システム機器														
4 分娩監視装置台														
5 保育器（開放式）（インファントウォーマー）														

③医療機器の価格（購入価格と購入時期）

科 目	金額（令和5年3月末までの事業年（度））							金額（令和6年3月末までの事業年（度））						
		億	百万		千		円		億	百万		千		円
1 分娩台														
2 分娩室用超音波画像診断装置台														
3 集中監視システム機器														
4 分娩監視装置台														
5 保育器（開放式）（インファントウォーマー）														

購入時期 ※西暦	
	年
	年
	年
	年
	年

分娩取扱施設における出産に係る費用構造の把握のための調査研究 調査票（A 票）

ID

パスワード

1. 分娩取扱施設の基本情報

令和6年9月1日時点

		回答欄	留意点等
1	施設名	ふりがな	名称をお書きください。
2		漢字	
3	施設所在地	郵便番号	貴施設の所在地をお書きください。
4		都道府県	
5		市区町村	
6		上記以下	
7	回答担当者氏名	ふりがな	ご回答いただいている担当の方のお名前、所属部署、電話番号、メールアドレスをお書きください。調査票に関してご連絡を差し上げることがあります。
8		漢字	
9	回答担当者所属部署		
10	回答担当者電話番号		
11	回答担当者メールアドレス		
12	設置主体（いずれか1つ選択）	1.国立（国、独立行政法人国立病院機構、独立行政法人労働者健康安全機構、国立高度専門医療研究センター、独立行政法人地域医療機能推進機構） 2.公立（都道府県、市町村、地方独立行政法人） 3.公的（日赤、済生会、北海道社会事業協会、厚生連、国民健康保険団体連合会） 4.社会保険関係（健康保険組合及びその連合会、共済組合及びの連合会、国民健康保険組合） 5.医療法人（社会医療法人は含まない） 6.その他の法人（公益法人、学校法人、社会福祉法人、医療生協、会社、社会医療法人等、その他法人） 7.個人	貴院の設置主体を選択してください。
13	周産期救急情報システムへの参加の有無（いずれか1つ選択）	1.直接活用 2.直接活用していないがコーディネーターを通して活用 3.システムが無い	貴施設の所在する都道府県の「周産期救急情報システム（周産期医療情報センターが運営する病床の空床状況や重症例や産科合併症以外の合併症による母体救急患者の受入れ可能状況等の情報収集、情報提供を行うシステム）」について、活用状況を選択してください。空床状況等の情報に直接アクセスして活用している場合は1を選択してください。情報システムに直接アクセスしていないが搬送コーディネーター等の調整者を通して活用している場合は2を選択してください。周産期救急情報システムは活用していない場合は3を選択してください。

2. 診療所票

令和6年9月1日時点

(1) 構造設備

		回答欄	
1	総病床数		床
2	妊産婦が入院する部屋が全室個室の場合は「はい」を選択してください。	1.はい 2.いいえ	
3	部屋の構成とその室料差額について病床数とその入院料 + 室料差額の金額を記載してください。 病床数が多い順に記載してください。	個室（パターン1）	床
4		一日あたりの料金	円
5		個室（パターン2）	床
6		一日あたりの料金	円
7		個室（パターン3）	床
8		一日あたりの料金	円
9		個室（パターン4）	床
10		一日あたりの料金	円
11		個室（パターン5）	床
12		一日あたりの料金	円
13		2床室（パターン1）	床
14		一日あたりの料金	円
15		2床室（パターン2）	床
16		一日あたりの料金	円
17		3床室（パターン1）	床
18		一日あたりの料金	円
19		3床室（パターン2）	床
20		一日あたりの料金	円
21		4床室（パターン1）	床
22		一日あたりの料金	円
23		4床室（パターン2）	床
24		一日あたりの料金	円
25		5床室（パターン1）	床
26		一日あたりの料金	円
27	5床室（パターン2）	床	
28	一日あたりの料金	円	
29	6床室（パターン1）	床	
30	一日あたりの料金	円	
31	6床室（パターン2）	床	
32	一日あたりの料金	円	
33	（ ）床室※	床	
34	一日あたりの料金	円	
35	分娩室数		室
36	分娩台数		台
37	L D R 室数		室

留意点等

妊産婦が同時に入院可能な最大病床数を記載してください。（分娩を伴わない入院（例：切迫早産、重症妊娠悪阻等）を含みます。）妊産婦が入院可能とは、助産師、看護師、産科医師等の配置がなされており、十分な産科診療を行う事ができることをいいます。

個室（特別室など含）、2床室、3～4床室、その他（5床室以上）に自費入院する際の、入院料+室料差額を記載してください。
注1：室料差額が入院料に包括されている場合で、各部屋毎に入院料が異なる場合には、入院料を記載してください。
注2：妊産婦の家族等が入院できる場合でも、妊産婦1名が対象となる場合は個室の欄に記載してください。

※上記に当てはまらない場合は33に記載してください。例 （8）床室。
※分娩棟・LDR棟について記載する場合は、その利用料を個室の欄に記載してください。

貴施設で分娩室として使用している部屋数をお書きください。（LDR室・陣痛室は除きます。）

分娩を行う分娩台の数をお書きください。

陣痛室・分娩室・回復室が一体となった個室であるLDR（Labor Delivery Recovery）の室数を記載してください。（分娩室・陣痛室は除きます）

		回答欄	
38	陣痛室数		室
39	分娩室用超音波画像診断装置数		台
40	集中監視システム機器	1.有 2.無	
41	分娩監視装置閲覧モニターの設置場所をすべて記載してください。例) 医師当直室、ナースステーションなど		
42	分娩監視装置台数		台
43	保育器（開放式）（インファントウォーマー）		台
44	新生児室のベッド数		床
45	新生児の管理方法（いずれか1つ選択）	1.母子同室が多い 2.母子同室と新生児室管理併用 3.新生児室管理が多い	

留意点等

病室以外で分娩第一期を過ごす部屋（分娩室・LDR室除く）数をお書きください。

分娩室・LDR室・陣痛室のいずれかに分娩室専用の超音波診断装置を有している場合にはその台数を記載してください。
※外来や入院病棟においてある超音波診断装置を併用している場合は無を選択してください。
※壊れているなど、使用できない装置は計上しないでください。

分娩進行等の把握を目的とした集中監視システム機器を使用している場合は有を選択してください。

分娩の際や分娩以外の目的で入院している妊婦に対して使用可能な分娩監視装置の台数を記載してください。
※作動しない装置は数に計上しないでください。
※外来や救急外来などで使用している装置は数に含めないでください。

分娩の際に使用している新生児ウォーマーの台数を記載してください。
※壊れているなどの場合には数に計上しないでください。

新生児に対して、十分安全に管理可能な新生児室の最大ベッド数を記載してください。

(2) 分娩取扱施設の医療体制

医師数			
46	常勤勤務の週あたりの勤務時間数		時間
47	産婦人科医師数	常勤医師数	人
48		非常勤医師の常勤換算	人
49	産婦人科医師数のうち分娩を取り扱う医師数	常勤医師数	人
50		非常勤医師の常勤換算	人
51	小児科医師数	常勤医師数	人
52		非常勤医師の常勤換算	人
53	麻酔科医師数	常勤医師数	人
54		非常勤医師の常勤換算	人

貴施設で定められている、常勤職員の最低勤務時間数を記載ください。

主に産婦人科診療に従事する常勤医師数（産科及び婦人科診療に従事する医師を含みます。）を記載してください。

主に産婦人科診療に従事する非常勤医師数を常勤換算で記載してください。（産科及び婦人科診療に従事する医師を含みます。）

産婦人科常勤医師数のうち、分娩を取り扱う常勤医師数を記載してください。

産婦人科非常勤医師数のうち、分娩を取り扱う非常勤医師数を記載してください。

主として小児（新生児含）の診療に従事している常勤医師数を記載してください。

主として小児（新生児含）の診療に従事する非常勤医師数を常勤換算で記載してください。

麻酔科診療に従事する常勤医師数を記載してください。主に産婦人科診療に従事する医師（産婦人科医師）は除いてください。

麻酔科診療に従事する非常勤医師数を常勤換算で記載してください。主に産婦人科診療に従事する医師（産婦人科医師）は除いてください。

夜間・休日の体制		夜勤医師	宿直医師
55	平日夜間	産婦人科	
56		小児科（新生児科医含）	
57		麻酔科	
		日勤医師	日直医師
58	祝日休日などの休診日の日中	産婦人科	
59		小児科（新生児科医含）	
60		麻酔科	
		夜勤医師	宿直医師
61	祝日休日などの休診日の夜間	産婦人科	
62		小児科（新生児科医含）	
63		麻酔科	

※宿直医師、日直医師は宿日直許可を得て、宿直又は日直として勤務している医師を指します。
※日勤医師、夜勤医師は宿日直許可を得ず、勤務している医師を指します。
※整数値で回答してください。
※分娩の有無にかかわらず、通常の体制について回答してください。

回答欄			留意点等	
オンコールの人数				
64	夜勤帯及び休日に、分娩において緊急事態が生じた際に、駆けつけることができるように <u>院内に</u> 待機している人数	産婦人科医師		※整数値で入力してください。
65		小児科医師（新生児科医師含）		
66		麻酔科医師		
67		助産師		
68		看護師		
69		その他		
70	夜勤帯及び休日に、分娩において緊急事態が生じた際に、駆けつけることができるように <u>院外に</u> 待機している人数	産婦人科医師		
71		小児科医師（新生児科医師含）		
72		麻酔科医師		
73		助産師		
74		看護師		
75		その他		

職員数（常勤数、非常勤の常勤換算）				
76	薬剤師	常勤		薬剤師であり、主として薬剤師の業務を行っている常勤職員
77		非常勤（常勤換算）		薬剤師であり、主として薬剤師の業務を行っている非常勤職員の常勤換算
78	保健師	常勤		保健師であり、主として保健師の業務を行っている常勤職員
79		非常勤（常勤換算）		保健師であり、主として保健師の業務を行っている非常勤職員の常勤換算
80	助産師	常勤		助産師であり、主として助産師の業務を行っている常勤職員
81		非常勤（常勤換算）		助産師であり、主として助産師の業務を行っている非常勤職員の常勤換算
82	看護師	常勤		看護師であり、主として看護師の業務を行っている常勤職員
83		非常勤（常勤換算）		看護師であり、主として看護師の業務を行っている非常勤職員の常勤換算
84	准看護師	常勤		准看護師であり、主として准看護師の業務を行っている常勤職員
85		非常勤（常勤換算）		准看護師であり、主として准看護師の業務を行っている非常勤職員の常勤換算
86	看護補助者	常勤		看護補助者であり、主として看護補助の業務を行っている常勤職員
87		非常勤（常勤換算）		看護補助者であり、主として看護補助の業務を行っている非常勤職員の常勤換算
88	保育士	常勤		保育士であり、主として保育士の業務を行っている常勤職員
89		非常勤（常勤換算）		保育士であり、主として保育士の業務を行っている非常勤職員の常勤換算
90	管理栄養士	常勤		管理栄養士であり、主として管理栄養士の業務を担当する常勤職員
91		非常勤（常勤換算）		管理栄養士であり、主として管理栄養士の業務を担当する非常勤職員の常勤換算
92	栄養士	常勤		栄養士であり、主として栄養士の業務を担当する常勤職員
93		非常勤（常勤換算）		栄養士であり、主として栄養士の業務を担当する非常勤職員の常勤換算
94	医師事務作業補助者	常勤		医師事務作業補助者であり、主として医師事務作業の補助業務を担当する常勤職員
95		非常勤（常勤換算）		医師事務作業補助者であり、主として医師事務作業の補助業務を担当する非常勤職員の常勤換算
96	公認心理師	常勤		公認心理師であり、主として公認心理師の業務を担当する常勤職員
97		非常勤（常勤換算）		公認心理師であり、主として公認心理師の業務を担当する非常勤職員の常勤換算
98	臨床心理士（公認心理師を除く）	常勤		臨床心理士であり、主として臨床心理士の業務を担当する常勤職員
99		非常勤（常勤換算）		臨床心理士であり、主として臨床心理士の業務を担当する非常勤職員の常勤換算

回答欄				留意点等
100	精神保健福祉士	常勤		精神保健福祉士であり、主として精神保健福祉士の業務を担当する常勤職員
101		非常勤（常勤換算）		
102	(社会福祉士) 医療ソーシャルワーカー	常勤		精神保健福祉士であり、主として精神保健福祉士の業務を担当する非常勤職員の常勤換算
103		非常勤（常勤換算）		
104	その他の職員	常勤		社会福祉士であり、主として社会福祉士の業務を担当する常勤職員
105		非常勤（常勤換算）		
				社会福祉士であり、主として社会福祉士の業務を担当する非常勤職員の常勤換算

(3) 分娩取扱施設の実績（令和6年9月1日～30日の1ヶ月）				
106	全分娩件数（人工妊娠中絶は除く）			件
107	全分娩件数のうち、早産の経膈分娩件数 (37週未満)	a. 鉗子分娩		
108		b. 吸引分娩		
109		c. 上記以外		件
110	全分娩件数のうち、経膈分娩件数 (37週以降)	a. 鉗子分娩		件
111		b. 吸引分娩		件
112		c. 上記以外		件
113	全分娩件数のうち、早産の帝王切開術数 (37週未満)	a. 予定帝王切開術数		件
114		b. 緊急帝王切開術数		件
115	全分娩件数のうち、帝王切開術数(37週以降)	a. 予定帝王切開術数		件
116		b. 緊急帝王切開術数		件
117	全分娩件数のうち、無痛分娩件数（107～116の内数）	a. 硬膜外麻酔		件
118		b. 脊椎くも膜下硬膜外併用麻酔		件
119		c. その他の麻酔		件
120	107～119に当てはまらない分娩			件
121	院内助産の有無		1.有 2.無	
122	全分娩件数のうち院内助産の分娩件数			件
123	出産目的で入院する妊産婦の入院日数として、最も多い入院日数（分娩日を0日として、退院までの日数を記載）	a. 経膈分娩（初産婦）		日
124		b. 経膈分娩（経産婦）		日
125		c. 帝王切開分娩		日

(4) その他			回答欄	留意点等	
126	出産に係る入院時に妊産婦に一律に提供している物品等 (自由記載)			分娩を伴う入院の際に追加料金なく提供している(入院料等に含まれている)物品等を記載してください。 例: 新生児用おむつ、産褥ナプキン等	
127	上記の妊産婦に一律に提供している物品等の合計金額		円		
128	無痛分娩	a.実施	1.有 2.無		
129		b.設定価格			円
130	付帯サービスの種類や有無、価格	お祝い膳	1.有 2.無 3.妊産婦が選択	お祝い膳が標準で提供される場合は有を選択してください。妊婦が要否を選択できる場合には「妊婦が選択」を選択してください。	
131		入院料等の他の料金に含まれている	1.はい 2.いいえ		
132		(前問で2を選択した場合) 設定価格		円	
133		写真撮影	1.有 2.無 3.妊産婦が選択	写真撮影が標準で提供される場合は有を選択してください。妊婦が要否を選択できる場合には「妊婦が選択」を選択してください。	
134		入院料等の他の料金に含まれている	1.はい 2.いいえ		
135		(前問で2を選択した場合) 設定価格		円	
136		足形	1.有 2.無 3.妊産婦が選択	足形が標準で提供される場合は有を選択してください。妊婦が要否を選択できる場合には「妊婦が選択」を選択してください。	
137		入院料等の他の料金に含まれている	1.はい 2.いいえ		
138		(前問で2を選択した場合) 設定価格		円	
139		エステ (※乳房マッサージは除く)	1.有 2.無 3.妊産婦が選択	エステが標準で提供される場合は有を選択してください。妊婦が要否を選択できる場合には「妊婦が選択」を選択してください。	
140		入院料等の他の料金に含まれている	1.はい 2.いいえ		
141		(前問で2を選択した場合) 設定価格			円
142		その他 (自由記載)			
143	胎盤の処理			円	
144	先天性代謝異常等検査	a.実施	1.有 2.無	自施設で実施せず他施設に紹介している場合は「無」を選択してください。	
145		b.設定価格			円
146	新生児聴覚検査	a.実施	1.有 2.無	自施設で実施せず他施設に紹介している場合は「無」を選択してください。	
147		b.設定価格			円
148		c.自治体の補助の有無	1.有 2.無		
149		d. (cで有の場合) 自治体の補助額			円
150	ビタミンK2内服	a.実施	1.有 2.無	自施設で実施せず他施設に紹介している場合は「無」を選択してください。	
151		b.設定価格		円	
152	新生児1か月健診	a.実施	1.有 2.無	自施設で実施せず他施設に紹介している場合は「無」を選択してください。	
153		b.設定価格			円
154		c.自治体の補助の有無	1.有 2.無		
155		d. (cで有の場合) 自治体の補助額			円

3－1．外来概要

令和6年9月1日時点

(1) 外来体制

a.人員配置（常勤職員数＋常勤換算された非常勤職員数）

※病棟と独立して外来に人員配置している場合についてのみご回答ください。病棟に配置されている職員が外来業務を兼務している場合は、病棟票で回答いただいているため、ここでは対象外とします。

		回答欄
1	助産師	
2	看護師	
3	准看護師	
4	看護補助者	
5	医師事務作業補助者	
6	その他の職員	

		留意点等
人		
人		
人		
人		
人		
人		

※ 1 常勤とは、貴施設で定められた勤務時間をすべて勤務する者をいいます。ただし、貴施設で定めた 1 週間の勤務時間が 32 時間未満の場合は、32 時間以上勤務している者を常勤として計上し、その他は非常勤としてください。
※ 2 非常勤とは、貴施設と雇用関係にあつて※ 1 の常勤でない職員としてください。貴院の 1 週間の所定労働時間を基本として、下記のように常勤換算して小数点第一位まで（小数点第二位を四捨五入）をご記入ください。
例 1：1 週間の通常の勤務時間が 40 時間の病院で、週 2 日（各日 3 時間）勤務の看護師が 1 人と、週 3 日（各日 5 時間）勤務の看護師が 2 人いる場合（所定の勤務時間数を超えて行われた時間外勤務は含みません）
非常勤看護師数 = {（2 日×3 時間×1 人）＋（3 日×5 時間×2 人）} ÷40 時間＝0.9 人
なお、非常勤職員が月単位で管理をされている場合には、1 か月の所定労働時間を用いて、1 か月の勤務時間について常勤換算して計上してください。
例 2：1 週間の勤務を28時間としている場合、常勤勤務の看護師が 1 名、週 2 日（各日 4 時間）勤務の看護師が 2 名いる場合、看護師数＝ {（2 8 時間×1 人）＋（2 日×4 時間×2）} ÷32時間＝1.4 人

(2) 外来の状況

1	一日当たりの平均妊婦健診数 （令和6年9月1日～30日の1ヶ月平均）	
2	1のうちの平均助産師外来受診数 （令和6年9月1日～30日の1ヶ月平均）	
3	一日当たりの平均産婦健診数 （令和6年9月1日～30日の1ヶ月平均）	
4	3のうちの平均助産師外来受診数 （令和6年9月1日～30日の1ヶ月平均）	

人	産婦（産褥婦）に対する健診を除きます。妊婦健診数のため、疾病等により保険診療として行ったものは除いてください。
人	産婦（産褥婦）に対する健診を除きます。
人	産婦（産褥婦）に対する健診数を記載ください。産婦健診数のため、疾病等により保険診療として行ったものは除いてください。
人	産婦（産褥婦）に対する健診数を記載ください。

※ 1から4の平均数は、9月1日～30日の総数を、外来実施日数で割った数を、小数点第一位（小数点第二位を四捨五入）で求めてください。
なお、半日の外来の日は0.5として数えてください。
水曜が休診、土曜が午後休診、日曜・祝日が休診の場合、分母は、1×15日＋0.5×4日＝17日（9月16日、23日を祝日としております。）

3－2．補助

(1) 妊婦健診

		回答欄
1	妊婦の初回受診(妊婦健診の対象とならない妊娠確認のための受診)に係る費用の平均額	
2	妊婦の平均的な妊婦健診の受診回数	
3	妊婦の平均的な妊婦健診の費用の合計額	
4	3のうち、自治体の補助を除いた、平均的な妊婦の窓口負担の合計額	
5	3のうち、妊婦健診の望ましい基準に含まれない健診項目の費用の合計額	

		留意点等
円		令和6年9月に分娩された妊婦（多胎は除いてください。また、セミオープンシステムや里帰りなどで途中から貴施設で妊婦健診を受診された方は除いてください。）について、妊婦の初回受診(妊婦健診の対象とならない妊娠確認のための受診)の費用（診察料を含む）の一人当たり平均額をお答えください（小数点以下は四捨五入してください）。 例：分娩された4人について、それぞれ初回受診の費用が8000円、10000円、10000円、14000円だった場合、（8000＋10000＋10000＋14000）/4＝10500円
回		令和6年9月に分娩された妊婦（多胎は除いてください。また、セミオープンシステムや里帰りなどで途中から貴施設で妊婦健診を受診された方は除いてください。）について、妊婦健診として受診した平均的な回数を小数点1桁までお答えください。 例：分娩された4人について、それぞれ妊婦健診の回数が12回、13回、14回、15回だった場合、（12＋13＋14＋15）/4＝13.5回
円		令和6年9月に分娩された妊婦（多胎は除いてください。また、セミオープンシステムや里帰りなどで途中から貴施設で妊婦健診を受診された方は除いてください。）について、妊婦健診の費用（自治体で補助される費用も含みます）の一人当たり平均額をお答えください（小数点以下は四捨五入してください）。 例：分娩された4人について、それぞれ妊婦健診の費用が10万円、11万円、12万円、13万円だった場合、（10＋11＋12＋13）/4＝11.5万円
円		3のうち、自治体の補助を除いた、窓口での妊婦への請求額の平均額をお答えください（小数点以下は四捨五入してください）。
円		3のうち、妊婦健診の望ましい基準に含まれる項目を除いた健診項目の費用の一人当たり平均額をお答えください（小数点以下は四捨五入してください）。

※妊婦健診の望ましい基準

【厚生労働省「妊婦に対する健康診査についての望ましい基準」に示されている項目】

- 1.超音波検査（4回） 2.血液型等の検査（ABO血液型、Rh血液型及び不規則抗体に係るもの） 3.B型肝炎抗原検査
4.C型肝炎抗体検査 5.HIV抗体検査 6.梅毒血清反応検査 7.風疹ウイルス抗体検査 8.血糖検査 9.血算検査
10.HTLV-1抗体検査 11.子宮頸がん検診 12.性器クラミジア検査 13.B群溶血性レンサ球菌検査

3－3．各健診等における内容・費用

(1) 各健診等

a. 妊婦健診において所在地自治体の補助に含まれない検査で、基礎疾患のない一般的な妊婦に対して実施している項目（保険診療を除く）

	項目	費用	回数
1		円	回
2		円	回
3		円	回
4		円	回
5		円	回

例) 超音波検査・血糖検査・血算検査（助成回数を超える分）、トキソプラズマ検査、サイトメガロウイルス検査、麻疹ウイルス抗体検査、NSTなど

b. 妊婦健診以外の妊婦を対象とした診察・ケア（保険診療を除く）

	項目	費用	1か月間の 外来人数
6		円	人
7		円	人
8		円	人

留意点

※ 1 令和6年9月の1か月間の人数

※ 2 胎児超音波外来、ハイリスク外来（多胎、合併症等）、出生前検査に関する外来、周産期麻酔外来など、通常の妊婦健診を行う外来以外の、妊産婦に係る専門的な外来の標準的な費用を記載してください。

※ 3 妊婦健診と同時に行っている場合には、妊婦健診分の費用を除く。

※ 4 妊婦の選択等により、費用が大きく差がある（概ね5,000円以上）場合は、選択数が多い2つを①、②として記載ください。 例 出生前検査に関する外来①、出生前検査に関する外来②

例) NIPTなどの出生前検査、4D超音波など

c. 産婦健診 ※行っていない場合は、空欄としてください。

		産婦健診費用①	自治体の 補助・助成の有無	(1.有の場合) 自治体の補助額② ※所在自治体との委託契約の内容 を基に回答ください	産婦への請求 (①～②)	検査項目 ※該当する番号を全てお書きくだ さい。 1.血圧 2.体重 3.尿検査 4.内診 5.超音波検査 6.採血 7.メンタルヘルスの評価	左記の選択肢にない検査項目
9	分娩後2週間頃	円	1.有 2.無	円	円		
10	分娩後4週間頃	円	1.有 2.無	円	円		
11	その他 (分娩後()週間頃)	円	1.有 2.無	円	円		

d. 産婦健診以外の産婦を対象とした診察・ケア（保険診療・産後ケアを除く）

	項目	費用	1ヶ月間の 外来人数
12		円	人
13		円	人
14		円	人

e. 産後ケア

15	産後ケアの実施の有無		1.有 2.無
16	産後ケアの実施が 有の場合	短期入所型（ショートステイ型）	1.有 2.無
17		通所型（デイサービス型）	1.有 2.無
18		居宅訪問型（アウトリーチ型）	1.有 2.無

	項目※行っていない場合は、空欄としてください。	費用	1ヶ月間の延べ利用者数*	
19	短期入所型（ショートステイ型）	1泊2日	円	人
20	通所型（デイサービス型）	1日	円	人
21		半日	円	人
22	居宅訪問型（アウトリーチ型）	1回	円	人

* 令和6年9月1日から令和6年9月30日の数値をご記入ください。

調査へのご協力ありがとうございました。現在、「妊娠・出産・産後における妊産婦等の支援策等に関する検討会」において、妊娠・出産・産後に関する様々な支援等の更なる強化の方向性について議論が行われています。この議論に関して、ご意見があれば以下に記載をお願いします。

(自由記述欄)

分娩取扱施設における出産に係る費用構造の把握のための調査研究 調査票（B票）

1. 看護職（助産師、看護師、准看護師）の従事時間等

- ※従事時間数は概算での記載でかまいません。複数の業務に従事している場合は主として従事した業務に時間を計上してください。
- ※「ケア」には、合併症のある産婦への投薬や異常分娩の対応等の診療の補助業務も含まれます。
- ※各事項に関する直接のケア以外の対応（記録や電話相談等）に要する時間は、各項目の従事時間に計上してください。
- ※病棟師長等、専ら管理業務に従事する看護職員は回答には含めないようにしてください。

以下の項目については、原則として記載のとおり、1ヶ月間での集計を御願いしたいと思いますが、1ヶ月間での集計が困難である場合は、「9月1日～30日の1ヶ月の」とあるところを「調査票到着日以降の初回の月曜日から日曜日の1週間」と読み替えてご回答ください。その場合、右の欄にチェックを御願います。	☐ 月曜日から日曜日の1週間で回答
---	--

回答欄				留意点等	
1	病棟（ユニット）における、産科の患者の入院割合	9月1日～30日の1か月の割合（概算）		割 時間 時間 時間	9月1日～30日の1か月における、病棟（ユニット）の全入院患者数のうちの産科以外の患者（他科患者）の割合（0～10割）を概算で記載してください。
2	全看護職の総労働時間数	9月1日～30日の1か月の総労働時間数	aからIを足しあげた数値に一致		9月1日～30日の1か月あたりの、全看護職の総労働時間のトータルのべ時間を記載してください。例えば、看護職20名で1日8時間で20日間ずつ従事した場合は、20×8×20＝3200時間 また、この欄の数字は、aからIを足した数値となります。記載の際は必ず一致することを計算してご確認お願いいたします。
3	分娩期のケア	全看護職の分娩期のケアに従事した時間数	a		9月1日～30日の1か月あたりの全看護職の分娩期のケアに従事したのべ時間を積算して記載してください。
4		（うち）助産師が分娩期のケアに従事した時間数	（aのうち）		9月1日～30日の1か月あたりの全助産師の分娩期のケアに従事したのべ時間を積算して記載してください。
5	産褥入院中（新生児含む）のケア（授乳、育児等の保健指導を含む）	全看護職の産褥入院中（新生児含む）のケアに従事した時間数	b	時間 時間	9月1日～30日の1か月あたりの全看護職の産褥入院中（新生児期含む）のケアに従事したのべ時間を積算して記載してください。
6		（うち）助産師が産褥入院中（新生児含む）に従事した時間数	（bのうち）		9月1日～30日の1か月あたりの全助産師の産褥入院中（新生児期含む）のケアに従事したのべ時間を積算して記載してください。
7	入院中の妊婦のケア（妊婦健康診査や保健指導を含む）	全看護職の入院中の妊婦のケアに従事した時間数	c	時間 時間	9月1日～30日の1か月あたりの全看護職の入院中の妊婦のケアに従事したのべ時間を積算して記載してください。
8		（うち）助産師が入院中の妊婦のケアに従事した時間数	（cのうち）		9月1日～30日の1か月あたりの全助産師の入院中の妊婦のケアに従事したのべ時間を積算して記載してください。
9	外来の妊婦のケア（妊婦健康診査や保健指導を含む）	全看護職の外来の妊婦のケアに従事した時間数	d	時間 時間	9月1日～30日の1か月あたりの全看護職の外来の妊婦のケアに従事したのべ時間を積算して記載してください。
10		（うち）助産師が外来の妊婦のケアに従事した時間数	（dのうち）		9月1日～30日の1か月あたりの全助産師の外来の妊婦のケアに従事したのべ時間を積算して記載してください。
11	産婦健康診査（産後1か月までの褥婦と新生児）	実施有無	1.有 2.無	件 時間 時間	9月1日～30日の1か月あたりの実施のべ件数を記載してください。 9月1日～30日の1か月あたりの全看護職の産婦健康診査に従事したのべ時間を積算して記載してください。 9月1日～30日の1か月あたりの全助産師の産婦健康診査に従事したのべ時間を積算して記載してください。
12		9月1日～30日の1か月の実施件数			
13		全看護職の産婦健康診査に従事した時間数	e		
14		（うち）助産師が産婦健康診査に従事した時間数	（eのうち）		
15	妊婦やパートナーを対象とした妊娠期の集団指導（母親学級・両親学級、エクササイズ等）（※市町村からの委託や補助を受けて実施する場合も含む）	実施有無	1.有 2.無	件 時間 時間	9月1日～30日の1か月あたりの実施のべ件数を記載してください。 9月1日～30日の1か月あたりの看護職の妊娠期の集団指導に従事したのべ時間を積算して記載してください。 9月1日～30日の1か月あたりの全助産師の妊娠期の集団指導に従事したのべ時間を積算して記載してください。
16		9月1日～30日の1か月の実施件数			
17		全看護職の妊娠期の集団指導に従事した時間数	f		
18		（うち）助産師が妊娠期の集団指導に従事した時間数	（fのうち）		
19	妊婦への訪問指導（※市町村からの委託や補助を受けて実施する場合も含む）	実施有無	1.有 2.無	件 時間 時間	9月1日～30日の1か月あたりの実施のべ件数を記載してください。 9月1日～30日の1か月あたりの全看護職の産後ケアに従事したのべ時間を積算して記載してください。 9月1日～30日の1か月あたりの全助産師の産後ケアに従事したのべ時間を積算して記載してください。
20		9月1日～30日の1か月の実施件数			
21		全看護職の妊婦への訪問指導に従事した時間数	g		
22		（うち）助産師が妊婦への訪問指導に従事した時間数	（gのうち）		
23	乳児家庭全戸訪問事業（※市町村からの委託や補助を受けて実施するもの）	実施有無	1.有 2.無	件 時間 時間	9月1日～30日の1か月あたりの実施のべ件数を記載してください。 9月1日～30日の1か月あたりの全看護職の乳児家庭全戸訪問事業に従事したのべ時間を積算して記載してください。 9月1日～30日の1か月あたりの全助産師の乳児家庭全戸訪問事業に従事したのべ時間を積算して記載してください。
24		9月1日～30日の1か月の実施件数			
25		全看護職の乳児家庭全戸訪問事業に従事した時間数	h		
26		（うち）助産師が乳児家庭全戸訪問事業に従事した時間数	（hのうち）		
27	褥婦、新生児への訪問指導（※市町村からの委託や補助を受けて実施する場合も含む）	実施有無	1.有 2.無	件 時間 時間	9月1日～30日の1か月あたりの実施のべ件数を記載してください。 9月1日～30日の1か月あたりの全看護職の褥婦、新生児への訪問指導に従事したのべ時間を積算して記載してください。 9月1日～30日の1か月あたりの全助産師の褥婦、新生児への訪問指導に従事したのべ時間を積算して記載してください。
28		9月1日～30日の1か月の実施件数			
29		全看護職の褥婦、新生児への訪問指導に従事した時間数	i		
30		（うち）助産師が褥婦、新生児への訪問指導に従事した時間数	（iのうち）		

回答欄			留意点等		
31	産前・産後サポート事業 (※市町村からの委託や補助を受けて実施するもの)	実施有無	1.有 2.無	件 時間 時間	9月1日～30日の1か月あたりの実施のべ件数を記載してください。 9月1日～30日の1か月あたりの全看護職の産前・産後サポート事業に従事したのべ時間を積算して記載してください。 9月1日～30日の1か月あたりの全助産師の産前・産後サポート事業に従事したのべ時間を積算して記載してください。
32		9月1日～30日の1か月の実施件数			
33		全看護職の産前・産後サポート事業に従事した時間数	j		
34		(うち) 助産師が産前・産後サポート事業に従事した時間数	(jのうち)		
35	産後ケア (※市町村からの委託や補助を受けて実施する産後ケア事業と、自費での産後ケアの双方を含む)	実施有無	1.有 2.無	件 時間 時間	9月1日～30日の1か月あたりの実施のべ件数を記載してください。 9月1日～30日の1か月あたりの全看護職の産後ケアに従事したのべ時間を積算して記載してください。 9月1日～30日の1か月あたりの全助産師の産後ケアに従事したのべ時間を積算して記載してください。
36		9月1日～30日の1か月の実施件数			
37		全看護職の産後ケアに従事した時間数	k		
38		(うち) 助産師が産後ケアに従事した時間数	(kのうち)		
39	その他	実施有無	1.有 2.無	時間	その他の業務内容について自由に記載してください。 例) 他科患者の看護業務等 9月1日～30日の1か月の全看護職のその他の業務に従事したのべ時間を積算して記載してください。
40		その他の業務の内容 (自由記載)			
41		全看護職のその他の業務に従事した時間数	l		

2. 医師の従事時間等

※従事時間数は概算での記載でかまいません。複数の業務に従事している場合は主として従事した業務に時間を計上してください。

※各事項に関する直接の診療以外（記録や電話連絡等）に要する時間は、各項目の従事時間に計上してください。

以下の項目については、原則として記載のとおり、1ヶ月間での集計を御願いしたいと思いますが、1ヶ月間での集計が困難である場合は、「9月1日～30日の1ヶ月の」とあるところを「調査票到着日以降の初回の月曜日から日曜日の1週間」と読み替えてご回答ください。その場合、右の欄にチェックを御願います。		☐ 月曜日から日曜日の1週間で回答	留意点等		
回答欄					
1	分娩期の産婦の診療業務に従事した全医師数	9月1日～30日の1か月に分娩期の産婦の診療業務に従事した全医師数	aからdを足しあげた数値に一致	名 名 名 名 名	9月1日～30日の1か月に分娩期の産婦の診療業務に従事した全医師数（実数）を記載してください。
2		(うち) 産婦人科医師数	a		
3		(うち) 小児科・新生児科医師数	b		
4		(うち) 麻酔科医師数	c		
5		(うち) 上記以外の診療科医師数	d		
6	分娩期の産婦の診療業務に従事した全医師の対応時間数	9月1日～30日の1か月に分娩期の産婦の診療業務に従事した全医師の対応時間数	eからhを足しあげた数値に一致	時間 時間 時間 時間 時間	9月1日～30日の1か月あたりの、全医師の分娩期の産婦の診療業務に従事したのべ時間を積算して記載してください。
7		(うち) 産婦人科医師	e		
8		(うち) 小児科・新生児科医師	f		
9		(うち) 麻酔科医師	g		
10		(うち) 上記以外の診療科医師	h		
11	産褥入院中の褥婦の診療業務に従事した全医師数	9月1日～30日の1か月に産褥期の褥婦の診療業務に従事した全医師数	iからlを足しあげた数値に一致	名 名 名 名	9月1日～30日の1か月に産褥入院中の褥婦の診療業務に従事した全医師数（実数）を記載してください。
12		(うち) 産婦人科医師数	i		
13		(うち) 小児科・新生児科医師数	j		
14		(うち) 麻酔科医師数	k		
15		(うち) 上記以外の診療科医師数	l		
16	産褥入院中の褥婦の診療業務に従事した全医師の対応時間数	9月1日～30日の1か月に産褥期の褥婦の診療業務に従事した全医師の対応時間数	mからpを足しあげた数値に一致	時間 時間 時間 時間 時間	9月1日～30日の1か月あたりの、全医師の産褥期の褥婦の診療業務に従事したのべ時間を積算して記載してください。
17		(うち) 産婦人科医師	m		
18		(うち) 小児科・新生児科医師	n		
19		(うち) 麻酔科医師	o		
20		(うち) 上記以外の診療科医師	p		

3. 患者票

1事例目

産婦の選択の方法：
①本調査票到着日を0日として、7日目（7日目が休日にあたる場合はその次の平日）以降に初めて入院された産婦を**1事例目**として記載をお願いします。
② 1 例目の分娩日（もしくは受け持ち終了）の翌日以降に入院された初めの産婦を**2事例目**として記載をお願いいたします。
③ 2 例目の分娩日（もしくは受け持ち終了）の翌日以降に入院された初めの産婦を**3 事例目**として記載をお願いいたします。
患者票は前向き調査をお願いしています。
指定の年月日にあった入院については、分娩が伴わない場合（前駆陣痛等の自費診療による入院であって、胎動減少等の保険診療を目的とした入院は除く）でもそのまま記載をお願いします。

(1) 産婦の概要

		回答欄		留意点等
1	年齢		歳	対象となる産婦の入院日における年齢を記載してください。
2	産婦の住所	都道府県		里帰りした先の住所ではなく、産婦の居住場所の住所を記載してください。注：札幌市、仙台市、さいたま市、千葉市、横浜市、川崎市、相模原市、新潟市、静岡市、浜松市、名古屋市、京都市、大阪市、堺市、神戸市、岡山市、広島市、北九州市、福岡市、熊本市の場合は、その先の区まで記載してください。
3		市区町村		
4	身長		cm	産婦の身長を記載してください。
5	非妊時体重		kg	産婦の妊娠前の体重を記載してください。
6	妊娠中の体重増加量		kg	入院後計測を行わなかった場合は、直近の妊婦健診での体重を元に記載してください。
7	出産時の妊娠週数		週 日	出産の時の妊娠週数を記載してください。
8	出産経験(いずれか1つ選択)		1.初産 2.経産	
9	在院日数 (入院日及び退院日を含める)		日	入院してから退院までの日数を記載してください。 ※入院日及び退院日も含めてください。 ※例えば前駆陣痛などで一旦退院した場合は、再度入院した日からの日数を記載してください。 ※保険診療、自費診療は関係なく、入院した日数を記載してください。
10	既往歴（自由記載）			
11	産科合併症（HDPやGDMなど） (自由記載)			
12	出生前の胎児異常の診断の有無		1.有 2.無	出生前に心奇形等の診断を受けている場合には有を選択してください。
13	社会的ハイリスクへの該当		1.有 2.無	社会的ハイリスクについては、貴施設の判断で記載ください。

(2) 分娩の概要

14	入院の経緯(いずれか1つ選択)		1.陣痛発来 2.前期破水 3.計画分娩 4.無痛分娩目的 5.その他（ ）	入院となった経緯を記載してください。
15	分娩時間	第 1 期	時間 分	分娩第 1 期の時間を記載してください。
16		第 2 期	時間 分	分娩第 2 期の時間を記載してください。
17		第 3 期	時間 分	分娩第 3 期の時間を記載してください。
18	入院から分娩第 3 期終了までの時間		時間 分	入院から分娩第 3 期終了までの時間を記載してください。
19	第 3 期終了から帰室までの時間		時間 分	第 3 期終了から、入院する病室へ移動するまでの時間を記載してください。

(3) 医療行為

a.分娩時

20	子宮頸管拡張	1.有 2.無	子宮頸管拡張を行った場合は有を選択してください。
21	上記の子宮頸管拡張を行う場合の使用薬剤等 (ラミナリア、ミニトロ、プロウベス等)		複数使用している場合はその名称と使用した個数を記載してください。
22	上記の子宮頸管拡張に係った日数	日	子宮頸管拡張のみを行った日数を記載してください。
23	感染予防の抗菌薬内服	1.有 2.無	
24	感染予防の抗菌薬点滴	1.有 2.無	分娩の際に子宮内感染の予防目的で抗菌薬の点滴を行った場合は有を選択してください。（母体のGBS感染に対する抗菌薬投与は含めません。）
25	血管確保	1.有 2.無	血管確保を行った際には、有を選択してください。
26	陣痛促進	1.有 2.無	陣痛促進を行った際には有を選択してください。
27	陣痛誘発	1.有 2.無	陣痛誘発を行った際には有を選択してください。
28	陣痛促進・誘発時の使用薬剤名		上記の際に使用した薬剤を記載してください。（商品名）
29	会陰切開	1.有 2.無	会陰切開を行った場合は有を選択して下さい。
30	会陰縫合	1.有 2.無	会陰縫合を行った際には有を選択してください。

b.入院中			
31	退院診察	日程	産後()日目
32		内診	1.有 2.無
33		経膣超音波	1.有 2.無
34		採血検査の項目	
35		尿検査	1.有 2.無

留意点等

(4) 入院中の助産ケア

36	母子同室の有無		1.有 2.無
37	授乳指導の回数とかかる時間	平均的な1日あたりの回数	
38		1入院あたりの合計回数	
39		1回あたりの平均的な時間 (個別指導の場合)	
40		1回あたりの平均的な時間 (集団指導の場合)	
41	個別の乳房・乳頭のケア(乳房マッサージ等)	平均的な1日あたりの回数	
42		1入院あたりの合計回数	
43		1回あたりの時間	
44	沐浴指導の回数とかかる時間	1入院あたりの合計回数	
45		1回あたりの平均的な時間 (個別指導の場合)	
46		1回あたりの平均的な時間 (集団指導の場合)	
47	調乳指導の回数とかかる時間	1入院あたりの合計回数	
48		1回あたりの平均的な時間 (個別指導の場合)	
49		1回あたりの平均的な時間 (集団指導の場合)	
50	育児技術に係る指導にかかる時間(延べ時間)		
51	退院指導にかかる時間		
52	上記以外に行っている指導の内容(自由記載)		

複数の助産ケアの項目を一体的に提供した場合は、主たる助産ケアの項目に計上してください。
入院期間中に母子同室がある場合は有を選択してください。
個別指導及び集団指導を含みます。

産後授乳指導の時間の1回あたりの平均時間を記載ください。
集団指導の場合は、1人あたりの指導時間に換算して計上ください。
(例：[集団指導の時間]÷[集団指導の対象人数])

個別指導及び集団指導を含みます。
集団指導の場合は、1人あたりの指導時間に換算して計上ください。
(例：[集団指導の時間]÷[集団指導の対象人数])
個別指導及び集団指導を含みます。
集団指導の場合は、1人あたりの指導時間に換算して計上ください。
(例：[集団指導の時間]÷[集団指導の対象人数])
抱っこ、おむつ・衣類交換、児の健康状態の見方等の育児技術に関する指導を行った合計時間を記載ください。個別指導及び集団指導を含みます。集団指導の場合は、1人あたりの指導時間に換算して計上ください。
(例：[集団指導の時間]÷[集団指導の対象人数])

(5) 付帯サービス

53	付帯サービスの種類と実施の有無	お祝い膳	1.有 2.無
54		写真撮影	1.有 2.無
55		足形	1.有 2.無
56		エステ(※乳房マッサージは除く)	1.有 2.無
57		その他(自由記載)	

(6) 新生児関連

a.新生児の概要

58	出生時の体重		9日	出生時の体重を記載してください。
59	在院日数（出生及び退院日を含める）			出生日から退院日までの日数を記載してください。

b.新生児へ提供した医療等

60	新生児の診察	小児科医による診察日数（入院中に限る）		9日	小児科医師により診察が行われた日数を記載してください。 産科医が新生児を診察した場合には、その日数を記載ください。	
61		産科医による診察日数（入院中に限る）				9日
62	検査等	採血検査の項目	1.有 2.無	9日		
63		黄疸検査	1.有 2.無			
64		出生直後血糖測定対象かどうか	1.対象 2.対象外			
65		SpO2モニター装着（出生直後等）	1.有 2.無			
66		アプニアセンサー装着	1.有 2.無			
67		先天性代謝異常等検査	1.有 2.無			
68		新生児聴覚検査	1.有 2.無			
69		その他新生児へ提供した検査等	(自由記載)			
70	治療等	保育器収容（酸素投与のため）	1.有 2.無	9日		
71		保育器収容（保温のため）	1.有 2.無			
72		光線療法	1.有 2.無			
73		ワクチン接種	1.有 2.無			
74		その他新生児へ提供した治療等	(自由記載)			
75	新生児への処置・ケア（臍処置、沐浴）	臍処置	1.有 2.無	9日		
76		皮膚ケア	1.有 2.無			
77		ビタミンK2内服	1.有 2.無			
78		沐浴・ドライケア（清拭）の回数（入院中に限る）				
79		その他新生児へ提供した処置・ケア	(自由記載)			

(7) 費用

出産育児一時金の直接支払制度の専用請求書への記載内容を記載してください。

80	入院料		円
81	室料差額		円
82	分娩介助料		円
83	分娩料		円
84	新生児管理保育料		円
85	検査・薬剤料		円
86	処置・手当料		円
87	産科医療保障制度の掛金		円
88	その他		円
89	一部負担金等		円
90	産婦合計負担額		円
91	代理受取額		円

3. 患者票

2事例目

産婦の選択の方法：
①本調査票到着日を0日として、7日目（7日目が休日にあたる場合はその次の平日）以降に初めて入院された産婦を**1例目**として記載をお願いします。
② 1 例目の分娩日（もしくは受け持ち終了）の翌日以降に入院された初めの産婦を**2例目**として記載をお願いいたします。
③ 2 例目の分娩日（もしくは受け持ち終了）の翌日以降に入院された初めの産婦を**3例目**として記載をお願いいたします。
患者票は前向き調査をお願いしています。
指定の年月日にあった入院については、分娩が伴わない場合（前駆陣痛等の自費診療による入院であって、胎動減少等の保険診療を目的とした入院は除く）でもそのまま記載をお願いします。

(1) 産婦の概要

		回答欄		留意点等
1	年齢		歳	対象となる産婦の入院日における年齢を記載してください。
2	産婦の住所	都道府県		里帰りした先の住所ではなく、産婦の居住場所の住所を記載してください。注：札幌市、仙台市、さいたま市、千葉市、横浜市、川崎市、相模原市、新潟市、静岡市、浜松市、名古屋市、京都市、大阪市、堺市、神戸市、岡山市、広島市、北九州市、福岡市、熊本市の場合は、その先の区まで記載してください。
3		市区町村		
4	身長		cm	産婦の身長を記載してください。
5	非妊時体重		kg	産婦の妊娠前の体重を記載してください。
6	妊娠中の体重増加量		kg	入院後計測を行わなかった場合は、直近の妊婦健診での体重を元に記載してください。
7	出産時の妊娠週数		週 日	出産の時の妊娠週数を記載してください。
8	出産経験(いずれか1つ選択)		1.初産 2.経産	
9	在院日数 (入院日及び退院日を含める)		日	入院してから退院までの日数を記載してください。 ※入院日及び退院日も含めてください。 ※例えば前駆陣痛などで一旦退院した場合は、再度入院した日からの日数を記載してください。 ※保険診療、自費診療は関係なく、入院した日数を記載してください。
10	既往歴（自由記載）			
11	産科合併症（HDPやGDMなど） (自由記載)			
12	出生前の胎児異常の診断の有無		1.有 2.無	出生前に心奇形等の診断を受けている場合には有を選択してください。
13	社会的ハイリスクへの該当		1.有 2.無	社会的ハイリスクについては、貴施設の判断で記載ください。

(2) 分娩の概要

14	入院の経緯(いずれか1つ選択)		1.陣痛発来 2.前期破水 3.計画分娩 4.無痛分娩目的 5.その他（ ）	入院となった経緯を記載してください。
15	分娩時間	第1期	時間 分	分娩第1期の時間を記載してください。
16		第2期	時間 分	分娩第2期の時間を記載してください。
17		第3期	時間 分	分娩第3期の時間を記載してください。
18	入院から分娩第3期終了までの時間		時間 分	入院から分娩第3期終了までの時間を記載してください。
19	第3期終了から帰室までの時間		時間 分	第3期終了から、入院する病室へ移動するまでの時間を記載してください。

(3) 医療行為

a.分娩時

20	子宮頸管拡張	1.有 2.無	子宮頸管拡張を行った場合は有を選択してください。
21	上記の子宮頸管拡張を行う場合の使用薬剤等 (ラミナリア、ミニトロ、プロウベス等)		複数使用している場合はその名称と使用した個数を記載してください。
22	上記の子宮頸管拡張に係った日数	日	子宮頸管拡張のみを行った日数を記載してください。
23	感染予防の抗菌薬内服	1.有 2.無	
24	感染予防の抗菌薬点滴	1.有 2.無	分娩の際に子宮内感染の予防目的で抗菌薬の点滴を行った場合は有を選択してください。（母体のGBS感染に対する抗菌薬投与は含めません。）
25	血管確保	1.有 2.無	血管確保を行った際には、有を選択してください。
26	陣痛促進	1.有 2.無	陣痛促進を行った際には有を選択してください。
27	陣痛誘発	1.有 2.無	陣痛誘発を行った際には有を選択してください。
28	陣痛促進・誘発時の使用薬剤名		上記の際に使用した薬剤を記載してください。（商品名）
29	会陰切開	1.有 2.無	会陰切開を行った場合は有を選択して下さい。
30	会陰縫合	1.有 2.無	会陰縫合を行った際には有を選択してください。

b.入院中			
31	退院診察	日程	産後()日目
32		内診	1.有 2.無
33		経膣超音波	1.有 2.無
34		採血検査の項目	
35		尿検査	1.有 2.無

留意点等

(4) 入院中の助産ケア

36	母子同室の有無		1.有 2.無
37	授乳指導の回数とかかる時間	平均的な 1 日あたりの回数	
38		1 入院あたりの合計回数	
39		1 回あたりの平均的な時間 (個別指導の場合)	
40		1 回あたりの平均的な時間 (集団指導の場合)	
41	個別の乳房・乳頭のケア (乳房マッサージ等)	平均的な 1 日あたりの回数	
42		1 入院あたりの合計回数	
43		1 回あたりの時間	
44	沐浴指導の回数とかかる時間	1 入院あたりの合計回数	
45		1 回あたりの平均的な時間 (個別指導の場合)	
46		1 回あたりの平均的な時間 (集団指導の場合)	
47	調乳指導の回数とかかる時間	1 入院あたりの合計回数	
48		1 回あたりの平均的な時間 (個別指導の場合)	
49		1 回あたりの平均的な時間 (集団指導の場合)	
50	育児技術に係る指導にかかる時間 (延べ時間)		
51	退院指導にかかる時間		
52	上記以外に行っている指導の内容 (自由記載)		

複数の助産ケアの項目を一体的に提供した場合は、主たる助産ケアの項目に計上してください。
入院期間中に母子同室がある場合は有を選択してください。

個別指導及び集団指導を含みます。

産後授乳指導の時間の 1 回あたりの平均時間を記載ください。
集団指導の場合は、1 人あたりの指導時間に換算して計上ください。
(例：[集団指導の時間] ÷ [集団指導の対象人数])

個別指導及び集団指導を含みます。

集団指導の場合は、1 人あたりの指導時間に換算して計上ください。
(例：[集団指導の時間] ÷ [集団指導の対象人数])

個別指導及び集団指導を含みます。

集団指導の場合は、1 人あたりの指導時間に換算して計上ください。
(例：[集団指導の時間] ÷ [集団指導の対象人数])

抱っこ、おむつ・衣類交換、児の健康状態の見方等の育児技術に関する指導を行った合計時間を記載ください。個別指導及び集団指導を含みます。集団指導の場合は、1 人あたりの指導時間に換算して計上ください。
(例：[集団指導の時間] ÷ [集団指導の対象人数])

(5) 付帯サービス

53	付帯サービスの種類と実施の有無	お祝い膳	1.有 2.無
54		写真撮影	1.有 2.無
55		足形	1.有 2.無
56		エステ (※乳房マッサージは除く)	1.有 2.無
57		その他 (自由記載)	

(6) 新生児関連

a.新生児の概要

回答欄

留意点等

58	出生時の体重		9 日	出生時の体重を記載してください。
59	在院日数（出生及び退院日を含める）			出生日から退院日までの日数を記載してください。

b.新生児へ提供した医療等

60	新生児の診察	小児科医による診察日数（入院中に限る）		9 日	小児科医師により診察が行われた日数を記載してください。 産科医が新生児を診察した場合には、その日数を記載ください。	
61		産科医による診察日数（入院中に限る）				9 日
62	検査等	採血検査の項目	1.有 2.無	9 日		
63		黄疸検査	1.有 2.無			
64		出生直後血糖測定対象かどうか	1.対象 2.対象外			
65		SpO2モニター装着（出生直後等）	1.有 2.無			
66		アプニアセンサー装着	1.有 2.無			
67		先天性代謝異常等検査	1.有 2.無			
68		新生児聴覚検査	1.有 2.無			
69		その他新生児へ提供した検査等	(自由記載)			
70	治療等	保育器収容（酸素投与のため）	1.有 2.無	9 日		
71		保育器収容（保温のため）	1.有 2.無			
72		光線療法	1.有 2.無			
73		ワクチン接種	1.有 2.無			
74		その他新生児へ提供した治療等	(自由記載)			
75	新生児への処置・ケア（臍処置、沐浴）	臍処置	1.有 2.無	9 回		
76		皮膚ケア	1.有 2.無			
77		ビタミンK2内服	1.有 2.無			
78		沐浴・ドライケア（清拭）の回数（入院中に限る）				
79		その他新生児へ提供した処置・ケア	(自由記載)			

(7) 費用

出産育児一時金の直接支払制度の専用請求書への記載内容を記載してください。

80	入院料		円
81	室料差額		円
82	分娩介助料		円
83	分娩料		円
84	新生児管理保育料		円
85	検査・薬剤料		円
86	処置・手当料		円
87	産科医療保障制度の掛金		円
88	その他		円
89	一部負担金等		円
90	産婦合計負担額		円
91	代理受取額		円

3. 患者票

3事例目

産婦の選択の方法：
①本調査票到着日を0日として、7日目（7日目が休日にあたる場合はその次の平日）以降に初めて入院された産婦を**1例目**として記載をお願いします。
② 1 例目の分娩日（もしくは受け持ち終了）の翌日以降に入院された初めの産婦を**2例目**として記載をお願いいたします。
③ 2 例目の分娩日（もしくは受け持ち終了）の翌日以降に入院された初めの産婦を**3例目**として記載をお願いいたします。
患者票は前向き調査をお願いしています。
指定の年月日にあった入院については、分娩が伴わない場合（前駆陣痛等の自費診療による入院であって、胎動減少等の保険診療を目的とした入院は除く）でもそのまま記載をお願いします。

(1) 産婦の概要

		回答欄		留意点等
1	年齢		歳	対象となる産婦の入院日における年齢を記載してください。
2	産婦の住所	都道府県		里帰りした先の住所ではなく、産婦の居住場所の住所を記載してください。注：札幌市、仙台市、さいたま市、千葉市、横浜市、川崎市、相模原市、新潟市、静岡市、浜松市、名古屋市、京都市、大阪市、堺市、神戸市、岡山市、広島市、北九州市、福岡市、熊本市の場合は、その先の区まで記載してください。
3		市区町村		
4	身長		cm	産婦の身長を記載してください。
5	非妊時体重		kg	産婦の妊娠前の体重を記載してください。
6	妊娠中の体重増加量		kg	入院後計測を行わなかった場合は、直近の妊婦健診での体重を元に記載してください。
7	出産時の妊娠週数		週 日	出産の時の妊娠週数を記載してください。
8	出産経験(いずれか1つ選択)		1.初産 2.経産	
9	在院日数 (入院日及び退院日を含める)		日	入院してから退院までの日数を記載してください。 ※入院日及び退院日も含めてください。 ※例えば前駆陣痛などで一旦退院した場合は、再度入院した日からの日数を記載してください。 ※保険診療、自費診療は関係なく、入院した日数を記載してください。
10	既往歴（自由記載）			
11	産科合併症（HDPやGDMなど） (自由記載)			
12	出生前の胎児異常の診断の有無		1.有 2.無	出生前に心奇形等の診断を受けている場合には有を選択してください。
13	社会的ハイリスクへの該当		1.有 2.無	社会的ハイリスクについては、貴施設の判断で記載ください。

(2) 分娩の概要

14	入院の経緯(いずれか1つ選択)		1.陣痛発来 2.前期破水 3.計画分娩 4.無痛分娩目的 5.その他（ ）	入院となった経緯を記載してください。
15	分娩時間	第1期	時間 分	分娩第1期の時間を記載してください。
16		第2期	時間 分	分娩第2期の時間を記載してください。
17		第3期	時間 分	分娩第3期の時間を記載してください。
18	入院から分娩第3期終了までの時間		時間 分	入院から分娩第3期終了までの時間を記載してください。
19	第3期終了から帰室までの時間		時間 分	第3期終了から、入院する病室へ移動するまでの時間を記載してください。

(3) 医療行為

a.分娩時

20	子宮頸管拡張	1.有 2.無	子宮頸管拡張を行った場合は有を選択してください。
21	上記の子宮頸管拡張を行う場合の使用薬剤等 (ラミナリア、ミニトロ、プロウベス等)		複数使用している場合はその名称と使用した個数を記載してください。
22	上記の子宮頸管拡張に係った日数	日	子宮頸管拡張のみを行った日数を記載してください。
23	感染予防の抗菌薬内服	1.有 2.無	
24	感染予防の抗菌薬点滴	1.有 2.無	分娩の際に子宮内感染の予防目的で抗菌薬の点滴を行った場合は有を選択してください。（母体のGBS感染に対する抗菌薬投与は含めません。）
25	血管確保	1.有 2.無	血管確保を行った際には、有を選択してください。
26	陣痛促進	1.有 2.無	陣痛促進を行った際には有を選択してください。
27	陣痛誘発	1.有 2.無	陣痛誘発を行った際には有を選択してください。
28	陣痛促進・誘発時の使用薬剤名		上記の際に使用した薬剤を記載してください。（商品名）
29	会陰切開	1.有 2.無	会陰切開を行った場合は有を選択して下さい。
30	会陰縫合	1.有 2.無	会陰縫合を行った際には有を選択してください。

b.入院中			
31	退院診察	日程	産後()日目
32		内診	1.有 2.無
33		経膣超音波	1.有 2.無
34		採血検査の項目	
35		尿検査	1.有 2.無

留意点等

(4) 入院中の助産ケア

36	母子同室の有無		1.有 2.無
37	授乳指導の回数とかかる時間	平均的な 1 日あたりの回数	
38		1 入院あたりの合計回数	
39		1 回あたりの平均的な時間 (個別指導の場合)	
40		1 回あたりの平均的な時間 (集団指導の場合)	
41	個別の乳房・乳頭のケア (乳房マッサージ等)	平均的な 1 日あたりの回数	
42		1 入院あたりの合計回数	
43		1 回あたりの時間	
44	沐浴指導の回数とかかる時間	1 入院あたりの合計回数	
45		1 回あたりの平均的な時間 (個別指導の場合)	
46		1 回あたりの平均的な時間 (集団指導の場合)	
47	調乳指導の回数とかかる時間	1 入院あたりの合計回数	
48		1 回あたりの平均的な時間 (個別指導の場合)	
49		1 回あたりの平均的な時間 (集団指導の場合)	
50	育児技術に係る指導にかかる時間 (延べ時間)		
51	退院指導にかかる時間		
52	上記以外に行っている指導の内容 (自由記載)		

複数の助産ケアの項目を一体的に提供した場合は、主たる助産ケアの項目に計上してください。
入院期間中に母子同室がある場合は有を選択してください。
個別指導及び集団指導を含みます。

産後授乳指導の時間の 1 回あたりの平均時間を記載ください。
集団指導の場合は、1 人あたりの指導時間に換算して計上ください。
(例：[集団指導の時間] ÷ [集団指導の対象人数])

個別指導及び集団指導を含みます。
集団指導の場合は、1 人あたりの指導時間に換算して計上ください。
(例：[集団指導の時間] ÷ [集団指導の対象人数])
個別指導及び集団指導を含みます。
集団指導の場合は、1 人あたりの指導時間に換算して計上ください。
(例：[集団指導の時間] ÷ [集団指導の対象人数])
抱っこ、おむつ・衣類交換、児の健康状態の見方等の育児技術に関する指導を行った合計時間を記載ください。個別指導及び集団指導を含みます。集団指導の場合は、1 人あたりの指導時間に換算して計上ください。
(例：[集団指導の時間] ÷ [集団指導の対象人数])

(5) 付帯サービス

53	付帯サービスの種類と実施の有無	お祝い膳	1.有 2.無
54		写真撮影	1.有 2.無
55		足形	1.有 2.無
56		エステ (※乳房マッサージは除く)	1.有 2.無
57		その他 (自由記載)	

(6) 新生児関連

a. 新生児の概要

回答欄

留意点等

58	出生時の体重		9日	出生時の体重を記載してください。
59	在院日数（出生及び退院日を含める）			出生日から退院日までの日数を記載してください。

b. 新生児へ提供した医療等

60	新生児の診察	小児科医による診察日数（入院中に限る）		9日	小児科医師により診察が行われた日数を記載してください。 産科医が新生児を診察した場合には、その日数を記載ください。	
61		産科医による診察日数（入院中に限る）				9日
62	検査等	採血検査の項目	1.有 2.無	9日		
63		黄疸検査	1.有 2.無			
64		出生直後血糖測定対象かどうか	1.対象 2.対象外			
65		SpO2モニター装着（出生直後等）	1.有 2.無			
66		アプニアセンサー装着	1.有 2.無			
67		先天性代謝異常等検査	1.有 2.無			
68		新生児聴覚検査	1.有 2.無			
69		その他新生児へ提供した検査等	(自由記載)			
70	治療等	保育器収容（酸素投与のため）	1.有 2.無	9日		
71		保育器収容（保温のため）	1.有 2.無			
72		光線療法	1.有 2.無			
73		ワクチン接種	1.有 2.無			
74		その他新生児へ提供した治療等	(自由記載)			
75	新生児への処置・ケア（臍処置、沐浴）	臍処置	1.有 2.無	9日		
76		皮膚ケア	1.有 2.無			
77		ビタミンK2内服	1.有 2.無			
78		沐浴・ドライケア（清拭）の回数（入院中に限る）				
79		その他新生児へ提供した処置・ケア	(自由記載)			

(7) 費用

出産育児一時金の直接支払制度の専用請求書への記載内容を記載してください。

80	入院料		円
81	室料差額		円
82	分娩介助料		円
83	分娩料		円
84	新生児管理保育料		円
85	検査・薬剤料		円
86	処置・手当料		円
87	産科医療保障制度の掛金		円
88	その他		円
89	一部負担金等		円
90	産婦合計負担額		円
91	代理受取額		円

記載方法：★分娩が複数日にわたる場合はお手数ですが、p15～p17を印刷いただき、記載いただけますと幸いです。

①入院、児娩出、分娩終了、帰室（分娩室やLDRから産婦が入院している部屋に入る時刻）については、該当する時間に●を記載してください。②無痛分娩のタイムスタディの場合には麻酔の導入を行った時刻を★、麻酔を使用していた期間を⇔で記載ください。

③「経過」には、分娩の進行や異常所見の出現等、産婦の経過において契機となる状態が出現した場合に記載をお願いいたします。④医師（産婦人科）、医師（麻酔科）、医師（小児科）、助産師、看護師、准看護師の項目は妊産婦に対面で接していた（診療・看護・助産ケア等していた）時間に⇔を記載ください。

⑤ベッドサイド以外での分娩監視装置監視者の項目に関しては、産婦には接していないが、分娩監視装置のモニターを監視している時間を⇔で表し、監視している者を⇔の上に記載ください。

複数人いる場合は複数記載してください。

⑥分娩監視装置使用時間は妊婦に対して分娩監視装置を使用している時間を⇔で記載ください。⑦「実施したケア等の内容」の欄は、各時間の実施したケアについて該当するものをチェックしてください。該当するケア以外のものを実施した場合は、その内容を「その他」欄にご記入をお願いいたします。

タイムスタディ
(記載例)

		6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4	5	6
入院																										
児娩出																										
分娩終了（分娩第3期終了）																										
帰室																										
無痛分娩（麻酔導入は★、麻酔期間は⇔）																										
帝王切開の場合は手術の時間を記入																										
経過											14:00 破水 羊水±						羊水+、 怒責時遅 発一過性 徐脈あり									
医師 (産婦人科)	A			⇔													⇔	⇔								
	B						⇔																			
	C																⇔	⇔								
	D																⇔	⇔								
	E																									
	F																									
医師 (麻酔科)	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
医師 (小児科・新 生児科)	A																⇔	⇔								
	B																									
	C																									
	D																									
助産師	A			⇔	⇔		⇔	⇔	⇔		⇔						⇔	⇔								
	B				⇔	⇔				⇔																
	C																⇔	⇔								
	D									⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔								
	E											⇔	⇔				⇔	⇔								
	F																		⇔	⇔						
	G																									
看護師	A																⇔	⇔								
	B																									
	C																									
	D																									
准看護師	A																									
	B																									
	C																									
その他	A			医A						医A				医E					助E							
ベッドサイド以外での分娩監視装置監視者				⇔	⇔		助B	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔							
分娩監視装置使用時間				⇔	⇔		⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔
実施した ケア等 の内容	CTGのレベル分類			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3									
	内診	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	ドップラー聴取	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	点滴管理 ¹⁾	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	バイタルサイン測定	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	産痛緩和 ²⁾	☐	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	温電法 ³⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	足浴	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	シャワー浴	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	入浴 ⁴⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	トイレ歩行	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	食事介助	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	体位交換・歩行のサポート ⁵⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	清拭・更衣	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
破水・出血の観察／パット交換	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
その他 ⁶⁾																	輪状マッサージ									

※実施したケア内容について、該当する箇所にチェックをいれてください。

1) オキシトシン等の点滴管理を含む 2) 温電法、足浴、シャワー浴、入浴といったここに掲載されているケア以外の方法（マッサージ等）での産痛緩和を実施した場合にチェック 3) ホットパック等を使用した温電法を行った場合にチェック

4) 湯舟にお湯をためて入浴した場合にチェック 5) 分娩の進行を促進する等を目的として、産婦の体位を調整する、歩行に付き添うなどした場合にチェック 6) アロマや酸素投与などのその他の処置やケアを自由記載で記載してください

タイムスタディ（分娩）

1事例目1日目

		6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4	5	6
入院																										
児娩出																										
分娩終了（分娩第3期終了）																										
帰室																										
無痛分娩（麻酔導入は★、麻酔期間は⇔）																										
帝王切開の場合は手術の時間を記入																										
経過																										
医師 （産婦人科）	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
	E																									
	F																									
医師 （麻酔科）	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
医師 （小児科・新生児科）	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
助産師	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
	E																									
	F																									
	G																									
看護師	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
准看護師	A																									
	B																									
	C																									
その他	A																									
ベッドサイド以外での分娩監視装置監視者																										
分娩監視装置使用時間																										
CTGのレベル分類																										
実施したケア等の内容	内診	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	トコブラー聴取	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	点滴管理 ¹⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	バイタルサイン測定	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	産痛緩和 ²⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	温電法 ³⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	足浴	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	シャワー浴	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	入浴 ⁴⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	トイレ歩行	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	食事介助	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	体位交換・歩行のサポート ⁵⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	清拭・更衣	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	破水・出血の観察／バット交換	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	その他 ⁶⁾																									

※実施したケア内容について、該当する箇所にチェックをいれてください。
1）オキシトシン等の滴下管理を含む 2）温電法、足浴、シャワー浴、入浴といったここに掲載されているケア以外の方法（マッサージ等）での産痛緩和を実施した場合にチェック 3）ホットパック等を使用した温電法を行った場合にチェック
4）湯用にお湯をためて入浴した場合にチェック 5）分娩の進行を促進する等を目的として、産婦の体位を調整する、歩行に付き添うなどした場合にチェック 6）アロマや酸素投与などのその他の処置やケアを自由記載で記載してください

タイムスタディ（分娩）

1事例目2日目

		6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4	5	6
入院																										
児娩出																										
分娩終了（分娩第3期終了）																										
帰室																										
無痛分娩（麻酔導入は★、麻酔期間は↔）																										
帝王切開の場合は手術の時間を記入																										
経過																										
医師 （産婦人科）	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
	E																									
	F																									
医師 （麻酔科）	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
医師 （小児科・ 新生児科）	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
助産師	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
	E																									
	F																									
	G																									
看護師	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
准看護師	A																									
	B																									
	C																									
その他	A																									
ベッドサイド以外での分娩監視装置監視者																										
分娩監視装置使用時間																										
CTGのレベル分類																										
実施したケア等の内容	内診	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	トコブラー聴取	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	点滴管理 ¹⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	バイタルサイン測定	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	産痛緩和 ²⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	温電法 ³⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	足浴	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	シャワー浴	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	入浴 ⁴⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	トイレ歩行	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	食事介助	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	体位交換・歩行のサポート ⁵⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	清拭・更衣	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	破水・出血の観察／パット交換	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
その他 ⁶⁾																										

※実施したケア内容について、該当する箇所にチェックをいれてください。
1）オキシトシン等の滴下管理を含む 2）温電法、足浴、シャワー浴、入浴といったここに掲載されているケア以外の方法（マッサージ等）での産痛緩和を実施した場合にチェック 3）ホットパック等を使用した温電法を行った場合にチェック
4）湯用にお湯をためて入浴した場合にチェック 5）分娩の進行を促進する等を目的として、産婦の体位を調整する、歩行に付き添うなどした場合にチェック 6）アロマや酸素投与などのその他の処置やケアを自由記載で記載してください

タイムスタディ（分娩）

1事例目 3日目

		6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4	5	6
入院																										
児娩出																										
分娩終了（分娩第3期終了）																										
帰室																										
無痛分娩（麻酔導入は★、麻酔期間は⇔）																										
帝王切開の場合は手術の時間を記入																										
経過																										
医師 （産婦人科）	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
	E																									
	F																									
医師 （麻酔科）	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
医師 （小児科・新生児科）	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
助産師	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
	E																									
	F																									
	G																									
看護師	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
准看護師	A																									
	B																									
	C																									
その他	A																									
ベッドサイド以外での分娩監視装置監視者																										
分娩監視装置使用時間																										
CTGのレベル分類																										
実施したケア等の内容	内診	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	トコブラー聴取	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	点滴管理 ¹⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	バイタルサイン測定	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	産痛緩和 ²⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	温電法 ³⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	足浴	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	シャワー浴	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	入浴 ⁴⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	トイレ歩行	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	食事介助	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	体位交換・歩行のサポート ⁵⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	清拭・更衣	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	破水・出血の観察／バット交換	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
その他 ⁶⁾																										

※実施したケア内容について、該当する箇所にチェックをいれてください。
1）オキシトシン等の点滴管理を含む 2）温電法、足浴、シャワー浴、入浴といったここに掲載されているケア以外の方法（マッサージ等）での産痛緩和を実施した場合にチェック 3）ホットパック等を使用した温電法を行った場合にチェック
4）湯用にお湯をためて入浴した場合にチェック 5）分娩の進行を促進する等を目的として、産婦の体位を調整する、歩行に付き添うなどした場合にチェック 6）アロマや酸素投与などのその他の処置やケアを自由記載で記載してください

タイムスタディ（分娩）

2事例目1日目

		6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4	5	6
入院																										
児娩出																										
分娩終了（分娩第3期終了）																										
帰室																										
無痛分娩（麻酔導入は★、麻酔期間は↔）																										
帝王切開の場合は手術の時間を記入																										
経過																										
医師 （産婦人科）	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
	E																									
	F																									
医師 （麻酔科）	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
医師 （小児科・ 新生児科）	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
助産師	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
	E																									
	F																									
	G																									
看護師	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
准看護師	A																									
	B																									
	C																									
その他	A																									
ベッドサイド以外での分娩監視装置監視者																										
分娩監視装置使用時間																										
CTGのレベル分類																										
実施したケア等の内容	内診	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	トコブラー聴取	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	点滴管理 ¹⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	バイタルサイン測定	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	産痛緩和 ²⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	温電法 ³⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	足浴	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	シャワー浴	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	入浴 ⁴⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	トイレ歩行	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	食事介助	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	体位交換・歩行のサポート ⁵⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	清拭・更衣	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	破水・出血の観察／パット交換	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
その他 ⁶⁾																										

※実施したケア内容について、該当する箇所にチェックをいれてください。
1）オキシトシン等の滴下管理を含む 2）温電法、足浴、シャワー浴、入浴といったここに掲載されているケア以外の方法（マッサージ等）での産痛緩和を実施した場合にチェック 3）ホットパック等を使用した温電法を行った場合にチェック
4）湯用にお湯をためて入浴した場合にチェック 5）分娩の進行を促進する等を目的として、産婦の体位を調整する、歩行に付き添うなどした場合にチェック 6）アロマや酸素投与などのその他の処置やケアを自由記載で記載してください

タイムスタディ（分娩）

2事例目2日目

		6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4	5	6
入院																										
児娩出																										
分娩終了（分娩第3期終了）																										
帰室																										
無痛分娩（麻酔導入は★、麻酔期間は↔）																										
帝王切開の場合は手術の時間を記入																										
経過																										
医師 （産婦人科）	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
	E																									
	F																									
医師 （麻酔科）	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
医師 （小児科・新生児科）	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
助産師	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
	E																									
	F																									
	G																									
看護師	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
准看護師	A																									
	B																									
	C																									
その他	A																									
ベッドサイド以外での分娩監視装置監視者																										
分娩監視装置使用時間																										
CTGのレベル分類																										
実施したケア等の内容	内診	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	トコブラー聴取	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	点滴管理 ¹⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	バイタルサイン測定	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	産痛緩和 ²⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	温電法 ³⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	足浴	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	シャワー浴	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	入浴 ⁴⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	トイレ歩行	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	食事介助	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	体位交換・歩行のサポート ⁵⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	清拭・更衣	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	破水・出血の観察／バット交換	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
その他 ⁶⁾																										

※実施したケア内容について、該当する箇所にチェックをいれてください。
1）オキシトシン等の滴下管理を含む 2）温電法、足浴、シャワー浴、入浴といったここに掲載されているケア以外の方法（マッサージ等）での産痛緩和を実施した場合にチェック 3）ホットパック等を使用した温電法を行った場合にチェック
4）湯用にお湯をためて入浴した場合にチェック 5）分娩の進行を促進する等を目的として、産婦の体位を調整する、歩行に付き添うなどした場合にチェック 6）アロマや酸素投与などのその他の処置やケアを自由記載で記載してください

タイムスタディ（分娩）

2事例目3日目

		6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4	5	6
入院																										
児娩出																										
分娩終了（分娩第3期終了）																										
帰室																										
無痛分娩（麻酔導入は★、麻酔期間は⇔）																										
帝王切開の場合は手術の時間を記入																										
経過																										
医師 （産婦人科）	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
	E																									
	F																									
医師 （麻酔科）	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
医師 （小児科・新生児科）	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
助産師	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
	E																									
	F																									
	G																									
看護師	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
准看護師	A																									
	B																									
	C																									
その他	A																									
ベッドサイド以外での分娩監視装置監視者																										
分娩監視装置使用時間																										
CTGのレベル分類																										
実施したケア等の内容	内診	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	トコブラー聴取	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	点滴管理 ¹⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	バイタルサイン測定	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	産痛緩和 ²⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	温電法 ³⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	足浴	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	シャワー浴	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	入浴 ⁴⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	トイレ歩行	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	食事介助	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	体位交換・歩行のサポート ⁵⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	清拭・更衣	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	破水・出血の観察／パット交換	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	その他 ⁶⁾																									

※実施したケア内容について、該当する箇所にチェックをいれてください。
1）オキシトシン等の滴下管理を含む 2）温電法、足浴、シャワー浴、入浴といったここに掲載されているケア以外の方法（マッサージ等）での産痛緩和を実施した場合にチェック 3）ホットパック等を使用した温電法を行った場合にチェック
4）湯用にお湯をためて入浴した場合にチェック 5）分娩の進行を促進する等を目的として、産婦の体位を調整する、歩行に付き添うなどした場合にチェック 6）アロマや酸素投与などのその他の処置やケアを自由記載で記載してください

タイムスタディ（分娩）

3事例目

1日目

		6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4	5	6
入院																										
児娩出																										
分娩終了（分娩第3期終了）																										
帰室																										
無痛分娩（麻酔導入は★、麻酔期間は↔）																										
帝王切開の場合は手術の時間を記入																										
経過																										
医師 （産婦人科）	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
	E																									
	F																									
医師 （麻酔科）	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
医師 （小児科・ 新生児科）	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
助産師	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
	E																									
	F																									
	G																									
看護師	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
准看護師	A																									
	B																									
	C																									
その他	A																									
ベッドサイド以外での分娩監視装置監視者																										
分娩監視装置使用時間																										
CTGのレベル分類																										
実施したケア等の内容	内診	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	トプブラー聴取	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	点滴管理 ¹⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	バイタルサイン測定	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	産痛緩和 ²⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	温電法 ³⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	足浴	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	シャワー浴	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	入浴 ⁴⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	トイレ歩行	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	食事介助	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	体位交換・歩行のサポート ⁵⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	清拭・更衣	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	破水・出血の観察／バット交換	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
その他 ⁶⁾																										

※実施したケア内容について、該当する箇所にチェックをいれてください。
1）オキシトシン等の滴下管理を含む 2）温電法、足浴、シャワー浴、入浴といったここに掲載されているケア以外の方法（マッサージ等）での産痛緩和を実施した場合にチェック 3）ホットパック等を使用した温電法を行った場合にチェック
4）湯用にお湯をためて入浴した場合にチェック 5）分娩の進行を促進する等を目的として、産婦の体位を調整する、歩行に付き添うなどした場合にチェック 6）アロマや酸素投与などのその他の処置やケアを自由記載で記載してください

タイムスタディ（分娩）

3事例目 2日目

		6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4	5	6
入院																										
児娩出																										
分娩終了（分娩第3期終了）																										
帰室																										
無痛分娩（麻酔導入は★、麻酔期間は⇔）																										
帝王切開の場合は手術の時間を記入																										
経過																										
医師 （産婦人科）	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
	E																									
	F																									
医師 （麻酔科）	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
医師 （小児科・ 新生児科）	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
助産師	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
	E																									
	F																									
	G																									
看護師	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
准看護師	A																									
	B																									
	C																									
その他	A																									
ベッドサイド以外での分娩監視装置監視者																										
分娩監視装置使用時間																										
CTGのレベル分類																										
実施したケア等の内容	内診	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	トコブラー聴取	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	点滴管理 ¹⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	バイタルサイン測定	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	産痛緩和 ²⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	温電法 ³⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	足浴	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	シャワー浴	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	入浴 ⁴⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	トイレ歩行	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	食事介助	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	体位交換・歩行のサポート ⁵⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	清拭・更衣	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	破水・出血の観察／バット交換	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	その他 ⁶⁾																									

※実施したケア内容について、該当する箇所にチェックをいれてください。
1）オキシトシン等の滴下管理を含む 2）温電法、足浴、シャワー浴、入浴といったここに掲載されているケア以外の方法（マッサージ等）での産痛緩和を実施した場合にチェック 3）ホットパック等を使用した温電法を行った場合にチェック
4）湯用にお湯をためて入浴した場合にチェック 5）分娩の進行を促進する等を目的として、産婦の体位を調整する、歩行に付き添うなどした場合にチェック 6）アロマや酸素投与などのその他の処置やケアを自由記載で記載してください

タイムスタディ（分娩）

3事例目 3日目

		6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4	5	6
入院																										
児娩出																										
分娩終了（分娩第3期終了）																										
帰室																										
無痛分娩（麻酔導入は★、麻酔期間は⇔）																										
帝王切開の場合は手術の時間を記入																										
経過																										
医師 （産婦人科）	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
	E																									
	F																									
医師 （麻酔科）	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
医師 （小児科・新生児科）	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
助産師	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
	E																									
	F																									
	G																									
看護師	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
准看護師	A																									
	B																									
	C																									
その他	A																									
ベッドサイド以外での分娩監視装置監視者																										
分娩監視装置使用時間																										
CTGのレベル分類																										
実施したケア等の内容	内診	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	トコブラー聴取	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	点滴管理 ¹⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	バイタルサイン測定	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	産痛緩和 ²⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	温電法 ³⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	足浴	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	シャワー浴	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	入浴 ⁴⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	トイレ歩行	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	食事介助	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	体位交換・歩行のサポート ⁵⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	清拭・更衣	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	破水・出血の観察／パット交換	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
その他 ⁶⁾																										

※実施したケア内容について、該当する箇所にチェックをいれてください。
1）オキシトシン等の滴下管理を含む 2）温電法、足浴、シャワー浴、入浴といったここに掲載されているケア以外の方法（マッサージ等）での産痛緩和を実施した場合にチェック 3）ホットパック等を使用した温電法を行った場合にチェック
4）湯用にお湯をためて入浴した場合にチェック 5）分娩の進行を促進する等を目的として、産婦の体位を調整する、歩行に付き添うなどした場合にチェック 6）アロマや酸素投与などのその他の処置やケアを自由記載で記載してください

4. 収益等（診療所）
(1) 基本データ

① 直近の2事業年（度）（個人立以外の診療所のみ記入してください。）

令和5年3月末までに終了した事業年（度）	令和	年	月	～	令和	年	月
令和6年3月末までに終了した事業年（度）	令和	年	月	～	令和	年	月

※個人立の場合は、令和4年1月1日から令和4年12月31日まで及び令和5年1月1日から令和5年12月31日までの期間が「直近の2事業年（度）」となるため、記入の必要はありません。

② 貴院の活動状況（令和6年3月31日現在、該当する番号に○を付けてください。）

1.直近の2事業年（度）の間及び現在、活動している

2.その他（直近の2事業年（度）の途中に開設、現在は休止、廃止等）

※回答が「2」の場合は、ここでこれ以降の調査は終了となります。このまま本調査票をご返送ください。

③ 貴院の開設者が保有する施設の状況（令和6年3月31日現在、該当する番号に○を付けてください。）

1.調査対象診療所のみ保有している

2.調査対象診療所以外の施設（病院、診療所、介護保険施設等）も保有している

④ 主たる診療科目（令和6年3月31日現在、該当する番号に○を付けてください。）

01 内科02 呼吸器内科03 循環器内科04 消化器内科(胃腸内科)05 腎臓内科06 人工透析内科（人工透析外科）07 神経内科08 糖尿病内科(代謝内科)09 血液内科10 皮膚科11 アレルギー科12 リウマチ科13 感染症内科14 小児科15 精神科16 心療内科17 外科18 呼吸器外科21 気管食道外科24 肛門外科27 形成外科28 美容外科29 眼科30 耳鼻咽喉科31 小児外科32 産婦人科33 産科34 婦人科35 リハビリテーション科36 放射線科37 麻酔科38 病理診断科39 臨床検査科40 救急科

⑤ 病床の状況（許可病床数を記入してください。無床の場合は0を記入してください。）

令和5年3月末までに終了した事業年（度）の末日時点		床
令和6年3月末までに終了した事業年（度）の末日時点		床

⑥ 消費税の経理方式（該当する番号に○を付けてください。）

1.税込

2.税抜

※次頁以降で記入していただく金額等は、ここで選択した経理方式に従って記入してください。

(2) 損益

- 直近の2事業年（度）それぞれの収益及び費用の額を記入してください。
- 個人立診療所は、令和4年1月1日から令和4年12月31日まで及び令和5年1月1日から令和5年12月31日までの期間が直近の2事業年（度）となります。
- 法人全体で包括して経理を行っているような場合でも、調査対象となった診療所分のみを推計して記入してください。
- 数字を記入する欄が0の場合は「0」を必ず記入してください。

① 医業収益

科 目		金額（令和5年3月末までの事業年（度））				金額（令和6年3月末までの事業年（度））			
		億	百万	千	円	億	百万	千	円
1 入院診療収益	1-1.保険診療収益（患者負担含む）								
	1-2.公害等診療収益								
	1-3.その他の診療収益								
2 外来診療収益	2-1.保険診療収益（患者負担含む）								
	2-2.公害等診療収益								
	2-3.その他の診療収益								
3 その他の医業収益									
3-1.（うち）新型コロナウイルス感染症関連の補助金（従業員向けの慰労金を除く）									
4 医業収益合計									

② 介護収益

診療所として介護保険事業を実施している場合、収益を下記の表に記入してください。

診療所として介護保険事業を実施していない場合、右側のチェック欄“□”に“レ”を記入してください。

☐ 介護保険事業を実施していない

科 目		金額（令和5年3月末までの事業年（度））				金額（令和6年3月末までの事業年（度））			
		億	百万	千	円	億	百万	千	円
1 介護収益合計									

③ 医業・介護費用

科 目		金額（令和5年3月末までの事業年（度））				金額（令和6年3月末までの事業年（度））			
		億	百万	千	円	億	百万	千	円
1 給与費									
	1-1.（うち）通勤手当								
	1-2.（うち）法定福利費								
2 医薬品費									
3 診療材料費・医療消耗器具備品費									
3-1.（うち）特定保険医療材料費（※1）									
4 給食用材料費									
5 委託費									
	5-1.（うち）給食委託費								
	5-2.（うち）人材委託費								
	5-2-1.（うち）紹介手数料								
6 減価償却費									
	6-1.（うち）建物減価償却費								
	6-2.（うち）医療機器減価償却費								
7 その他の医業・介護費用									
7-1.（うち）土地賃借料									
	7-2-1.（うち）医療機器賃借料								
7-3.（うち）水道光熱費									
	7-4.（うち）消費税課税対象費用（※1） （設備機器賃借料及び水道光熱費を除く）								
7-5.（うち）控除対象外消費税等負担額（※2）									
8 医業・介護費用合計									

※1 特定保険医療材料費、消費税課税対象費用を区分して経理していない等、記入が困難な場合は、「－」を記入してください。

※2 経理方式が税抜の場合のみ記入してください。

④ 損益差額

科 目		金額（令和5年3月末までの事業年（度））				金額（令和6年3月末までの事業年（度））			
		億	百万	千	円	億	百万	千	円
1 損益差額（医業収益合計＋介護収益合計－医業・介護費用合計）									

⑤ 税金（法人税・住民税）

科 目		金額（令和5年3月末までの事業年（度））				金額（令和6年3月末までの事業年（度））			
		億	百万	千	円	億	百万	千	円
1 税金（法人税・住民税）合計									

※個人立診療所については記入の必要はありません。

⑥ 税引後の総損益差額

科 目		金額（令和5年3月末までの事業年（度））				金額（令和6年3月末までの事業年（度））			
		億	百万	千	円	億	百万	千	円
1 税引後の総損益差額（損益差額－税金）									

※個人立診療所については記入の必要はありません。

(3) 給与

- 直近の2事業年（度）における、調査対象となった診療所で直接業務に従事する**常勤職員**に対して支払った給与の状況について、職種別に記入してください。
- 個人立診療所は、令和4年1月1日から令和4年12月31日まで及び令和5年1月1日から令和5年12月31日までの期間が直近の2事業年（度）となります。
- 各事業年（度）の「延べ人員（人月）」欄に記入する人月数は、各事業年（度）における月別給与支給人員の年（度）間合計です。例えば、2人の職員が在籍し、そのうちの1人が1年間（12ヶ月）従事しており、もう1人が半年間（6ヶ月）だけ従事していた場合には、「延べ従事人月」は18人月となります。
- 数字を記入する欄が0の場合は「0」を必ず記入してください。

① 令和5年3月末までの事業年（度）の常勤職員給料・賞与

常 勤 職 員 （令和5年3月末までの事業年（度））												
職 種	延べ人員（人月）			給 料				賞 与				
	人月			億	百万	千	円	億	百万	千	円	
1 院 長（個人立の開設者本人を除く）												
2 医 師												
2-1.産婦人科医師												
2-2.小児科医師												
2-3.麻酔科医師												
3 歯科医師												
4 薬剤師												
5 助産師												
6 看護職員（助産師除く）												
7 看護補助職員												
8 医療技術員												
9 事務職員（上記の職種に従事している者を除く）												
10 その他の職員												
11 役員（上記の職種に従事している者を除く）												
12 合 計												

② 令和6年3月末までの事業年（度）の常勤職員給料・賞与

常 勤 職 員 （令和6年3月末までの事業年（度））												
職 種	延べ人員（人月）			給 料				賞 与				
	人月			億	百万	千	円	億	百万	千	円	
1 院 長（個人立の開設者本人を除く）												
2 医 師												
2-1.産婦人科医師												
2-2.小児科医師												
2-3.麻酔科医師												
3 歯科医師												
4 薬剤師												
5 助産師												
6 看護職員（助産師除く）												
7 看護補助職員												
8 医療技術員												
9 事務職員（上記の職種に従事している者を除く）												
10 その他の職員												
11 役員（上記の職種に従事している者を除く）												
12 合 計												

分婉手当がある場合は、1分婉あたりの分婉手当の金額を記入ください。

円

(4) 資産・負債

- 直近の2事業年（度）の末日における資産及び負債の額を記入してください。
個人立診療所は、令和4年12月31日及び令和5年12月31日が直近の2事業年（度）の末日となります。
 - 法人全体で包括して貸借対照表が作成されているような場合には、面積、従事者数の割合など、調査対象となった診療所分の実態を最も適切に反映していると思われる係数で按分し、調査対象となった診療所分の金額を記入してください。
 - 数字を記入する欄が0の場合は「0」を必ず記入してください。
- 個人立診療所であって、青色申告で「貸借対照表（資産負債調）」を税務署に提出していない場合、右側のチェック欄“□”に“レ”を記入してください。この場合、資産・負債の記入の必要はありません。

☐ 貸借対照表（資産負債調）を税務署に提出していない

①資産の部

科 目	金額（令和5年3月末までの事業年（度））					金額（令和6年3月末までの事業年（度））				
	億	百万	千	円		億	百万	千	円	
1 流動資産										
2 固定資産										
3 繰延資産										
4 資 産 合 計										

②負債の部

科 目	金額（令和5年3月末までの事業年（度））					金額（令和6年3月末までの事業年（度））				
	億	百万	千	円		億	百万	千	円	
5 流動負債										
6 固定負債										
6-1.（うち）長期借入金										
7 負 債 合 計										

(5) 設備投資額

- 直近の2事業年（度）中に新規に取得した資産にかかる取得価額を記入してください。
個人立診療所は、令和4年1月1日から令和4年12月31日まで及び令和5年1月1日から令和5年12月31日までの期間が直近の2事業年（度）となります。
- 上記の金額のうち、直近の2事業年（度）中に新規にリース契約を締結した場合には、当該設備の取得価額（リース期間中のリース料総額）を「（うち）リース分」の欄に記入してください。ただし、固定資産に計上されているものに限ります。
- 数字を記入する欄が0の場合は「0」を必ず記入してください。

① 設備投資額

科 目	金額（令和5年3月末までの事業年（度））					金額（令和6年3月末までの事業年（度））				
	億	百万	千	円		億	百万	千	円	
1 設備投資額（土地を含む）										
1-1.（うち）建物（建物附属設備を含み、土地を除く）										
1-2.（うち）医療機器										
1-2-1.（うち）リース分										
1-3.（うち）調剤用機器										
1-3-1.（うち）リース分										
1-4.（うち）医療情報システム用機器										
1-4-1.（うち）リース分										
2 設備投資額のうち消費税課税対象の投資額										

②医療機器の価格（リース）

※複数ある場合は合計金額を記載ください。

リース費

科 目	金額（令和5年3月末までの事業年（度））					金額（令和6年3月末までの事業年（度））				
	億	百万	千	円		億	百万	千	円	
1 分娩台										
2 分娩室用超音波画像診断装置										
3 集中監視システム機器										
4 分娩監視装置										
5 保育器（開放式）（インファントウォーマー）										

③医療機器の価格（購入価格と購入時期）

科 目	金額（令和5年3月末までの事業年（度））					金額（令和6年3月末までの事業年（度））				
	億	百万	千	円		億	百万	千	円	
1 分娩台										
2 分娩室用超音波画像診断装置										
3 集中監視システム機器										
4 分娩監視装置										
5 保育器（開放式）（インファントウォーマー）										

購入時期
※西暦

年

年

年

年

年

分娩取扱施設における出産に係る費用構造の把握のための調査研究 調査票（A票）

ID

パスワード

調査を行った月

9月 ・ 10月 （いずれかに○）

9月に分娩を取り扱った場合は9月について、そうでない場合は10月について調査を実施してください。
10月に調査を実施する場合、調査票内の9月を10月に読み替える等のご対応をお願いいたします。
(例：①令和6年9月1日～令和6年9月30日の1か月 → 令和6年10月1日～令和6年10月31日の1か月
②令和5年9月1日～令和6年8月31日の1年 → 令和5年10月1日～令和6年9月30日の1年

1. 分娩取扱施設の基本情報

令和6年9月1日時点

		回答欄	留意点等
1	施設名	ふりがな	
2		漢字	
3	施設所在地	郵便番号	貴施設の所在地を記載してください。
4		都道府県	
5		市区町村	
6		上記以下	
7	回答担当者氏名	ふりがな	ご回答いただいている担当の方のお名前、所属部署、電話番号、メールアドレスを記載してください。 調査票に関してご連絡を差し上げることがあります。
8		漢字	
9	回答担当者職員（例：管理者、事務等）		
10	回答担当者電話番号		
11	回答担当者メールアドレス		
12	設置主体（いずれか1つ選択）	1.国立（国、独立行政法人国立病院機構、独立行政法人労働者健康安全機構、国立高度専門医療研究センター、独立行政法人地域医療機能推進機構） 2.公立（都道府県、市町村、地方独立行政法人） 3.公的（日赤、済生会、北海道社会事業協会、厚生連、国民健康保険団体連合会） 4.社会保険関係（健康保険組合及びその連合会、共済組合及びの連合会、国民健康保険組合） 5.医療法人（社会医療法人は含まない） 6.その他の法人（公益法人、学校法人、社会福祉法人、医療生協、会社、社会医療法人等、その他法人） 7.個人	貴院の設置主体を選択してください。
13	周産期救急情報システムの活用の有無（いずれか1つ選択）	1.直接活用 2.直接活用していないがコーディネーターを通して活用 3.嘱託医等を通して活用 4.活用は無い	貴施設の所在する都道府県の「周産期救急情報システム（周産期医療情報センターが運営する病床の空床状況や重症例や産科合併症以外の合併症による母体救急患者の受入れ可能状況等の情報収集、情報提供を行うシステム）」について、助産所の活用状況を選択してください。 空床状況等の情報に助産所が直接アクセスして活用している場合は1を選択してください。 情報システムに直接アクセスしていないが搬送コーディネーター等の調整者を通して活用している場合は2を選択してください。 嘱託医や嘱託医療機関を通して活用している場合は3を選択してください。 周産期救急情報システムは活用していない場合は4を選択してください。
14	分娩の取扱の実施状況	1.有 2.無	
15	有床、無床の別	1.有床 2.無床	

2. 助産所票

(1) 構造設備 (令和6年9月1日時点)

			回答欄	留意点等
1	入所定員			人 部屋 部屋 部屋 部屋
2	入所室	入所定員 1 名の入所室		
3		入所定員 2 名の入所室		
4		入所定員 3 名の入所室		
5		入所定員 4 名以上の入所室		
6	分娩室		1.有 2.無	
7	L 入所室と分娩室を分けている（入所室（居室）が9㎡以上あり）		1.はい 2.いいえ	no.6で分娩室「無」の場合に回答してください。
8	L 出張助産のみ取り扱っている		1.はい 2.いいえ	no.6で分娩室「無」の場合に回答してください。
9	新生児室		1.有 2.無	
10	新生児沐浴室 ※新生児室とは別に沐浴室がある場合は「有」を、新生児室の中に沐浴槽がある場合は「無」を選択、固定式の沐浴槽ではなくて移動式の沐浴槽を使用している場合も、沐浴室がある場合は「有」を選択。		1.有 2.無	
11	給食設備（専用のキッチン等）		1.有 2.無	
12	超音波装置			無い場合は、0と回答してください。
13	胎児超音波ドップラー			無い場合は、0と回答してください。
14	分娩監視装置台数			無い場合は、0と回答してください。
15	閉鎖式保育器（クベース）			無い場合は、0と回答してください。
16	開放式保育器（インファントウォーマー）			無い場合は、0と回答してください。

(2) 助産所の体制

① 配置されている職員数 (令和6年9月1日時点)

17	常勤勤務の過あたりの勤務時間数			時間	貴施設で決められている、常勤職員の最低勤務時間数を記載ください。
18	助産師	常勤		人	助産師であり、主として助産師の業務を行っている常勤職員
19		非常勤（常勤換算）		人	助産師であり、主として助産師の業務を行っている非常勤職員の常勤換算
20	看護師	常勤		人	看護師であり、主として看護師の業務を行っている常勤職員
21		非常勤（常勤換算）		人	看護師であり、主として看護師の業務を行っている非常勤職員の常勤換算
22	准看護師	常勤		人	准看護師であり、主として准看護師の業務を行っている常勤職員
23		非常勤（常勤換算）		人	准看護師であり、主として准看護師の業務を行っている非常勤職員の常勤換算
24	看護補助者	常勤		人	看護補助者であり、主として看護補助の業務を行っている常勤職員
25		非常勤（常勤換算）		人	看護補助者であり、主として看護補助の業務を行っている非常勤職員の常勤換算
26	管理栄養士	常勤		人	管理栄養士であり、主として管理栄養士の業務を担当する常勤職員
27		非常勤（常勤換算）		人	管理栄養士であり、主として管理栄養士の業務を担当する非常勤職員の常勤換算
28	栄養士	常勤		人	栄養士であり、主として栄養士の業務を担当する常勤職員
29		非常勤（常勤換算）		人	栄養士であり、主として栄養士の業務を担当する非常勤職員の常勤換算
30	その他の職員	常勤		人	
31		非常勤（常勤換算）		人	

② 安全管理、継続教育		回答欄	留意点等
32	院内感染防止対策のマニュアル等の作成	1.有 2.無	令和5年9月1日～令和6年8月31日の1年の実績 令和5年9月1日～令和6年8月31日の1年の実績 管理者以外がない場合は回答しなくてかまいません。 助産所内の助産師が該当する研修を、令和5年9月1日～令和6年8月31日の1年に受講していれば有と回答してください。
33	BCP（業務継続計画）の作成	1.有 2.無	
34	医療安全管理のための指針の整備	1.有 2.無	
35	医療事故やインシデント等の報告体制の整備	1.有 2.無	
36	医療安全管理に関する研修受講（管理者）	1.有 2.無	
37	医療安全管理に関する研修受講（管理者以外）	1.有 2.無	
38	「助産師のコア・コンピテンシー」に関する研修受講 ※4つの助産実践能力に関連する研修を受講している場合は「有」を選択してください。	1.有 2.無	
39	栄養管理手順（標準的な栄養スクリーニングを含む栄養状態の評価、栄養管理計画、退院時を含む定期的な評価等）の作成	1.有 2.無	
40	厚生労働省「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」等の内容を踏まえた、適切な意思決定支援に関する指針の整備	1.有 2.無	
41	身体的拘束を最小化するための取組	1.有 2.無	

③ 通常の勤務体制				
42	産婦・褥婦の入所者が <u>いない</u> 場合の平均的な人員配置（日勤帯）（常勤換算）	a. 助産師		人
43		b. 看護師		人
44		c. その他の職員		人
45	産婦・褥婦の入所者が <u>いない</u> 場合の平均的な人員配置（夜勤帯）（常勤換算）	a. 助産師		人
46		b. 看護師		人
47		c. その他の職員		人
48	産婦・褥婦の入所者が <u>1名</u> の場合の平均的な人員配置（日勤帯）（常勤換算）※分娩日を除く	a. 助産師		人
49		b. 看護師		人
50		c. その他の職員		人
51	産婦・褥婦の入所者が <u>1名</u> の場合の平均的な人員配置（夜勤帯）（常勤換算）※分娩日を除く	a. 助産師		人
52		b. 看護師		人
53		c. その他の職員		人
54	産婦・褥婦の入所者が <u>2名以上</u> の場合の平均的な人員配置（日勤帯）（常勤換算）※分娩日を除く	a. 2名以上入所することはない	1.はい 2.いいえ	
55		b. 助産師		人
56		c. 看護師		人
57		d. その他の職員		人
58	産婦・褥婦の入所者が <u>2名以上</u> の場合の平均的な人員配置（夜勤帯）（常勤換算）※分娩日を除く	a. 2名以上入所することはない	1.はい 2.いいえ	
59		b. 助産師		人
60		c. 看護師		人
61		d. その他の職員		人

産婦・褥婦の入所者には、産後ケア事業等の入所者は含みません。

④ 分娩時の体制（助産師のみ）

回答欄

留意点等

62	分娩時の体制	1.自院の助産師で複数人体制を確保している 2.自院の助産師と他助産所の助産師による複数人体制を確保している 3.自院の助産師と他医療機関の助産師による複数人体制を確保している 4.助産師が一人で対応している 5.その他()
63	上記設問62において、2又は3の場合の他施設の助産師への支払い方法	1.産婦 1 名毎に委託契約している 2.時給 3.日給 4.月給 5.その他()

⑤ オンコールの人数

64	夜勤帯及び休日に、分娩において緊急事態が生じた際に、駆けつけことができるように待機している人数（助産所内待機）	助産師		人	※整数値で回答してください。
65		看護師		人	
66	夜勤帯及び休日に、分娩において緊急事態が生じた際に、駆けつけことができるように待機している人数（助産所外待機）	助産師		人	
67		看護師		人	

⑥ 嘱託医療機関等との連携体制

68	嘱託医数		人	連携医療機関は、嘱託医や嘱託医療機関として契約はしていないものの連携している医療機関のことで、診療科は問いません。
69	嘱託医療機関数		施設	
70	連携医療機関数		施設	
71	嘱託医・嘱託医療機関、連携医療機関との出産予定妊婦に関する定期的な情報共有（オンライン可）	1.有 2.無		
72	嘱託医・嘱託医療機関等、連携医療機関が開催する事例検討会・勉強会・研修会等への参加	1.有 2.無		

（3）分娩取扱等の実績（令和5年9月1日～令和6年8月31日の1年）

① 分娩取扱等の実績

73	全分娩件数		件	当該月の入所産婦延べ数÷当該月の日数で計算してください。
74	分娩件数（初産婦／経産婦別）	a. 初産婦	件	
75		b. 経産婦	件	
76	分娩件数（分娩場所別）	a. 自産産所内での分娩	件	
77		b. オープンシステムによる病院、診療所、他助産所での分娩	件	
78		c. 自宅等への出張分娩	件	
79		d. その他	件	
80	母体搬送件数（分娩期）	a. 分娩第 1 期中の搬送	件	
81		b. 分娩第 2 期中の搬送	件	
82		c. 分娩第 3 期中の搬送	件	
83		d. 分娩第 4 期中の搬送	件	
84	搬送件数（産褥期）		件	
85	新生児搬送件数		件	
86	9 月 1 か月間の 1 日平均入所者数（新生児は含まない）		人	
87	9 月 1 日時点における新生児数（入院中の児に限る）		人	

② 他助産所等における分娩のサポート実績

88	他助産所等の入所者の分娩のサポート件数		件	他助産所だけでなく、病院や診療所における分娩のサポートも含みます。サポート時間に関わらず、1 分娩 1 件として計上してください。
----	---------------------	--	---	---

(4) その他のサービス（分娩と産褥入院にかかるもの）

89	付帯サービスの種類や有無、価格	お祝い膳	1.有 2.無 3.妊産婦が選択
90		入院料等の他の料金に含まれている	1.はい 2.いいえ
91		（前問で2を選択した場合）設定価格	
92		写真撮影	1.有 2.無 3.妊産婦が選択
93		入院料等の他の料金に含まれている	1.はい 2.いいえ
94		（前問で2を選択した場合）設定価格	
95		足形	1.有 2.無 3.妊産婦が選択
96		入院料等の他の料金に含まれている	1.はい 2.いいえ
97		（前問で2を選択した場合）設定価格	
98		エステ（※乳房マッサージは除く）	1.有 2.無 3.妊産婦が選択
99	入院料等の他の料金に含まれている	1.はい 2.いいえ	
100	（前問で2を選択した場合）設定価格		
101	その他（自由記載）		
102	胎盤の処理		

留意点等
お祝い膳が標準で提供される場合は有を選択してください。妊婦が要否を選択できる場合には「妊婦が選択」を選択してください。

写真撮影が標準で提供される場合は有を選択してください。妊婦が要否を選択できる場合には「妊婦が選択」を選択してください。

足形が標準で提供される場合は有を選択してください。妊婦が要否を選択できる場合には「妊婦が選択」を選択してください。

エステが標準で提供される場合は有を選択してください。妊婦が要否を選択できる場合には「妊婦が選択」を選択してください。

(5) その他のサービス（母子保健事業）

103	先天性代謝異常等検査	a.実施	1.有 2.無
104		b.設定価格	
105	新生児聴覚検査	a.実施	1.有 2.無
106		b.設定価格	
107		c.自治体の補助の有無	1.有 2.無
108		d.(cで有の場合) 自治体の補助額	
109	ビタミンK2内服	a.実施	1.有 2.無
110		b.設定価格	
111	新生児1か月健診	a.実施	1.有 2.無
112		b.設定価格	
113		c.自治体の補助の有無	1.有 2.無
114		d.(cで有の場合) 自治体の補助額	
115	産後ケア事業（短期入所型（ショートステイ型））	a.実施	1.有 2.無
116		b.費用（1泊2日）	
117		c.1ヶ月間の延べ利用者数	
118	産後ケア事業（通所型（デイサービス型））	a.実施	1.有 2.無
119		b.費用（1日利用）	
120		c.1か月間の延べ利用者数（1日利用）	
121		d.費用（半日利用）	
122		e.1か月間の延べ利用者数（半日利用）	
123	産後ケア事業（居宅訪問型（アウトリーチ型））	a.実施	1.有 2.無
124		b.費用（1回）	
125		c.1か月間の延べ利用者数	

留意点等
自施設で実施せず他施設に紹介している場合は「無」を選択してください。

レンタル機器による自施設での実施を含みます。実施せず他施設に紹介している場合は「無」を選択してください。

複数の自治体と内容の異なる契約を結んでいる場合、所在自治体との契約の内容を回答してください。

自施設で実施せず他施設に紹介している場合は「無」を選択してください。
入院中の費用に加えて、退院時に持ち帰り用に処方する場合は、その分の費用も含めてください。
自施設で実施せず他施設に紹介している場合は「無」を選択してください。

複数の自治体と内容の異なる契約を結んでいる場合、所在自治体との契約の内容を回答してください。

費用については、市町村からの委託を受けて実施する産後ケア事業のうち利用が一番多い市町村について（市町村からの委託を受けていない場合は平均的な費用について）、1泊2日利用した場合の費用（利用者の自己負担と自治体からの補助の合計）を記載してください。
・令和6年9月1日から令和6年9月30日の数値をご記入ください。
・市町村からの委託を受けて実施している分と、それ以外で実施している分を合わせて計上してください。
・1ヶ月間の延べ利用者数については、例えば3泊4日利用した場合は4人として計上してください。

費用については、市町村からの委託を受けて実施する産後ケア事業のうち利用が一番多い市町村について（市町村からの委託を受けていない場合は平均的な費用について）記載してください。
・令和6年9月1日から令和6年9月30日の数値をご記入ください。
・市町村からの委託を受けて実施している分と市町村からの委託を受けて実施している分と、それ以外で実施している分を合わせて計上してください。
費用については、市町村からの委託を受けて実施する産後ケア事業のうち利用が一番多い市町村について（市町村からの委託を受けていない場合は平均的な費用について）記載してください。
・1日利用とは別に、半日利用の費用を設定する場合に記載ください。
・令和6年9月1日から令和6年9月30日の数値をご記入ください。
・市町村からの委託を受けて実施している分と市町村からの委託を受けて実施している分と、それ以外で実施している分を合わせて計上してください。

（６）助産所における助産師の従事時間等

※従事時間数は概算での記載でかまいません。複数の業務に従事している場合は主として従事した業務に時間を計上してください。

※各項目に関する直接のケア以外の対応（記録や電話相談等）に要する時間は、各項目の従事時間に計上してください。

※市町村からの委託を受けて実施する場合とは、助産所が委託を受けて事業を行っている場合についての時間を計上してください。

以下の項目については、原則として記載のとおり、1ヶ月間での集計を御願いしたいと思いますが、1ヶ月間での集計が困難である場合は、「9月1日～30日の1ヶ月の」とあるところを「調査票到着日以降の初回の月曜日から日曜日の1週間」と読み替えてご回答ください。その場合、右の欄にチェックを御願いしま

☐月曜日から日曜日の1週間で回答

回答欄			留意点等		
1	全助産師の総労働時間数	9月1日～30日の1か月の総労働時間数	aからkを足しあげた数値に一致	時間	9月1日～30日の1か月あたりの、全助産師の総労働時間のトータルのべ時間を記載してください。例えば、助産師3名で1日7時間で5日間ずつ従事した場合は、3×7×5＝105時間 また、この欄の数字は、aからkを足した数値となります。記載の際は必ず一致することを計算してご確認お願いいたします。
2	分娩期のケア	全助産師の分娩期のケアに従事した時間数	a	時間	9月1日～30日の1か月あたりの、全助産師の分娩期のケアに従事したのべ時間を積算して記載してください。
3	産褥入院中（新生児含む）のケア（授乳、育児等の保健指導を含む）	全助産師の産褥入院中（新生児含む）のケアに従事した時間数	b	時間	9月1日～30日の1か月あたりの、全助産師の産褥入院中（新生児期含む）のケアに従事したのべ時間を積算して記載してください。
4	妊娠期のケア（妊婦健診審査や保健指導を含む）	実施有無	1.有 2.無		
5		9月1日～30日の1か月の実施件数		件	9月1日～30日の1か月あたりの実施のべ件数を記載してください。
6		全助産師の妊娠期のケアに従事した時間数	c	時間	9月1日～30日の1か月あたりの全助産師の妊娠期のケアに従事したのべ時間を積算して記載してください。
7	産婦健康診査（産後1か月までの褥婦と新生児）	実施有無	1.有 2.無		
8		9月1日～30日の1か月の実施件数		件	9月1日～30日の1か月あたりの実施のべ件数を記載してください。
9		全助産師の産婦健診に従事した時間数	d	時間	9月1日～30日の1か月あたりの全助産師の産婦健康診査に従事したのべ時間を積算して記載してください。
10	妊婦やパートナーを対象とした妊娠期の集団指導（母親学級・両親学級、エクササイズ等）（※市町村からの委託や補助を受けて実施する場合も含む）	実施有無	1.有 2.無		
11		9月1日～30日の1か月の実施件数		件	9月1日～30日の1か月あたりの実施のべ件数を記載してください。
12		全助産師の妊娠期の集団指導に従事した時間数	e	時間	9月1日～30日の1か月あたりの全助産師の妊娠期の集団指導に従事したのべ時間を積算して記載してください。
13	妊婦への訪問指導（※市町村からの委託や補助を受けて実施する場合も含む）	実施有無	1.有 2.無		
14		9月1日～30日の1か月の実施件数		件	9月1日～30日の1か月あたりの実施のべ件数を記載してください。
15		全助産師の妊婦への訪問指導に従事した時間数	f	時間	9月1日～30日の1か月あたりの全助産師の妊婦への訪問指導に従事したのべ時間を積算して記載してください。
16	乳児家庭全戸訪問事業（※市町村からの委託や補助を受けて実施するもの）	実施有無	1.有 2.無		
17		9月1日～30日の1か月の実施件数		件	9月1日～30日の1か月の実施のべ件数を記載してください。
18		全助産師の乳児家庭全戸訪問事業に従事した時間数	g	時間	9月1日～30日の1か月の全助産師の乳児家庭全戸訪問事業に従事したのべ時間を積算して記載してください。
19	褥婦、新生児への訪問指導（※市町村からの委託や補助を受けて実施する場合も含む）	実施有無	1.有 2.無		
20		9月1日～30日の1か月の実施件数		件	9月1日～30日の1か月の実施のべ件数を記載してください。
21		全助産師の褥婦、新生児への訪問指導に従事した時間数	h	時間	9月1日～30日の1か月の全助産師の褥婦、新生児への訪問指導に従事したのべ時間を積算して記載してください。
22	産前・産後サポート事業（※市町村からの委託や補助を受けて実施するもの）	実施有無	1.有 2.無		
23		9月1日～30日の1か月の実施件数		件	9月1日～30日の1か月の実施のべ件数を記載してください。
24		全助産師の産前・産後サポート事業に従事した時間数	i	時間	9月1日～30日の1か月の全助産師の産前・産後サポート事業に従事したのべ時間を積算して記載してください。
25	産後ケア（※市町村からの委託や補助を受けて実施する産後ケア事業と、自費での産後ケアの双方を含む）	実施有無	1.有 2.無		
26		9月1日～30日の1か月の実施件数		件	9月1日～30日の1か月の実施のべ人数（ショートステイ1泊2日は2件と計上する）を記載してください。
27		全助産師の産後ケアに従事した時間数	j	時間	9月1日～30日の1か月の全助産師の産後ケアに従事したのべ時間を積算して記載してください。
28	その他	実施有無	1.有 2.無		
29		その他の業務の内容（自由記載）			その他の業務内容について自由に記載してください。 例）事務作業、母乳外来、学生指導 等
30		全助産師のその他の業務に従事した時間数	k	時間	9月1日～30日の1か月の全助産師のその他の業務に従事したのべ時間を積算して記載してください。
31	訪問看護ステーションの併設	併設有無	1.有 2.無		

3. 産婦個票（正常分娩）

1事例目

産婦の選択方法：
調査月において、月末までに入所した全産婦について前向き調査をお願いいたします。
出張による自宅等での分娩介助や、他病院等でのオープンシステムによる分娩介助も回答に含んでください。
分娩途中で搬送となった産婦も1例として受け持ち終了までの情報で判明している部分のみ記載をお願いいたします。4事例以上入所した場合は、個票とタイムスタディをコピーして記載ください。

回答欄			留意点等	
(1) 産婦の概要				
1	年齢		歳	対象となる産婦の分娩日における年齢を記載してください。
2	産婦の住所	都道府県		里帰りした先の住所ではなく、産婦の居住場所の住所を記載してください。 注：札幌市、仙台市、さいたま市、千葉市、横浜市、川崎市、相模原市、新潟市、静岡市、浜松市、名古屋市、京都市、大阪市、堺市、神戸市、岡山市、広島市、北九州市、福岡市、熊本市の場合は、その先の区まで記載してください。
3		市区町村		
4	身長		cm	産婦の身長を記載してください。
5	非妊時体重		kg	産婦の妊娠前の体重を記載してください。
6	妊娠中の体重増加量		kg	入院後計測を行わなかった場合は、直近の妊婦健診での体重を元に記載してください。
7	分娩時の妊娠週数		週 日	出産の時の妊娠週数を記載してください。
8	分娩経験(いずれか1つ選択)		1.初産 2.経産	初産もしくは経産を選択してください。
9	分娩開始前入院時間数		時間	前期破水などで分娩開始前に助産所に入院した場合の時間数を記載してください。 ※例えば前駆陣痛などで一旦退院した場合は、再度入院した日からの時間数を記載してください。

(2) 搬送の有無					
10	搬送	搬送の有無	1.有 2.無	複数回答可。	
11		搬送となった時期	1.分娩期（母体搬送） 2.産褥入院中 3.新生児（入院中）		
12		（搬送した場合）理由			搬送となった理由を記載してください。
13		（搬送した場合）搬送先	1.嘱託医 2.嘱託医療機関 3.連携医療機関 4.その他の医療機関		搬送先の医療機関を教えてください。
14		（搬送した場合）搬送までのサマリー			母体搬送した場合、搬送までの経過を簡潔に記載してください。

(3) 分娩の概要				
15	分娩場所		1.助産所 2.産婦自宅（実家等を含む） 3.他助産所（オープンシステム） 4.病院（オープンシステム） 5.診療所（オープンシステム）	有床助産所での分娩介助は1、出張による自宅での分娩介助は2、オープンシステムでの分娩介助は場所によって3～5を選択してください。
16	入院（出張の場合は訪問）の経緯（陣痛発来、前期破水など） (いずれか1つ選択)		1.陣痛発来 2.前期破水 3.その他 ()	分娩を含む入院の場合に、入院となった経緯を記載してください。
17	分娩時間	第1期	時間 分	分娩第1期の時間を記載してください。
18		第2期	時間 分	分娩第2期の時間を記載してください。
19		第3期	時間 分	分娩第3期の時間を記載してください。
20	入院から分娩第3期終了までの時間		時間 分	入院から分娩第3期終了までの時間を記載してください。
21	第3期終了から帰宅までの時間		時間 分	第3期終了から、分娩室から入所室（居室）へ移動するまでの時間を記載してください。なお、分娩室と入所室（居室）が同一の場合は、第3期終了から助産師が分娩時ケアを終了するまでの時間、出張助産の場合は、第3期終了から助産師が分娩時ケアから離れ帰宅するまでの時間を記載してください。
22	分娩第1期～4期までの出血量		ml	
23	会陰裂傷		1.有 2.無	会陰裂傷があった場合は有を選択して下さい。
24	分娩時の特記事項（例：回旋異常、微弱陣痛等）		(自由記載)	分娩時の特記事項について自由に記載してください。

(7) 新生児関連

a.新生児の概要

57	出生時の体重	
58	在院日数（出生日を0日として、退院日を記載）	

回答欄

留意点等

出生時の体重を記載してください。

9日

b.新生児へ提供した処置・ケア等

59	新生児の観察	助産師による観察日数 （入院中に限る）	
60	新生児への処置・ケア	採血（足底からの採血を含む）	1.対象 2.対象外
61		ミルタ黄疸計測定	1.有 2.無
62		出生直後血糖測定	1.対象 2.対象外
63		SpO2モニター装着 （出生直後等）	1.有 2.無
64		アプニアセンサー装着	1.有 2.無
65		先天性代謝異常等検査	1.有 2.無
66		新生児聴覚検査	1.有 2.無
67		保温（保育器収容を含む）	1.有 2.無
68		臍処置	1.有 2.無
69		皮膚ケア	1.有 2.無
70		ビタミンK2内服	1.有 2.無
71		沐浴・ドライケア（清拭）の回数（入院中に限る）	
72	その他新生児へ提供した 処置・ケア（自由記載）		

日

回

(8) 費用

以下の項目の費用内訳を記載してください。出産育児一時金の直接支払制度を利用した場合は、専用請求書への記載内容を記載してください。

73	入院料	
74	室料差額	
75	分娩料	
76	新生児管理保育料	
77	検査・薬剤料	
78	処置・手当料	
79	産科医療補償制度の掛金	
80	その他	
81	妊婦合計負担額	
82	備考	

円

円

円

円

円

円

円

円

円

円

3. 産婦個票（正常分娩）

2事例目

産婦の選択方法：
調査月において、月末までに入所した全産婦について前向き調査をお願いいたします。
出張による自宅等での分娩介助や、他病院等でのオープンシステムによる分娩介助も回答に含んでください。
分娩途中で搬送となった産婦も1例として受け持ち終了までの情報で判明している部分のみ記載をお願いいたします。4事例以上入所した場合は、個票とタイムスタディをコピーして記載ください。

回答欄			留意点等		
(1) 産婦の概要					
1	年齢		歳	対象となる産婦の分娩日における年齢を記載してください。	
2	産婦の住所	都道府県		里帰りした先の住所ではなく、産婦の居住場所の住所を記載してください。 注：札幌市、仙台市、さいたま市、千葉市、横浜市、川崎市、相模原市、新潟市、静岡市、浜松市、名古屋市、京都市、大阪市、堺市、神戸市、岡山市、広島市、北九州市、福岡市、熊本市の場合は、その先の区まで記載してください。	
3		市区町村			
4	身長		cm	産婦の身長を記載してください。	
5	非妊時体重		kg	産婦の妊娠前の体重を記載してください。	
6	妊娠中の体重増加量		kg	入院後計測を行わなかった場合は、直近の妊婦健診での体重を元に記載してください。	
7	分娩時の妊娠週数		週 日	出産の時の妊娠週数を記載してください。	
8	分娩経験(いずれか1つ選択)		1.初産 2.経産	初産もしくは経産を選択してください。	
9	分娩開始前入院時間数		時間	前期破水などで分娩開始前に助産所に入院した場合の時間数を記載してください。 ※例えば前駆陣痛などで一旦退院した場合は、再度入院した日からの時間数を記載してください。	
(2) 搬送の有無					
10	搬送	搬送の有無	1.有 2.無	複数回答可。	
11		搬送となった時期	1.分娩期（母体搬送） 2.産褥入院中 3.新生児（入院中）		
12		（搬送した場合）理由			搬送となった理由を記載してください。
13		（搬送した場合）搬送先	1.嘱託医 2.嘱託医療機関 3.連携医療機関 4.その他の医療機関		搬送先の医療機関を教えてください。
14		（搬送した場合）搬送までのサマリー			母体搬送した場合、搬送までの経過を簡潔に記載してください。
(3) 分娩の概要					
15	分娩場所		1.助産所 2.産婦自宅（実家等を含む） 3.他助産所（オープンシステム） 4.病院（オープンシステム） 5.診療所（オープンシステム）	有床助産所での分娩介助は1、出張による自宅での分娩介助は2、オープンシステムでの分娩介助は場所によって3～5を選択してください。	
16	入院（出張の場合は訪問）の経緯（陣痛発来、前期破水など） (いずれか1つ選択)		1.陣痛発来 2.前期破水 3.その他 ()	分娩を含む入院の場合に、入院となった経緯を記載してください。	
17	分娩時間	第1期	時間 分	分娩第1期の時間を記載してください。	
18		第2期	時間 分	分娩第2期の時間を記載してください。	
19		第3期	時間 分	分娩第3期の時間を記載してください。	
20	入院から分娩第3期終了までの時間		時間 分	入院から分娩第3期終了までの時間を記載してください。	
21	第3期終了から帰宅までの時間		時間 分	第3期終了から、分娩室から入所室（居室）へ移動するまでの時間を記載してください。なお、分娩室と入所室（居室）が同一の場合は、第3期終了から助産師が分娩時ケアを終了するまでの時間、出張助産の場合は、第3期終了から助産師が分娩時ケアから離れ帰宅するまでの時間を記載してください。	
22	分娩第1期～4期までの出血量		ml		
23	会陰裂傷		1.有 2.無	会陰裂傷があった場合は有を選択して下さい。	
24	分娩時の特記事項（例：回旋異常、微弱陣痛等）		(自由記載)	分娩時の特記事項について自由に記載してください。	

(4) 分娩・入院中の処置等（臨時応急の処置を含む）			回答欄	留意点等
a.分娩時				
25	血管確保	1.有 2.無		包括指示に基づき血管確保を行った際には、有を選択してください。
26	輸液投与	1.有 2.無		包括指示に基づき輸液投与を行った際には、有を選択してください。
27	子宮収縮薬投与	1.有 2.無		包括指示に基づき子宮収縮薬投与を行った際には、有を選択してください。
28	抗菌薬投与	1.有 2.無		包括指示に基づき抗菌薬投与を行った際は、有を選択してください。
29	会陰切開	1.有 2.無		会陰切開を行った場合は有を選択して下さい。
30	会陰縫合	1.有 2.無		会陰縫合を行った際には有を選択してください。
b.産褥入院				
31	退院前の評価	日程	産後()日目	退院前の子宮・腔・会陰の回復などの評価を行った日にちを記載してください。例：産後4日目
32		内診	1.有 2.無	退院前の評価のために内診を行う場合は有を選択してください。
33		経膣超音波・経腹超音波	1.有 2.無	退院前の評価のために経膣超音波・経腹超音波を行う場合は有を選択してください。
34	産褥入院日数			産褥入院の日数を記載してください（分娩日は含めない。例えば分娩後5日目で退院した場合は、5日）
（5）入院中の助産ケア				
35	母子同室の有無	1.有 2.無		複数の助産ケアの項目を一体的に提供した場合は、主たる助産ケアの項目に計上してください。
36	授乳指導の回数とかかる時間	平均的な1日あたりの回数		入院期間中に母子同室がある場合は有を選択してください。
37		1入院あたりの合計回数		個別指導及び集団指導を含みます。
38		1回あたりの平均的な時間（個別指導の場合）		産後授乳指導の時間の1回あたりの平均時間を記載ください。 集団指導の場合は、1人あたりの指導時間に換算して計上ください。（例：〔集団指導の時間〕÷〔集団指導の対象人数〕）
39		1回あたりの平均的な時間（集団指導の場合）		
40	個別の乳房・乳頭のケア（乳房マッサージ等）	平均的な1日あたりの回数		
41		1入院あたりの合計回数		
42		1回あたりの時間		
43	沐浴指導の回数とかかる時間	1入院あたりの合計回数		個別指導及び集団指導を含みます。
44		1回あたりの平均的な時間（個別指導の場合）		集団指導の場合は、1人あたりの指導時間に換算して計上ください。（例：〔集団指導の時間〕÷〔集団指導の対象人数〕）
45		1回あたりの平均的な時間（集団指導の場合）		
46	調乳指導の回数とかかる時間	1入院あたりの合計回数		個別指導及び集団指導を含みます。
47		1回あたりの平均的な時間（個別指導の場合）		集団指導の場合は、1人あたりの指導時間に換算して計上ください。（例：〔集団指導の時間〕÷〔集団指導の対象人数〕）
48		1回あたりの平均的な時間（集団指導の場合）		
49	育児技術に係る指導にかかる時間（延べ時間）			抱っこ、おむつ・衣類交換、児の健康状態の見方等の育児技術に関する指導を行った合計時間を記載ください。個別指導及び集団指導を含みます。集団指導の場合は、1人あたりの指導時間に換算して計上ください。（例：〔集団指導の時間〕÷〔集団指導の対象人数〕）
50	退院指導にかかる時間（延べ時間）			
51	上記36～50以外に行っている指導の内容（自由記載）			
（6）付帯サービス				
52	付帯サービスの種類と実施の有無	お祝い膳	1.有 2.無	
53		写真撮影	1.有 2.無	
54		足形	1.有 2.無	
55		エステ（※乳房マッサージは除く）	1.有 2.無	
56		その他（自由記載）		

(7) 新生児関連

a.新生児の概要

57	出生時の体重	
58	在院日数（出生日を0日として、退院日を記載）	

留意点等

出生時の体重を記載してください。

b.新生児へ提供した処置・ケア等

59	新生児の観察	助産師による観察日数 （入院中に限る）	
60	新生児への処置・ケア	採血（足底からの採血を含む）	1.対象 2.対象外
61		ミルタ黄疸計測定	1.有 2.無
62		出生直後血糖測定	1.対象 2.対象外
63		SpO2モニター装着 （出生直後等）	1.有 2.無
64		アプニアセンサー装着	1.有 2.無
65		先天性代謝異常等検査	1.有 2.無
66		新生児聴覚検査	1.有 2.無
67		保温（保育器収容を含む）	1.有 2.無
68		臍処置	1.有 2.無
69		皮膚ケア	1.有 2.無
70		ビタミンK2内服	1.有 2.無
71		沐浴・ドライケア（清拭）の回数 （入院中に限る）	
72		その他新生児へ提供した 処置・ケア（自由記載）	

(8) 費用

以下の項目の費用内訳を記載してください。出産育児一時金の直接支払制度を利用した場合は、専用請求書への記載内容を記載してください。

73	入院料	
74	室料差額	
75	分娩料	
76	新生児管理保育料	
77	検査・薬剤料	
78	処置・手当料	
79	産科医療補償制度の掛金	
80	その他	
81	妊婦合計負担額	
82	備考	

3. 産婦個票（正常分娩）

3事例目

産婦の選択方法：
調査月において、月末までに入所した全産婦について前向き調査をお願いいたします。
出張による自宅等での分娩介助や、他病院等でのオープンシステムによる分娩介助も回答に含んでください。
分娩途中で搬送となった産婦も1例として受け持ち終了までの情報で判明している部分のみ記載をお願いいたします。4事例以上入所した場合は、個票とタイムスタディをコピーして記載ください。

			回答欄			留意点等	
（1）産婦の概要							
1	年齢				歳	対象となる産婦の分娩日における年齢を記載してください。	
2	産婦の住所	都道府県				里帰りした先の住所ではなく、産婦の居住場所の住所を記載してください。 注：札幌市、仙台市、さいたま市、千葉市、横浜市、川崎市、相模原市、新潟市、静岡市、浜松市、名古屋市、京都市、大阪市、堺市、神戸市、岡山市、広島市、北九州市、福岡市、熊本市の場合は、その先の区まで記載してください。	
3		市区町村					
4	身長				cm	産婦の身長を記載してください。	
5	非妊時体重				kg	産婦の妊娠前の体重を記載してください。	
6	妊娠中の体重増加量				kg	入院後計測を行わなかった場合は、直近の妊婦健診での体重を元に記載してください。	
7	分娩時の妊娠週数			週 日		出産の時の妊娠週数を記載してください。	
8	分娩経験(いずれか1つ選択)		1.初産 2.経産			初産もしくは経産を選択してください。	
9	分娩開始前入院時間数				時間	前期破水などで分娩開始前に助産所に入院した場合の時間数を記載してください。 ※例えば前駆陣痛などで一旦退院した場合は、再度入院した日からの時間数を記載してください。	
（2）搬送の有無							
10	搬送	搬送の有無	1.有 2.無			複数回答可。	
11		搬送となった時期	1.分娩期（母体搬送） 2.産褥入院中 3.新生児（入院中）				
12		（搬送した場合）理由					搬送となった理由を記載してください。
13		（搬送した場合）搬送先	1.嘱託医 2.嘱託医療機関 3.連携医療機関 4.その他の医療機関				搬送先の医療機関を教えてください。
14		（搬送した場合）搬送までのサマリー					母体搬送した場合、搬送までの経過を簡潔に記載してください。
（3）分娩の概要							
15	分娩場所		1.助産所 2.産婦自宅（実家等を含む） 3.他助産所（オープンシステム） 4.病院（オープンシステム） 5.診療所（オープンシステム）			有床助産所での分娩介助は1、出張による自宅での分娩介助は2、オープンシステムでの分娩介助は場所によって3～5を選択してください。	
16	入院（出張の場合は訪問）の経緯（陣痛発来、前期破水など） (いずれか1つ選択)		1.陣痛発来 2.前期破水 3.その他 ()			分娩を含む入院の場合に、入院となった経緯を記載してください。	
17	分娩時間	第1期		時間 分		分娩第1期の時間を記載してください。	
18		第2期		時間 分		分娩第2期の時間を記載してください。	
19		第3期		時間 分		分娩第3期の時間を記載してください。	
20	入院から分娩第3期終了までの時間			時間 分		入院から分娩第3期終了までの時間を記載してください。	
21	第3期終了から帰宅までの時間			時間 分		第3期終了から、分娩室から入所室（居室）へ移動するまでの時間を記載してください。なお、分娩室と入所室（居室）が同一の場合は、第3期終了から助産師が分娩時ケアを終了するまでの時間、出張助産の場合は、第3期終了から助産師が分娩時ケアから離れ帰宅するまでの時間を記載してください。	
22	分娩第1期～4期までの出血量				ml		
23	会陰裂傷		1.有 2.無			会陰裂傷があった場合は有を選択して下さい。	
24	分娩時の特記事項（例：回旋異常、微弱陣痛等）		(自由記載)			分娩時の特記事項について自由に記載してください。	

(4) 分娩・入院中の処置等 (臨時応急の処置を含む)			回答欄	留意点等
a.分娩時				
25	血管確保	1.有 2.無		包括指示に基づき血管確保を行った際には、有を選択してください。
26	輸液投与	1.有 2.無		包括指示に基づき輸液投与を行った際には、有を選択してください。
27	子宮収縮薬投与	1.有 2.無		包括指示に基づき子宮収縮薬投与を行った際には、有を選択してください。
28	抗菌薬投与	1.有 2.無		包括指示に基づき抗菌薬投与を行った際は、有を選択してください。
29	会陰切開	1.有 2.無		会陰切開を行った場合は有を選択して下さい。
30	会陰縫合	1.有 2.無		会陰縫合を行った際には有を選択してください。
b.産褥入院				
31	退院前の評価	日程	産後()日目	退院前の子宮・腔・会陰の回復などの評価を行った日にちを記載してください。例：産後4日目
32		内診	1.有 2.無	退院前の評価のために内診を行う場合は有を選択してください。
33		経腔超音波・経腹超音波	1.有 2.無	退院前の評価のために経腔超音波・経腹超音波を行う場合は有を選択してください。
34	産褥入院日数			産褥入院の日数を記載してください (分娩日は含めない。例えば分娩後5日目で退院した場合は、5日)
(5) 入院中の助産ケア				
35	母子同室の有無	1.有 2.無		複数の助産ケアの項目を一体的に提供した場合は、主たる助産ケアの項目に計上してください。
36	授乳指導の回数とかかる時間	平均的な 1 日あたりの回数		入院期間中に母子同室がある場合は有を選択してください。
37		1 入院あたりの合計回数		個別指導及び集団指導を含みます。
38		1 回あたりの平均的な時間 (個別指導の場合)		産後授乳指導の時間の 1 回あたりの平均時間を記載ください。 集団指導の場合は、1 人あたりの指導時間に換算して計上ください。(例：[集団指導の時間] ÷ [集団指導の対象人数])
39		1 回あたりの平均的な時間 (集団指導の場合)		
40	個別の乳房・乳頭のケア (乳房マッサージ等)	平均的な 1 日あたりの回数		
41		1 入院あたりの合計回数		
42		1 回あたりの時間		
43	沐浴指導の回数とかかる時間	1 入院あたりの合計回数		個別指導及び集団指導を含みます。
44		1 回あたりの平均的な時間 (個別指導の場合)		集団指導の場合は、1 人あたりの指導時間に換算して計上ください。(例：[集団指導の時間] ÷ [集団指導の対象人数])
45		1 回あたりの平均的な時間 (集団指導の場合)		
46	調乳指導の回数とかかる時間	1 入院あたりの合計回数		個別指導及び集団指導を含みます。
47		1 回あたりの平均的な時間 (個別指導の場合)		集団指導の場合は、1 人あたりの指導時間に換算して計上ください。(例：[集団指導の時間] ÷ [集団指導の対象人数])
48		1 回あたりの平均的な時間 (集団指導の場合)		
49	育児技術に係る指導にかかる時間 (延べ時間)			抱っこ、おむつ・衣類交換、児の健康状態の見方等の育児技術に関する指導を行った合計時間を記載ください。個別指導及び集団指導を含みます。集団指導の場合は、1 人あたりの指導時間に換算して計上ください。(例：[集団指導の時間] ÷ [集団指導の対象人数])
50	退院指導にかかる時間 (延べ時間)			
51	上記36～50以外に行っている指導の内容 (自由記載)			
(6) 付帯サービス				
52	付帯サービスの種類と実施の有無	お祝い膳	1.有 2.無	
53		写真撮影	1.有 2.無	
54		足形	1.有 2.無	
55		エステ (※乳房マッサージは除く)	1.有 2.無	
56		その他 (自由記載)		

(7) 新生児関連

a.新生児の概要

57	出生時の体重	
58	在院日数（出生日を0日として、退院日を記載）	

留意点等

出生時の体重を記載してください。

9日

b.新生児へ提供した処置・ケア等

59	新生児の観察	助産師による観察日数 （入院中に限る）		日
60	新生児への処置・ケア	採血（足底からの採血を含む）	1.対象 2.対象外	回
61		ミルタ黄疸計測定	1.有 2.無	
62		出生直後血糖測定	1.対象 2.対象外	
63		SpO2モニター装着 （出生直後等）	1.有 2.無	
64		アプニアセンサー装着	1.有 2.無	
65		先天性代謝異常等検査	1.有 2.無	
66		新生児聴覚検査	1.有 2.無	
67		保温（保育器収容を含む）	1.有 2.無	
68		臍処置	1.有 2.無	
69		皮膚ケア	1.有 2.無	
70		ビタミンK2内服	1.有 2.無	
71		沐浴・ドライケア（清拭）の回数（入院中に限る）		
72	その他新生児へ提供した 処置・ケア（自由記載）			

(8) 費用

以下の項目の費用内訳を記載してください。出産育児一時金の直接支払制度を利用した場合は、専用請求書への記載内容を記載してください。

73	入院料		円
74	室料差額		円
75	分娩料		円
76	新生児管理保育料		円
77	検査・薬剤料		円
78	処置・手当料		円
79	産科医療補償制度の掛金		円
80	その他		円
81	妊婦合計負担額		円
82	備考		円

タイムスタディ
(記載例)

記載方法：★分娩が複数日にわたる場合はお手数ですが、p17～p18を印刷いただき、記載いただけますと幸いです。

①「入院、児娩出、分娩終了、帰室（分娩室やLDRから産婦が入院している部屋に入る時刻）」については、該当する時間に●を記載してください。

②「経過」には、分娩の進行や異常所見の出現等、産婦の経過において契機となる状態が出現した場合に記載をお願いいたします。

③「助産師」「看護師」の項目（アルファベット）は、各アルファベット1つにつき1名の割り当てをお願いいたします。その助産師、看護師が産婦に対面で接していた（看護・助産ケア等していた）時間に⇄を記載ください。

④「産婦のそば以外での分娩監視装置監視者」に関しては、産婦には接していないが分娩監視装置のモニターを監視している時間を⇄で表し、監視している者を⇄の上に記載ください。複数人いる場合は複数記載してください。

⑤分娩監視装置使用時間は産婦に対して分娩監視装置を使用している時間を⇄で記載ください。

⑥「実施したケア等の内容」の欄は、各時間の実施したケアについて該当するものをチェックしてください。該当するケア以外のものを実施した場合は、その内容を「その他」欄にご記入をお願いいたします。

		6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4	5	6
入院				●																						
児娩出																	●									
分娩終了（分娩第3期終了）																	●									
帰室																			●							
経過																	トイレ 後早発 一過性 徐脈あり	怒責感+								
助産師	A							⇄		⇄																
	B				⇄	⇄	⇄																			
	C								⇄			⇄	⇄	⇄	⇄	⇄	⇄									
	D																	⇄	⇄	⇄						
	E																									
	F																									
	G																									
看護師	A																⇄	⇄								
	B																									
産婦のそば以外での分娩監視装置監視者					⇄	⇄	助 A	⇄		⇄	⇄	⇄	⇄	⇄	⇄	⇄	⇄	⇄								
分娩監視装置使用時間					⇄	⇄	⇄	⇄	⇄	⇄	⇄	⇄	⇄	⇄	⇄	⇄	⇄	⇄	⇄							
実施したケア等の内容	内診	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	ドップラー聴取	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	点滴管理 ¹⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	バイタルサイン測定	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	産痛緩和 ²⁾	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	温電法 ³⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	足浴	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	シャワー浴	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	入浴 ⁴⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	トイレ歩行	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	食事介助	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	体位交換・歩行のサポート ⁵⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	清拭・更衣	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	破水・出血の観察／パット交換	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
その他 ⁶⁾																		輪状マッ サージ								

※実施したケア内容について、該当する箇所にチェックをいれてください。

1) オキシトシン等の点滴管理を含む 2) 温電法、足浴、シャワー浴、入浴といったここに掲載されているケア以外の方法（マッサージ等）での産痛緩和を実施した場合にチェック 3) ホットパック等を使用した温電法を行った場合にチェック

4) 湯舟にお湯をためて入浴した場合にチェック 5) 分娩の進行を促進する等を目的として、産婦の体位を調整する、歩行に付き添うなどした場合にチェック 6) アロマや酸素投与などのその他の処置やケアを自由記載で記載してください

タイムスタディ（分娩）1事例目 1日目

		6	7		8		9		10		11		12		13		14		15		16		17		18		19		20		21		22		23		24		1	2	3	4	5	6						
入院																																																		
児娩出																																																		
分娩終了（分娩第3期終了）																																																		
帰室																																																		
経過																																																		
助産師	A																																																	
	B																																																	
	C																																																	
	D																																																	
	E																																																	
	F																																																	
	G																																																	
看護師	A																																																	
	B																																																	
ベッドサイド以外での分娩監視装置監視者																																																		
分娩監視装置使用時間																																																		
実施したケア等の内容	内診	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	ドップラー聴取	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	点滴管理 ¹⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	バイタルサイン測定	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐				

※実施したケア内容について、該当する箇所をチェックをいれてください。

- 1）オキシトシン等の滴下管理を含む
- 2）温電法、足浴、シャワー浴、入浴といったここに掲載されているケア以外の方法（マッサージ等）での産痛緩和を実施した場合にチェック
- 3）ホットパック等を使用した温電法を行った場合にチェック
- 4）湯舟にお湯をためて入浴した場合にチェック
- 5）分娩の進行を促進する等を目的として、産婦の体位を調整する、歩行に付き添うなどした場合にチェック
- 6）アロマや酸素投与などのその他の処置やケアを自由記載で記載してください

タイムスタディ（分娩） 1事例目 2日目

		6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4	5	6
入院																										
児娩出																										
分娩終了（分娩第3期終了）																										
帰室																										
経過																										
助産師	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
	E																									
	F																									
	G																									
看護師	A																									
	B																									
ベッドサイド以外での分娩監視装置監視者																										
分娩監視装置使用時間																										
実施したケア等の内容	内診	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	ドップラー聴取	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	点滴管理 ¹⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	バイタルサイン測定	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	産痛緩和 ²⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	温電法 ³⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	足浴	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	シャワー浴	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	入浴 ⁴⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	トイレ歩行	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐			

※実施したケア内容について、該当する箇所をチェックをいれてください。

- 1）オキシトシン等の滴下管理を含む
- 2）温電法、足浴、シャワー浴、入浴といったここに掲載されているケア以外の方法（マッサージ等）での産痛緩和を実施した場合にチェック
- 3）ホットパック等を使用した温電法を行った場合にチェック
- 4）湯舟にお湯をためて入浴した場合にチェック
- 5）分娩の進行を促進する等を目的として、産婦の体位を調整する、歩行に付き添うなどした場合にチェック
- 6）アロマや酸素投与などのその他の処置やケアを自由記載で記載してください

タイムスタディ（分娩） 2事例目 1日目

		6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4	5	6
入院																										
児娩出																										
分娩終了（分娩第3期終了）																										
帰室																										
経過																										
助産師	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
	E																									
	F																									
	G																									
看護師	A																									
	B																									
ベッドサイド以外での分娩監視装置監視者																										
分娩監視装置使用時間																										
実施したケア等の内容	内診	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	ドップラー聴取	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	点滴管理 ¹⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	バイタルサイン測定	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	産痛緩和 ²⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	温電法 ³⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	足浴	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	シャワー浴	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	入浴 ⁴⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	トイレ歩行	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	食事介助	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	体位交換・歩行のサポート ⁵⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	清拭・更衣	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	破水・出血の観察／パット交換	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	その他 ⁶⁾																									

※実施したケア内容について、該当する箇所をチェックをいれてください。

- 1）オキシトシン等の滴下管理を含む
- 2）温電法、足浴、シャワー浴、入浴といったここに掲載されているケア以外の方法（マッサージ等）での産痛緩和を実施した場合にチェック
- 3）ホットパック等を使用した温電法を行った場合にチェック
- 4）湯舟にお湯をためて入浴した場合にチェック
- 5）分娩の進行を促進する等を目的として、産婦の体位を調整する、歩行に付き添うなどした場合にチェック
- 6）アロマや酸素投与などのその他の処置やケアを自由記載で記載してください

タイムスタディ（分娩）2事例目 2日目

		6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4	5	6
入院																										
児娩出																										
分娩終了（分娩第3期終了）																										
帰室																										
経過																										
助産師	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
	E																									
	F																									
	G																									
看護師	A																									
	B																									
ベッドサイド以外での分娩監視装置監視者																										
分娩監視装置使用時間																										
実施したケア等の内容	内診	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	ドップラー聴取	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	点滴管理 ¹⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	バイタルサイン測定	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	産痛緩和 ²⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	温電法 ³⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	足浴	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	シャワー浴	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	入浴 ⁴⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	トイレ歩行	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	食事介助	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	体位交換・歩行のサポート ⁵⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	清拭・更衣	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	破水・出血の観察／パット交換	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	その他 ⁶⁾																									

※実施したケア内容について、該当する箇所をチェックをいれてください。

- 1）オキシトシン等の滴下管理を含む
- 2）温電法、足浴、シャワー浴、入浴といったここに掲載されているケア以外の方法（マッサージ等）での産痛緩和を実施した場合にチェック
- 3）ホットパック等を使用した温電法を行った場合にチェック
- 4）湯舟にお湯をためて入浴した場合にチェック
- 5）分娩の進行を促進する等を目的として、産婦の体位を調整する、歩行に付き添うなどした場合にチェック
- 6）アロマや酸素投与などのその他の処置やケアを自由記載で記載してください

タイムスタディ（分娩）3事例目 1日目

		6	7		8		9		10		11		12		13		14		15		16		17		18		19		20		21		22		23		24		1	2	3	4	5	6						
入院																																																		
児娩出																																																		
分娩終了（分娩第3期終了）																																																		
帰室																																																		
経過																																																		
助産師	A																																																	
	B																																																	
	C																																																	
	D																																																	
	E																																																	
	F																																																	
	G																																																	
看護師	A																																																	
	B																																																	
ベッドサイド以外での分娩監視装置監視者																																																		
分娩監視装置使用時間																																																		
実施したケア等の内容	内診	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	ドップラー聴取	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	点滴管理 ¹⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
	バイタルサイン測定	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐						

※実施したケア内容について、該当する箇所をチェックをいれてください。

- 1）オキシトシン等の滴下管理を含む
- 2）温電法、足浴、シャワー浴、入浴といったここに掲載されているケア以外の方法（マッサージ等）での産痛緩和を実施した場合にチェック
- 3）ホットパック等を使用した温電法を行った場合にチェック
- 4）湯舟にお湯をためて入浴した場合にチェック
- 5）分娩の進行を促進する等を目的として、産婦の体位を調整する、歩行に付き添うなどした場合にチェック
- 6）アロマや酸素投与などのその他の処置やケアを自由記載で記載してください

タイムスタディ（分娩） 3事例目 2日目

		6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4	5	6
入院																										
児娩出																										
分娩終了（分娩第3期終了）																										
帰室																										
経過																										
助産師	A																									
	B																									
	C																									
	D																									
	E																									
	F																									
看護師	G																									
	A																									
	B																									
ベッドサイド以外での分娩監視装置監視者																										
分娩監視装置使用時間																										
実施したケア等の内容	内診	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	ドップラー聴取	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	点滴管理 ¹⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	バイタルサイン測定	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	産痛緩和 ²⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	温電法 ³⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	足浴	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	シャワー浴	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	入浴 ⁴⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	トイレ歩行	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	食事介助	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	体位交換・歩行のサポート ⁵⁾	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	清拭・更衣	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	破水・出血の観察／パット交換	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
その他 ⁶⁾																										

※実施したケア内容について、該当する箇所をチェックをいれてください。

1）オキシトシン等の滴下管理を含む 2）温電法、足浴、シャワー浴、入浴といったここに掲載されているケア以外の方法（マッサージ等）での産痛緩和を実施した場合にチェック 3）ホットパック等を使用した温電法を行った場合にチェック

4）湯舟にお湯をためて入浴した場合にチェック 5）分娩の進行を促進する等を目的として、産婦の体位を調整する、歩行に付き添うなどした場合にチェック 6）アロマや酸素投与などのその他の処置やケアを自由記載で記載してください

4. 外来概要

令和6年9月1日時点

(1) 妊婦健診

回答欄

留意点等

1	助産所における妊婦の平均的な妊婦健診の受診回数		回	令和6年9月に分娩された妊婦（多胎は除いてください。また、セミオープンシステムや里帰りなどで途中から貴施設で妊婦健診を受診された方は除いてください。）について、妊婦健診として受診した平均的な回数を小数点1桁までお答えください。 例：分娩された4人について、それぞれ妊婦健診の回数が8回、9回、10回、11回だった場合、 (8+9+10+11)/4=9.5回
2	助産所における妊婦の平均的な妊婦健診の費用の合計額		円	令和6年9月に分娩された妊婦（多胎は除いてください。また、セミオープンシステムや里帰りなどで途中から貴施設で妊婦健診を受診された方は除いてください。）について、妊婦健診の費用（自治体で補助される費用も含みます）の一人当たり平均額をお答えください（小数点以下は四捨五入してください）。 例：分娩された4人について、それぞれ妊婦健診の費用が6万円、7万円、8万円、9万円だった場合、 (6+7+8+9)/4=7.5万円
3	2のうち、自治体の補助を除いた、平均的な妊婦の窓口負担の合計額		円	2のうち、自治体の補助を除いた、窓口での妊婦への請求額の平均額をお答えください（小数点以下は四捨五入してください）。
4	2のうち、妊婦健診の望ましい基準に含まれない健診項目の費用の合計額		円	2のうち、妊婦健診の望ましい基準に含まれる項目を除いた健診項目（追加の超音波検査やNSTなど）の費用の一人当たり平均額をお答えください（小数点以下は四捨五入してください）。

※妊婦健診の望ましい基準

【厚生労働省「妊婦に対する健康診査についての望ましい基準」に示されている項目】

1.超音波検査（4回） 2.血液型等の検査（ABO血液型、Rh血液型及び不規則抗体に係るもの） 3.B型肝炎抗原検査
4.C型肝炎抗体検査 5.HIV抗体検査 6.梅毒血清反応検査 7.風疹ウイルス抗体検査 8.血糖検査 9.血算検査
10.HTLV-1抗体検査 11.子宮頸がん検診 12.性器クラミジア検査 13.B群溶血性レンサ球菌検査

(2) 妊婦健診において所在地自治体の補助に含まれない検査で、基礎疾患のない一般的な妊婦に対して実施している項目（保険診療を除く）

	項目	費用	回数
5		円	回
6		円	回
7		円	回
8		円	回
9		円	回

例）超音波検査（助成回数を超える分）、NSTなど

(3) 産婦健診

※行っていない場合は、空欄としてください。

※所在自治体との委託契約の内容を基に回答ください

		産婦健診費用①	自治体の補助・助成の有無	(1.有の場合) 自治体の補助額※②	産婦への請求 (①-②)
10	分娩後2週間頃	円	1.有 2.無	円	円
11	分娩後4週間頃	円	1.有 2.無	円	円
12	その他（分娩後()週間頃）	円	1.有 2.無	円	円

(4) 産婦健診以外の産婦を対象とした診察・ケア（産後ケア※を除く）

※ここでの産後ケアは自治体委託と自費の産後ケア両方を指します。

	項目	費用	1ヶ月間の外来人数
13		円	人
14		円	人
15		円	人

調査へのご協力ありがとうございました。現在、「妊娠・出産・産後における妊産婦等の支援策等に関する検討会」において、妊娠・出産・産後に関する様々な支援等の更なる強化の方向性について議論が行われています。この議論に関して、ご意見があれば以下に記載をお願いします。

(自由記述欄)

分娩取扱施設における出産に係る費用構造の把握のための調査研究 調査票（B票）
収益等（助産所）

ID

1. 基本データ

① 直近の2事業年（度）

（個人立以外の助産所のみ記入してください。）

令和5年3月末までに終了した事業年（度）

令和 年 月 ～ 令和 年 月

令和6年3月末までに終了した事業年（度）

令和 年 月 ～ 令和 年 月

※個人立の場合は、令和4年1月1日から令和4年12月31日まで及び令和5年1月1日から令和5年12月31日までの期間が「直近の2事業年（度）」となるため、記入の必要はありません。

② 貴助産所の活動状況

（令和6年3月31日現在、該当する番号を○付けてください。）

- 1 直近の2事業年（度）の間及び現在、活動している
- 2 その他（直近の2事業年（度）の途中に開設、現在は休止、廃止等）

※回答が「2」の場合は、ここでこれ以降の調査は終了となります。このまま本調査票をご返送ください。

③ 貴助産所の開設者が保有する施設の状況

（令和6年3月31日現在、該当する番号を○付けてください。）

- 1 調査対象助産所のみ保有している
- 2 調査対象助産所以外の施設（病院、診療所等）も保有している

④ 消費税の経理方式

（令和6年3月31日現在、該当する番号を○付けてください。）

- 1 税込
- 2 税抜

※次頁以降で記入していただく金額等は、ここで選択した経理方式に従って記入してください。

2. 損益

○直近の2事業年（度）それぞれの収益及び費用の額を記入してください。

○個人立助産所は、令和4年1月1日から令和4年12月31日まで及び令和5年1月1日から令和5年12月31日までの期間が直近の2事業年（度）となります。

○法人全体で包括して経理を行っているような場合でも、調査対象となった助産所分のみを推計して記入してください。

○数字を記入する欄が0の場合は「0」を必ず記入してください。

① 収益

（助産所全体）

科 目	金額（令和5年3月末までの事業年（度））					金額（令和6年3月末までの事業年（度））				
	億	百万	千	円		億	百万	千	円	
1 出産の収益										
2 妊婦健診等の健診の収益										
3 その他の収益										
4 収益合計										

② 費用

科 目	金額（令和5年3月末までの事業年（度））					金額（令和6年3月末までの事業年（度））				
	億	百万	千	円		億	百万	千	円	
1 給与費										
1-1.（うち）通勤手当										
1-2.（うち）法定福利費										
2 医薬品費										
3 診療材料費・医療消耗器具備品費										
4 給食用材料費										
5 委託費										
5-1.（うち）給食委託費										
5-2.（うち）人材委託費										
6 減価償却費										
6-1.（うち）建物減価償却費										
6-2.（うち）医療機器減価償却費										
7 その他の費用										
7-1.（うち）土地賃借料										
7-2.（うち）設備機器賃借料										
7-2-1.（うち）医療機器賃借料										
7-3.（うち）水道光熱費										
7-4.（うち）控除対象外消費税等負担額（※1）										
8 費用合計										

※1 経理方式が税抜の場合のみ記入してください。

③ 損益差額

科 目	金額（令和5年3月末までの事業年（度））					金額（令和6年3月末までの事業年（度））				
	億	百万	千	円		億	百万	千	円	
1 損益差額（収益合計－費用合計）										

④ 税金（法人税・住民税）

科 目	金額（令和5年3月末までの事業年（度））					金額（令和6年3月末までの事業年（度））				
	億	百万	千	円		億	百万	千	円	
1 税金（法人税・住民税）合計										

※個人立助産所については記入の必要はありません。

⑤ 税引後の総損益差額

科 目	金額（令和5年3月末までの事業年（度））					金額（令和6年3月末までの事業年（度））				
	億	百万	千	円		億	百万	千	円	
1 税引後の総損益差額（損益差額－税金）										

※個人立助産所については記入の必要はありません。

3. 給与

- 直近の2事業年（度）における、調査対象となった助産所で直接業務に従事する**常勤職員**に対して支払った給与の状況について、職種別に記入してください。
個人立助産所は、令和4年1月1日から令和4年12月31日まで及び令和5年1月1日から令和5年12月31日までの期間が直近の2事業年（度）となります。
- 各事業年（度）の「延べ人員（人月）」欄に記入する人月数は、各事業年（度）における月別給与支給人員の年（度）間合計です。例えば、2人の職員が在籍し、そのうちの1人が1年間（12ヶ月）従事しており、もう1人が半年間（6ヶ月）だけ従事していた場合には、「延べ従事人月」は18人月となります。
- 数字を記入する欄が0の場合は「0」を必ず記入してください。

① 令和5年3月末までの事業年（度）の常勤職員給料・賞与

常 勤 職 員（令和5年3月末までの事業年（度））												
職 種	延べ人員（人月）				給 料	賞 与						
	人	月	億	百万		千	円	億	百万	千	円	
1 管理者（個人立の開設者本人を除く）												
2 助産師												
3 看護職員（助産師除く）												
4 看護補助職員												
5 事務職員（上記の職種に従事している者を除く）												
6 その他の職員												
7 役員（上記の職種に従事している者を除く）												
8 合 計												

② 令和6年3月末までの事業年（度）の常勤職員給料・賞与

常 勤 職 員（令和6年3月末までの事業年（度））												
職 種	延べ人員（人月）				給 料				賞 与			
			人月		億	百万	千	円	億	百万	千	円
1 管理者（個人立の開設者本人を除く）												
2 助産師												
3 看護職員（助産師除く）												
4 看護補助職員												
5 事務職員（上記の職種に従事している者を除く）												
6 その他の職員												
7 役員（上記の職種に従事している者を除く）												
8 合 計												

分婉手当がある場合は、1分婉あたりの分婉手当の金額を記入ください。

円

4. 資産・負債

- 直近の2事業年（度）の末日における資産及び負債の額を記入してください。個人立助産所は、令和4年12月31日及び令和5年12月31日が直近の2事業年（度）の末日となります。
- 法人全体で包括して貸借対照表が作成されているような場合には、面積、従事者数の割合など、調査対象となった助産所分の実態を最も適切に反映していると思われる係数で按分し、調査対象となった助産所分の金額を記入してください。
- 数字を記入する欄が0の場合は「0」を必ず記入してください。

個人立助産所における青色申告「貸借対照表（資産負債調）」の税務署への提出状況。

※提出していない場合、資産・負債の記入の必要はありません。

1.提出している

2.提出していない

①資 産 の 部

科 目	金額（令和5年3月末までの事業年（度））					金額（令和6年3月末までの事業年（度））				
	億	百万	千	円		億	百万	千	円	
1 流動資産										
2 固定資産										
3 繰延資産										
4 資 産 合 計										

②負 債 の 部

科 目	金額（令和5年3月末までの事業年（度））					金額（令和6年3月末までの事業年（度））				
	億	百万	千	円		億	百万	千	円	
5 流動負債										
6 固定負債										
6-1（うち）長期借入金										
7 負 債 合 計										

5. 設備投資額

- 直近の2事業年（度）中に新規に取得した資産にかかる取得価額を記入してください。個人立助産所は、令和4年1月1日から令和4年12月31日まで及び令和5年1月1日から令和5年12月31日までの期間が直近の2事業年（度）となります。
- 上記の金額のうち、直近の2事業年（度）中に新規にリース契約を締結した場合には、当該設備の取得価額（リース期間中のリース料総額）を「（うち）リース分」の欄に記入してください。ただし、固定資産に計上されているものに限りです。
- 数字を記入する欄が0の場合は「0」を必ず記入してください。

科 目	金額（令和5年3月末までの事業年（度））					金額（令和6年3月末までの事業年（度））				
	億	百万	千	円		億	百万	千	円	
1 設備投資額（土地を含む）										
1-1.（うち）建物（建物附属設備を含み、土地を除く）										
1-2.（うち）医療機器										
1-2-1.（うち）リース分										
1-3.（うち）医療情報システム用機器										
1-3-1.（うち）リース分										
2 設備投資額のうち消費税課税対象の投資額										

第8回妊娠・出産・産後における妊産婦等の 支援策等に関する検討会

令和6年度厚生労働行政推進調査事業費補助金
(政策科学総合研究事業 (政策科学推進研究事業))

分娩取扱施設を対象とした 「分娩取扱施設における出産に係る費用構造の 把握のための調査研究」について

2025年3月19日 (水) (15:00～17:00)



研究代表者 野口晴子 (早稲田大学 政治経済学術院)

研究分担者 片岡弥恵子 (聖路加国際大学 大学院看護学研究科)

研究の背景・目的・体制

➤ 研究の背景

- ✓ 「こども未来戦略方針」（令和5年6月13日閣議決定）→出産等の経済的負担の軽減を目的として、令和5年4月からの出産育児一時金の大幅な引上げを行い、出産費用の見える化について令和6年度からの実施に向けて具体化を進め、その上で、これらの効果等の検証を行い、令和8年度を目途に出産費用（正常分娩）の保険適用の導入等の検討を行う。
- ✓ 正常分娩は自費診療であり、病院・診療所・助産所の全施設を対象として費用構造を明らかにした大規模調査は存在しない。

➤ 研究の目的

- ✓ 正常分娩を取り扱う医療機関等を対象に、出産等の費用構造等の実態を把握すること
 - 2024年度に実施されたパイロット調査を基にして検討を行った調査方法と調査項目により、全国の分娩取扱施設を対象とした調査を実施。
 - 調査結果に基づき、記述統計量と回帰分析を用いた統計的検証を実施。

➤ 研究体制

研究班構成メンバー		所属
野口 晴子	研究代表者	早稲田大学 政治経済学術院 教授
片岡 弥恵子	研究分担者	聖路加国際大学 大学院看護学研究科 教授
増澤 祐子	研究分担者	聖路加国際大学 大学院看護学研究科 准教授
亀井 良政	研究協力者	公益社団法人日本産科婦人科学会 常務理事
田倉 智之	研究協力者	日本大学医学部社会医学系医療管理学分野
宮崎 亮一郎	研究協力者	公益社団法人日本産婦人科医会 常務理事

研究概要

□ 対象：全国の分娩取扱施設

□ 目的：施設の構造や実績・患者の実態・費用構造等を調査

□ 方法：郵送とオンライン（Excelシート）の併用調査

□ 調査種別と対象数：

✓ 悉皆調査（病院：911件；診療所：936件；助産所：326件）

✓ サンプル調査（1/2（約50%）を抽出：病院：499件；診療所：469件）

※調査時点で「分娩取扱無し」と回答した施設は除外

□ 調査票：5種類 → A票は悉皆調査用；B票はサンプル調査用

✓ 病院票 A票

✓ 病院票 B票 → 特定機能病院（82）に対しては，サンプル調査も悉皆で実施

✓ 診療所票 A票

✓ 診療所票 B票

✓ 助産所票 A・B票 → 助産所に対しては全て悉皆で実施

調査実施

□ 悉皆調査（A票）

✓ 調査期間

9月の1か月間→※助産所は分娩数が少ないため9月又は10月のいずれかの1か月間

✓ 調査内容

- ・ 施設情報（構造設備・医療体制・分娩件数・付帯サービスの種類や価格等）
- ・ 病棟情報（→病院のみ，病棟構成・配置職員数等）
- ・ 外来情報

□ サンプル調査（B票）

✓ 調査期間

9月の1か月間→※助産所は分娩数が少ないため9月又は10月のいずれかの1か月間

✓ 調査内容

業務時間情報；患者情報（各施設3例）；経営実態等

✓ 調査対象

分娩件数・設置主体・機能・地域別（総務省の地域コード）で層化し、抽出率1/2（約50%）で病院・診療所を無作為抽出．

✓ サンプリング数の根拠

2023年度に実施したパイロット調査の有効回答率（約30%）を基に，1,000例程度の患者票を得ることを想定（※各施設3例として約333施設からの回答が必要）．

調査票の回収状況

施設	調査票	対象数	回収	回収率
病院	A票	911	341	37.4%
	B票 ¹⁾	500	145	29.0%
	患者個票（施設） ²⁾	500	124	24.8%
	患者個票（事例） ³⁾	1,500	308	20.5%
	タイムスタディ（事例） ⁴⁾		254	
診療所	A票	936	465	49.7%
	B票 ¹⁾	469	196	41.8%
	患者個票（施設） ²⁾	469	174	37.1%
	患者個票（事例） ³⁾	1,407	477	33.9%
	タイムスタディ（事例） ⁴⁾		408	
助産所	A票	326	206	63.2%
	B票 ¹⁾	326	161	49.4%
	患者個票（施設） ²⁾	326	150	46.0%
	患者個票（事例） ³⁾	978	287	29.3%
	タイムスタディ（事例） ⁴⁾		246	
計	A票	2,173	1,012	46.6%
	B票 ¹⁾	1,295	502	38.8%
	患者個票（施設） ²⁾	1,295	448	34.6%
	患者個票（事例） ³⁾	3,885	1,072	27.6%
	タイムスタディ（事例） ⁴⁾		908	

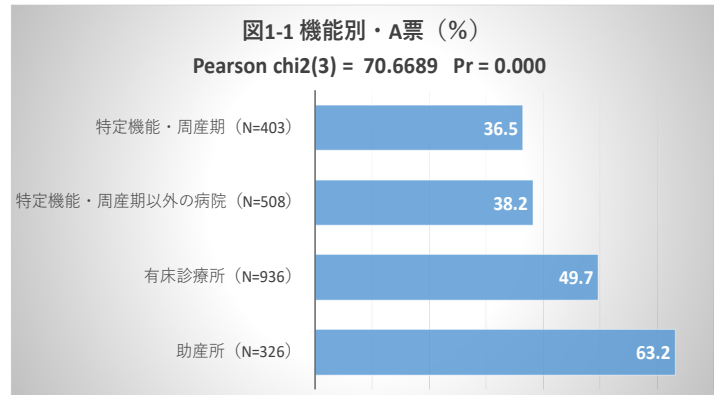
1) B票の対象施設には、1機関につき3事例の患者個票（タイムスタディ含む）を依頼した。

2) B票に回答した施設のうち、患者個票に回答のあった施設数

3) 患者個票に回答のあった事例数

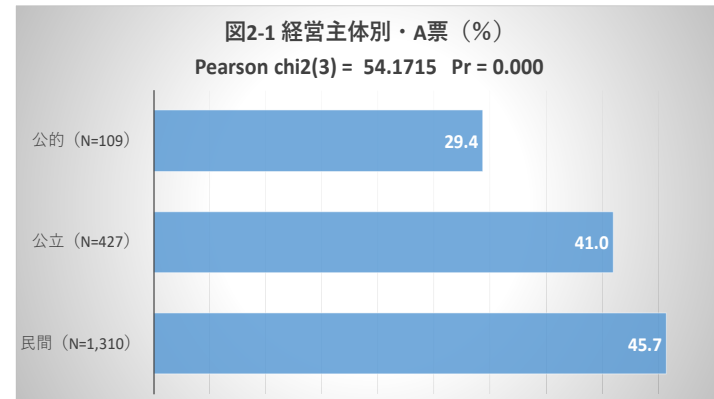
4) 患者個票の回答のあった事例のうち、タイムスタディに回答のあった事例数

施設属性別・有効回答数（率）（1）：悉皆調査（A票）



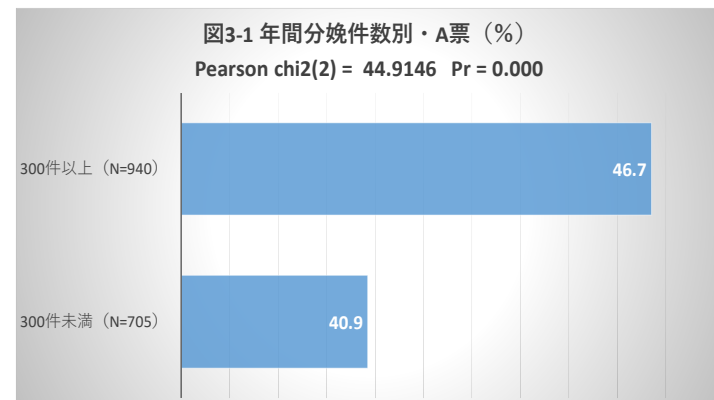
✓ 機能別

助産所が最も高く326施設中206施設（63.2%），次いで有床診療所が936施設中465施設（49.7%），低迷したのが病院で，特定機能・周産期が403施設中147施設（36.5%），特定機能・周産期以外の病院が508施設中194施設（38.2%）．カイ二乗検定（ $\chi^2 = 70.6689$ ($p = 0.000$)) から，1%未満の水準で，機能別の有効回答率の違いは統計的に有意（図1-1参照）．



✓ 経営主体別（助産所を除く）

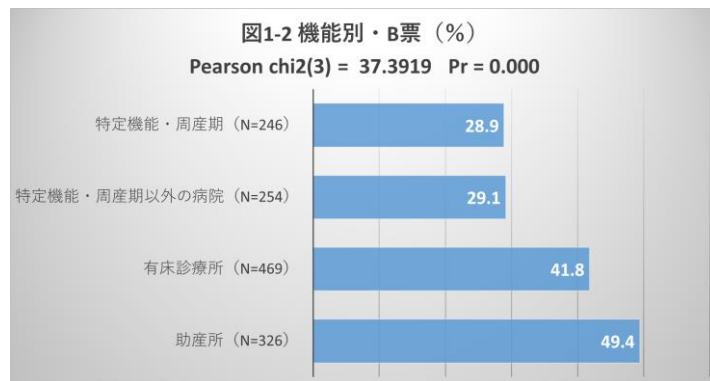
民間が1,310施設中599施設（45.7%）と最も高く，公立が427施設中175施設（41%），公的が109施設中32施設（29.4%）．カイ二乗検定（ $\chi^2 = 54.1715$ ($p = 0.000$)) から，1%未満の水準で，経営主体別の有効回答率の違いは統計的に有意（図2-1参照）．



✓ 年間分娩件数別（助産所を除く）

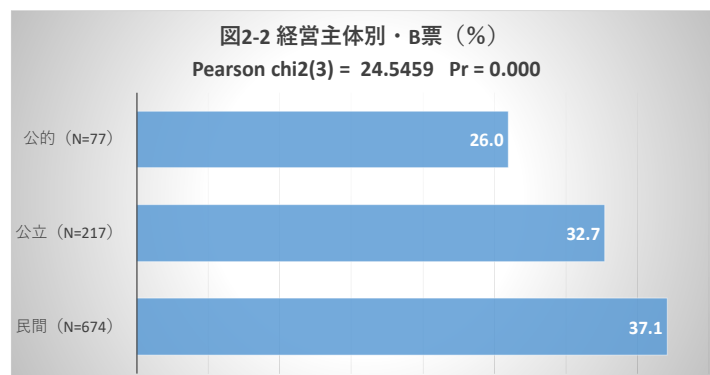
300件以上の施設が940施設中439施設（46.7%），300件未満の施設が705施設中288施設（40.9%）と低い傾向．カイ二乗検定（ $\chi^2 = 44.9146$ ($p = 0.000$)) で，分娩規模別の有効回答率の違いは統計的には有意（図3-1参照）．

施設属性別・有効回答数（率）（2）：サンプル調査（B票）



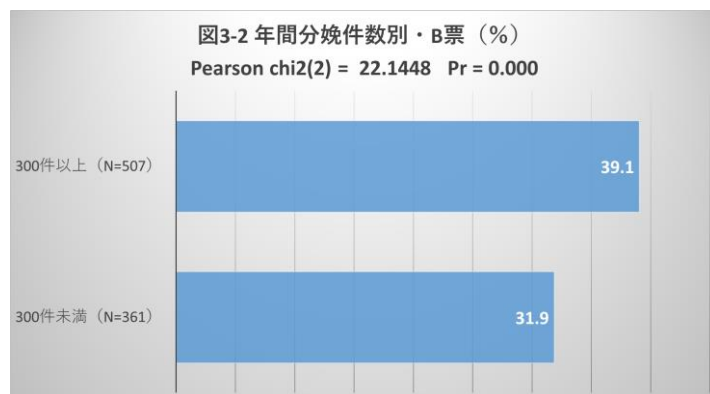
✓ 機能別

助産所が最も高く326施設中123施設（49.4%），次いで有床診療所が469施設中196施設（41.8%），低迷したのが病院で，特定機能・周産期が246施設中71施設（28.9%），特定機能・周産期以外の病院が254施設中74施設（19.1%）。カイ二乗検定（ $\chi^2 = 37.3919$ ($p = 0.000$)) から，1%未満の水準で，機能別の有効回答率の違いは統計的に有意（図1-2参照）。



✓ 経営主体別（助産所を除く）

民間が674施設中250施設（37.1%）と最も高く，公立が217施設中71施設（32.7%），公的が77施設中20施設（26%）。カイ二乗検定（ $\chi^2 = 24.5459$ ($p = 0.000$)) から，1%未満の水準で，経営主体別の有効回答率の違いは統計的に有意（図2-2参照）。



✓ 年間分娩件数別（助産所を除く）

300件以上の施設が507施設中198施設（39.1%），300件未満の施設が361施設中115施設（31.9%）と低い傾向。カイ二乗検定（ $\chi^2 = 22.1448$ ($p = 0.000$)) で，分娩規模別の有効回答率の違いは統計的には有意（図3-2参照）。

都道府県別・有効回答数（率）（1）：悉皆調査（A票）

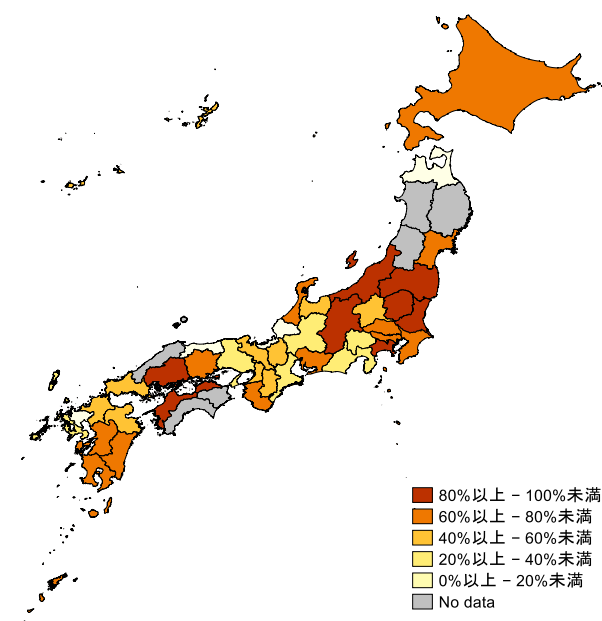
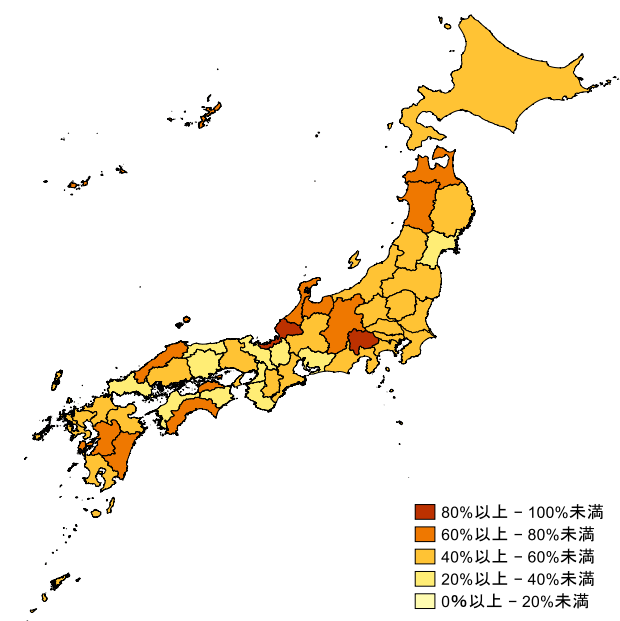
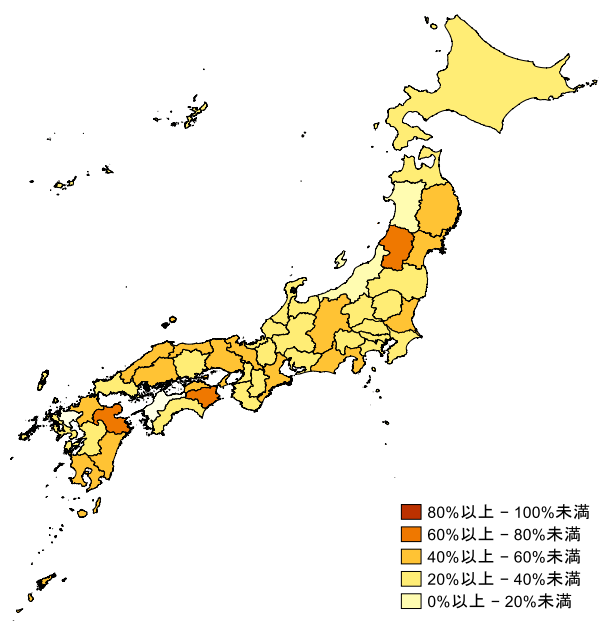


図4-1 都道府県別・有効回答率の分布
(病院)

図5-1 都道府県別・有効回答率の分布
(診療所)

図6-1 都道府県別・有効回答率の分布
(助産所)

都道府県別・有効回答数（率）（2）：サンプル調査（B票）

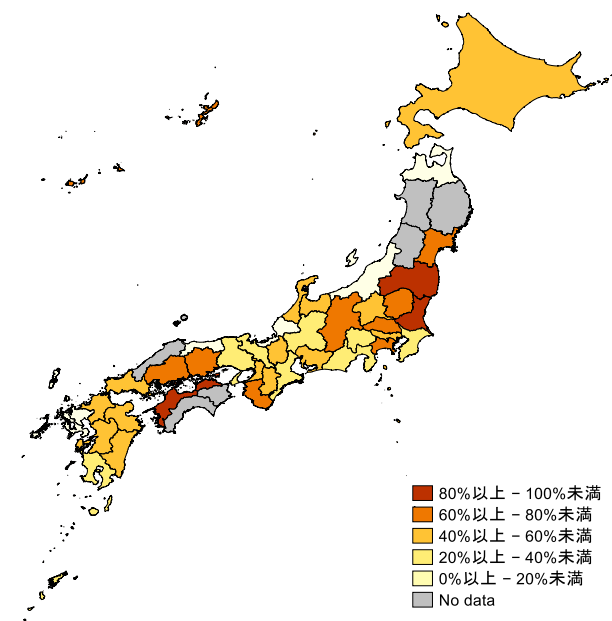
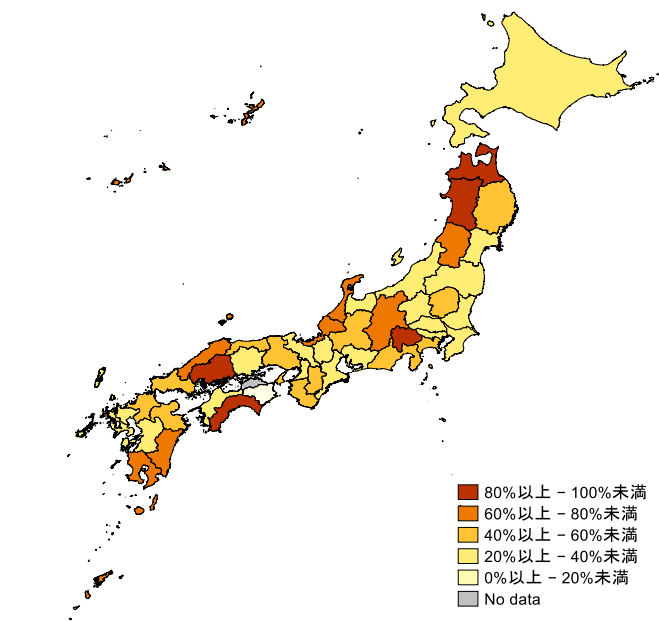
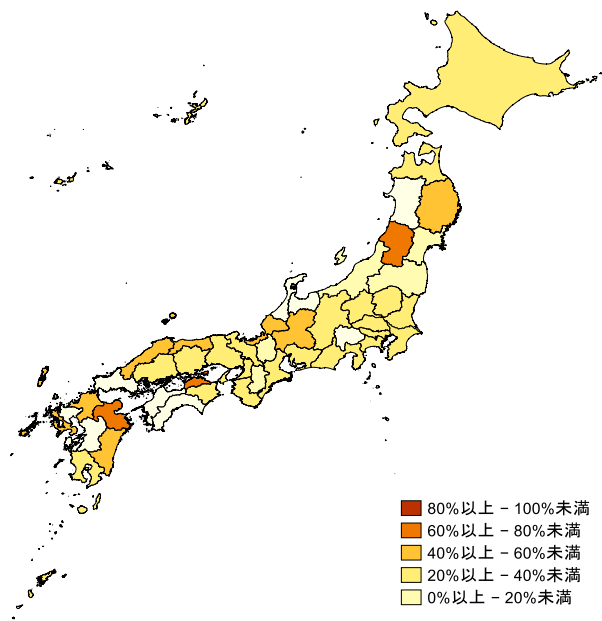


図4-2 都道府県別・有効回答率の分布
(病院)

図5-2 都道府県別・有効回答率の分布
(診療所)

図6-2 都道府県別・有効回答率の分布
(助産所)

有効回答数（率）に対する要因分析（分布の違い）（１）：悉皆調査（A票）

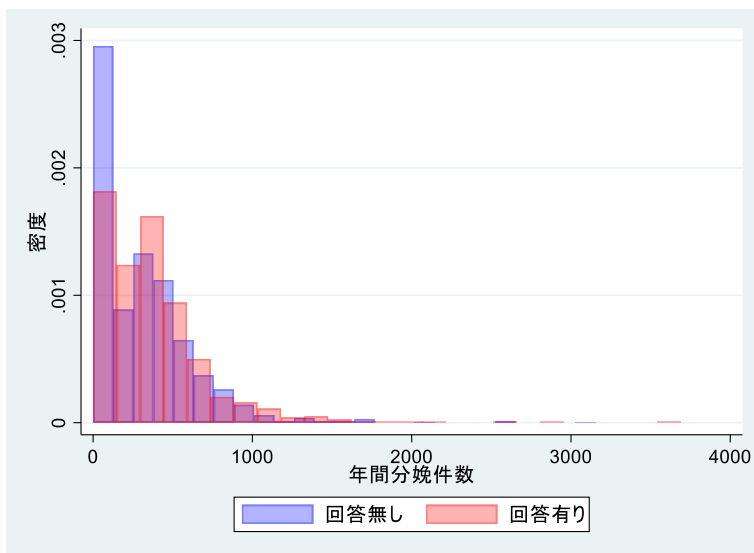


図7-1 回答の有無別・年間の分娩件数の分布
t検定=-3.7741***

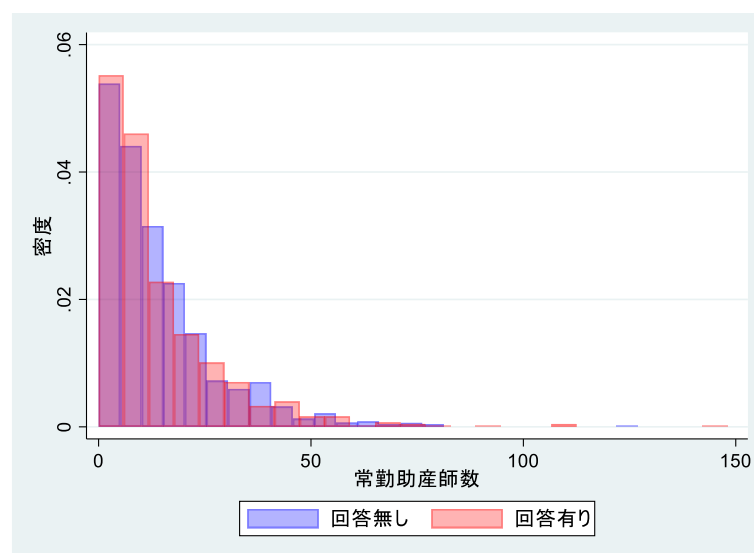


図8-1 回答の有無別・常勤助産師数の分布
t検定= 0.4846

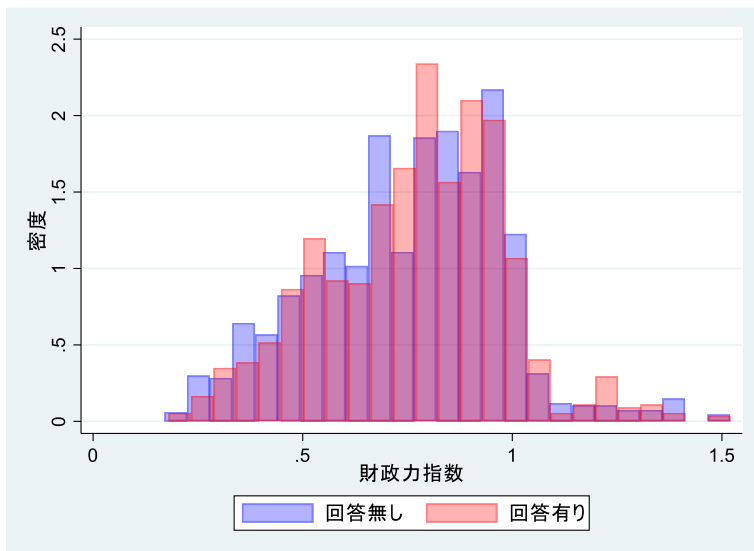


図9-1 回答の有無別・財政力指数の分布
t検定=-1.8464**

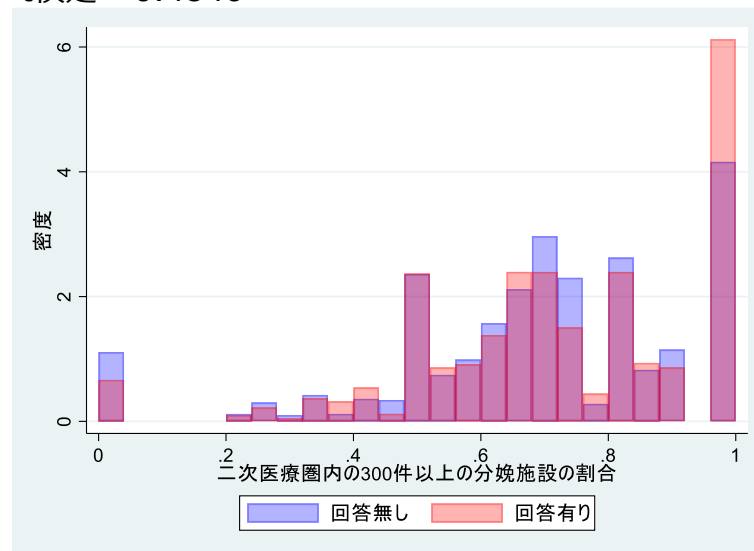


図10-1 回答の有無別・二次医療圏内の300件以上の分娩施設の割合の分布
t検定= -3.3818***

注) ***, **, *はそれぞれ, 1%, 5%, 10%水準で、回答の有無別での各変数の差が統計的に有意であることを示す

有効回答数（率）に対する要因分析（分布の違い）（2）：サンプル調査（B票）

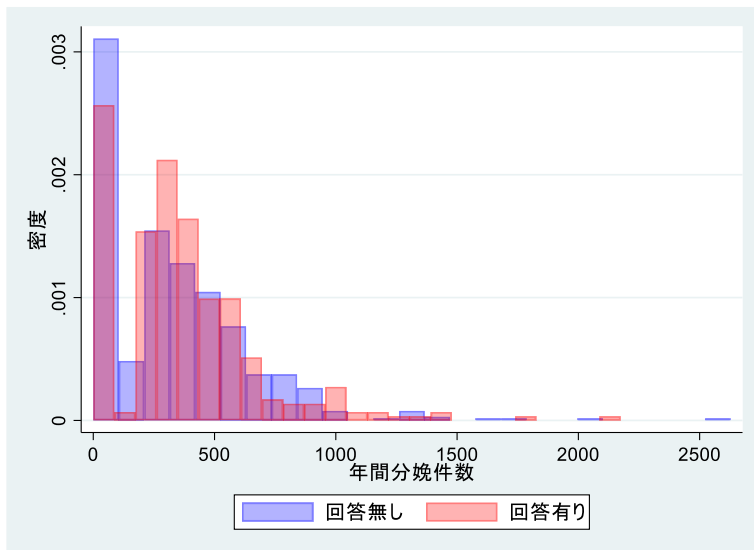


図7-2 回答の有無別・年間の分娩件数の分布
t検定=-1.8080**

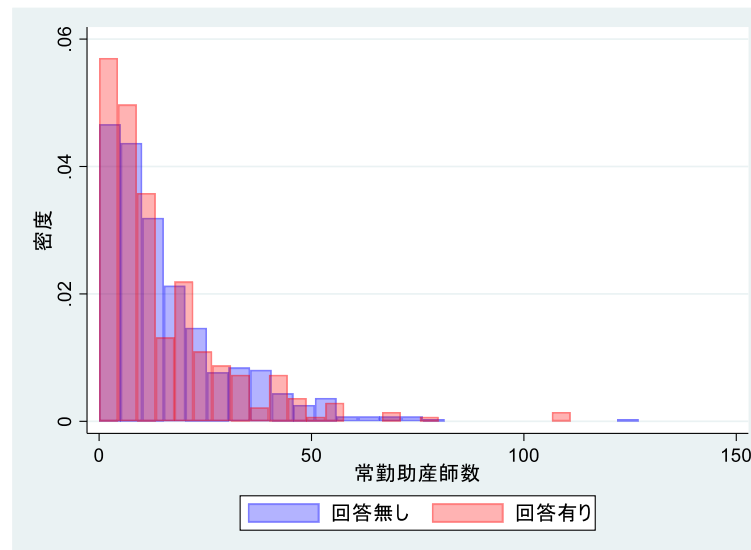


図8-2 回答の有無別・常勤助産師数の分布
t検定=-0.8263

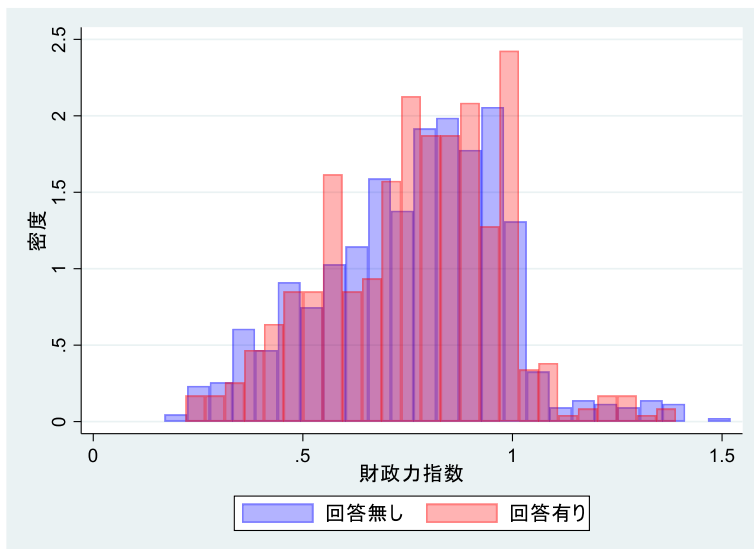


図9-2 回答の有無別・財政力指数の分布
t検定=-0.6251

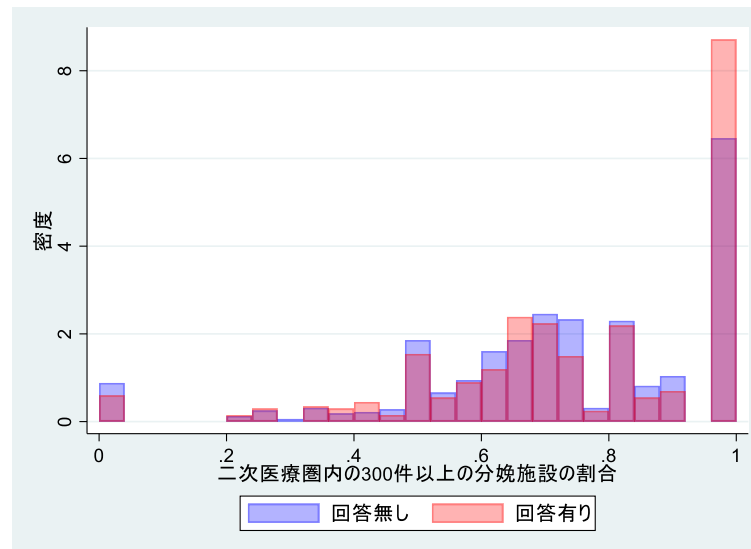


図10-2 回答の有無別・二次医療圏内の300件以上の分娩施設の割合の分布
t検定=-6.0432***

注) ***, **, *はそれぞれ, 1%, 5%, 10%水準で、回答の有無別での各変数の差が統計的に有意であることを示す

有効回答数（率）に対する要因分析（１）：悉皆調査（A票）

表1-1: 回答率に対する要因分析（助産所を除く）

－ Probit回帰, 及び, Logistic回帰

	Probit dF/dx	Logistic odds ratio
特定機能以外の病院	0.147 *** (0.049)	1.818 *** (0.383)
有床診療所	0.283 *** (0.064)	3.255 *** (0.939)
公的医療機関	0.175 *** (0.060)	(2.071) *** (0.532)
民間医療機関	0.089 (0.063)	(1.462) (0.403)
年間の分娩件数	0.037 *** (0.008)	1.164 *** (0.040)
病棟病床数	-0.0005 * (0.0003)	0.998 * (0.001)
常勤看護師数	0.001 * (0.0003)	1.003 * (0.001)
常勤助産師数	0.003 ** (0.001)	1.012 ** (0.006)
合計特殊出生率	0.097 (0.104)	1.476 (0.635)
財政力指数(対数値)	0.101 * (0.057)	1.500 * (0.354)
1人当たり診療費(対数値)	-0.158 (0.190)	0.519 (0.410)
人口10万対病院数	0.006 (0.005)	1.025 (0.022)
人口10万対診療所数	0.001 * (0.0004)	1.003 * (0.002)
分娩件数が300件以上の施設の割合	-0.077 (0.076)	0.715 (0.226)
観測値数	1643	1643
Wald chi2(60)	146.040	142.440
Prob>chi2	0.000	0.000
Pseudo R2	0.064	0.063
Log pseudolikelihood	-1054.459	-1054.798

表1-2 回答率に対する要因分析（助産所を含む）

－ Probit回帰, 及び, Logistic回帰

	Probit dF/dx	Logistic odds ratio
特定機能以外の病院	0.018 (0.035)	1.076 (0.154)
有床診療所	0.130 *** (0.031)	1.700 *** (0.216)
助産所	0.249 *** (0.041)	2.799 *** (0.505)
合計特殊出生率	0.027 (0.089)	1.109 (0.403)
財政力指数(対数値)	0.107 ** (0.047)	1.551 ** (0.295)
1人当たり診療費(対数値)	0.010 (0.162)	1.039 (0.695)
人口10万対病院数	0.0019 (0.004)	1.008 (0.018)
人口10万対診療所数	0.0003 (0.000)	1.001 (0.001)
分娩件数が300件以上の施設の割合	-0.010 (0.066)	0.946 (0.255)
観測値数	2249	2249
Wald chi2(55)	111.550	111.070
Prob>chi2	0.000	0.000
Pseudo R2	0.036	0.036
Log pseudolikelihood	-1491.950	-1492.078

出典：「分娩取扱施設における出産に係る費用構造の把握のための調査研究」，及び，厚生労働省『令和5年度病床機能報告』

(https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/open_data_00008.html)
(閲覧日：2025年1月31日)に基づき，筆者推定。

注1)全ての回帰分析について，都道府県の固定効果による調整済み。Probit回帰は，施設によってクラスタリングされており，()内の標準誤差はrobust。

注2) ***, **, *はそれぞれ，1%，5%，10%水準で統計的に有意であることを示す。

有効回答数（率）に対する要因分析（２）：サンプル調査（Ｂ票）

表2-1: 回答率に対する要因分析（助産所を除く）

－Probit回帰, 及び, Logistic回帰		
	Probit dF/dx	Logistic odds ratio
特定機能以外の病院	0.055 (0.040)	1.425 (0.385)
有床診療所	0.157 *** (0.051)	2.941 *** (1.089)
公的医療機関	0.029 (0.045)	1.195 (0.369)
民間医療機関	0.008 (0.045)	1.040 (0.346)
年間の分娩件数	0.019 *** (0.006)	1.146 *** (0.052)
病棟病床数	-0.0001 (0.0002)	0.999 (0.0014)
常勤看護師数	0.000 (0.0002)	1.003 (0.0017)
常勤助産師数	0.001 (0.001)	1.004 (0.007)
合計特殊出生率	-0.001 (0.080)	0.962 (0.524)
財政力指数(対数値)	0.010 (0.044)	1.090 (0.339)
1人当たり診療費(対数値)	-0.113 (0.139)	0.524 (0.527)
人口10万対病院数	-0.00005 (0.004)	1.000 (0.028)
人口10万対診療所数	0.0000002 (0.0003)	1.000 (0.0021)
分娩件数が300件以上の施設の割合	-0.069 (0.057)	0.602 (0.243)
観測値数	1643	1643
Wald chi2(60)	84.680	85.130
Prob>chi2	0.020	0.018
Pseudo R2	0.054	0.054
Log pseudolikelihood	-750.328	-750.218

表2-2 回答率に対する要因分析（助産所を含む）

－Probit回帰, 及び, Logistic回帰		
	Probit dF/dx	Logistic odds ratio
特定機能以外の病院	-0.038 (0.028)	0.768 (0.144)
有床診療所	0.032 (0.026)	1.208 (0.192)
助産所	0.312 *** (0.045)	4.671 *** (0.991)
合計特殊出生率	-0.050 (0.076)	0.721 (0.332)
財政力指数(対数値)	0.048 (0.039)	1.366 (0.326)
1人当たり診療費(対数値)	-0.020 (0.132)	0.972 (0.801)
人口10万対病院数	-0.0008 (0.004)	0.996 (0.023)
人口10万対診療所数	-0.0001 (0.0003)	1.000 (0.002)
分娩件数が300件以上の施設の割合	-0.046 (0.054)	0.722 (0.248)
観測値数	2249	2249
Wald chi2(55)	175.660	184.130
Prob>chi2	0.000	0.000
Pseudo R2	0.077	0.077
Log pseudolikelihood	-1102.499	-1102.021

出典：「分娩取扱施設における出産に係る費用構造の把握のための調査研究」, 及び, 厚生労働省『令和5年度病床機能報告』

(https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/open_data_00008.html)
(閲覧日：2025年1月31日)に基づき, 筆者推定.

注1)全ての回帰分析について, 都道府県の固定効果による調整済み. Probit回帰は, 施設によってクラスタリングされており, ()内の標準誤差はrobust.

注2) ***, **, *はそれぞれ, 1%, 5%, 10%水準で統計的に有意であることを示す.

有効回答数（率）に対する要因分析（まとめ）

➤ 悉皆調査（A票）

- ✓ 特定機能病院、総合・地域周産期母子医療センターと比べ、有床診療所、それ以外の病院の順で回答率が高く、公立医療機関に比べると公的医療機関が高い傾向にあったが、民間医療機関との統計的有意差は観察されない（表1-1参照）。助産所を含むと、助産所、有床診療所、それ以外の病院の順で回答率が高い（表1-2参照）。尚、この結果は、Probit/Logisticモデル間でも頑健。
- ✓ 年間分娩件数が多い施設ほど回答率が高い傾向にあり、この結果は記述統計量と整合的であり、Probit/Logisticモデル間でも頑健（表1-1参照）。
- ✓ 常勤の看護師・助産師数が多い施設ほど回答率が高い傾向にある一方で、病棟病床数が多いと回答率が低い傾向にある。但し、統計的有意水準は5-10%と高くない（表1-1参照）。
- ✓ 施設が所在する市区町村の財政力指数が高いほど回答率が高い傾向にあり、この結果は、助産所を除外する場合と含む場合とで整合的（表1-1 & 表1-2参照）。

➤ サンプル調査（B票）

- ✓ 施設の機能別の回答率、及び、年間分娩件数については、概ね悉皆調査と同様の結果であり、頑健である（表2-1～表3-2）。他方で、市区町村の属性については、全く統計的に有意な結果は観察されない（表2-1～表3-2）。



◆ 解析時に、地域間での有効回答率のばらつき、機能や年間分娩件数等有効回答率に統計的に有意な影響を及ぼす要因について、留意する必要性。

ご清聴
ありがとうございました



第9回妊娠・出産・産後における妊産婦等の 支援策等に関する検討会

令和6年度厚生労働行政推進調査事業費補助金
(政策科学総合研究事業 (政策科学推進研究事業))

分娩取扱施設を対象とした 「分娩取扱施設における出産に係る費用構造の 把握のための調査研究」について

2025年4月16日 (水) (14:00~16:00)



研究代表者 野口晴子

(早稲田大学 政治経済学術院)

本日の報告

1. 研究の概要
2. 分娩取扱施設の概要
3. 病棟（ユニット）における医療提供体制等
4. 患者（産婦）票の結果について
5. 妊婦健診と産後ケア
6. 分娩取扱施設の収益等
7. まとめ（全体）

1. 研究の概要

研究の背景・目的・体制

令和7年3月19日

第8回妊娠・出産・産後における
妊産婦等の支援策等に関する検討会（改）

資料3

➤ 研究の背景

- ✓ 「こども未来戦略方針」（令和5年6月13日閣議決定）→出産等の経済的負担の軽減を目的として、令和5年4月からの出産育児一時金の大幅な引上げを行い、出産費用の見える化について令和6年度からの実施に向けて具体化を進め、その上で、これらの効果等の検証を行い、令和8年度を目途に出産費用（正常分娩）の保険適用の導入等の検討を行う。
- ✓ 正常分娩は自費診療であり、病院・診療所・助産所の全施設を対象として費用構造を明らかにした大規模調査は存在しない。

➤ 研究の目的

- ✓ 正常分娩を取り扱う医療機関等を対象に、出産等の費用構造等の実態を把握すること
 - 2024年度に実施されたパイロット調査を基にして検討を行った調査方法と調査項目により、全国の分娩取扱施設を対象とした調査を実施。
 - 調査結果に基づき、記述統計量と回帰分析を用いた統計的検証を実施。

➤ 研究体制

研究班構成メンバー		所属
野口 晴子	研究代表者	早稲田大学 政治経済学術院 教授
片岡 弥恵子	研究分担者	聖路加国際大学 大学院看護学研究科 教授
増澤 祐子	研究分担者	聖路加国際大学 大学院看護学研究科 准教授 (令和7年4月より新潟県立看護大学 准教授)
亀井 良政	研究協力者	公益社団法人日本産科婦人科学会 常務理事
田倉 智之	研究協力者	日本大学医学部社会医学系医療管理学分野
宮崎 亮一郎	研究協力者	公益社団法人日本産婦人科医会 常務理事

研究概要

令和7年3月19日

第8回妊娠・出産・産後における
妊産婦等の支援策等に関する検討会

資料3

- 対象：全国の分娩取扱施設
- 目的：施設の構造や実績・患者の実態・費用構造等を調査
- 方法：郵送とオンライン（Excelシート）の併用調査
- 調査種別と対象数：
 - ✓ 悉皆調査（病院：911件；診療所：936件；助産所：326件）
 - ✓ サンプル調査（1/2（約50%）を抽出：病院：499件；診療所：469件）
 - ※調査時点で「分娩取扱無し」と回答した施設は除外
- 調査票：5種類 → A票は悉皆調査用；B票はサンプル調査用
 - ✓ 病院票 A票
 - ✓ 病院票 B票 → 特定機能病院（82）に対しては，サンプル調査も悉皆で実施
 - ✓ 診療所票 A票
 - ✓ 診療所票 B票
 - ✓ 助産所票 A・B票 → 助産所に対しては全て悉皆で実施

調査実施

令和7年3月19日

第8回妊娠・出産・産後における
妊産婦等の支援策等に関する検討会

資料3

□ 悉皆調査（A票）

✓ 調査期間

9月の1か月間→※助産所は分娩数が少ないため9月又は10月のいずれかの1か月間

✓ 調査内容

- ・ 施設情報（構造設備・医療体制・分娩件数・付帯サービスの種類や価格等）
- ・ 病棟情報（→病院のみ，病棟構成・配置職員数等）
- ・ 外来情報

□ サンプル調査（B票）

✓ 調査期間

9月の1か月間→※助産所は分娩数が少ないため9月又は10月のいずれかの1か月間

✓ 調査内容

業務時間情報；患者情報（各施設3例）；経営実態等

✓ 調査対象

分娩件数・設置主体・機能・地域別（総務省の地域コード）で層化し、抽出率1/2（約50%）で病院・診療所を無作為抽出．

✓ サンプル数の根拠

2023年度に実施したパイロット調査の有効回答率（約30%）を基に，1,000例程度の患者票を得ることを想定（※各施設3例として約333施設からの回答が必要）．

調査票の回収状況

令和7年3月19日

資料3

第8回妊娠・出産・産後における
妊産婦等の支援策等に関する検討会

施設	調査票	対象数	回収	回収率
病院	A票	911	341	37.4%
	B票 ¹⁾	500	145	29.0%
	患者個票（施設） ²⁾	500	124	24.8%
	患者個票（事例） ³⁾	1,500	308	20.5%
	タイムスタディ（事例） ⁴⁾		254	
診療所	A票	936	465	49.7%
	B票 ¹⁾	469	196	41.8%
	患者個票（施設） ²⁾	469	174	37.1%
	患者個票（事例） ³⁾	1,407	477	33.9%
	タイムスタディ（事例） ⁴⁾		408	
助産所	A票	326	206	63.2%
	B票 ¹⁾	326	161	49.4%
	患者個票（施設） ²⁾	326	150	46.0%
	患者個票（事例） ³⁾	978	287	29.3%
	タイムスタディ（事例） ⁴⁾		246	
計	A票	2,173	1,012	46.6%
	B票 ¹⁾	1,295	502	38.8%
	患者個票（施設） ²⁾	1,295	448	34.6%
	患者個票（事例） ³⁾	3,885	1,072	27.6%
	タイムスタディ（事例） ⁴⁾		908	

1) B票の対象施設には、1機関につき3事例の患者個票（タイムスタディ含む）を依頼した。

2) B票に回答した施設のうち、患者個票に回答のあった施設数

3) 患者個票に回答のあった事例数

4) 患者個票の回答のあった事例のうち、タイムスタディに回答のあった事例数

施設属性別・有効回答数（率）（1）：悉皆調査（A票）

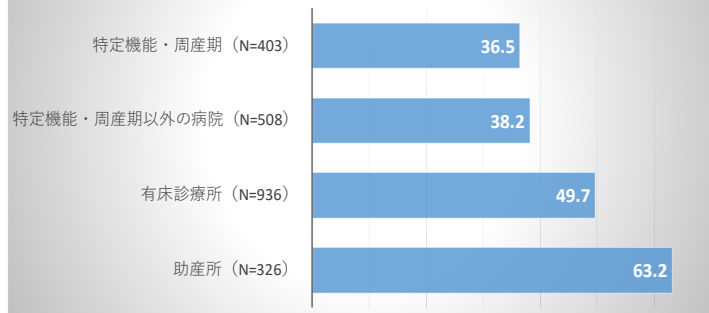
令和7年3月19日

第8回妊娠・出産・産後における
妊産婦等の支援策等に関する検討会

資料3

図1-1 機能別・A票（%）

Pearson $\chi^2(3) = 70.6689$ Pr = 0.000

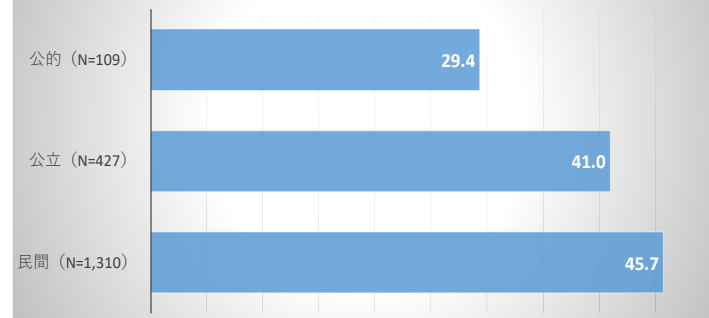


✓ 機能別

助産所が最も高く326施設中206施設（63.2%），次いで有床診療所が936施設中465施設（49.7%），低迷したのが病院で，特定機能・周産期が403施設中147施設（36.5%），特定機能・周産期以外の病院が508施設中194施設（38.2%）。カイ二乗検定（ $\chi^2 = 70.6689$ （ $p = 0.000$ ））から，1%未満の水準で，機能別の有効回答率の違いは統計的に有意（図1-1参照）。

図2-1 経営主体別・A票（%）

Pearson $\chi^2(3) = 54.1715$ Pr = 0.000

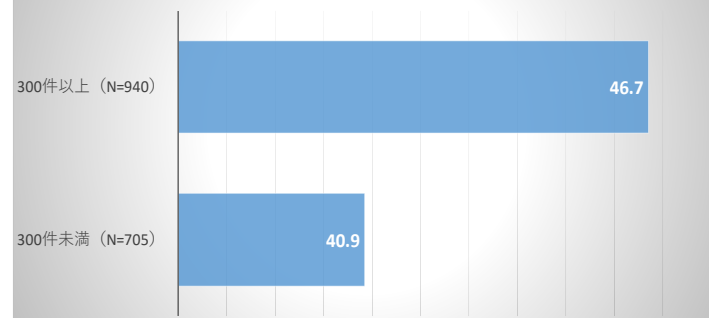


✓ 経営主体別（助産所を除く）

民間が1,310施設中599施設（45.7%）と最も高く，公立が427施設中175施設（41%），公的が109施設中32施設（29.4%）。カイ二乗検定（ $\chi^2 = 54.1715$ （ $p = 0.000$ ））から，1%未満の水準で，経営主体別の有効回答率の違いは統計的に有意（図2-1参照）。

図3-1 年間分娩件数別・A票（%）

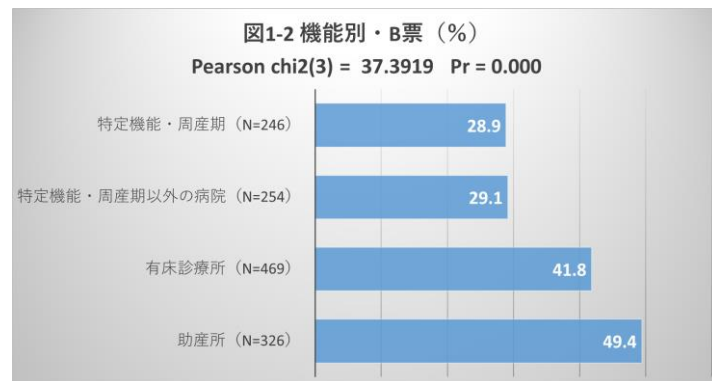
Pearson $\chi^2(2) = 44.9146$ Pr = 0.000



✓ 年間分娩件数別（助産所を除く）

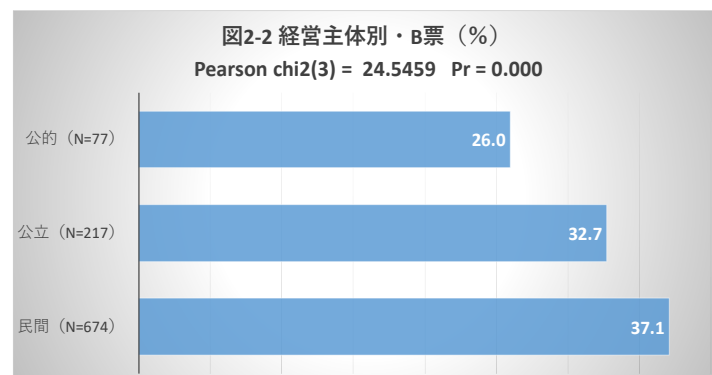
300件以上の施設が940施設中439施設（46.7%），300件未満の施設が705施設中288施設（40.9%）と低い傾向。カイ二乗検定（ $\chi^2 = 44.9146$ （ $p = 0.000$ ））で，分娩規模別の有効回答率の違いは統計的には有意（図3-1参照）。

施設属性別・有効回答数（率）（2）：サンプル調査（B票）



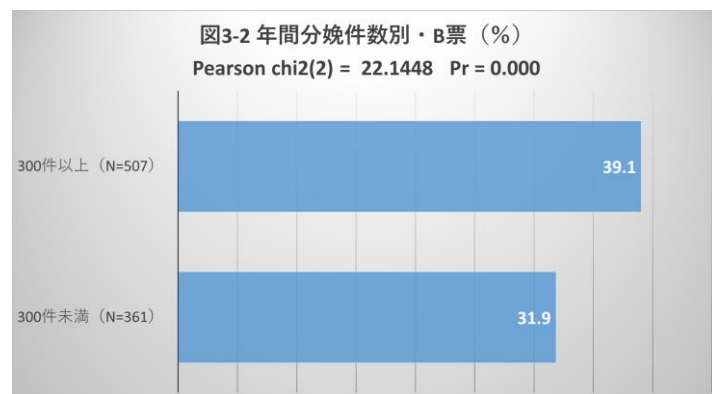
✓ 機能別

助産所が最も高く326施設中123施設（49.4%）、次いで有床診療所が469施設中196施設（41.8%）、低迷したのが病院で、特定機能・周産期が246施設中71施設（28.9%）、特定機能・周産期以外の病院が254施設中74施設（19.1%）。カイ二乗検定（ $\chi^2 = 37.3919$ ($p = 0.000$)) から、1%未満の水準で、機能別の有効回答率の違いは統計的に有意（図1-2参照）。



✓ 経営主体別（助産所を除く）

民間が674施設中250施設（37.1%）と最も高く、公立が217施設中71施設（32.7%）、公的が77施設中20施設（26%）。カイ二乗検定（ $\chi^2 = 24.5459$ ($p = 0.000$)) から、1%未満の水準で、経営主体別の有効回答率の違いは統計的に有意（図2-2参照）。



✓ 年間分娩件数別（助産所を除く）

300件以上の施設が507施設中198施設（39.1%）、300件未満の施設が361施設中115施設（31.9%）と低い傾向。カイ二乗検定（ $\chi^2 = 22.1448$ ($p = 0.000$)) で、分娩規模別の有効回答率の違いは統計的には有意（図3-2参照）。

都道府県別・有効回答数（率）（1）：悉皆調査（A票）

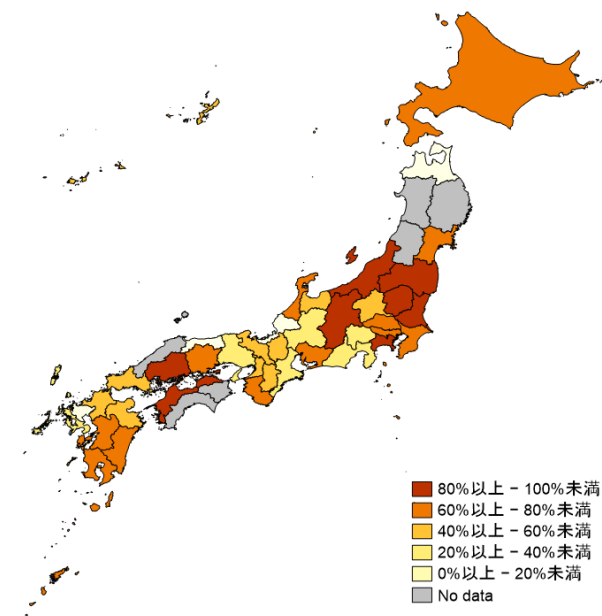
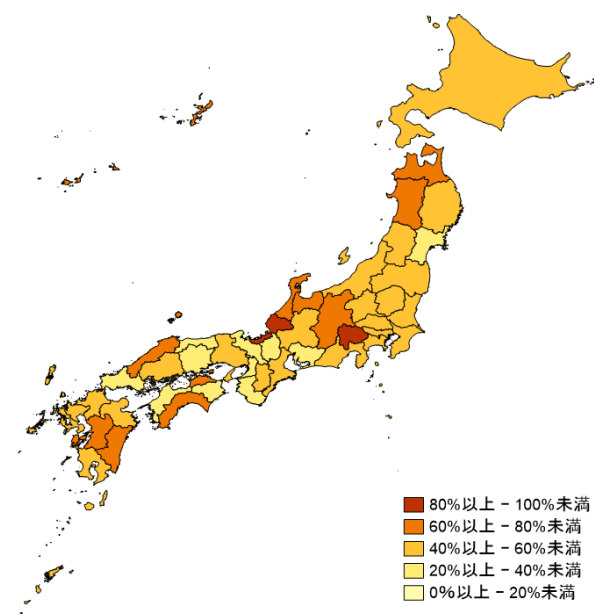
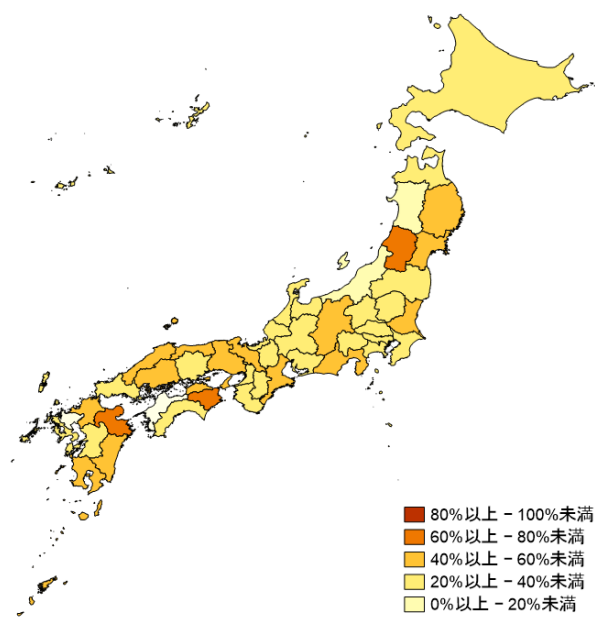


図4-1 都道府県別・有効回答率の分布
(病院)

図5-1 都道府県別・有効回答率の分布
(診療所)

図6-1 都道府県別・有効回答率の分布
(助産所)

都道府県別・有効回答数（率）（2）：サンプル調査（B票）

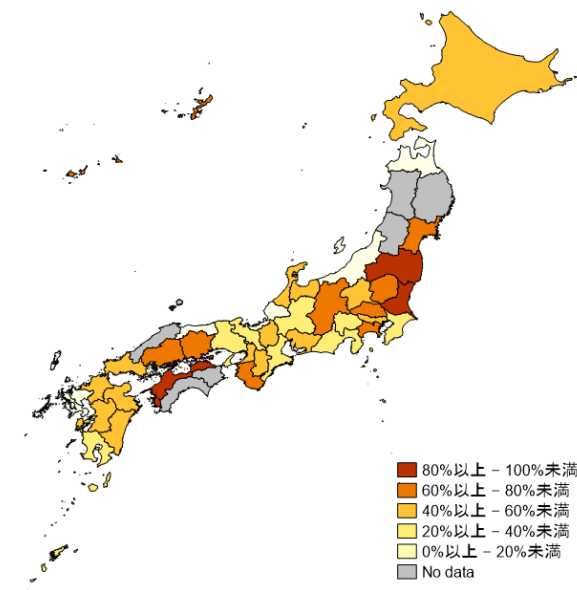
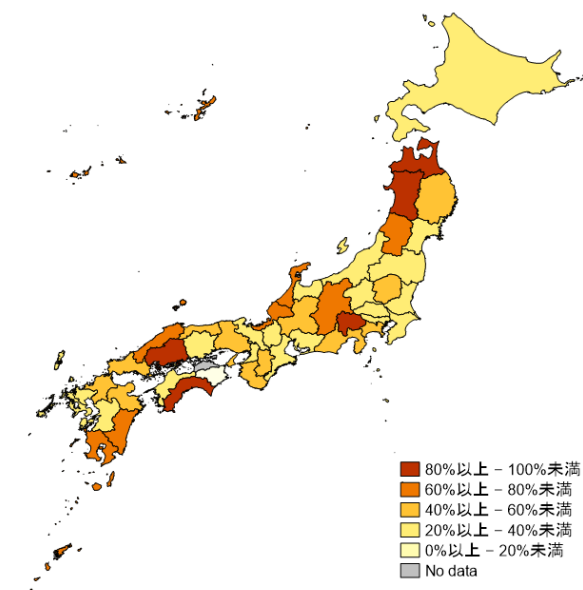
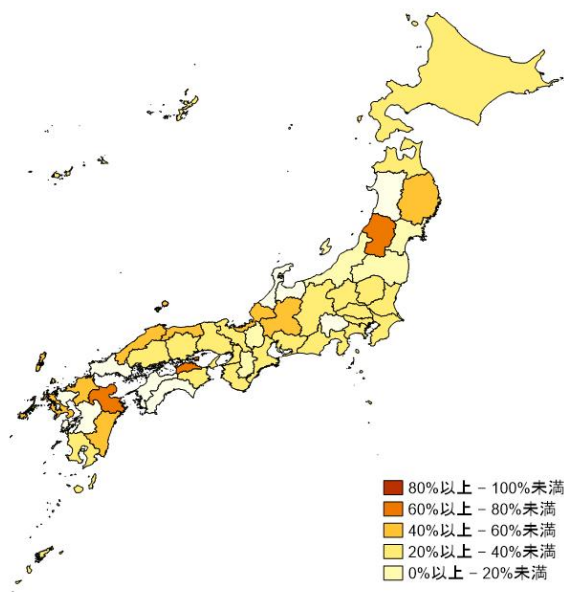


図4-2 都道府県別・有効回答率の分布
(病院)

図5-2 都道府県別・有効回答率の分布
(診療所)

図6-2 都道府県別・有効回答率の分布
(助産所)

本報告における留意事項

- 本報告の分析に用いたデータは、外れ値や誤答と思われるものが含まれているため、**速報値による報告**であることに留意いただきたい。また、令和7年度に研究班により精査を行う予定である。
- 尚、**修正や調整が可能と判断したデータ**については、研究班により統計的な処理を施した。調整内容については、**当該スライドに明記**している。
- 以上の理由により、群間での違いに対する統計的な検定は殆ど行っておらず、**群間での統計的な有意差についても、データの精査後に研究班にて行う予定**である。

2. 分娩取扱施設の概要

2 - 1. 施設区分別

構造設備

- 「分娩室数」、「分娩台数」等の設備は、総合・地域周産期母子医療センターが最も多く、続いてそれ以外の病院であった。
- 「集中監視システム機器」は、それ以外の病院で98%、総合・地域周産期母子医療センターで80%、診療所では69%が設置していた。

	総合・地域周産期母子医療センター N=180			それ以外の病院 N=148			診療所 N=465			助産所 N=204		
	n	Mean (SD)	最小最大	n	Mean (SD)	最小最大	n	Mean (SD)	最小最大	n	Mean (SD)	最小最大
分娩室数	169	2.1 (1.5)	0 9	147	1.6 (1.2)	0 5	425	1.4 (1.6)	0 19	191	1.3 (0.5)	1 2
分娩台数	170	3.0 (1.6)	0 13	148	2.7 (1.1)	0 6	444	2.0 (0.8)	0 6	—	—	
LDR室数	169	1.5 (2.0)	0 14	146	1.3 (1.5)	0 6	418	0.9 (1.2)	0 8	—	—	
陣痛室数	169	1.5 (1.4)	0 9	147	1.5 (1.4)	0 9	432	1.2 (1.2)	0 13	—	—	
超音波画像診断装置（分娩室用）台数	167	1.3 (1.1)	0 7	148	1.1 (1.6)	0 17	434	1.1 (0.9)	0 6	199	0.9 (0.5)	0 2
分娩監視装置台数	165	11.1 (6.8)	1 41	146	7.5 (3.8)	1 23	451	5.2 (2.4)	1 15	199	1.3 (0.7)	0 4
保育器（開放式）インファントウォーマー台数	167	5.2 (5.2)	0 40	147	3.7 (2.1)	1 16	456	2.0 (1.2)	0 15	199	0.1 (0.4)	0 2

	総合・地域周産期母子医療センター		それ以外の病院		診療所		助産所	
	N	n (%)	N	n (%)	N	n (%)	N	n (%)
集中監視システム機器								
あり		134 (80.2)		143 (97.9)		308 (68.8)	—	—
なし	167	33 (19.8)	146	3 (2.1)	448	140 (31.3)	—	—

※ それ以外の病院には、総合・地域周産期母子医療センター以外の病院が含まれる。

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

職員数

- 総合・地域周産期母子医療センターでは職員数が多く配置されており、「産婦人科医師数」は平均約11名、「小児科医師数」約15名、「麻酔科医師数」約11名、「助産師数」約36名であった。
- 「産婦人科医師数」の平均は、それ以外の病院で約6名、診療所で約3名であった。「小児科医師数」の平均は、それ以外の病院で約14名（うち非常勤の常勤換算10名）であった。「助産師数」の平均は、それ以外の病院で約21名、診療所約9名であった。

	総合・地域周産期母子医療センター N=180				それ以外の病院 N=148				診療所 N=465				助産所 N=204			
	n	Mean (SD)	最小	最大	n	Mean (SD)	最小	最大	n	Mean (SD)	最小	最大	n	Mean (SD)	最小	最大
産婦人科医師数																
常勤	178	9.7 (7.0)	0	36	148	5.1 (3.2)	1	24	457	1.8 (1.1)	0	10	—	—	—	—
非常勤の常勤換算	167	1.5 (2.5)	0	14.1	140	1.3 (1.8)	0	15.0	408	1.3 (1.9)	0	18.0	—	—	—	—
小児科医師数（新生児科医含）																
常勤	176	12.4 (12.6)	0	76	146	3.6 (6.9)	0	78	395	0.1 (0.4)	0	3	—	—	—	—
非常勤の常勤換算	166	2.3 (4.5)	0	23.0	134	10.0 (106.1)	0	1229.0	400	0.3 (0.6)	0	4.0	—	—	—	—
麻酔科医師数																
常勤	172	9.0 (9.1)	0	44	144	3.7 (4.5)	0	28	396	0.1 (0.4)	0	3	—	—	—	—
非常勤の常勤換算	163	2.2 (3.9)	0	21.4	139	0.8 (1.2)	0	5.4	385	0.1 (0.6)	0	8.0	—	—	—	—
助産師数																
常勤	175	33.9 (27.5)	0	195	144	18.5 (11.2)	0	51	455	6.4 (4.6)	0	29	199	1.4 (1.2)	0	10
非常勤の常勤換算	174	1.9 (3.1)	0	29.6	139	2.6 (5.7)	0	61.0	437	2.4 (2.3)	0	14.0	186	2.2 (2.8)	0	22
保健師数																
常勤	168	3.2 (11.9)	0	108	135	2.1 (7.4)	0	50	380	0 (0.3)	0	3	—	—	—	—
非常勤の常勤換算	167	0.2 (0.6)	0	3.8	134	0.1 (0.5)	0	4.6	372	0 (0.1)	0	1.0	—	—	—	—
看護師数																
常勤	174	492.5 (298.3)	4	1499	145	232.6 (223.8)	1	1110	451	3.8 (3.0)	0	17	176	0 (0.2)	0	2
非常勤の常勤換算	174	25.2 (25.5)	0	205.0	143	14.3 (15.1)	0	75.9	417	1.2 (1.5)	0	9.0	176	0.1 (0.4)	0	2
准看護師数																
常勤	169	1.8 (2.7)	0	11	142	3.0 (4.4)	0	29	435	2.3 (2.3)	0	12	175	0 (0)	0	0
非常勤の常勤換算	169	1.2 (2.0)	0	14.2	141	1.2 (2.0)	0	16.1	409	0.6 (1.0)	0	8.1	173	0.0 (0.1)	0	1

※ それ以外の病院には、総合・地域周産期母子医療センター以外の病院が含まれる。

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

※ 産婦人科医師数、小児科医師数、助産師数、看護師数等の最小値、最大値等は誤入力があると推測される。

夜勤帯・休日のオンコールの人数

- 「夜勤帯・休日に、分娩において緊急事態が生じた際に、駆け付けることができるように待機している人数（院内）」については、「産婦人科医師」の平均人数は、それ以外の病院と診療所が最も多かった。「小児科医師」は、総合・地域周産期母子医療センターで最も多かった。
- 「院外」での待機については、「産婦人科医師」の平均人数は、それ以外の病院が最も多かった。「小児科医師」は、総合・地域周産期母子医療センターとそれ以外の病院は同数であり、「麻酔科医師」は総合・地域周産期母子医療センターで多かった。

	総合・地域周産期母子医療センター N=180				それ以外の病院 N=148				診療所 N=465			
	n	Mean (SD)	最小	最大	n	Mean (SD)	最小	最大	n	Mean (SD)	最小	最大
院内												
産婦人科医師	163	0.4 (1.0)	0	11	134	0.6 (3.6)	0	42	410	0.6 (0.6)	0	2
小児科医師	158	0.3 (0.5)	0	3	133	0.1 (0.3)	0	1	365	0.0 (0.2)	0	1
麻酔科医師	156	0.2 (0.6)	0	3	131	0.1 (0.3)	0	1	369	0.1 (0.2)	0	2
その他	140	0.5 (3.0)	0	23	126	0.1 (0.5)	0	4	352	0.1 (0.3)	0	4
院外												
産婦人科医師	171	1.0 (0.8)	0	5	143	1.3 (1.7)	0	19	416	0.9 (0.7)	0	3
小児科医師	165	1.1 (2.7)	0	33	141	1.1 (4.8)	0	54	368	0.1 (0.3)	0	2
麻酔科医師	162	0.8 (0.8)	0	5	138	0.6 (0.6)	0	5	370	0.1 (0.3)	0	1
その他	139	1.1 (3.8)	0	23	126	0.4 (1.7)	0	15	346	0.2 (0.6)	0	5

※ それ以外の病院には、総合・地域周産期母子医療センター以外の病院が含まれる。

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

※ 産婦人科医師数、小児科医師数、麻酔科医師数等の最小値、最大値等は誤入力があると推測される。その他には、助産師、看護師等が含まれる。

分娩件数等

- 1か月間の「分娩数」の平均は、総合・地域周産期母子医療センターは43件、それ以外の病院36件、診療所36件であった。助産所の1年間の平均は、13件であった。正期産の「帝王切開」は、予定および緊急とも、総合・地域周産期母子医療センターが最も多かった。
- 1か月間の「無痛分娩（硬膜外麻酔）数」の平均は、それ以外の病院が最も多く、次に診療所、総合・地域周産期母子医療センターの順であった。
- 「出産目的で入院する妊産婦の最も多くみられる入院日数」は、帝王切開分娩で平均7日程度、経膈分娩で初産婦5～6日程度、経産婦5日程度であり、施設種別で大きな差はなかった。

	総合・地域周産期母子医療センター N=180				それ以外の病院 N=148				診療所 N=465				助産所 N=204			
	n	Mean (SD)	最小	最大	n	Mean (SD)	最小	最大	n	Mean (SD)	最小	最大	n	Mean (SD)	最小	最大
全分娩数	168	43.04 (42.91)	0	340	143	35.61 (29.67)	0	135	442	35.83 (63.52)	0	832	196	12.72 (13.68)	0	85
全分娩件数のうち、早産の経膈分娩件数																
鉗子分娩	159	0.03 (0.19)	0	2	129	0.00 (0.00)	0	0	379	0.01 (0.13)	0	2	—	—	—	—
吸引分娩	161	0.11 (0.40)	0	3	130	0.08 (0.56)	0	6	379	0.07 (0.43)	0	7	—	—	—	—
上記以外	162	2.52 (4.66)	0	42	134	0.58 (0.94)	0	4	393	0.44 (1.01)	0	12	—	—	—	—
全分娩件数のうち、経膈分娩件数（37週以降）																
鉗子分娩	160	0.96 (6.21)	0	72	129	0.53 (1.75)	0	13	396	0.88 (4.15)	0	48	—	—	—	—
吸引分娩	162	2.65 (4.90)	0	35	135	3.76 (4.93)	0	27	419	4.22 (12.73)	0	236	—	—	—	—
上記以外	164	20.93 (24.61)	0	191	138	21.64 (21.15)	0	98	409	19.27 (26.62)	0	371	—	—	—	—
全分娩件数のうち、早産の帝王切開術数																
予定帝王切開術数	162	0.69 (1.35)	0	9	129	0.09 (0.35)	0	3	389	0.08 (0.64)	0	10	—	—	—	—
緊急帝王切開術数	162	2.78 (3.45)	0	23	131	0.37 (0.97)	0	8	391	0.16 (0.67)	0	8	—	—	—	—
全分娩件数のうち、帝王切開術数（37週以降）																
予定帝王切開術数	163	7.45 (6.28)	0	46	139	3.99 (3.40)	0	16	432	3.36 (5.99)	0	102	—	—	—	—
緊急帝王切開術数	163	4.23 (5.14)	0	46	136	3.51 (5.56)	0	56	424	1.86 (3.87)	0	68	—	—	—	—
全分娩件数のうち、無痛分娩件数																
硬膜外麻酔	161	3.90 (12.92)	0	98	134	6.25 (12.67)	0	86	409	6.00 (30.96)	0	601	—	—	—	—
脊椎くも膜下硬膜外併用麻酔	161	0.91 (3.69)	0	24	130	0.16 (0.98)	0	9	380	0.52 (4.49)	0	63	—	—	—	—
その他の麻酔	160	0.16 (1.03)	0	11	130	0.07 (0.59)	0	6	371	0.36 (2.80)	0	40	—	—	—	—
上記に当てはまらない分娩																
	147	0.51 (1.99)	0	14	120	0.63 (3.58)	0	30	355	1.11 (4.44)	0	35	—	—	—	—
全分娩数のうち院内助産の分娩数																
	153	2.97 (10.33)	0	84	114	2.37 (8.64)	0	53	355	1.66 (8.68)	0	127	—	—	—	—
出産目的で入院する妊産婦の最も多い入院日数																
経膈分娩（初産婦）	162	6.10 (2.76)	0	34	137	5.70 (1.29)	0	10	446	5.30 (0.96)	0	9	—	—	—	—
経膈分娩（経産婦）	162	5.50 (2.46)	0	31	137	5.32 (1.22)	0	10	446	4.89 (0.85)	0	8	—	—	—	—
帝王切開分娩	163	7.64 (2.50)	0	22	135	7.79 (1.88)	0	16	426	7.37 (1.92)	0	13	—	—	—	—

※ それ以外の病院には、総合・地域周産期母子医療センター以外の病院が含まれる。
※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。分娩数、入院日数等の最小値、最大値等は誤入力があると推測される。
※ 分娩件数は、助産所のみ1年間（令和5年9月1日～令和6年8月31日もしくは令和5年10月1日～令和6年9月30日）の分娩件数、それ以外は1か月間（令和6年9月1日～9月30日）の分娩件数を示す。

提供されているサービスと料金

- 「お祝い膳」は、総合・地域周産期母子医療センターで79%、それ以外の病院で84%、診療所で76%の施設で提供されていた。一方、助産所では31%であった。「お祝い膳」の料金は、80%以上の施設で入院料等に含まれていた。入院料等に含まれていない施設での「お祝い膳」の設定価格は、平均1,000～2,000円程度であった。
- 「写真撮影」を提供しているのは、総合・地域周産期母子医療センターは19%、それ以外の病院50%、診療所57%、助産所の45%であった。提供している施設の60%以上の施設で、入院料等に含まれていた。含まれていない施設での平均設定価格は、診療所3,083円、それ以外の病院4,508円、助産所5,083円であった。
- 「足形」は、助産所で最も多く提供され（62%）、続いて診療所（56%）であった。提供している施設の70%以上が入院料等の料金に含まれていた。
- 「エステ」は、診療所で50%、助産所で33%、それ以外の病院で24%、総合・地域周産期母子医療センターで7%の施設で提供されていた。どの施設種別でも70%以上が入院料等に含まれていた。

	総合・地域周産期母子医療センター N=180		それ以外の病院 N=148		診療所 N=465		助産所 N=204	
	N	n (%)	N	n (%)	N	n (%)	N	n (%)
お祝い膳								
あり		136 (78.6)		124 (84.4)		346 (75.5)		59 (30.7)
なし	173	27 (15.6)	147	15 (10.2)	458	103 (22.5)	192	128 (66.7)
妊産婦が選択		10 (5.8)		8 (5.4)		9 (2.0)		5 (2.6)
入院料等の他の料金に含まれる		121 (87.1)		113 (87.6)		307 (88.2)		58 (90.6)
含まれない	139	18 (12.9)	129	16 (12.4)	348	41 (11.8)	64	6 (9.4)
入院料等の他の料金に含まれない場合の平均設定価格	14	1,172円	13	1,099円	30	2,462円	4	2,000円
写真撮影								
あり		32 (18.5)		73 (50.3)		259 (56.7)		89 (45.2)
なし	173	117 (67.6)	145	60 (41.4)	457	136 (29.8)	197	80 (40.6)
妊産婦が選択		24 (13.9)		12 (8.3)		62 (13.6)		28 (14.2)
入院料等の他の料金に含まれる		38 (69.1)		61 (71.8)		229 (72.9)		76 (66.7)
含まれない	55	17 (30.9)	85	24 (28.2)	314	85 (27.1)	114	38 (33.3)
入院料等の他の料金に含まれない場合の平均設定価格	12	420円	14	4,508円	62	3,083円	24	5,083円
足形								
あり		50 (28.9)		61 (42.7)		257 (56.4)		120 (61.5)
なし	173	117 (67.6)	143	79 (55.2)	456	190 (41.7)	195	61 (31.3)
妊産婦が選択		6 (3.5)		3 (2.1)		9 (2.0)		14 (7.2)
入院料等の他の料金に含まれる		42 (77.8)		49 (80.3)		208 (80.9)		97 (72.9)
含まれない	54	12 (22.2)	61	12 (19.7)	257	49 (19.1)	133	36 (27.1)
入院料等の他の料金に含まれない場合の平均設定価格	10	888円	6	0円	33	212円	22	261円
エステ（乳房マッサージは除く）								
あり		12 (6.9)		35 (24.0)		225 (49.5)		63 (32.5)
なし	173	155 (89.6)	146	106 (72.6)	455	191 (42.0)	194	112 (57.7)
妊産婦が選択		6 (3.5)		5 (3.4)		39 (8.6)		19 (9.8)
入院料等の他の料金に含まれる		12 (75.0)		31 (77.5)		201 (78.5)		63 (75.9)
含まれない	16	4 (25.0)	40	9 (22.5)	256	55 (21.5)	83	20 (24.1)
入院料等の他の料金に含まれない場合の平均設定価格	2	1,000円	8	1,969円	50	2,779円	15	3,200円

※ それ以外の病院には、総合・地域周産期母子医療センター以外の病院が含まれる。
※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。
※ 入院料等の他の料金に含まれる/含まれないは、「あり」「妊婦が選択」の場合に回答された。

無痛分娩や検査等と料金

- 「無痛分娩」は、総合・地域周産期母子医療センター42%、それ以外の病院48%、診療所44%で実施されていた。「無痛分娩」の平均設定価格は、総合・地域周産期母子医療センターとそれ以外の病院は約12万円、診療所は約9万円であった。
- 「先天性代謝異常等検査」および「ビタミンK2」投与は、どの施設種別でも90%以上が実施していた。
- 「新生児聴覚検査」は、総合・地域周産期母子医療センター、それ以外の病院、診療所では、99%以上が実施しており、90%以上の施設が自治体からの補助を受けていた。助産所での実施は47%であった。
- 「新生児1か月健診」は、総合・地域周産期母子医療センター、それ以外の病院、診療所では、94%以上が実施されていた。「自治体からの補助」があったのは60%台であった。

	総合・地域周産期母子医療センター N=180		それ以外の病院 N=148		診療所 N=465		助産所 N=204	
	N	n (%)	N	n (%)	N	n (%)	N	n (%)
無痛分娩								
実施あり	176	73 (41.5)	145	69 (47.6)	454	200 (44.1)	—	—
実施なし		103 (58.5)		76 (52.4)		254 (55.9)	—	—
無痛分娩平均設定価格	75	115,340円	67	123,804円	207	85,897円	—	—
先天性代謝異常等検査								
実施あり	173	161 (93.1)	144	139 (96.5)	452	432 (95.6)	199	192 (96.5)
実施なし		12 (6.9)		5 (3.5)		20 (4.4)		7 (3.5)
先天性代謝異常等検査平均設定価格	148	5,047円	122	4,359円	352	4,535円	163	3,690円
新生児聴覚検査								
実施あり	174	174 (100)	146	145 (99.3)	452	448 (99.1)	201	94 (46.8)
実施なし		0 (0)		1 (0.7)		4 (0.9)		107 (53.2)
自治体の補助の有	169	157 (92.9)	139	127 (91.4)	445	411 (92.4)	150	120 (80.0)
自治体の補助の無		12 (7.1)		12 (8.6)		34 (7.6)		30 (20.0)
自治体の平均補助額	151	4,161円	120	3,988円	376	4,171円	92	4,299円
新生児聴覚検査平均設定価格	165	6,284円	136	6,140円	419	5,600円	95	5,919円
ビタミンK2								
実施あり	170	162 (95.3)	142	139 (97.9)	453	451 (99.6)	200	197 (98.5)
実施なし		8 (4.7)		3 (2.1)		2 (0.4)		3 (1.5)
ビタミンK2平均設定価格	143	601円	124	746円	384	1,021円	157	1,249円
新生児1か月健診								
実施あり	172	169 (98.3)	145	141 (97.2)	452	424 (93.8)	201	159 (78.3)
実施なし		3 (1.7)		4 (2.8)		28 (6.2)		42 (20.9)
自治体の補助の有	166	114 (68.7)	136	82 (60.3)	427	258 (60.4)	178	87 (48.9)
自治体の補助の無		52 (31.3)		54 (39.7)		169 (39.6)		91 (51.1)
自治体の平均補助額	104	4,955円	76	5,243円	238	4,943円	75	4,493円
新生児1か月健診平均設定価格	149	4,550円	131	4,465円	391	4,282円	151	4,720円

※ それ以外の病院には、総合・地域周産期母子医療センター以外の病院が含まれる。
※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

2. 分娩取扱施設の概要

2 - 2. 助産所

助産所の基本情報・入所室概要

- 本調査の対象となった助産所は204件。すべて分娩取扱があり、「入所施設を有する助産所」が78%、「入所施設を有さない助産所」が22%であった。
- 「入所施設を有する助産所」(N=158)の入所定員は、平均3名であった。
- 「入所施設を有する助産所」では、入所定員1名の入所室(個室)は平均2.6室あり、2名の入所室は平均0.5室、3名の入所室0.2室であった。

N = 204

	n	(%)
分娩の取扱の実施状況		
あり	204	(100)
なし	0	(0)
入所施設の有無		
あり	158	(77.5)
なし	44	(21.6)
未回答	2	(1.0)

N=158

	有効回答数	Mean	(SD)	最小	最大
入所定員					
	156	3.0	(1.7)	1	9
入所室					
入所室／入所定員 1 名の入所室	145	2.6	(1.5)	0	7
入所室／入所定員 2 名の入所室	91	0.5	(1.0)	0	4
入所室／入所定員 3 名の入所室	82	0.2	(0.6)	0	3
入所室／入所定員 4 名以上の入所室	76	0	(0.0)	0	0

※ 入所施設を有する助産所 (n=158) による回答である。

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

施設・設備等、職員数

- 88%の助産所には「分娩室」があり、設置していないと回答した助産所は、「入所室」と「分娩室」を分けていなかった。58%が「新生児沐浴室」を設置していた。「給食設備」は80%が設置していた。
- 助産所における「助産師数」の平均は、常勤1.4名、非常勤2.2名であった。

N = 158		
	n	(%)
分娩室		
あり	139	(88.0)
なし	17	(10.8)
未回答	2	(1.3)
入所室と分娩室を分けている (n=17)		
いる	0	(0.0)
いない	17	(100.0)
未回答	0	(0.0)
新生児室		
あり	17	(10.8)
なし	139	(88.0)
未回答	2	(1.2)
新生児沐浴室		
あり	91	(57.6)
なし	65	(41.1)
未回答	2	(1.3)
給食設備		
あり	127	(80.4)
なし	30	(19.0)
未回答	1	(0.6)

※ 入所施設を有する助産所 (n=158) による回答である。

N = 204					
	有効回答数	mean	SD	最小	最大
常勤勤務の週あたりの勤務時間数					
	167	41.2	(39.4)	0	414
助産師					
常勤	199	1.4	(1.2)	0	10
非常勤 (常勤換算)	186	2.2	(2.8)	0	22
看護師					
常勤	176	0.0	(0.2)	0	2
非常勤 (常勤換算)	176	0.1	(0.4)	0	2
准看護師					
常勤	175	0.0	(0.0)	0	0
非常勤 (常勤換算)	173	0.0	(0.1)	0	1
看護補助者					
常勤	175	0.0	(0.1)	0	1
非常勤 (常勤換算)	177	0.1	(0.5)	0	4
管理栄養士					
常勤	173	0.0	(0.1)	0	1
非常勤 (常勤換算)	173	0.1	(0.3)	0	2
栄養士					
常勤	175	0.0	(0.1)	0	1
非常勤 (常勤換算)	174	0.1	(0.3)	0	3
その他の職員					
常勤	177	0.2	(0.7)	0	6
非常勤 (常勤換算)	181	1.2	(2.8)	0	32

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。人数の最小値、最大値等は誤入力があると推測される。

勤務体制

- 助産所において入所者が1名の場合、助産師は平均1.5名が勤務しており、最も少ない助産所では1名であった。夜勤帯でも、助産師は平均1.1名の勤務となっていた。

N = 158

	n	(%)	Mean	(SD)	最小	最大
入所者がいない場合（日勤帯／常勤換算）						
助産師 (n=158)	—	—	1.4	(0.78)	0	5.0
看護師 (n=133)	—	—	0.1	(0.55)	0	6.0
その他 (n=139)	—	—	0.5	(0.96)	0	7.0
入所者がいない場合（夜勤帯／常勤換算）						
助産師 (n=155)	—	—	0.7	(0.58)	0	3.4
看護師 (n=132)	—	—	0.0	(0.00)	0	0.0
その他 (n=134)	—	—	0.1	(0.22)	0	1.0
入所者が1名の場合（日勤帯／常勤換算）						
助産師 (n=157)	—	—	1.5	(0.75)	1	5.0
看護師 (n=132)	—	—	0.0	(0.20)	0	1.16
その他 (n=143)	—	—	0.8	(0.96)	0	7.0
入所者が1名の場合（夜勤帯／常勤換算）						
助産師 (n=157)	—	—	1.1	(0.39)	0	3.4
看護師 (n=132)	—	—	0.0	(0.09)	0	1.0
その他 (n=134)	—	—	0.2	(0.58)	0	5.0
入所者が2名以上の場合（日勤帯／常勤換算）						
2名以上入所することはない (n=157)						
はい	38	(24.1)	—	—	—	—
いいえ	119	(75.3)	—	—	—	—
助産師 (n=129)	—	—	1.8	(0.84)	0	5.0
看護師 (n=108)	—	—	0.1	(0.25)	0	1.0
その他 (n=121)	—	—	0.9	(1.03)	0	7.0
入所者が2名以上の場合（夜勤帯／常勤換算）						
2名以上入所することはない (n=157)						
はい	40	(25.3)	—	—	—	—
いいえ	117	(74.1)	—	—	—	—
助産師 (n=128)	—	—	1.2	(0.49)	0.0	3.4
看護師 (n=107)	—	—	0.0	(0.19)	0.0	1.0
その他 (n=113)	—	—	0.2	(0.63)	0.0	5.0

※ 入所施設を有する助産所（n = 158）による回答である。

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。人数の最小値、最大値等は誤入力があると推測される。

分娩時の体制

- 分娩時の体制として、「自院の助産師で複数人体制としている」のが**44%**、「自院と他院の助産師にて複数人体制としている」のが**48%**であり、「助産師が一人に対応している」という助産所はなかった。
- 他施設の助産師への支払い方法で最も多かったのは、「産婦 1 名毎に依頼し支払い」が**35%**であり、続いて「時給」（7%）、「日給」（4%）、「月給」（1%）であった。

N = 204

	n	(%)
分娩時の体制（n=202）		
自院の助産師で複数人体制を確保している	89	(43.6)
自院の助産師と他助産所の助産師による複数人体制を確保している※	98	(48.0)
自院の助産師と他医療機関の助産師による複数人体制を確保している※	10	(4.9)
助産師が一人に対応している	0	(0)
その他	5	(2.5)
※の場合においての他施設の助産師への支払い方法（n = 106）		
産婦 1 名毎に依頼し支払い	72	(35.3)
時給	15	(7.4)
日給	8	(3.9)
月給	2	(1.0)
その他	9	(4.4)

嘱託医師・嘱託医療機関等との連携体制

- すべての助産所は、「嘱託医師あるいは嘱託医療機関」があった（未回答2施設除く）。
- 「嘱託医師数」、「嘱託医療機関数」とも平均は1.5件であり、「連携医療機関数」は平均1.7件であった。
- 「嘱託医師・嘱託医療機関、連携医療機関との出産予定妊婦に関する定期的な情報共有」は、84%の助産所が行っていた。「事例検討会・勉強会・研修会等」には、58%の助産所が参加していた。

N = 204

		n	(%)	Mean	(SD)	最小	最大
嘱託医師あるいは嘱託医療機関							
	あり	202	(99.0)	—	—	—	—
	なし	0	(0.0)	—	—	—	—
	未回答	2	(1.0)	—	—	—	—
嘱託医師数 (n=193)		—	—	1.5	(1.35)	0	14
嘱託医療機関数 (n=200)		—	—	1.5	(1.04)	0	10
連携医療機関数 (n=189)		—	—	1.7	(1.91)	0	20
嘱託医師・嘱託医療機関、連携医療機関との出産予定妊婦に関する定期的な情報共有							
	あり	171	(83.8)	—	—	—	—
	なし	30	(14.7)	—	—	—	—
	未回答	3	(1.5)	—	—	—	—
嘱託医師・嘱託医療機関等、連携医療機関が開催する事例検討会・勉強会・研修会等への参加							
	あり	118	(57.8)	—	—	—	—
	なし	82	(40.2)	—	—	—	—
	未回答	4	(2.0)	—	—	—	—

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

分娩件数等

- 助産所における1年間の「分娩件数」の平均は13件。「初産婦」3件、「経産婦」10件で「経産婦」の方が多
い。
- 分娩場所別では、「自助産所内での分娩」が最も多く平均11.7件、続いて「自宅等への出張分娩」が1.4件、
「オープンシステムによる分娩」は0.6件であった。
- 「母体搬送」の平均件数は、分娩第1期中は0.7件、第2期中は0.1件、第3期0.1件、第4期0.2件であった。

N = 204

	Mean	(SD)	最小	最大
全分娩件数 (n=196)	12.7	(13.7)	0	85
初産婦 (n=189)	2.86	(3.8)	0	20
経産婦 (n=192)	10.16	(10.5)	0	69
分娩件数 (分娩場所別)				
自助産所内での分娩 (n=184)	11.7	(14.0)	0	85
オープンシステムによる病院、診療所、他助産所での分娩 (n=168)	0.55	(3.8)	0	48
自宅等への出張分娩 (n=186)	1.38	(2.5)	0	15
その他 (n=160)	0.05	(0.4)	0	4
母体搬送件数 (分娩期)				
分娩第1期中の搬送 (n=188)	0.68	(1.3)	0	8
分娩第2期中の搬送 (n=178)	0.11	(0.4)	0	3
分娩第3期中の搬送 (n=177)	0.07	(0.3)	0	1
分娩第4期中の搬送 (n=179)	0.16	(0.5)	0	3
搬送件数 (産褥期) (n=190)	0.06	(0.3)	0	2
新生児搬送件数 (n=188)	0.32	(0.7)	0	4
1か月間の1日平均入所者数 (n=173)	1.08	(3.6)	0	30
9月1日時点における新生児数 (n=174)	0.68	(2.6)	0	30
他助産所等の入所者の分娩のサポート件数 (n=197)	2.11	(4.7)	0	25

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。人数の最小値、最大値等は誤入力があると推測される。

2. 分娩取扱施設の概要 まとめ

- 「夜勤帯・休日に、分娩において緊急事態が生じた際に、駆け付けることができるように待機している人数（院内）」については、「産婦人科医師」の平均人数は、それ以外の病院と診療所が最も多かった。「小児科医師」は、総合・地域周産期母子医療センターで最も多かった。「院外」での待機については、「産婦人科医師」の平均人数は、それ以外の病院が最も多かった。「小児科医師」は、総合・地域周産期母子医療センターとそれ以外の病院は同数であり、「麻酔科医師」は総合・地域周産期母子医療センターで多かった。
- 1か月間の「全分娩数」の平均は、総合・地域周産期母子医療センターは43件、それ以外の病院36件、診療所36件であった。
- 「無痛分娩」は、総合・地域周産期母子医療センター42%、それ以外の病院48%、診療所44%で実施されていた。「無痛分娩」の平均設定価格は、総合・地域周産期母子医療センターとそれ以外の病院は約12万円、診療所は約9万円であった。
- 「出産目的で入院する妊産婦の最も多くみられる入院日数」は、帝王切開分娩で平均7日程度、経膣分娩で初産婦5～6日程度、経産婦5日程度であり、施設種別で大きな差はなかった。
- 「祝い膳」は、総合・地域周産期母子医療センターで79%、それ以外の病院で84%、診療所で76%、助産所で31%で提供されていた。料金は、80%以上の施設で料金が個別に明示されず、入院料等に含まれていた。
- 「写真撮影」を提供しているのは、総合・地域周産期母子医療センターは19%、それ以外の病院50%、診療所57%、助産所の45%であった。提供している施設の60%以上の施設で料金が個別に明示されず、入院料等に含まれていた。
- 「エステ」は、診療所で50%、助産所で33%、それ以外の病院で24%、総合・地域周産期母子医療センターで7%で提供されていた。料金は、70%以上の施設で料金が個別に明示されず、入院料等に含まれていた。

(助産所)

- 本調査の対象となった助産所は204件。すべて分娩取扱があり、「入所施設を有する助産所」が78%、「入所施設を有さない助産所」が22%であった。「入所施設を有する助産所」の入所定員は、平均3名であった。
- 助産所における1年間の分娩取扱件数の平均は13件。「初産婦」3件、「経産婦」10件で「経産婦」の方が多い。
- 分娩場所別では、「自助産所内での分娩」が最も多く平均11.7件、続いて「自宅等への出張分娩」が1.4件、「オープンシステムによる分娩」は0.6件であった。「母体搬送」件数は、分娩第1期中は平均0.7件、第2期中は平均0.1件、第3期0.1件、第4期0.2件であった。
- 分娩時の体制として、「自院の助産師で複数人体制としている」のが44%、「自院と他院の助産師にて複数人体制としている」のが48%であり、「助産師が一人に対応している」という助産所はなかった。

3. 病棟（ユニット）における医療提供体制

基本情報：病棟（ユニット）票

- 「病棟（ユニット）票」は病院を対象として調査を実施し、325件（総合・周産期母子医療センター142件、それ以外の病院183件）からの回答があり、1施設あたりの「病棟・ユニット数」の平均は1.1、「1病棟・ユニット当たりの病床数」の平均は30床であった。
- 病棟構成全般をみると、「混合病棟」が68%と多く、なかでも「婦人科および他科診療科での混合病棟」が38%となっていた。

	回答施設数	回答病棟・ユニット数 (計)	1病院当たり平均回答病棟・ユニット数	各施設における1病棟・ユニット当たりの病床数
総合・地域周産期母子医療センター	142	181	1.3	28.3
それ以外の病院	183	186	1.0	31.2
計	325	367	1.1	29.8

			総合・地域周産期母子医療センター	それ以外の病院	計※注 1		
産科単科病棟（計）		件数	86	29	115		
		割合※注 2	49.1%	15.9%	32.2%		
		産科単独病棟	件数	58	29	87	
		割合※注 2	33.1%	15.9%	24.4%		
産科のみで複数の病棟・ユニットに分かれている		件数	28	－	28		
		割合※注 2	16.0%	－	7.8%		
混合病棟（計）		件数	89	153	242		
		割合※注 2	50.9%	84.1%	67.8%		
		産科区域の特定がある混合病棟		件数	34	49	83
				割合※注 2	19.4%	26.9%	23.2%
			婦人科	件数	14	29	43
				割合※注 2	8.0%	15.9%	12.0%
			産科・婦人科以外の他科診療科	件数	5	8	13
				割合※注 2	2.9%	4.4%	3.6%
			婦人科および他科診療科		件数	15	12
				割合※注 2	8.6%	6.6%	7.6%
		産科区域の特定がない混合病棟		件数	55	104	159
				割合※注 2	31.4%	57.1%	44.5%
			婦人科	件数	4	8	12
				割合※注 2	2.3%	4.4%	3.4%
			産科・婦人科以外の他科診療科	件数	10	29	39
				割合※注 2	5.7%	15.9%	10.9%
			婦人科および他科診療科		件数	41	67
				割合※注 2	23.4%	36.8%	30.3%
計※注 1		件数	175	182	357		
		割合※注 2	100.0%	100.0%	100.0%		

※注1 χ^2 検定の結果（Pearson $\chi^2(3) = 54.9283$ Pr = 0.000）から総合・地域周産期母子医療センターとそれ以外の病院での病棟構成の差は統計的に有意

※注2 各病棟種別内での分娩施設の割合

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

病床数と入院料＋室料差額

- 「全室個室」の割合は、総合・地域周産母子医療センターで19%、それ以外の病院で25%だった。
- 「1日当たりの室料差額料金」の平均は、総合・地域周産期母子医療センターが43,233円で、25,107円のそれ以外の病院よりも高い傾向にあり、かつ、個室と2床室との差も若干大きい。

※注 1		総合・地域周産期 母子医療センター	それ以外の病院	計	
全室個室	標本数	174	177	351	
	件数	33	44	77	
	割合	19.0%	24.9%	21.9%	
個室					
	病床数（床）	標本数	163	171	334
		平均値	5.6	6.8	6.2
		標準偏差	4.2	5.7	5.1
	1 日当たりの料金 （円）	標本数	152	164	316
		平均値	43,233	25,107	33,826
		標準偏差	58,639	21,534	44,391
2 床室					
	病床数	標本数	32	50	82
		平均値	4.5	4.8	4.7
		標準偏差	5.0	3.9	4.3
	1 日当たりの料金 （円）	標本数	28	38	66
		平均値	37,515	22,003	28,584
		標準偏差	42,138	19,725	31,917
入院患者のべ数 （令和 6 年 9 月 1 日～9 月 3 0 日）		標本数	153	147	300
		平均値	534.8	405.9	471.6
		標準偏差	372.0	329.5	357.1

※注 1 病床数が99%パーセンタイル以上を外れ値として処理

病棟（ユニット）に配置されている職員数

- 常勤の助産師・看護師については、総合・地域周産期母子医療センターの方が、それ以外の病院に比べ人数が多い一方で、非常勤職員及び准看護師・看護補助者・保育士については両群で差はなかった。

			総合・地域周産期 母子医療センター	それ以外の病院	計
助産師					
常勤		標本数	177	179	356
		平均値	25.4	14.3	19.8
		標準偏差	12.7	9.0	12.3
	非常勤（常勤換算）	標本数	165	173	338
		平均値	1.0	1.6	1.3
		標準偏差	1.7	2.8	2.4
看護師					
常勤		標本数	171	179	350
		平均値	75.2	37.3	55.8
		標準偏差	168.0	95.0	136.8
	非常勤（常勤換算）	標本数	163	167	330
		平均値	1.5	1.5	1.5
		標準偏差	3.8	4.7	4.3
准看護師					
常勤		標本数	162	171	333
		平均値	0.3	0.8	0.5
		標準偏差	2.1	1.5	1.9
	非常勤（常勤換算）	標本数	161	162	323
		平均値	0.1	0.1	0.1
		標準偏差	0.5	0.4	0.5
看護補助者					
常勤		標本数	164	172	336
		平均値	4.4	4.0	4.2
		標準偏差	11.3	8.4	9.9
	非常勤（常勤換算）	標本数	165	167	332
		平均値	4.1	1.9	3.0
		標準偏差	10.6	4.0	8.1
保育士					
常勤		標本数	160	160	320
		平均値	0.3	0.2	0.2
		標準偏差	1.1	0.7	0.9
	非常勤（常勤換算）	標本数	157	159	316
		平均値	0.1	0.05	0.1
		標準偏差	0.4	0.3	0.3

分娩期・産褥期の医師数、医師の対応時間

- 「分娩期、産褥入院中の医師数、医師の対応時間」について、総合・地域周産期母子医療センターがそれ以外の病院と比べ、人数・時間ともに数は大きかったが、標準偏差からばらつきも大きい。
- 「産婦人科医師」については、診療業務に従事した医師数、医師の対応時間ともに、「産褥入院中」に比べて「分娩期」の方が多かった。
- 「小児科・新生児科医師」については、医師の対応時間が、「分娩期」に比べて「産褥入院中」の方が長かった。

※注 1		総合・地域周産期 母子医療センター	それ以外の病院	計
分娩期の産婦の診療業務に従事した全医師数 (令和 6 年 9 月 1 日～9 月 3 0 日)		標本数 29 平均値 113 標準偏差 117	18 50 48	47 89 101
(うち) 産婦人科医師	標本数	26	17	43
	平均値	69	32	55
	標準偏差	73	24	61
(うち) 小児科・新生児科医師	標本数	26	17	43
	平均値	24	9	18
	標準偏差	23	14	21
(うち) 麻酔科医師	標本数	26	16	42
	平均値	29	11	22
	標準偏差	30	15	27
(うち) 上記以外の診療科医師	標本数	24	16	40
	平均値	4	1	3
	標準偏差	12	3	9
分娩期の産婦の診療業務に従事した全医師の対応時間数 (令和 6 年 9 月 1 日～9 月 3 0 日)		標本数 29 平均値 446 標準偏差 809	18 288 483	47 385 701
(うち) 産婦人科医師	標本数	22	14	36
	平均値	505	328	436
	標準偏差	857	518	740
(うち) 小児科・新生児科医師	標本数	22	13	35
	平均値	18	13	17
	標準偏差	19	31	24
(うち) 麻酔科医師	標本数	21	13	34
	平均値	62	28	49
	標準偏差	76	57	71
(うち) 上記以外の診療科医師	標本数	21	13	34
	平均値	5	3	4
	標準偏差	22	10	18

※注 1		総合・地域周産期 母子医療センター	それ以外の病院	計
産褥入院中の産婦の診療業務に従事した全医師数 (令和 6 年 9 月 1 日～9 月 3 0 日)		標本数 29 平均値 76 標準偏差 89	18 31 40	47 59 77
(うち) 産婦人科医師	標本数	25	14	39
	平均値	54	23	43
	標準偏差	59	16	50
(うち) 小児科・新生児科医師	標本数	25	13	38
	平均値	23	9	18
	標準偏差	37	16	32
(うち) 麻酔科医師	標本数	24	13	37
	平均値	8	8	8
	標準偏差	13	17	14
(うち) 上記以外の診療科医師	標本数	23	13	36
	平均値	3	0	2
	標準偏差	5	1	4
産褥入院中の産婦の診療業務に従事した全医師の対応時間数 (令和 6 年 9 月 1 日～9 月 3 0 日)		標本数 29 平均値 234 標準偏差 521	18 120 212	47 190 430
(うち) 産婦人科医師	標本数	22	13	35
	平均値	163	140	155
	標準偏差	276	212	251
(うち) 小児科・新生児科医師	標本数	22	12	34
	平均値	138	20	96
	標準偏差	546	60	441
(うち) 麻酔科医師	標本数	21	12	33
	平均値	4	7	5
	標準偏差	7	18	12
(うち) 上記以外の診療科医師	標本数	21	12	33
	平均値	3	0.3	2
	標準偏差	8	1	6

※注 1 1週間のデータを記録した施設について、1カ月間の概算を算出するため4倍とした

産科の患者の入院割合、看護職の従事時間等

- 「病棟における産科患者の入院割合」は総合・地域周産期母子医療センターで60%、それ以外の病院で47%だった。
- 「看護職」は、総合・地域周産期母子医療センターの方が、それ以外の病院と比べ、労働時間数が長い、標準偏差からばらつきも大きかった。
- 「看護職」については、ケアに従事した時間数が、「分娩期」に比べて「産褥入院中」の方が長かった。

※注 1			総合・地域周産期 母子医療センター	それ以外の病院	計	
病棟（ユニット）における産科の患者の入院割合 （令和6年9月1日～9月30日）			標本数	76	63	139
			平均値	60.4%	47.0%	54.3%
			標準偏差	39.1%	34.1%	37.4%
全看護職の総労働時間数 （令和6年9月1日～9月30日）			標本数	93	72	165
			平均値	2,244	1,103	1,746
			標準偏差	6,496	3,290	5,355
分娩期のケア						
	全看護職の分娩期のケアに従事した時間数		標本数	33	14	47
			平均値	1,486	868	1,302
			標準偏差	4,724	994	3,986
	（うち）助産師が分娩期の ケアに従事した時間数	標本数	30	14	44	
		平均値	629	731	662	
		標準偏差	777	797	776	
産褥入院中（新生児含む）のケア（授乳、育児等の保健指導を含む）						
	全看護職の産褥入院中（新生児含む）のケアに従事した時間数		標本数	32	15	47
			平均値	1,622	1,968	1,732
			標準偏差	1,791	2,461	2,008
	（うち）助産師が産褥入院中（新生児含む）に従事した時間数	標本数	29	15	44	
		平均値	1,543	1,481	1,522	
		標準偏差	1,507	2,276	1,779	
産婦健康診査（産後1か月までの褥婦と新生児）実施有			標本数	81	64	145
			件数	62	59	121
			割合	76.5%	92.2%	83.4%

※ 注 1 1週間のデータを記録した施設について、1カ月間の概算を算出するため4倍とした
※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

3. 病棟（ユニット）における医療提供体制 まとめ

- 「病棟（ユニット）票」は病院を対象として調査を実施し、325件（総合・周産期母子医療センター142件、それ以外の病院183件）からの回答があり、1施設あたりの「病棟・ユニット数」は約1.1、「1病棟・ユニット当たりの病床数」は約30床であった。
- 病棟構成全般をみると、「混合病棟」が68%と多く、なかでも「婦人科および他科診療科での混合病棟」が38%であった。
- 「病棟における産科患者の入院割合」は総合・地域周産期母子医療センターで60%、それ以外の病院で47%であった。
- 「全室個室」の割合は、総合・地域周産母子医療センターで19%、それ以外の病院で25%だった。
- 「1日当たりの室料差額料金」の平均は、総合・地域周産期母子医療センターが43,233円で、25,107円のそれ以外の病院よりも高い。
- 「産婦人科医師」については、診療業務に従事した医師数、医師の対応時間ともに、「産褥入院中」に比べて「分娩期」の方が多かった。「小児科・新生児科医師」については、医師の対応時間が、「分娩期」に比べて「産褥入院中」の方が長かった。
- 「看護職」については、ケアに従事した時間数が、「分娩期」に比べて「産褥入院中」の方が長かった。

4. 患者（産婦）票の結果について

分娩の状況

- 「分娩の状況（助産所除く）」は、「帝王切開」8%、「無痛分娩」11%、正常な経膣分娩等を含む「その他の分娩」が81%であった。
- 「帝王切開」の割合は、総合・地域周産期母子医療センターで14%と最も多い。
- 「無痛分娩」の割合は、総合・地域周産期母子医療センターが11%、それ以外の病院が7%、診療所が13%であり、診療所での実施割合が最も高かった。

		帝王切開	無痛分娩	その他の分娩	計※注 1
総合・地域周産期母子医療センター	件数	18	14	99	131
	割合※注 2	13.7%	10.7%	75.6%	100.0%
	割合※注 3	34.6%	18.7%	18.7%	19.9%
それ以外の病院	件数	7	9	107	123
	割合※注 2	5.7%	7.3%	87.0%	100.0%
	割合※注 3	13.5%	12.0%	20.2%	18.7%
診療所	件数	27	52	324	403
	割合※注 2	6.7%	12.9%	80.4%	100.0%
	割合※注 3	51.9%	69.3%	61.1%	61.3%
計※注 1	件数	52	75	530	657
	割合※注 2	7.9%	11.4%	80.7%	100.0%
	割合※注 3	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

※助産所では帝王切開・無痛分娩の実施はないためこの表の算出から除外した。

※すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

※それ以外の病院には、総合・地域周産期母子医療センター以外の病院が含まれる。

※「その他の分娩」とは、患者（産婦）個票において帝王切開分娩と無痛分娩以外であったものであり、正常な経膣分娩等が該当する。

※注 1 χ^2 検定の結果（Pearson $\chi^2(4) = 10.8246$ Pr = 0.029）から医療施設間での帝王切開・無痛分娩・その他群での割合の差は統計的に有意

※注 2 各分娩施設内での分娩状況の割合

※注 3 各分娩状況内の分娩施設の割合

分娩状況の割合（分娩経験別）

- 「帝王切開」の割合は、経産婦（7.5%）よりも初産婦（8.3%）がやや高いが、「無痛分娩」の割合は、経産婦（11.9%）と初産婦（11%）とでほぼ差がない。

		帝王切開	無痛分娩	その他の分娩	計※注 1
初産婦	件数	28	37	271	336
	割合※注 2	8.3%	11.0%	80.7%	100.0%
	割合※注 3	53.9%	49.3%	51.3%	51.3%
経産婦	件数	24	38	257	319
	割合※注 2	7.5%	11.9%	80.6%	100.0%
	割合※注 3	46.2%	50.7%	48.7%	48.7%
計※注 1	件数	52	75	528	655
	割合※注 2	7.9%	11.5%	80.6%	100.0%
	割合※注 3	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

※助産所では帝王切開・無痛分娩の実施はないためこの表の算出から除外した。

※すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

※それ以外の病院には、総合・地域周産期母子医療センター以外の病院が含まれる。

※「その他の分娩」とは、患者（産婦）個票において帝王切開分娩と無痛分娩以外であったものであり、正常な経膣分娩等が該当する。

※注 1 χ^2 検定の結果（Pearson $\chi^2(2) = 0.2512$ Pr = 0.882）から医療施設間での帝王切開・無痛分娩・その他群での割合の差は統計的に有意

※注 2 各出産経験内での分娩施設の割合

※注 3 各分娩状況内での出産経験の割合

分娩施設の割合（分娩経験別）

- 分娩施設の割合を分娩経験別にみると、総合・地域周産期母子医療センターとそれ以外の病院では、「経産婦」より「初産婦」の割合が高いが、診療所と助産所は、「初産婦」より「経産婦」の割合が高い。
- 助産所の分娩においては、「経産婦」（74%）の割合が「初産婦」（27%）と比べ高い。
- 分娩経験の有無にかかわらず、45%が診療所で出産している。

		総合・地域周産期 母子医療センター	それ以外の病院	診療所	助産所	計 ※注 1
初産婦	件数	74	67	195	64	400
	割合※注 2	18.5%	16.8%	48.8%	16.0%	100.0%
	割合※注 3	56.5%	54.5%	48.6%	26.5%	44.6%
経産婦	件数	57	56	206	178	497
	割合※注 2	11.5%	11.3%	41.5%	35.8%	100.0%
	割合※注 3	43.5%	45.5%	51.4%	73.6%	55.4%
計※注 1	件数	131	123	401	242	897
	割合※注 2	14.6%	13.7%	44.7%	27.0%	100.0%
	割合※注 3	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

※すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

※それ以外の病院には、総合・地域周産期母子医療センター以外の病院が含まれる。

※注 1 χ^2 検定の結果（Pearson $\chi^2(3) = 47.2573$ Pr = 0.000）から出産経験有無別の出産施設の割合の差は統計的に有意である

※注 2 各出産経験内での分娩施設の割合

※注 3 各分娩施設内の出産経験の割合

同一都道府県内の分娩施設での出産の割合（都道府県別・分娩経験別）

- 分娩経験によらず、ほぼ80%以上の分娩が「産婦の住所がある都道府県」内で完結している。

産婦の住所 (都道府県)	初産婦	同一都道府 県内の分娩 施設での出 産	% ※注 1	経産婦	同一都道府 県内の分娩 施設での出 産	% ※注 1	出産 経験 不詳	計	同一都道府 県内の分娩 施設での出 産	% ※注 1
北海道	9	8	89%	10	10	100%	0	19	18	95%
青森県	3	3	100%	3	2	67%	0	6	5	83%
岩手県	1	1	100%	6	6	100%	0	7	7	100%
宮城県	5	3	60%	5	5	100%	0	10	8	80%
秋田県	1	1	100%	2	2	100%	0	3	3	100%
山形県	4	4	100%	4	4	100%	0	8	8	100%
福島県	6	6	100%	7	6	86%	0	13	12	92%
茨城県	12	11	92%	6	6	100%	0	18	17	94%
栃木県	8	8	100%	10	10	100%	0	18	18	100%
群馬県	5	5	100%	2	2	100%	0	7	7	100%
埼玉県	23	17	74%	18	17	94%	0	41	34	83%
千葉県	11	9	82%	9	6	67%	1	21	15	75%
東京都	29	23	79%	36	30	83%	1	66	53	82%
神奈川県	19	16	84%	28	26	93%	0	47	42	89%
新潟県	3	3	100%	5	5	100%	0	8	8	100%
富山県	3	3	100%	3	3	100%	0	6	6	100%
石川県	9	8	89%	5	5	100%	0	14	13	93%
福井県	9	8	89%	0	0	—	0	9	8	89%
山梨県	6	6	100%	6	6	100%	0	12	12	100%
長野県	9	9	100%	21	20	95%	1	31	29	97%
岐阜県	7	5	71%	6	6	100%	0	13	11	85%
静岡県	6	6	100%	13	12	92%	0	19	18	95%
愛知県	17	14	82%	35	34	97%	0	52	48	92%

産婦の住所 (都道府県)	初産婦	同一都道府 県内の分娩 施設での出 産	% ※注 1	経産婦	同一都道府 県内の分娩 施設での出 産	% ※注 1	出産 経験 不詳	計	同一都道府 県内の分娩 施設での出 産	% ※注 1
三重県	5	3	60%	4	4	100%	0	9	7	78%
滋賀県	5	5	100%	6	5	83%	0	11	10	91%
京都府	5	5	100%	8	7	88%	0	13	12	92%
大阪府	24	21	88%	35	31	89%	1	60	52	88%
兵庫県	20	15	75%	16	16	100%	0	36	31	86%
奈良県	3	3	100%	9	8	89%	0	12	11	92%
和歌山県	3	2	67%	4	4	100%	0	7	6	86%
鳥取県	4	4	100%	4	4	100%	0	8	8	100%
島根県	1	1	100%	6	6	100%	0	7	7	100%
岡山県	8	7	88%	12	12	100%	0	20	19	95%
広島県	5	4	80%	15	15	100%	0	20	19	95%
山口県	1	1	100%	6	6	100%	0	7	7	100%
徳島県	0	0	—	0	0	—	0	0	0	—
香川県	6	6	100%	4	4	100%	0	10	10	100%
愛媛県	2	2	100%	5	5	100%	0	7	7	100%
高知県	0	0	—	1	1	100%	0	1	1	100%
福岡県	16	13	81%	25	24	96%	0	41	37	90%
佐賀県	6	6	100%	5	3	60%	0	11	9	82%
長崎県	4	3	75%	7	6	86%	0	11	9	82%
熊本県	0	0	—	2	2	100%	0	2	2	100%
大分県	5	4	80%	9	9	100%	0	14	13	93%
宮崎県	4	3	75%	11	10	91%	0	15	13	87%
鹿児島県	5	3	60%	13	12	92%	0	18	15	83%
沖縄県	8	6	75%	13	12	92%	0	21	18	86%
都道府県不詳	54	—	—	37	—	—	3	94	—	—
計	399	294	74%	497	429	86%	7	903	723	81%

※注 1 産婦の住所（都道府県）不詳を分母から除外。
※すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

同一都道府県内の分娩施設での出産の割合（都道府県別・分娩状況別）

- 分娩の状況によらず、ほぼ80%以上の分娩が「産婦の住所がある都道府県」内で完結している。

産婦の住所 (都道府県)	帝王 切開	同一都道府 県内の分娩 施設での出 産		無痛 分娩	同一都道府 県内の分娩 施設での出 産		その 他の 分娩	同一都道府 県内の分娩 施設での出 産	
		※注 1			※注 1			※注 1	
北海道	1	1	100%	3	3	100%	15	14	93%
青森県	2	2	100%	0	0	—	4	3	75%
岩手県	1	1	100%	0	0	—	6	6	100%
宮城県	1	0	0%	2	2	100%	7	6	86%
秋田県	0	0	—	0	0	—	3	3	100%
山形県	0	0	—	2	2	100%	6	6	100%
福島県	0	0	—	1	1	100%	12	11	92%
茨城県	2	2	100%	0	0	—	16	15	94%
栃木県	1	1	100%	0	0	—	17	17	100%
群馬県	0	0	—	0	0	—	7	7	100%
埼玉県	3	3	100%	4	4	100%	34	27	79%
千葉県	0	0	—	1	1	100%	20	15	75%
東京都	1	1	100%	8	8	100%	57	45	79%
神奈川県	2	2	100%	12	11	92%	33	29	88%
新潟県	1	1	100%	0	0	—	7	7	100%
富山県	0	0	—	1	1	100%	5	5	100%
石川県	1	0	0%	1	1	100%	12	12	100%
福井県	2	2	100%	0	0	—	7	6	86%
山梨県	1	1	100%	0	0	—	11	11	100%
長野県	0	0	—	0	0	—	31	30	97%
岐阜県	0	0	—	0	0	—	13	11	85%
静岡県	1	1	100%	0	0	—	18	17	94%
愛知県	2	2	100%	4	3	75%	46	43	93%

産婦の住所 (都道府県)	帝王 切開	同一都道府 県内の分娩 施設での出 産		無痛 分娩	同一都道府 県内の分娩 施設での出 産		その 他の 分娩	同一都道府 県内の分娩 施設での出 産	
		※注 1			※注 1			※注 1	
三重県	0	0	－	1	0	0%	8	7	88%
滋賀県	1	1	100%	0	0	－	10	9	90%
京都府	0	0	－	3	3	100%	10	9	90%
大阪府	3	3	100%	5	4	80%	52	46	88%
兵庫県	2	2	100%	2	2	100%	32	27	84%
奈良県	0	0	－	0	0	－	12	11	92%
和歌山県	1	0	0%	0	0	－	6	6	100%
鳥取県	2	2	100%	0	0	－	6	6	100%
島根県	0	0	－	0	0	－	7	7	100%
岡山県	0	0	－	1	1	100%	19	18	95%
広島県	2	2	100%	1	1	100%	17	16	94%
山口県	0	0	－	0	0	－	7	7	100%
徳島県	0	0	－	0	0	－	0	0	－
香川県	0	0	－	0	0	－	10	10	100%
愛媛県	1	1	100%	0	0	－	6	6	100%
高知県	0	0	－	0	0	－	1	1	100%
福岡県	4	4	100%	5	5	100%	32	28	88%
佐賀県	1	1	100%	2	0	0%	8	8	100%
長崎県	0	0	－	0	0	－	11	9	82%
熊本県	0	0	－	0	0	－	2	2	100%
大分県	0	0	－	0	0	－	14	13	93%
宮崎県	0	0	－	2	1	50%	13	12	92%
鹿児島県	2	2	100%	4	4	100%	12	9	75%
沖縄県	0	0	－	2	1	50%	19	17	89%
都道府県不詳	11	－	－	8	－	－	75	－	－
計	52	38	73%	75	59	79%	776	630	81%

※すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

※「その他の分娩」とは、患者（産婦）票において帝王切開分娩と無痛分娩以外であったものであり、正常な経膈分娩等が該当する。

※注 1 産婦の住所（都道府県）不詳を分母から除外。

産婦の年齢等（分娩状況別・分娩経験別）

- 「経産婦」は「初産婦」と比べ、年齢が高く、「妊娠週数」と「在院日数」が短い。
- 「初産婦」は「経産婦」と比べ、「社会的ハイリスクへの該当」割合が高い。

		帝王切開			無痛分娩			その他の分娩			計		
		初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計
年齢	標本数	27	24	51	37	38	75	330	435	770	394	497	896
	平均値	31.7	33.0	32.3	31.2	33.2	32.2	29.3	32.6	31.2	29.6	32.6	31.3
	標準偏差	5.3	3.0	4.4	4.8	4.2	4.6	4.8	4.9	5.1	4.9	4.7	5.0
身長	標本数	28	24	37	37	38	75	332	430	767	397	492	894
	平均値	156.4	158.1	157.2	159.8	160.0	159.9	158.3	158.4	158.3	158.3	158.5	158.4
	標準偏差	7.9	6.4	7.2	5.4	5.8	5.6	5.4	5.6	5.5	5.6	5.7	5.6
非妊時体重	標本数	27	22	49	37	38	75	331	431	767	395	491	891
	平均値	56.3	54.5	55.5	54.0	55.6	54.8	54.0	54.0	54.0	54.2	54.1	54.2
	標準偏差	10.2	7.9	9.2	9.2	10.7	9.9	10.4	8.6	9.4	10.3	8.8	9.5
出産時の妊娠週数	標本数	28	24	52	37	38	75	334	433	772	399	495	899
	平均値	39.7	38.2	39.0	39.3	38.9	39.1	39.6	39.4	39.5	39.5	39.3	39.4
	標準偏差	1.2	1.2	1.4	1.1	1.0	1.1	1.2	2.1	1.8	1.2	2.1	1.7
母親の在院日数	標本数	28	24	52	37	38	75	322	395	721	387	457	848
	平均値	9.3	8.4	8.9	7.0	5.9	6.4	6.3	5.5	5.8	6.5	5.6	6.1
	標準偏差	2.7	1.5	2.2	1.3	0.8	1.2	1.6	2.6	2.3	1.9	2.6	2.3
社会的ハイリスクへの該当有(%)	標本数	0	0	0	37	38	75	334	435	776	399	497	904
	件数	0	0	0	4	1	5	24	12	36	28	13	41
	割合	0.0%	0.0%	0.0%	10.8%	2.6%	6.5%	7.2%	2.8%	4.6%	7.0%	2.6%	4.5%

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

※ 「その他の分娩」とは、患者（産婦）票において帝王切開分娩と無痛分娩以外であったものであり、正常な経膈分娩等が該当する。

産婦の年齢等（分娩施設別・分娩経験別）

- 総合・地域周産期母子医療センターでは、他施設と比べ、「非妊時体重」が重く、「妊娠週数」が短く、「在院日数」が長い。
- 分娩施設によらず、「社会的ハイリスクへの該当」割合は初産婦が高い。
- 総合・地域周産期母子医療センターでは、他施設と比べ、「社会的ハイリスクへの該当」割合が高い。

		総合・地域周産期 母子医療センター			それ以外の病院			診療所			助産所		
		初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計
年齢	標本数	73	56	130	66	56	122	194	206	402	61	178	242
	平均値	31.3	33.8	32.4	30.1	31.7	30.8	29.0	32.0	30.6	29.1	33.3	32.2
	標準偏差	5.6	4.2	5.1	5.1	4.8	5.0	4.4	4.5	4.7	4.8	5.0	5.2
身長	標本数	74	57	131	67	56	123	195	205	402	61	174	238
	平均値	158.3	159.0	158.6	157.6	157.5	157.6	158.5	158.6	158.5	158.2	158.4	158.4
	標準偏差	5.8	5.7	5.7	6.1	5.4	5.8	5.4	5.9	5.7	5.7	5.5	5.5
非妊時体重	標本数	73	57	130	65	53	118	195	205	402	62	176	241
	平均値	56.2	55.2	55.8	54.2	55.8	54.9	53.4	54.8	54.2	54.3	52.4	53.0
	標準偏差	12.0	9.8	11.1	8.2	10.9	9.5	7.9	8.7	8.3	15.4	7.5	10.1
出産時の妊娠週数	標本数	74	56	130	67	56	123	195	206	403	63	177	243
	平均値	39.2	38.6	39.0	39.5	39.1	39.3	39.6	39.3	39.4	39.8	39.5	39.6
	標準偏差	1.5	1.7	1.6	1.2	0.9	1.0	1.1	1.2	1.2	1.0	3.0	2.6
母親の在院日数	標本数	74	57	131	67	56	123	191	205	398	55	139	196
	平均値	7.7	6.7	7.2	7.1	6.3	6.7	6.6	6.1	6.3	4.3	4.4	4.4
	標準偏差	2.3	1.5	2.0	1.4	1.0	1.3	1.3	2.8	2.2	1.3	2.5	2.2
社会的ハイリスク への該当有(%)	標本数	74	57	131	67	56	123	195	206	403	—	—	—
	件数	13	2	15	5	3	8	10	8	18	—	—	—
	割合	17.6%	3.5%	11.5%	7.5%	5.4%	6.5%	5.1%	3.9%	4.5%	—	—	—

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

※ それ以外の病院には、総合・地域周産期母子医療センター以外の病院が含まれる。

※ 助産所票には「社会的ハイリスクへの該当の有無」についての質問項目無し

入院経路、分娩時間（分娩状況別・分娩経験別）

- その他の分娩の主な入院経路で最も多かったのは「陣痛発来」で約67%、無痛分娩では「無痛分娩目的」が約35%と最も高く、帝王切開では、いずれにも区分されない「その他の入院経路」が約半数を示していた。
- 「入院から分娩第3期終了までの時間」は、無痛分娩のほうがその他の分娩より長かった。

			帝王切開			無痛分娩			その他の分娩			計			
			初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	
主な入院経路（1つのみ選択）															
	陣痛発来	標本数	25	19	44	37	37	74	328	430	764	390	486	882	
		件数	3	4	7	15	7	22	193	311	508	211	322	537	
		割合	12.0%	21.1%	15.9%	40.5%	18.9%	29.7%	58.8%	72.3%	66.5%	54.1%	66.3%	60.9%	
	前期破水	標本数	25	－	44	37	37	74	328	430	764	390	486	882	
		件数	7	－	7	10	2	12	79	61	141	96	63	160	
		割合	28.0%	－	15.9%	27.0%	5.4%	16.2%	24.1%	14.2%	18.5%	24.6%	13.0%	18.1%	
	計画分娩	標本数	25	19	44	37	37	74	328	430	764	390	486	882	
		件数	4	1	5	2	7	9	38	45	84	44	53	98	
		割合	16.0%	5.3%	11.4%	5.4%	18.9%	12.2%	11.6%	10.5%	11.0%	11.3%	10.9%	11.1%	
	無痛分娩目的	標本数	25	－	44	37	37	74	328	430	764	390	486	882	
		件数	1	－	1	8	18	26	1	1	2	10	19	29	
		割合	4.0%	－	2.3%	21.6%	48.6%	35.1%	0.3%	0.2%	0.3%	2.6%	3.9%	3.3%	
	その他	標本数	25	19	44	37	37	74	328	430	764	390	486	882	
		件数	10	14	24	2	3	5	17	12	29	29	29	58	
		割合	40.0%	73.7%	54.5%	5.4%	8.1%	6.8%	5.2%	2.8%	3.8%	7.4%	6.0%	6.6%	
	分娩時間（分）														
		第1期	標本数	－	－	－	35	38	73	323	421	749	365	461	831
			平均値	－	－	－	625.6	254.2	432.3	629.0	303.8	443.6	624.8	298.8	441.6
標準偏差			－	－	－	464.8	152.0	385.8	470.5	214.9	384.0	467.3	210.8	383.2	
第2期		標本数	－	－	－	34	38	72	322	419	746	361	459	825	
		平均値	－	－	－	118.4	38.0	75.9	69.8	23.8	43.6	74.2	24.9	46.4	
		標準偏差	－	－	－	100.0	40.4	84.5	104.9	75.5	92.0	104.9	73.2	91.6	
第3期		標本数	－	－	－	34	38	72	324	428	758	368	473	847	
		平均値	－	－	－	6.3	6.1	6.2	10.9	9.7	10.2	10.3	9.5	9.8	
		標準偏差	－	－	－	4.4	4.6	4.5	27.0	21.7	24.1	25.5	20.9	22.9	
入院から分娩第3期終了までの時間 （分）		標本数	－	－	－	34	37	71	320	426	751	367	469	841	
		平均値	－	－	－	1471.4	759.0	1100.1	852.8	420.8	603.6	951.7	449.3	667.2	
		標準偏差	－	－	－	1142.2	631.3	973.9	815.9	449.7	666.6	939.9	478.8	758.8	
第3期終了から帰室までの時間 （分）	標本数	－	－	－	34	38	72	315	407	726	362	452	818		
	平均値	－	－	－	164.1	197.6	181.8	161.3	160.1	160.4	161.2	161.8	161.3		
	標準偏差	－	－	－	85.6	102.1	95.5	149.8	112.4	129.6	145.9	111.8	127.7		

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

※ それ以外の病院には、総合・地域周産期母子医療センター以外の病院が含まれる。

※ 「その他の分娩」とは、患者（産婦）票において帝王切開分娩と無痛分娩以外であったものであり、正常な経陰分娩等が該当する。

入院経路、分娩時間（分娩施設別（病院・診療所）・分娩経験別）

- 分娩施設別にみると、施設にかかわらず、「陣痛発来」による入院の割合が高く、その次に高いのが「前期破水」であった。
- 総合・地域周産期母子医療センターとそれ以外の病院では、初産婦より経産婦の方が「計画分娩」の割合が高い。
- 初産婦の「分娩時間」の平均値について、分娩第1期はそれ以外の病院（640分）、診療所（605分）、総合・地域周産期母子医療センター（587分）の順に長いですが、分娩第2期は総合・地域周産期母子医療センター（119分）、診療所（65分）、それ以外の病院（47分）の順に長くなっている。

			総合・地域周産期 母子医療センター			それ以外の病院			診療所			
			初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	
主な入院経路（1つのみ選択）												
	陣痛発来	標本数	71	53	124	65	56	121	193	202	397	
		件数	30	17	47	30	33	63	99	117	217	
		割合	42.3%	32.1%	37.9%	46.2%	58.9%	52.1%	51.3%	57.9%	54.7%	
	前期破水	標本数	71	53	124	65	56	121	193	202	397	
		件数	24	12	36	21	5	26	43	30	73	
		割合	33.8%	22.6%	29.0%	32.3%	8.9%	21.5%	22.3%	14.9%	18.4%	
	計画分娩	標本数	71	53	124	65	56	121	193	202	397	
		件数	11	13	24	6	12	18	26	24	51	
		割合	15.5%	24.5%	19.4%	9.2%	21.4%	14.9%	13.5%	11.9%	12.8%	
	無痛分娩目的	標本数	71	53	124	65	56	121	193	202	397	
		件数	2	5	7	2	2	4	6	12	18	
		割合	2.8%	9.4%	5.6%	3.1%	3.6%	3.3%	3.1%	5.9%	4.5%	
	その他	標本数	71	53	124	65	56	121	193	202	397	
		件数	4	6	10	6	4	10	19	19	38	
		割合	5.6%	11.3%	8.1%	9.2%	7.1%	8.3%	9.8%	9.4%	9.6%	
分娩時間（分）												
	第1期	標本数	62	48	－	66	52	－	179	195	－	
		平均値	586.8	239.1	－	640.4	305.2	－	604.8	298.7	－	
		標準偏差	445.1	145.2	－	525.1	246.9	－	437.2	217.9	－	
	第2期	標本数	61	48	－	65	52	－	178	195	－	
		平均値	118.7	22.23	－	46.7	19.3	－	64.6	17.7	－	
		標準偏差	196.0	27.68	－	47.9	25.1	－	68.0	23.1	－	
	第3期	標本数	63	51	－	65	53	－	181	197	－	
		平均値	11.37	8.8	－	8.6	9.7	－	7.0	5.6	－	
		標準偏差	31.30	16.8	－	23.2	23.6	－	22.1	5.5	－	
	入院から分娩第3期終了までの時間（分）		標本数	67	50	－	63	51	－	179	196	－
			平均値	1133.2	693.1	－	920.9	545.7	－	973.5	488.0	－
			標準偏差	1330.9	834.3	－	825.0	546.1	－	880.8	456.3	－
第3期終了から帰室までの時間（分）		標本数	64	48	－	59	51	－	182	194	－	
		平均値	176.0	167.1	－	161.2	167.2	－	142.5	147.4	－	
		標準偏差	120.0	95.9	－	104.2	101.4	－	106.4	85.5	－	

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。
 ※ それ以外の病院には、総合・地域周産期母子医療センター以外の病院が含まれる。

入院経路、分娩時間、搬送の状況（助産所・分娩経験別）

- 助産所では、「陣痛発来」による入院の割合が高く、その次に高いのが「前期破水」であった。
- 助産所からの搬送先では、「嘱託医療機関」の割合が最も高かった。

			助産所		
			初産婦	経産婦	計
主な入院経路（1つのみ選択）					
	陣痛発来	標本数	61	175	240
		件数	52	155	210
		割合	85.2%	88.6%	87.5%
	前期破水	標本数	61	175	240
		件数	8	16	25
		割合	13.1%	9.1%	10.4%
分娩時間（分）					
	第1期	標本数	58	166	227
		平均値	709.2	314.2	413.8
		標準偏差	510.5	204.7	356.1
	第2期	標本数	57	164	224
		平均値	87.8	36.0	49.1
		標準偏差	94.1	117.4	113.2
	第3期	標本数	59	172	235
		平均値	20.8	14.0	15.6
		標準偏差	28.1	29.6	29.1
入院から分娩第3期終了までの時間（分）		標本数	58	172	233
		平均値	707.9	305.8	404.1
		標準偏差	596.7	246.5	404.3
第3期終了から帰室までの時間（分）		標本数	57	159	218
		平均値	204.3	175.9	182.7
		標準偏差	264.4	142.4	181.7

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

			助産所		
			初産婦	経産婦	計
搬送の状況					
	搬送あり（複数選択）	標本数	64	178	247
		件数	9	12	21
		割合	14.1%	6.7%	8.5%
	分娩期（母体搬送）	標本数	10	13	23
		件数	7	6	13
		割合	70.0%	46.2%	56.5%
	産褥入院中	標本数	9	12	21
		件数	1	2	3
		割合	11.1%	16.7%	14.3%
	新生児（入院中）	標本数	9	13	22
		件数	2	5	7
		割合	22.2%	38.5%	31.8%
	搬送先（1つのみ選択）				
	嘱託医	標本数	9	－	21
		件数	1	－	1
割合		11.1%	－	4.8%	
嘱託医療機関	標本数	10	12	22	
	件数	6	5	11	
	割合	60.0%	41.7%	50.0%	
連携医療機関	標本数	9	12	21	
	件数	1	4	5	
	割合	11.1%	33.3%	23.8%	
その他の医療機関	標本数	9	13	22	
	件数	2	4	6	
	割合	22.2%	30.8%	27.3%	

分娩時医療行為（分娩状況別・分娩施設別・分娩経験別）

- 帝王切開・無痛分娩の方がその他の分娩に比べ、「子宮頸管拡張」「感染予防の抗菌薬点滴」「血管確保」「陣痛誘発」の実施割合が高かった。
- 分娩施設にかかわらず、初産婦の方が経産婦に比べ、「子宮頸管拡張」「感染予防の抗菌薬内服」「感染予防の抗菌薬点滴」「陣痛促進」「会陰切開」「会陰縫合」の実施割合が高かった。

		帝王切開			無痛分娩			その他の分娩			計		
		初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計
標本数		28	24	52	37	38	75	335	435	777	400	497	904
子宮頸管拡張	件数	8	1	9	9	18	27	47	34	82	64	53	118
	割合	28.6%	4.2%	17.3%	24.3%	47.4%	36.0%	14.0%	7.8%	10.6%	16.0%	10.7%	13.1%
感染予防の抗菌薬内服	件数	6	1	7	11	11	22	76	57	133	93	69	162
	割合	21.4%	4.2%	13.5%	29.7%	28.9%	29.3%	22.7%	13.1%	17.1%	23.3%	13.9%	17.9%
感染予防の抗菌薬点滴	件数	19	16	35	15	4	19	75	50	125	109	70	179
	割合	67.9%	66.7%	67.3%	40.5%	10.5%	25.3%	22.4%	11.5%	16.1%	27.3%	14.1%	19.8%
血管確保	件数	28	21	49	36	38	74	287	301	591	351	360	714
	割合	100.0%	87.5%	94.2%	97.3%	100.0%	98.7%	85.7%	69.2%	76.1%	87.8%	72.4%	79.0%
陣痛促進	件数	7	2	9	22	15	37	96	67	163	125	84	209
	割合	25.0%	8.3%	17.3%	59.5%	39.5%	49.3%	28.7%	15.4%	21.0%	31.3%	16.9%	23.1%
陣痛誘発	件数	10	1	11	17	26	43	73	65	139	100	92	193
	割合	35.7%	4.2%	21.2%	45.9%	68.4%	57.3%	21.8%	14.9%	17.9%	25.0%	18.5%	21.3%
会陰切開	件数	3		3	26	18	44	206	70	276	235	88	323
	割合	10.7%	—	5.8%	70.3%	47.4%	58.7%	61.5%	16.1%	35.5%	58.8%	17.7%	35.7%
会陰縫合	件数	3		3	33	31	64	264	218	483	300	249	550
	割合	10.7%	—	5.8%	89.2%	81.6%	85.3%	78.8%	50.1%	62.2%	75.0%	50.1%	60.8%

		総合・地域周産期 母子医療センター			それ以外の病院			診療所			助産所		
		初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計
標本数		74	57	131	67	56	123	195	206	403	64	178	247
子宮頸管拡張	件数	18	13	31	12	6	18	34	34	69	—	—	—
	割合	24.3%	22.8%	23.7%	17.9%	10.7%	14.6%	17.4%	16.5%	17.1%	—	—	—
感染予防の抗菌薬内服	件数	14	4	18	16	9	25	63	56	119	—	—	—
	割合	18.9%	7.0%	13.7%	23.9%	16.1%	20.3%	32.3%	27.2%	29.5%	—	—	—
感染予防の抗菌薬点滴	件数	24	15	39	26	8	34	59	47	106	—	—	—
	割合	32.4%	26.3%	29.8%	38.8%	14.3%	27.6%	30.3%	22.8%	26.3%	—	—	—
血管確保	件数	71	53	124	67	52	119	190	203	395	23	52	76
	割合	95.9%	93.0%	94.7%	100.0%	92.9%	96.7%	97.4%	98.5%	98.0%	35.9%	29.2%	30.9%
陣痛促進	件数	21	8	29	20	10	30	84	66	150	—	—	—
	割合	28.4%	14.0%	22.1%	29.9%	17.9%	24.4%	43.1%	32.0%	37.2%	—	—	—
陣痛誘発	件数	22	19	41	17	18	35	61	55	117	—	—	—
	割合	29.7%	33.3%	31.3%	25.4%	32.1%	28.5%	31.3%	26.7%	29.0%	—	—	—
会陰切開	件数	45	17	62	53	19	72	137	50	187	—	2	2
	割合	60.8%	29.8%	47.3%	79.1%	33.9%	58.5%	70.3%	24.3%	46.4%	—	1.1%	0.8%
会陰縫合	件数	57	39	96	56	44	100	171	148	320	16	18	34
	割合	77.0%	68.4%	73.3%	83.6%	78.6%	81.3%	87.7%	71.8%	79.4%	25.0%	10.1%	13.8%

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

※ それ以外の病院には、総合・地域周産期母子医療センター以外の病院が含まれる。

※ 「その他の分娩」とは、患者（産婦）票において帝王切開分娩と無痛分娩以外であったものであり、正常な経腔分娩等が該当する。

入院中の助産ケア（分娩状況別・分娩経験別）

- 入院中の助産ケアの実施回数や指導時間は、経産婦に比べて初産婦の方が多い。
- 「母子同室」については、分娩経験の有無にかかわらず、無痛分娩＞帝王切開＞その他の分娩の順に実施割合が高い。
- 「授乳指導」については、平均的な1日あたりの回数が4.6回、1入院あたりの合計回数が19.4回であり、産後入院中は多数回の授乳指導が行われている。
- 「沐浴指導」の実施回数は、初産婦で平均1.7回、経産婦で1.5回であり、経産婦にも実施されている。
- 「育児技術指導」の延べ時間は、初産婦で平均257分、経産婦で平均218分であり、「退院指導」の時間は、初産婦で平均45分、経産婦で平均42分であった。

		帝王切開			無痛分娩			その他の分娩			計		
		初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計
母子同室	標本数	28	24	52	37	38	75	335	435	777	400	497	904
	件数	24	19	43	32	34	66	241	228	470	297	281	579
	割合	85.7%	79.2%	82.7%	86.5%	89.5%	88.0%	71.9%	52.4%	60.5%	74.3%	56.5%	64.0%
授乳指導(平均的な1日あたりの回数)	標本数	28	21	49	37	37	74	322	414	743	387	472	866
	平均値	4.5	4.5	4.5	3.8	4.2	4.0	5.2	4.2	4.7	5.1	4.2	4.6
	標準偏差	2.4	2.2	2.3	2.4	1.9	2.1	4.2	2.8	3.5	3.9	2.7	3.3
授乳指導(1入院あたりの合計回数)	標本数	28	21	49	37	37	74	319	412	737	384	470	860
	平均値	26.4	19.4	23.4	16.8	15.4	16.1	22.0	17.4	19.4	21.8	17.3	19.4
	標準偏差	16.8	11.7	15.1	12.9	8.6	10.9	13.5	13.8	13.8	13.8	13.4	13.7
沐浴指導(1入院あたりの合計回数)	標本数	28	21	49	37	36	73	326	417	750	391	474	872
	平均値	1.6	1.2	1.4	1.2	0.9	1.0	1.7	1.5	1.6	1.7	1.5	1.6
	標準偏差	1.2	0.6	1.0	0.6	0.5	0.6	1.4	1.5	1.5	1.3	1.5	1.4
育児技術指導(延べ時間：分)	標本数	27	21	48	37	33	70	312	398	716	376	452	834
	平均値	271.5	226.4	251.8	160.2	183.5	171.2	267.1	220.6	240.6	256.9	218.1	235.4
	標準偏差	361.2	215.6	304.1	162.7	332.0	255.1	383.6	935.1	741.7	367.0	883.0	695.1
退院指導時間(分)	標本数	28	21	49	37	37	74	323	415	744	388	473	867
	平均値	41.8	38.1	40.2	41.5	35.7	38.6	46.2	42.3	44.2	45.4	41.6	43.5
	標準偏差	35.8	18.0	29.3	23.3	18.4	21.0	53.0	31.2	42.2	49.8	29.9	40.2

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

※ 「その他の分娩」とは、患者（産婦）票において帝王切開分娩と無痛分娩以外であったものであり、正常な経膈分娩等が該当する。

入院中の助産ケア（分娩施設別・分娩経験別）

- 「授乳指導」については、総合・地域周産期母子医療センターやそれ以外の病院での実施回数が多く、「育児技術指導」時間も長い傾向にある。
- 「沐浴指導」は、助産所での実施回数が多く、「退院指導」の時間も長い傾向にある。
- 「授乳指導」の平均的な1日あたりの実施回数は、総合・地域周産期母子医療センターで平均5.3回、それ以外の病院で平均5.0回、診療所で平均4.2回、助産所で平均4.7回であった。

		総合・地域周産期 母子医療センター			それ以外の病院			診療所			助産所 ※注 1		
		初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計
母子同室	標本数	74	57	131	67	56	123	195	206	403	—	—	—
	件数	60	45	105	59	49	108	178	187	366	—	—	—
	割合	81.1%	78.9%	80.2%	88.1%	87.5%	87.8%	91.3%	90.8%	90.8%	—	—	—
授乳指導(平均的な1日あたりの回数)	標本数	73	48	121	63	54	117	193	201	396	58	169	232
	平均値	5.7	4.6	5.3	5.2	4.7	5.0	4.4	4.0	4.2	6.2	4.2	4.7
	標準偏差	2.8	2.8	2.8	7.3	2.5	5.6	2.3	2.2	2.2	4.0	3.2	3.5
授乳指導(1入院あたりの合計回数)	標本数	72	48	120	62	54	116	193	200	395	57	168	229
	平均値	27.6	22.0	25.3	19.8	20.7	20.2	18.9	15.6	17.3	26.4	16.9	19.4
	標準偏差	15.7	15.1	15.6	10.9	13.9	12.3	11.1	10.4	10.9	18.3	15.3	16.5
沐浴指導(1入院あたりの合計回数)	標本数	74	49	123	65	55	120	195	200	397	57	170	232
	平均値	1.5	1.0	1.3	1.6	1.2	1.4	1.5	1.2	1.4	2.6	2.0	2.2
	標準偏差	1.0	0.5	0.9	1.4	0.5	1.1	1.3	1.3	1.3	1.2	1.8	1.7
育児技術指導(延べ時間：分)	標本数	73	46	119	56	48	104	190	192	384	57	166	227
	平均値	245.4	263.3	252.3	314.8	239.1	279.9	212.3	231.0	221.2	363.2	184.7	230.4
	標準偏差	316.0	407.0	352.4	536.5	380.1	470.1	260.3	1302.0	937.5	490.2	283.5	352.9
退院指導時間(分)	標本数	73	50	123	65	54	119	193	203	398	57	166	227
	平均値	40.9	39.7	40.4	41.2	43.6	42.3	39.0	32.7	35.8	77.8	52.5	59.4
	標準偏差	18.0	19.0	18.3	17.1	18.7	17.8	21.3	16.4	19.2	116.6	42.4	69.6

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

※ それ以外の病院には、総合・地域周産期母子医療センター以外の病院が含まれる。

※ 注 1 助産所票には母子同室の質問項目無し

新生児の概要（分娩状況別・分娩施設別・分娩経験別）

- 新生児の「出生時の体重」は、全般的に「経産婦」の方が「初産婦」よりも重く、「在院日数」は、「初産婦」の方が「経産婦」よりも長い。他方で、標準偏差をみると、両者とも、「経産婦」の方が「初産婦」よりもばらつきが大きい。
- 新生児の「出生時の体重」は、その他の分娩＞無痛分娩＞帝王切開の順で重い。

		帝王切開			無痛分娩			その他の分娩			計		
		初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計
出生時の体重	標本数	28	24	52	37	38	75	332	433	771	397	495	897
	平均値	3,054	2,920	2,992	3,018	3,067	3,043	3,023	3,121	3,079	3,024	3,107	3,071
	標準偏差	338.3	338.7	341.8	357.3	280.5	319.5	357.5	365.5	365.0	355.4	360.6	360.6
在院日数（出生及び退院日を含める）	標本数	26	24	50	37	38	75	329	429	765	392	491	890
	平均値	8.4	8.2	8.3	5.8	5.3	5.5	5.9	5.4	5.6	6.0	5.5	5.7
	標準偏差	2.8	3.9	3.3	0.9	0.6	0.8	1.7	2.6	2.2	1.8	2.6	2.3

		総合・地域周産期 母子医療センター			それ以外の病院			診療所			助産所		
		初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計
出生時の体重	標本数	74	56	130	67	56	123	195	206	403	61	177	242
	平均値	3,022	3,070	3,043	2,996	3,088	3,038	3,031	3,084	3,059	3,037	3,150	3,125
	標準偏差	398.1	441.0	416.2	360.3	293.5	333.5	342.0	338.4	340.0	344.5	375.3	370.8
在院日数（出生及び退院日を含める）	標本数	72	56	128	67	56	123	193	204	399	60	175	240
	平均値	7.1	7.9	7.4	6.8	6.3	6.5	5.9	5.5	5.7	4.3	4.5	4.4
	標準偏差	2.7	5.2	4.0	1.8	1.9	1.8	1.0	1.0	1.0	1.3	2.3	2.1

※ 本調査の実施期間は1か月であったが、助産所の在院日数で1件30日を大きく上回る日数があったため外れ値として除外。

※ それ以外の病院には、総合・地域周産期母子医療センター以外の病院が含まれる。

※ 「その他の分娩」とは、患者（産婦）個票において帝王切開分娩と無痛分娩以外であったものであり、正常な経膣分娩等が該当する。

新生児へ提供した医療等（分娩状況別・分娩経験別）

- 新生児への「入院中の診療日数」については、「小児科医」では帝王切開＞その他の分娩＞無痛分娩の順で多い。「産科医」では、帝王切開＞無痛分娩＞その他の分娩の順で多い。
- 検査等について、「アプニアセンサー装着」は全体の47%に実施され、「新生児聴覚検査」は全体の87%に実施されていた。
- 無痛分娩・その他の分娩に比べ、帝王切開で出生直後に「血糖測定対象かどうか」「SpO2モニター装着」の割合が高い。
- 治療については、帝王切開・その他の分娩と比べ、無痛分娩で「光線療法」の割合が高い。

			帝王切開			無痛分娩			その他の分娩			計			
			初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	
診察	小児科医による診察日数 （入院中に限る）※注 1	標本数	26	22	48	33	37	70	253	230	485	312	289	603	
		平均値	2.2	2.7	2.4	1.8	1.5	1.7	2.0	1.8	1.9	2.0	1.9	1.9	
		標準偏差	2.5	5.4	4.1	2.3	1.6	1.9	2.6	3.5	3.0	2.5	3.5	3.0	
	産科医による診察日数 （入院中に限る）※注 1	標本数	27	22	49	35	38	73	265	244	511	327	304	633	
		平均値	2.2	2.2	2.2	2.3	1.7	2.0	1.7	1.8	1.7	1.8	1.8	1.8	
		標準偏差	2.3	2.3	2.3	2.3	1.5	1.9	2.1	1.8	2.0	2.1	1.8	2.0	
	助産師による観察日数 ※注 2	標本数	—	—	—	—	—	—	58	167	230	58	167	231	
		平均値	—	—	—	—	—	—	4.8	4.9	4.8	4.8	4.9	4.8	
		標準偏差	—	—	—	—	—	—	1.3	1.7	1.6	1.3	1.7	1.6	
	検査等	採血検査の項目 ※注 3	標本数	28	24	52	37	38	75	335	435	777	400	497	904
			件数	17	8	25	22	24	46	185	282	473	224	314	544
			割合	60.7%	33.3%	48.1%	59.5%	63.2%	61.3%	55.2%	64.8%	60.9%	56.0%	63.2%	60.2%
黄疸検査 ※注 4		件数	27	22	49	35	37	72	328	418	752	390	477	873	
		割合	96.4%	91.7%	94.2%	94.6%	97.4%	96.0%	97.9%	96.1%	96.8%	97.5%	96.0%	96.6%	
出生直後血糖測定対象かどうか		件数	8	12	20	12	13	25	87	91	180	107	116	225	
		割合	28.6%	50.0%	38.5%	32.4%	34.2%	33.3%	26.0%	20.9%	23.2%	26.8%	23.3%	24.9%	
SpO2モニター装着（出生直後等）		件数	27	20	47	31	34	65	276	323	605	334	377	717	
		割合	96.4%	83.3%	90.4%	83.8%	89.5%	86.7%	82.4%	74.3%	77.9%	83.5%	75.9%	79.3%	
アプニアセンサー装着		件数	19	12	31	22	23	45	187	164	352	228	199	428	
		割合	67.9%	50.0%	59.6%	59.5%	60.5%	60.0%	55.8%	37.7%	45.3%	57.0%	40.0%	47.3%	
先天性代謝異常等検査		件数	28	23	51	36	38	74	321	421	749	385	482	874	
		割合	100.0%	95.8%	98.1%	97.3%	100.0%	98.7%	95.8%	96.8%	96.4%	96.3%	97.0%	96.7%	
新生児聴覚検査		件数	28	23	51	37	38	75	306	352	662	371	413	788	
		割合	100.0%	95.8%	98.1%	100.0%	100.0%	100.0%	91.3%	80.9%	85.2%	92.8%	83.1%	87.2%	
治療等	保育器収容（酸素投与のため）	件数	5	6	11	2	3	5	23	15	39	30	24	55	
		割合	17.9%	25.0%	21.2%	5.4%	7.9%	6.7%	6.9%	3.4%	5.0%	7.5%	4.8%	6.1%	
	保育器収容（保温のため）	件数	13	11	24	37	5	11	40	37	77	59	53	112	
		割合	46.4%	45.8%	46.2%	16.2%	13.2%	14.7%	11.9%	8.5%	9.9%	14.8%	10.7%	12.4%	
	保温（保育器収容を含む） ※注 2	件数	—	—	—	—	—	—	45	123	172	45	123	172	
		割合	—	—	—	—	—	—	13.4%	28.3%	22.1%	11.3%	24.7%	19.0%	
	光線療法※注 1	件数	1	1	2	4	3	7	38	21	60	43	25	69	
		割合	3.6%	4.2%	3.8%	10.8%	7.9%	9.3%	11.3%	4.8%	7.7%	10.8%	5.0%	7.6%	
	新生児への処置・ケア	臍処置	件数	27	21	48	32	28	60	319	400	726	378	449	834
			割合	96.4%	87.5%	92.3%	86.5%	73.7%	80.0%	95.2%	92.0%	93.4%	94.5%	90.3%	92.3%
皮膚ケア		件数	23	19	42	27	24	51	253	336	595	303	379	688	
		割合	82.1%	79.2%	80.8%	73.0%	63.2%	68.0%	75.5%	77.2%	76.6%	75.8%	76.3%	76.1%	
ビタミンK2内服		件数	27	21	48	35	38	73	327	424	758	389	483	879	
		割合	96.4%	87.5%	92.3%	94.6%	100.0%	97.3%	97.6%	97.5%	97.6%	97.3%	97.2%	97.2%	
沐浴・ドライケア（清拭）の回数 （入院中に限る）		標本数	25	22	47	36	36	72	309	409	724	370	467	843	
		平均値	6.4	7.0	6.7	4.1	4.3	4.2	4.8	4.3	4.5	4.8	4.4	4.6	
	標準偏差	3.8	4.5	4.1	2.0	1.3	1.7	1.8	2.6	2.3	2.1	2.7	2.4		

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

※ それ以外の病院には、総合・地域周産期母子医療センター以外の病院が含まれる。

※ 「その他の分娩」とは、患者（産婦）票において帝王切開分娩と無痛分娩以外であったものであり、正常な経腔分娩等が該当する。

※ 患者票の出産経験（初産・経産）に係る情報に欠損があるため、初産婦と経産婦の件数の合計が総計の件数と一致しない場合がある。

※ 注1 病院・診療所のみ

※ 注2 助産所のみ

※ 注3 助産所の場合は、「採血（足底からの採血を含む）」

※ 注4 助産所の場合は、「ミノルタ黄疸計測定」

新生児へ提供した医療等（分娩施設別・分娩経験別）

- 新生児への「入院中の診療日数」については、「小児科医」では総合・地域周産期母子医療センター＞診療所＞それ以外の病院の順が多い。「産科医」では、総合・地域周産期母子医療センターとそれ以外の病院＞診療所の順が多い。
- 検査等について、「アプニアセンサー装着」はそれ以外の病院72％、総合・地域周産期母子医療センター67％、診療所50％、助産所19％の順で割合が高い。
- 治療については、それ以外の病院・診療所に比べ、総合・地域周産期母子医療センターで「光線療法」の割合が高い。

			総合・地域周産期 母子医療センター			それ以外の病院			診療所			助産所		
			初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計
診療	小児科医による診療日数 （入院中に限る）※注1	標本数	74	56	130	64	50	114	174	183	359	—	—	—
		平均値	3.8	4.7	4.2	3.0	3.0	3.0	0.9	0.7	0.8	—	—	—
		標準偏差	3.2	6.2	4.7	2.8	2.8	2.8	1.3	1.1	1.2	—	—	—
	産科医による診療日数 （入院中に限る）※注1	標本数	74	54	128	66	50	116	187	200	389	—	—	—
		平均値	0.9	0.7	0.8	1.2	1.4	1.3	2.4	2.2	2.3	—	—	—
		標準偏差	1.6	1.0	1.4	2.3	1.9	2.2	2.0	1.8	1.9	—	—	—
	助産師による観察日数 ※注2	標本数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	59	167	231
		平均値	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4.8	4.9	4.8
		標準偏差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.3	1.7	1.6
検査等	採血検査の項目 ※注3	標本数	74	57	131	67	56	123	195	206	403	64	178	247
		件数	49	32	81	32	32	64	101	115	218	42	135	181
		割合	66.2%	56.1%	61.8%	47.8%	57.1%	52.0%	51.8%	55.8%	54.1%	65.6%	75.8%	73.3%
	黄疸検査 ※注4	件数	72	54	126	65	53	118	193	198	393	60	172	236
		割合	97.3%	94.7%	96.2%	97.0%	94.6%	95.9%	99.0%	96.1%	97.5%	93.8%	96.6%	95.5%
	出生直後血糖測定対象かどうか	件数	30	21	51	16	11	27	51	50	101	10	34	46
		割合	40.5%	36.8%	38.9%	23.9%	19.6%	22.0%	26.2%	24.3%	25.1%	15.6%	19.1%	18.6%
	SpO2モニター装着（出生直後等）	件数	68	48	116	62	52	114	161	165	328	43	112	159
		割合	91.9%	84.2%	88.5%	92.5%	92.9%	92.7%	82.6%	80.1%	81.4%	67.2%	62.9%	64.4%
	アプニアセンサー装着	件数	56	32	88	51	38	89	107	95	203	14	34	48
		割合	75.7%	56.1%	67.2%	76.1%	67.9%	72.4%	54.9%	46.1%	50.4%	21.9%	19.1%	19.4%
	先天性代謝異常等検査	件数	73	55	128	66	56	122	192	203	397	54	168	227
		割合	98.6%	96.5%	97.7%	98.5%	100.0%	99.2%	98.5%	98.5%	98.5%	84.4%	94.4%	91.9%
	新生児聴覚検査	件数	74	55	129	67	56	123	193	202	397	37	100	139
		割合	100.0%	96.5%	98.5%	100.0%	100.0%	100.0%	99.0%	98.1%	98.5%	57.8%	56.2%	56.3%
治療等	保育器収容（酸素投与のため）	件数	11	9	20	5	3	8	14	12	27	—	—	—
		割合	14.9%	15.8%	15.3%	7.5%	5.4%	6.5%	7.2%	5.8%	6.7%	—	—	—
	保育器収容（保温のため）	件数	21	12	33	7	9	16	31	32	63	—	—	—
		割合	28.4%	21.1%	25.2%	10.4%	16.1%	13.0%	15.9%	15.5%	15.6%	—	—	—
	保温（保育器収容を含む）※注2	件数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	45	123	172
		割合	—	—	—	—	—	—	—	—	—	70.3%	69.1%	69.6%
新生児への処置・ケア	光線療法※注1	件数	12	5	17	8	4	12	23	16	40	—	—	—
		割合	16.2%	8.8%	13.0%	11.9%	7.1%	9.8%	11.8%	7.8%	9.9%	—	—	—
	臍処置	件数	70	45	115	66	53	119	186	187	375	56	164	225
		割合	94.6%	78.9%	87.8%	98.5%	94.6%	96.7%	95.4%	90.8%	93.1%	87.5%	92.1%	91.1%
	皮膚ケア	件数	56	38	94	56	47	103	145	139	285	46	155	206
		割合	75.7%	66.7%	71.8%	83.6%	83.9%	83.7%	74.4%	67.5%	70.7%	71.9%	87.1%	83.4%
	ビタミンK2内服	件数	70	53	123	66	56	122	194	204	403	59	170	234
		割合	94.6%	93.0%	93.9%	98.5%	100.0%	99.2%	99.5%	99.0%	99.3%	92.2%	95.5%	94.7%
	沐浴・ドライケア（清拭）の回数 （入院中に限る）	標本数	68	54	122	62	53	115	182	192	375	58	168	231
		平均値	4.8	6.2	5.5	5.7	5.3	5.5	4.8	4.3	4.5	3.9	3.7	3.8
		標準偏差	3.3	5.9	4.6	2.0	1.9	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.9	1.8

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

※ それ以外の病院には、総合・地域周産期母子医療センター以外の病院が含まれる。

※ 患者票の出産経験（初産・経産）に係る情報に欠損があるため、初産婦と経産婦の件数の合計が総計の件数と一致しない場合がある。

※ 注1 病院・診療所のみ

※ 注2 助産所のみ

※ 注3 助産所の場合は、「採血（足底からの採血を含む）」

※ 注4 助産所の場合は、「ミノルタ黄疸計測定」

提供したサービス等（分娩状況別・分娩施設別・分娩経験別）

- 「お祝い膳」以外のサービス（写真撮影、足形、エステ）の提供は、「初産婦」に比べて「経産婦」の方が割合が高い。
- 「お祝い膳」の提供は、助産所が最も割合が低い。
- 「お祝い膳」以外のサービス（写真撮影、足形、エステ）の提供は、総合・地域周産期母子医療センターが他施設と比べて割合が低い。

		帝王切開			無痛分娩			その他の分娩			計		
		初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計
標本数		28	24	52	37	38	75	335	435	777	400	497	904
お祝い膳	件数	21	17	38	31	27	58	234	257	496	286	301	592
	割合	75.0%	70.8%	73.1%	83.8%	71.1%	77.3%	69.9%	59.1%	63.8%	71.5%	60.6%	65.5%
写真撮影	件数	18	12	30	20	21	41	201	294	500	239	327	571
	割合	64.3%	50.0%	57.7%	54.1%	55.3%	54.7%	60.0%	67.6%	64.4%	59.8%	65.8%	63.2%
足形	件数	11	9	20	14	18	32	167	243	416	192	270	468
	割合	39.3%	37.5%	38.5%	37.8%	47.4%	42.7%	49.9%	55.9%	53.5%	48.0%	54.3%	51.8%
エステ	件数	11	5	16	18	21	39	104	157	266	133	183	321
	割合	39.3%	20.8%	30.8%	48.6%	55.3%	52.0%	31.0%	36.1%	34.2%	33.3%	36.8%	35.5%

		総合・地域周産期 母子医療センター			それ以外の病院			診療所			助産所		
		初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計
標本数		74	57	131	67	56	123	195	206	403	64	178	247
お祝い膳	件数	63	39	102	54	44	98	148	170	319	21	48	73
	割合	85.1%	68.4%	77.9%	80.6%	78.6%	79.7%	75.9%	82.5%	79.2%	32.8%	27.0%	29.6%
写真撮影	件数	15	15	30	34	33	67	155	168	325	35	111	149
	割合	20.3%	26.3%	22.9%	50.7%	58.9%	54.5%	79.5%	81.6%	80.6%	54.7%	62.4%	60.3%
足形	件数	20	9	29	32	28	60	104	123	228	36	110	151
	割合	27.0%	15.8%	22.1%	47.8%	50.0%	48.8%	53.3%	59.7%	56.6%	56.3%	61.8%	61.1%
エステ	件数	4	－	4	14	15	29	101	110	211	14	58	77
	割合	5.4%	－	3.1%	20.9%	26.8%	23.6%	51.8%	53.4%	52.4%	21.9%	32.6%	31.2%

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

※ それ以外の病院には、総合・地域周産期母子医療センター以外の病院が含まれる。

※ 「その他の分娩」とは、患者（産婦）票において帝王切開分娩と無痛分娩以外であったものであり、正常な経陰分娩等が該当する。

費用（分娩状況別・分娩経験別）

（出産育児一時金の直接支払制度専用請求書記載内容）

- 「産婦合計負担額」の平均値は、無痛分娩（603,338円）＞帝王切開（511,299円）＞その他の分娩（485,636円）の順で高い。
- 「室料差額」「分娩介助料」「処置・手当料」を除き、「経産婦」と比べ、「初産婦」の方が高い。「産婦合計負担額」の平均は、「経産婦」が476,365円に対して、「初産婦」は523,711円。

		帝王切開			無痛分娩			その他の分娩			計		
		初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計
入院料	標本数	5	2	7	30	31	61	283	374	662	318	407	730
	平均値	184,400	84,000	155,714	134,720	105,845	120,046	126,401	118,161	121,520	128,097	117,055	121,725
	標準偏差	201,059	21,213	171,537	67,783	69,870	69,810	63,943	84,288	76,063	68,003	83,096	76,815
室料差額	標本数	10	17	27	18	20	38	119	91	212	147	128	277
	平均値	89,300	55,142	67,793	49,699	100,780	76,584	37,304	37,389	37,359	42,359	49,651	45,706
	標準偏差	87,810	42,901	63,908	47,899	259,458	190,502	23,916	25,132	24,348	37,190	106,180	77,043
分娩介助料	標本数	20	22	42	15	12	27	81	47	128	116	81	197
	平均値	255,708	221,923	238,011	276,793	358,208	312,978	252,447	249,910	251,516	256,158	258,353	257,060
	標準偏差	77,124	88,438	83,989	103,637	83,621	102,183	72,552	88,662	78,515	77,572	97,145	85,928
分娩料	標本数	2	1	3	24	22	46	221	363	590	247	386	639
	平均値	262,000	233,000	252,333	332,573	310,686	322,105	286,706	288,111	287,151	290,962	289,255	289,504
	標準偏差	25,456	.	24,583	105,982	73,632	91,615	80,575	73,331	76,455	83,970	73,401	77,966
新生児管理保育料	標本数	17	18	35	33	34	67	275	379	660	325	431	762
	平均値	94,033	73,724	83,588	70,565	70,056	70,307	57,722	54,138	55,548	60,925	56,212	58,134
	標準偏差	37,544	38,137	38,686	28,521	71,432	54,275	23,924	23,209	23,513	26,640	30,893	29,150
検査・薬剤料	標本数	13	12	25	29	30	59	260	293	558	302	335	642
	平均値	28,518	13,873	21,488	36,786	16,157	26,297	17,209	15,631	16,283	19,576	15,615	17,406
	標準偏差	33,071	13,306	26,149	33,725	12,485	27,115	16,107	15,392	15,711	20,236	15,054	17,767
処置・手当料	標本数	7	11	18	25	24	49	227	302	534	259	337	601
	平均値	20,400	26,753	24,282	68,747	54,619	61,827	25,883	32,935	29,930	29,872	34,277	32,361
	標準偏差	25,336	36,139	31,701	54,694	68,037	61,357	20,434	28,816	25,714	28,668	33,654	31,546
産科医療補償制度の掛金	標本数	21	23	44	37	34	71	304	403	713	362	460	828
	平均値	12,571	12,174	12,364	12,000	12,353	12,169	12,056	11,991	12,019	12,080	12,027	12,050
	標準偏差	2,619	834	1,894	0	2,058	1,424	674	547	603	881	781	824
その他	標本数	20	22	42	37	34	71	297	388	691	354	444	804
	平均値	26,854	47,108	37,463	125,061	75,326	101,244	34,953	32,989	33,797	43,913	36,930	39,945
	標準偏差	25,933	60,127	47,625	159,743	60,137	124,316	34,295	29,157	31,399	66,325	36,268	51,723
一部負担金等	標本数	19	22	41	19	21	40	110	78	189	148	121	270
	平均値	101,443	81,032	90,490	61,540	67,163	64,492	30,591	17,981	25,227	43,660	37,980	40,954
	標準偏差	64,796	62,924	63,830	114,510	147,375	131,142	38,448	23,047	33,414	61,778	73,502	67,155
産婦合計負担額	標本数	20	22	42	37	34	71	295	390	690	352	446	803
	平均値	592,841	437,170	511,299	639,012	564,517	603,338	504,562	470,891	485,636	523,711	476,365	497,385
	標準偏差	224,004	227,430	236,512	229,040	225,014	228,589	170,660	175,715	173,662	185,670	184,070	185,614
代理受取額	標本数	19	23	42	31	30	61	224	226	452	274	279	555
	平均値	458,358	429,861	442,752	499,411	511,590	505,401	491,242	487,923	488,626	489,886	485,681	486,998
	標準偏差	58,146	96,025	81,475	3,278	71,390	50,064	28,671	46,999	44,034	31,250	58,168	50,290

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

※ 「その他の分娩」とは、患者（産婦）票において帝王切開分娩と無痛分娩以外であったものであり、正常な経膣分娩等が該当する。

費用（分娩施設別・分娩経験別） （出産育児一時金の直接支払制度専用請求書記載内容）

- 「産婦合計負担額」は、総合・地域周産期母子医療センター（537,358円）＞診療所（513,405円）＞それ以外の病院（503,551円）＞助産所（448,154円）の順で高かった。
- 「入院料」、「室料差額」、「一部負担金等」では総合・地域周産期母子医療センターが高いが、それ以外の項目については、診療所が高い傾向。

		総合・地域周産期 母子医療センター			それ以外の病院			診療所			助産所		
		初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計
入院料	標本数	44	38	82	53	40	93	165	175	342	56	154	213
	平均値	208,295	197,013	203,066	162,650	153,980	158,921	103,368	90,145	96,339	105,246	118,314	114,930
	標準偏差	64,410	77,418	70,514	71,022	71,710	71,060	54,223	38,571	47,190	34,809	105,340	91,459
室料差額	標本数	33	25	58	31	22	53	81	80	163	2	1	3
	平均値	61,361	48,848	55,967	38,990	45,773	41,806	36,489	51,277	43,781	18,800	25,000	20,867
	標準偏差	55,618	23,327	44,775	21,675	27,455	24,225	30,126	133,206	95,709	8,768	-	7,159
分娩介助料 ※注 1	標本数	32	24	56	30	14	44	54	43	97	-	-	-
	平均値	243,651	251,550	247,037	225,051	170,436	207,674	280,850	290,774	285,249	-	-	-
	標準偏差	78,822	96,642	86,157	61,266	81,855	72,244	78,137	84,308	80,653	-	-	-
分娩料	標本数	31	25	56	31	35	66	127	153	282	58	173	235
	平均値	266,346	215,484	243,639	236,552	248,578	242,929	312,147	308,843	309,375	286,814	290,822	289,668
	標準偏差	105,638	71,019	94,545	73,786	90,638	82,744	77,814	68,455	74,267	73,142	64,181	66,000
新生児管理保育料	標本数	41	32	73	47	42	89	179	191	372	58	166	228
	平均値	54,734	61,062	57,508	55,724	56,718	56,193	67,824	62,459	64,954	48,226	47,961	47,963
	標準偏差	34,518	73,762	54,905	24,494	31,329	27,770	25,685	26,632	26,275	17,026	16,915	16,839
検査・薬剤料	標本数	45	37	82	50	39	89	164	158	324	43	101	147
	平均値	19,794	11,627	16,109	17,958	14,707	16,534	22,158	20,152	21,105	11,382	10,328	10,505
	標準偏差	25,414	8,167	19,930	18,685	13,146	16,482	20,826	17,851	19,393	8,327	9,998	9,483
処置・手当料	標本数	31	23	54	33	33	66	140	128	270	55	153	211
	平均値	19,102	12,114	16,126	27,402	21,688	24,545	30,268	36,538	33,135	36,418	38,433	37,972
	標準偏差	18,276	12,340	16,261	31,392	25,111	28,352	32,638	47,479	40,354	17,338	18,303	17,954
産科医療補償制度の掛金	標本数	61	47	108	61	49	110	182	194	378	58	170	232
	平均値	12,377	12,340	12,361	12,067	12,010	12,042	12,003	11,960	11,981	12,026	12,021	12,022
	標準偏差	2,067	1,833	1,960	525	71	393	37	781	560	112	100	102
その他	標本数	61	48	109	59	49	108	180	191	373	54	156	214
	平均値	35,716	34,272	35,080	48,169	31,696	40,695	46,644	38,536	42,369	39,420	37,426	37,819
	標準偏差	50,434	35,405	44,263	125,742	37,783	96,327	49,101	39,758	44,579	28,827	31,388	30,544
一部負担金等 ※注 1	標本数	32	23	55	31	15	46	85	83	169	-	-	-
	平均値	76,869	53,118	66,937	36,792	46,958	40,107	33,663	32,163	32,729	-	-	-
	標準偏差	73,957	63,379	70,116	40,144	51,357	43,797	59,549	79,150	69,554	-	-	-
産婦合計負担額	標本数	63	46	109	58	49	107	176	188	366	55	163	221
	平均値	569,095	493,892	537,358	513,162	492,175	503,551	532,257	495,356	513,405	455,500	444,761	448,154
	標準偏差	165,715	210,063	188,529	162,997	132,969	149,677	189,849	181,818	185,924	200,500	189,285	190,601
代理受取額 ※注 1	標本数	56	47	103	51	45	96	167	187	356	-	-	-
	平均値	473,394	465,181	469,646	480,498	470,004	475,579	498,284	494,606	495,097	-	-	-
	標準偏差	45,629	109,166	80,709	46,916	53,854	50,294	7,964	34,321	34,783	-	-	-

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

※ それ以外の病院には、総合・地域周産期母子医療センター以外の病院が含まれる。

※ 注 1 助産所票には質問項目無し

分娩に関わった職種別延べ人数（娩出30分前後、分娩状況・分娩経験別）

- 正常な経腔分娩等を含む「その他の分娩」において、娩出30分前後に関わった職種別延べ人数は「産婦人科医」が0.8人、「助産師」が2.1人であった。
- 「産婦人科医」、「麻酔科医」、「小児科新生児科医」とも、帝王切開＞無痛分娩＞その他の分娩の順で、投入される人数が多かった。「助産師」は、その他の分娩が最も投入人数が多く、帝王切開と無痛分娩は差がなかった。
- その他の分娩で「医師」・「看護師」・「准看護師」の最小値に「0」があるのは、助産所が含まれるためである。

			帝王切開			無痛分娩			その他の分娩			計		
			初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計
標本数			22	17	41	34	34	69	277	382	676	333	433	786
娩出時前後30分														
産婦人科医		平均値	1.818	1.706	1.756	1.412	1.294	1.348	1.018	0.626	0.788	1.111	0.721	0.888
		標準偏差	0.588	0.588	0.582	0.609	0.579	0.590	0.725	0.639	0.698	0.738	0.686	0.730
		最小値	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0
		最大値	3	3	3	3	3	3	4	4	4	4	4	4
麻酔科医		平均値	0.318	0.588	0.439	0.147	0.265	0.217	0.025	0.003	0.012	0.057	0.046	0.052
		標準偏差	0.716	0.618	0.673	0.359	0.448	0.415	0.216	0.051	0.144	0.300	0.221	0.259
		最小値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		最大値	3	2	3	1	1	1	3	1	3	3	2	3
小児科新生児科医		平均値	0.227	0.176	0.195	0.029	0.118	0.072	0.065	0.021	0.040	0.072	0.035	0.051
		標準偏差	0.685	0.393	0.558	0.171	0.327	0.261	0.247	0.143	0.196	0.292	0.183	0.237
		最小値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		最大値	3	1	3	1	1	1	1	1	1	3	1	3
助産師		平均値	2.136	1.706	1.927	1.794	2.000	1.928	2.047	2.081	2.061	2.027	2.060	2.042
		標準偏差	1.167	1.105	1.127	0.946	0.921	0.960	1.029	0.945	0.974	1.031	0.951	0.981
		最小値	1	0	0	1	1	1	1	1	1	1	0	0
		最大値	5	5	5	4	4	4	7	7	7	7	7	7
看護師		平均値	1.136	1.059	1.049	0.294	0.265	0.275	0.513	0.327	0.404	0.532	0.351	0.426
		標準偏差	1.246	1.249	1.224	0.629	0.511	0.566	0.740	0.632	0.683	0.789	0.671	0.726
		最小値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		最大値	4	4	4	2	2	2	3	3	3	4	4	4
准看護師		平均値	0.091	0.235	0.146	0.118	0.147	0.130	0.032	0.071	0.058	0.045	0.083	0.069
		標準偏差	0.426	0.562	0.478	0.327	0.436	0.380	0.197	0.286	0.263	0.235	0.316	0.291
		最小値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		最大値	2	2	2	1	2	2	2	3	3	2	3	3
その他		平均値	—	0.118	0.049	—	0.059	0.029	0.022	0.016	0.019	0.018	0.023	0.022
		標準偏差	—	0.332	0.218	—	0.239	0.169	0.146	0.125	0.137	0.133	0.150	0.146
		最小値	—	0	0	—	0	0	0	0	0	0	0	0
		最大値	—	1	1	—	1	1	1	1	1	1	1	1

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

※ 「その他の分娩」とは、患者（産婦）票において帝王切開分娩と無痛分娩以外であったものであり、正常な経腔分娩等が該当する。

分娩に関わった職種別延べ人数（娩出1時間前後、分娩状況・分娩経験別）

- 正常な経腔分娩等を含む「その他の分娩」において、娩出1時間前後に関わった職種別延べ人数は「産婦人科医」が0.8人、「助産師」が2.1人であった。
- 「産婦人科医」、「麻酔科医」、「小児科新生児科医」とも、帝王切開＞無痛分娩＞その他の分娩の順で、投入される人数が多かった。
- 「助産師」は、その他の分娩が最も投入人数が多く、帝王切開と無痛分娩は差がなかった。
- 「看護師」については、帝王切開＞その他の分娩＞無痛分娩の順で投入される人数が多かった。

			帝王切開			無痛分娩			その他の分娩			計		
			初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計
標本数			22	17	41	34	34	69	277	382	676	333	433	786
娩出時前後1時間														
産婦人科医	平均値		1.818	1.706	1.756	1.412	1.324	1.362	1.047	0.628	0.802	1.135	0.725	0.901
	標準偏差		0.588	0.588	0.582	0.609	0.589	0.593	0.767	0.642	0.722	0.770	0.691	0.749
	最小値		1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0
	最大値		3	3	3	3	3	3	4	4	4	4	4	4
麻酔科医	平均値		0.364	0.588	0.463	0.176	0.265	0.232	0.025	0.003	0.012	0.063	0.046	0.055
	標準偏差		0.902	0.618	0.778	0.387	0.448	0.425	0.216	0.051	0.144	0.337	0.221	0.278
	最小値		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	最大値		4	2	4	1	1	1	3	1	3	4	2	4
小児科新生児科医	平均値		0.227	0.176	0.195	0.029	0.118	0.072	0.076	0.021	0.044	0.081	0.035	0.055
	標準偏差		0.685	0.393	0.558	0.171	0.327	0.261	0.279	0.143	0.213	0.314	0.183	0.249
	最小値		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	最大値		3	1	3	1	1	1	2	1	2	3	1	3
助産師	平均値		2.318	1.824	2.073	1.912	2.059	2.014	2.123	2.157	2.135	2.114	2.136	2.121
	標準偏差		1.211	1.015	1.127	0.965	0.952	0.978	1.046	0.962	0.991	1.049	0.963	0.997
	最小値		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	最大値		5	5	5	4	4	4	7	7	7	7	7	7
看護師	平均値		1.136	1.235	1.122	0.324	0.265	0.290	0.527	0.359	0.429	0.547	0.386	0.453
	標準偏差		1.246	1.251	1.229	0.638	0.511	0.571	0.754	0.664	0.707	0.800	0.705	0.749
	最小値		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	最大値		4	4	4	2	2	2	3	3	3	4	4	4
准看護師	平均値		0.091	0.235	0.146	0.118	0.147	0.130	0.036	0.076	0.062	0.048	0.088	0.073
	標準偏差		0.426	0.562	0.478	0.327	0.436	0.380	0.205	0.302	0.276	0.241	0.329	0.300
	最小値		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	最大値		2	2	2	1	2	2	2	3	3	2	3	3
その他	平均値		—	0.118	0.073	—	0.059	0.029	0.022	0.016	0.019	0.018	0.023	0.023
	標準偏差		—	0.332	0.264	—	0.239	0.169	0.146	0.125	0.137	0.133	0.150	0.150
	最小値		—	0	0	—	0	0	0	0	0	0	0	0
	最大値		—	1	1	—	1	1	1	1	1	1	1	1

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

※ 「その他の分娩」とは、患者（産婦）個票において帝王切開分娩と無痛分娩以外であったものであり、正常な経腔分娩等が該当する。

分娩に関わった職種別延べ人数（娩出2時間前後、分娩状況・分娩経験別）

- 正常な経膣分娩等を含む「その他の分娩」において、娩出2時間前後に関わった職種別延べ人数は「産婦人科医」が0.8人、「助産師」が2.3人、「看護師」が0.4人であった。
- 「産婦人科医」、「麻酔科医」、「小児科新生児科医」とも、帝王切開＞無痛分娩＞その他の分娩の順で投入される人数が多かった。
- 「助産師」については、無痛分娩＞帝王切開＞その他の分娩の順で投入される人数が多かった。
- 「看護師」については、帝王切開＞その他の分娩＞無痛分娩の順で投入される人数が多かった。

			帝王切開			無痛分娩			その他の分娩			計		
			初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計
標本数			22	17	41	34	34	69	277	382	676	333	433	786
娩出時前後2時間														
産婦人科医	平均値		1.909	1.706	1.805	1.441	1.529	1.478	1.072	0.644	0.821	1.165	0.755	0.930
	標準偏差		0.684	0.588	0.641	0.613	0.615	0.609	0.809	0.671	0.756	0.814	0.730	0.788
	最小値		1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0
	最大値		3	3	3	3	3	3	5	4	5	5	4	5
麻酔科医	平均値		0.364	0.588	0.463	0.235	0.294	0.275	0.025	0.003	0.012	0.069	0.048	0.059
	標準偏差		0.902	0.618	0.778	0.431	0.462	0.450	0.216	0.051	0.144	0.345	0.226	0.284
	最小値		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	最大値		4	2	4	1	1	1	3	1	3	4	2	4
小児科新生児科医	平均値		0.227	0.176	0.195	0.029	0.147	0.087	0.083	0.021	0.047	0.087	0.037	0.059
	標準偏差		0.685	0.393	0.558	0.171	0.359	0.284	0.289	0.143	0.219	0.322	0.189	0.256
	最小値		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	最大値		3	1	3	1	1	1	2	1	2	3	1	3
助産師	平均値		2.636	2.059	2.390	2.235	2.500	2.391	2.289	2.272	2.271	2.306	2.282	2.288
	標準偏差		1.255	0.966	1.181	1.103	1.285	1.203	1.072	0.985	1.015	1.088	1.011	1.041
	最小値		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	最大値		5	5	5	5	6	6	7	7	7	7	7	7
看護師	平均値		1.273	1.294	1.220	0.412	0.294	0.348	0.552	0.374	0.448	0.586	0.404	0.480
	標準偏差		1.279	1.312	1.275	0.701	0.524	0.614	0.781	0.682	0.729	0.834	0.727	0.777
	最小値		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	最大値		4	4	4	2	2	2	4	3	4	4	4	4
准看護師	平均値		0.091	0.235	0.146	0.147	0.147	0.145	0.043	0.079	0.067	0.057	0.090	0.078
	標準偏差		0.426	0.562	0.478	0.436	0.436	0.430	0.221	0.306	0.283	0.268	0.332	0.312
	最小値		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	最大値		2	2	2	2	2	2	2	3	3	2	3	3
その他	平均値		—	0.118	0.073	—	0.059	0.029	0.022	0.016	0.019	0.018	0.023	0.023
	標準偏差		—	0.332	0.264	—	0.239	0.169	0.146	0.125	0.137	0.133	0.150	0.150
	最小値		—	0	0	—	0	0	0	0	0	0	0	0
	最大値		—	1	1	—	1	1	1	1	1	1	1	1

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

※ 「その他の分娩」とは、患者（産婦）個票において帝王切開分娩と無痛分娩以外であったものであり、正常な経膣分娩等が該当する。

分娩に関わった職種別延べ人数（娩出30分前後、分娩施設・分娩経験別）

- 「産婦人科医」、「麻酔科医」、「小児科新生児科医」とも、総合・地域周産期母子医療センター＞それ以外の病院＞診療所の順で投入される人数が多かった。
- 「助産師」については、総合・地域周産期母子医療センター＞それ以外の病院＞診療所の順で投入される人数が多かった。
- 「看護師」については、診療所＞それ以外の病院＞総合・地域周産期母子医療センターの順で投入される人数が多かった。

		総合・地域周産期 母子医療センター			それ以外の病院			診療所			助産所		
		初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計
標本数		67	47	119	57	43	104	155	172	333	54	171	230
娩出時前後30分													
産婦人科医	平均値	1.672	1.468	1.571	1.386	1.163	1.279	1.155	1.122	1.135	—	—	—
	標準偏差	0.746	0.687	0.720	0.726	0.433	0.615	0.380	0.362	0.368	—	—	—
	最小値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	—	—	—
	最大値	4	4	4	4	3	4	3	3	3	—	—	—
麻酔科医	平均値	0.164	0.213	0.176	0.123	0.070	0.106	0.006	0.041	0.027	—	—	—
	標準偏差	0.480	0.463	0.463	0.466	0.258	0.392	0.080	0.198	0.162	—	—	—
	最小値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	—
	最大値	3	2	3	3	1	3	1	1	1	—	—	—
小児科新生児科医	平均値	0.209	0.128	0.168	0.140	0.093	0.115	0.013	0.029	0.024	—	—	—
	標準偏差	0.509	0.337	0.438	0.350	0.294	0.321	0.113	0.168	0.153	—	—	—
	最小値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	—
	最大値	3	1	3	1	1	1	1	1	1	—	—	—
助産師	平均値	2.313	2.064	2.193	1.947	1.767	1.875	1.723	1.698	1.709	2.630	2.497	2.522
	標準偏差	1.144	1.131	1.130	0.953	0.895	0.910	0.943	0.925	0.936	0.853	0.739	0.763
	最小値	1	1	1	1	0	0	1	1	1	1	1	1
	最大値	7	7	7	5	4	5	5	6	6	6	5	6
看護師	平均値	0.239	0.234	0.227	0.421	0.605	0.510	0.871	0.645	0.748	0.037	0.023	0.026
	標準偏差	0.740	0.598	0.669	0.706	0.791	0.750	0.812	0.807	0.812	0.272	0.152	0.185
	最小値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	最大値	4	2	4	3	3	3	4	4	4	2	1	2
准看護師	平均値	—	—	—	0.053	0.023	0.038	0.077	0.203	0.150	—	—	—
	標準偏差	—	—	—	0.294	0.152	0.238	0.291	0.471	0.413	—	—	—
	最小値	—	—	—	0	0	0	0	0	0	—	—	—
	最大値	—	—	—	2	1	2	2	3	3	—	—	—
その他	平均値	—	0.021	0.017	0.035	0.023	0.029	0.026	0.047	0.036	—	—	—
	標準偏差	—	0.146	0.129	0.186	0.152	0.168	0.159	0.211	0.187	—	—	—
	最小値	—	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	—
	最大値	—	1	1	1	1	1	1	1	1	—	—	—

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。
※ それ以外の病院には、総合・地域周産期母子医療センター以外の病院が含まれる。

分娩に関わった職種別延べ人数（娩出1時間前後、分娩施設・分娩経験別）

- 「産婦人科医」、「麻酔科医」、「小児科新生児科医」とも、総合・地域周産期母子医療センター>それ以外の病院>診療所の順で投入される人数が多かった。
- 「助産師」についても、総合・地域周産期母子医療センター>それ以外の病院>診療所の順で投入される人数が多かった。
- 「看護師」については、診療所>それ以外の病院>総合・地域周産期母子医療センターの順で投入される人数が多かった。

			総合・地域周産期 母子医療センター			それ以外の病院			診療所			助産所		
			初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計
標本数			67	47	119	57	43	104	155	172	333	54	171	230
娩出時前後1時間														
産婦人科医	平均値		1.701	1.468	1.588	1.456	1.163	1.317	1.168	1.134	1.147	-	-	-
	標準偏差		0.779	0.687	0.741	0.803	0.433	0.672	0.392	0.374	0.379	-	-	-
	最小値		1	1	1	1	1	1	1	1	1	-	-	-
	最大値		4	4	4	4	3	4	3	3	3	-	-	-
麻酔科医	平均値		0.194	0.213	0.193	0.123	0.070	0.106	0.006	0.041	0.027	-	-	-
	標準偏差		0.584	0.463	0.525	0.466	0.258	0.392	0.080	0.198	0.162	-	-	-
	最小値		0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-
	最大値		4	2	4	3	1	3	1	1	1	-	-	-
小児科新生児科医	平均値		0.254	0.128	0.193	0.140	0.093	0.115	0.013	0.029	0.024	-	-	-
	標準偏差		0.560	0.337	0.474	0.350	0.294	0.321	0.113	0.168	0.153	-	-	-
	最小値		0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-
	最大値		3	1	3	1	1	1	1	1	1	-	-	-
助産師	平均値		2.448	2.170	2.311	2.018	1.860	1.952	1.826	1.767	1.793	2.630	2.567	2.574
	標準偏差		1.171	1.167	1.163	1.044	0.889	0.959	0.954	0.951	0.955	0.853	0.736	0.760
	最小値		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	最大値		7	7	7	5	4	5	5	6	6	6	5	6
看護師	平均値		0.254	0.255	0.244	0.439	0.674	0.548	0.890	0.709	0.793	0.037	0.023	0.026
	標準偏差		0.746	0.642	0.688	0.708	0.808	0.762	0.826	0.836	0.834	0.272	0.152	0.185
	最小値		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	最大値		4	2	4	3	3	3	4	4	4	2	1	2
准看護師	平均値		-	-	-	0.053	0.023	0.038	0.084	0.215	0.159	-	-	-
	標準偏差		-	-	-	0.294	0.152	0.238	0.301	0.490	0.427	-	-	-
	最小値		-	-	-	0	0	0	0	0	0	-	-	-
	最大値		-	-	-	2	1	2	2	3	3	-	-	-
その他	平均値		-	0.021	0.025	0.035	0.023	0.029	0.026	0.047	0.036	-	-	-
	標準偏差		-	0.146	0.157	0.186	0.152	0.168	0.159	0.211	0.187	-	-	-
	最小値		-	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-
	最大値		-	1	1	1	1	1	1	1	1	-	-	-

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。
※ それ以外の病院には、総合・地域周産期母子医療センター以外の病院が含まれる。

分娩に関わった職種別延べ人数（娩出2時間前後、分娩施設・分娩経験婦別）

- 「産婦人科医」、「麻酔科医」、「小児科新生児科医」とも、総合・地域周産期母子医療センター＞それ以外の病院＞診療所の順で投入される人数が多かった。
- 「助産師」についても、総合・地域周産期母子医療センター＞それ以外の病院＞診療所の順で投入される人数が多かった。
- 「看護師」については、診療所＞それ以外の病院＞総合・地域周産期母子医療センターの順で投入される人数が多かった。

			総合・地域周産期 母子医療センター			それ以外の病院			診療所			助産所		
			初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計
標本数			67	47	119	57	43	104	155	172	333	54	171	230
娩出時前後2時間														
産婦人科医	平均値		1.836	1.574	1.706	1.456	1.233	1.346	1.174	1.163	1.165	—	—	—
	標準偏差		0.881	0.715	0.817	0.803	0.480	0.679	0.397	0.415	0.403	—	—	—
	最小値		1	1	1	1	1	1	1	1	1	—	—	—
	最大値		5	4	5	4	3	4	3	3	3	—	—	—
麻酔科医	平均値		0.194	0.213	0.193	0.140	0.070	0.115	0.013	0.047	0.033	—	—	—
	標準偏差		0.584	0.463	0.525	0.480	0.258	0.402	0.113	0.211	0.179	—	—	—
	最小値		0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	—
	最大値		4	2	4	3	1	3	1	1	1	—	—	—
小児科新生児科医	平均値		0.269	0.128	0.202	0.140	0.093	0.115	0.019	0.035	0.030	—	—	—
	標準偏差		0.566	0.337	0.480	0.350	0.294	0.321	0.138	0.184	0.171	—	—	—
	最小値		0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	—
	最大値		3	1	3	1	1	1	1	1	1	—	—	—
助産師	平均値		2.657	2.447	2.546	2.281	2.093	2.221	2.026	1.977	1.994	2.704	2.591	2.609
	標準偏差		1.225	1.176	1.191	1.013	0.971	0.995	1.038	1.108	1.075	0.882	0.741	0.773
	最小値		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	最大値		7	7	7	5	5	5	5	6	6	6	5	6
看護師	平均値		0.269	0.255	0.252	0.474	0.698	0.577	0.955	0.750	0.844	0.037	0.023	0.026
	標準偏差		0.750	0.642	0.692	0.734	0.832	0.784	0.863	0.859	0.864	0.272	0.152	0.185
	最小値		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	最大値		4	2	4	3	3	3	4	4	4	2	1	2
准看護師	平均値		—	—	—	0.053	0.023	0.038	0.103	0.221	0.171	—	—	—
	標準偏差		—	—	—	0.294	0.152	0.238	0.345	0.493	0.443	—	—	—
	最小値		—	—	—	0	0	0	0	0	0	—	—	—
	最大値		—	—	—	2	1	2	2	3	3	—	—	—
その他	平均値		—	0.021	0.025	0.035	0.023	0.029	0.026	0.047	0.036	—	—	—
	標準偏差		—	0.146	0.157	0.186	0.152	0.168	0.159	0.211	0.187	—	—	—
	最小値		—	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	—
	最大値		—	1	1	1	1	1	1	1	1	—	—	—

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。
※ それ以外の病院には、総合・地域周産期母子医療センター以外の病院が含まれる。

4. 患者（産婦）票の結果について まとめ

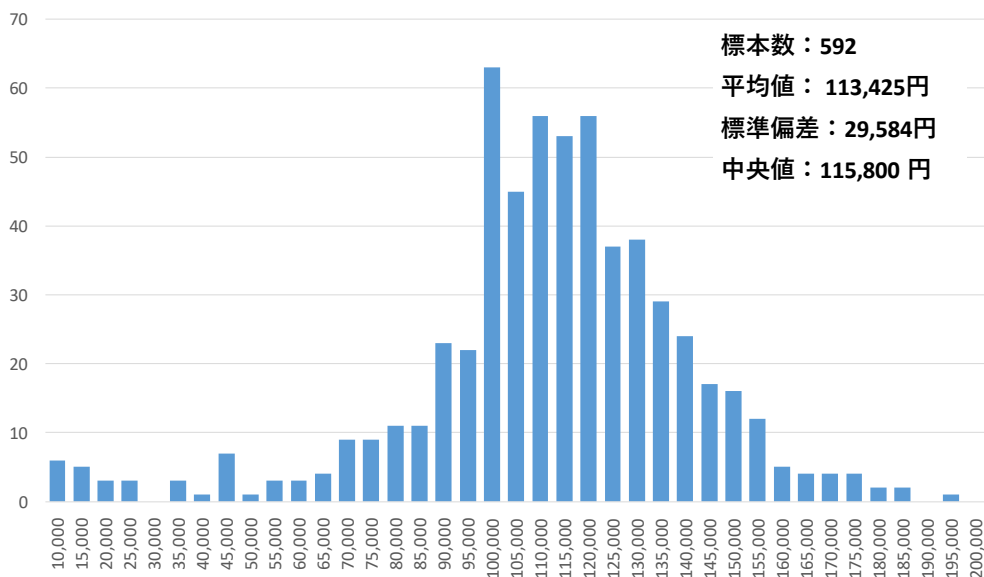
- 「分娩の状況（助産所除く）」は、「帝王切開」8%、「無痛分娩」11%、正常な経膈分娩等を含む「その他の分娩」が81%であった。
- 「帝王切開」の割合は、総合・地域周産期母子医療センターで14%と最も多い。
- 「無痛分娩」の割合は、総合・地域周産期母子医療センターが11%、それ以外の病院が7%、診療所が13%であり、診療所での実施割合が最も高かった。
- 分娩施設の割合を分娩経験別にみると、総合・地域周産期母子医療センターとそれ以外の病院では、「経産婦」より「初産婦」の割合が高いが、診療所と助産所は、「初産婦」より「経産婦」の割合が高い。助産所の分娩においては、「経産婦」（74%）の割合が「初産婦」（27%）と比べ高い。
- 分娩経験や分娩の状況によらず、ほぼ80%以上の分娩が住所のある都道府県内で完結している。
- 「経産婦」は「初産婦」と比べ、年齢が高く、「妊娠週数」と「在院日数」が短い。
- 「社会的ハイリスクへの該当」割合は初産婦で高く、とりわけ総合・地域周産期母子医療センターで該当割合が高い。
- 助産所からの搬送先では、「嘱託医療機関」の割合が最も高い。
- 入院中の助産ケアについて、「授乳指導」については、平均的な1日あたりの回数が4.6回、1入院あたりの合計回数が19.4回であり、産後入院中は多数回の授乳指導が行われている。「沐浴指導」の実施回数は、初産婦で平均1.7回、経産婦で1.5回であり、経産婦にも実施されている。
- 「育児技術指導」の延べ時間（平均）は初産婦で257分、経産婦で218分であり、「退院指導」の時間は初産婦で45分、経産婦で42分であった。
- 「お祝い膳」以外のサービス（写真撮影、足形、エステ）の提供は、「初産婦」に比べて「経産婦」の方が割合が高い。「お祝い膳」以外のサービス（写真撮影、足形、エステ）の提供は、総合・地域周産期母子医療センターが他施設と比べて割合が低い。
- 「産婦合計負担額」の平均値は、無痛分娩（603,338円）＞帝王切開（511,299円）＞その他の分娩（485,636円）の順で高い。「産婦合計負担額」の平均は、「経産婦」が476,365円に対して、「初産婦」は523,711円。
- 「産婦合計負担額」は、総合・地域周産期母子医療センター（537,358円）＞診療所（513,405円）＞それ以外の病院（503,551円）＞助産所（448,154円）の順で高かった。「入院料」、「室料差額」、「一部負担金等」では総合・地域周産期母子医療センターが高いが、それ以外の項目については診療所が高い傾向。
- 正常な経膈分娩等を含む「その他の分娩」において、娩出2時間前後に関わった職種別延べ人数は「産婦人科医」が0.8人、「助産師」が2.3人、「看護師」が0.4人であった。

5. 妊婦健診と産後ケア

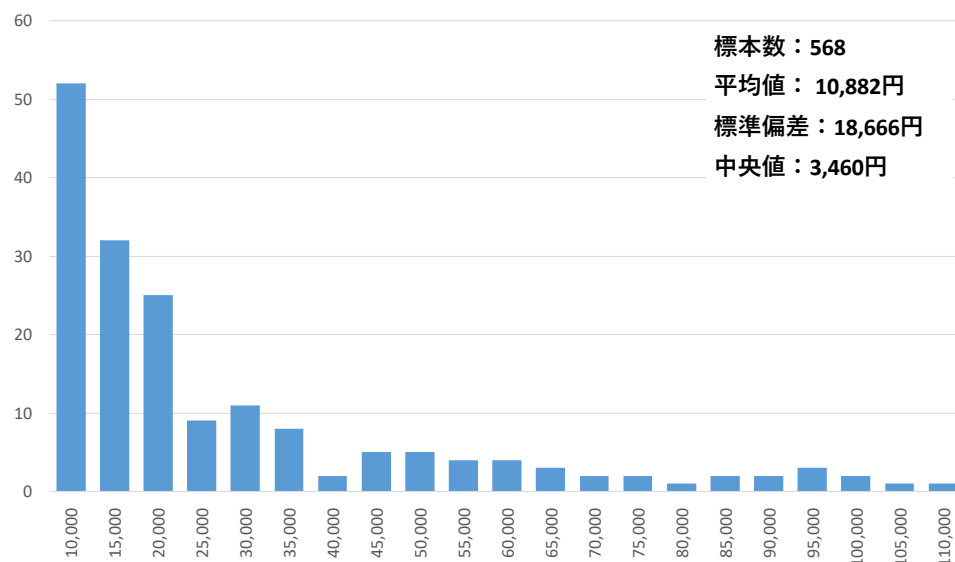
平均的な妊婦健診と望ましい基準に含まれない健診項目の費用 (病院+診療所)

- 平均的な妊婦健診（病院+診療所）の費用の平均は**113,425円**（中央値**115,800円**）、うち望ましい基準に含まれない健診項目（以下、基準外）の費用は**10,882円**（中央値**3,460円**）。平均的な健診費用が正規分布に近いのに対し、基準外は実施していない施設が多く、右裾が長い分布となっている。
- 尚、妊婦の平均的な妊婦健診の受診回数の平均値は約**13.4回**で、中央値も**13.4**。

平均的な妊婦健診の費用（病院+診療所）



望ましい基準に含まれない健診項目の費用（病院+診療所）

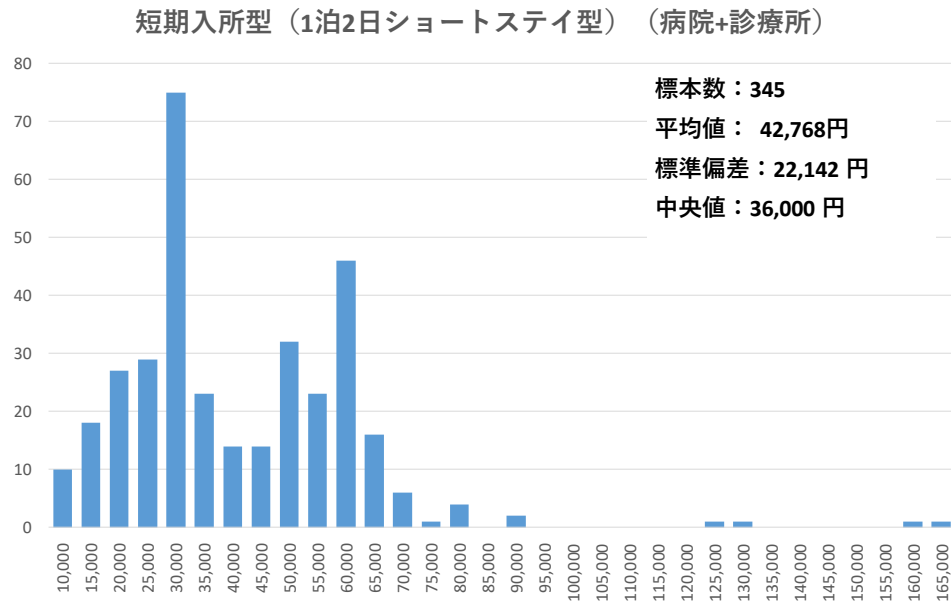


※注1 平均的な妊婦健診の費用については、明らかに1回当たりの健診費用と思われる外れ値と上位1%の外れ値を除外。回答施設に確認の必要あり

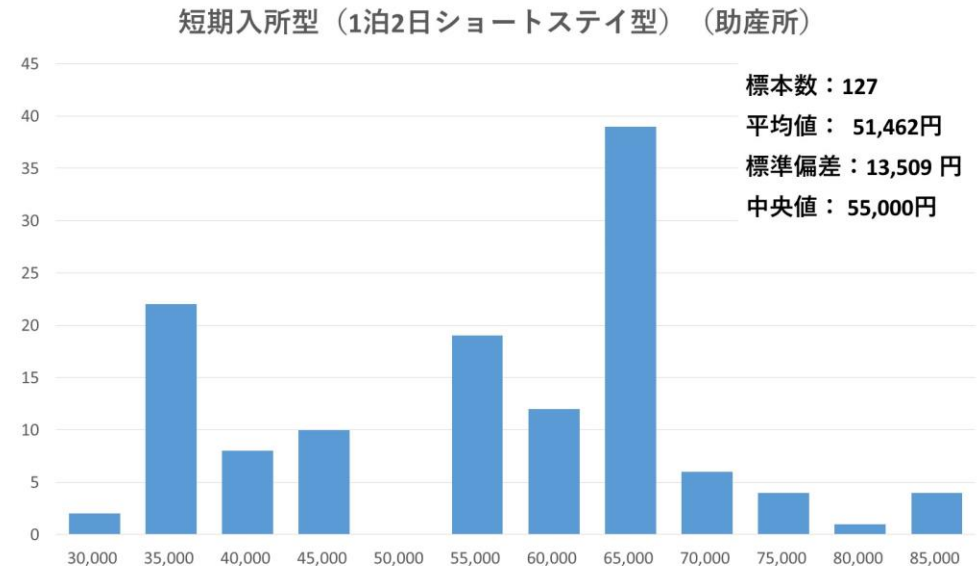
※注2 望ましい基準に含まれない健診項目は、「妊婦に対する健康診査についての望ましい基準」（平成27年厚生労働省告示第226号）に含まれない項目としている。尚、上位1%の外れ値を除外。

産後ケア事業の費用（病院+診療所と助産所）

- 短期入所型（1泊2日ショートステイ型）（病院+診療所）の費用の平均値は42,768円（中央値36,000円）に対し、助産所の費用の平均値は51,462円（中央値55,000円）。
- 尚、病院+診療所での1ヶ月間の延べ利用者数の平均は約7.5人（中央値3人）、助産所では約8.2人（中央値2人）。



※注1 下位5%と上位1%の外れ値を除外。回答施設に確認の必要あり



※注2 下位5%と上位1%の外れ値を除外。回答施設に確認の必要あり

第1 妊婦健康診査の実施時期及び回数等

1 市町村は、次のイからハまでに掲げる妊娠週数の区分に応じ、それぞれイからハまでに掲げる頻度で妊婦に対する健康診査（以下「妊婦健康診査」という。）を行い、妊婦一人につき、出産までに14回程度行うものとする。

イ 妊娠初期から妊娠23週まで おおむね4週間に1回

ロ 妊娠24週から妊娠35週まで おおむね2週間に1回

ハ 妊娠36週から出産まで おおむね1週間に1回

2 市町村は、妊婦一人につき14回程度の妊婦健康診査の実施に要する費用を負担するものとする。

第2 妊婦健康診査の内容等

1 市町村は、各回の妊婦健康診査においては、次に掲げる事項について実施するものとする。

イ 問診、診察等 妊娠週数に応じた問診、診察等により、健康状態を把握するものとする。

ロ 検査 子宮底長、腹囲、血圧、浮腫、尿（糖及び蛋白）、体重等の検査を行うものとする。なお、初回の妊婦健康診査においては、身長を検査を行うものとする。

ハ 保健指導 妊娠中の食事や生活上の注意事項等について具体的な指導を行うとともに、妊婦の精神的な健康の保持に留意し、妊娠、出産及び育児に対する不安や悩みの解消が図られるようにするものとする。

2 市町村は、1に掲げるもののほか、必要に応じた医学的検査を妊娠期間中の適切な時期に実施するものとする。医学的検査については、次の表の左欄に掲げる検査の項目の区分に応じ、それぞれ右欄に掲げる妊娠週数及び回数を目安として行うものとする。

検査の項目	妊娠週数及び回数の目安
血液型等の検査(ABO血液型、Rh血液型及び不規則抗体に係るもの)	妊娠初期に1回
B型肝炎抗原検査	
C型肝炎抗体検査	
HIV抗体検査	
梅毒血清反応検査	
風疹ウイルス抗体検査	
血糖検査	妊娠初期に1回及び妊娠24週から妊娠35週までの間に1回
血算検査	妊娠初期に1回、妊娠24週から妊娠35週までの間に1回及び妊娠36週から出産までの間に1回
HTLV-1抗体検査	妊娠初期から妊娠30週までの間に1回
子宮頸がん検診(細胞診)	妊娠初期に1回
超音波検査	妊娠初期から妊娠23週までの間に2回、妊娠24週から妊娠35週までの間に1回及び妊娠36週から出産までの間に1回
性器クラミジア検査	妊娠初期から妊娠30週までの間に1回
B群溶血性レンサ球菌(GBS)検査	妊娠33週から妊娠37週までの間に1回

第3 市町村の責務

1 市町村は、妊婦健康診査の受診の重要性について、妊婦等に対する周知・広報に努めるものとする。

2 市町村は、里帰り先等において妊婦健康診査を受診する妊婦の経済的負担の軽減を図るため、妊婦の居住地以外の病院、診療所又は助産所と事前に契約を行う等の配慮をするよう努めるものとする。

3 市町村は、妊婦健康診査を実施する医療機関等と連携体制を構築し、養育支援を必要とする妊婦に対し、適切な支援を提供するよう努めるものとする。

4 市町村は、原則として、妊婦健康診査を実施する医療機関等に対して、妊婦健康診査の結果等の提供を求めるよう努めるものとする。

5. 妊婦健診と産後ケア まとめ

- 平均的な妊婦健診（病院+診療所）の費用の平均は113,425円（中央値115,800円）、うち望ましい基準に含まれない健診項目（以下、基準外）の費用は10,882円（中央値3,460円）。
- 平均的な妊婦健診の受診回数の平均値は約13.4回で、中央値も13.4回。
- 産後ケア事業の短期入所型（1泊2日ショートステイ型）の費用の平均値は、病院+診療所で42,768円、助産所で51,462円。
- 病院+診療所における産後ケアでの1ヶ月間の延べ利用者数の平均は約7.5人、助産所では約8.2人。

6. 分娩取扱施設の収益等

年度別の損益率の状況①（病院）

今回行った調査は、分娩を取扱っている施設のみへの調査であることに留意が必要

損益率※注1		R 4 年度	R 5 年度	回答施設数	平均病床数	平均分娩件数※注3
回答のあった病院全体		▲5.4%	▲6.9%	74	448	36.8
	（再掲）総合・地域周産期母子医療センター	▲5.9%	▲6.9%	39	541	41.2
	（再掲）それ以外の病院	▲8.1%	▲6.5%	35	321	31.8
	うち、産婦人科部門※注2	12.7%	12.2%	16	543	57.1
	（再掲）総合・地域周産期母子医療センター	21.1%	20.1%	8	737	58.9
	（再掲）それ以外の病院	▲0.7%	▲0.1%	8	253	55.3

※ 費目の詳細に欠損がある施設を除外し、損益が確認出来る施設のみについて算出を行なった。すべての本調査の項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

※ 注1 損益率は、（医業・介護収益-医業・介護費用）÷ 医業・介護収益により算出、「医業・介護収益」は、新型コロナウイルス関係補助金を含まない額。

※ 注2 病院の調査において、産婦人科部門の損益について、病院全体と分けて会計処理されている医療機関においては、産婦人科部門について別に回答いただいたものを集計した。

※ 注3 令和6年9月1日～30日の1か月間での平均分娩件数

（参考）

損益率※注3	R 3 年度	R 4 年度	回答施設数	平均病床数
第24回医療経済実態調査（一般病院）	▲5.5%	▲6.7%	703	172

※ 注1 損益率は、（医業・介護収益-医業・介護費用）÷ 医業・介護収益により算出、「医業・介護収益」は、新型コロナウイルス関係補助金を含まない額。

年度別の損益率の状況②（一般診療所・助産所）

一般診療所

今回行った調査は、分娩を取扱っている施設のみへの調査であることに留意が必要

損益率 ^{※注1}	R 4 年度	R 5 年度	回答施設数
医療法人	6.3%	3.6%	43
個人	5.8%	13.1%	8

助産所

損益率 ^{※注1}	R 4 年度	R 5 年度	今回調査の 回答施設数
個人	15.5%	11.7%	14
個人以外 ^{※注2}	3.0%	▲3.6%	4

※ 費目の詳細に欠損がある施設を除外し、損益が確認出来る施設のみについて算出を行なった。すべての本調査の項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

※ 個人立の一般診療所については、損益差額の計算上、開設者（院長等）の報酬に相当する部分が、費用に計上されていないこと等から、医療法人よりも、「損益率」が数値上高くあらわれている。

※ 注1 損益率は、（医業・介護収益-医業・介護費用）÷ 医業・介護収益により算出、「医業・介護収益」は、新型コロナウイルス関係補助金を含まない額。

※ 注2 個人以外には、公立（都道府県、市町村、地方独立行政法人）、公益法人、学校法人、社会福祉法人、医療生協、会社、社会医療法人等、その他法人、経営主体不詳を含む。

（参考）

損益率 ^{※注1}	R 3 年度	R 4 年度	回答施設数
第24回医療経済実態調査 一般診療所（医療法人、入院診療収益あり、全体）	6.4%	4.7%	115
（再掲）医療法人、入院診療収益あり、産婦人科	4.7%	2.7 %	31

※ 注1 損益率は、（医業・介護収益-医業・介護費用）÷ 医業・介護収益により算出、「医業・介護収益」は、新型コロナウイルス関係補助金を含まない額。

各収益・費用項目の伸び率①（病院①）

今回行った調査は、分娩を取扱っている施設のみへの調査であることに留意が必要

収益項目	金額の伸び率（R4→R5年度）									金額の伸び率（R3→R4年度）	
	回答のあった病院全体						総合・地域周産期母子医療センター			(参考) 第24回医療経済実態調査 一般病院、全体	
		うち、 産婦人科 部門	(参考) 医業・介護 収益に占め る比率※注1		うち、 産婦人科 部門	(参考) 医業・介護 収益に占め る比率※注1		うち、 産婦人科 部門	(参考) 医業・介護 収益に占め る比率※注1		(参考) 医業・介護 収益に占め る比率※注2
医業収益	2.7%	▲1.2%	99.9%	2.2%	▲2.4%	99.9%	3.7%	0.8%	99.8%	2.1%	99.8%
入院診療収益	2.8%	▲1.0%	66.0%	2.3%	▲2.8%	65.9%	4.2%	1.9%	66.0%	2.2%	66.8%
保険診療収益	2.8%	▲1.9%	65.2%	2.2%	▲2.9%	65.2%	4.3%	0.9%	65.0%	2.5%	65.3%
公害等診療収益	▲6.5%	▲43.5%	0.3%	▲0.3%	▲43.5%	0.3%	▲33.1%	0.0%	0.1%	▲5.3%	0.5%
その他の診療収益	7.5%	2.9%	0.5%	13.8%	1.0%	0.4%	1.7%	3.2%	0.9%	▲7.4%	0.9%
特別の療養環境収益	11.0%	4.2%	1.0%	7.5%	4.7%	1.0%	19.3%	0.9%	1.0%	▲6.1%	0.8%
外来診療収益	4.2%	0.7%	30.6%	4.7%	2.5%	31.0%	3.1%	▲1.5%	29.9%	2.8%	28.3%
保険診療収益	4.3%	1.1%	30.3%	4.7%	3.0%	30.7%	3.4%	▲2.4%	29.5%	3.0%	27.4%
公害等診療収益	2.2%	44.2%	0.1%	7.4%	44.2%	0.1%	▲8.6%	0.0%	0.1%	2.9%	0.3%
その他の診療収益	▲10.5%	▲0.4%	0.2%	▲4.7%	▲1.9%	0.2%	▲17.9%	0.1%	0.3%	▲7.5%	0.6%
その他の医業収益	▲18.6%	▲21.9%	2.3%	▲25.8%	▲32.0%	2.0%	▲5.1%	▲1.7%	3.0%	▲2.8%	3.9%
介護収益	3.8%	0.0%	0.1%	3.8%	0.0%	0.1%	3.7%	0.0%	0.2%	▲14.6%	0.2%

※ 費目の詳細に欠損がある施設を除外し、損益が確認出来る施設のみについて算出を行なった。すべての本調査の項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

※ 注1 医業・介護収益に占める比率は、令和5年度の数値。

※ 注2 医業・介護収益に占める比率は、令和4年度の数値。

各収益・費用項目の伸び率②（病院②）

今回行った調査は、分娩を取扱っている施設のみへの調査であることに留意が必要

費用項目	金額の伸び率（R4→R5年度）									金額の伸び率（R3→R4年度）	
	回答のあった病院全体									(参考)	
				総合・地域周産期母子医療センター			それ以外の病院			第24回医療経済実態調査（一般病院、全体）	
		うち、 産婦人科 部門	(参考) 医業・介護 収益に 占める比 率※注1		うち、 産婦人科 部門	(参考) 医業・介護 収益に 占める比 率※注1		うち、 産婦人科 部門	(参考) 医業・介護 収益に 占める比 率※注1		(参考) 医業・介護 収益に 占める比 率※注2
医業・介護費用	4.1%	▲0.5%	106.9%	5.0%	▲1.2%	107.0%	2.1%	0.3%	106.5%	3.2%	106.7%
給与費	1.4%	1.0%	48.6%	2.0%	1.4%	46.7%	0.2%	0.6%	52.7%	1.9%	56.9%
医薬品費	8.2%	6.8%	21.0%	8.2%	5.8%	22.6%	7.9%	10.1%	17.2%	5.6%	13.1%
給食用材料費	5.1%	6.6%	0.5%	5.2%	12.4%	0.4%	5.0%	4.7%	0.6%	1.8%	0.7%
診療材料費・医療消耗器具備品費	5.0%	3.3%	12.3%	4.9%	3.7%	12.7%	5.4%	2.7%	11.4%	2.7%	9.7%
委託費	3.2%	▲1.7%	7.4%	3.0%	▲2.3%	7.2%	3.8%	▲1.3%	7.7%	2.7%	7.5%
(再掲) 給食委託費	▲0.4%	▲6.2%	0.7%	2.8%	▲12.5%	0.7%	▲8.3%	0.2%	0.6%	2.2%	1.2%
(再掲) 人材委託費	5.4%	3.0%	1.5%	5.2%	2.8%	1.4%	6.0%	3.7%	1.6%	6.4%	1.3%
(再掲) 紹介手数料	43.0%	0.0%	0.0%	25.6%	0.0%	0.0%	65.6%	0.0%	0.0%	20.1%	0.1%
減価償却費	0.5%	▲1.9%	6.9%	0.6%	▲1.3%	6.9%	0.2%	▲3.9%	7.0%	2.8%	5.8%
(再掲) 建物減価償却費	▲3.9%	0.7%	2.2%	▲4.1%	▲0.6%	2.3%	▲3.3%	3.1%	2.0%	4.0%	1.9%
(再掲) 医療機器減価償却費	1.4%	▲1.5%	3.0%	4.5%	3.1%	3.0%	▲5.3%	▲9.7%	2.8%	4.5%	2.0%
設備関係費	2.0%	▲1.6%	9.9%	1.3%	0.4%	9.8%	3.5%	▲4.2%	10.3%	2.7%	4.2%
(再掲) 設備機器賃借料	5.8%	▲6.5%	0.9%	6.5%	4.1%	0.9%	4.0%	▲10.0%	0.8%	▲0.7%	1.1%
(再掲) 医療機器賃借料	4.5%	▲12.4%	0.6%	4.7%	5.4%	0.6%	3.9%	▲18.6%	0.5%	0.0%	0.7%
経費	17.7%	▲21.7%	5.6%	30.7%	▲40.8%	5.9%	▲7.3%	▲2.0%	5.0%	11.9%	6.3%
(再掲) 水道光熱費	▲12.0%	▲12.8%	1.9%	▲11.2%	▲13.9%	2.0%	▲14.1%	▲10.6%	1.8%	32.2%	2.3%
その他の医業費用	2.8%	34.0%	1.6%	4.0%	2.5%	1.7%	0.1%	▲1.3%	1.6%	4.7%	2.4%

※ 費目の詳細に欠損がある施設を除外し、損益が確認出来る施設のみについて算出を行なった。すべての本調査の項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

※ 注1 医業・介護収益に占める比率は、令和5年度の数値。

※ 注2 医業・介護収益に占める比率は、令和4年度の数値。

各収益・費用項目の伸び率③（一般診療所①）

今回行った調査は、分娩を取扱っている施設のみへの調査であることに留意が必要

収益項目	金額の伸び率（R4→R5年度）		金額の伸び率（R3→R4年度）			
	回答のあった診療所（医療法人）		（参考） 第24回医療経済実態調査 一般診療所（医療法人、入院診療収益あり）			
		（参考） 医業・介護収益に 占める比率 ※注1		（参考） 医業・介護収益に 占める比率 ※注2	（再掲）医療法人、入院診療収益あり、産婦人科	（参考） 医業・介護収益に 占める比率 ※注2
医業収益	▲2.0%	99.6%	▲0.2%	95.7%	▲2.5%	100.0%
入院診療収益	▲1.5%	58.8%	0.2%	33.7%	▲1.3%	57.1%
保険診療収益	▲1.7%	20.4%	0.7%	22.1%	▲3.0%	14.0%
公害等診療収益	0.0%	0.0%	▲8.4%	0.1%	▲100.0%	0.0%
その他の診療収益	▲1.4%	38.1%	▲0.6%	11.5%	▲0.7%	43.1%
外来診療収益	▲2.7%	33.6%	0.7%	57.6%	1.6%	38.0%
保険診療収益	0.1%	21.7%	0.8%	50.9%	4.6%	20.0%
公害等診療収益	0.0%	0.0%	▲8.2%	0.2%	66.7%	0.0%
その他の診療収益	▲7.4%	11.7%	0.9%	6.5%	▲1.5%	18.0%
その他の医業収益	▲2.8%	7.2%	▲9.9%	5.5%	▲35.2%	5.1%
介護収益	▲8.0%	0.4%	▲1.1%	4.3%	—	0.0%

※ 費目の詳細に欠損がある施設を除外し、損益が確認出来る施設のみについて算出を行なった。すべての本調査の項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

※ 注1 医業・介護収益に占める比率は、令和5年度の数値。

※ 注2 医業・介護収益に占める比率は、令和4年度の数値。

各収益・費用項目の伸び率④（一般診療所②）

今回行った調査は、分娩を取扱っている施設のみへの調査であることに留意が必要

費用項目	金額の伸び率（R4→R5年度）		金額の伸び率（R3→R4年度）			
	回答のあった診療所（医療法人）		（参考） 第24回医療経済実態調査 一般診療所（医療法人、入院診療収益あり）			
		（参考） 医業・介護収益に 占める比率※注1		（参考） 医業・介護収益に 占める比率※注2	（再掲）医療法人、入院診療収益あり、産婦人科	（参考） 医業・介護収益に 占める比率※注2
医業・介護費用	0.9%	96.4%	1.7%	95.3%	▲0.4%	97.3%
給与費	2.0%	57.6%	3.2%	48.7%	5.6%	55.4%
医薬品費	3.4%	6.7%	▲1.5%	11.0%	5.3%	6.7%
材料費	0.0%	0.0%	3.0%	6.4%	▲1.0%	3.1%
給食用材料費	1.6%	3.7%	▲0.8%	0.8%	▲4.2%	1.4%
委託費	3.0%	5.8%	6.9%	6.0%	10.0%	6.7%
（再掲）給食委託費	13.9%	1.3%	7.3%	1.6%	11.2%	2.4%
（再掲）人材委託費	▲9.0%	0.4%	12.1%	1.0%	100.8%	0.8%
（再掲）紹介手数料	▲37.5%	0.1%	4.4%	0.1%	▲49.7%	0.0%
減価償却費	0.2%	4.6%	▲3.9%	3.5%	5.6%	3.3%
（再掲）建物減価償却費	2.3%	1.6%	▲0.3%	0.9%	0.3%	0.8%
（再掲）医療機器減価償却費	▲8.5%	0.9%	▲4.3%	1.1%	4.8%	0.9%
その他の医業・介護費用	▲3.9%	18.0%	▲1.1%	18.9%	▲17.3%	20.8%
（再掲）設備機器賃借料	3.5%	1.1%	1.3%	1.3%	2.3%	1.2%
（再掲）医療機器賃借料	1.0%	0.7%	▲3.5%	0.9%	0.1%	0.9%
（再掲）水道光熱費	5.5%	1.7%	17.6%	1.9%	18.4%	1.5%

※ 費目の詳細に欠損がある施設を除外し、損益が確認出来る施設のみについて算出を行なった。すべての本調査の項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

※ 注1 医業・介護収益に占める比率は、令和5年度の数値。

※ 注2 医業・介護収益に占める比率は、令和4年度の数値。

各収益・費用項目の伸び率⑤（助産所）

今回行った調査は、分娩を取扱っている施設のみへの調査であることに留意が必要

収益項目		金額の伸び率（R4→R5年度）			
		個人		個人以外※注2	
			（参考） 収益に占める 比率※注1		（参考） 収益に占める 比率※注1
収益合計		▲2.7%	100.0%	▲2.8%	100.0%
	出産の収益	▲1.9%	61.4%	▲4.1%	45.5%
	妊婦健診等の健診の収益	5.1%	8.5%	▲2.5%	11.2%
	その他の収益	▲6.3%	30.0%	▲1.6%	43.4%

費用項目		金額の伸び率（R4→R5年度）			
		個人		個人以外※注2	
			（参考） 収益に占める 比率※注1		（参考） 収益に占める 比率※注1
医業・介護費用		1.7%	88.3%	3.8%	103.6%
	給与費	1.3%	41.1%	6.3%	59.6%
	医薬品費	34.7%	0.5%	▲28.6%	0.5%
	給食用材料費	▲8.8%	2.7%	▲13.5%	1.1%
	材料費	▲10.3%	4.9%	▲7.8%	7.2%
	委託費	44.7%	5.8%	7.8%	2.8%
	（再掲）給食委託費	21.3%	0.5%	0.0%	0.0%
	（再掲）人材委託費	52.8%	4.9%	19.3%	2.1%
	減価償却費	▲2.3%	7.8%	45.7%	3.4%
	（再掲）建物減価償却費	5.3%	4.9%	29.3%	2.4%
	（再掲）医療機器減価償却費	2.0%	1.2%	128.7%	0.4%
	その他の医業・介護費用	0.0%	25.5%	0.0%	29.0%
	（再掲）設備機器賃借料	▲20.5%	0.7%	▲27.8%	0.7%
	（再掲）医療機器賃借料	▲29.6%	0.4%	▲27.8%	0.7%
	（再掲）水道光熱費	▲6.4%	2.2%	▲3.2%	3.0%

※ 費目の詳細に欠損がある施設を除外し、損益が確認出来る施設のみについて算出を行なった。すべての本調査の項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

※ 注1 収益に占める比率は、令和5年度の数値。
※ 注2 個人以外には、公立（都道府県、市町村、地方独立行政法人）、公益法人、学校法人、社会福祉法人、医療生協、会社、社会医療法人等、その他法人、経営主体不詳を含む。

職種別給与の平均と中央値、伸び率①（病院①）

今回行った調査は、分娩を取扱っている施設のみへの調査であることに留意が必要

	回答 施設数	回答のあった病院全体				
		R 4 年度		R 5 年度		平均給料の 伸び率
		平均給料計	中央値	平均給料計	中央値	
病院長	65	20,749,510	20,579,140	20,855,230	20,614,000	0.5%
医師	74	15,618,850	14,474,910	15,741,970	14,843,990	0.8%
産婦人科医師	65	16,176,280	16,777,240	16,218,170	15,937,420	0.3%
小児科医師	61	14,597,890	15,315,940	14,826,040	15,692,730	1.6%
麻酔科医師	54	14,750,070	15,379,460	15,133,860	15,268,290	2.6%
歯科医師	43	12,407,290	12,643,740	12,281,150	12,789,640	▲1.0%
薬剤師	71	7,472,293	5,828,920	7,418,553	5,948,071	▲0.7%
助産師	70	6,072,989	5,644,170	6,177,764	5,776,781	1.7%
看護職員	73	6,234,536	5,566,804	6,912,037	5,637,998	10.9%
看護補助職員	47	4,068,473	3,228,391	4,042,137	3,329,272	▲0.6%
医療技術員	69	8,415,458	5,671,359	8,332,027	5,675,461	▲1.0%
歯科衛生士	39	4,495,757	4,463,927	4,608,163	4,649,258	2.5%
歯科技工士	18	6,289,383	6,051,407	6,120,862	6,292,096	▲2.7%

	回答 施設数	総合・地域周産期母子医療センター				
		R 4 年度		R 5 年度		平均給料の 伸び率
		平均給料計	中央値	平均給料計	中央値	
病院長	32	19,020,370	18,669,760	19,203,800	18,649,930	1.0%
医師	35	15,010,000	13,959,120	15,131,560	14,634,800	0.8%
産婦人科医師	32	14,366,270	14,760,160	14,303,900	14,537,090	▲0.4%
小児科医師	31	13,923,600	15,204,230	13,923,920	15,188,490	0.0%
麻酔科医師	32	13,519,360	14,404,940	13,667,000	14,427,100	1.1%
歯科医師	24	11,434,070	10,314,070	11,234,990	10,204,040	▲1.7%
薬剤師	33	6,011,868	5,826,234	6,058,197	5,866,564	0.8%
助産師	30	6,620,836	5,687,087	6,765,292	5,867,949	2.2%
看護職員	34	5,666,518	5,576,578	5,789,460	5,699,924	2.2%
看護補助職員	19	3,369,121	3,079,252	3,272,165	3,108,317	▲2.9%
医療技術員	34	8,789,787	5,689,442	8,611,568	5,850,760	▲2.0%
歯科衛生士	26	4,684,326	4,517,557	4,822,448	4,866,014	2.9%
歯科技工士	16	6,168,524	6,051,407	5,990,434	6,292,096	▲2.9%

※ すべての本調査の項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

職種別給与の平均と中央値、伸び率②（病院②）

今回行った調査は、分娩を取扱っている施設のみへの調査であることに留意が必要

	回答 施設数	それ以外の病院				
		R 4 年度		R 5 年度		平均給料の 伸び率
		平均給料計	中央値	平均給料計	中央値	
病院長	33	22,426,260	21,736,900	22,458,100	21,636,160	0.1%
医師	39	16,165,250	15,785,890	16,277,930	15,383,550	0.7%
産婦人科医師	33	17,931,440	17,607,390	18,079,260	17,322,820	0.8%
小児科医師	30	15,294,660	15,557,670	15,812,730	16,026,030	3.4%
麻酔科医師	22	16,540,190	16,779,210	17,273,040	16,464,970	4.4%
歯科医師	19	13,636,620	12,998,840	13,641,150	14,038,490	0.0%
薬剤師	38	8,740,557	5,905,986	8,574,856	6,031,570	▲1.9%
助産師	40	5,662,104	5,548,332	5,719,207	5,506,954	1.0%
看護職員	39	6,729,730	5,566,804	7,870,334	5,600,098	16.9%
看護補助職員	28	4,543,033	3,374,944	4,588,568	3,338,579	1.0%
医療技術員	35	8,051,823	5,527,762	8,060,251	5,519,323	0.1%
歯科衛生士	13	4,118,618	4,384,746	4,179,594	4,149,066	1.5%
歯科技工士	2	7,256,251	7,256,251	7,164,286	7,164,286	▲1.3%

	回答 施設数	(参考) 第24回医療経済実態調査 (一般病院全体)				
		R 3 年度		R 4 年度		平均給料の 伸び率
		平均給料計	中央値	平均給料計	中央値	
病院長	605	26,208,673	23,359,348	26,334,663	23,778,440	0.5%
医師	609	14,619,456	16,889,246	14,610,739	16,748,784	▲0.1%
歯科医師	124	12,587,192	12,637,429	12,491,733	12,025,456	▲0.8%
薬剤師	605	5,625,692	5,668,371	5,688,862	5,657,393	1.1%
看護職員	627	5,127,639	4,909,081	5,209,279	4,975,673	1.6%
看護補助職員	549	3,187,598	3,099,619	3,244,894	3,138,072	1.8%
医療技術員	609	4,657,816	4,462,923	4,675,624	4,496,132	0.4%
歯科衛生士	157	3,759,497	3,656,860	3,778,665	3,668,069	0.5%
歯科技工士	17	5,050,562	4,704,000	4,909,517	4,439,325	▲2.8%

※ すべての本調査の項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

職種別給与の平均と中央値、伸び率③（一般診療所）

今回行った調査は、分娩を取扱っている施設のみへの調査であることに留意が必要

	回答 施設数	回答のあった診療所全体				
		R 4 年度		R 5 年度		平均給料の伸び率
		平均給料計	中央値	平均給料計	中央値	
院長	68	36,121,330	33,940,000	33,962,280	31,735,000	▲6.0%
医師	54	25,903,460	15,543,890	23,621,370	14,200,000	▲8.8%
産婦人科医師	54	23,733,230	18,850,630	24,044,530	16,928,760	1.3%
小児科医師	14	23,408,430	10,554,200	21,344,610	6,637,500	▲8.8%
麻酔科医師	5	18,101,780	7,260,000	10,609,920	6,000,000	▲41.4%
薬剤師	4	5,539,325	4,995,150	5,570,325	5,048,150	0.6%
助産師	77	6,901,160	5,157,783	7,206,525	5,205,775	4.4%
看護職員	77	9,188,326	4,546,462	9,137,582	4,497,461	▲0.6%
看護補助職員	51	5,249,070	2,711,750	4,428,884	2,730,500	▲15.6%
医療技術員	22	3,959,305	4,094,924	4,012,151	4,081,288	1.3%

	回答 施設数	医療法人				
		R 4 年度		R 5 年度		平均給料の伸び率
		平均給料計	中央値	平均給料計	中央値	
院長	64	36,529,220	34,725,000	34,582,340	32,580,000	▲5.3%
医師	44	28,765,430	16,900,000	26,222,290	15,227,610	▲8.8%
産婦人科医師	44	24,690,920	18,612,780	25,446,140	16,928,760	3.1%
小児科医師	12	26,669,610	12,930,150	24,312,910	9,129,200	▲8.8%
麻酔科医師	5	18,101,780	7,260,000	10,609,920	6,000,000	▲41.4%
薬剤師	3	5,857,767	5,406,300	5,875,767	5,442,300	0.3%
助産師	62	7,423,518	5,273,470	7,773,486	5,330,472	4.7%
看護職員	64	10,162,960	4,524,156	10,108,230	4,525,618	▲0.5%
看護補助職員	46	5,463,929	2,702,229	4,586,631	2,729,616	▲16.1%
医療技術員	20	3,900,943	4,080,648	4,030,608	4,081,288	3.3%

	回答 施設数	(参考) 第24回医療経済実態調査 (一般診療所、医療法人)				
		R 3 年度		R 4 年度		平均給料の伸び率
		平均給料計	中央値	平均給料計	中央値	
院長	1014	25,915,156	21,600,000	26,529,548	21,600,000	2.4%
医師	365	10,940,874	10,500,000	11,180,508	11,600,000	2.2%
薬剤師	31	7,797,038	5,708,450	7,416,328	5,992,800	▲4.9%
看護職員	872	4,012,040	3,836,950	4,092,131	3,887,538	2.0%
看護補助職員	180	2,547,336	2,673,775	2,605,794	2,682,001	2.3%
医療技術員	285	4,088,232	4,020,609	4,211,087	4,107,151	3.0%

※ 本調査の項目について、給与が上位99パーセンタイルを超える、もしくは、下位1パーセント以下を外れ値として除外

職種別給与の平均と中央値、伸び率④（助産所）

今回行った調査は、分娩を取扱っている施設のみへの調査であることに留意が必要

	回答施設数	回答のあった助産所全体				
		R 4 年度		R 5 年度		平均給料の 伸び率
		平均給料計	中央値	平均給料計	中央値	
管理者	15	4,302,448	4,800,000	4,208,539	4,219,350	▲2.2%
助産師	48	3,150,478	2,500,000	3,173,848	2,579,622	0.7%
看護職員	4	964,200	885,070	943,976	721,573	▲2.1%
看護補助職員	4	1,366,997	1,348,500	2,095,403	1,488,473	53.3%

	回答施設数	個人				
		R 4 年度		R 5 年度		平均給料の 伸び率
		平均給料計	中央値	平均給料計	中央値	
管理者	3	4,610,501	4,800,000	4,506,531	4,800,000	▲2.3%
助産師	33	2,689,389	1,397,484	2,725,024	1,704,433	1.3%
看護職員	4	964,200	885,070	943,976	721,573	▲2.1%
看護補助職員	4	1,366,997	1,348,500	2,095,403	1,488,473	53.3%

	回答施設数	個人以外※1				
		R 4 年度		R 5 年度		平均給料の 伸び率
		平均給料計	中央値	平均給料計	中央値	
管理者	12	4,225,435	4,615,000	4,134,041	4,034,675	▲2.2%
助産師	15	4,164,874	3,680,000	4,161,261	3,533,333	▲0.1%
看護職員	—	—	—	—	—	
看護補助職員	—	—	—	—	—	

※ 常勤勤務者数について、「人・月」を「人」で回答した助産所については12倍することで「人・月」に換算の上、給与を算出した。

※ 注1 個人以外には、公立（都道府県、市町村、地方独立行政法人）、公益法人、学校法人、社会福祉法人、医療系協、会社、社会医療法人等、その他法人、経営主体不詳を含む。

年度別の資産・負債の状況①（病院）

今回行った調査は、分娩を取扱っている施設のみへの調査であることに留意が必要

（単位：千円）

	今回調査						(参考) 第24回医療経済実態調査 (一般病院)	
	R 4 年度			R 5 年度			R 3 年度	R 4 年度
	回答のあった病院全体			回答のあった病院全体				
		総合・地域 周産期母子 医療セン ター	それ以外の 病院		総合・地域 周産期母子 医療セン ター	それ以外の 病院		
流動資産	8,472,798	10,919,832	5,593,935	8,341,490	10,413,983	5,903,264	1,703,514	1,778,404
固定資産	15,294,655	20,118,598	9,619,427	15,176,233	19,968,088	9,538,756	3,093,195	3,134,728
繰延資産	109,607	66,347	160,501	57,668	60,874	53,897	22,441	23,882
資産合計	23,877,060	31,104,778	15,373,862	23,575,392	30,442,944	15,495,917	4,819,150	4,937,014
流動負債	3,748,013	5,308,976	1,911,584	3,959,571	5,679,599	1,936,008	841,669	832,276
固定負債	10,710,495	14,022,526	6,813,987	10,207,606	13,415,679	6,433,402	2,179,129	2,167,468
（うち）長期借入金	6,529,807	8,247,352	4,559,683	6,239,824	7,731,987	4,528,224	1,294,649	1,255,522
負債合計	14,458,507	19,331,502	8,725,572	14,167,176	19,095,278	8,369,410	3,020,798	2,999,743
資本合計	9,418,552	11,773,275	6,648,291	9,408,215	11,347,667	7,126,507	1,798,352	1,937,271
施設数	74	40	34	74	40	34	664	
平均病床数	473	634	284	476	632	285	174	173

※ すべての本調査の項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

年度別の資産・負債の状況②（一般診療所）

今回行った調査は、分娩を取扱っている施設のみへの調査であることに留意が必要

（単位：千円）

	今回調査				（参考）第24回医療経済実態調査 一般診療所（入院診療収益あり、全体）	
	R 4 年度		R 5 年度		R 3 年度	R 4 年度
	回答のあった診療所全体		回答のあった診療所全体			
		医療法人		医療法人		
流動資産	231,861	244,249	231,366	242,508	268,332	267,163
固定資産	285,630	285,536	287,630	288,552	301,098	307,457
繰延資産	4,377	4,828	5,007	5,142	3,264	3,080
資産合計	522,078	534,612	522,591	534,260	572,694	577,700
流動負債	53,723	57,675	58,303	63,483	91,898	93,795
固定負債	133,181	116,580	129,852	110,715	106,053	95,378
（うち）長期借入金	104,310	91,206	94,979	78,017	97,920	85,080
負債合計	187,261	174,255	188,521	174,209	197,951	189,173
資本合計	334,817	360,357	334,070	360,051	374,743	388,527
施設数	112	94	112	94	124	

※ すべての本調査の項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

年度別の資産・負債の状況③（助産所）

今回行った調査は、分娩を取扱っている施設のみへの調査であることに留意が必要

（単位：千円）

	R 4 年度			R 5 年度		
	回答のあった助産所全体			回答のあった助産所全体		
		個人	個人以外 ※注1		個人	個人以外 ※注1
流動資産	14,478	12,671	20,874	13,502	11,623	20,150
固定資産	26,979	23,430	39,538	26,687	23,277	38,755
繰延資産	390	500	0	336	431	0
資産合計	43,323	38,494	60,412	41,754	36,907	58,906
流動負債	10,444	11,412	7,020	10,965	12,092	6,976
固定負債	9,762	7,559	17,557	9,176	7,180	16,238
（うち）長期借入金	9,222	7,744	14,453	8,130	6,748	13,019
負債合計	22,223	21,557	24,577	21,635	21,188	23,214
資本合計	21,101	16,937	35,835	20,119	15,718	35,692
施設数	59	46	13	59	46	13

※ すべての本調査の項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

※ 注1 個人以外には、公立（都道府県、市町村、地方独立行政法人）、公益法人、学校法人、社会福祉法人、医療生協、会社、社会医療法人等、その他法人、経営主体不詳を含む。

6. 分娩取扱施設の収益等 まとめ

- 年度別の「損益率」の状況について、回答のあった「病院」（74施設、平均病床数448）では、令和4年度が▲5.4%、令和5年度が▲6.9%であった。うち、「総合・地域周産期母子医療センター」（39施設、平均病床数541）では、令和4年度が▲5.9%、令和5年度が▲6.9%であり、「それ以外の病院」（35施設、平均病床数321）では、令和4年度が▲8.1%、令和5年度が▲6.5%であった。また、「診療所」（医療法人、43施設）では、令和4年度が6.3%、令和5年度が3.6%であった。
- 「助産所」の年度別の「損益率」は、個人（14施設）が、令和4年度が15.5%、令和5年度が11.7%であり、個人以外（4施設）が、令和4年度が3.0%、令和5年度が▲3.6%であった。
- 令和5年度の「職種別（産婦人科医師）の給与」の平均値について、回答のあった病院全体（回答65施設）で16,218,170円、総合・地域周産期母子医療センター（回答32施設）で14,303,900円、それ以外の病院（回答33施設）で18,079,260円、診療所（医療法人、回答44施設）で25,446,140円であった。
- 令和5年度の「助産所における給与」の平均値について、回答のあった助産所全体で、管理者（回答15施設）で4,208,539円、助産師（48施設）で3,173,848円であった。

7. まとめ（全体）

- 本報告の分析に用いたデータは、外れ値や誤答と思われるものが含まれているため、速報値による報告であることに留意いただきたい。尚、修正や調整が可能と判断したデータについては、研究班により統計的な処理を施した。調整内容については、当該スライドに明記している。
- 本調査では、2073施設の分娩取扱施設（病院、診療所、助産所）に調査票を送付し、1072施設（回収率は46.6%）に回答協力いただいた。
- 1か月間の「全分娩数」の平均は、総合・地域周産期母子医療センターは43件、それ以外の病院36件、診療所36件であった。助産所における1年間の分娩取扱件数の平均は13件。
- 「無痛分娩」は、総合・地域周産期母子医療センター42%、それ以外の病院48%、診療所44%で。「無痛分娩」の平均設定価格は、総合・地域周産期母子医療センターとそれ以外の病院は約12万円、診療所は約9万円であった。
- 「お祝い膳」は、総合・地域周産期母子医療センターで79%、それ以外の病院で84%、診療所で76%、助産所で31%で提供。料金は、80%以上の施設で料金が個別に明示されず、入院料等に含まれていた。
- 病院では混合病棟が68%であり、「病棟における産科患者の入院割合」は総合・地域周産期母子医療センターで60%、それ以外の病院で47%であった。
- 「1日当たりの室料差額料金」の平均は、総合・地域周産期母子医療センターが43,233円で、25,107円のそれ以外の病院よりも高い。
- 「帝王切開」は、総合・地域周産期母子医療センターで14%と最も多い。「無痛分娩」は総合・地域周産期母子医療センター11%、それ以外の病院が7%、診療所が13%だった。
- 入院中の助産ケアについて、「授乳指導」については、平均的な1日あたりの回数が4.6回、1入院あたりの合計回数が19.4回であり、産後入院中は多数回の授乳指導が行われている。「沐浴指導」の実施回数は、初産婦で平均1.7回、経産婦で1.5回であり、経産婦にも実施されている。「育児技術指導」の延べ時間（平均）は初産婦で257分、経産婦で218分であり、「退院指導」の時間は初産婦で45.4分、経産婦で41.6分であった。
- 「お祝い膳」以外のサービス（写真撮影、足形、エステ）の提供は、「初産婦」より「経産婦」の方が割合が高く、総合・地域周産期母子医療センターが他施設と比べて割合が低い。
- 「産婦合計負担額」の平均値は、無痛分娩（603,338円）＞帝王切開（511,299円）＞その他の分娩（485,636円）の順で高い。
- 「産婦合計負担額」は、総合・地域周産期母子医療センター（537,358円）＞診療所（513,405円）＞それ以外の病院（503,551円）＞助産所（448,154円）の順で高い。「入院料」、「室料差額」、「一部負担金等」では総合・地域周産期母子医療センターが高いが、それ以外の項目については診療所が高い傾向。
- 正常な経陰分娩等を含む「その他の分娩」において、娩出2時間前後に関わった職種別延人数は「産婦人科医」が0.8人、「助産師」が2.3人、「看護師」が0.4人。
- 平均的な妊婦健診（病院+診療所）の費用の平均は113,425円（中央値115,800円）、うち望ましい基準に含まれない健診項目の費用は10,882円（中央値3,460円）。
- 年度別の損益率の状況について、回答のあった病院（74施設）では、令和4年度が▲5.4%、令和5年度が▲6.9%であった。うち、総合・地域周産期母子医療センター（39施設）では、令和4年度が▲5.9%、令和5年度が▲6.9%であり、それ以外の病院（35施設）では、令和4年度が▲8.1%、令和5年度が▲6.5%であった。また、診療所（医療法人、43施設）では、令和4年度が6.3%、令和5年度が3.6%であった。
- 今後は、外れ値や誤答と思われるものへの対処を含むデータの精査を行い、より精緻な分析を行う予定である。また、分娩取扱時に提供される診療や助産等の実態をより精緻にまとめるために、他計式前向き調査によるタイムスタディ実施する予定である。

別添 4

令和6年度厚生労働行政推進調査事業費補助金
政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業）
分担研究報告書

『分娩取扱施設における出産に係る費用構造の把握のための調査』について
－調査設計、及び、対象施設の抽出方法に係る検討－

研究代表者 野口 晴子 早稲田大学 政治経済学術院
研究分担者 片岡 弥恵子 聖路加国際大学 大学院看護学研究科
研究分担者 増澤 祐子 新潟県立看護大学 看護学部

研究要旨

本研究では、正常分娩を取り扱う医療機関等を対象に、出産等の費用構造等の実態を把握することを目的として、令和5年度に実施した予備的なパイロット調査とヒアリングから得られた結果を基に、令和6年度に実施する『分娩取扱施設における出産に係る費用構造の把握のための調査』の調査設計や対象施設の抽出方法に対する検討を行った。

パイロット調査における個別の調査項目に対する回答率の結果から、第1に、比較的回答率の高かった調査項目については悉皆調査（以下、A票）、回答率が低い調査項目については無作為抽出による標本調査（以下、サンプル調査、B票）を実施することとした。第2に、当該調査の結果から、分娩施設の機能、及び、当該施設が所在する市区町村の財政状況や二次医療圏の競争環境により、回答率に偏りが発生することが判明したため、医療施設の機能や地域属性等に配慮した抽出方法を検討することとした。

まず、全国の分娩取扱する2,173施設（病院・診療所が1,847件；助産所が326件）を母集団として、推定量の95%信頼区間を ± 0.02 （ $\pm 2\%$ ポイント）以内とする標本数を算出したところ、約900～1,140件であった。

次に、サンプル調査の対象施設を層化抽出法・比例割当（ネイマン割当（最適割当））によって選定することとし、①分娩施設の機能（周産期母子医療センター（総合又は地域）、周産期母子医療センター（総合又は地域）以外の病院、診療所）、②分娩件数（300件以上、300件未満）、③経営主体別（公立、公的、民間）で層別化を行った場合、及び、当該3項目に④同一地域内での競争環境（同一二次医療圏内の分娩件数300件を超える施設割合 $\leq 60\%$ （中央値）、 $> 60\%$ （中央値））と⑤所在する市区町村の財政状況（市区町村の財政力指数 ≤ 0.79 （中央値）、 > 0.79 （中央値））を加えた5項目で層別化を行った場合それぞれについて、抽出率を1/2と1/3とした検討を行った。

その結果、選定された標本内で、抽出率1/2の方が抽出率1/3の標本よりも、各都道府県の構成割合と分娩件数ともに母集団により近い分布を示しており、また、層別化に用

いた項目数による差が観察されなかった。よって、令和 6 年度調査では、抽出率を 1/2 と
して、個別施設の抽出においては、層化されたクラスターに格納された施設について、
Stata18.0 によって乱数を発生させることにより無作為抽出を行った。最終的な調査対象
数は、病院 A 票が 911 件、病院 B 票が 500 件、診療所 A 票が 936 件、診療所 B 票が 469
件、助産所が 326 件、A 票が計 2,173 件、B 票が計 1,295 件であった。

A. 研究目的

「こども未来戦略方針」（令和 5 年 6 月 13 日閣議決定）では、出産等の経済的負担の軽減を目的として、令和 5 年 4 月からの出産育児一時金の大幅な引上げ（42 万円から 50 万円に引き上げ）を行うとともに、出産費用の見える化について令和 6 年度からの実施に向けて具体化を進めていくこととされており、その上で、これらの効果等の検証を行い、令和 8 年度を目途に、出産費用（正常分娩）の保険適用の導入等の検討を行うこととされている。

現状、我が国における「出産」については、健康保険法上、療養の給付の対象ではなく、妊娠 12 週以降の出産に対して出産育児一時金が支給されている。正常分娩の出産費用の支払いは医療機関と妊産婦等の間で決められており、地域や医療機関等（医療機関及び助産所）によって様々である。また、その内訳についても、医療行為のみならず様々な医療に該当しないサービス等も含まれており、出産費用の平均値は都道府県や公的病院、私的病院、診療所等の設置主体等によって幅があることは知られている。

令和 3 年度厚生労働科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）「医学的適応による生殖機能維持の支援と普及に向けた総合的研究」の分担研究である「出産育児一時金（出産費用）

に関する研究」（田倉班）では、出産費用の水準は、地域特性と施設特性（私的病院など）、および妊婦年齢、出産回数のみならず、施設ブランドや付帯サービス、世帯収入（施設選択に大きく影響）や情報提供のあり方に、大きく依存していることが示唆された。

加えて、分娩取扱医療機関等は正常分娩のみならず、外来における妊婦健診等も一体的に行っている医療機関も多くあり、当該医療機関等の費用構造や人員配置の実態を調査する上では、妊婦健診も含めた調査を行うことが必要である。

以上を踏まえ、本研究は、正常分娩を取り扱う医療機関等を対象に、出産等の費用構造等の実態を把握することを目的とする。正常分娩は自費診療であり、費用構造を明らかにした大規模調査は行われていない。そこで、本研究では、令和 5 年度に実施された予備的なパイロット調査とヒアリングから得られた結果を参考に、全国の分娩取扱施設を対象とした悉皆調査と標本調査（以下、サンプル調査）を並行して実施することとした。

B. 研究方法

B-1. 調査の実施方法

令和 5 年度に実施した予備的なパイロット調査における個別の調査項目に対する回答率の結果から、第 1 に、比較的回答率の高かった構造設備・体制・分娩取

扱実績等の調査項目については悉皆調査を実施し、調査対象施設の負担が起因すると考えられる回答率が低い調査項目、例えば、外来概要（とりわけ、各健診の内容と費用に係る項目群）・患者（産婦）票・各職種のエフォート率や兼務状況、及び、それを反映するタイムスタディ・収益等の調査項目については、無作為抽出によるサンプル調査を実施することとした。

第2に、当該調査の結果から、分娩施設の機能、及び、当該施設が所在する市区町村の財政状況や二次医療圏の競争環境により、回答率に偏り（selection bias）が発生することがわかった。したがって、令和6年度に実施する調査の一部を無作為抽出によるサンプル調査とし、医療施設の機能や地域属性等に配慮した抽出方法を検討した。

B-2. 調査内容

質問票は、大きく、悉皆調査用（以下、「A票」）とサンプル調査（以下、「B票」）の2つから構成されている。更に、分娩施設の機能別に、「病院A票」・「病院B票」、「診療所A票」・「診療所B票」、及び、「助産所票」の5種類に分類されている。助産所を対象とした調査は全質問項目について悉皆で実施したため、「A票」と「B票」の区別はない。

各調査票の具体については、参考資料1-1～1-5に示す通りであるが、以下では、概要について示す。尚、（ ）内の数値は質問内容における凡その項目数を示しているが、分娩施設の機能により数が異なることに留意されたい。

【A票】

①分娩取扱施設の基本情報（12～15）

- ・施設名
- ・施設所在地
- ・施設種別
- ・設置主体
- ・周産期医療情報システム参加の有無、等

②構造設備・体制・分娩取扱実績等（113～168）

- ・構造設備
- ・分娩取扱施設の医療体制
- ・分娩取扱実績
- ・助産師の従事時間（※助産所のみ）
- ・その他（無痛分娩の実施の有無と価格、付帯サービス提供の有無と価格、等）
- ・病院については病棟構成・配置職員数、等

③外来概要（15～37）

- ・外来体制
- ・外来の状況
- ・妊婦健診に係る補助
- ・各健診等の内容・費用
- ・産後ケア、等

【B票】

※但し、助産所については、悉皆調査のため、A票とB票の区別はない。

①従事時間、等（31～61）

- ・看護職（助産師、看護師、准看護師）
- ・医師
- ・病院については病棟に配置された看護職・医師の従事時間等

②患者（産婦）票（82～91）

- ・産婦の概要

- ・分娩の概要
- ・医療行為・処置
- ・入院中の助産ケア
- ・新生児の概要
- ・入院料・分娩料等の費用、等

③医師・助産師・看護師を対象とした分娩前後でのタイムスタディ

④直近2年間（令和5年3月まで／令和6年6月まで）の収益（10～11）

- ・基本データ
- ・医業収益（病院全体・周産期部門）
- ・介護収益
- ・医業・介護費用
- ・損益差額
- ・職種別給与
- ・資産・負債
- ・キャッシュフロー
- ・設備投資額、等

B-3. サンプル調査に係る抽出方法

前述したように、B票（従事時間・患者（産婦）票・タイムスタディ・収益、等）についてはサンプル調査で実施した。但し、分娩を取り扱う特定機能病院（82件）、及び、助産所（326件）については、悉皆で実施した。

B-3-1. サンプル調査を実施する全体の標本数について

標本数の目安として、推定量の95%信頼区間を ± 0.02 （ $\pm 2\%$ ポイント）以内となる標本数を算出する。病院・診療所が1,847件、助産所が326件、計2,173件を母集団（N）とすると、標準誤差の式から逆算して下記の数式で算出することが出来る。

$$n \geq \frac{2173}{\left(\frac{0.02}{1.96}\right)^2 \times \frac{2173-1}{0.5(1-0.5)} + 1} \cong 1140.908$$

尚、上記では、有効回答率が100%であること、また、母集団における比率pは観測不能なため、標準誤差が最も大きくなる $p=0.5$ と仮定した。仮に、推定量の95%信頼区間を ± 0.01 （ $\pm 1\%$ ポイント）以内、 ± 0.025 （ $\pm 2.5\%$ ポイント）以内、 ± 0.03 （ $\pm 3\%$ ポイント）以内に抑えたい場合の標本数はそれぞれ、

$$n \geq \frac{2173}{\left(\frac{0.01}{1.96}\right)^2 \times \frac{2173-1}{0.5(1-0.5)} + 1} 1772.206$$

$$n \geq \frac{2173}{\left(\frac{0.025}{1.96}\right)^2 \times \frac{2173-1}{0.5(1-0.5)} + 1} \cong 900.362$$

$$n \geq \frac{2173}{\left(\frac{0.03}{1.96}\right)^2 \times \frac{2173-1}{0.5(1-0.5)} + 1} \cong 714.885$$

となる。以上の結果から、95%信頼区間を ± 0.01 （ $\pm 1\%$ ポイント）以内に抑える場合は抽出しなければならない標本数が約1,772件となり多すぎ、 ± 0.03 （ $\pm 3\%$ ポイント）以内の場合は、パイロット調査の有効回答率（約30%）に鑑み、約714件は少なすぎるので、 ± 0.025 （ $\pm 2.5\%$ ポイント）以内～ ± 0.02 （ $\pm 2\%$ ポイント）以内、つまり、約900～約1,140件で検討することにする。上記の標本数に設定した根拠は、患者（産婦）票について、調査期間内の分娩日を指定した上で各施設3例の

回答を依頼し、1,000 例程度の患者（産婦）票を収集することを想定したためである。¹

B-3-2. 層化抽出（層別抽出）法

本研究では、サンプル調査を悉皆で実施する特定機能病院 82 件と助産所 326 件²（計 408 件）以外の調査対象施設（1,765 件）を層化抽出法・比例割当によって選定することとする（特定機能病院と助産所について悉皆で実施するため、ネイマン割当（最適割当）であるともいえる）。当該抽出方法を採用することで、標本の平均値が母集団の平均値の推定値となる自動加重標本となり、また、層化抽出を行うことで、層化を行わない場合よりも標本誤差が小さくなる。

本研究では、下記の 2 つの層化項目による抽出を実施してみた。

抽出方法(1)：層化項目として、①分娩施設の機能（周産期母子医療センター（総合又は地域）、周産期母子医療センター（総合又は地域）以外の病院、診療所）、②分娩件数（300 件以上、300 件未満）、③経営主体別（公立、公的、民間）の 3 項目を用いた抽出である。まず、母集団（1,765 件）から、層化項目別

に構成割合を算出し、構成割合に基づく比例割合による各項目の抽出件数を、抽出率が 1/3 と 1/2 の場合についてそれぞれ算出した。

抽出方法(2)：層化項目として、①分娩施設の機能（周産期母子医療センター（総合又は地域）、周産期母子医療センター（総合又は地域）以外の病院、診療所）、②分娩件数（300 件以上、300 件未満）、③経営主体別（公立、公的、民間）に加え、パイロット調査に基づき、有効回答率に有意な影響を与えることが明らかとなった、④同一地域内での競争環境（同一二次医療圏内の分娩件数 300 件を超える施設割合 $\leq 60\%$ (中央値)、 $> 60\%$ (中央値))、⑤所在する市区町村の財政状況（市区町村の財政力指数 ≤ 0.79 (中央値)、 > 0.79 (中央値)) の 5 項目を用いた抽出である。前述と同様、母集団（1,765 件）から、層化項目別に構成割合を算出し、構成割合に基づく比例割合による各項目の抽出件数を、抽出率が 1/3 と 1/2 の場合についてそれぞれ算出した。

個別施設の抽出については、層化されたクラスターに格納された施設について、Stata18.0 によって乱数を発生させることにより無作為抽出を行った。

¹ 対象患者（産婦）については、①本調査票到着日を 0 日として、7 日目（7 日目が休日にあたる場合はその次の平日）以降に初めて入院された産婦を 1 例目、②1 例目の分娩日（もしくは受け持ち終了）の翌日以降に入院された初めの産婦を 2 例目、③2 例目の分娩日（もしくは受け持ち終了）の翌日以降に入院された初めの産婦

を 3 例目として記載するよう依頼した（参考資料 1-2、1-4、1-5 参照のこと）。

² 日本助産師会の協力により、助産所部会会員で分娩を取り扱っている助産所リストにハンドサーチにより日本助産師会会員以外の分娩取扱助産所を追加したリスト作成した。

(倫理面への配慮)

本研究では、『分娩取扱施設における出産に係る費用構造の把握のための調査』を実施するに当たり、早稲田大学「人を対象とする研究に関する倫理審査委員会」にて、実施承諾を受けている

(承認番号：2024-044；承認日：令和6年5月4日)。本研究が実施するのは、介入をとまなわず、調査対象者に対する侵襲は発生しない調査である。その上で、対象者の保護に関しては、本研究に係る研究者は「個人情報保護法」及び各自治体が定めた「個人情報保護条例」等「個人情報の取り扱い」に関する諸規則を遵守した。また、医学研究に関わる部分は「ヘルシンキ宣言」などに従った。その他については、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に従って本研究を実施した。

本研究にて使用する全てのデータの構築・整備・解析に当たっては、施設可能な物理的スペース、具体的には、研究代表者（野口）、分担研究者（片岡・増澤）の研究室において、学内外のネットワークに接続していないスタンドアロンのサーバー（2U Xeon IceLake x2 搭載計算機：HPCT R227s）で行った。尚、当該研究室への入退管理を徹底させ、業務時間帯以外は施設など、運用管理規程に基づき許可された者以外立ち入ることが出来ない対策を講じた。更に、各研究機関における個人情報保護方針の策定・公開、及び、組織的安全管理対策（体制、運用管理規程）の実施を徹底させた。

C. 研究結果一層化抽出（層別抽出）法による抽出の結果

図1は、抽出方法、及び、抽出率により、選定された標本での都道府県別・分娩施設数の構成割合（各都道府県での施設数／全国の施設数）が、母集団と何%ポイント乖離しているかを示している。図1から、全般的に、1/3抽出よりも1/2抽出の方が、母集団との乖離の分布が小さく、都道府県ごとの施設数の構成割合をより正確に反映する傾向にあることがわかる。第2に、サンプル調査を悉皆で実施する特定機能病院と助産所を含む場合の方がより実態を反映して、悉皆施設を含まない場合に比べて、母集団からの乖離の分布が小さい傾向にあることがわかる。抽出方法に関して、抽出方法(2)では同一地域の競争環境や市区町村の財政状況等を層化したことが起因して、地域属性を統制していない抽出方法(1)と比べ若干分散が小さく、特定機能病院と助産所を除いた場合を見ると、抽出方法(1)では、中央値（箱ひげないの線）と平均値（×）が若干乖離していることが分かる。

図2に示した一連のヒストグラムは、抽出方法・抽出率別の年間分娩件数の分布を示している。青色の棒グラフは母集団、赤色の棒グラフが抽出により選定された分娩施設の分娩件数を示している。第1に、特定機能病院・助産所を含むかどうかはあまり分娩件数の分布に影響がないことがわかる。1つには、病院機能報告に記録のない施設や助産所の分娩件数が観察されていないこと、もう1つは特定機能病院の件数が82件とごく少数であ

るためと考えられる。第2に、抽出方法(1)・抽出方法(2)ともに、母集団との分布に近いのは、1/2抽出であることがわかる。とりわけ、1/3抽出では、分娩件数が少ない2番目の区域で過剰抽出されていることが見て取れる。第3に、抽出方法間での分布の差はあまりない。

D. 考察／E. 結論

以上の結果から、令和6年度の調査では、まず、抽出率1/2で実施することが望ましいことがわかった。理由は、選定された標本内での、各都道府県の構成割合と分娩件数ともに、抽出率1/3の標本よりも母集団により近い分布を示しているからである。その上で、図2-1-2と図2-2-4に示す通り、抽出方法による差が観察されなかったことから、層化項目3つの抽出方法(1)で、抽出率1/2とすることとした。

調査実施に当たり、調査対象施設に対し、調査時点での分娩取扱の有無を確認し、「分娩取扱無し」と回答した施設を除外した結果、最終的な調査対象数は、病院A票が911件、病院B票が500件、診療所A票が936件、診療所B票が469件、助産所が326件、A票が計2,173件、B票が計1,295件であった。

F. 健康危険情報

特に無し。

G. 研究発表

1. 論文発表

特に無し。

2. 学会発表

特に無し。

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

1. 特許取得

特に無し。

2. 実用新案登録

特に無し。

3. その他

特に無し。

参考文献

厚生労働省. 『周産期母子医療センター一覧』.

<https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/001238158.pdf> (閲覧日：令和7年5月14日) .

厚生労働省. 『「出産ナビ」へようこそ』. <https://www.mhlw.go.jp/stf/birth-navi/index.html> (閲覧日：令和7年5月14日) .

厚生労働省. 『特定機能病院一覧』. <https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10800000-Iseikyoku/0000164412.pdf> (閲覧日：令和7年5月14日) .

厚生労働省. 『令和4年度病床機能報告』. https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/open_data_00008.html (閲覧日：令和7年5月14日) .

総務省統計局. 『統計でみる市区町村のすがた』¹ <https://www.stat.go.jp/data/s->

sugata/index.html（閲覧日：令和7年5月14日）

田倉智之. (2021) 「出産育児一時金（出産費用）に関する研究」. 令和3年度厚生労働科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）「医学的適応による生殖機能維持の支援と普及に向けた総合的研究」分担研究報告書. https://mhlw-grants.niph.go.jp/system/files/report_pdf/202107004A-buntan5.pdf（閲覧日：令和7年5月14日）

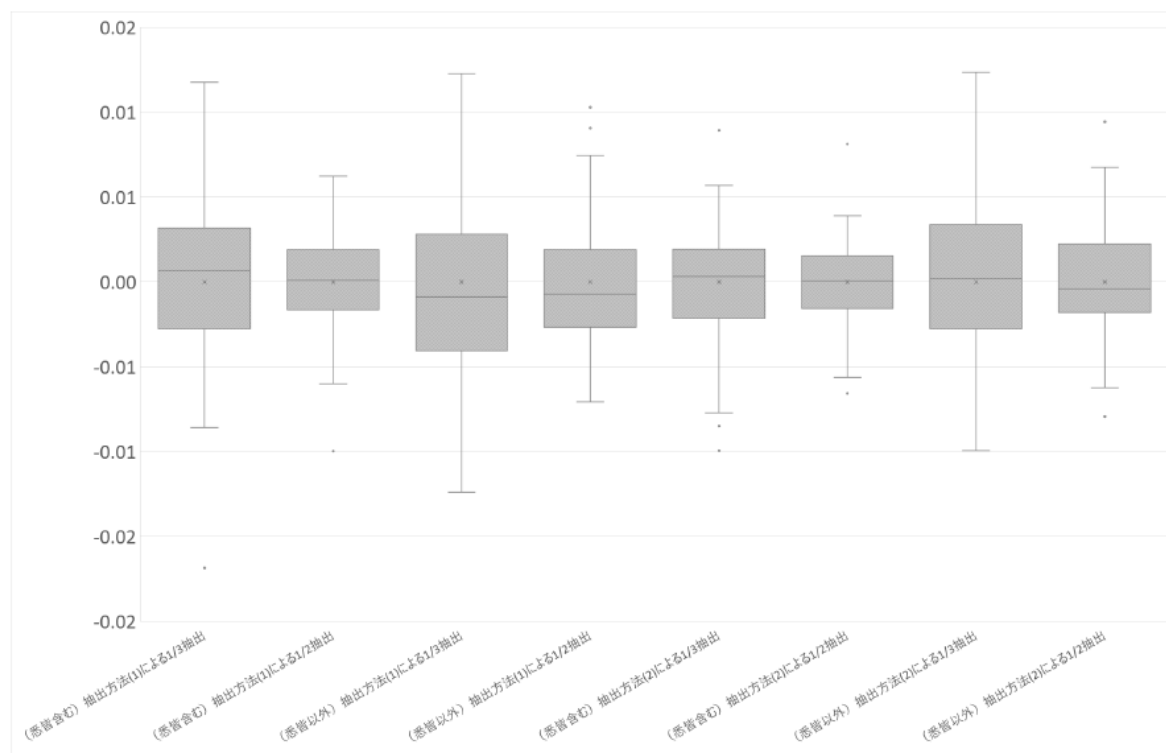


図1 抽出方法・抽出率による都道府県別・分娩施設割合の乖離

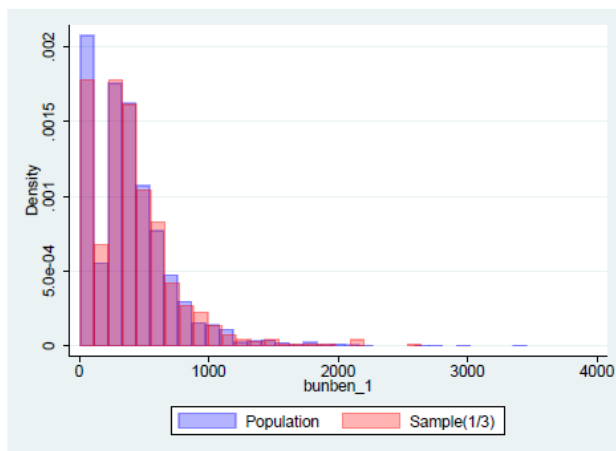


図 2-1-1 抽出方法(1)&1/3 抽出(特定機能・助産所含む)

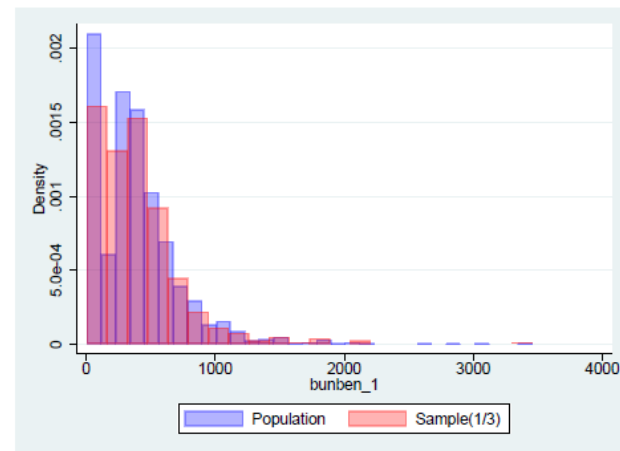


図 2-1-3 抽出方法(1)&1/3 抽出(特定機能・助産所以外)

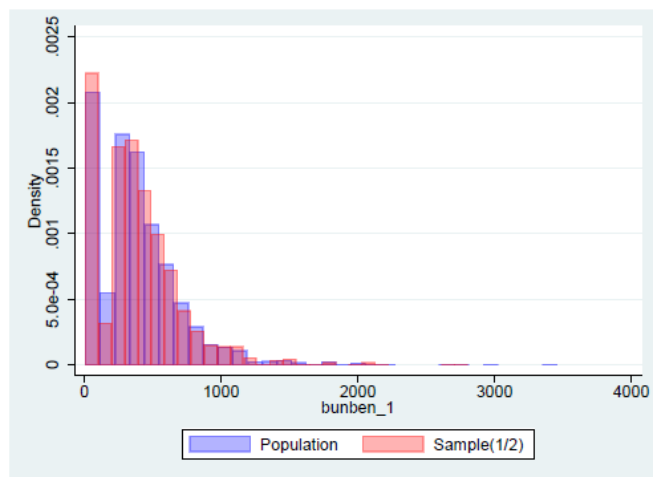


図 2-1-2 抽出方法(1)&1/2 抽出(特定機能・助産所含む)

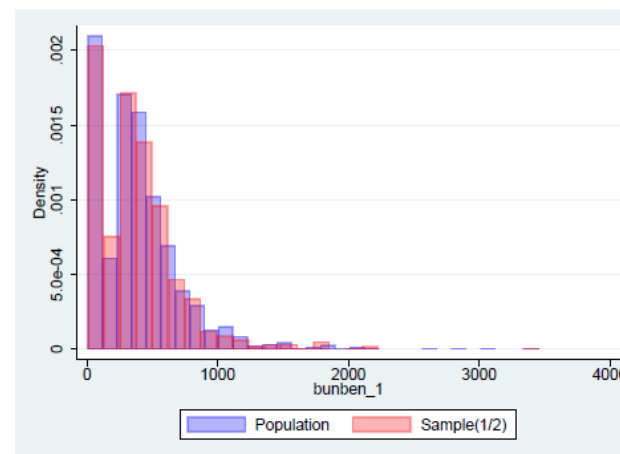


図 2-1-4 抽出方法(1)&1/2 抽出(特定機能・助産所以外)

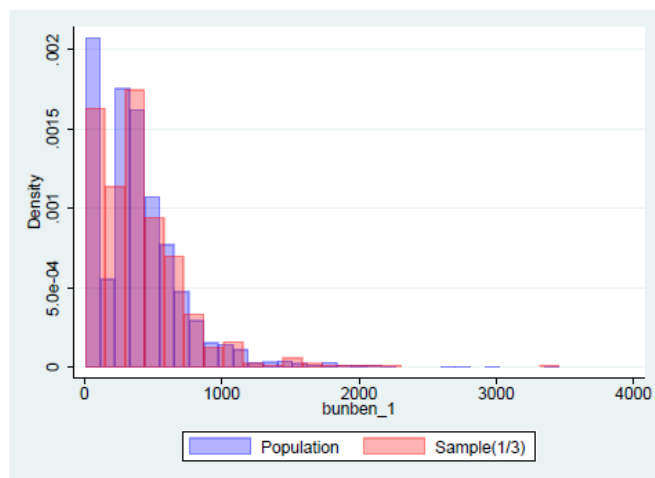


図 2-2-1 抽出方法(2)&1/3 抽出(特定機能・助産所含む)

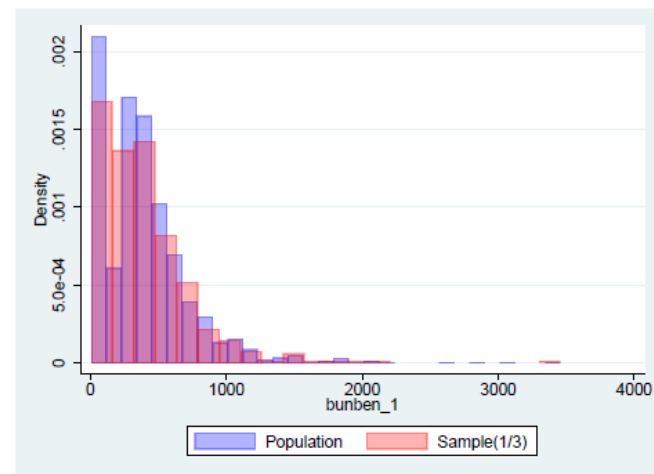


図 2-2-3 抽出方法(2)&1/3 抽出(特定機能・助産所以外)

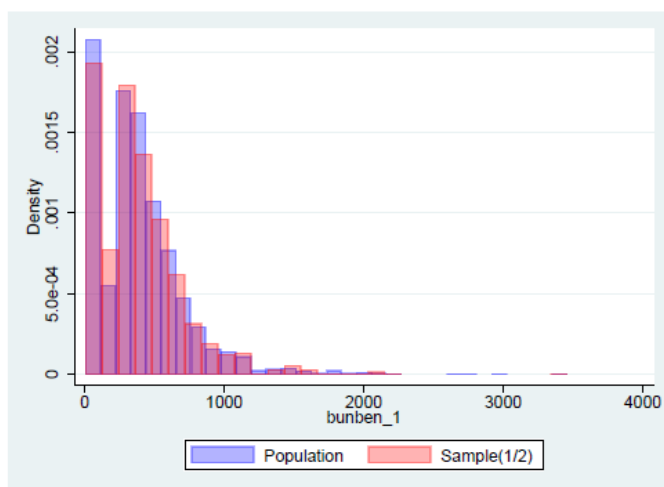


図 2-2-2 抽出方法(2)&1/2 抽出(特定機能・助産所含む)

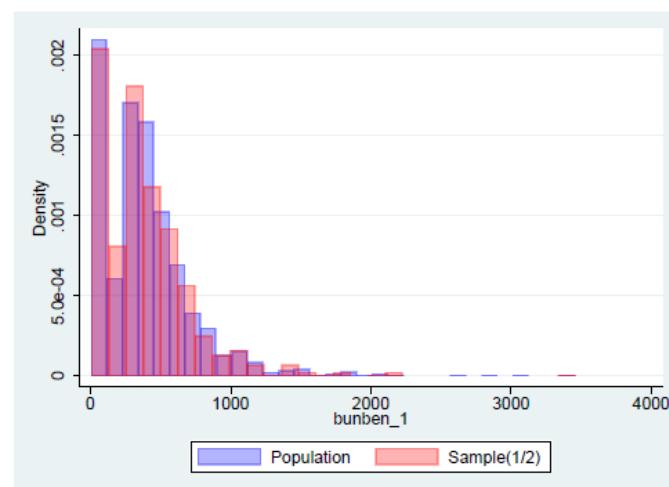


図 2-2-4 抽出方法(2)&1/2 抽出(特定機能・助産所以外)

別添 4

令和6年度厚生労働行政推進調査事業費補助金
政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業）
分担研究報告書

『分娩取扱施設における出産に係る費用構造の把握のための調査』について
－有効回答数（率）に係る検証－

研究代表者 野口 晴子 早稲田大学 政治経済学術院
研究分担者 片岡 弥恵子 聖路加国際大学 大学院看護学研究科
研究分担者 増澤 祐子 新潟県立看護大学 看護学部

研究要旨

本研究では、令和5年度の予備的なパイロット調査とヒアリングから得られた結果を参考に、令和6年度に実施された『分娩取扱施設における出産に係る費用構造の把握のための調査』に係る有効回答数（率）に係る検証を行う。

本研究では、全国の分娩取扱施設2,173件を対象に、郵送調査とオンライン調査（Excelシート）の併用により、施設の構造や実績・患者（産婦）の実態・費用構造等に対する調査を実施した。調査実施時期は、令和6年9月の1か月としたが、助産所については分娩数が少ないため、令和6年9月又は10月のいずれかの1か月とした。

調査全体の回収状況を要約すると、悉皆調査（以下、A票）が2,173件中1,012件（46.6%）、サンプル調査（以下、B票）が1,295件中502件（38.8%）、患者（産婦）票に回答した施設が1,295件中448件（34.6%）、患者（産婦）数は3,885名中1,072名（27.6%）、うちタイムスタディに対する回答は908名であった。本研究の調査設計において、令和5年度に実施したパイロット調査の有効回答率（約30%）に基づき、1,000例程度の患者（産婦）票を収集することを想定し、B票の標本数を決定したが、想定通り、1,072名（うち、タイムスタディ908名）についての回答を得ることが出来た。

有効回答数（率）の要因分析を目的として記述統計からは、(1) 特定機能病院、総合・地域周産期母子医療センターと比べ、診療所、それ以外の病院の順で回答率が高く、助産所を含むと、助産所、診療所、それ以外の病院の順で回答率が高い傾向にあった；(2) 年間分娩件数が多い施設ほど回答率が高い傾向にあった；(3) 常勤の看護師・助産師数が多い施設ほど回答率が高い一方で、病棟病床数が多いと回答率が低下する傾向にあったが、統計的有意水準は5-10%とさほど高くない；(4) 施設が所在する市区町村の財政力指数が高いほど回答率が高い傾向にあった；(5) 以上の結果は、A票とB票で概ね整合的であり頑健である。但し、A票と違い、B票では市区町村の属性の回答率に対する影響はほぼ観察されなかった。

今後、更なる解析を進める上で、地域間での有効回答率のばらつき、機能や年間分娩件数等有効回答率に統計的に有意な影響を及ぼす可能性のある要因については、十分留意する必要がある。

A. 研究目的

本研究では、令和5年度の予備的なパイロット調査とヒアリングから得られた結果を参考に、令和6年度に実施された『分娩取扱施設における出産に係る費用構造の把握のための調査』に係る有効回答数（率）に係る検証を行う。

B. 研究方法

B-1. 研究概要

本研究では、全国の分娩取扱施設2,173件を対象に、郵送調査とオンライン調査（Excelシート）の併用により、施設の構造や実績・患者（産婦）の実態・費用構造等に対する調査を実施した。

質問票は、大きく、悉皆調査用（以下、「A票」）とサンプル調査（以下、「B票」）の2つから構成されている。更に、分娩施設の機能別に、「病院A票」・「病院B票」、「診療所A票」・「診療所B票」、及び、「助産所票」の5種類に分類されている。助産所を対象とした調査は全質問項目について悉皆で実施したため、「A票」と「B票」の区別はない。

悉皆調査については、病院A票が911件、診療所A票が936件、標本調査（以下、サンプル調査）については、病院B票が500件、診療所B票が469件である。但し、病院のうち分娩を取り扱う特定機能病院（82件）、及び、助産所（326件）については、悉皆で実施した。尚、

以上の結果、A票の対象施設数は2,173件、B票は1,295件であった。¹

B-2. 調査実施期間、調査委託業者

病院と診療所の調査期間は、令和6年9月の1か月としたが、助産所については分娩数が少ないため、令和6年9月又は10月のいずれかの1か月とした。尚、今回のパイロット調査に当たっては、合見積もりの結果、株式会社サーベイリサーチセンターを委託業者として選定した。

（倫理面への配慮）

本研究では、『分娩取扱施設における出産に係る費用構造の把握のための調査』を実施するに当たり、早稲田大学「人を対象とする研究に関する倫理審査委員会」にて、実施承諾を受けている（承認番号：2024-044；承認日：令和6年5月4日）。

C. 研究結果

C-1. 回答状況

表1は、調査票の回収状況を示している。表1から、悉皆調査の有効回答数（率）については、病院A票が911件中341件（37.4%）、診療所B票が936件中469件（49.7%）、助産所票が326件中206件（63.2%）であった。サンプル調査の有効回答数（率）は、病院B票が500件中145件（29%）、診療所B票が469

¹ 調査内容と抽出方法の詳細については、分担報告書1の16-19頁を参照のこと。

件中 196 件 (41.8%)、助産所票が 326 件中 161 件 (49.4%) となっている。

本調査の B 票には、各施設 3 名の患者 (産婦) を対象とする患者 (産婦) 票があり、当該患者 (産婦) 票には、各患者 (産婦) について医師・助産師・看護師を対象とした分娩 2 時間前後の期間でのタイムスタディが含まれている。特に、タイムスタディに係る項目は、B 票の中でも相当程度の回答者負担が予想されたため、有効回収数 (率) に対する懸念があったが、想定以上の回収率となった。

具体的には、病院では、患者 (産婦) 票に回答した施設が 500 件中 124 件 (24.8%)、患者 (産婦) 数は 1500 名中 (各施設 3 名×500 件) 308 名 (20.5%)、うちタイムスタディに対する回答は 254 名であった。診療所では、患者 (産婦) 票に回答した施設が 469 件中 174 件 (37.1%)、患者 (産婦) 数は 1,407 名中 (各施設 3 名×469 件) 477 名 (33.9%)、うちタイムスタディに対する回答は 408 名であった。最後に、助産所については、患者 (産婦) 票に回答した施設が 326 件中 150 件 (46%)、患者 (産婦) 数は 978 名中 (各施設 3 名×326 件) 287 名 (29.3%)、タイムスタディに対する回答は 246 名であった。

以上の結果から、今回の調査全体の回収状況を要約すると、A 票が 2,173 件中 1,012 件 (46.6%)、B 票が 1,295 件中 502 件 (38.8%)、患者 (産婦) 票に回答した施設が 1,295 件中 448 件 (34.6%)、患者 (産婦) 数は 3,885 名中 1,072 名 (27.6%)、うちタイムスタディに対する回答は 908 名であった。

C-2. 機能別・経営主体別・年間分娩件数別の有効回答率の違い

図 1-1、図 2-1、図 3-1 はそれぞれ、機能別・経営主体別 (但し、助産所を除く)、年間分娩件数別 (300 件以上/300 件未満) に、悉皆調査 (A 票) の有効回答率、及び、有効回答率の群間での差に対するカイ二乗検定の結果を示した記述統計量である。

機能別では、助産所が最も高く 326 件中 206 件 (63.2%)、次いで診療所が 936 件中 465 件 (49.7%)、低迷したのが病院で、特定機能病院・周産期母子医療センターが 403 件中 147 件 (36.5%)、特定機能病院・周産期母子医療センター以外の病院が 508 件中 194 件 (38.2%) であった。カイ二乗検定 ($\chi^2 = 70.6689$ ($p = 0.000$)) の結果から、1%未満の水準で、機能別の有効回答率の違いは統計的に有意であることがわかる (図 1-1 参照)。

次に、経営主体別をみると、民間が 1,310 件中 599 件 (45.7%) と最も高く、公立が 427 件中 175 件 (41%)、公的が 109 件中 32 件 (29.4%) であった。カイ二乗検定カイ二乗検定 ($\chi^2 = 54.1715$ ($p = 0.000$)) から、1%未満の水準で、経営主体別の有効回答率の違いは統計的に有意であることがわかる (図 2-1 参照)。

最後に、年間分娩件数別では、300 件以上の件が 940 件中 439 件 (46.7%)、300 件未満の件が 705 件中 288 件 (40.9%) と低い傾向であった。カイ二乗検定 ($\chi^2 = 44.9146$ ($p = 0.000$)) で、分娩規模別の有効回答率の違いも統計的に有意であった (図 3-1 参照)。

図 1-2、図 2-2、図 3-2 はそれぞれ、機能別・経営主体別 (但し、助産所を除

く)、年間分娩件数別(300件以上/300件未満)に、サンプル調査(B票)の有効回答率、及び、有効回答率の群間での差に対するカイ二乗検定の結果を示した記述統計量である。結果は、A票と同様の傾向を示している。

機能別では、助産所が最も高く326件中123件(49.4%)、次いで診療所が469件中196件(41.8%)、低迷したのが病院で、特定機能病院・周産期母子医療センターが246件中71件(28.9%)、特定機能病院・周産期母子医療センター以外の病院が254件中74件(19.1%)であった。カイ二乗検定($\chi^2 = 37.3919$ ($p = 0.000$))の結果から、1%未満の水準で、機能別の有効回答率の違いは統計的に有意であることがわかる(図1-2参照)。

次に、経営主体別をみると、民間が674件中250件(37.1%)と最も高く、公立が217件中71件(32.7%)、公的が77件中20件(26%)であった。カイ二乗検定カイ二乗検定($\chi^2 = 24.5459$ ($p = 0.000$))から、1%未満の水準で、経営主体別の有効回答率の違いは統計的に有意であることがわかる(図2-2参照)。

最後に、年間分娩件数別では、300件以上の件が507件中198件(39.1%)、300件未満の件が361件中115件(31.9%)と低い傾向であった。カイ二乗検定($\chi^2 = 22.1448$ ($p = 0.000$))で、分娩規模別の有効回答率の違いも統計的に有意であった(図3-2参照)。

C-3. 都道府県別の有効回答率の違い

図4-1、図5-1、図6-1はそれぞれ、機能別に、悉皆調査(A票)の都道府県別の有効回答率を、同様に、図4-2、図5-2、

図6-2はサンプル調査(B票)の都道府県別の有効回答率を示している。これらの図からも、助産所・診療所・病院の順で、全体的な有効回答率が高い傾向にあること、また、施設種別にかかわらず、地域間で回答率にばらつきがあることがわかる。

C-4. 有効回答数(率)の施設・地域属性による分布の違い

図7-1、図8-1、図9-1、図10-1は悉皆調査(A票)について、図7-2、図8-2、図9-2、図10-2はサンプル調査(B票)について、各施設の回答の有無別に、要因分析を行うため用いた説明変数(X_i)の分布を示したグラフである。青が回答の無かった施設、赤が回答のあった施設に係る分布を示している。

これらの単純統計量から、A票では、年間の分娩件数(図7-1)、施設が所在する市区町村の財政力指数(図9-1)、同一二次医療圏内の300件以上の分娩施設の割合(図10-1)において、回答の有無による統計的な有意差が観察された。回答を得た施設の方が、若干、分布が右側に広がっていることがわかる。つまり、この結果は、年間の分娩件数が多く、自治体の財政力が良く、域内での他施設との競争がある方が、回答率が高い傾向があることを示唆する。B票では、年間の分娩件数(図7-2)、同一二次医療圏内の300件以上の分娩施設の割合(図10-2)において、回答の有無による統計的な有意差が観察された。A票と同様に、回答を得た施設の方が、若干、分布が右側に広がっており、年間の分娩件数が多く、域内での

他施設との競争がある方が、回答率が高い傾向があることを示唆する。

D. 考察／E. 結論

本研究では、令和5年度の予備的なパイロット調査とヒアリングから得られた結果を参考に、令和6年度に実施された『分娩取扱施設における出産に係る費用構造の把握のための調査』に係る有効回答数（率）に係る検証を行った。

本研究の調査設計において、令和5年度に実施したパイロット調査の有効回答率（約30%）に基づき、1,000例程度の患者（産婦）票を収集することを想定し、B票の標本数を決定したが、想定通り、1,072名（うち、タイムスタディ908名）についての回答を得ることが出来た。

その結果、(1) 特定機能病院、総合・地域周産期母子医療センターと比べ、診療所、それ以外の病院の順で回答率が高く、助産所を含むと、助産所、診療所、それ以外の病院の順で回答率が高い傾向にあった；(2) 年間分娩件数が多い施設ほど回答率が高い傾向にあった；(3) 常勤の看護師・助産師数が多い施設ほど回答率が高い一方で、病棟病床数が多いと回答率が低下する傾向にあったが、統計的有意水準は5-10%とさほど高くない；(4) 施設が所在する市区町村の財政力指数が高いほど回答率が高い傾向にあった；(5) 以上の結果は、A票とB票で概ね整合的であり頑健である。但し、A票と違い、B票では市区町村の属性の回答率に対する影響はほぼ観察されなかった。

今後、更なる解析を進める上で、地域間での有効回答率のばらつき、機能や年間分娩件数等有効回答率に統計的に有意

な影響を及ぼす可能性のある要因については、十分留意する必要がある。

F. 健康危険情報

特に無し。

G. 研究発表

1. 論文発表

特に無し。

2. 学会発表

特に無し。

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

1. 特許取得

特に無し。

2. 実用新案登録

特に無し。

3. その他

特に無し。

参考文献

厚生労働省. 『周産期母子医療センター一覧』.

<https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/001238158.pdf> (閲覧日：令和7年5月14日) .

厚生労働省. 『「出産ナビ」へようこそ』. <https://www.mhlw.go.jp/stf/birth-navi/index.html> (閲覧日：令和7年5月14日) .

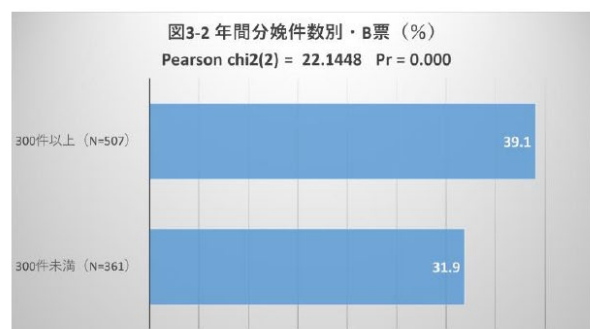
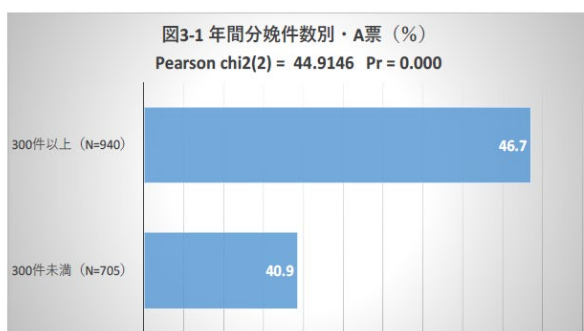
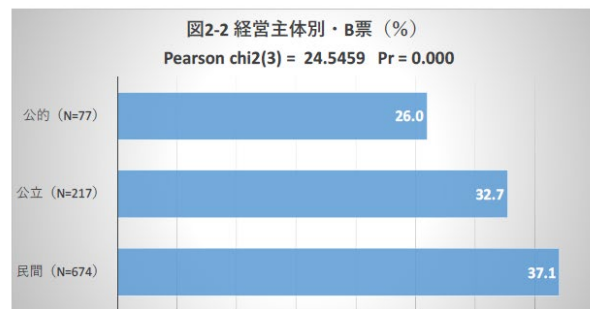
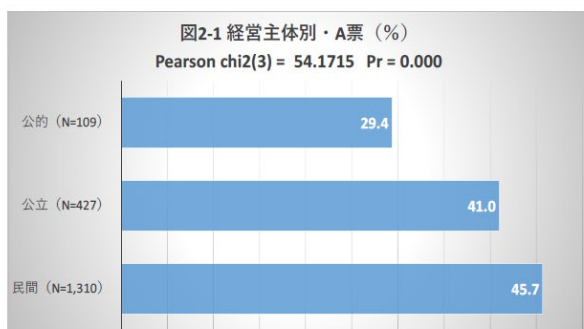
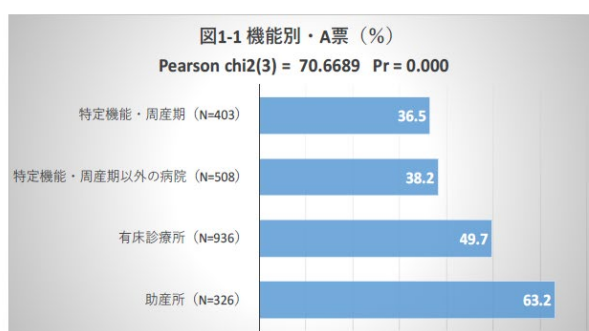
厚生労働省. 『特定機能病院一覧』. <https://www.mhlw.go.jp/file/06->

[Seisakujouhou-10800000-Iseikyoku/0000164412.pdf](#)（閲覧日：令和7年5月14日）。

厚生労働省．『令和4年度病床機能報告』．
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/open_data_00008.html（閲覧日：令和7年5月14日）。

総務省統計局．『統計でみる市区町村のすがた』¹ <https://www.stat.go.jp/data/s-sugata/index.html>（閲覧日：令和7年5月14日）

田倉智之．（2021）「出産育児一時金（出産費用）に関する研究」．令和3年度厚生労働科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）「医学的適応による生殖機能維持の支援と普及に向けた総合的研究」分担研究報告書．https://mhlw-grants.niph.go.jp/system/files/report_pdf/202107004A-buntan5.pdf（閲覧日：令和7年5月14日）



悉皆調査 (A 票)

サンプル調査 (B 票)

施設属性別・有効回答数 (率)

都道府県別・有効回答数（率）（1）：悉皆調査（A票）

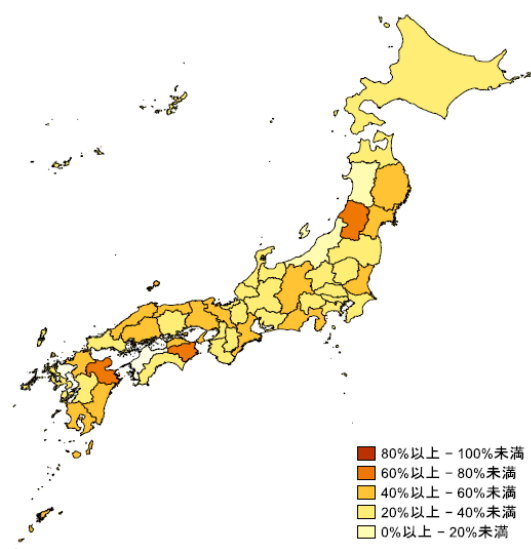


図4-1 都道府県別・有効回答率の分布
（病院）

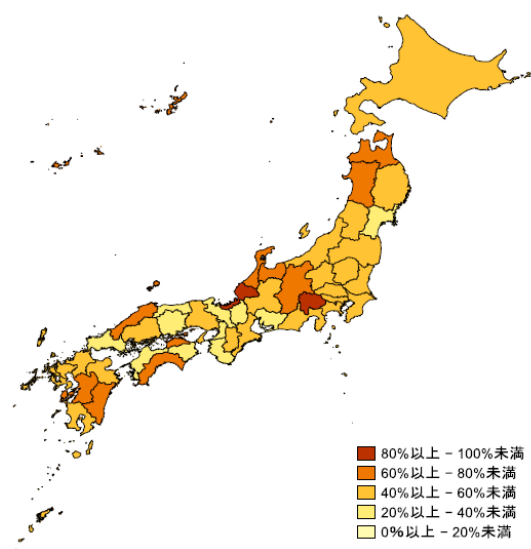


図5-1 都道府県別・有効回答率の分布
（診療所）

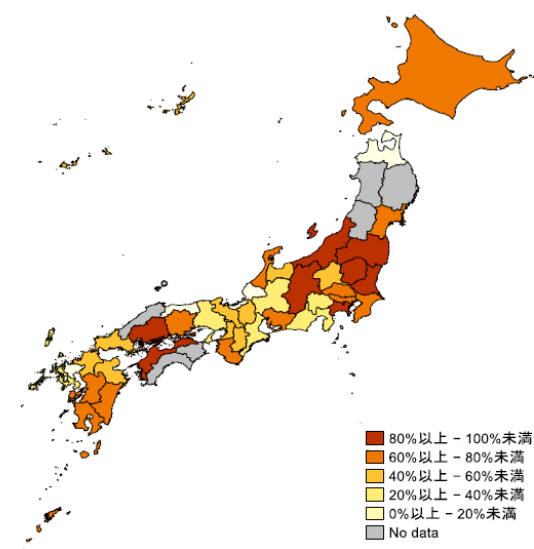


図6-1 都道府県別・有効回答率の分布
（助産所）

都道府県別・有効回答数（率）（2）：サンプル調査（B票）

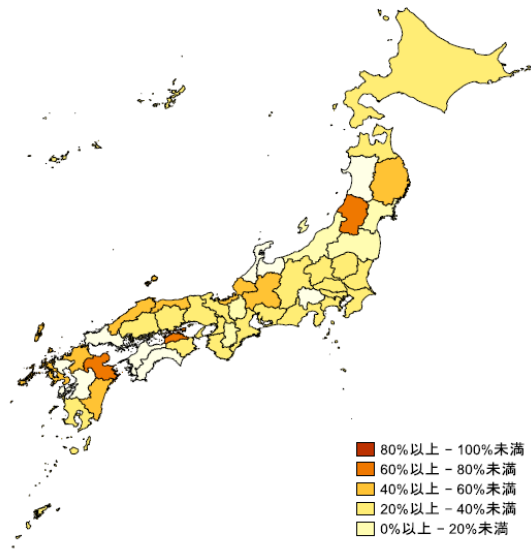


図4-2 都道府県別・有効回答率の分布
（病院）

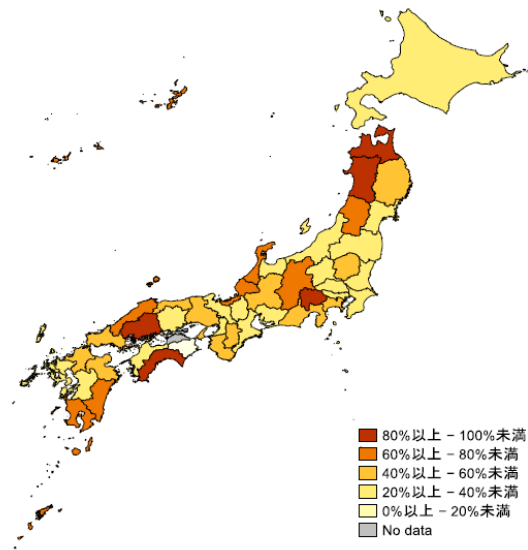


図5-2 都道府県別・有効回答率の分布
（診療所）

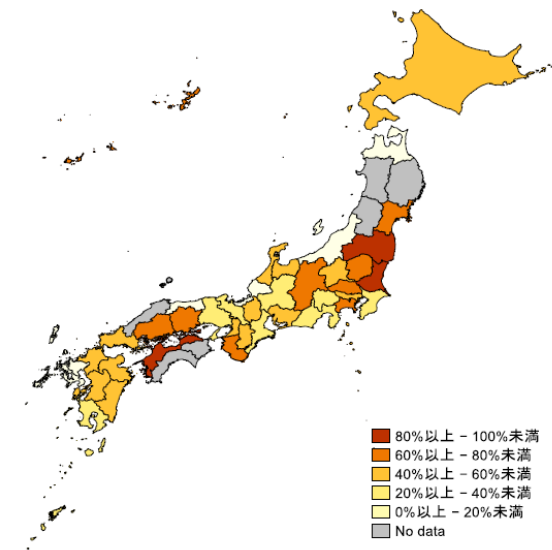


図6-2 都道府県別・有効回答率の分布
（助産所）

有効回答数（率）に対する要因分析（分布の違い）（１）：悉皆調査（A票）

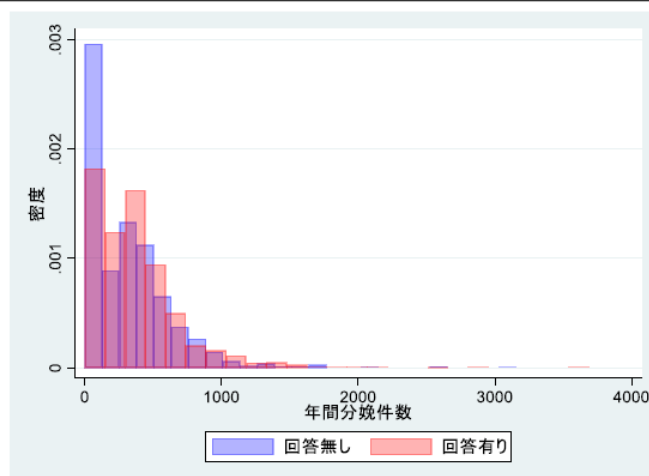


図7-1 回答の有無別・年間の分娩件数の分布
t検定=-3.7741***

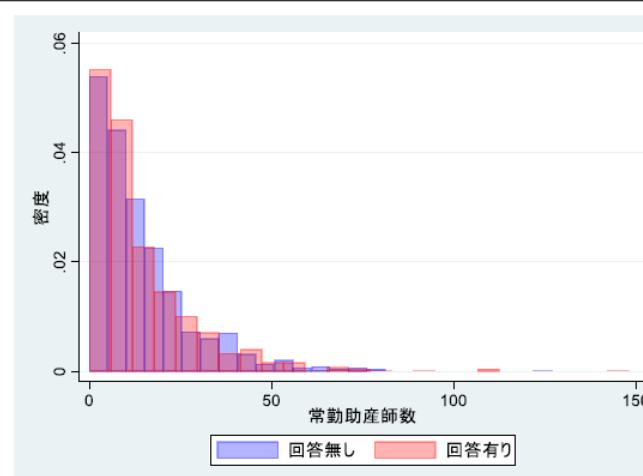


図8-1 回答の有無別・常勤助産師数の分布
t検定= 0.4846

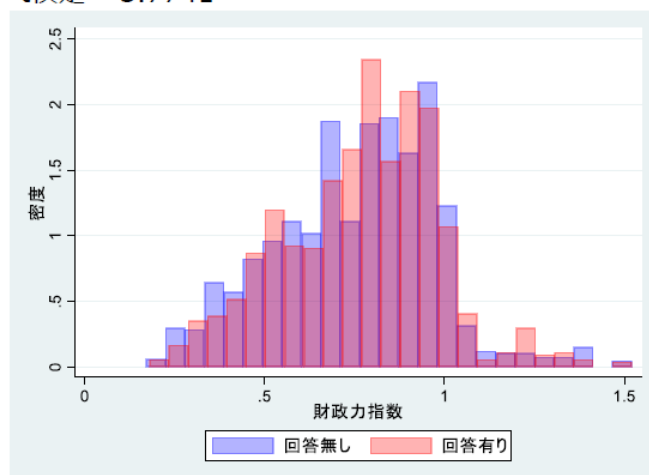


図9-1 回答の有無別・財政力指数の分布
t検定=-1.8464**

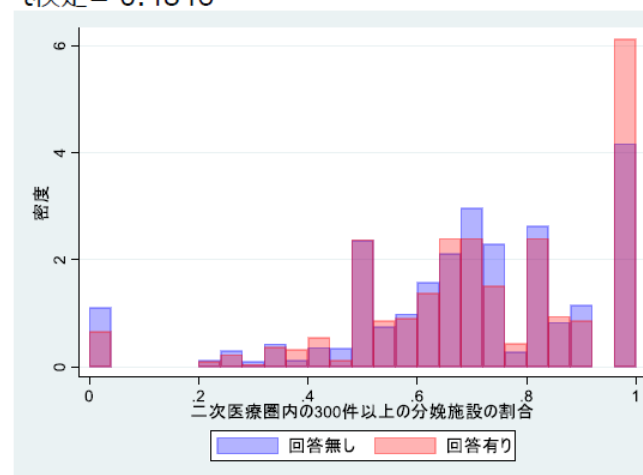


図10-1 回答の有無別・二次医療圏内の300件以上の分娩施設の割合の分布
t検定= -3.3818***

注) ***, **, *はそれぞれ、1%, 5%, 10%水準で、回答の有無別での各変数の差が統計的に有意であることを示す

有効回答数（率）に対する要因分析（分布の違い）（２）：サンプル調査（Ｂ票）

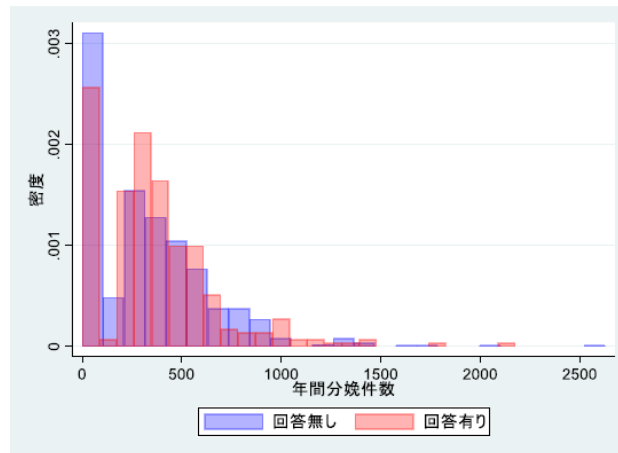


図7-2 回答の有無別・年間の分娩件数の分布
t検定=-1.8080**

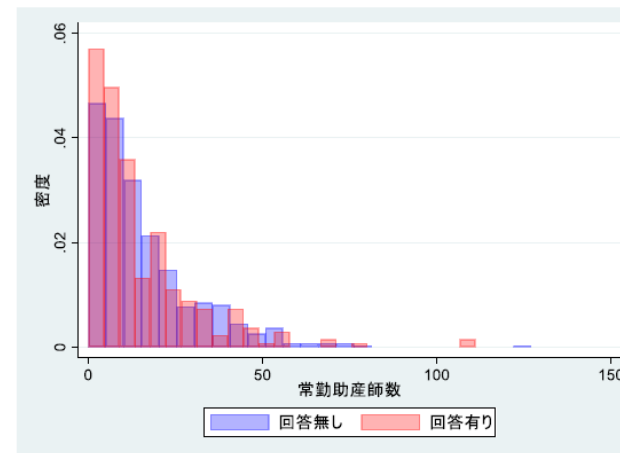


図8-2 回答の有無別・常勤助産師数の分布
t検定=-0.8263

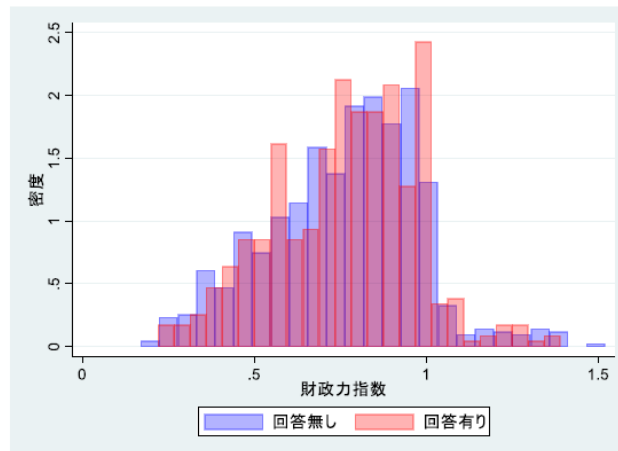


図9-2 回答の有無別・財政力指数の分布
t検定=-0.6251

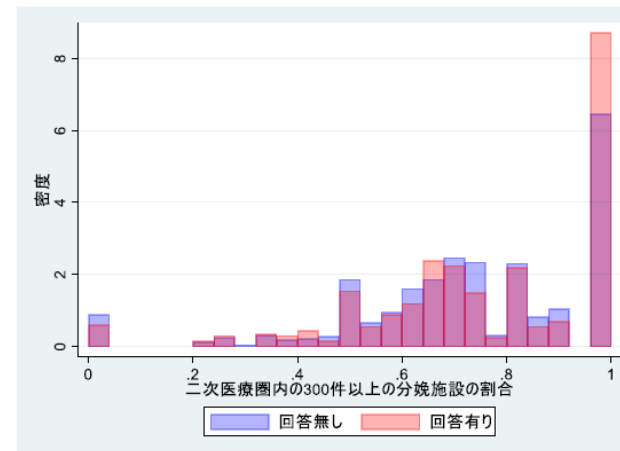


図10-2 回答の有無別・二次医療圏内の300件以上の分娩施設の割合の分布
t検定=-6.0432***

注) ***, **, *はそれぞれ、1%, 5%, 10%水準で、回答の有無別での各変数の差が統計的に有意であることを示す

表 1 調査票の回収状況

施設	調査票	対象数	回収	回収率
病院	A票	911	341	37.4%
	B票 ¹⁾	500	145	29.0%
	患者個票（施設） ²⁾	500	124	24.8%
	患者個票（事例） ³⁾	1,500	308	20.5%
	タイムスタディ（事例） ⁴⁾		254	
診療所	A票	936	465	49.7%
	B票 ¹⁾	469	196	41.8%
	患者個票（施設） ²⁾	469	174	37.1%
	患者個票（事例） ³⁾	1,407	477	33.9%
	タイムスタディ（事例） ⁴⁾		408	
助産所	A票	326	206	63.2%
	B票 ¹⁾	326	161	49.4%
	患者個票（施設） ²⁾	326	150	46.0%
	患者個票（事例） ³⁾	978	287	29.3%
	タイムスタディ（事例） ⁴⁾		246	
計	A票	2,173	1,012	46.6%
	B票 ¹⁾	1,295	502	38.8%
	患者個票（施設） ²⁾	1,295	448	34.6%
	患者個票（事例） ³⁾	3,885	1,072	27.6%
	タイムスタディ（事例） ⁴⁾		908	

1) B票の対象施設には、1機関につき3事例の患者個票（タイムスタディ含む）を依頼した。

2) B票に回答した施設のうち、患者個票に回答のあった施設数

3) 患者個票に回答のあった事例数

4) 患者個票の回答のあった事例のうち、タイムスタディに回答のあった事例数

別添 4

令和6年度厚生労働行政推進調査事業費補助金
政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業）
分担研究報告書

『分娩取扱施設における出産に係る費用構造の把握のための調査』について
一 悉皆調査（A 票：分娩施設の概要、及び、病棟における医療体制等）に係る結果一

研究分担者 片岡 弥恵子 聖路加国際大学 大学院看護学研究科
研究分担者 増澤 祐子 新潟県立看護大学 看護学部
研究代表者 野口 晴子 早稲田大学 政治経済学術院

研究要旨

本研究では、令和 5 年度の予備的なパイロット調査とヒアリングから得られた結果を参考に、令和 6 年度に実施された『分娩取扱施設における出産に係る費用構造の把握のための調査』において、悉皆調査（以下、A 票）で調査された質問項目（分娩取扱施設の概要、及び、病棟（ユニット）における医療提供体制等）の記述統計量についての検証を行った。悉皆調査の回収状況については、病院 A 票が 911 件中 341 件（37.4%）、診療所 A 票が 936 件中 465 件（46.7%）、助産所票が 326 件中 206 件（63.2%）であった。

本研究の結果についてはいくつか留意すべき点がある。第 1 に、分析に用いたデータは、外れ値や誤答と思われるものが含まれているため、あくまでも速報値であり、令和 7 年度に研究班が精査を行う予定である。第 2 に、修正や調整が可能と判断したデータについては、研究班により統計的な処理を施した。第 3 に、以上の理由により、群間での違いに対する統計的な検定は殆ど行っておらず、群間での統計的な有意差についても、データの精査後に研究班にて行う予定である。

調査の結果、分娩施設の概要については、以下のような結果が得られた。

- (1) 常勤の「産婦人科医師」、「小児科医師」、「麻酔科医師」の平均人数は、総合・地域周産期母子医療センターで最も多かった。「夜勤帯・休日に、分娩において緊急事態が生じた際に、駆け付けることができるように待機している人数（院内）」については、「産婦人科医師」の平均人数は、それ以外の病院と診療所が最も多かった。「小児科医師」は、総合・地域周産期母子医療センターで最も多かった。「院外」での待機については、「産婦人科医師」の平均人数は、それ以外の病院が最も多かった。「小児科医師」は、総合・地域周産期母子医療センターとそれ以外の病院は同数であり、「麻酔科医師」は総合・地域周産期母子医療センターで多かった。
- (2) 1 か月間の「全分娩数」の平均は、総合・地域周産期母子医療センターは 43 件、それ以外の病院 36 件、診療所 36 件であった。

- (3) 「無痛分娩」は、総合・地域周産期母子医療センター42%、それ以外の病院 48%、診療所 44%で実施されていた。「無痛分娩」の平均設定価格は、総合・地域周産期母子医療センターとそれ以外の病院は約 12 万円、診療所は約 9 万円であった。
- (4) 「出産目的で入院する妊産婦の最も多くみられる入院日数」は、帝王切開分娩で平均 7 日程度、経膣分娩で初産婦 5～6 日程度、経産婦 5 日程度であり、施設種別で大きな差はなかった。
- (5) 「お祝い膳」は、総合・地域周産期母子医療センターで 79%、それ以外の病院で 84%、診療所で 76%、助産所の 31%で提供されていた。料金は、80%以上の施設で料金が個別に明示されず、入院料等に含まれていた。「写真撮影」を提供しているのは、総合・地域周産期母子医療センターは 19%、それ以外の病院 50%、診療所 57%、助産所の 45%であった。提供している施設の 60%以上の施設で料金が個別に明示されず、入院料等に含まれていた。「エステ」は、診療所で 50%、助産所で 33%、それ以外の病院で 24%、総合・地域周産期母子医療センターの 7%で提供されていた。料金は、70%以上の施設で料金が個別に明示されず、入院料等に含まれていた。

助産所に特化した質問項目からは、下記のような結果が得られた。

- (6) 「入所施設を有する助産所」が 78%、「入所施設を有さない助産所」が 22%であった。「入所施設を有する助産所 (N=158) の入所定員は、平均 3 名であった。
- (7) 助産所における 1 年間の分娩取扱件数の平均は 13 件。「初産婦」3 件、「経産婦」10 件で「経産婦」の方が多かった。
- (8) 分娩場所別では、「自助産所内での分娩」が最も多く平均 11.7 件、続いて「自宅等への出張分娩」が 1.4 件、「オープンシステムによる分娩」は 0.6 件であった。「母体搬送」件数は、分娩第 1 期中は平均 0.7 件、第 2 期中は平均 0.1 件、第 3 期 0.1 件、第 4 期 0.2 件であった。
- (9) 分娩時の体制として、「自院の助産師で複数体制としている」のが 44%、「自院と他院の助産師にて複数人体制としている」のが 48%であり、「助産師が 1 名で対応しているという助産所はなかった。

最後に、病棟（ユニット）における医療提供体制については、次のようなことが明らかとなった。

- (10) 「病棟（ユニット）票」は病院を対象として調査を実施し、325 件（総合・地域周産期母子医療センター142 件、それ以外の病院 183 件）からの回答があり、1 施設あたりの「病棟・ユニット数」は約 1.1、「1 病棟・ユニット当たりの病床数」は約 30 床であった。
- (11) 病棟構成全般をみると、「混合病棟」が 68%と多く、なかでも「婦人科および他科診療科での混合病棟」が 38%であった。
- (12) 「病棟における産科患者の入院割合」は総合・地域周産期母子医療センターで 60%、それ以外の病院で 47%であった。

- (13)「全室個室」の割合は、総合・地域周産母子医療センターで 19%、それ以外の病院で 25%だった。
- (14)「1 日当たりの室料差額料金」の平均は、総合・地域周産期母子医療センターが 43,233 円で、25,107 円のそれ以外の病院よりも高かった。
- (15)「産婦人科医師」については、診療業務に従事した医師数、医師の対応時間ともに、「産褥入院中」に比べて「分娩期」の方が多かった。「小児科・新生児科医師」については、医師の対応時間が、「分娩期」に比べて「産褥入院中」の方が長かった。
- (16)「看護職」については、ケアに従事した時間数が、「分娩期」に比べて「産褥入院中」の方が長かった。

A. 研究目的

本研究では、令和 5 年度の予備的なパイロット調査とヒアリングから得られた結果を参考に、令和 6 年度に実施された『分娩取扱施設における出産に係る費用構造の把握のための調査』において、悉皆調査（以下、A 票）で調査された質問項目（分娩取扱施設の概要、及び、病棟（ユニット）における医療提供体制等）の記述統計量についての検証を行う。

B. 研究方法

B-1. 研究概要

本研究では、全国の分娩取扱施設 2,173 件を対象に、令和 6 年 9 月の 1 か月間（但し、助産所については、令和 6 年 9 月又は 10 月のいずれかの 1 か月、郵送調査とオンライン調査（Excel シート）の併用により、施設の構造や実績・患者（産婦）の実態・費用構造等に対する調査を実施した。

質問票は、大きく、悉皆調査（以下、「A 票」）とサンプル調査（以下、「B 票」）の 2 つから構成されている。更に、分娩施設の機能別に、「病院 A 票」・「病院 B 票」、「診療所 A 票」・「診

療所 B 票」、及び、「助産所票」の 5 種類に分類されている。助産所を対象とした調査は全質問項目について悉皆で実施したため、「A 票」と「B 票」の区別はない。

本研究で検証を行う A 票の調査内容は、施設情報（構造設備・医療体制・分娩件数・付帯サービスの種類や価格等）、及び、病院のみを対象とした病棟情報（病棟構成・配置職員数等）である。

悉皆調査の回収状況については、病院 A 票が 911 件中 341 件（37.4%）、診療所 A 票が 936 件中 465 件（46.7%）、助産所票が 326 件中 206 件（63.2%）であった。

（倫理面への配慮）

本研究では、『分娩取扱施設における出産に係る費用構造の把握のための調査』を実施するに当たり、早稲田大学

「人を対象とする研究に関する倫理審査委員会」にて、実施承諾を受けている

（承認番号：2024-044；承認日：令和 6 年 5 月 4 日）。

C. 研究結果

C-1. 分娩取扱施設の概要

表1は構造設備の状況を示しており、「分娩室数」、「分娩台数」等の設備は、総合・地域周産期母子医療センターが最も多く、続いてそれ以外の病院であった。「集中監視システム機器」は、それ以外の病院で98%、総合・地域周産期母子医療センターで80%、診療所では69%が設置していた。

表2は、職員数に関する結果である。総合・地域周産期母子医療センターでは職員数が多く配置されており、「産婦人科医師数」は平均約11名、「小児科医師数」約15名、「麻酔科医師数」約11名、「助産師数」約36名であった。また、「産婦人科医師数」の平均は、それ以外の病院で約6名、診療所で約3名であった。「小児科医師数」の平均は、それ以外の病院で約14名（うち非常勤の常勤換算10名）であった。「助産師数」の平均は、それ以外の病院で約21名、診療所約9名であった。

表3は、夜勤帯・休日のオンコールの人数を示しており、「夜勤帯・休日に、分娩において緊急事態が生じた際に、駆け付けることができるように待機している人数（院内）」については、「産婦人科医師」の平均人数は、それ以外の病院と診療所が最も多かった。「小児科医師」は、総合・地域周産期母子医療センターで最も多かった。また、「院外」での待機については、「産婦人科医師」の平均人数は、それ以外の病院が最も多かった。「小児科医師」は、総合・地域周産期母子医療センターとそれ以外の病院は同数であり、「麻酔科医師」は総合・

地域周産期母子医療センターで多かった。

表4は、分娩件数である。1か月間の「分娩数」の平均は、総合・地域周産期母子医療センターは43件、それ以外の病院36件、診療所36件であった。助産所の1年間の平均は、13件であった。正期産の「帝王切開」は、予定および緊急とも、総合・地域周産期母子医療センターが最も多かった。

1か月間の「無痛分娩（硬膜外麻酔）数」の平均は、それ以外の病院が最も多く、次に診療所、総合・地域周産期母子医療センターの順であった。

「出産目的で入院する妊産婦の最も多くみられる入院日数」は、帝王切開分娩で平均7日程度、経膈分娩で初産婦5～6日程度、経産婦5日程度であり、施設種別で大きな差はなかった。

表5は、提供されているサービスと料金を示している。「お祝い膳」は、総合・地域周産期母子医療センターで79%、それ以外の病院で84%、診療所で76%の施設で提供されていた。一方、助産所では31%であった。「お祝い膳」の料金は、80%以上の施設で入院料等に含まれていた。入院料等に含まれていない施設での「お祝い膳」の設定価格は、平均1,000～2,000円程度であった。「写真撮影」を提供しているのは、総合・地域周産期母子医療センターは19%、それ以外の病院50%、診療所57%、助産所の45%であった。提供している施設の60%以上の施設で、入院料等に含まれていた。含まれていない施設での平均設定価格は、診療所3,083円、それ以外の病院4,508円、助産所5,083円であった。「足形」は、助産所

で最も多く提供され（62%）、続いて診療所（56%）であった。提供している施設の70%以上が入院料等の料金に含まれていた。「エステ」は、診療所で50%、助産所で33%、それ以外の病院で24%、総合・地域周産期母子医療センターで7%の施設で提供されていた。どの施設種別でも70%以上が入院料等に含まれていた。

表6は、無痛分娩や検査等と料金を示している。「無痛分娩」は、総合・地域周産期母子医療センター42%、それ以外の病院48%、診療所44%で実施されていた。「無痛分娩」の平均設定価格は、総合・地域周産期母子医療センターとそれ以外の病院は約12万円、診療所は約9万円であった。「先天性代謝異常等検査」および「ビタミンK2」投与は、どの施設種別でも90%以上が実施していた。「新生児聴覚検査」は、総合・地域周産期母子医療センター、それ以外の病院、診療所では、99%以上が実施しており、90%以上の施設が自治体からの補助を受けていた。助産所での実施は47%であった。

「新生児1か月健診」は、総合・地域周産期母子医療センター、それ以外の病院、診療所では、94%以上が実施されていた。「自治体からの補助」があったのは60%台であった。

C-2. 助産所について

以下では、助産所に特化した質問項目に対する概要を示す。

表7は、助産所に係る基本情報・入所室の概要である。本調査の対象となった助産所は204件で、すべて分娩取扱があり、「入所施設を有する助産所」が78%、「入所施設を有さない助産所」が

22%であった。「入所施設を有する助産所」（N=158）の入所定員は、平均3名であった。「入所施設を有する助産所」では、入所定員1名の入所室（個室）は平均2.6室あり、2名の入所室は平均0.5室、3名の入所室0.2室であった。

表8は、施設・設備等、及び、職員数である。88%の助産所には「分娩室」があり、設置していないと回答した助産所は、「入所室」と「分娩室」を分けていなかった。58%が「新生児沐浴室」を設置していた。「給食設備」は80%が設置していた。助産所における「助産師数」の平均は、常勤1.4名、非常勤2.2名であった。

表9は勤務体制を示している。助産所において入所者が1名の場合、助産師は平均1.5名が勤務しており、最も少ない助産所では1名であった。夜勤帯でも、助産師は平均1.1名の勤務となっていた。

表10は勤務時の体制である。分娩時の体制として、「自院の助産師で複数人体制としている」のが44%、「自院と他院の助産師にて複数人体制としている」のが48%であり、「助産師が1名で対応している」という助産所はなかった。他施設の助産師への支払い方法で最も多かったのは、「産婦1名毎に依頼し支払い」が35%であり、続いて「時給」（7%）、「日給」（4%）、「月給」（1%）であった。

表11は、嘱託医師・嘱託医療機関等との連携体制である。すべての助産所は、「嘱託医師あるいは嘱託医療機関」があった（未回答2施設除く）。「嘱託医師数」、「嘱託医療機関数」とも平均は1.5件であり、「連携医療機関数」は平均1.7

件であった。「嘱託医師・嘱託医療機関、連携医療機関との出産予定妊婦に関する定期的な情報共有」は、84%の助産所が行っていた。「事例検討会・勉強会・研修会等」には、58%の助産所が参加していた。

C-3. 病棟（ユニット）における医療提供体制

表 12 は、病棟（ユニット）票の基本情報を示している。「病棟（ユニット）票」は病院を対象として調査を実施し、325 件（総合・地域周産期母子医療センター142 件、それ以外の病院 183 件）からの回答があり、1 施設あたりの「病棟・ユニット数」の平均は 1.1、「1 病棟・ユニット当たりの病床数」の平均は 30 床であった。病棟構成全般をみると、「混合病棟」が 68%と多く、なかでも「婦人科および他科診療科での混合病棟」が 38%となっていた。

表 13 は、病床数と入院料、及び、室料差額の結果である。「全室個室」の割合は、総合・地域周産母子医療センターで 19%、それ以外の病院で 25%だった。

「1 日当たりの室料差額料金」の平均は、総合・地域周産期母子医療センターが 43,233 円で、25,107 円のそれ以外の病院よりも高い傾向にあり、かつ、個室と 2 床室との差も若干大きかった。

表 14 は、病棟（ユニット）に配置されている職員数である。常勤の助産師・看護師については、総合・地域周産期母子医療センターの方が、それ以外の病院に比べ人数が多い一方で、非常勤職員及び准看護師・看護補助者・保育士については両群で差はなかった。

表 15 は、分娩期・産褥期の医師数、医師の対応時間の結果である。「分娩期、産褥入院中の医師数、医師の対応時間」について、総合・地域周産期母子医療センターがそれ以外の病院と比べ、人数・時間ともに数は大きかったが、標準偏差からばらつきも大きい。「産婦人科医師」については、診療業務に従事した医師数、医師の対応時間ともに、「産褥入院中」に比べて「分娩期」の方が多かった。「小児科・新生児科医師」については、医師の対応時間が、「分娩期」に比べて「産褥入院中」の方が長かった。

表 16 は、産科の患者の入院割合、看護職の従事時間等を示している。「病棟における産科患者の入院割合」は総合・地域周産期母子医療センターで 60%、それ以外の病院で 47%だった。「看護職」は、総合・地域周産期母子医療センターの方が、それ以外の病院と比べ、労働時間数が長い、標準偏差からばらつきも大きかった。「看護職」については、ケアに従事した時間数が、「分娩期」に比べて「産褥入院中」の方が長かった。

D. 考察／E. 結論

本研究では、令和 5 年度の予備的なパイロット調査とヒアリングから得られた結果を参考に、令和 6 年度に実施された『分娩取扱施設における出産に係る費用構造の把握のための調査』において、悉皆調査（以下、A 票）で調査された質問項目（分娩取扱施設の概要、及び、病棟（ユニット）における医療提供体制等）の記述統計量についての検証を行った。

その結果、様々な観点から、分娩取扱施設の実態が明らかにされたが、本研究

の結果についてはいくつか留意すべき点がある。第1に、分析に用いたデータは、外れ値や誤答と思われるものが含まれているため、あくまでも速報値であり、令和7年度に研究班が精査を行う予定である。第2に、修正や調整が可能と判断したデータについては、研究班により統計的な処理を施した。第3に、以上の理由により、群間での違いに対する統計的な検定は殆ど行っておらず、群間での統計的な有意差についても、データの精査後に研究班にて行う予定である。

F. 健康危険情報

特に無し。

G. 研究発表

1. 論文発表

特に無し。

2. 学会発表

特に無し。

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

1. 特許取得

特に無し。

2. 実用新案登録

特に無し。

3. その他

特に無し。

参考文献

厚生労働省. (2025) 第9回「妊娠・出産・産後における妊産婦等の支援策等に関する検討会（資料1）」, 令和7年4月16日.

<https://www.mhlw.go.jp/content/12401000/001476650.pdf> (閲覧日: 令和7年5月15日)

表 1

構造設備

- 「分娩室数」、「分娩台数」等の設備は、総合・地域周産期母子医療センターが最も多く、続いてそれ以外の病院であった。
- 「集中監視システム機器」は、それ以外の病院で98%、総合・地域周産期母子医療センターで80%、診療所では69%が設置していた。

	総合・地域周産期母子医療センター N=180				それ以外の病院 N=148				診療所 N=465				助産所 N=204			
	n	Mean(SD)	最小	最大	n	Mean(SD)	最小	最大	n	Mean(SD)	最小	最大	n	Mean(SD)	最小	最大
分娩室数	169	2.1(1.5)	0	9	147	1.6(1.2)	0	5	425	1.4(1.6)	0	19	191	1.3(0.5)	1	2
分娩台数	170	3.0(1.6)	0	13	148	2.7(1.1)	0	6	444	2.0(0.8)	0	6	—	—	—	—
LDR室数	169	1.5(2.0)	0	14	146	1.3(1.5)	0	6	418	0.9(1.2)	0	8	—	—	—	—
陣痛室数	169	1.5(1.4)	0	9	147	1.5(1.4)	0	9	432	1.2(1.2)	0	13	—	—	—	—
超音波画像診断装置（分娩室用）台数	167	1.3(1.1)	0	7	148	1.1(1.6)	0	17	434	1.1(0.9)	0	6	199	0.9(0.5)	0	2
分娩監視装置台数	165	11.1(6.8)	1	41	146	7.5(3.8)	1	23	451	5.2(2.4)	1	15	199	1.3(0.7)	0	4
保育器（開放式）インフュージョンポンプ台数	167	5.2(5.2)	0	40	147	3.7(2.1)	1	16	456	2.0(1.2)	0	15	199	0.1(0.4)	0	2

	総合・地域周産期母子医療センター N=180		それ以外の病院 N=148		診療所 N=465		助産所 N=204	
	N	n(%)	N	n(%)	N	n(%)	N	n(%)
集中監視システム機器								
あり	167	134(80.2)	146	143(97.9)	448	308(68.8)	—	—
なし		33(19.8)		3(2.1)		140(31.3)	—	—

※ それ以外の病院には、総合・地域周産期母子医療センター以外の病院が含まれる。

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

表 2

職員数

- 総合・地域周産期母子医療センターでは職員数が多く配置されており、「産婦人科医師数」は平均約11名、「小児科医師数」約15名、「麻酔科医師数」約11名、「助産師数」約36名であった。
- 「産婦人科医師数」の平均は、それ以外の病院で約6名、診療所で約3名であった。「小児科医師数」の平均は、それ以外の病院で約14名（うち非常勤の常勤換算10名）であった。「助産師数」の平均は、それ以外の病院で約21名、診療所約9名であった。

	総合・地域周産期母子医療センター N=180				それ以外の病院 N=148				診療所 N=465				助産所 N=204			
	n	Mean(SD)	最小	最大	n	Mean(SD)	最小	最大	n	Mean(SD)	最小	最大	n	Mean(SD)	最小	最大
産婦人科医師数																
常勤	178	9.7(7.0)	0	36	148	5.1(3.2)	1	24	457	1.8(1.1)	0	10	—	—	—	—
非常勤の常勤換算	167	1.5(2.5)	0	14.1	140	1.3(1.8)	0	15.0	408	1.3(1.9)	0	18.0	—	—	—	—
小児科医師数（新生児科医含）																
常勤	176	12.4(12.6)	0	76	146	3.6(6.9)	0	78	395	0.1(0.4)	0	3	—	—	—	—
非常勤の常勤換算	166	2.3(4.5)	0	23.0	134	10.0(106.1)	0	1229.0	400	0.3(0.6)	0	4.0	—	—	—	—
麻酔科医師数																
常勤	172	9.0(9.1)	0	44	144	3.7(4.5)	0	28	396	0.1(0.4)	0	3	—	—	—	—
非常勤の常勤換算	163	2.2(3.9)	0	21.4	139	0.8(1.2)	0	5.4	385	0.1(0.6)	0	8.0	—	—	—	—
助産師数																
常勤	175	33.9(27.5)	0	195	144	18.5(11.2)	0	51	455	6.4(4.6)	0	29	199	1.4(1.2)	0	10
非常勤の常勤換算	174	1.9(3.1)	0	29.6	139	2.6(5.7)	0	61.0	437	2.4(2.3)	0	14.0	186	2.2(2.8)	0	22
保健師数																
常勤	168	3.2(11.9)	0	108	135	2.1(7.4)	0	50	380	0(0.3)	0	3	—	—	—	—
非常勤の常勤換算	167	0.2(0.6)	0	3.8	134	0.1(0.5)	0	4.6	372	0(0.1)	0	1.0	—	—	—	—
看護師数																
常勤	174	492.5(298.3)	4	1499	145	232.6(223.8)	1	1110	451	3.8(3.0)	0	17	176	0(0.2)	0	2
非常勤の常勤換算	174	25.2(25.5)	0	205.0	143	14.3(15.1)	0	75.9	417	1.2(1.5)	0	9.0	176	0.1(0.4)	0	2
准看護師数																
常勤	169	1.8(2.7)	0	11	142	3.0(4.4)	0	29	435	2.3(2.3)	0	12	175	0(0)	0	0
非常勤の常勤換算	169	1.2(2.0)	0	14.2	141	1.2(2.0)	0	16.1	409	0.6(1.0)	0	8.1	173	0.0(0.1)	0	1

※ それ以外の病院には、総合・地域周産期母子医療センター以外の病院が含まれる。

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

※ 産婦人科医師数、小児科医師数、助産師数、看護師数等の最小値、最大値等は誤入力があると推測される。

表 3

夜勤帯・休日のオンコールの人数

- 「夜勤帯・休日に、分娩において緊急事態が生じた際に、駆け付けることができるように待機している人数（院内）」については、「産婦人科医師」の平均人数は、それ以外の病院と診療所が最も多かった。「小児科医師」は、総合・地域周産期母子医療センターで最も多かった。
- 「院外」での待機については、「産婦人科医師」の平均人数は、それ以外の病院が最も多かった。「小児科医師」は、総合・地域周産期母子医療センターとそれ以外の病院は同数であり、「麻酔科医師」は総合・地域周産期母子医療センターで多かった。

	総合・地域周産期母子医療センター N=180				それ以外の病院 N=148				診療所 N=465			
	n	Mean (SD)	最小	最大	n	Mean (SD)	最小	最大	n	Mean (SD)	最小	最大
院内												
産婦人科医師	163	0.4 (1.0)	0	11	134	0.6 (3.6)	0	42	410	0.6 (0.6)	0	2
小児科医師	158	0.3 (0.5)	0	3	133	0.1 (0.3)	0	1	365	0.0 (0.2)	0	1
麻酔科医師	156	0.2 (0.6)	0	3	131	0.1 (0.3)	0	1	369	0.1 (0.2)	0	2
その他	140	0.5 (3.0)	0	23	126	0.1 (0.5)	0	4	352	0.1 (0.3)	0	4
院外												
産婦人科医師	171	1.0 (0.8)	0	5	143	1.3 (1.7)	0	19	416	0.9 (0.7)	0	3
小児科医師	165	1.1 (2.7)	0	33	141	1.1 (4.8)	0	54	368	0.1 (0.3)	0	2
麻酔科医師	162	0.8 (0.8)	0	5	138	0.6 (0.6)	0	5	370	0.1 (0.3)	0	1
その他	139	1.1 (3.8)	0	23	126	0.4 (1.7)	0	15	346	0.2 (0.6)	0	5

※ それ以外の病院には、総合・地域周産期母子医療センター以外の病院が含まれる。
※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。
※ 産婦人科医師数、小児科医師数、麻酔科医師数等の最小値、最大値等は誤入力があると推測される。その他には、助産師、看護師等が含まれる。

表 4

分娩件数等

- 1か月間の「分娩数」の平均は、総合・地域周産期母子医療センターは43件、それ以外の病院36件、診療所36件であった。助産所の1年間の平均は、13件であった。正期産の「帝王切開」は、予定および緊急とも、総合・地域周産期母子医療センターが最も多かった。
- 1か月間の「無痛分娩（硬膜外麻酔）数」の平均は、それ以外の病院が最も多く、次に診療所、総合・地域周産期母子医療センターの順であった。
- 「出産目的で入院する妊産婦の最も多くみられる入院日数」は、帝王切開分娩で平均7日程度、経陰分娩で初産婦5〜6日程度、経産婦5日程度であり、施設種別で大きな差はなかった。

	総合・地域周産期母子医療センター N=180				それ以外の病院 N=148				診療所 N=465				助産所 N=204			
	n	Mean (SD)	最小	最大	n	Mean (SD)	最小	最大	n	Mean (SD)	最小	最大	n	Mean (SD)	最小	最大
全分娩数	168	43.04(42.91)	0	340	143	35.61(29.67)	0	135	442	35.83(63.52)	0	832	196	12.72(13.68)	0	85
全分娩件数のうち、早産の経陰分娩件数																
細子分娩	159	0.03(0.19)	0	2	129	0.00(0.00)	0	0	379	0.01(0.13)	0	2	—	—	—	—
吸引分娩	161	0.11(0.40)	0	3	130	0.06(0.56)	0	6	379	0.07(0.43)	0	7	—	—	—	—
上記以外	162	2.52(4.66)	0	42	134	0.58(0.94)	0	4	393	0.44(1.01)	0	12	—	—	—	—
全分娩件数のうち、経陰分娩件数（37週以降）																
細子分娩	160	0.96(6.21)	0	72	129	0.53(1.75)	0	13	396	0.88(4.15)	0	48	—	—	—	—
吸引分娩	162	2.65(4.90)	0	35	135	3.76(4.93)	0	27	419	4.22(12.73)	0	236	—	—	—	—
上記以外	164	20.93(24.61)	0	191	138	21.64(21.15)	0	98	409	19.27(26.62)	0	371	—	—	—	—
全分娩件数のうち、早産の帝王切開術数																
予定帝王切開術数	162	0.69(1.35)	0	9	129	0.09(0.35)	0	3	389	0.08(0.64)	0	10	—	—	—	—
緊急帝王切開術数	162	2.78(3.45)	0	23	131	0.37(0.97)	0	8	391	0.16(0.67)	0	8	—	—	—	—
全分娩件数のうち、帝王切開術数（37週以降）																
予定帝王切開術数	163	7.45(6.28)	0	46	139	3.99(3.40)	0	16	432	3.36(5.99)	0	102	—	—	—	—
緊急帝王切開術数	163	4.23(5.14)	0	46	136	3.51(5.56)	0	56	424	1.86(3.87)	0	68	—	—	—	—
全分娩件数のうち、無痛分娩件数																
硬膜外麻酔	161	3.90(12.92)	0	98	134	6.25(12.67)	0	86	409	6.00(30.96)	0	601	—	—	—	—
脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔	161	0.91(3.69)	0	24	130	0.16(0.98)	0	9	380	0.52(4.49)	0	63	—	—	—	—
その他の麻酔	180	0.16(1.03)	0	11	130	0.07(0.59)	0	6	371	0.36(2.00)	0	40	—	—	—	—
上記に当てはまらない分娩																
全分娩数のうち院内助産の分娩数	147	0.51(1.99)	0	14	120	0.63(3.58)	0	30	355	1.11(4.44)	0	35	—	—	—	—
全分娩数のうち院内助産の分娩数	153	2.97(10.33)	0	84	114	2.37(8.64)	0	53	355	1.66(8.68)	0	127	—	—	—	—
出産目的で入院する妊産婦の最も多い入院日数																
経陰分娩（初産婦）	162	6.10(2.78)	0	34	137	5.70(1.29)	0	10	446	5.30(0.96)	0	9	—	—	—	—
経陰分娩（経産婦）	162	5.50(2.46)	0	31	137	5.32(1.22)	0	10	446	4.89(0.85)	0	8	—	—	—	—
帝王切開分娩	163	7.64(2.50)	0	22	135	7.79(1.88)	0	16	426	7.37(1.92)	0	13	—	—	—	—

※ それ以外の病院には、総合・地域周産期母子医療センター以外の病院が含まれる。
※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。分娩数、入院日数等の最小値、最大値等は誤入力があると推測される。
※ 分娩件数は、助産所のみ1年間（令和5年9月1日～令和6年8月31日もしくは令和5年10月1日～令和6年9月30日）の分娩件数、それ以外は1か月間（令和6年9月1日～9月30日）の分娩件数を示す。

表 5

提供されているサービスと料金

- 「お祝い膳」は、総合・地域周産期母子医療センターで79%、それ以外の病院で84%、診療所で76%の施設で提供されていた。一方、助産所では31%であった。「お祝い膳」の料金は、80%以上の施設で入院料等に含まれていた。入院料等に含まれていない施設での「お祝い膳」の設定価格は、平均1,000～2,000円程度であった。
- 「写真撮影」を提供しているのは、総合・地域周産期母子医療センターは19%、それ以外の病院50%、診療所57%、助産所の45%であった。提供している施設の60%以上の施設で、入院料等に含まれていた。含まれていない施設での平均設定価格は、診療所3,083円、それ以外の病院4,508円、助産所5,083円であった。
- 「足形」は、助産所で最も多く提供され（62%）、続いて診療所（56%）であった。提供している施設の70%以上が入院料等の料金に含まれていた。
- 「エステ」は、診療所で50%、助産所で33%、それ以外の病院で24%、総合・地域周産期母子医療センターで7%の施設で提供されていた。どの施設種別でも70%以上が入院料等に含まれていた。

	総合・地域周産期母子医療センター N=180		それ以外の病院 N=148		診療所 N=465		助産所 N=204	
	N	n(%)	N	n(%)	N	n(%)	N	n(%)
お祝い膳								
あり		136(76.6)		124(84.4)		346(75.5)		99(30.7)
なし		27(15.6)		15(10.2)		109(22.5)		118(66.7)
妊産婦が選択	173	10(5.8)	147	8(5.4)	458	9(2.0)	192	5(2.6)
入院料等の他の料金に含まれる		121(87.1)		113(87.6)		307(88.2)		96(90.6)
含まれない	139	18(12.9)	129	16(12.4)	348	41(11.8)	64	6(9.4)
入院料等の他の料金に含まれない場合の平均設定価格	14	1,172円	13	1,099円	30	2,462円	4	2,000円
写真撮影								
あり		32(18.5)		73(50.3)		259(56.7)		89(45.2)
なし		117(67.6)		60(41.4)		136(29.8)		100(40.6)
妊産婦が選択	173	24(13.9)	145	12(8.3)	457	62(13.6)	197	28(14.2)
入院料等の他の料金に含まれる		38(69.1)		61(71.8)		229(72.9)		76(66.7)
含まれない	55	17(30.9)	85	24(28.2)	314	85(27.1)	114	38(33.3)
入院料等の他の料金に含まれない場合の平均設定価格	12	420円	14	4,500円	62	3,083円	24	5,083円
足形								
あり		50(28.9)		61(42.7)		257(56.4)		120(61.5)
なし		117(67.6)		79(55.2)		190(41.7)		61(31.3)
妊産婦が選択	173	6(3.5)	143	3(2.1)	456	9(2.0)	195	14(7.2)
入院料等の他の料金に含まれる		42(77.8)		49(80.3)		206(80.9)		97(72.9)
含まれない	54	12(22.2)	61	12(19.7)	257	49(19.1)	133	36(27.1)
入院料等の他の料金に含まれない場合の平均設定価格	10	888円	6	0円	33	212円	22	261円
エステ（乳房マッサージは除く）								
あり		12(6.9)		35(24.0)		225(49.5)		63(32.5)
なし		155(89.6)		106(72.6)		191(42.0)		112(57.7)
妊産婦が選択	173	6(3.5)	146	5(3.4)	455	39(8.6)	194	19(9.8)
入院料等の他の料金に含まれる		12(75.0)		31(77.5)		201(78.5)		63(75.9)
含まれない	16	4(25.0)	40	9(22.5)	256	55(21.5)	83	20(24.1)
入院料等の他の料金に含まれない場合の平均設定価格	2	1,000円	8	1,969円	50	2,779円	15	3,200円

※ それ以外の病院には、総合・地域周産期母子医療センター以外の病院が含まれる。
 ※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。
 ※ 入院料等の他の料金に含まれる/含まれないは、「あり」「妊婦が選択」の場合に回答された。

表 6

無痛分娩や検査等と料金

- 「無痛分娩」は、総合・地域周産期母子医療センター42%、それ以外の病院48%、診療所44%で実施されていた。「無痛分娩」の平均設定価格は、総合・地域周産期母子医療センターとそれ以外の病院は約12万円、診療所は約9万円であった。
- 「先天性代謝異常等検査」および「ビタミンK2」投与は、どの施設種別でも90%以上が実施していた。
- 「新生児聴覚検査」は、総合・地域周産期母子医療センター、それ以外の病院、診療所では、99%以上が実施しており、90%以上の施設が自治体からの補助を受けていた。助産所での実施は47%であった。
- 「新生児1か月健診」は、総合・地域周産期母子医療センター、それ以外の病院、診療所では、94%以上が実施されていた。「自治体からの補助」があったのは60%台であった。

	総合・地域周産期母子医療センター N=180		それ以外の病院 N=148		診療所 N=465		助産所 N=204	
	N	n(%)	N	n(%)	N	n(%)	N	n(%)
無痛分娩								
実施あり		73(41.5)		69(47.6)		200(44.1)	—	—
実施なし		103(58.5)		76(52.4)		254(55.9)	—	—
無痛分娩平均設定価格	75	115,340円	67	123,804円	207	85,897円	—	—
先天性代謝異常等検査								
実施あり		161(93.1)		139(96.5)		432(95.6)		192(96.5)
実施なし		12(6.9)		5(3.5)		20(4.4)		7(3.5)
先天性代謝異常等検査平均設定価格	148	5,047円	122	4,359円	352	4,535円	163	3,690円
新生児聴覚検査								
実施あり		174(100)		145(99.3)		448(99.1)		94(46.8)
実施なし		0(0)		1(0.7)		4(0.9)		107(53.2)
自治体の補助の有		157(92.9)		127(91.4)		411(92.4)		120(60.0)
自治体の補助の無	159	12(7.1)	139	12(8.6)	445	34(7.6)	150	30(20.0)
自治体の平均補助額	191	4,161円	120	3,988円	376	4,171円	92	4,299円
新生児聴覚検査平均設定価格	165	6,284円	136	6,140円	419	5,600円	95	5,919円
ビタミンK2								
実施あり		162(95.3)		139(97.9)		451(99.6)		197(98.5)
実施なし		8(4.7)		3(2.1)		2(0.4)		3(1.5)
ビタミンK2平均設定価格	143	601円	124	746円	384	1,021円	157	1,249円
新生児1か月健診								
実施あり		169(98.3)		141(97.2)		424(98.8)		159(78.3)
実施なし		3(1.7)		4(2.8)		28(6.2)		42(20.9)
自治体の補助の有		114(68.7)		82(60.3)		258(60.4)		87(48.9)
自治体の補助の無	166	82(31.3)	136	54(39.7)	427	169(39.6)	178	91(51.1)
自治体の平均補助額	104	4,955円	76	5,243円	238	4,943円	75	4,493円
新生児1か月健診平均設定価格	149	4,550円	131	4,465円	391	4,282円	151	4,720円

※ それ以外の病院には、総合・地域周産期母子医療センター以外の病院が含まれる。
 ※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

表 7

助産所の基本情報・入所室概要

- 本調査の対象となった助産所は204件。すべて分娩取扱があり、「入所施設を有する助産所」が78%、「入所施設を有さない助産所」が22%であった。
- 「入所施設を有する助産所」(N=158)の入所定員は、平均3名であった。
- 「入所施設を有する助産所」では、入所定員1名の入所室(個室)は平均2.6室あり、2名の入所室は平均0.5室、3名の入所室0.2室であった。

N = 204			N=158					
	n	(%)	有効回答数	Mean	(SD)	最小	最大	
分娩の取扱の実施状況								
あり	204	(100)	156	3.0	(1.7)	1	9	
なし	0	(0)						
入所施設の有無								
あり	158	(77.5)						
なし	44	(21.6)						
未回答	2	(1.0)						
			入所室／入所定員1名の入所室	145	2.6	(1.5)	0	7
			入所室／入所定員2名の入所室	91	0.5	(1.0)	0	4
			入所室／入所定員3名の入所室	82	0.2	(0.6)	0	3
			入所室／入所定員4名以上の入所室	76	0	(0.0)	0	0

※ 入所施設を有する助産所 (n=158) による回答である。
 ※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

表 8

施設・設備等、職員数

- 88%の助産所には「分娩室」があり、設置していないと回答した助産所は、「入所室」と「分娩室」を分けていなかった。58%が「新生児沐浴室」を設置していた。「給食設備」は80%が設置していた。
- 助産所における「助産師数」の平均は、常勤1.4名、非常勤2.2名であった。

N = 158			N = 204					
	n	(%)	有効回答数	mean	SD	最小	最大	
分娩室								
あり	139	(88.0)	167	41.2	(39.4)	0	414	
なし	17	(10.8)						
未回答	2	(1.3)						
入所室と分娩室を分けている (n=17)								
いる	0	(0.0)						
いない	17	(100.0)						
未回答	0	(0.0)						
新生児室								
あり	17	(10.8)						
なし	139	(88.0)						
未回答	2	(1.2)						
新生児沐浴室								
あり	91	(57.6)						
なし	65	(41.1)						
未回答	2	(1.3)						
給食設備								
あり	127	(80.4)						
なし	30	(19.0)						
未回答	1	(0.6)						
			常勤勤務の週あたりの勤務時間数	167	41.2	(39.4)	0	414
助産師								
常勤	199	1.4	(1.2)	0	10			
非常勤 (常勤換算)	186	2.2	(2.8)	0	22			
看護師								
常勤	176	0.0	(0.2)	0	2			
非常勤 (常勤換算)	176	0.1	(0.4)	0	2			
准看護師								
常勤	175	0.0	(0.0)	0	0			
非常勤 (常勤換算)	173	0.0	(0.1)	0	1			
看護補助者								
常勤	175	0.0	(0.1)	0	1			
非常勤 (常勤換算)	177	0.1	(0.5)	0	4			
管理栄養士								
常勤	173	0.0	(0.1)	0	1			
非常勤 (常勤換算)	173	0.1	(0.3)	0	2			
栄養士								
常勤	175	0.0	(0.1)	0	1			
非常勤 (常勤換算)	174	0.1	(0.3)	0	3			
その他の職員								
常勤	177	0.2	(0.7)	0	6			
非常勤 (常勤換算)	181	1.2	(2.8)	0	32			

※ 入所施設を有する助産所 (n=158) による回答である。

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。人数の最小値、最大値等は誤入力があると推測される。

表 9

勤務体制

- 助産所において入所者が1名の場合、助産師は平均1.5名が勤務しており、最も少ない助産所では1名であった。夜勤帯でも、助産師は平均1.1名の勤務となっていた。

N = 158

	n	(%)	Mean	(SD)	最小	最大
入所者がいない場合（日勤帯／常勤換算）						
助産師 (n=158)	—	—	1.4	(0.78)	0	5.0
看護師 (n=133)	—	—	0.1	(0.55)	0	6.0
その他 (n=139)	—	—	0.5	(0.96)	0	7.0
入所者がいない場合（夜勤帯／常勤換算）						
助産師 (n=155)	—	—	0.7	(0.58)	0	3.4
看護師 (n=132)	—	—	0.0	(0.00)	0	0.0
その他 (n=134)	—	—	0.1	(0.22)	0	1.0
入所者が1名の場合（日勤帯／常勤換算）						
助産師 (n=157)	—	—	1.5	(0.75)	1	5.0
看護師 (n=132)	—	—	0.0	(0.20)	0	1.16
その他 (n=143)	—	—	0.8	(0.96)	0	7.0
入所者が1名の場合（夜勤帯／常勤換算）						
助産師 (n=157)	—	—	1.1	(0.39)	0	3.4
看護師 (n=132)	—	—	0.0	(0.09)	0	1.0
その他 (n=134)	—	—	0.2	(0.58)	0	5.0
入所者が2名以上の場合（日勤帯／常勤換算）						
2名以上入所することはない (n=157)						
はい	38	(24.1)	—	—	—	—
いいえ	119	(75.3)	—	—	—	—
助産師 (n=129)	—	—	1.8	(0.84)	0	5.0
看護師 (n=108)	—	—	0.1	(0.25)	0	1.0
その他 (n=121)	—	—	0.9	(1.03)	0	7.0
入所者が2名以上の場合（夜勤帯／常勤換算）						
2名以上入所することはない (n=157)						
はい	40	(25.3)	—	—	—	—
いいえ	117	(74.1)	—	—	—	—
助産師 (n=128)	—	—	1.2	(0.49)	0.0	3.4
看護師 (n=107)	—	—	0.0	(0.19)	0.0	1.0
その他 (n=113)	—	—	0.2	(0.63)	0.0	5.0

※ 入所施設を有する助産所（n=158）による回答である。

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。人数の最小値、最大値等は誤入力があると推測される。

表 10

分娩時の体制

- 分娩時の体制として、「自院の助産師で複数人体制としている」のが44%、「自院と他院の助産師にて複数人体制としている」のが48%であり、「助産師が一人に対応している」という助産所はなかった。
- 他施設の助産師への支払い方法で最も多かったのは、「産婦1名毎に依頼し支払い」が35%であり、続いて「時給」（7%）、「日給」（4%）、「月給」（1%）であった。

N = 204

	n	(%)
分娩時の体制（n=202）		
自院の助産師で複数人体制を確保している	89	(43.6)
自院の助産師と他助産所の助産師による複数人体制を確保している※	98	(48.0)
自院の助産師と他医療機関の助産師による複数人体制を確保している※	10	(4.9)
助産師が一人に対応している	0	(0)
その他	5	(2.5)
※の場合において他施設の助産師への支払い方法（n=106）		
産婦1名毎に依頼し支払い	72	(35.3)
時給	15	(7.4)
日給	8	(3.9)
月給	2	(1.0)
その他	9	(4.4)

表 11

嘱託医師・嘱託医療機関等との連携体制

- すべての助産所は、「嘱託医師あるいは嘱託医療機関」があった（未回答2施設除く）。
- 「嘱託医師数」、「嘱託医療機関数」とも平均は1.5件であり、「連携医療機関数」は平均1.7件であった。
- 「嘱託医師・嘱託医療機関、連携医療機関との出産予定妊婦に関する定期的な情報共有」は、84%の助産所が行っていた。「事例検討会・勉強会・研修会等」には、58%の助産所が参加していた。

N = 204

	n	(%)	Mean	(SD)	最小	最大
嘱託医師あるいは嘱託医療機関						
あり	202	(99.0)	—	—	—	—
なし	0	(0.0)	—	—	—	—
未回答	2	(1.0)	—	—	—	—
嘱託医師数 (n=193)	—	—	1.5	(1.35)	0	14
嘱託医療機関数 (n=200)	—	—	1.5	(1.04)	0	10
連携医療機関数 (n=189)	—	—	1.7	(1.91)	0	20
嘱託医師・嘱託医療機関、連携医療機関との出産予定妊婦に関する定期的な情報共有						
あり	171	(83.8)	—	—	—	—
なし	30	(14.7)	—	—	—	—
未回答	3	(1.5)	—	—	—	—
嘱託医師・嘱託医療機関等、連携医療機関が開催する事例検討会・勉強会・研修会等への参加						
あり	118	(57.8)	—	—	—	—
なし	82	(40.2)	—	—	—	—
未回答	4	(2.0)	—	—	—	—

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

表 12

分娩件数等

- 助産所における1年間の「分娩件数」の平均は13件。「初産婦」3件、「経産婦」10件で「経産婦」の方が多い。
- 分娩場所別では、「自助産所内での分娩」が最も多く平均11.7件、続いて「自宅等への出張分娩」が1.4件、「オープンシステムによる分娩」は0.6件であった。
- 「母体搬送」の平均件数は、分娩第1期中は0.7件、第2期中は0.1件、第3期0.1件、第4期0.2件であった。

N = 204

	Mean	(SD)	最小	最大
全分娩件数 (n=196)	12.7	(13.7)	0	85
初産婦 (n=189)	2.86	(3.8)	0	20
経産婦 (n=192)	10.16	(10.5)	0	69
分娩件数 (分娩場所別)				
自助産所内での分娩 (n=184)	11.7	(14.0)	0	85
オープンシステムによる病院、診療所、他助産所での分娩 (n=168)	0.55	(3.8)	0	48
自宅等への出張分娩 (n=186)	1.38	(2.5)	0	15
その他 (n=160)	0.05	(0.4)	0	4
母体搬送件数 (分娩期)				
分娩第1期中の搬送 (n=188)	0.68	(1.3)	0	8
分娩第2期中の搬送 (n=178)	0.11	(0.4)	0	3
分娩第3期中の搬送 (n=177)	0.07	(0.3)	0	1
分娩第4期中の搬送 (n=179)	0.16	(0.5)	0	3
搬送件数 (産褥期) (n=190)	0.06	(0.3)	0	2
新生児搬送件数 (n=188)	0.32	(0.7)	0	4
1か月間の1日平均入所者数 (n=173)	1.08	(3.6)	0	30
9月1日時点における新生児数 (n=174)	0.68	(2.6)	0	30
他助産所等の入所者の分娩のサポート件数 (n=197)	2.11	(4.7)	0	25

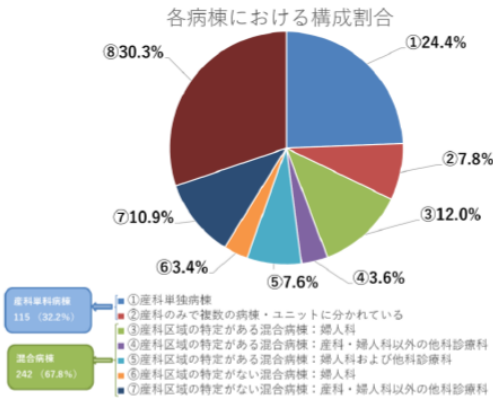
※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。人数の最小値、最大値等は誤入力があると推測される。

表 13

基本情報：病棟（ユニット）票

- 「病棟（ユニット）票」は病院を対象として調査を実施し、325件（総合・周産期母子医療センター142件、それ以外の病院183件）からの回答があり、1施設あたりの「病棟・ユニット数」の平均は1.1、「1病棟・ユニット当たりの病床数」の平均は30床であった。
- 病棟構成全般をみると、「混合病棟」が68%と多く、なかでも「婦人科および他科診療科での混合病棟」が38%となっていた。

	回答施設数	回答病棟・ユニット数 (計)	1病院当たり平均回答病棟・ユニット数	各施設における1病棟・ユニット当たりの病床数
総合・地域周産期母子医療センター	142	181	1.3	28.3
それ以外の病院	183	186	1.0	31.2
計	325	367	1.1	29.8



※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

		総合・地域周産期母子医療センター	それ以外の病院	計※注1
産科単科病棟（計）	件数	86	29	115
	割合※注2	49.1%	15.9%	32.2%
	産科単独病棟	58	29	87
	割合※注2	33.1%	15.9%	24.4%
産科のみで複数の病棟・ユニットに分かれている	件数	28	—	28
	割合※注2	16.0%	—	7.8%
混合病棟（計）	件数	89	153	242
	割合※注2	50.9%	84.1%	67.8%
産科区域の特定がある混合病棟	件数	34	49	83
	割合※注2	19.4%	26.9%	23.2%
婦人科	件数	14	29	43
	割合※注2	8.0%	15.9%	12.0%
産科・婦人科以外の他科診療科	件数	5	8	13
	割合※注2	2.9%	4.4%	3.6%
婦人科および他科診療科	件数	15	12	27
	割合※注2	8.6%	6.6%	7.6%
産科区域の特定がない混合病棟	件数	55	104	159
	割合※注2	31.4%	57.1%	44.5%
婦人科	件数	4	8	12
	割合※注2	2.3%	4.4%	3.4%
産科・婦人科以外の他科診療科	件数	10	29	39
	割合※注2	5.7%	15.9%	10.9%
婦人科および他科診療科	件数	41	67	108
	割合※注2	23.4%	36.8%	30.3%
計※注1	件数	175	182	357
	割合※注2	100.0%	100.0%	100.0%

※注1 x2検定の結果（Pearson chi2(3) = 54.9283 Pr = 0.000）から総合・地域周産期母子医療センターとそれ以外の病院での病棟構成の差は統計的に有意
※注2 各病棟種別内での分科施設の割合

表 14

病床数と入院料＋室料差額

- 「全室個室」の割合は、総合・地域周産期母子医療センターで19%、それ以外の病院で25%だった。
- 「1日当たりの室料差額料金」の平均は、総合・地域周産期母子医療センターが43,233円で、25,107円のそれ以外の病院よりも高い傾向にあり、かつ、個室と2床室との差も若干大きい。

※注1		総合・地域周産期 母子医療センター	それ以外の病院	計	
全室個室	標本数	174	177	351	
	件数	33	44	77	
	割合	19.0%	24.9%	21.9%	
個室					
	病床数（床）	標本数	163	171	334
		平均値	5.6	6.8	6.2
		標準偏差	4.2	5.7	5.1
	1日当たりの料金 （円）	標本数	152	164	316
		平均値	43,233	25,107	33,826
		標準偏差	58,639	21,534	44,391
2床室					
	病床数	標本数	32	50	82
		平均値	4.5	4.8	4.7
		標準偏差	5.0	3.9	4.3
	1日当たりの料金 （円）	標本数	28	38	66
		平均値	37,515	22,003	28,584
		標準偏差	42,138	19,725	31,917
入院患者のべ数 （令和6年9月1日～9月30日）		標本数	153	147	300
		平均値	534.8	405.9	471.6
		標準偏差	372.0	329.5	357.1

※注1 病床数が99%パーセンタイル以上を外れ値として処理

表 15

病棟（ユニット）に配置されている職員数

- 常勤の助産師・看護師については、総合・地域周産期母子医療センターの方が、それ以外の病院に比べ人数が多い一方で、非常勤職員及び准看護師・看護補助者・保育士については両群で差はなかった。

		総合・地域周産期 母子医療センター	それ以外の病院	計
助産師				
常勤	標本数	177	179	356
	平均値	25.4	14.3	19.8
	標準偏差	12.7	9.0	12.3
非常勤（常勤換算）	標本数	165	173	338
	平均値	1.0	1.6	1.3
	標準偏差	1.7	2.8	2.4
看護師				
常勤	標本数	171	179	350
	平均値	75.2	37.3	55.8
	標準偏差	168.0	95.0	136.8
非常勤（常勤換算）	標本数	163	167	330
	平均値	1.5	1.5	1.5
	標準偏差	3.8	4.7	4.3
准看護師				
常勤	標本数	162	171	333
	平均値	0.3	0.8	0.5
	標準偏差	2.1	1.5	1.9
非常勤（常勤換算）	標本数	161	162	323
	平均値	0.1	0.1	0.1
	標準偏差	0.5	0.4	0.5
看護補助者				
常勤	標本数	164	172	336
	平均値	4.4	4.0	4.2
	標準偏差	11.3	8.4	9.9
非常勤（常勤換算）	標本数	165	167	332
	平均値	4.1	1.9	3.0
	標準偏差	10.6	4.0	8.1
保育士				
常勤	標本数	160	160	320
	平均値	0.3	0.2	0.2
	標準偏差	1.1	0.7	0.9
非常勤（常勤換算）	標本数	167	159	316
	平均値	0.1	0.05	0.1
	標準偏差	0.4	0.3	0.3

表 16

分娩期・産褥期の医師数、医師の対応時間

- 「分娩期、産褥入院中の医師数、医師の対応時間」について、総合・地域周産期母子医療センターがそれ以外の病院と比べ、人数・時間ともに数は大きかったが、標準偏差からばらつきも大きい。
- 「産婦人科医師」については、診療業務に従事した医師数、医師の対応時間ともに、「産褥入院中」に比べて「分娩期」の方が多かった。
- 「小児科・新生児科医師」については、医師の対応時間が、「分娩期」に比べて「産褥入院中」の方が長かった。

※注 1		総合・地域周産期 母子医療センター	それ以外の病院	計
分娩期の産婦の診療業務に従事した全医師数 (令和6年9月1日～9月30日)		標本数 29 平均値 113 標準偏差 117	18 50 48	47 89 101
(うち)産婦人科医師	標本数	25	17	42
	平均値	25	27	26
	標準偏差	69	85	75
	標準偏差	75	94	81
(うち)小児科・新生児科医師	標本数	26	17	43
	平均値	24	9	18
	標準偏差	23	14	21
	標準偏差	23	14	21
(うち)麻酔科医師	標本数	26	16	42
	平均値	29	21	25
	標準偏差	30	15	27
	標準偏差	30	15	27
(うち)上記以外の診療科医師	標本数	24	16	40
	平均値	4	1	3
	標準偏差	4	1	3
	標準偏差	12	3	9
分娩期の産婦の診療業務に従事した全医師の対応時間数 (令和6年9月1日～9月30日)		標本数 29 平均値 446 標準偏差 809	18 288 483	47 385 701
(うち)産婦人科医師	標本数	25	14	39
	平均値	508	238	435
	標準偏差	887	518	740
	標準偏差	887	518	740
(うち)小児科・新生児科医師	標本数	27	13	39
	平均値	18	13	17
	標準偏差	19	21	24
	標準偏差	19	21	24
(うち)麻酔科医師	標本数	21	13	34
	平均値	62	28	49
	標準偏差	76	57	71
	標準偏差	76	57	71
(うち)上記以外の診療科医師	標本数	21	13	34
	平均値	9	3	4
	標準偏差	21	13	24
	標準偏差	22	10	18

※注 1 1週間のデータを記録した施設について、1カ月間の概算を算出するため4倍とした

※注 1		総合・地域周産期 母子医療センター	それ以外の病院	計
産褥入院中の産婦の診療業務に従事した全医師数 (令和6年9月1日～9月30日)		標本数 29 平均値 75 標準偏差 89	18 31 40	47 59 77
(うち)産婦人科医師	標本数	25	14	39
	平均値	25	24	25
	標準偏差	69	84	75
	標準偏差	75	94	81
(うち)小児科・新生児科医師	標本数	25	13	38
	平均値	23	9	18
	標準偏差	37	15	32
	標準偏差	37	15	32
(うち)麻酔科医師	標本数	24	13	37
	平均値	8	9	8
	標準偏差	13	13	14
	標準偏差	13	13	14
(うち)上記以外の診療科医師	標本数	23	13	36
	平均値	3	0	2
	標準偏差	3	0	2
	標準偏差	5	1	4
産褥入院中の産婦の診療業務に従事した全医師の対応時間数 (令和6年9月1日～9月30日)		標本数 29 平均値 234 標準偏差 521	18 120 212	47 190 430
(うち)産婦人科医師	標本数	25	13	38
	平均値	163	140	155
	標準偏差	248	212	241
	標準偏差	248	212	241
(うち)小児科・新生児科医師	標本数	27	12	34
	平均値	138	20	96
	標準偏差	546	60	441
	標準偏差	546	60	441
(うち)麻酔科医師	標本数	21	12	33
	平均値	4	7	5
	標準偏差	7	18	15
	標準偏差	7	18	15
(うち)上記以外の診療科医師	標本数	21	12	33
	平均値	3	0.3	2
	標準偏差	3	1	3
	標準偏差	8	1	6

表 17

産科の患者の入院割合、看護職の従事時間等

- ・ 「病棟における産科患者の入院割合」は総合・地域周産期母子医療センターで60%、それ以外の病院で47%だった。
- ・ 「看護職」は、総合・地域周産期母子医療センターの方が、それ以外の病院と比べ、労働時間数が長いが、標準偏差からばらつきも大きかった。
- ・ 「看護職」については、ケアに従事した時間数が、「分娩期」に比べて「産褥入院中」の方が長かった。

※注 1		総合・地域周産期 母子医療センター	それ以外の病院	計	
病棟（ユニット）における産科の患者の入院割合 （令和6年9月1日～9月30日）		標本数	76	63	139
		平均値	60.4%	47.0%	54.3%
		標準偏差	39.1%	34.1%	37.4%
全看護職の総労働時間数 （令和6年9月1日～9月30日）		標本数	93	72	165
		平均値	2,244	1,103	1,746
		標準偏差	6,496	3,290	5,355
分娩期のケア					
	全看護職の分娩期のケアに従事した時間数	標本数	33	14	47
		平均値	1,486	868	1,302
		標準偏差	4,724	994	3,986
	（うち）助産師が分娩期の ケアに従事した時間数	標本数	30	14	44
平均値		629	731	662	
標準偏差		777	797	776	
産褥入院中（新生児含む）のケア（授乳、育児等の保健指導を含む）					
	全看護職の産褥入院中（新生児含む）のケアに従事した時間数	標本数	32	15	47
		平均値	1,622	1,968	1,732
		標準偏差	1,791	2,461	2,008
	（うち）助産師が産褥入院中（新生児含む）に従事した時間数	標本数	29	15	44
平均値		1,543	1,481	1,522	
標準偏差		1,507	2,276	1,779	
産婦健康診査（産後1か月までの褥婦と新生児）実施有		標本数	81	64	145
		件数	62	59	121
		割合	76.5%	92.2%	83.4%

※注 1 1週間のデータを記録した施設について、1カ月間の概算を算出するため4倍とした

※すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

別添 4

令和6年度厚生労働行政推進調査事業費補助金
政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業）
分担研究報告書

『分娩取扱施設における出産に係る費用構造の把握のための調査』について
一標本調査（B 票：患者（産婦）票、タイムスタディ、分娩取扱施設の収益等）に係る結果

—

研究代表者 野口 晴子 早稲田大学 政治経済学術院
研究分担者 片岡 弥恵子 聖路加国際大学 大学院看護学研究科
研究分担者 増澤 祐子 新潟県立看護大学 看護学部

研究要旨

本研究では、令和5年度の予備的なパイロット調査とヒアリングから得られた結果を参考に、令和6年度に実施された『分娩取扱施設における出産に係る費用構造の把握のための調査』において、悉皆調査（以下、B 票）で調査された質問項目（患者（産婦）票、産後ケア、分娩取扱施設の収益等）の記述統計量についての検証を行う。標本調査（以下、サンプル調査）の回収状況については、病院 B 票が 500 件中 145 件（29%）、診療所 B 票が 469 件中 196 件（41.8%）、助産所票が 326 件中 161 件（49.4%）であった。

本研究の結果についてはいくつか留意すべき点がある。第1に、分析に用いたデータは、外れ値や誤答と思われるものが含まれているため、あくまでも速報値であり、令和7年度に研究班が精査を行う予定である。第2に、修正や調整が可能と判断したデータについては、研究班により統計的な処理を施した。第3に、以上の理由により、群間での違いに対する統計的な検定は殆ど行っておらず、群間での統計的な有意差についても、データの精査後に行う必要があると考える。

調査の結果、患者（産婦）票からは、以下のような結果が得られた。

- (1) 「分娩の状況（助産所除く）」は、「帝王切開」8%、「無痛分娩」11%、正常な経膣分娩等を含む「その他の分娩」が81%であった。
- (2) 「帝王切開」の割合は、総合・地域周産期母子医療センターで14%と最も多かった。
- (3) 「無痛分娩」の割合は、総合・地域周産期母子医療センターが11%、それ以外の病院が7%、診療所が13%であり、診療所での実施割合が最も高かった。
- (4) 分娩施設の割合を分娩経験別にみると、総合・地域周産期母子医療センターとそれ以外の病院では、「経産婦」より「初産婦」の割合が高いが、診療所と助産所は、

- 「初産婦」より「経産婦」の割合が高かった。助産所の分娩においては、「経産婦」（74%）の割合が「初産婦」（27%）と比べ高かった。
- (5) 分娩経験や分娩の状況によらず、ほぼ 80%以上の分娩が住所のある都道府県内で完結していた。
 - (6) 「経産婦」は「初産婦」と比べ、年齢が高く、「妊娠週数」と「在院日数」が短かった。
 - (7) 「社会的ハイリスクへの該当」割合は初産婦で高く、とりわけ総合・地域周産期母子医療センターでが該当割合が高かった。
 - (8) 助産所からの搬送先では、「嘱託医療機関」の割合が最も高かった。
 - (9) 入院中の助産ケアについて、「授乳指導」は、平均的な 1 日あたりの回数が 4.6 回、1 入院あたりの合計回数が 19.4 回であり、産後入院中は多数回の授乳指導が行われていた。「沐浴指導」の実施回数は、初産婦で平均 1.7 回、経産婦で 1.5 回であり、経産婦にも実施されていた。
 - (10) 「育児技術指導」の延べ時間（平均）は初産婦で 257 分、経産婦で 218 分であり、「退院指導」の時間は初産婦で 45 分、経産婦で 42 分であった。
 - (11) 「お祝い膳」以外のサービス（写真撮影、足形、エステ）の提供は、「初産婦」に比べて「経産婦」の方が割合が高かった。「お祝い膳」以外のサービス（写真撮影、足形、エステ）の提供は、総合・地域周産期母子医療センターが他施設と比べて割合が低かった。
 - (12) 「産婦合計負担額」の平均値は、無痛分娩（603,338 円）＞帝王切開（511,299 円）＞その他の分娩（485,636 円）の順で高かった。「産婦合計負担額」の平均は、「経産婦」が 476,365 円に対して、「初産婦」は 523,711 円であった。
 - (13) 「産婦合計負担額」は、総合・地域周産期母子医療センター（537,358 円）＞診療所（513,405 円）＞それ以外の病院（503,551 円）＞助産所（448,154 円）の順で高かった。「入院料」、「室料差額」、「一部負担金等」では総合・地域周産期母子医療センターが高いが、それ以外の項目については診療所が高い傾向。
 - (14) 正常な経膈分娩等を含む「その他の分娩」において、娩出 2 時間前後に関わった職種別延べ人数は「産婦人科医」が 0.8 人、「助産師」が 2.3 人、「看護師」が 0.4 人であった。
- 次に、妊婦健診と産後ケアについては、下記のような結果が得られた。
- (15) 平均的な妊婦健診（病院+診療所）の費用の平均は 113,425 円（中央値 115,800 円）。うち望ましい基準に含まれない健診項目（以下、基準外）の費用は 10,882 円（中央値 3,460 円）。
 - (16) 妊婦の平均的な妊婦健診の受診回数の平均値は約 13.4 回で、中央値も 13.4 回。産後ケア事業の短期入所型（1 泊 2 日ショートステイ型）の費用の平均値は、病院+診療所で 42,768 円（中央値 36,000 円）、助産所で 51,462 円（中央値 55,000 円）。

- (17) 病院+診療所における産後ケアのでの1か月間の延べ利用者数の平均は約7.5人（中央値3人）、助産所では約8.2人（中央値2人）。
- 最後に、分娩取扱施設の収益等については、下記の通りである。
- (18) 回答のあった「病院」（74施設、平均病床数448）では、令和4年度が▲5.4%、令和5年度が▲6.9%であった。うち、「総合・地域周産期母子医療センター」（39施設、平均病床数541）では、令和4年度が▲5.9%、令和5年度が▲6.9%であり、「それ以外の病院」（35施設、平均病床数321）では、令和4年度が▲8.1%、令和5年度が▲6.5%であった。
- (19) 「診療所」（医療法人、43施設）では、令和4年度が6.3%、令和5年度が3.6%であった。「助産所」の年度別の「損益率」は、個人（14施設）が、令和4年度が15.5%、令和5年度が11.7%であり、個人以外（4施設）が、令和4年度が3.0%、令和5年度が▲3.6%であった。
- (20) 職種別給与の平均・中央値・伸び率を年度ごとに、病院・診療所・助産所ごとに示している。回答のあった病院全体（回答65施設）で16,218,170円、総合・地域周産期母子医療センター（回答32施設）で14,303,900円、それ以外の病院（回答33施設）で18,079,260円、診療所（医療法人、回答44施設）で25,446,140円であった。
- (21) 令和5年度の「助産所における給与」の平均値について、回答のあった助産所全体で、管理者（回答15施設）で4,208,539円、助産師（28施設）で3,173,848円であった。

A. 研究目的

本研究では、令和5年度の予備的なパイロット調査とヒアリングから得られた結果を参考に、令和6年度に実施された『分娩取扱施設における出産に係る費用構造の把握のための調査』において、サンプル調査（以下、B票）で調査された質問項目（患者（産婦）票、タイムスタディ、分娩取扱施設の収益等）の記述統計量についての検証を行う。

B. 研究方法

B-1. 研究概要

本研究では、全国の分娩取扱施設2,173件を対象に、令和6年9月の1か月間（但し、助産所については、令和6年9

月又は10月のいずれかの1か月、郵送調査とオンライン調査（Excelシート）の併用により、施設の構造や実績・患者（産婦）の実態・費用構造等に対する調査を実施した。

質問票は、大きく、悉皆調査（以下、「A票」）とサンプル調査（以下、「B票」）の2つから構成されている。更に、分娩施設の機能別に、「病院A票」・「病院B票」、「診療所A票」・「診療所B票」、及び、「助産所票」の5種類に分類されている。助産所を対象とした調査は全質問項目について悉皆で実施したため、「A票」と「B票」の区別はない。

本研究で検証を行う B 票の調査内容には、患者（産婦）票、タイムスタディ、分娩取扱施設の収益等が含まれている。

標本調査（以下、サンプル調査）の回収状況については、病院 B 票が 500 件中 145 件（29%）、診療所 B 票が 469 件中 196 件（41.8%）、助産所票が 326 件中 161 件（49.4%）であった。

（倫理面への配慮）

本研究では、『分娩取扱施設における出産に係る費用構造の把握のための調査』を実施するに当たり、早稲田大学「人を対象とする研究に関する倫理審査委員会」にて、実施承諾を受けている（承認番号：2024-044；承認日：令和 6 年 5 月 4 日）。

C. 研究結果

C-1. 患者（産婦）票の結果

表 1 は、助産所を除く分娩状況を示している。「分娩の状況（助産所除く）」は、「帝王切開」8%、「無痛分娩」11%、正常な経膈分娩等を含む「その他の分娩」が 81%であった。

「帝王切開」の割合は、総合・地域周産期母子医療センターで 14%と最も多い。「無痛分娩」の割合は、総合・地域周産期母子医療センターが 11%、それ以外の病院が 7%、診療所が 13%であり、診療所での実施割合が最も高かった。

表 2 は、分娩状況の割合を分娩経験別に示した表である。「帝王切開」の割合は、経産婦（7.5%）よりも初産婦（8.3%）がやや高いが、「無痛分娩」の割合は、経産婦（11.9%）と初産婦（11%）とでほぼ差がない。

表 3 は、分娩施設の割合を分娩経験別に示している。分娩施設の割合を分娩経験別にみると、総合・地域周産期母子医療センターとそれ以外の病院では、「経産婦」より「初産婦」の割合が高いが、診療所と助産所は、「初産婦」より「経産婦」の割合が高かった。助産所の分娩においては、「経産婦」（74%）の割合が「初産婦」（27%）と比べ高かった。分娩経験の有無にかかわらず、45%が診療所で出産していた。

表 4～表 5 は、同一都道府県内の分娩施設での出産の割合をそれぞれ、都道府県別に分娩経験別・分娩状況別に示した表である。これらの表から、分娩経験や分娩状況によらず、ほぼ 80%以上の分娩が「産婦の住所ある都道府県」内で完結していることがわかった。

表 6～表 7 は、産婦の年齢等の属性について、分娩状況別・分娩経験別、及び、分娩施設別・分娩経験別に示した表である。表 6 では、「経産婦」は「初産婦」と比べ、年齢が高く、「妊娠週数」と「在院日数」が短く、「初産婦」は「経産婦」と比べ、「社会的ハイリスクへの該当」割合が高いことが分かった。表 7 をみると、総合・地域周産期母子医療センターでは、他施設と比べ、「非妊時体重」が重く、「妊娠週数」が短く、「在院日数」が長かった。分娩施設によらず、「社会的ハイリスクへの該当」割合は初産婦が高かった。総合・地域周産期母子医療センターでは、他施設と比べ、「社会的ハイリスクへの該当」割合が高かった。

表 8～表 9 は、入院経路と分娩時間について、分娩状況別・分娩経験別、及び、

分娩施設別・分娩経験別に示した表である。表 8 では、その他の分娩の主な入院経路で最も多かったのは「陣痛発来」で約 67%、無痛分娩では「無痛分娩目的」が約 35%と最も高く、帝王切開では、いずれにも区分されない「その他の入院経路」が約半数を示していた。「入院から分娩第 3 期終了までの時間」は、無痛分娩のほうがその他の分娩より長かった。表 9 では、分娩施設別にみると、施設にかかわらず、「陣痛発来」による入院の割合が高く、その次に高いのが「前期破水」であった。総合・地域周産期母子医療センターとそれ以外の病院では、初産婦より経産婦の方が「計画分娩」の割合が高かった。初産婦の「分娩時間」の平均値について、分娩第 1 期はそれ以外の病院（640 分）、診療所（605 分）、総合・地域周産期母子医療センター（587 分）の順に長い、分娩第 2 期は総合・地域周産期母子医療センター（119 分）、診療所（65 分）、それ以外の病院（47 分）の順に長くなっていた。

表 10 は、助産所での入院経路、分娩時間、搬送の状況を分娩経験別に示している。助産所では、「陣痛発来」による入院の割合が高く、その次に高いのが「前期破水」であった。助産所からの搬送先では、「嘱託医療機関」の割合が最も高かった。

表 11 は、分娩状況別・分娩施設別・分娩経験別に分娩時の医療行為を示している。帝王切開・無痛分娩の方がその他の分娩に比べ、「子宮頸管拡張」「感染予防の抗菌薬点滴」「血管確保」「陣痛誘発」の実施割合が高かった。分娩施設にかかわらず、初産婦の方が経産婦に比

べ、「子宮頸管拡張」「感染予防の抗菌薬内服」「感染予防の抗菌薬点滴」「陣痛促進」「会陰切開」「会陰縫合」の実施割合が高かった。

表 12～表 13 は、入院中の助産ケアについて、分娩状況別・分娩経験別、及び、分娩施設別・分娩経験別に示した表である。表 12 では、入院中の助産ケアの実施回数や指導時間は、経産婦に比べて初産婦の方が多いことがわかった。「母子同室」については、分娩経験の有無にかかわらず、無痛分娩＞帝王切開＞その他の分娩の順に実施割合が高かった。「授乳指導」については、平均的な 1 日あたりの回数が 4.6 回、1 入院あたりの合計回数が 19.4 回であり、産後入院中は多数回の授乳指導が行われていた。「沐浴指導」の実施回数は、初産婦で平均 1.7 回、経産婦で 1.5 回であり、経産婦にも実施されていた。「育児技術指導」の延べ時間は、初産婦で平均 257 分、経産婦で平均 218 分であり、「退院指導」の時間は、初産婦で平均 45 分、経産婦で平均 42 分であった。表 13 をみると、「授乳指導」については、総合・地域周産期母子医療センターやそれ以外の病院での実施回数が多く、「育児技術指導」時間も長い傾向にある。「沐浴指導」は、助産所での実施回数が多く、「退院指導」の時間も長い傾向にある。「授乳指導」の平均的な 1 日あたりの実施回数は、総合・地域周産期母子医療センターで平均 5.3 回、それ以外の病院で平均 5.0 回、診療所で平均 4.2 回、助産所で平均 4.7 回であった。

表 14 は、分娩状況別・分娩施設別・分娩経験別に新生児の概要を示している。新生児の「出生時の体重」は、全般的に

「経産婦」の方が「初産婦」よりも重く、「在院日数」は、「初産婦」の方が「経産婦」よりも長かった。他方で、標準偏差をみると、両者とも、「経産婦」の方が「初産婦」よりもばらつきが大きかった。

新生児の「出生時の体重」は、その他の分娩＞無痛分娩＞帝王切開の順で重かった。

表 15～表 16 は、分娩状況・分娩経験別、及び、分娩施設別・分娩経験別に、新生児へ提供した医療等を示した表である。表 15 をみると、新生児への「入院中の診療日数」については、「小児科医」では帝王切開＞その他の分娩＞無痛分娩の順で多かった。「産科医」では、帝王切開＞無痛分娩＞その他の分娩の順で多かった。

検査等について、「アプニアセンサー装着」は全体の 47%に実施され、「新生児聴覚検査」は全体の 87%に実施されていた。無痛分娩・その他の分娩に比べ、帝王切開で出生直後に「血糖測定対象かどうか」「SpO2 モニター装着」の割合が高い。治療については、帝王切開・その他の分娩と比べ、無痛分娩で「光線療法」の割合が高い。表 16 では、新生児への「入院中の診療日数」については、

「小児科医」では総合・地域周産期母子医療センター＞診療所＞それ以外の病院の順で多い。「産科医」では、総合・地域周産期母子医療センターとそれ以外の病院＞診療所の順で多いことがわかる。検査等について、「アプニアセンサー装着」はそれ以外の病院 72%、総合・地域周産期母子医療センター 67%、診療所 50%、助産所 19%の順で割合が高い。治療

については、それ以外の病院・診療所に比べ、総合・地域周産期母子医療センターで「光線療法」の割合が高い。

表 17 は、提供したサービス等について、分娩状況別・分娩施設別・分娩経験別にみた表である。「お祝い膳」以外のサービス（写真撮影、足形、エステ）の提供は、「初産婦」に比べて「経産婦」の方が割合が高い。「お祝い膳」の提供は、助産所が最も割合が低い。「お祝い膳」以外のサービス（写真撮影、足形、エステ）の提供は、総合・地域周産期母子医療センターが他施設と比べて割合が低い。

表 18～表 19 は、分娩状況別・分娩経験別、及び、分娩施設別・分娩経験別に、出産育児一時金の直接支払制度専用請求書記載内容を基にした費用を示している。表 18 をみると、「産婦合計負担額」の平均値は、無痛分娩（603,338 円）＞帝王切開（511,299 円）＞その他の分娩

（485,636 円）の順で高かった。「室料差額」「分娩介助料」「処置・手当料」を除き、「経産婦」と比べ、「初産婦」の方が高かった。「産婦合計負担額」の平均は、「経産婦」が 476,365 円に対して、「初産婦」は 523,711 円であった。表 19 をみると、「産婦合計負担額」は、総合・地域周産期母子医療センター（537,358 円）＞診療所（513,405 円）＞それ以外の病院（503,551 円）＞助産所（448,154 円）の順で高かった。「入院料」、「室料差額」、「一部負担金等」では総合・地域周産期母子医療センターが高いが、それ以外の項目については、診療所が高い傾向にある。

表 20～表 22 はそれぞれ、娩出 30 分前後、1 時間前後、2 時間前後で、分娩状況・分娩経験別に、分娩に関わった職種別の延べ人数を示している。娩出 30 分前後（表 20）では、正常な経膣分娩等を含む「その他の分娩」において、娩出 30 分前後に関わった職種別延べ人数は「産婦人科医」が 0.8 人、「助産師」が 2.1 人であった。「産婦人科医」、「麻酔科医」、「小児科新生児科医」とも、帝王切開＞無痛分娩＞その他の分娩の順で、投入される人数が多かった。「助産師」は、その他の分娩が最も投入人数が多く、帝王切開と無痛分娩は差がなかった。その他の分娩で「医師」・「看護師」・「准看護師」の最小値に「0」があるのは、助産所が含まれるためである。娩出 1 時間前後（表 21）をみると、正常な経膣分娩等を含む「その他の分娩」において、娩出 1 時間前後に関わった職種別延べ人数は「産婦人科医」が 0.8 人、「助産師」が 2.1 人であった。「産婦人科医」、「麻酔科医」、「小児科新生児科医」とも、帝王切開＞無痛分娩＞その他の分娩の順で、投入される人数が多かった。「助産師」は、その他の分娩が最も投入人数が多く、帝王切開と無痛分娩は差がなかった。「看護師」については、帝王切開＞その他の分娩＞無痛分娩の順で投入される人数が多かった。最後に、娩出 2 時間前後（表 22）では、正常な経膣分娩等を含む「その他の分娩」において、娩出 2 時間前後に関わった職種別延べ人数は「産婦人科医」が 0.8 人、「助産師」が 2.3 人、「看護師」が 0.4 人であった。「産婦人科医」、「麻酔科医」、「小児科新生児科医」とも、帝王切開＞無痛分

娩＞その他の分娩の順で投入される人数が多かった。「助産師」については、無痛分娩＞帝王切開＞その他の分娩の順で投入される人数が多かった。「看護師」については、帝王切開＞その他の分娩＞無痛分娩の順で投入される人数が多かった。

表 23～表 25 はそれぞれ、娩出 30 分前後、1 時間前後、2 時間前後で、分娩施設・分娩経験別に、分娩に関わった職種別の延べ人数を示している。表 23 をみると、「産婦人科医」、「麻酔科医」、「小児科新生児科医」とも、総合・地域周産期母子医療センター＞それ以外の病院＞診療所の順で投入される人数が多かった。「助産師」については、総合・地域周産期母子医療センター＞それ以外の病院＞診療所の順で投入される人数が多かった。「看護師」については、診療所＞それ以外の病院＞総合・地域周産期母子医療センターの順で投入される人数が多かった。娩出 1 時間前後では（表 24）、「産婦人科医」、「麻酔科医」、「小児科新生児科医」とも、総合・地域周産期母子医療センター＞それ以外の病院＞診療所の順で投入される人数が多かった。「助産師」についても、総合・地域周産期母子医療センター＞それ以外の病院＞診療所の順で投入される人数が多かった。「看護師」については、診療所＞それ以外の病院＞総合・地域周産期母子医療センターの順で投入される人数が多かった。娩出 2 時間前後（表 25）をみると、「産婦人科医」、「麻酔科医」、「小児科新生児科医」とも、総合・地域周産期母子医療センター＞それ以外の病院＞診療所の順で投入される人数が多か

った。「助産師」についても、総合・地域周産期母子医療センター＞それ以外の病院＞診療所の順で投入される人数が多かった。「看護師」については、診療所＞それ以外の病院＞総合・地域周産期母子医療センターの順で投入される人数が多かった。

C-2. 妊婦健診と産後ケア

表 26 は、病院と診療所について、平均的な妊婦健診と望ましい基準に含まれない健診費用の分布を示している。平均的な妊婦健診（病院+診療所）の費用の平均は 113,425 円（中央値 115,800 円）、うち望ましい基準に含まれない健診項目（以下、基準外）の費用は 10,882 円（中央値 3,460 円）。平均的な健診費用が正規分布に近いのに対し、右裾が長い分布となっている。尚、妊婦の平均的な妊婦健診の受診回数の平均値は約 13.4 回で、中央値も 13.4 回であった。

表 27 は、産後ケア事業の費用の分布を病院と診療所の合計、及び、助産所別に示した表である。短期入所型（1泊2日ショートステイ型）（病院+診療所）の費用の平均値は 42,768 円（中央値 36,000 円）に対し、助産所の費用の平均値は 51,462 円（中央値 55,000 円）。尚、病院+診療所での 1 か月間の延べ利用者数の平均は約 7.5 人（中央値 3 人）、助産所では約 8.2 人（中央値 2 人）であった。

C-3. 分娩取扱施設の収益等

表 28 は、令和 4 年度と令和 5 年度 2 年間の病院の損益率の状況、表 29 は診療所と助産所の損益率の状況を年度ごとに示している。回答のあった「病院」（74 施

設、平均病床数 448）では、令和 4 年度が▲5.4%、令和 5 年度が▲6.9%であった。うち、「総合・地域周産期母子医療センター」（39 施設、平均病床数 541）では、令和 4 年度が▲5.9%、令和 5 年度が▲6.9%であり、「それ以外の病院」（35 施設、平均病床数 321）では、令和 4 年度が▲8.1%、令和 5 年度が▲6.5%であった。また、「診療所」（医療法人、43 施設）では、令和 4 年度が 6.3%、令和 5 年度が 3.6%であった。「助産所」の年度別の「損益率」は、個人（14 施設）が、令和 4 年度が 15.5%、令和 5 年度が 11.7%であり、個人以外（4 施設）が、令和 4 年度が 3.0%、令和 5 年度が▲3.6%であった。

表 30～表 34 は、各収益と費用項目の年度ごとの伸び率を、病院・診療所・助産所ごとにそれぞれ示している。

表 35～表 38 は、職種別給与の平均・中央値・伸び率を年度ごとに、病院・診療所・助産所ごとに示している。回答のあった病院全体（回答 65 施設）で 16,218,170 円、総合・地域周産期母子医療センター（回答 32 施設）で 14,303,900 円、それ以外の病院（回答 33 施設）で 18,079,260 円、診療所（医療法人、回答 44 施設）で 25,446,140 円であった。令和 5 年度の「助産所における給与」の平均値について、回答のあった助産所全体で、管理者（回答 15 施設）で 4,208,539 円、助産師（28 施設）で 3,173,848 円であった。

最後に、表 39～表 41 は、年度別の資産と負債の状況を、病院・診療所・助産所ごとにまとめた表である。

D. 考察／E. 結論

本研究では、令和5年度の予備的なパイロット調査とヒアリングから得られた結果を参考に、令和6年度に実施された『分娩取扱施設における出産に係る費用構造の把握のための調査』において、サンプル調査（以下、B票）で調査された質問項目（患者（産婦）票、タイムスタディ、分娩取扱施設の収益等）の記述統計量についての検証を行った。

その結果、様々な観点から、分娩取扱施設の実態が明らかにされたが、本研究の結果についてはいくつか留意すべき点がある。第1に、分析に用いたデータは、外れ値や誤答と思われるものが含まれているため、あくまでも速報値であり、令和7年度に研究班が精査を行う予定である。第2に、修正や調整が可能と判断したデータについては、研究班により統計的な処理を施した。第3に、以上の理由により、群間での違いに対する統計的な検定は殆ど行っておらず、群間での統計的な有意差についても、データの精査後に行う必要があると考える。

F. 健康危険情報

特に無し。

G. 研究発表

1. 論文発表

特に無し。

2. 学会発表

特に無し。

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

1. 特許取得

特に無し。

2. 実用新案登録

特に無し。

3. その他

特に無し。

参考文献

厚生労働省. (2025) 第9回「妊娠・出産・産後における妊産婦等の支援策等に関する検討会（資料1）」，令和7年4月16日.
<https://www.mhlw.go.jp/content/12401000/001476650.pdf>（閲覧日：令和7年5月15日）

表 1

分娩の状況

- 「分娩の状況（助産所除く）」は、「帝王切開」8%、「無痛分娩」11%、正常な経陰分娩等を含む「その他の分娩」が81%であった。
- 「帝王切開」の割合は、総合・地域周産期母子医療センターで14%と最も多い。
- 「無痛分娩」の割合は、総合・地域周産期母子医療センターが11%、それ以外の病院が7%、診療所が13%であり、診療所での実施割合が最も高かった。

		帝王切開	無痛分娩	その他の分娩	計※注 1
総合・地域周産期母子医療センター	件数	18	14	99	131
	割合※注 2	13.7%	10.7%	75.6%	100.0%
	割合※注 3	34.6%	18.7%	18.7%	19.9%
それ以外の病院	件数	7	9	107	123
	割合※注 2	5.7%	7.3%	87.0%	100.0%
	割合※注 3	13.5%	12.0%	20.2%	18.7%
診療所	件数	27	52	324	403
	割合※注 2	6.7%	12.9%	80.4%	100.0%
	割合※注 3	51.9%	69.3%	61.1%	61.3%
計※注 1	件数	52	75	530	657
	割合※注 2	7.9%	11.4%	80.7%	100.0%
	割合※注 3	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

※助産所では帝王切開・無痛分娩の実施はないためこの表の算出から除外した。

※すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

※それ以外の病院には、総合・地域周産期母子医療センター以外の病院が含まれる。

※「その他の分娩」とは、患者（産婦）個票において帝王切開分娩と無痛分娩以外であったものであり、正常な経陰分娩等が該当する。

※注 1 χ^2 検定の結果（Pearson $\chi^2(4) = 10.8246$ Pr = 0.029）から医療施設間での帝王切開・無痛分娩・その他群での割合の差は統計的に有意

※注 2 各分娩施設内での分娩状況の割合

※注 3 各分娩状況内での分娩施設の割合

表 2

分娩状況の割合（分娩経験別）

- 「帝王切開」の割合は、経産婦（7.5%）よりも初産婦（8.3%）がやや高いが、「無痛分娩」の割合は、経産婦（11.9%）と初産婦（11%）とでほぼ差がない。

		帝王切開	無痛分娩	その他の分娩	計※注 1
初産婦	件数	28	37	271	336
	割合※注 2	8.3%	11.0%	80.7%	100.0%
	割合※注 3	53.9%	49.3%	51.3%	51.3%
経産婦	件数	24	38	257	319
	割合※注 2	7.5%	11.9%	80.6%	100.0%
	割合※注 3	46.2%	50.7%	48.7%	48.7%
計※注 1	件数	52	75	528	655
	割合※注 2	7.9%	11.5%	80.6%	100.0%
	割合※注 3	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

※助産所では帝王切開・無痛分娩の実施はないためこの表の算出から除外した。

※すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

※それ以外の病院には、総合・地域周産期母子医療センター以外の病院が含まれる。

※「その他の分娩」とは、患者（産婦）個票において帝王切開分娩と無痛分娩以外であったものであり、正常な経陰分娩等が該当する。

※注 1 χ^2 検定の結果（Pearson $\chi^2(2) = 0.2512$ Pr = 0.882）から医療施設間での帝王切開・無痛分娩・その他群での割合の差は統計的に有意

※注 2 各出産経験内での分娩施設の割合

※注 3 各分娩状況内での出産経験の割合

表 3

分娩施設の割合（分娩経験別）

- 分娩施設の割合を分娩経験別にみると、総合・地域周産期母子医療センターとそれ以外の病院では、「経産婦」より「初産婦」の割合が高いが、診療所と助産所は、「初産婦」より「経産婦」の割合が高い。
- 助産所の分娩においては、「経産婦」（74%）の割合が「初産婦」（27%）と比べ高い。
- 分娩経験の有無にかかわらず、45%が診療所で出産している。

		総合・地域周産期 母子医療センター	それ以外の病院	診療所	助産所	計 ※注 1
初産婦	件数	74	67	195	64	400
	割合※注 2	18.5%	16.8%	48.8%	16.0%	100.0%
	割合※注 3	56.5%	54.5%	48.6%	26.5%	44.6%
経産婦	件数	57	56	206	178	497
	割合※注 2	11.5%	11.3%	41.5%	35.8%	100.0%
	割合※注 3	43.5%	45.5%	51.4%	73.6%	55.4%
計※注 1	件数	131	123	401	242	897
	割合※注 2	14.6%	13.7%	44.7%	27.0%	100.0%
	割合※注 3	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

※すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

※それ以外の病院には、総合・地域周産期母子医療センター以外の病院が含まれる。

※注 1 χ^2 検定の結果（Pearson $\chi^2(3) = 47.2573$ $Pr = 0.000$ ）から出産経験有無別の出産施設の割合の差は統計的に有意である

※注 2 各出産経験内での分娩施設の割合

※注 3 各分娩施設内での出産経験の割合

表 4

同一都道府県内の分娩施設での出産の割合（都道府県別・分娩経験別）

- 分娩経験によらず、ほぼ80%以上の分娩が「産婦の住所がある都道府県」内で完結している。

産婦の住所 (都道府県)	初産婦	同一都道府 県内での分娩 施設での出産 ※注 1	%	経産婦	同一都道府 県内での分娩 施設での出産 ※注 1	%	出産 経験 不詳	計	同一都道府 県内での分娩 施設での出産 ※注 1	%
北海道	9	8	89%	10	10	100%	0	19	18	95%
青森県	3	3	100%	3	3	100%	0	6	6	100%
岩手県	1	1	100%	6	6	100%	0	7	7	100%
宮城県	5	3	60%	5	5	100%	0	10	8	80%
秋田県	1	1	100%	2	2	100%	0	3	3	100%
山形県	4	4	100%	4	4	100%	0	8	8	100%
福島県	6	6	100%	7	6	86%	0	13	12	92%
茨城県	12	11	92%	6	6	100%	0	18	17	94%
栃木県	8	8	100%	10	10	100%	0	18	18	100%
群馬県	5	5	100%	2	2	100%	0	7	7	100%
埼玉県	23	17	74%	18	17	94%	0	41	34	83%
千葉県	11	9	82%	9	6	67%	1	21	15	75%
東京都	29	23	79%	36	30	83%	1	66	53	82%
神奈川県	19	16	84%	28	26	93%	0	47	42	89%
新潟県	3	3	100%	5	5	100%	0	8	8	100%
富山県	3	3	100%	3	3	100%	0	6	6	100%
石川県	9	8	89%	5	5	100%	0	14	13	93%
福井県	9	8	89%	0	0	—	0	9	8	89%
山梨県	6	6	100%	6	6	100%	0	12	12	100%
長野県	9	9	100%	21	20	95%	1	31	29	97%
岐阜県	7	5	71%	6	6	100%	0	13	11	85%
静岡県	6	6	100%	13	12	92%	0	19	18	95%
愛知県	17	14	82%	35	34	97%	0	52	48	92%

※注 1 産婦の住所（都道府県）不詳を分母から除外。

※すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

産婦の住所 (都道府県)	初産婦	同一都道府 県内での分娩 施設での出産 ※注 1	%	経産婦	同一都道府 県内での分娩 施設での出産 ※注 1	%	出産 経験 不詳	計	同一都道府 県内での分娩 施設での出産 ※注 1	%
三重県	5	3	60%	4	4	100%	0	9	7	78%
滋賀県	5	5	100%	6	5	83%	0	11	10	91%
京都府	5	5	100%	8	7	88%	0	13	12	92%
大阪府	24	21	88%	35	31	89%	1	60	52	88%
兵庫県	20	15	75%	16	16	100%	0	36	31	86%
奈良県	3	3	100%	9	8	89%	0	12	11	92%
和歌山県	3	2	67%	4	4	100%	0	7	6	86%
鳥取県	4	4	100%	4	4	100%	0	8	8	100%
島根県	1	1	100%	6	6	100%	0	7	7	100%
岡山県	8	7	88%	12	12	100%	0	20	19	95%
広島県	5	4	80%	15	15	100%	0	20	19	95%
山口県	1	1	100%	6	6	100%	0	7	7	100%
徳島県	0	0	—	0	0	—	0	0	0	—
香川県	6	6	100%	4	4	100%	0	10	10	100%
愛媛県	2	2	100%	5	5	100%	0	7	7	100%
高知県	0	0	—	1	1	100%	0	1	1	100%
福岡県	16	13	81%	25	24	96%	0	41	37	90%
佐賀県	6	6	100%	5	3	60%	0	11	9	82%
長崎県	4	3	75%	7	6	86%	0	11	9	82%
熊本県	0	0	—	2	2	100%	0	2	2	100%
大分県	5	4	80%	9	9	100%	0	14	13	93%
宮崎県	4	3	75%	11	10	91%	0	15	13	87%
鹿児島県	5	3	60%	13	12	92%	0	18	15	83%
沖縄県	8	6	75%	13	12	92%	0	21	18	86%
都道府県不詳	54	—	—	37	—	—	3	94	—	—
計	399	294	74%	497	429	86%	7	903	723	81%

表 5

同一都道府県内の分娩施設での出産の割合（都道府県別・分娩状況別）

- 分娩の状況によらず、ほぼ80%以上の分娩が「産婦の住所がある都道府県」内で完結している。

産婦の住所 (都道府県)	帝王 切開	同一都道府 県内の分娩 施設での出 産	% ※注 1	無痛 分娩	同一都道府 県内の分娩 施設での出 産	% ※注 1	その 他の 分娩	同一都道府 県内の分娩 施設での出 産	% ※注 1
北海道	1	1	100%	3	3	100%	15	14	93%
青森県	2	2	100%	0	0	—	4	3	75%
岩手県	1	1	100%	0	0	—	6	6	100%
宮城県	1	0	0%	2	2	100%	7	6	86%
秋田県	0	0	—	0	0	—	3	3	100%
山形県	0	0	—	2	2	100%	6	6	100%
福島県	0	0	—	1	1	100%	12	11	92%
茨城県	2	2	100%	0	0	—	16	15	94%
栃木県	1	1	100%	0	0	—	17	17	100%
群馬県	0	0	—	0	0	—	7	7	100%
埼玉県	3	3	100%	4	4	100%	34	27	79%
千葉県	0	0	—	1	1	100%	20	18	75%
東京都	1	1	100%	8	8	100%	57	45	79%
神奈川県	2	2	100%	12	11	92%	33	29	88%
新潟県	1	1	100%	0	0	—	7	7	100%
富山県	0	0	—	1	1	100%	5	5	100%
石川県	1	0	0%	1	1	100%	12	12	100%
福井県	2	2	100%	0	0	—	7	6	86%
山梨県	1	1	100%	0	0	—	11	11	100%
長野県	0	0	—	0	0	—	31	30	97%
岐阜県	0	0	—	0	0	—	13	11	85%
静岡県	1	1	100%	0	0	—	18	17	94%
愛知県	2	2	100%	4	3	75%	46	43	93%

産婦の住所 (都道府県)	帝王 切開	同一都道府 県内の分娩 施設での出 産	% ※注 1	無痛 分娩	同一都道府 県内の分娩 施設での出 産	% ※注 1	その 他の 分娩	同一都道府 県内の分娩 施設での出 産	% ※注 1
三重県	0	0	—	1	0	0%	8	7	88%
滋賀県	1	1	100%	0	0	—	10	9	90%
京都府	0	0	—	3	3	100%	10	9	90%
大阪府	3	3	100%	5	4	80%	52	46	88%
兵庫県	2	2	100%	2	2	100%	32	27	84%
奈良県	0	0	—	0	0	—	12	11	92%
和歌山県	1	0	0%	0	0	—	6	6	100%
鳥取県	2	2	100%	0	0	—	4	6	100%
島根県	0	0	—	0	0	—	7	7	100%
岡山県	0	0	—	1	1	100%	19	18	95%
広島県	2	2	100%	1	1	100%	17	16	94%
山口県	0	0	—	0	0	—	7	7	100%
徳島県	0	0	—	0	0	—	0	0	—
香川県	0	0	—	0	0	—	10	10	100%
愛媛県	1	1	100%	0	0	—	6	6	100%
高知県	0	0	—	0	0	—	1	1	100%
福岡県	4	4	100%	5	5	100%	32	28	88%
佐賀県	1	1	100%	2	0	0%	8	8	100%
長崎県	0	0	—	0	0	—	11	9	82%
熊本県	0	0	—	0	0	—	2	2	100%
大分県	0	0	—	0	0	—	14	13	93%
宮崎県	0	0	—	2	1	50%	13	12	92%
鹿児島県	2	2	100%	4	4	100%	12	9	75%
沖縄県	0	0	—	2	1	50%	19	17	89%
都道府県不詳	11	—	—	8	—	—	75	—	—
計	52	38	73%	75	59	79%	776	630	81%

※すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

※「その他の分娩」とは、患者（産婦）票において帝王切開分娩と無痛分娩以外であったものであり、正常な経産分娩等が該当する。

※注 1 産婦の住所（都道府県）不詳を分母から除外。

表 6

産婦の年齢等（分娩状況別・分娩経験別）

- 「経産婦」は「初産婦」と比べ、年齢が高く、「妊娠週数」と「在院日数」が短い。
- 「初産婦」は「経産婦」と比べ、「社会的ハイスルクへの該当」割合が高い。

		帝王切開			無痛分娩			その他の分娩			計		
		初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計
年齢	標本数	27	24	51	37	38	75	330	435	770	394	497	896
	平均値	31.7	33.0	32.3	31.2	33.2	32.2	29.3	32.6	31.2	29.6	32.6	31.3
	標準偏差	5.3	3.0	4.4	4.8	4.2	4.6	4.8	4.9	5.1	4.9	4.7	5.0
身長	標本数	28	24	37	37	38	75	332	430	767	397	492	894
	平均値	156.4	158.1	157.2	159.8	160.0	159.9	158.3	158.4	158.3	158.3	158.5	158.4
	標準偏差	7.9	6.4	7.2	5.4	5.8	5.6	5.4	5.6	5.5	5.6	5.7	5.6
非妊時体重	標本数	27	22	49	37	38	75	331	431	767	395	491	891
	平均値	56.3	54.5	55.5	54.0	55.6	54.8	54.0	54.0	54.0	54.2	54.1	54.2
	標準偏差	10.2	7.9	9.2	9.2	10.7	9.9	10.4	8.6	9.4	10.3	8.8	9.5
出産時の妊娠週数	標本数	28	24	52	37	38	75	334	433	772	399	495	899
	平均値	39.7	38.2	39.0	39.3	38.9	39.1	39.6	39.4	39.5	39.5	39.3	39.4
	標準偏差	1.2	1.2	1.4	1.1	1.0	1.1	1.2	2.1	1.8	1.2	2.1	1.7
母親の在院日数	標本数	28	24	52	37	38	75	322	395	721	387	457	848
	平均値	9.3	8.4	8.9	7.0	5.9	6.4	6.3	5.5	5.8	6.5	5.6	6.1
	標準偏差	2.7	1.5	2.2	1.3	0.8	1.2	1.6	2.6	2.3	1.9	2.6	2.3
社会的ハイスルクへの該当有(%)	標本数	0	0	0	37	38	75	334	435	776	399	497	904
	件数	0	0	0	4	1	5	24	12	36	28	13	41
	割合	0.0%	0.0%	0.0%	10.8%	2.6%	6.5%	7.2%	2.8%	4.6%	7.0%	2.6%	4.5%

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

※ 「その他の分娩」とは、患者（産婦）票において帝王切開分娩と無痛分娩以外であったものであり、正常な経産分娩等が該当する。

表 7

産婦の年齢等（分娩施設別・分娩経験別）

- ・ 総合・地域周産期母子医療センターでは、他施設と比べ、「非妊時体重」が重く、「妊娠週数」が短く、「在院日数」が長い。
- ・ 分娩施設によらず、「社会的ハイリスクへの該当」割合は初産婦が高い。
- ・ 総合・地域周産期母子医療センターでは、他施設と比べ、「社会的ハイリスクへの該当」割合が高い。

		総合・地域周産期 母子医療センター			それ以外の病院			診療所			助産所		
		初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計
年齢	標本数	73	56	130	66	56	122	194	206	402	61	178	242
	平均値	31.3	33.8	32.4	30.1	31.7	30.8	29.0	32.0	30.6	29.1	33.3	32.2
	標準偏差	5.6	4.2	5.1	5.1	4.8	5.0	4.4	4.5	4.7	4.8	5.0	5.2
身長	標本数	74	57	131	67	56	123	195	205	402	61	174	238
	平均値	158.3	159.0	158.6	157.6	157.5	157.6	158.5	158.6	158.5	158.2	158.4	158.4
	標準偏差	5.8	5.7	5.7	6.1	5.4	5.8	5.4	5.9	5.7	5.7	5.5	5.5
非妊時体重	標本数	73	57	130	65	53	118	195	205	402	62	176	241
	平均値	56.2	55.2	55.8	54.2	55.8	54.9	53.4	54.8	54.2	54.3	52.4	53.0
	標準偏差	12.0	9.8	11.1	8.2	10.9	9.5	7.9	8.7	8.3	15.4	7.5	10.1
出産時の妊娠週数	標本数	74	56	130	67	56	123	195	206	403	63	177	243
	平均値	39.2	38.6	39.0	39.5	39.1	39.3	39.6	39.3	39.4	39.8	39.5	39.6
	標準偏差	1.5	1.7	1.6	1.2	0.9	1.0	1.1	1.2	1.2	1.0	3.0	2.6
母親の在院日数	標本数	74	57	131	67	56	123	191	205	398	55	139	196
	平均値	7.7	6.7	7.2	7.1	6.3	6.7	6.6	6.1	6.3	4.3	4.4	4.4
	標準偏差	2.3	1.5	2.0	1.4	1.0	1.3	1.3	2.8	2.2	1.3	2.5	2.2
社会的ハイリスク への該当有(%)	標本数	74	57	131	67	56	123	195	206	403	—	—	—
	件数	13	2	15	5	3	8	10	8	18	—	—	—
	割合	17.6%	3.5%	11.5%	7.5%	5.4%	6.5%	5.1%	3.9%	4.5%	—	—	—

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。
 ※ それ以外の病院には、総合・地域周産期母子医療センター以外の病院が含まれる。
 ※ 助産所票には「社会的ハイリスクへの該当の有無」についての質問項目無し

表 8

入院経路、分娩時間（分娩状況別・分娩経験別）

- ・ その他の分娩の主な入院経路で最も多かったのは「陣痛発来」で約67%、無痛分娩では「無痛分娩目的」が約35%と最も高く、帝王切開では、いずれにも区分されない「その他の入院経路」が約半数を示していた。
- ・ 「入院から分娩第3期終了までの時間」は、無痛分娩のほうがその他の分娩より長かった。

		帝王切開			無痛分娩			その他の分娩			計		
		初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計
主な入院経路（1つのみ選択）													
陣痛発来	標本数	25	19	44	37	37	74	328	430	764	390	496	882
	件数	9	4	7	15	7	22	193	311	508	211	322	537
	割合	12.0%	21.1%	16.9%	40.5%	18.9%	29.7%	68.8%	72.3%	66.5%	54.1%	66.3%	60.9%
前期破水	標本数	25	—	44	37	37	74	328	430	764	390	496	882
	件数	7	—	7	10	2	12	79	61	141	96	63	160
	割合	28.0%	—	16.9%	27.0%	5.4%	16.2%	24.1%	14.2%	18.5%	24.6%	13.0%	18.1%
計画分娩	標本数	25	19	44	37	37	74	328	430	764	390	496	882
	件数	4	1	5	2	7	9	38	45	84	44	53	98
	割合	16.0%	5.3%	11.4%	5.4%	18.9%	12.2%	11.6%	10.5%	11.0%	11.3%	10.9%	11.1%
無痛分娩目的	標本数	25	—	44	37	37	74	328	430	764	390	496	882
	件数	1	—	1	8	18	26	1	1	2	10	19	29
	割合	4.0%	—	2.3%	21.6%	48.6%	35.1%	0.3%	0.2%	0.3%	2.6%	3.9%	3.3%
その他	標本数	25	19	44	37	37	74	328	430	764	390	496	882
	件数	10	14	24	2	3	5	17	12	29	29	58	58
	割合	40.0%	73.7%	54.5%	5.4%	8.1%	6.8%	5.2%	2.8%	3.8%	7.4%	6.0%	6.6%
分娩時間（分）													
第1期	標本数	—	—	—	35	38	73	323	421	749	365	461	831
	平均値	—	—	—	65.6	54.2	43.3	629.0	303.8	443.6	624.8	399.8	441.6
	標準偏差	—	—	—	454.8	152.0	385.8	470.5	214.9	384.0	210.8	383.2	383.2
第2期	標本数	—	—	—	34	38	72	322	419	746	361	459	825
	平均値	—	—	—	118.4	38.0	75.9	69.8	23.8	43.6	74.2	24.9	46.4
	標準偏差	—	—	—	100.0	40.4	84.5	104.9	75.5	92.0	104.9	73.2	91.6
第3期	標本数	—	—	—	34	38	72	324	428	758	368	473	847
	平均値	—	—	—	6.3	6.1	6.2	10.9	9.7	10.2	10.3	9.5	9.8
	標準偏差	—	—	—	4.4	4.6	4.5	27.0	21.7	24.1	25.5	20.9	22.9
入院から分娩第3期終了までの時間（分）	標本数	—	—	—	34	37	71	320	426	751	367	469	841
	平均値	—	—	—	1471.4	769.0	1100.1	852.8	420.8	603.6	951.7	449.3	667.2
	標準偏差	—	—	—	1142.2	631.3	973.9	815.9	449.7	666.6	939.9	478.8	758.8
第3期終了から帰室までの時間（分）	標本数	—	—	—	34	38	72	315	407	726	362	452	818
	平均値	—	—	—	164.1	197.6	181.8	161.3	160.1	160.4	161.2	161.8	161.3
	標準偏差	—	—	—	85.6	102.1	96.5	149.8	112.4	129.6	145.9	111.8	127.7

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。
 ※ それ以外の病院には、総合・地域周産期母子医療センター以外の病院が含まれる。
 ※ 「その他の分娩」とは、患者（産婦）票において帝王切開分娩と無痛分娩以外であったものであり、正常な経産分娩等が該当する。

表 9

入院経路、分娩時間（分娩施設別（病院・診療所）・分娩経験別）

- ・ 分娩施設別にみると、施設にかかわらず、「陣痛発来」による入院の割合が高く、その次に高いのが「前期破水」であった。
- ・ 総合・地域周産期母子医療センターとそれ以外の病院では、初産婦より経産婦の方が「計画分娩」の割合が高い。
- ・ 初産婦の「分娩時間」の平均値について、分娩第1期はそれ以外の病院（640分）、診療所（605分）、総合・地域周産期母子医療センター（587分）の順に長い、分娩第2期は総合・地域周産期母子医療センター（119分）、診療所（65分）、それ以外の病院（47分）の順に長くなっている。

		総合・地域周産期 母子医療センター			それ以外の病院			診療所		
		初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計
主な入院経路（1つのみ選択）										
陣痛発来	標本数	71	53	124	65	56	121	193	202	397
	件数	30	17	47	30	33	63	99	117	217
	割合	42.3%	32.1%	37.9%	46.2%	58.9%	52.1%	51.3%	57.9%	54.7%
前期破水	標本数	71	53	124	65	56	121	193	202	397
	件数	24	12	36	21	5	26	43	30	73
	割合	33.8%	22.6%	29.0%	32.3%	8.9%	21.5%	22.3%	14.9%	18.4%
計画分娩	標本数	71	53	124	65	56	121	193	202	397
	件数	11	13	24	8	12	18	25	24	51
	割合	15.5%	24.5%	19.4%	9.2%	21.4%	14.9%	13.5%	11.9%	12.8%
無痛分娩目的	標本数	71	53	124	65	56	121	193	202	397
	件数	2	6	8	2	4	4	6	12	18
	割合	2.8%	9.4%	5.6%	3.1%	3.6%	3.3%	3.1%	5.9%	4.5%
その他	標本数	71	53	124	65	56	121	193	202	397
	件数	4	6	10	6	4	10	19	19	38
	割合	5.6%	11.3%	8.1%	9.2%	7.1%	8.3%	9.8%	9.4%	9.6%
分娩時間（分）										
第1期	標本数	62	48	—	66	52	—	179	195	—
	平均値	586.8	239.1	—	640.4	305.2	—	604.8	298.7	—
	標準偏差	445.1	145.2	—	525.1	245.9	—	437.2	217.9	—
第2期	標本数	61	48	—	65	52	—	178	195	—
	平均値	118.7	22.23	—	46.7	19.3	—	64.6	17.7	—
	標準偏差	196.0	27.68	—	47.9	25.1	—	68.0	23.1	—
第3期	標本数	63	51	—	65	53	—	181	197	—
	平均値	11.27	8.8	—	8.6	9.7	—	7.0	5.6	—
	標準偏差	31.30	15.8	—	23.2	23.6	—	22.1	8.5	—
入院から分娩第3期終了までの時間（分）										
第3期終了から帰室までの時間（分）	標本数	67	50	—	63	51	—	179	196	—
	平均値	1133.2	693.1	—	920.9	545.7	—	973.5	488.0	—
	標準偏差	1330.9	834.3	—	825.0	545.1	—	880.8	456.3	—
第3期終了から帰室までの時間（分）	標本数	64	48	—	59	51	—	182	194	—
	平均値	176.0	167.1	—	161.2	167.2	—	142.5	147.4	—
	標準偏差	120.0	95.9	—	104.2	101.4	—	106.4	85.5	—

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。
 ※ それ以外の病院には、総合・地域周産期母子医療センター以外の病院が含まれる。

表 10

入院経路、分娩時間、搬送の状況（助産所・分娩経験別）

- ・ 助産所では、「陣痛発来」による入院の割合が高く、その次に高いのが「前期破水」であった。
- ・ 助産所からの搬送先では、「嘱託医療機関」の割合が最も高かった。

		助産所		
		初産婦	経産婦	計
主な入院経路（1つのみ選択）				
陣痛発来	標本数	61	175	240
	件数	52	155	210
	割合	85.2%	88.6%	87.5%
前期破水	標本数	61	175	240
	件数	8	16	25
	割合	13.1%	9.1%	10.4%
分娩時間（分）				
第1期	標本数	58	166	227
	平均値	709.2	314.2	413.8
	標準偏差	510.5	204.7	356.1
第2期	標本数	57	164	224
	平均値	87.8	36.0	49.1
	標準偏差	94.1	117.4	113.2
第3期	標本数	59	172	235
	平均値	20.8	14.0	15.6
	標準偏差	28.1	29.6	29.1
入院から分娩第3期終了までの時間（分）				
第3期終了から帰室までの時間（分）	標本数	58	172	233
	平均値	707.9	305.8	404.1
	標準偏差	596.7	246.5	404.3
第3期終了から帰室までの時間（分）	標本数	57	159	218
	平均値	204.3	175.9	182.7
	標準偏差	264.4	142.4	181.7

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

		助産所		
		初産婦	経産婦	計
搬送の状況				
搬送あり（複数選択）	標本数	64	178	247
	件数	9	12	21
	割合	14.1%	6.7%	8.5%
分娩期（母体搬送）	標本数	10	13	23
	件数	7	6	13
	割合	70.0%	46.2%	56.5%
産褥入院中	標本数	9	12	21
	件数	1	2	3
	割合	11.1%	16.7%	14.3%
新生児（入院中）	標本数	9	13	22
	件数	2	5	7
	割合	22.2%	38.5%	31.8%
搬送先（1つのみ選択）				
嘱託医	標本数	9	—	21
	件数	1	—	1
	割合	11.1%	—	4.8%
嘱託医療機関	標本数	10	12	22
	件数	6	5	11
	割合	60.0%	41.7%	50.0%
連携医療機関	標本数	9	12	21
	件数	1	4	5
	割合	11.1%	33.3%	23.8%
その他の医療機関	標本数	9	13	22
	件数	2	4	6
	割合	22.2%	30.8%	27.3%

表 11

分娩時医療行為（分娩状況別・分娩施設別・分娩経験別）

- 帝王切開・無痛分娩の方がその他の分娩に比べ、「子宮頸管拡張」「感染予防の抗菌薬点滴」「血管確保」「陣痛誘発」の実施割合が高かった。
- 分娩施設にかかわらず、初産婦の方が経産婦に比べ、「子宮頸管拡張」「感染予防の抗菌薬内服」「感染予防の抗菌薬点滴」「陣痛促進」「会陰切開」「会陰縫合」の実施割合が高かった。

		帝王切開			無痛分娩			その他の分娩			計		
		初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計
標本数		28	24	52	37	38	75	335	435	777	400	497	904
子宮頸管拡張	件数	8	1	9	9	18	27	47	34	82	54	53	119
	割合	28.6%	4.2%	17.3%	24.3%	47.4%	36.0%	14.0%	7.8%	10.6%	16.0%	10.7%	13.1%
	割合	6	1	7	11	11	22	76	57	133	92	69	162
感染予防の抗菌薬内服	件数	19	16	35	15	4	19	75	80	155	109	70	179
	割合	67.9%	66.7%	67.3%	40.5%	10.5%	25.3%	22.4%	18.1%	17.1%	23.3%	13.9%	17.0%
	割合	10	1	11	17	25	42	73	65	138	100	92	192
感染予防の抗菌薬点滴	件数	28	21	49	36	38	74	287	301	591	351	360	714
	割合	100.0%	87.5%	94.2%	97.3%	100.0%	98.7%	85.7%	69.2%	76.1%	87.8%	72.4%	79.0%
	割合	7	2	9	22	15	37	96	67	163	125	84	209
陣痛促進	件数	25.0%	8.3%	17.3%	59.5%	39.5%	49.3%	28.7%	15.4%	21.0%	31.3%	16.9%	23.1%
	割合	10	1	11	17	25	42	73	65	138	100	92	192
	割合	35.7%	4.2%	21.2%	45.9%	68.4%	67.3%	21.6%	14.9%	17.9%	25.0%	18.5%	21.3%
陣痛誘発	件数	3	—	3	26	18	44	206	70	276	235	88	323
	割合	10.7%	—	5.8%	70.3%	47.4%	58.7%	61.5%	16.1%	35.5%	58.8%	17.7%	35.7%
	割合	3	—	3	33	31	64	264	218	483	300	249	550
会陰縫合	件数	10.7%	—	5.8%	89.2%	81.6%	85.3%	78.8%	50.1%	62.2%	75.0%	50.1%	60.8%
	割合	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	割合	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

		総合・地域周産期 母子医療センター			それ以外の病院			診療所			助産所		
		初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計
標本数		74	57	131	67	56	123	195	206	403	64	178	247
子宮頸管拡張	件数	18	13	31	12	6	18	34	34	69	—	—	—
	割合	24.3%	22.8%	23.7%	17.9%	10.7%	14.6%	17.4%	16.5%	17.1%	—	—	—
	割合	14	4	18	16	9	25	63	56	119	—	—	—
感染予防の抗菌薬内服	件数	18.9%	7.0%	13.7%	23.9%	16.1%	20.3%	32.3%	27.2%	29.5%	—	—	—
	割合	24	15	39	26	8	34	59	47	106	—	—	—
	割合	32.4%	26.3%	29.8%	38.8%	14.3%	27.6%	30.3%	22.8%	26.3%	—	—	—
感染予防の抗菌薬点滴	件数	71	53	124	67	52	119	190	203	395	23	52	76
	割合	95.9%	93.0%	94.7%	100.0%	92.9%	96.7%	97.4%	98.5%	98.0%	35.9%	29.2%	30.9%
	割合	21	8	29	20	10	30	54	66	120	—	—	—
陣痛促進	件数	28.4%	14.0%	22.1%	29.9%	17.9%	24.4%	43.1%	32.0%	37.2%	—	—	—
	割合	22	19	41	17	18	35	61	55	117	—	—	—
	割合	29.7%	33.3%	31.3%	25.4%	32.1%	28.5%	31.3%	26.7%	29.0%	—	—	—
陣痛誘発	件数	45	17	62	53	19	72	187	80	267	—	2	2
	割合	60.8%	29.8%	47.3%	79.1%	33.9%	88.9%	70.3%	24.3%	46.4%	—	1.1%	0.8%
	割合	57	39	96	56	44	100	171	148	320	16	18	34
会陰縫合	件数	77.0%	68.4%	73.3%	83.6%	78.6%	81.3%	87.7%	71.8%	79.4%	25.0%	10.1%	13.8%
	割合	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	割合	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。
 ※ それ以外の病院には、総合・地域周産期母子医療センター以外の病院が含まれる。
 ※ 「その他の分娩」とは、患者（産婦）票において帝王切開分娩と無痛分娩以外であったものであり、正常な経腔分娩等が該当する。

表 12

入院中の助産ケア（分娩状況別・分娩経験別）

- 入院中の助産ケアの実施回数や指導時間は、経産婦に比べて初産婦の方が多い。
- 「母子同室」については、分娩経験の有無にかかわらず、無痛分娩＞帝王切開＞その他の分娩の順に実施割合が高い。
- 「授乳指導」については、平均的な1日あたりの回数が4.6回、1入院あたりの合計回数が19.4回であり、産後入院中は多数回の授乳指導が行われている。
- 「沐浴指導」の実施回数は、初産婦で平均1.7回、経産婦で1.5回であり、経産婦にも実施されている。
- 「育児技術指導」の延べ時間は、初産婦で平均257分、経産婦で平均218分であり、「退院指導」の時間は、初産婦で平均45分、経産婦で平均42分であった。

		帝王切開			無痛分娩			その他の分娩			計		
		初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計
母子同室	標本数	28	24	52	37	38	75	335	435	777	400	497	904
	件数	24	19	43	32	34	66	241	228	470	297	281	579
	割合	85.7%	79.2%	82.7%	86.5%	89.5%	88.0%	71.9%	52.4%	60.5%	74.3%	56.5%	64.0%
授乳指導（平均的な1日あたりの回数）	標本数	28	21	49	37	37	74	322	414	737	387	472	866
	平均値	4.5	4.5	4.5	3.8	4.2	4.0	5.2	4.2	4.7	5.1	4.2	4.6
	標準偏差	2.4	2.2	2.3	2.4	1.9	2.1	4.2	2.8	3.5	3.9	2.7	3.3
授乳指導（1入院あたりの合計回数）	標本数	28	21	49	37	37	74	319	412	737	384	470	860
	平均値	26.4	19.4	23.4	16.8	15.4	16.1	22.0	17.4	19.4	21.8	17.3	19.4
	標準偏差	16.8	11.7	15.1	12.9	8.6	10.9	13.5	13.8	13.8	13.8	13.4	13.7
沐浴指導（1入院あたりの合計回数）	標本数	28	21	49	37	36	73	326	417	750	391	474	872
	平均値	1.6	1.2	1.4	1.2	0.9	1.0	1.7	1.5	1.6	1.7	1.5	1.6
	標準偏差	1.2	0.6	1.0	0.6	0.5	0.6	1.4	1.5	1.5	1.3	1.5	1.4
育児技術指導（延べ時間：分）	標本数	27	21	48	37	33	70	312	398	716	376	452	834
	平均値	271.5	226.4	251.8	180.2	183.5	171.2	267.1	220.6	246.9	256.9	218.1	235.4
	標準偏差	361.2	215.6	304.1	162.7	332.0	255.1	383.6	935.1	741.7	367.0	883.0	695.1
退院指導時間（分）	標本数	28	21	49	37	37	74	323	415	744	389	473	867
	平均値	41.8	38.1	40.2	41.5	36.7	38.6	46.2	42.3	44.2	45.4	41.6	43.5
	標準偏差	35.8	18.0	29.3	23.3	18.4	21.0	53.0	31.2	42.2	49.8	29.9	40.2

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。
 ※ 「その他の分娩」とは、患者（産婦）票において帝王切開分娩と無痛分娩以外であったものであり、正常な経腔分娩等が該当する。

表 13

入院中の助産ケア（分娩施設別・分娩経験別）

- 「授乳指導」については、総合・地域周産期母子医療センターやそれ以外の病院での実施回数が多く、「育児技術指導」時間も長い傾向にある。
- 「沐浴指導」は、助産所での実施回数が多く、「退院指導」の時間も長い傾向にある。
- 「授乳指導」の平均的な1日あたりの実施回数は、総合・地域周産期母子医療センターで平均5.3回、それ以外の病院で平均5.0回、診療所で平均4.2回、助産所で平均4.7回であった。

		総合・地域周産期 母子医療センター			それ以外の病院			診療所			助産所 ※注 1		
		初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計
母子同室	標本数	74	57	131	67	56	123	195	206	403	—	—	—
	件数	60	45	105	59	49	108	178	187	365	—	—	—
	割合	81.1%	78.9%	80.2%	88.1%	87.5%	87.8%	91.3%	90.8%	90.8%	—	—	—
	平均値	7.3	4.8	12.1	6.3	5.4	11.7	19.3	20.1	39.6	5.8	16.9	23.2
授乳指導（平均的な1日あたりの回数）	標準偏差	5.7	4.6	5.3	5.2	4.7	5.0	4.4	4.0	4.2	6.2	4.2	4.7
	標準偏差	2.8	2.8	2.8	7.3	2.5	5.6	2.3	2.2	2.2	4.0	3.2	3.5
	平均値	7.2	4.8	12.0	6.2	5.4	11.6	19.3	20.0	39.5	5.7	16.8	22.9
	標準偏差	27.6	22.0	25.3	19.8	20.7	20.2	18.9	15.6	17.3	26.4	16.9	19.4
授乳指導（1入院あたりの合計回数）	標準偏差	15.7	15.1	15.6	10.9	13.9	12.3	11.1	10.4	10.9	18.3	15.3	16.5
	平均値	7.4	4.9	12.3	6.5	5.5	12.0	19.5	20.0	39.7	5.7	17.0	23.2
	標準偏差	1.5	1.0	1.3	1.6	1.2	1.4	1.5	1.4	1.4	2.6	2.0	2.2
	標準偏差	1.0	0.5	0.9	1.4	0.5	1.1	1.3	1.3	1.3	1.2	1.8	1.7
育児技術指導（延べ時間：分）	標本数	73	46	119	56	48	104	190	384	57	166	227	227
	平均値	245.4	263.3	252.3	314.8	239.1	279.9	212.3	231.0	221.2	363.2	184.7	230.4
	標準偏差	316.0	407.0	352.4	536.5	380.1	470.1	260.3	1302.0	937.5	490.2	283.5	352.9
	標準偏差	73	50	123	65	54	119	193	203	398	57	166	227
退院指導時間（分）	平均値	40.9	39.7	40.4	41.2	43.6	42.3	39.0	32.7	35.8	77.8	52.5	59.4
	標準偏差	18.0	19.0	18.3	17.1	18.7	17.8	21.3	16.4	19.2	116.6	42.4	69.6

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。
 ※ それ以外の病院には、総合・地域周産期母子医療センター以外の病院が含まれる。
 ※ 注 1 助産所票には母子同室の質問項目無し

表 14

新生児の概要（分娩状況別・分娩施設別・分娩経験別）

- 新生児の「出生時の体重」は、全般的に「経産婦」の方が「初産婦」よりも重く、「在院日数」は、「初産婦」の方が「経産婦」よりも長い。他方で、標準偏差をみると、両者とも、「経産婦」の方が「初産婦」よりもばらつきが大きい。
- 新生児の「出生時の体重」は、その他の分娩＞無痛分娩＞帝王切開の順で重い。

		帝王切開			無痛分娩			その他の分娩			計		
		初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計
出生時の体重	標本数	28	24	52	37	38	75	332	433	771	397	495	897
	平均値	3,054	2,920	2,992	3,018	3,067	3,043	3,023	3,121	3,079	3,024	3,107	3,071
	標準偏差	338.3	338.7	341.8	357.3	280.5	319.5	357.5	365.5	365.0	355.4	360.5	360.5
	標準偏差	26	24	50	37	38	75	329	429	765	392	491	890
在院日数（出生及び退院日を含める）	平均値	8.4	8.2	8.3	8.8	8.3	8.5	8.9	8.4	8.6	6.0	5.5	5.7
	標準偏差	2.8	3.9	3.3	0.9	0.6	0.8	1.7	2.6	2.2	1.8	2.6	2.3

		総合・地域周産期 母子医療センター			それ以外の病院			診療所			助産所		
		初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計
出生時の体重	標本数	74	56	130	67	56	123	195	206	403	61	177	242
	平均値	3,022	3,070	3,043	2,996	3,088	3,038	3,031	3,084	3,059	3,037	3,150	3,125
	標準偏差	398.1	441.0	416.2	360.3	293.5	333.5	342.0	338.4	340.0	344.5	375.3	370.8
	標準偏差	72	56	128	67	56	123	193	204	399	60	175	240
在院日数（出生及び退院日を含める）	平均値	7.1	7.9	7.4	6.8	6.3	6.5	5.9	5.5	5.7	4.3	4.5	4.4
	標準偏差	2.7	5.2	4.0	1.8	1.9	1.8	1.0	1.0	1.0	1.3	2.3	2.1

※ 本調査の実施期間は1か月であったが、助産所の在院日数で1件30日を大きく上回る日数があったため外れ値として除外。
 ※ それ以外の病院には、総合・地域周産期母子医療センター以外の病院が含まれる。
 ※ 「その他の分娩」とは、患者（産婦）個票において帝王切開分娩と無痛分娩以外であったものであり、正常な経産分娩等が該当する。

表 15

新生児へ提供した医療等（分娩状況別・分娩経験別）

- 新生児への「入院中の診療日数」については、「小児科医」では帝王切開＞その他の分娩＞無痛分娩の順で多い。「産科医」では、帝王切開＞無痛分娩＞その他の分娩の順で多い。
- 検査等について、「アブニアセンサー装着」は全体の47%に実施され、「新生児聴覚検査」は全体の87%に実施されていた。
- 無痛分娩・その他の分娩に比べ、帝王切開で出生直後に「血糖測定対象かどうか」「SpO2モニター装着」の割合が高い。
- 治療については、帝王切開・その他の分娩と比べ、無痛分娩で「光線療法」の割合が高い。

診療	診療項目	帝王切開			無痛分娩			その他の分娩			計		
		初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計
診療	小児科医による診療日数 (入院中に限る) ※注1	患者数 17	8	25	患者数 22	2	24	患者数 11	18	29	患者数 11	20	31
		平均値 2.5	8.4	2.1	平均値 2.3	1.6	1.9	平均値 2.6	5.5	3.0	平均値 2.5	5.5	3.0
	産科医による診療日数 (入院中に限る) ※注1	患者数 27	27	54	患者数 35	38	73	患者数 25	244	269	患者数 51	327	378
		平均値 2.2	2.7	2.4	平均値 2.3	1.7	2.0	平均値 1.8	1.7	1.8	平均値 1.7	1.8	1.8
検査等	胎動計による観察日数 ※注2	患者数 —	—	—	患者数 —	—	—	患者数 —	—	—	患者数 —	—	—
		平均値 —	—	—	平均値 —	—	—	平均値 4.8	4.9	4.8	平均値 4.8	4.9	4.8
	新生児聴覚検査	患者数 —	—	—	患者数 —	—	—	患者数 —	—	—	患者数 —	—	—
		平均値 —	—	—	平均値 —	—	—	平均値 1.7	1.6	1.7	平均値 1.7	1.6	1.7
検査等	採血検査の項目 ※注3	患者数 17	8	25	患者数 22	2	24	患者数 11	18	29	患者数 11	20	31
		割合 52.1%	33.3%	48.1%	割合 59.5%	63.2%	61.3%	割合 58.2%	64.3%	60.9%	割合 56.0%	63.2%	60.3%
	黄斑検査 ※注4	患者数 27	27	54	患者数 35	38	73	患者数 25	244	269	患者数 51	327	378
		割合 95.4%	91.1%	94.3%	割合 94.6%	97.4%	96.0%	割合 96.1%	96.1%	97.9%	割合 96.0%	97.9%	96.6%
検査等	出生直後血糖測定対象かどうか	患者数 27	27	54	患者数 35	38	73	患者数 25	244	269	患者数 51	327	378
		割合 95.4%	91.1%	94.3%	割合 94.6%	97.4%	96.0%	割合 96.1%	96.1%	97.9%	割合 96.0%	97.9%	96.6%
	SpO2モニター装着（出生直後等）	患者数 27	27	54	患者数 35	38	73	患者数 25	244	269	患者数 51	327	378
		割合 95.4%	91.1%	94.3%	割合 94.6%	97.4%	96.0%	割合 96.1%	96.1%	97.9%	割合 96.0%	97.9%	96.6%
検査等	アブニアセンサー装着	患者数 19	19	38	患者数 12	12	24	患者数 18	18	36	患者数 36	36	72
		割合 67.9%	67.9%	67.9%	割合 32.6%	31.6%	32.1%	割合 68.0%	68.0%	68.0%	割合 68.0%	68.0%	68.0%
	先天性代謝異常等検査	患者数 100	100	200	患者数 100	100	200	患者数 100	100	200	患者数 100	100	200
		割合 100.0%	100.0%	100.0%	割合 100.0%	100.0%	100.0%	割合 100.0%	100.0%	100.0%	割合 100.0%	100.0%	100.0%
治療等	保温器収容（酸素投与のための）	患者数 5	5	10	患者数 2	2	4	患者数 5	5	10	患者数 12	12	24
		割合 17.9%	17.9%	17.9%	割合 5.6%	5.6%	5.6%	割合 19.6%	19.6%	19.6%	割合 23.5%	23.5%	23.5%
	保温器収容（保温のための）	患者数 45	45	90	患者数 15	15	30	患者数 15	15	30	患者数 30	30	60
		割合 15.0%	15.0%	15.0%	割合 4.4%	4.4%	4.4%	割合 19.6%	19.6%	19.6%	割合 23.5%	23.5%	23.5%
治療等	保温（保温器収容を含む） ※注2	患者数 —	—	—	患者数 —	—	—	患者数 —	—	—	患者数 —	—	—
		平均値 —	—	—	平均値 —	—	—	平均値 13.4%	13.4%	13.4%	平均値 11.3%	11.3%	11.3%
	光線療法 ※注1	患者数 1	1	2	患者数 4	4	8	患者数 8	8	16	患者数 43	43	86
		割合 3.3%	3.3%	3.3%	割合 11.3%	11.3%	11.3%	割合 29.6%	29.6%	29.6%	割合 103.8%	103.8%	103.8%
新生児への処置・ケア	換気装置	患者数 27	27	54	患者数 35	38	73	患者数 25	244	269	患者数 51	327	378
		割合 95.4%	91.1%	94.3%	割合 94.6%	97.4%	96.0%	割合 96.1%	96.1%	97.9%	割合 96.0%	97.9%	96.6%
	皮膚ケア	患者数 27	27	54	患者数 35	38	73	患者数 25	244	269	患者数 51	327	378
		割合 95.4%	91.1%	94.3%	割合 94.6%	97.4%	96.0%	割合 96.1%	96.1%	97.9%	割合 96.0%	97.9%	96.6%
新生児への処置・ケア	ビタミンド2内服	患者数 27	27	54	患者数 35	38	73	患者数 25	244	269	患者数 51	327	378
		割合 95.4%	91.1%	94.3%	割合 94.6%	97.4%	96.0%	割合 96.1%	96.1%	97.9%	割合 96.0%	97.9%	96.6%
	沐浴・ドレナリア（清拭）の回数 (入院中に限る)	患者数 25	25	50	患者数 36	36	72	患者数 30	30	60	患者数 37	37	74
		平均値 5.4	7.0	6.1	平均値 4.1	4.3	4.2	平均値 4.8	4.8	4.8	平均値 4.8	4.8	4.8

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。
 ※ それ以外の病院には、総合・地域周産期母子医療センター以外の病院が含まれる。
 ※ 「その他の分娩」とは、患者（産婦）票において帝王切開分娩と無痛分娩以外であったものであり、正常な経産分娩等が該当する。
 ※ 患者票の出産経緯（初産・経産）に係る情報に欠損があるため、初産婦と経産婦の件数の合計が総計の件数と一致しない場合がある。

※ 注1 病院・診療所のみ
 ※ 注2 助産所のみ
 ※ 注3 助産所の場合は、「採血（足底からの採血を含む）」
 ※ 注4 助産所の場合は、「ミノルタ黄斑計測定」

表 16

新生児へ提供した医療等（分娩施設別・分娩経験別）

- 新生児への「入院中の診療日数」については、「小児科医」では総合・地域周産期母子医療センター＞診療所＞それ以外の病院の順で多い。「産科医」では、総合・地域周産期母子医療センターとそれ以外の病院＞診療所の順で多い。
- 検査等について、「アブニアセンサー装着」はそれ以外の病院72%、総合・地域周産期母子医療センター67%、診療所50%、助産所19%の順で割合が高い。
- 治療については、それ以外の病院・診療所に比べ、総合・地域周産期母子医療センターで「光線療法」の割合が高い。

診療	診療項目	総合・地域周産期 母子医療センター			それ以外の病院			診療所			助産所		
		初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計
診療	小児科医による診療日数 (入院中に限る) ※注1	患者数 74	96	170	患者数 64	90	154	患者数 174	183	357	患者数 —	—	—
		平均値 3.8	4.7	4.2	平均値 3.0	3.0	3.0	平均値 0.9	0.7	0.8	平均値 —	—	—
	産科医による診療日数 (入院中に限る) ※注1	患者数 74	96	170	患者数 64	90	154	患者数 174	183	357	患者数 —	—	—
		平均値 0.9	0.7	0.8	平均値 1.2	1.4	1.3	平均値 2.6	2.8	2.7	平均値 —	—	—
検査等	胎動計による観察日数 ※注2	患者数 —	—	—	患者数 —	—	—	患者数 —	—	—	患者数 59	167	226
		平均値 —	—	—	平均値 —	—	—	平均値 —	—	—	平均値 4.8	4.9	4.8
	新生児聴覚検査	患者数 —	—	—	患者数 —	—	—	患者数 —	—	—	患者数 —	—	—
		平均値 —	—	—	平均値 —	—	—	平均値 —	—	—	平均値 1.3	1.7	1.5
検査等	採血検査の項目 ※注3	患者数 49	32	81	患者数 32	52	84	患者数 101	119	220	患者数 42	135	177
		割合 66.2%	56.1%	61.8%	割合 47.8%	57.1%	52.0%	割合 51.8%	58.8%	54.1%	割合 65.6%	75.8%	73.3%
	黄斑検査 ※注4	患者数 72	54	126	患者数 53	83	136	患者数 198	393	591	患者数 60	172	232
		割合 97.3%	94.7%	96.2%	割合 97.0%	94.6%	95.9%	割合 99.0%	96.1%	97.3%	割合 93.8%	96.6%	95.5%
検査等	出生直後血糖測定対象かどうか	患者数 50	21	71	患者数 15	27	42	患者数 51	50	101	患者数 10	54	64
		割合 40.5%	36.8%	38.9%	割合 23.9%	19.6%	20.0%	割合 24.3%	25.1%	24.7%	割合 19.1%	18.6%	18.8%
	SpO2モニター装着（出生直後等）	患者数 68	48	116	患者数 62	92	154	患者数 161	165	326	患者数 43	112	155
		割合 91.9%	84.2%	88.5%	割合 92.9%	92.7%	92.6%	割合 80.1%	81.4%	80.7%	割合 67.2%	62.9%	64.4%
検査等	アブニアセンサー装着	患者数 56	35	91	患者数 31	39	70	患者数 107	99	206	患者数 14	34	48
		割合 75.7%	56.1%	67.2%	割合 26.1%	27.9%	27.2%	割合 64.9%	46.1%	50.4%	割合 21.9%	19.1%	19.4%
	先天性代謝異常等検査	患者数 73	55	128	患者数 66	96	162	患者数 192	203	395	患者数 54	168	222
		割合 98.6%	96.9%	97.7%	割合 98.9%	100.0%	99.2%	割合 98.5%	98.5%	98.5%	割合 84.4%	94.4%	91.9%
検査等	新生児聴覚検査	患者数 74	96	170	患者数 64	90	154	患者数 174	183	357	患者数 —	—	—
		割合 100.0%	96.5%	98.0%	割合 100.0%	100.0%	100.0%	割合 98.1%	98.5%	98.3%	割合 —	—	—
	保温器収容（酸素投与のための）	患者数 11	6	17	患者数 5	8	13	患者数 14	12	26	患者数 —	—	—
		割合 14.9%	15.8%	15.3%	割合 7.5%	6.4%	6.9%	割合 7.2%	5.8%	6.7%	割合 —	—	—
検査等	保温器収容（保温のための）	患者数 2	1	3	患者数 2	2	4	患者数 1	1	2	患者数 —	—	—
		割合 2.6%	2.1%	2.3%	割合 10.4%	16.1%	13.0%	割合 15.9%	15.9%	15.9%	割合 —	—	—
	保温（保温器収容を含む） ※注2	患者数 —	—	—	患者数 —	—	—	患者数 —	—	—	患者数 45	123	172
		平均値 —	—	—	平均値 —	—	—	平均値 —	—	—	平均値 10.3%	69.1%	69.6%
治療等	光線療法 ※注1	患者数 1	1	2	患者数 4	4	8	患者数 8	8	16	患者数 43	43	86
		割合 1.3%	1.3%	1.3%	割合 11.3%	11.3%	11.3%	割合 4.6%	4.6%	4.6%	割合 103.8%	103.8%	103.8%
	換気装置	患者数 70	45	115	患者数 66	93	159	患者数 186	187	373	患者数 56	164	220
		割合 94.6%	78.9%	87.8%	割合 98.9%	94.6%	96.7%	割合 95.4%	90.8%	93.1%	割合 87.5%	92.1%	91.1%
治療等	皮膚ケア	患者数 70	45	115	患者数 66	93	159	患者数 186	187	373	患者数 56	164	220
		割合 94.6%	78.9%	87.8%	割合 98.9%	94.6%	96.7%	割合 95.4%	90.8%	93.1%	割合 87.5%	92.1%	91.1%
	ビタミンド2内服	患者数 70	45	115	患者数 66	93	159	患者数 186	187	373	患者数 56	164	220
		割合 94.6%	78.9%	87.8%	割合 98.9%	94.6%	96.7%	割合 95.4%	90.8%	93.1%	割合 87.5%	92.1%	91.1%
治療等	沐浴・ドレナリア（清拭）の回数 (入院中に限る)	患者数 68	54	122	患者数 62	93	155	患者数 182	192	374	患者数 58	168	226
		平均値 4.8	6.2	5.5	平均値 5.7	5.3	5.5	平均値 4.8	4.8	4.8	平均値 4.8	4.8	4.8

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。
 ※ それ以外の病院には、総合・地域周産期母子医療センター以外の病院が含まれる。
 ※ 患者票の出産経緯（初産・経産）に係る情報に欠損があるため、初産婦と経産婦の件数の合計が総計の件数と一致しない場合がある。

※ 注1 病院・診療所のみ
 ※ 注2 助産所のみ
 ※ 注3 助産所の場合は、「採血（足底からの採血を含む）」
 ※ 注4 助産所の場合は、「ミノルタ黄斑計測定」

表 17

提供したサービス等（分娩状況別・分娩施設別・分娩経験別）

- 「お祝い膳」以外のサービス（写真撮影、足形、エステ）の提供は、「初産婦」に比べて「経産婦」の方が割合が高い。
- 「お祝い膳」の提供は、助産所が最も割合が低い。
- 「お祝い膳」以外のサービス（写真撮影、足形、エステ）の提供は、総合・地域周産期母子医療センターが他施設と比べて割合が低い。

		帝王切開			無痛分娩			その他の分娩			計		
		初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計
標本数		28	24	52	37	38	75	335	435	777	400	497	904
お祝い膳	件数	21	17	38	31	27	58	234	257	496	286	301	592
	割合	75.0%	70.8%	73.1%	83.8%	71.1%	77.3%	69.9%	59.1%	63.8%	71.5%	60.6%	65.5%
写真撮影	件数	18	12	30	20	21	41	201	294	500	239	327	571
	割合	64.3%	50.0%	57.7%	54.1%	55.3%	54.7%	60.0%	67.6%	64.4%	59.8%	65.8%	63.2%
足形	件数	11	9	20	14	18	32	167	243	416	192	270	468
	割合	39.3%	37.5%	38.5%	37.8%	47.4%	42.7%	49.9%	55.9%	53.5%	48.0%	54.3%	51.8%
エステ	件数	11	5	16	18	21	39	104	157	266	133	183	321
	割合	39.3%	20.8%	30.8%	48.6%	55.3%	52.0%	31.0%	36.1%	34.2%	33.3%	36.8%	35.5%

		総合・地域周産期 母子医療センター			それ以外の病院			診療所			助産所		
		初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計
標本数		74	57	131	67	56	123	195	206	403	64	178	247
お祝い膳	件数	63	39	102	54	44	98	148	170	319	21	48	73
	割合	85.1%	68.4%	77.9%	80.6%	78.6%	79.7%	75.9%	82.5%	79.2%	32.8%	27.0%	29.6%
写真撮影	件数	15	15	30	34	33	67	155	168	325	35	111	149
	割合	20.3%	26.3%	22.9%	50.7%	58.9%	54.5%	79.5%	81.6%	80.6%	54.7%	62.4%	60.3%
足形	件数	20	9	29	32	28	60	104	123	228	36	110	151
	割合	27.0%	15.8%	22.1%	47.8%	50.0%	48.8%	53.3%	59.7%	56.6%	56.3%	61.8%	61.1%
エステ	件数	4	—	4	14	15	29	101	110	211	14	58	77
	割合	5.4%	—	3.1%	20.9%	26.8%	23.6%	51.8%	53.4%	52.4%	21.9%	32.6%	31.2%

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

※ それ以外の病院には、総合・地域周産期母子医療センター以外の病院が含まれる。

※ 「その他の分娩」とは、患者（産婦）票において帝王切開分娩と無痛分娩以外であったものであり、正常な経産分娩等が該当する。

表 18

費用（分娩状況別・分娩経験別）（出産育児一時金の直接支払制度専用請求書記載内容）

- 「産婦合計負担額」の平均値は、無痛分娩（603,338円）＞帝王切開（511,299円）＞その他の分娩（485,636円）の順で高い。
- 「室料差額」「分娩介助料」「処置・手当料」を除き、「経産婦」と比べ、「初産婦」の方が高い。「産婦合計負担額」の平均は、「経産婦」が476,365円に対して、「初産婦」は523,711円。

		帝王切開			無痛分娩			その他の分娩			計		
		初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計
入院料	標本数	5	2	7	30	31	61	283	374	662	318	407	730
	平均値	184,400	84,000	156,714	134,720	105,845	120,046	126,401	118,161	121,520	128,097	117,086	121,725
	標準偏差	201,059	21,213	171,537	67,783	69,870	69,810	63,943	84,288	76,063	68,003	83,096	76,815
	標準範囲	10	17	27	18	20	38	119	91	212	147	128	277
室料差額	標本数	89,300	59,142	67,793	49,699	100,780	76,984	37,804	37,889	37,889	42,859	49,651	49,708
	平均値	87,810	42,901	63,908	47,899	289,458	190,502	23,816	26,182	24,348	57,190	106,180	77,043
	標準偏差	20	22	42	15	12	27	81	47	128	116	81	197
	標準範囲	258,708	221,923	238,011	276,733	398,308	312,978	282,447	249,910	281,516	286,158	288,283	287,050
分娩介助料	標本数	77,124	88,438	83,989	103,637	83,621	102,183	72,582	88,662	78,515	77,572	97,145	85,928
	平均値	262,000	233,000	252,333	332,573	310,686	322,105	286,706	288,111	287,151	290,962	289,255	289,504
	標準偏差	25,456	24,583	24,583	105,982	73,632	91,615	80,575	73,391	76,455	83,970	73,401	77,966
	標準範囲	17	18	35	33	34	67	275	379	660	325	431	762
新生児管理保育料	標本数	94,033	73,724	83,588	70,565	70,056	70,307	57,722	54,138	55,548	60,925	56,212	58,134
	平均値	37,544	38,137	38,686	28,521	71,432	54,275	23,924	23,209	23,513	26,640	30,893	29,150
	標準偏差	13	12	25	29	30	59	260	293	558	302	335	642
	標準範囲	28,518	13,873	21,488	36,786	16,157	26,297	17,209	16,631	16,283	19,576	18,615	17,406
検査・薬剤料	標本数	33,071	13,306	26,149	33,725	12,485	27,115	16,107	16,392	18,711	20,236	15,054	17,767
	平均値	7	11	18	25	24	49	227	302	584	259	337	601
	標準偏差	20,400	26,793	24,282	60,747	56,519	61,827	23,883	36,235	29,930	29,872	34,217	32,861
	標準範囲	25,336	36,199	31,701	54,694	68,037	61,957	20,434	28,816	28,714	28,669	33,654	31,546
処置・手当料	標本数	21	23	44	37	34	71	304	403	713	352	444	804
	平均値	12,871	12,174	12,523	12,000	12,383	12,169	12,056	11,991	12,019	12,080	12,027	12,050
	標準偏差	2,519	834	1,804	0	2,038	1,424	674	603	781	603	781	824
	標準範囲	20	22	42	37	34	71	297	388	691	354	444	804
産科医療補償制度の掛金	標本数	19	22	41	19	21	40	110	78	189	148	121	270
	平均値	101,443	81,032	90,490	61,540	67,163	64,492	30,591	17,981	25,227	43,660	37,980	40,954
	標準偏差	64,796	62,924	63,830	114,510	147,375	131,142	38,448	23,047	33,414	61,778	73,502	67,155
	標準範囲	20	22	42	37	34	71	295	390	690	352	444	804
産婦合計負担額	標本数	592,841	437,170	511,299	639,012	564,817	603,338	504,562	470,891	485,636	523,711	476,365	497,385
	平均値	224,004	227,430	236,512	229,004	225,014	228,589	170,660	175,715	173,662	185,670	184,070	185,614
	標準偏差	19	23	42	37	34	71	295	390	690	352	444	804
	標準範囲	458,358	429,861	442,752	499,411	511,590	508,401	491,242	487,353	488,626	489,888	495,681	486,998
代理受取額	標本数	58,145	96,025	81,478	3,278	71,390	80,064	28,671	46,999	44,034	91,250	56,168	50,290
	平均値	19	23	42	37	34	71	295	390	690	352	444	804
	標準偏差	19	23	42	37	34	71	295	390	690	352	444	804
	標準範囲	19	23	42	37	34	71	295	390	690	352	444	804

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

※ 「その他の分娩」とは、患者（産婦）票において帝王切開分娩と無痛分娩以外であったものであり、正常な経産分娩等が該当する。

表 19

費用（分娩施設別・分娩経験別）（出産育児一時金の直接支払制度専用請求書記載内容）

- 「産婦合計負担額」は、総合・地域周産期母子医療センター（537,358円）＞診療所（513,405円）＞それ以外の病院（503,551円）＞助産所（448,154円）の順で高かった。
- 「入院料」、「室料差額」、「一部負担金等」では総合・地域周産期母子医療センターが高いが、それ以外の項目については、診療所が高い傾向。

		総合・地域周産期 母子医療センター			それ以外の病院			診療所			助産所		
		初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計
入院料	標本数	44	28	82	53	40	93	165	175	342	56	154	213
	平均値	208,298	197,013	203,066	162,650	183,990	188,921	103,369	90,145	96,339	105,245	118,314	114,930
	標準偏差	64,410	77,418	70,514	71,022	71,710	71,060	54,223	38,571	47,190	34,809	105,340	91,459
	標準範囲	33	25	58	31	22	53	81	80	163	2	1	3
室料差額	平均値	61,361	48,848	55,967	38,990	45,773	41,806	36,489	51,277	43,781	18,800	25,000	20,867
	標準偏差	55,618	23,327	44,775	21,675	27,455	24,225	30,126	183,206	95,709	8,768	—	7,159
	標準範囲	32	24	56	30	14	44	54	43	97	—	—	—
	標準範囲	243,691	251,950	247,037	225,051	170,436	207,674	280,850	290,774	288,249	—	—	—
分娩助産料 ※注 1	平均値	78,822	96,642	86,157	61,266	81,855	72,244	78,137	84,308	80,653	—	—	—
	標準偏差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	標準範囲	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	標準範囲	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
分娩料	平均値	255,345	215,484	243,639	236,852	245,578	242,929	312,147	308,843	309,375	286,514	290,622	289,668
	標準偏差	105,638	71,019	94,545	73,785	90,638	87,744	77,814	68,455	74,257	73,142	64,181	66,009
	標準範囲	41	32	73	47	42	89	179	191	372	58	166	228
	標準範囲	54,734	61,062	57,508	55,724	56,718	56,193	67,824	62,459	64,954	48,226	47,961	47,963
新生児管理保育料	平均値	19,794	11,627	16,109	17,958	14,707	16,934	22,158	20,192	21,105	11,382	10,328	10,505
	標準偏差	25,414	8,167	19,930	18,685	13,146	16,482	20,826	17,851	19,393	8,327	9,998	9,483
	標準範囲	45	37	82	50	39	89	164	158	324	43	101	147
	標準範囲	19,794	11,627	16,109	17,958	14,707	16,934	22,158	20,192	21,105	11,382	10,328	10,505
検査・薬剤料	平均値	25,414	8,167	19,930	18,685	13,146	16,482	20,826	17,851	19,393	8,327	9,998	9,483
	標準偏差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	標準範囲	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	標準範囲	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
処置・手当料	平均値	19,102	12,114	15,126	17,402	21,888	24,845	30,568	36,598	33,135	36,418	38,433	37,972
	標準偏差	18,276	12,340	15,251	31,592	25,111	28,352	32,638	47,479	40,354	17,398	17,954	17,954
	標準範囲	51	47	108	51	49	110	182	194	378	55	170	232
	標準範囲	12,377	12,340	12,361	12,067	12,010	12,042	12,003	11,960	11,981	12,026	12,021	12,022
産科医療補償制度の掛金	平均値	2,067	1,833	1,960	525	71	393	37	781	560	112	100	102
	標準偏差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	標準範囲	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	標準範囲	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
その他	平均値	35,716	34,272	35,080	48,169	31,696	40,695	46,644	38,536	42,869	39,420	37,426	37,819
	標準偏差	50,434	35,405	44,263	125,742	37,783	96,327	49,101	39,758	44,579	28,827	31,388	30,544
	標準範囲	32	23	55	31	15	46	85	83	169	—	—	—
	標準範囲	76,869	53,118	66,937	36,792	46,958	40,107	33,663	32,163	32,729	—	—	—
一部負担金等 ※注 1	平均値	73,997	63,979	70,116	40,144	51,357	43,797	59,549	79,150	69,554	—	—	—
	標準偏差	63	45	109	58	49	107	176	188	365	55	163	221
	標準範囲	569,095	493,892	537,358	513,152	492,175	503,551	532,257	495,356	513,405	455,500	444,761	448,154
	標準範囲	165,715	210,063	188,529	162,997	132,969	149,577	189,849	181,818	185,924	200,500	189,285	190,601
代理受取額 ※注 1	平均値	473,394	455,181	469,646	480,498	470,004	475,579	498,284	494,606	495,097	—	—	—
	標準偏差	45,629	109,166	80,709	46,916	53,854	50,294	7,964	34,321	34,783	—	—	—
	標準範囲	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	標準範囲	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

※ それ以外の病院には、総合・地域周産期母子医療センター以外の病院が含まれる。

※ 注 1 助産所票には質問項目無し

表 20

分娩に関わった職種別延べ人数（娩出30分前後、分娩状況・分娩経験別）

- 正常な経陰分娩等を含む「その他の分娩」において、娩出30分前後に関わった職種別延べ人数は「産婦人科医」が0.8人、「助産師」が2.1人であった。
- 「産婦人科医」、「麻酔科医」、「小児科新生児科医」とも、帝王切開＞無痛分娩＞その他の分娩の順で、投入される人数が多かった。「助産師」は、その他の分娩が最も投入人数が多く、帝王切開と無痛分娩は差がなかった。
- その他の分娩で「医師」・「看護師」・「准看護師」の最小値に「0」があるのは、助産所が含まれるためである。

標本数		帝王切開			無痛分娩			その他の分娩			計		
		初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計
		22	17	41	34	34	69	277	382	676	333	433	786
娩出時間前後30分													
産婦人科医	平均値	1.818	1.706	1.756	1.412	1.294	1.348	1.018	0.626	0.788	1.111	0.721	0.888
	標準偏差	0.588	0.588	0.582	0.609	0.579	0.590	0.725	0.639	0.698	0.738	0.686	0.730
	最小値	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0
	最大値	3	3	3	3	3	3	4	4	4	4	4	4
麻酔科医	平均値	0.318	0.588	0.439	0.147	0.265	0.217	0.025	0.003	0.012	0.057	0.046	0.052
	標準偏差	0.716	0.618	0.673	0.359	0.448	0.415	0.216	0.051	0.144	0.300	0.221	0.259
	最小値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	最大値	3	2	3	1	1	1	3	1	3	3	2	3
小児科新生児科医	平均値	0.227	0.176	0.195	0.029	0.118	0.072	0.065	0.021	0.040	0.072	0.035	0.051
	標準偏差	0.685	0.393	0.558	0.171	0.327	0.261	0.247	0.143	0.196	0.292	0.183	0.237
	最小値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	最大値	3	1	3	1	1	1	1	1	1	3	1	3
助産師	平均値	2.136	1.706	1.927	1.794	2.000	1.928	2.047	2.081	2.061	2.027	2.060	2.042
	標準偏差	1.167	1.105	1.127	0.946	0.921	0.960	1.029	0.945	0.974	1.031	0.951	0.981
	最小値	1	0	0	1	1	1	1	1	1	1	0	0
	最大値	5	5	5	4	4	4	7	7	7	7	7	7
看護師	平均値	1.136	1.059	1.049	0.294	0.265	0.275	0.513	0.327	0.404	0.532	0.351	0.426
	標準偏差	1.246	1.249	1.224	0.629	0.511	0.566	0.740	0.632	0.683	0.789	0.671	0.726
	最小値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	最大値	4	4	4	2	2	2	3	3	3	4	4	4
准看護師	平均値	0.091	0.235	0.146	0.118	0.147	0.130	0.032	0.071	0.058	0.045	0.083	0.069
	標準偏差	0.426	0.562	0.478	0.327	0.436	0.380	0.197	0.286	0.263	0.235	0.316	0.291
	最小値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	最大値	2	2	2	1	2	2	3	3	3	2	3	3
その他	平均値	—	0.118	0.049	—	0.059	0.029	0.022	0.016	0.019	0.018	0.023	0.022
	標準偏差	—	0.332	0.218	—	0.239	0.169	0.146	0.125	0.137	0.133	0.150	0.146
	最小値	—	0	0	—	0	0	0	0	0	0	0	0
	最大値	—	1	1	—	1	1	1	1	1	1	1	1

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

※ 「その他の分娩」とは、患者（産婦）票において帝王切開分娩と無痛分娩以外であったものであり、正常な経陰分娩等が該当する。

表 21

分娩に関わった職種別延べ人数（娩出1時間前後、分娩状況・分娩経験別）

- ・ 正常な経陰分娩等を含む「その他の分娩」において、娩出1時間前後に関わった職種別延べ人数は「産婦人科医」が0.8人、「助産師」が2.1人であった。
- ・ 「産婦人科医」、「麻酔科医」、「小児科新生児科医」とも、帝王切開＞無痛分娩＞その他の分娩の順で、投入される人数が多かった。
- ・ 「助産師」は、その他の分娩が最も投入人数が多く、帝王切開と無痛分娩は差がなかった。
- ・ 「看護師」については、帝王切開＞その他の分娩＞無痛分娩の順で投入される人数が多かった。

			帝王切開			無痛分娩			その他の分娩			計		
標本数			初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計
			22	17	41	34	34	69	277	382	676	333	433	786
娩出時間前後1時間														
産婦人科医	平均値	1.818	1.706	1.756	1.412	1.324	1.362	1.047	0.628	0.802	1.135	0.725	0.901	
	標準偏差	0.588	0.588	0.582	0.509	0.589	0.593	0.767	0.642	0.722	0.770	0.691	0.749	
	最小値	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	
	最大値	3	3	3	3	3	3	4	4	4	4	4	4	
麻酔科医	平均値	0.364	0.588	0.463	0.176	0.265	0.232	0.025	0.003	0.012	0.063	0.046	0.055	
	標準偏差	0.902	0.618	0.778	0.387	0.448	0.425	0.216	0.051	0.144	0.337	0.221	0.278	
	最小値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	最大値	4	2	4	1	1	1	3	2	1	4	2	4	
小児科新生児科医	平均値	0.227	0.176	0.195	0.029	0.118	0.072	0.076	0.021	0.044	0.081	0.035	0.055	
	標準偏差	0.685	0.393	0.558	0.171	0.327	0.261	0.279	0.143	0.213	0.314	0.183	0.249	
	最小値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	最大値	3	1	3	1	1	1	2	1	2	3	1	3	
助産師	平均値	2.318	1.824	2.073	1.912	2.059	2.014	2.123	2.157	2.135	2.114	2.136	2.121	
	標準偏差	1.211	1.015	1.127	0.965	0.952	0.978	1.046	0.962	0.991	1.049	0.963	0.997	
	最小値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	最大値	5	5	5	4	4	4	7	7	7	7	7	7	
看護師	平均値	1.136	1.235	1.122	0.324	0.265	0.290	0.527	0.359	0.429	0.547	0.386	0.453	
	標準偏差	1.246	1.251	1.229	0.638	0.511	0.571	0.754	0.664	0.707	0.800	0.705	0.749	
	最小値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	最大値	4	4	4	2	2	2	3	3	3	4	4	4	
准看護師	平均値	0.091	0.235	0.146	0.118	0.147	0.130	0.036	0.076	0.062	0.048	0.088	0.073	
	標準偏差	0.426	0.562	0.478	0.327	0.436	0.380	0.205	0.302	0.276	0.241	0.329	0.300	
	最小値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	最大値	2	2	2	1	2	2	3	2	2	3	3	3	
その他	平均値	—	0.118	0.073	—	0.059	0.029	0.022	0.016	0.019	0.018	0.023	0.023	
	標準偏差	—	0.332	0.264	—	0.239	0.169	0.146	0.125	0.137	0.133	0.150	0.150	
	最小値	—	0	0	—	0	0	0	0	0	0	0	0	
	最大値	—	1	1	—	1	1	1	1	1	1	1	1	

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

※ 「その他の分娩」とは、患者（産婦）個票において帝王切開分娩と無痛分娩以外であったものであり、正常な経陰分娩等が該当する。

表 22

分娩に関わった職種別延べ人数（娩出2時間前後、分娩状況・分娩経験別）

- ・ 正常な経陰分娩等を含む「その他の分娩」において、娩出2時間前後に関わった職種別延べ人数は「産婦人科医」が0.8人、「助産師」が2.3人、「看護師」が0.4人であった。
- ・ 「産婦人科医」、「麻酔科医」、「小児科新生児科医」とも、帝王切開＞無痛分娩＞その他の分娩の順で投入される人数が多かった。
- ・ 「助産師」については、無痛分娩＞帝王切開＞その他の分娩の順で投入される人数が多かった。
- ・ 「看護師」については、帝王切開＞その他の分娩＞無痛分娩の順で投入される人数が多かった。

			帝王切開			無痛分娩			その他の分娩			計		
標本数			初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計
			22	17	41	34	34	69	277	382	676	333	433	786
娩出時間前後2時間														
産婦人科医	平均値	1.909	1.706	1.805	1.441	1.529	1.478	1.072	0.644	0.821	1.165	0.755	0.930	
	標準偏差	0.684	0.588	0.641	0.613	0.615	0.609	0.809	0.671	0.756	0.814	0.730	0.788	
	最小値	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	
	最大値	3	3	3	3	3	3	5	4	5	5	4	5	
麻酔科医	平均値	0.364	0.588	0.463	0.235	0.294	0.275	0.025	0.003	0.012	0.069	0.048	0.059	
	標準偏差	0.902	0.618	0.778	0.431	0.462	0.450	0.216	0.051	0.144	0.345	0.226	0.284	
	最小値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	最大値	4	2	4	1	1	1	3	1	3	4	2	4	
小児科新生児科医	平均値	0.227	0.176	0.195	0.029	0.147	0.087	0.083	0.021	0.047	0.087	0.037	0.059	
	標準偏差	0.685	0.393	0.558	0.171	0.359	0.284	0.289	0.143	0.219	0.322	0.189	0.256	
	最小値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	最大値	3	1	3	1	1	1	2	1	2	3	1	3	
助産師	平均値	2.636	2.059	2.390	2.235	2.500	2.391	2.289	2.272	2.271	2.306	2.282	2.288	
	標準偏差	1.255	0.966	1.181	1.103	1.285	1.203	1.072	0.985	1.015	1.088	1.011	1.041	
	最小値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	最大値	5	5	5	5	5	6	7	7	7	7	7	7	
看護師	平均値	1.273	1.294	1.220	0.412	0.294	0.348	0.552	0.374	0.448	0.586	0.404	0.480	
	標準偏差	1.279	1.312	1.275	0.701	0.524	0.614	0.781	0.682	0.729	0.834	0.727	0.777	
	最小値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	最大値	4	4	4	2	2	2	4	3	4	4	4	4	
准看護師	平均値	0.091	0.235	0.146	0.147	0.147	0.145	0.043	0.079	0.067	0.057	0.090	0.078	
	標準偏差	0.426	0.562	0.478	0.436	0.436	0.430	0.221	0.306	0.283	0.268	0.332	0.312	
	最小値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	最大値	2	2	2	2	2	2	3	3	3	2	3	3	
その他	平均値	—	0.118	0.073	—	0.059	0.029	0.022	0.016	0.019	0.018	0.023	0.023	
	標準偏差	—	0.332	0.264	—	0.239	0.169	0.146	0.125	0.137	0.133	0.150	0.150	
	最小値	—	0	0	—	0	0	0	0	0	0	0	0	
	最大値	—	1	1	—	1	1	1	1	1	1	1	1	

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

※ 「その他の分娩」とは、患者（産婦）個票において帝王切開分娩と無痛分娩以外であったものであり、正常な経陰分娩等が該当する。

表 23

分娩に関わった職種別延べ人数（娩出30分前後、分娩施設・分娩経験別）

- 「産婦人科医」、「麻酔科医」、「小児科新生児科医」とも、総合・地域周産期母子医療センター>それ以外の病院>診療所の順で投入される人数が多かった。
- 「助産師」については、総合・地域周産期母子医療センター>それ以外の病院>診療所の順で投入される人数が多かった。
- 「看護師」については、診療所>それ以外の病院>総合・地域周産期母子医療センターの順で投入される人数が多かった。

				総合・地域周産期 母子医療センター			それ以外の病院			診療所			助産所		
				初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計
標本数				67	47	119	57	43	104	155	172	333	54	171	230
娩出時前後30分															
産婦人科医	平均値	1.672	1.468	1.571	1.386	1.163	1.279	1.155	1.122	1.135	-	-	-	-	-
	標準偏差	0.746	0.697	0.720	0.726	0.433	0.615	0.380	0.362	0.368	-	-	-	-	-
	最小値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	-	-	-	-	-
	最大値	4	4	4	4	3	4	3	3	3	-	-	-	-	-
	平均値	0.164	0.213	0.176	0.123	0.070	0.106	0.006	0.041	0.027	-	-	-	-	-
麻酔科医	標準偏差	0.480	0.463	0.463	0.466	0.258	0.392	0.080	0.198	0.162	-	-	-	-	-
	最小値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-
	最大値	3	2	3	3	1	3	1	1	1	-	-	-	-	-
	平均値	0.209	0.128	0.168	0.140	0.093	0.115	0.013	0.029	0.024	-	-	-	-	-
	標準偏差	0.509	0.337	0.438	0.350	0.294	0.321	0.113	0.168	0.153	-	-	-	-	-
小児科新生児科医	最小値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-
	最大値	3	1	3	1	1	1	1	1	1	-	-	-	-	-
	平均値	2.313	2.064	2.193	1.947	1.767	1.875	1.723	1.698	1.709	2.630	2.497	2.522	2.522	2.522
	標準偏差	1.144	1.131	1.130	0.953	0.895	0.910	0.943	0.925	0.936	0.853	0.739	0.763	0.763	0.763
	最小値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	-	-	-	-	-
助産師	最大値	7	7	7	5	4	5	5	6	6	5	5	6	6	6
	平均値	0.239	0.234	0.227	0.421	0.605	0.510	0.871	0.645	0.748	0.037	0.023	0.026	0.026	0.026
	標準偏差	0.740	0.598	0.669	0.706	0.791	0.750	0.812	0.807	0.812	0.272	0.152	0.185	0.185	0.185
	最小値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	最大値	4	2	4	3	3	4	4	4	4	2	1	2	2	2
看護師	平均値	-	-	-	0.053	0.023	0.038	0.077	0.203	0.150	-	-	-	-	-
	標準偏差	-	-	-	0.294	0.152	0.238	0.291	0.471	0.413	-	-	-	-	-
	最小値	-	-	-	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-
	最大値	-	-	-	2	1	2	3	3	3	-	-	-	-	-
	平均値	-	0.021	0.017	0.035	0.023	0.029	0.026	0.047	0.036	-	-	-	-	-
准看護師	標準偏差	-	0.146	0.129	0.195	0.152	0.168	0.159	0.211	0.187	-	-	-	-	-
	最小値	-	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-
	最大値	-	1	1	1	1	1	1	1	1	-	-	-	-	-
	平均値	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	標準偏差	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	最小値	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	最大値	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	平均値	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	標準偏差	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	最小値	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	最大値	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	平均値	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	標準偏差	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	最小値	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	最大値	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

※ それ以外の病院には、総合・地域周産期母子医療センター以外の病院が含まれる。

表 24

分娩に関わった職種別延べ人数（娩出1時間前後、分娩施設・分娩経験別）

- 「産婦人科医」、「麻酔科医」、「小児科新生児科医」とも、総合・地域周産期母子医療センター>それ以外の病院>診療所の順で投入される人数が多かった。
- 「助産師」についても、総合・地域周産期母子医療センター>それ以外の病院>診療所の順で投入される人数が多かった。
- 「看護師」については、診療所>それ以外の病院>総合・地域周産期母子医療センターの順で投入される人数が多かった。

				総合・地域周産期 母子医療センター			それ以外の病院			診療所			助産所		
				初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計
標本数				67	47	119	57	43	104	155	172	333	54	171	230
娩出時前後1時間															
産婦人科医	平均値	1.701	1.468	1.588	1.466	1.163	1.317	1.168	1.134	1.147	-	-	-	-	-
	標準偏差	0.779	0.697	0.741	0.803	0.433	0.672	0.392	0.374	0.379	-	-	-	-	-
	最小値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	-	-	-	-	-
	最大値	4	4	4	4	3	4	3	3	3	-	-	-	-	-
	平均値	0.194	0.213	0.193	0.123	0.070	0.106	0.006	0.041	0.027	-	-	-	-	-
麻酔科医	標準偏差	0.584	0.463	0.525	0.466	0.258	0.392	0.080	0.198	0.162	-	-	-	-	-
	最小値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-
	最大値	4	2	4	3	1	3	1	1	1	-	-	-	-	-
	平均値	0.254	0.128	0.193	0.140	0.093	0.115	0.013	0.029	0.024	-	-	-	-	-
	標準偏差	0.560	0.337	0.474	0.350	0.294	0.321	0.113	0.168	0.153	-	-	-	-	-
小児科新生児科医	最小値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-
	最大値	3	1	3	1	1	1	1	1	1	-	-	-	-	-
	平均値	2.448	2.170	2.311	2.018	1.860	1.952	1.826	1.767	1.793	2.630	2.567	2.574	2.574	2.574
	標準偏差	1.171	1.167	1.163	1.044	0.889	0.959	0.954	0.951	0.955	0.853	0.736	0.760	0.760	0.760
	最小値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
助産師	最大値	7	7	7	5	4	5	5	6	6	5	5	6	6	6
	平均値	0.254	0.255	0.244	0.439	0.674	0.548	0.890	0.709	0.793	0.037	0.023	0.026	0.026	0.026
	標準偏差	0.746	0.642	0.688	0.708	0.808	0.762	0.826	0.836	0.834	0.272	0.152	0.185	0.185	0.185
	最小値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	最大値	4	2	4	3	3	3	4	4	4	2	1	2	2	2
看護師	平均値	-	-	-	0.053	0.023	0.038	0.084	0.215	0.159	-	-	-	-	-
	標準偏差	-	-	-	0.294	0.152	0.238	0.301	0.490	0.427	-	-	-	-	-
	最小値	-	-	-	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-
	最大値	-	-	-	2	1	2	2	3	3	-	-	-	-	-
	平均値	-	0.021	0.025	0.035	0.023	0.029	0.026	0.047	0.036	-	-	-	-	-
准看護師	標準偏差	-	0.146	0.157	0.186	0.152	0.168	0.159	0.211	0.187	-	-	-	-	-
	最小値	-	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-
	最大値	-	1	1	1	1	1	1	1	1	-	-	-	-	-
	平均値	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	標準偏差	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	最小値	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	最大値	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	平均値	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	標準偏差	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	最小値	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	最大値	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	平均値	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	標準偏差	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	最小値	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	最大値	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

※ それ以外の病院には、総合・地域周産期母子医療センター以外の病院が含まれる。

表 25

分娩に関わった職種別延べ人数（娩出2時間前後、分娩施設・分娩経験婦別）

- 「産婦人科医」、「麻酔科医」、「小児科新生児科医」とも、総合・地域周産期母子医療センター>それ以外の病院>診療所の順で投入される人数が多かった。
- 「助産師」についても、総合・地域周産期母子医療センター>それ以外の病院>診療所の順で投入される人数が多かった。
- 「看護師」については、診療所>それ以外の病院>総合・地域周産期母子医療センターの順で投入される人数が多かった。

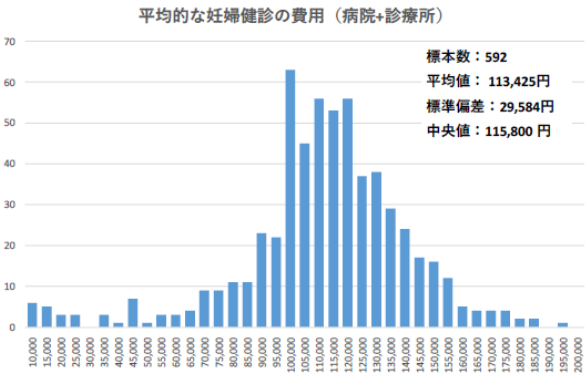
				総合・地域周産期 母子医療センター			それ以外の病院			診療所			助産所		
				初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計	初産婦	経産婦	計
標本数				67	47	119	57	43	104	155	172	333	54	171	230
娩出時間前後2時間															
産婦人科医	平均値	1,836	1,574	1,706	1,456	1,233	1,346	1,174	1,163	1,165	-	-	-	-	-
	標準偏差	0.881	0.715	0.817	0.803	0.490	0.679	0.397	0.415	0.403	-	-	-	-	-
	最小値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	-	-	-	-	-
	最大値	5	4	5	4	3	4	3	3	3	-	-	-	-	-
麻酔科医	平均値	0.194	0.213	0.193	0.140	0.070	0.115	0.013	0.047	0.033	-	-	-	-	-
	標準偏差	0.584	0.463	0.525	0.490	0.258	0.402	0.113	0.211	0.179	-	-	-	-	-
	最小値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-
	最大値	4	2	4	3	1	3	1	1	1	-	-	-	-	-
小児科新生児科医	平均値	0.269	0.128	0.202	0.140	0.093	0.115	0.019	0.035	0.030	-	-	-	-	-
	標準偏差	0.566	0.337	0.480	0.350	0.294	0.321	0.138	0.184	0.171	-	-	-	-	-
	最小値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-
	最大値	3	1	3	1	1	1	1	1	1	-	-	-	-	-
助産師	平均値	2,657	2,447	2,546	2,281	2,093	2,221	2,026	1,977	1,994	2,704	2,591	2,609	-	-
	標準偏差	1,225	1,176	1,191	1,013	0,971	0,995	1,038	1,108	1,075	0,882	0,741	0,773	-	-
	最小値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	-	-
	最大値	7	7	7	5	5	5	5	6	6	6	6	6	-	-
看護師	平均値	0.269	0.255	0.262	0.474	0.698	0.577	0.955	0.750	0.844	0.037	0.023	0.026	-	-
	標準偏差	0.750	0.642	0.692	0.734	0.832	0.784	0.863	0.859	0.864	0.272	0.152	0.185	-	-
	最小値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-
	最大値	4	2	4	3	3	3	4	4	4	2	1	2	-	-
准看護師	平均値	-	-	-	0.053	0.023	0.038	0.103	0.221	0.171	-	-	-	-	-
	標準偏差	-	-	-	0.294	0.152	0.238	0.345	0.493	0.443	-	-	-	-	-
	最小値	-	-	-	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-
	最大値	-	-	-	2	1	2	2	3	3	-	-	-	-	-
その他	平均値	-	0.021	0.025	0.035	0.023	0.029	0.026	0.047	0.036	-	-	-	-	-
	標準偏差	-	0.146	0.157	0.186	0.152	0.168	0.159	0.211	0.187	-	-	-	-	-
	最小値	-	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-
	最大値	-	1	1	1	1	1	1	1	1	-	-	-	-	-

※ すべての調査項目において外れ値の検定・除外は行っていない。
※ それ以外の病院には、総合・地域周産期母子医療センター以外の病院が含まれる。

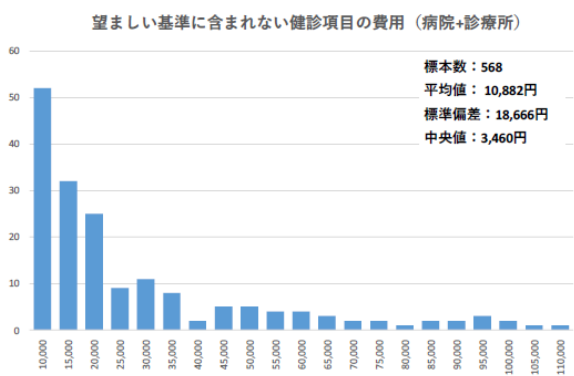
表 26

平均的な妊婦健診と望ましい基準に含まれない健診項目の費用（病院+診療所）

- 平均的な妊婦健診（病院+診療所）の費用の平均は113,425円（中央値115,800円）、うち望ましい基準に含まれない健診項目（以下、基準外）の費用は10,882円（中央値3,460円）。平均的な健診費用が正規分布に近いのに対し、基準外は実施していない施設が多く、右裾が長い分布となっている。
- 尚、妊婦の平均的な妊婦健診の受診回数の平均値は約13.4回で、中央値も13.4。



※注1 平均的な妊婦健診の費用については、明らかに1回当たりの健診費用と思われる外れ値と上位1%の外れ値を除外。回答施設に確認の必要あり



※注2 望ましい基準に含まれない健診項目は、「妊婦に対する健康診査についての望ましい基準」（平成27年厚生労働省告示第226号）に含まれない項目としている。尚、上位1%の外れ値を除外。

表 27

産後ケア事業の費用（病院+診療所と助産所）

- 短期入所型（1泊2日ショートステイ型）（病院+診療所）の費用の平均値は42,768円（中央値36,000円）に対し、助産所の費用の平均値は51,462円（中央値55,000円）。
- 尚、病院+診療所での1ヶ月間の延べ利用者数の平均は約7.5人（中央値3人）、助産所では約8.2人（中央値2人）。

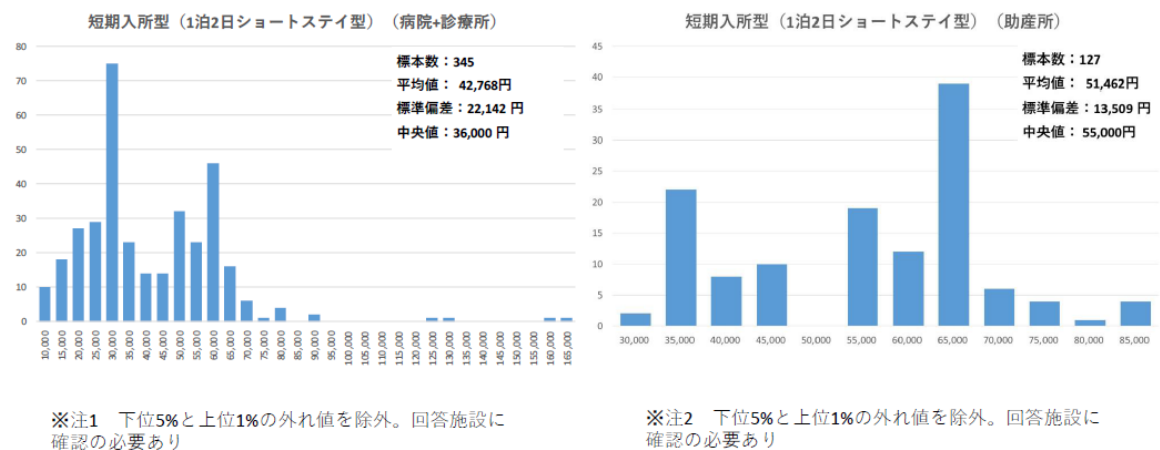


表 28

年度別の損益率の状況①（病院）

今回行った調査は、分娩を取扱っている施設のみへの調査であることに留意が必要

損益率 ^{※注1}	R 4 年度	R 5 年度	回答施設数	平均病床数	平均分娩件数 ^{※注3}
回答のあった病院全体	▲5.4%	▲6.9%	74	448	36.8
（再掲）総合・地域周産期母子医療センター	▲5.9%	▲6.9%	39	541	41.2
（再掲）それ以外の病院	▲8.1%	▲6.5%	35	321	31.8
うち、産婦人科部門 ^{※注2}	12.7%	12.2%	16	543	57.1
（再掲）総合・地域周産期母子医療センター	21.1%	20.1%	8	737	58.9
（再掲）それ以外の病院	▲0.7%	▲0.1%	8	253	55.3

※ 費目の詳細に欠損がある施設を除外し、損益が確認出来る施設のみについて算出を行なった。すべての本調査の項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

※ 注 1 損益率は、（医業・介護収益-医業・介護費用）÷ 医業・介護収益により算出、「医業・介護収益」は、新型コロナウイルス関係補助金を含まない額。

※ 注 2 病院の調査において、産婦人科部門の損益について、病院全体と分けて会計処理されている医療機関においては、産婦人科部門について別に回答いただいたものを集計した。

※ 注 3 令和 6 年 9 月 1 日～30 日の 1 か月間での平均分娩件数

（参考）

損益率 ^{※注3}	R 3 年度	R 4 年度	回答施設数	平均病床数
第24回医療経済実態調査（一般病院）	▲5.5%	▲6.7%	703	172

※ 注 1 損益率は、（医業・介護収益-医業・介護費用）÷ 医業・介護収益により算出、「医業・介護収益」は、新型コロナウイルス関係補助金を含まない額。

表 29

年度別の損益率の状況②（一般診療所・助産所）

一般診療所 今回行った調査は、分娩を取扱っている施設のみへの調査であることに留意が必要

損益率※注1	R 4 年度	R 5 年度	回答施設数
医療法人	6.3%	3.6%	43
個人	5.8%	13.1%	8

助産所

損益率※注1	R 4 年度	R 5 年度	今回調査の 回答施設数
個人	15.5%	11.7%	14
個人以外※注2	3.0%	▲3.6%	4

※ 費目の詳細に欠損がある施設を除外し、損益が確認出来る施設のみについて算出を行なった。すべての本調査の項目において外れ値の検定・除外は行っていない。
※ 個人立の一般診療所については、損益差額の計算上、開設者（院長等）の報酬に相当する部分が、費用に計上されていないこと等から、医療法人よりも、「損益率」が数値上高くあらわれている。
※ 注1 損益率は、（医業・介護収益-医業・介護費用）÷ 医業・介護収益により算出、「医業・介護収益」は、新型コロナウイルス関係補助金を含まない額。
※ 注2 個人以外には、公立（都道府県、市町村、地方独立行政法人）、公益法人、学校法人、社会福祉法人、医療生協、会社、社会医療法人等、その他法人、経営主体不詳を含む。

（参考）

損益率※注1	R 3 年度	R 4 年度	回答施設数
第24回医療経済実態調査 一般診療所（医療法人、入院診療収益あり、全体）	6.4%	4.7%	115
（再掲）医療法人、入院診療収益あり、産婦人科	4.7%	2.7%	31

※ 注1 損益率は、（医業・介護収益-医業・介護費用）÷ 医業・介護収益により算出、「医業・介護収益」は、新型コロナウイルス関係補助金を含まない額。

表 30

各収益・費用項目の伸び率①（病院①）

今回行った調査は、分娩を取扱っている施設のみへの調査であることに留意が必要

収益項目	金額の伸び率（R 4 → R 5 年度）									金額の伸び率（R 3 → R 4 年度）	
	回答のあった病院全体						総合・地域周産期母子医療センター			（参考） 第24回医療経済実態調査 一般病院、全体	
		うち、 産婦人科 部門	（参考） 医業・介護 収益に占める 比率※注1		うち、 産婦人科 部門	（参考） 医業・介護 収益に占める 比率※注1		うち、 産婦人科 部門	（参考） 医業・介護 収益に占める 比率※注1		（参考） 医業・介護 収益に占める 比率※注2
医業収益	2.7%	▲1.2%	99.9%	2.2%	▲2.4%	99.9%	3.7%	0.8%	99.8%	2.1%	99.8%
入院診療収益	2.8%	▲1.0%	66.0%	2.3%	▲2.8%	65.9%	4.2%	1.9%	66.0%	2.2%	66.8%
保険診療収益	2.8%	▲1.9%	65.2%	2.2%	▲2.9%	65.2%	4.3%	0.9%	65.0%	2.5%	65.3%
公害等診療収益	▲6.5%	▲43.5%	0.3%	▲0.3%	▲43.5%	0.3%	▲33.1%	0.0%	0.1%	▲5.3%	0.5%
その他の診療収益	7.5%	2.9%	0.5%	13.8%	1.0%	0.4%	1.7%	3.2%	0.9%	▲7.4%	0.9%
特別の療養環境収益	11.0%	4.2%	1.0%	7.5%	4.7%	1.0%	19.3%	0.9%	1.0%	▲6.1%	0.8%
外来診療収益	4.2%	0.7%	30.6%	4.7%	2.5%	31.0%	3.1%	▲1.5%	29.9%	2.8%	28.3%
保険診療収益	4.3%	1.1%	30.3%	4.7%	3.0%	30.7%	3.4%	▲2.4%	29.5%	3.0%	27.4%
公害等診療収益	2.2%	44.2%	0.1%	7.4%	44.2%	0.1%	▲8.6%	0.0%	0.1%	2.9%	0.3%
その他の診療収益	▲10.5%	▲0.4%	0.2%	▲4.7%	▲1.9%	0.2%	▲17.9%	0.1%	0.3%	▲7.5%	0.6%
その他の医業収益	▲18.6%	▲21.9%	2.3%	▲25.8%	▲32.0%	2.0%	▲5.1%	▲1.7%	3.0%	▲2.8%	3.9%
介護収益	3.8%	0.0%	0.1%	3.8%	0.0%	0.1%	3.7%	0.0%	0.2%	▲14.6%	0.2%

※ 費目の詳細に欠損がある施設を除外し、損益が確認出来る施設のみについて算出を行なった。すべての本調査の項目において外れ値の検定・除外は行っていない。
※ 注1 医業・介護収益に占める比率は、令和5年度の数値。
※ 注2 医業・介護収益に占める比率は、令和4年度の数値。

表 31

各収益・費用項目の伸び率②（病院②）

今回行った調査は、分娩を取扱っている施設のみへの調査であることに留意が必要

費用項目	金額の伸び率（R4→R5年度）									金額の伸び率（R3→R4年度）	
	回答のあった病院全体									第24回医療経済実態調査（一般病院、全体） (参考)	
	総合・地域周産期母子医療センター			それ以外の病院							
		うち、 産婦人科 部門	(参考) 医療・介護 収益に 占める比 率 ^{※注1}		うち、 産婦人科 部門	(参考) 医療・介護 収益に 占める比 率 ^{※注1}		うち、 産婦人科 部門	(参考) 医療・介護 収益に 占める比 率 ^{※注1}		(参考) 医療・介護 収益に 占める比 率 ^{※注2}
医療・介護費用	4.1%	▲0.5%	106.9%	5.0%	▲1.2%	107.0%	2.1%	0.3%	106.5%	3.2%	106.7%
給与費	1.4%	1.0%	48.6%	2.0%	1.4%	46.7%	0.2%	0.6%	52.7%	1.9%	56.9%
医薬品費	8.2%	6.8%	21.0%	8.2%	5.8%	22.6%	7.9%	10.1%	17.2%	5.6%	13.1%
給食用材料費	5.1%	6.6%	0.5%	5.2%	12.4%	0.4%	5.0%	4.7%	0.6%	1.8%	0.7%
診療材料費・医療消耗器具備品費	5.0%	3.3%	12.3%	4.9%	3.7%	12.7%	5.4%	2.7%	11.4%	2.7%	9.7%
委託費	3.2%	▲1.7%	7.4%	3.0%	▲2.3%	7.2%	3.8%	▲1.3%	7.7%	2.7%	7.5%
	(再掲) 給食委託費	▲0.4%	▲6.2%	0.7%	2.8%	▲12.5%	0.7%	▲8.3%	0.2%	0.6%	2.2%
	(再掲) 人材委託費	5.4%	3.0%	1.5%	5.2%	2.8%	1.4%	6.0%	3.7%	1.6%	6.4%
	(再掲) 紹介手数料	43.0%	0.0%	0.0%	25.6%	0.0%	0.0%	65.6%	0.0%	0.0%	20.1%
減価償却費	0.5%	▲1.9%	6.9%	0.6%	▲1.3%	6.9%	0.2%	▲3.9%	7.0%	2.8%	5.8%
	(再掲) 建物減価償却費	▲3.9%	0.7%	2.2%	▲4.1%	▲0.6%	2.3%	▲3.3%	3.1%	2.0%	4.0%
	(再掲) 医療機器減価償却費	1.4%	▲1.5%	3.0%	4.5%	3.1%	3.0%	▲5.3%	▲9.7%	2.8%	4.5%
設備関係費	2.0%	▲1.6%	9.9%	1.3%	0.4%	9.8%	3.5%	▲4.2%	10.3%	2.7%	4.2%
	(再掲) 設備機器賃借料	5.8%	▲6.5%	0.9%	6.5%	4.1%	0.9%	4.0%	▲10.0%	0.8%	▲0.7%
	(再掲) 医療機器賃借料	4.5%	▲12.4%	0.6%	4.7%	5.4%	0.6%	3.9%	▲18.6%	0.5%	0.0%
経費	17.7%	▲21.7%	5.6%	30.7%	▲40.8%	5.9%	▲7.3%	▲2.0%	5.0%	11.9%	6.3%
	(再掲) 水道光熱費	▲12.0%	▲12.8%	1.9%	▲11.2%	▲13.9%	2.0%	▲14.1%	▲10.6%	1.8%	32.2%
その他の医療費用	2.8%	34.0%	1.6%	4.0%	2.5%	1.7%	0.1%	▲1.3%	1.6%	4.7%	2.4%

※ 費目の詳細に欠損がある施設を除外し、損益が確認出来る施設のみについて算出を行なった。すべての本調査の項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

※ 注1 医療・介護収益に占める比率は、令和5年度の数値。

※ 注2 医療・介護収益に占める比率は、令和4年度の数値。

表 32

各収益・費用項目の伸び率③（一般診療所①）

今回行った調査は、分娩を取扱っている施設のみへの調査であることに留意が必要

収益項目	金額の伸び率（R4→R5年度）		金額の伸び率（R3→R4年度）			
	回答のあった診療所（医療法人）		(参考) 第24回医療経済実態調査 一般診療所（医療法人、入院診療収益あり）			
		(参考) 医療・介護収益に 占める比率※注1		(参考) 医療・介護収益に 占める比率※注2	(再掲) 医療法人、入院診療収益あり、産婦人科	(参考) 医療・介護収益に 占める比率※注2
医療収益	▲2.0%	99.6%	▲0.2%	95.7%	▲2.5%	100.0%
入院診療収益	▲1.5%	58.8%	0.2%	33.7%	▲1.3%	57.1%
保険診療収益	▲1.7%	20.4%	0.7%	22.1%	▲3.0%	14.0%
公害等診療収益	0.0%	0.0%	▲8.4%	0.1%	▲100.0%	0.0%
その他の診療収益	▲1.4%	38.1%	▲0.6%	11.5%	▲0.7%	43.1%
外来診療収益	▲2.7%	33.6%	0.7%	57.6%	1.6%	38.0%
保険診療収益	0.1%	21.7%	0.8%	50.9%	4.6%	20.0%
公害等診療収益	0.0%	0.0%	▲8.2%	0.2%	66.7%	0.0%
その他の診療収益	▲7.4%	11.7%	0.9%	6.5%	▲1.5%	18.0%
その他の医療収益	▲2.8%	7.2%	▲9.9%	5.5%	▲35.2%	5.1%
介護収益	▲8.0%	0.4%	▲1.1%	4.3%	—	0.0%

※ 費目の詳細に欠損がある施設を除外し、損益が確認出来る施設のみについて算出を行なった。すべての本調査の項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

※ 注1 医療・介護収益に占める比率は、令和5年度の数値。

※ 注2 医療・介護収益に占める比率は、令和4年度の数値。

表 33

各収益・費用項目の伸び率④（一般診療所②）

今回行った調査は、分娩を取扱っている施設のみへの調査であることに留意が必要

費用項目	金額の伸び率（R4→R5年度）		金額の伸び率（R3→R4年度）			
	回答のあった診療所（医療法人）	（参考） 医療・介護収益に 占める比率 ^{※注1}	（参考） 第24回医療経済実態調査 一般診療所（医療法人、入院診療収 益あり）		（再掲）医療法人、入院診療収益あ り、産婦人科	
			（参考） 医療・介護収益に 占める比率 ^{※注2}	（参考） 医療・介護収益に 占める比率 ^{※注2}	（参考） 医療・介護収益に 占める比率 ^{※注2}	（参考） 医療・介護収益に 占める比率 ^{※注2}
医療・介護費用	0.9%	96.4%	1.7%	95.3%	▲0.4%	97.3%
給与費	2.0%	57.6%	3.2%	48.7%	5.6%	55.4%
医薬品費	3.4%	6.7%	▲1.5%	11.0%	5.3%	6.7%
材料費	0.0%	0.0%	3.0%	6.4%	▲1.0%	3.1%
給食用材料費	1.6%	3.7%	▲0.8%	0.8%	▲4.2%	1.4%
委託費	3.0%	5.8%	6.9%	6.0%	10.0%	6.7%
（再掲）給食委託費	13.9%	1.3%	7.3%	1.6%	11.2%	2.4%
（再掲）人材委託費	▲9.0%	0.4%	12.1%	1.0%	100.8%	0.8%
（再掲）紹介手数料	▲37.5%	0.1%	4.4%	0.1%	▲49.7%	0.0%
減価償却費	0.2%	4.6%	▲3.9%	3.5%	5.6%	3.3%
（再掲）建物減価償却費	2.3%	1.6%	▲0.3%	0.9%	0.3%	0.8%
（再掲）医療機器減価償却費	▲8.5%	0.9%	▲4.3%	1.1%	4.8%	0.9%
その他の医療・介護費用	▲3.9%	18.0%	▲1.1%	18.9%	▲17.3%	20.8%
（再掲）設備機器賃借料	3.5%	1.1%	1.3%	1.3%	2.3%	1.2%
（再掲）医療機器賃借料	1.0%	0.7%	▲3.5%	0.9%	0.1%	0.9%
（再掲）水道光熱費	5.5%	1.7%	17.6%	1.9%	18.4%	1.5%

※ 費目の詳細に欠損がある施設を除外し、損益が確認出来る施設のみについて算出を行なった。すべての本調査の項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

※ 注1 医療・介護収益に占める比率は、令和5年度の数値。

※ 注2 医療・介護収益に占める比率は、令和4年度の数値。

表 34

各収益・費用項目の伸び率⑤（助産所）

今回行った調査は、分娩を取扱っている施設のみへの調査であることに留意が必要

収益項目	金額の伸び率（R4→R5年度）			
	個人	（参考） 収益に占める 比率 ^{※注1}	個人以外 ^{※注2}	
			（参考） 収益に占める 比率 ^{※注1}	（参考） 収益に占める 比率 ^{※注1}
収益合計	▲2.7%	100.0%	▲2.8%	100.0%
出産の収益	▲1.9%	61.4%	▲4.1%	45.5%
妊婦健診等の健診の収益	5.1%	8.5%	▲2.5%	11.2%
その他の収益	▲6.3%	30.0%	▲1.6%	43.4%

費用項目	金額の伸び率（R4→R5年度）			
	個人	（参考） 収益に占める 比率 ^{※注1}	個人以外 ^{※注2}	
			（参考） 収益に占める 比率 ^{※注1}	（参考） 収益に占める 比率 ^{※注1}
医療・介護費用	1.7%	88.3%	3.8%	103.6%
給与費	1.3%	41.1%	6.3%	59.6%
医薬品費	34.7%	0.5%	▲28.6%	0.5%
給食用材料費	▲8.8%	2.7%	▲13.5%	1.1%
材料費	▲10.3%	4.9%	▲7.8%	7.2%
委託費	44.7%	5.8%	7.8%	2.8%
（再掲）給食委託費	21.3%	0.5%	0.0%	0.0%
（再掲）人材委託費	52.8%	4.9%	19.3%	2.1%
減価償却費	▲2.3%	7.8%	45.7%	3.4%
（再掲）建物減価償却費	5.3%	4.9%	29.3%	2.4%
（再掲）医療機器減価償却費	2.0%	1.2%	128.7%	0.4%
その他の医療・介護費用	0.0%	25.5%	0.0%	29.0%
（再掲）設備機器賃借料	▲20.5%	0.7%	▲27.8%	0.7%
（再掲）医療機器賃借料	▲29.6%	0.4%	▲27.8%	0.7%
（再掲）水道光熱費	▲6.4%	2.2%	▲3.2%	3.0%

※ 費目の詳細に欠損がある施設を除外し、損益が確認出来る施設のみについて算出を行なった。すべての本調査の項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

※ 注1 収益に占める比率は、令和5年度の数値。

※ 注2 個人以外には、公立（都道府県、市町村、地方独立行政法人）、公益法人、学校法人、社会福祉法人、医療生協、会社、社会医療法人等、その他法人、経営主体不詳を含む。

表 35

職種別給与の平均と中央値、伸び率①（病院①）

今回行った調査は、分娩を取扱っている施設のみへの調査であることに留意が必要

	回答 施設数	回答のあった病院全体					平均給料の 伸び率
		R 4 年度		R 5 年度			
		平均給料計	中央値	平均給料計	中央値		
病院長	65	20,749,510	20,579,140	20,855,230	20,614,000	0.5%	
医師	74	15,618,850	14,474,910	15,741,970	14,843,990	0.8%	
産婦人科医師	65	16,176,280	16,777,240	16,218,170	15,937,420	0.3%	
小児科医師	61	14,597,890	15,315,940	14,826,040	15,692,730	1.6%	
麻酔科医師	54	14,750,070	15,379,460	15,133,860	15,268,290	2.6%	
歯科医師	43	12,407,290	12,643,740	12,281,150	12,789,640	▲1.0%	
薬剤師	71	7,472,293	5,828,920	7,418,553	5,948,071	▲0.7%	
助産師	70	6,072,989	5,644,170	6,177,764	5,776,781	1.7%	
看護職員	73	6,234,536	5,566,804	6,912,037	5,637,998	10.9%	
看護補助職員	47	4,068,473	3,228,391	4,042,137	3,329,272	▲0.6%	
医療技術員	69	8,415,458	5,671,359	8,332,027	5,675,461	▲1.0%	
歯科衛生士	39	4,495,757	4,463,927	4,608,163	4,649,258	2.5%	
歯科技工士	18	6,289,383	6,051,407	6,120,862	6,292,096	▲2.7%	

	回答 施設数	総合・地域周産期母子医療センター				平均給料の 伸び率
		R 4 年度		R 5 年度		
		平均給料計	中央値	平均給料計	中央値	
病院長	32	19,020,370	18,669,760	19,203,800	18,649,930	1.0%
医師	35	15,010,000	13,959,120	15,131,560	14,634,800	0.8%
産婦人科医師	32	14,366,270	14,760,160	14,303,900	14,537,090	▲0.4%
小児科医師	31	13,923,600	15,204,230	13,923,920	15,188,490	0.0%
麻酔科医師	32	13,519,360	14,404,940	13,667,000	14,427,100	1.1%
歯科医師	24	11,434,070	10,314,070	11,234,990	10,204,040	▲1.7%
薬剤師	33	6,011,868	5,826,234	6,058,197	5,866,564	0.8%
助産師	30	6,620,836	5,687,087	6,765,292	5,867,949	2.2%
看護職員	34	5,666,518	5,576,578	5,789,460	5,699,924	2.2%
看護補助職員	19	3,369,121	3,079,252	3,272,165	3,108,317	▲2.9%
医療技術員	34	8,789,787	5,689,442	8,611,568	5,850,760	▲2.0%
歯科衛生士	26	4,684,326	4,517,557	4,822,448	4,866,014	2.9%
歯科技工士	16	6,168,524	6,051,407	5,990,434	6,292,096	▲2.9%

※ すべての本調査の項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

表 36

職種別給与の平均と中央値、伸び率②（病院②）

今回行った調査は、分娩を取扱っている施設のみへの調査であることに留意が必要

	回答 施設数	それ以外の病院				
		R 4 年度		R 5 年度		平均給料の 伸び率
		平均給料計	中央値	平均給料計	中央値	
病院長	33	22,426,260	21,736,900	22,458,100	21,636,160	0.1%
医師	39	16,165,250	15,785,890	16,277,930	15,383,550	0.7%
産婦人科医師	33	17,931,440	17,607,390	18,079,260	17,322,820	0.8%
小児科医師	30	15,294,660	15,557,670	15,812,730	16,026,030	3.4%
麻酔科医師	22	16,540,190	16,779,210	17,273,040	16,464,970	4.4%
歯科医師	19	13,636,620	12,998,840	13,641,150	14,038,490	0.0%
薬剤師	38	8,740,557	5,905,986	8,574,856	6,031,570	▲1.9%
助産師	40	5,662,104	5,548,332	5,719,207	5,506,954	1.0%
看護職員	39	6,729,730	5,566,804	7,870,334	5,600,098	16.9%
看護補助職員	28	4,543,033	3,374,944	4,588,568	3,338,579	1.0%
医療技術員	35	8,051,823	5,527,762	8,060,251	5,519,323	0.1%
歯科衛生士	13	4,118,618	4,384,746	4,179,594	4,149,066	1.5%
歯科技工士	2	7,256,251	7,256,251	7,164,286	7,164,286	▲1.3%

	回答 施設数	(参考) 第24回医療経済実態調査 (一般病院全体)				
		R 3 年度		R 4 年度		平均給料の 伸び率
		平均給料計	中央値	平均給料計	中央値	
病院長	605	26,208,673	23,359,348	26,334,663	23,778,440	0.5%
医師	609	14,619,456	16,889,246	14,610,739	16,748,784	▲0.1%
歯科医師	124	12,587,192	12,637,429	12,491,733	12,025,456	▲0.8%
薬剤師	605	5,625,692	5,668,371	5,688,862	5,657,393	1.1%
看護職員	627	5,127,639	4,909,081	5,209,279	4,975,673	1.6%
看護補助職員	549	3,187,598	3,099,619	3,244,894	3,138,072	1.8%
医療技術員	609	4,657,816	4,462,923	4,675,624	4,496,132	0.4%
歯科衛生士	157	3,759,497	3,656,860	3,778,665	3,668,069	0.5%
歯科技工士	17	5,050,562	4,704,000	4,909,517	4,439,325	▲2.8%

※ すべての本調査の項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

表 37

職種別給与の平均と中央値、伸び率③（一般診療所）

今回行った調査は、分娩を取扱っている施設のみへの調査であることに留意が必要

	回答 施設数	回答のあった診療所全体				
		R 4 年度		R 5 年度		平均給料の伸び率
		平均給料計	中央値	平均給料計	中央値	
院長	68	36,121,330	33,940,000	33,962,280	31,735,000	▲6.0%
医師	54	25,903,460	15,543,890	23,621,370	14,200,000	▲8.8%
産婦人科医師	54	23,733,230	18,850,630	24,044,530	16,928,760	1.3%
小児科医師	14	23,408,430	10,554,200	21,344,610	6,637,500	▲8.8%
麻酔科医師	5	18,101,780	7,260,000	10,609,920	6,000,000	▲41.4%
薬剤師	4	5,539,325	4,995,150	5,570,325	5,048,150	0.6%
助産師	77	6,901,160	5,157,783	7,206,525	5,205,775	4.4%
看護職員	77	9,188,326	4,546,462	9,137,582	4,497,461	▲0.6%
看護補助職員	51	5,249,070	2,711,750	4,428,884	2,730,500	▲15.6%
医療技術員	22	3,959,305	4,094,924	4,012,151	4,081,288	1.3%

	回答 施設数	医療法人				平均給料の伸び率
		R 4 年度		R 5 年度		
		平均給料計	中央値	平均給料計	中央値	
院長	64	36,529,220	34,725,000	34,582,340	32,580,000	▲5.3%
医師	44	28,765,430	16,900,000	26,222,290	15,227,610	▲8.8%
産婦人科医師	44	24,690,920	18,612,780	25,446,140	16,928,760	3.1%
小児科医師	12	26,669,610	12,930,150	24,312,910	9,129,200	▲8.8%
麻酔科医師	5	18,101,780	7,260,000	10,609,920	6,000,000	▲41.4%
薬剤師	3	5,857,767	5,406,300	5,875,767	5,442,300	0.3%
助産師	62	7,423,518	5,273,470	7,773,486	5,330,472	4.7%
看護職員	64	10,162,960	4,524,156	10,108,230	4,525,618	▲0.5%
看護補助職員	46	5,463,929	2,702,229	4,586,631	2,729,616	▲16.1%
医療技術員	20	3,900,943	4,080,648	4,030,608	4,081,288	3.3%

	回答 施設数	(参考) 第24回医療経済実態調査 (一般診療所、医療法人)				平均給料の伸び率
		R 3 年度		R 4 年度		
		平均給料計	中央値	平均給料計	中央値	
院長	1014	25,915,156	21,600,000	26,529,548	21,600,000	2.4%
医師	365	10,940,874	10,500,000	11,180,508	11,600,000	2.2%
薬剤師	31	7,797,038	5,708,450	7,416,328	5,992,800	▲4.9%
看護職員	872	4,012,040	3,836,950	4,092,131	3,887,538	2.0%
看護補助職員	180	2,547,336	2,673,775	2,605,794	2,682,001	2.3%
医療技術員	285	4,088,232	4,020,609	4,211,087	4,107,151	3.0%

※ 本調査の項目について、給与が上位99パーセンタイルを超える、もしくは、下位1パーセント以下を外れ値として除外

表 38

職種別給与の平均と中央値、伸び率④（助産所）

今回行った調査は、分娩を取扱っている施設のみへの調査であることに留意が必要

	回答施設数	回答のあった助産所全体				
		R 4 年度		R 5 年度		平均給料の 伸び率
		平均給料計	中央値	平均給料計	中央値	
管理者	15	4,302,448	4,800,000	4,208,539	4,219,350	▲2.2%
助産師	48	3,150,478	2,500,000	3,173,848	2,579,622	0.7%
看護職員	4	964,200	885,070	943,976	721,573	▲2.1%
看護補助職員	4	1,366,997	1,348,500	2,095,403	1,488,473	53.3%

	回答施設数	個人				
		R 4 年度		R 5 年度		平均給料の 伸び率
		平均給料計	中央値	平均給料計	中央値	
管理者	3	4,610,501	4,800,000	4,506,531	4,800,000	▲2.3%
助産師	33	2,689,389	1,397,484	2,725,024	1,704,433	1.3%
看護職員	4	964,200	885,070	943,976	721,573	▲2.1%
看護補助職員	4	1,366,997	1,348,500	2,095,403	1,488,473	53.3%

	回答施設数	個人以外※1				平均給料の 伸び率
		R 4 年度		R 5 年度		
		平均給料計	中央値	平均給料計	中央値	
管理者	12	4,225,435	4,615,000	4,134,041	4,034,675	▲2.2%
助産師	15	4,164,874	3,680,000	4,161,261	3,533,333	▲0.1%
看護職員	—	—	—	—	—	—
看護補助職員	—	—	—	—	—	—

※ 常勤勤務者数について、「人・月」を「人」で回答した助産所については12倍することで「人・月」に換算の上、給与を算出した。

※ 注1 個人以外には、公立（都道府県、市町村、地方独立行政法人）、公益法人、学校法人、社会福祉法人、医療生協、会社、社会医療法人等、その他法人、経営主体不詳を含む。

表 39

年度別の資産・負債の状況①（病院）

今回行った調査は、分娩を取扱っている施設のみへの調査であることに留意が必要

（単位：千円）

	今回調査						(参考) 第24回医療経済実態調査 (一般病院)	
	R 4 年度			R 5 年度			R 3 年度	R 4 年度
	回答のあった病院全体			回答のあった病院全体				
		総合・地域 周産期母子 医療セン ター	それ以外の 病院		総合・地域 周産期母子 医療セン ター	それ以外の 病院		
流動資産	8,472,798	10,919,832	5,593,935	8,341,490	10,413,983	5,903,264	1,703,514	1,778,404
固定資産	15,294,655	20,118,598	9,619,427	15,176,233	19,968,088	9,538,756	3,093,195	3,134,728
繰延資産	109,607	66,347	160,501	57,668	60,874	53,897	22,441	23,882
資産合計	23,877,060	31,104,778	15,373,862	23,575,392	30,442,944	15,495,917	4,819,150	4,937,014
流動負債	3,748,013	5,308,976	1,911,584	3,959,571	5,679,599	1,936,008	841,669	832,227
固定負債	10,710,495	14,022,526	6,813,987	10,207,606	13,415,679	6,433,402	2,179,129	2,167,468
（うち）長期借入金	6,529,807	8,247,352	4,559,683	6,239,824	7,731,987	4,528,224	1,294,649	1,255,522
負債合計	14,458,507	19,331,502	8,725,572	14,167,176	19,095,278	8,369,410	3,020,798	2,999,743
資本合計	9,418,552	11,773,275	6,648,291	9,408,215	11,347,667	7,126,507	1,798,352	1,937,271
施設数	74	40	34	74	40	34	664	
平均病床数	473	634	284	476	632	285	174	173

※ すべての本調査の項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

表 40

年度別の資産・負債の状況②（一般診療所）

今回行った調査は、分娩を取扱っている施設のみへの調査であることに留意が必要

（単位：千円）

	今回調査				（参考）第24回医療経済実態調査 一般診療所（入院診療収益あり、全体）	
	R 4 年度		R 5 年度		R 3 年度	R 4 年度
	回答のあった診療所全体		回答のあった診療所全体			
		医療法人		医療法人		
流動資産	231,861	244,249	231,366	242,508	268,332	267,163
固定資産	285,630	285,536	287,630	288,552	301,098	307,457
繰延資産	4,377	4,828	5,007	5,142	3,264	3,080
資産合計	522,078	534,612	522,591	534,260	572,694	577,700
流動負債	53,723	57,675	58,303	63,483	91,898	93,795
固定負債	133,181	116,580	129,852	110,715	106,053	95,378
（うち）長期借入金	104,310	91,206	94,979	78,017	97,920	85,080
負債合計	187,261	174,255	188,521	174,209	197,951	189,173
資本合計	334,817	360,357	334,070	360,051	374,743	388,527
施設数	112	94	112	94	124	

※ すべての本調査の項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

表 41

年度別の資産・負債の状況③（助産所）

今回行った調査は、分娩を取扱っている施設のみへの調査であることに留意が必要

（単位：千円）

	R 4 年度			R 5 年度		
	回答のあった助産所全体			回答のあった助産所全体		
		個人	個人以外 ※注1		個人	個人以外 ※注1
流動資産	14,478	12,671	20,874	13,502	11,623	20,150
固定資産	26,979	23,430	39,538	26,687	23,277	38,755
繰延資産	390	500	0	336	431	0
資産合計	43,323	38,494	60,412	41,754	36,907	58,906
流動負債	10,444	11,412	7,020	10,965	12,092	6,976
固定負債	9,762	7,559	17,557	9,176	7,180	16,238
（うち）長期借入金	9,222	7,744	14,453	8,130	6,748	13,019
負債合計	22,223	21,557	24,577	21,635	21,188	23,214
資本合計	21,101	16,937	35,835	20,119	15,718	35,692
施設数	59	46	13	59	46	13

※ すべての本調査の項目において外れ値の検定・除外は行っていない。

※ 注1 個人以外には、公立（都道府県、市町村、地方独立行政法人）、公益法人、学校法人、社会福祉法人、医療生協、会社、社会医療法人等、その他法人、経営主体不詳を含む。

別添 4

令和6年度厚生労働行政推進調査事業費補助金
政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業）
分担研究報告書

『分娩にかかわる医療者のタイムスタディ調査』について
ー修正デルファイ法を用いたタイムスタディ調査での必須観察項目の検討の計画ー

研究分担者 増澤 祐子 新潟県立看護大学 看護学部
研究分担者 片岡 弥恵子 聖路加国際大学 大学院看護学研究科
研究代表者 野口 晴子 早稲田大学 政治経済学術院

研究要旨

本研究では、ある1件の分娩に関わった産婦人科医、小児科医、助産師、看護師等の治療及び検査、ケアの回数および所要時間の分析を目的とするタイムスタディ調査の調査表作成のため、修正デルファイ法を用いて必須観察項目を検討することを目的とした。

令和6年度に実施した『分娩取扱施設における出産に係る費用構造の把握のための調査』では、各患者（産婦）の分娩に関わった医師・助産師・看護師を対象としたタイムスタディは自計式であったことから、令和7年度には、他計式のタイムスタディを計画している。

タイムスタディ表作成のための修正デルファイ法の参加者（パネルメンバー）は、病院（周産期母子医療センターを含む）、診療所（各1か所）に勤務する産科医師3名、小児科医師（新生児科）2名、病院など勤務の助産師4名、助産所勤務の助産師3名程度、合計12名程度とした。対象者は、便宜的抽出法を用いて、リクルートを行った。共同研究者、研究協力者から研究対象者（候補）を紹介してもらい、研究説明後、同意が得られた後、パネルメンバーとした。分娩期のタイムスタディ調査で用いる観察項目を決定するために、研究対象者（パネルメンバー）へ、タイムスタディ表の観察項目の必要性について修正デルファイ法を実施した。本研究での合意形成法の停止の基準となるパネルの個別評価を行う回数は3回まで試みることとした。本報告では、令和6年度に実施した1回目までの個別評価結果を報告する。

A. 研究目的

本研究では、ある1件の分娩に関わった産婦人科医、小児科医、助産師、看護師等の治療及び検査、ケアの回数および所要時間の分析を目的としたタイムスタディ調査の調査表作成のため、修正デルファイ法^{1)・3)}を用いて必須観察項目を検討することを目的とした。

令和6年度に実施された『分娩取扱施設における出産に係る費用構造の把握のための調査』で実施された各患者（産婦）について医師・助産師・看護師を対象とした、自計式によるタイムスタディであったことから、令和7年度には、他計式のタイムスタディを計画した。

B. 研究方法

B-1. 研究方法概要

本研究では、他計式前向きのタイムスタディ調査を実施するため、調査表作成のために修正デルファイ法を用いた必須観察項目の検討を行う。

タイムスタディ表作成のための修正デルファイ法の参加者（パネルメンバー）は、病院（周産期母子医療センターを含む）、診療所（各1か所）に勤務する産科医師3名、小児科医師（新生児科）2名、病院など勤務の助産師4名、助産所勤務の助産師3名程度、合計12名程度とした。対象者は、便宜的抽出法を用いて、リクルートを行った。共同研究者、研究協力者から研究対象者（候補）を紹介してもらい、研究説明後、同意が得られた後、パネルメンバーとした。分娩期のタイムスタディ調査で用いる観察項目を決定するために、研究対象者（パネルメンバー）へ、タイムスタディ表の観察

項目の必要性について修正デルファイ法を実施し、タイムスタディ表を作成する。

B-2. 調査実施期間、実施手順

タイムスタディ表作成のための修正デルファイ法の調査期間は、令和7年3月から令和7年5月を予定している。

・ タイムスタディ表の作成

まず、タイムスタディ調査で用いる観察項目（案）（分娩期に行う治療、検査、ケア等）及びその頻度や所要時間、主な実施者について、書籍や文献、教科書等からレビューし関連する情報を抽出した。例えば、治療では陣痛促進剤投与、会陰切開・縫合等、検査ではバイタルサインの測定、胎児心拍数モニタリング等、ケアでは足浴、腰背部のマッサージ等である。分娩中のこれらの実施頻度・所要時間、主な実施者についても抽出する。抽出した観察項目（案）について、その必要性を検討するため、Googleフォームを作成し、研究参加者（パネルメンバー）が個別にタイムスタディ調査の観察項目（案）に同意できるかどうかの評価を依頼した。同時に、追加の観察項目（案）を提案すること、自施設で行っている項目であるかを含めた意見を求めた。研究参加者との連絡方法はメールやGoogleフォームへの回答を用いて行った。追加の観察項目（案）が既にある観察項目（案）と同類の項目、統合できる項目を整理し、研究者3名で追加の観察項目（案）が必要・不要・要検討の3段階を用いて独立して評価した。要検討の場合は研究者間で協議して必要かどうかを決定した。追加の観察項目（案）の不

採用の基準は、回答者数の 20%以下であった観察項目（案）は棄却する、とした。不採用の基準を満たした項目（案）を除いたものを追加の観察項目（案）とし、2 回目評価の対象とした。

- ・ タイムスタディ調査で用いる観察項目候補から項目を採用するまで全体のながれ

観察項目（案）から、パネルメンバーに必要性について計 2 回個別評価を行う。1 回目の個別評価の集計結果を匿名で公表し議論の機会とし、2 回目の個別評価の参考とするよう促した。このように合意形成を行い、観察項目を決定する。

- ・ タイムスタディ調査で用いる観察項目（案）の評価方法

評価方法は、項目（案）の必要性を 1～9 の 9 段階のスケール（1 が不必要、9 が必要）を用いて評価した。各パネルメンバーから評価の結果が返却された後、評価に不備（未回答の項目があるなど）がないかの確認を行う。不備が見つかった場合は、パネルメンバーに個別で連絡し、修正を依頼して回答に欠損がないように対策する。

- ・ タイムスタディ調査で用いる観察項目の採用決定の基準(合意と不一致の定義)

各回の個別評価を集計した結果から中央値を算出する。原則として、必要性の評価を集計した結果の中央値が 7 以上であり（合意）、かつ、1～3 をつけた者が 2 名以下（不一致でない）のものを観察項目として決定する。

- ・ タイムスタディ調査で用いる観察項目（案）の評価結果の集計方法

完全な評価結果が揃った時点で、データへの入力を行い、評価点数の要約統計量（四分位点、中央値、最大値、最小値）および度数分布表を作成した。各項目の集計結果には、自施設で行っているかの集計結果と意見を参考にできるよう掲載した。

- ・ パネルの個別評価を行う回数（合意形成法の停止の基準）

2 回目以降は、前回の集計結果より合意形成した観察項目を除いた、合意形成しなかった観察項目（案）と追加の観察項目（案）を個別評価する。合意形成は、意見の収束のために 3 回まで個別評価を試みることとする。

（倫理面への配慮）

本研究では、『分娩にかかわる医療者のタイムスタディ調査』を実施するに当たり、聖路加国際大学研究倫理委員会の承認を受け、研究機関の長より実施許可を受けている（承認番号：24-A082；承認日：令和 7 年 2 月 13 日）。対象者の個人の人権擁護として、「ヘルシンキ宣言」

「人を対象とする生命科学・医学研究に関する倫理指針」を遵守して人権擁護に配慮した。なお、本研究は観察研究のため、対象となる個人に直接的な介入はなく、個人の人権は擁護される。研究対象者（候補）へ書面にて研究説明後、研究参加への適切な同意取得にて、インフォームド・コンセントを行った。個人情報保護と対象者識別として、研究対象者を A、B、C とアルファベットで示し、対象者名とアルファベットの対応表を作成した。データには、アルファベットを用いて記載した。データと対応表は、別の

場所に保管した。また解析の段階でパソコンを使用する際には研究者のみがアクセスできるようパスワードの管理を徹底した。すべてのデータファイルには、パスワードをかけた。データは、研究者のパソコンのハードディスクに保存し、2段階認証が必要なアカウントのクラウド上にバックアップを保存した。研究協力によって生じる危険性・不利益、それに対する配慮として、内容の確認や意見投票について1回60分程度、2回の時間的拘束が生じる。負担が生じた場合には、中止することができるようにした。途中で中止したい旨を研究者に伝えられるように十分な配慮を行った。本研究への参加は対象者の自由意思により決定された。また一旦同意した後であっても、各データを統合する前までは、それを撤回することが出来るようにした。また、本研究への協力による研究対象者の費用負担はなかった。研究に関する説明同意文書に連絡先を明記し、相談があった場合は、担当者が対応することとした。

C. 結果

C-1. データ収集期間

3月10日から3月26日の期間に、病院（周産期母子医療センターを含む）、診療所（各1か所）に勤務する産科医師3名、小児科医師（新生児科）2名、病院など勤務の助産師4名、助産所勤務の助産師3名の合計12名より1回目の個別評価を得た。

C-2. 1回目の個別評価の集計結果にて採用となった観察項目

入院診療計画書の立案（中央値＝7）、入院診療計画書の説明（中央値＝7）、病棟内の場所説明（中央値＝9）、内診（中央値＝9）、CTG装着（中央値＝9）、CTG判読（中央値＝9）、間欠的児心音聴取（中央値＝9）、陣痛観察（中央値＝9）、出血/破水の観察（中央値＝9）、レオポルド触診法（中央値＝9）、足浴（中央値＝9）、腰背部等のマッサージ・指圧・温罨法（中央値＝8.5）、体位変換（中央値＝9）、呼吸/努責のリード（中央値＝9）、動くこと（歩行・移動等）の支援（中央値＝9）、スクワット/ボールの活用（中央値＝7.5）、傾聴（産婦の思いを聴く）（中央値＝9）、「状況/治療・検査/ケアの説明（産科的処置）の事前説明とIC：誘発分娩、促進分娩、硬膜外麻酔分娩、吸引・鉗子分娩等」（中央値＝9）、家族への説明（中央値＝9）、「家族へのケア（夫や上の子どもを含めた家族での出産体験の支援、写真撮影、足形等）」（中央値＝9）、配膳/下膳（中央値＝8）、食事摂取補助（中央値＝8）、水分補給補助（中央値＝8）、トイレ歩行補助（中央値＝8）、床上排泄補助（中央値＝7）、導尿（中央値＝7）、清拭（中央値＝9）、更衣（中央値＝8.5）、シャワー浴/入浴の準備補助（中央値＝7.5）、パットの交換（中央値＝8.5）、シーツ交換（中央値＝9）、寝具/ベッド周辺の整頓（中央値＝9）、車椅子での移動（中央値＝8）、ベッド・ストレッチャーでの移動（中央値＝7）、歩行補助（中央値＝8.5）、看護師・助産師への指示出し（中央値＝9）、医師への報告（中央値＝9）、リーダーへの報告（中央値＝8.5）、看護者間の申し送り（中央値＝9）、当該

産婦に関するカンファレンス/ミーティング（中央値＝9）、バイタルサイン測定（中央値＝9）、血中酸素飽和度測定（中央値＝8）、採血（中央値＝8）、羊水（BTB/エムニケータ等）（中央値＝7）、与薬/点滴/注射準備（中央値＝9）、血管確保（中央値＝8.5）、点滴実施/交換（中央値＝9）、内服薬の与薬（中央値＝7.5）、点滴流量変更（中央値＝8）、静脈注射/静脈内投与（中央値＝8）、筋肉注射（中央値＝7.5）、分娩録/医師・看護記録の入力（中央値＝9）、麻薬・鎮痛薬の準備/管理（中央値＝8）、麻酔薬の注入（中央値＝8）、硬膜外麻酔中の観察（カテーテル挿入部/薬効/麻酔合併症）（中央値＝8）、カテーテル抜去（中央値＝8）、分娩室/分娩セットの準備（中央値＝9）、分娩介助（会陰保護/児娩出/胎盤娩出等）（中央値＝9）、分娩出血量計測（中央値＝9）、胎盤計測（中央値＝9）、会陰腔壁損傷の観察（中央値＝9）、会陰縫合の介助（中央値＝9）、物品の洗浄/処理（中央値＝9）、分娩室の片づけ/整備（中央値＝9）、会陰切開（中央値＝7.5）、吸引/鉗子（中央値＝7.5）、分娩中の点滴管理（中央値＝9）、産婦への支援（汗ふき/水分摂取/手を握る/呼吸リード等）（中央値＝9）、早期母子接触/初回授乳の支援（中央値＝9）、会陰・腔壁縫合（中央値＝9）、連結ガーゼ/タンポン挿入（中央値＝7.5）、子宮マッサージ（中央値＝8）、双手圧迫（中央値＝8）、胎盤用手剥離（中央値＝8）、新生児の観察（中央値＝9）、新生児の計測（中央値＝9）、新生児蘇生（中央値＝9）、新生児バイタルサイン/SpO₂測定（中央値＝9）について

は、1回目の個別評価の集計結果にて採用となった。

C-3. 1回目の個別評価の集計結果にて合意形成しなかった観察項目と追加の観察項目

合意形成しなかった観察項目として、胎児エコー検査（中央値＝7.5、1-3の評価人数3名）、頸管拡張処置（中央値＝6.5、1-3の評価人数3名）、人工破膜（中央値＝4.5、1-3の評価人数5名）、卵膜剥離（中央値＝5.5、1-3の評価人数5名）、膀胱留置カテーテル挿入（中央値＝6.5、1-3の評価人数2名）、硬膜外カテーテルの挿入処置（中央値＝9、回答者4名のみ）、クリステレル胎児圧出法（中央値＝6、1-3の評価人数4名）、酸素投与（中央値＝9、1-3の評価人数4名）があった。

パネルメンバーの意見を経て、「入院時の計測・検査（子宮底測定、体重測定、尿検査など）」、「入院時のリスクチェック（既往歴、現病歴、過去の検査データ確認など）」、「家族への付き添い（産婦の支援）の説明」、「シャワー浴、入浴（分娩促進ケア）」、「産後の振り返り」、「臍帯血採取(臍帯血ガス)」「臍帯血採取(公的・私的バンク)」、「急速遂娩施行時の経会陰エコー検査（児頭下降度、回旋異常の有無の客観的評価）」を追加項目の候補とした。

その他として、無痛分娩の処置でよく用いられる「頸管熟化処置（プロウペス等）、及びそれに伴うCTGの連続モニタリング」を追加項目の候補とした。帰室指導や家族による臍帯切断などに対する項目追加の意見があったため、「産婦へ

の説明（多量の悪露の排出、後陣痛、外陰部や創部の強い痛み等のナースコールをするタイミング、帰室時の説明）」

「バースプランへの支援（臍帯切断）」

「産後の骨盤ケア（骨盤ベルト装着）」を追加項目の候補とした。

また、パネルメンバーの頸管拡張処置の詳細方法の記載を求める意見により、頸管拡張処置（メトロ / ダイラバン / ラミナリア / ラミケン / ミニメトロ等）と項目名称を修正した。そのほか、「会陰・膣壁縫合」と「クレンメ装着」の内容が重複しているため、あわせて「産道損傷への処置（会陰・膣壁等の縫合・クレンメ装着）」と項目名を変更した。

これらの項目について、2回目の個別評価を行う。

D. 健康危険情報

特に無し。

E. 研究発表

1. 論文発表

特に無し。

2. 学会発表

特に無し。

F. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

1. 特許取得

特に無し。

2. 実用新案登録

特に無し。

3. その他

特に無し。

引用文献

- 1) Fitch, K., Bernstein, S. J., Aguilar, M. D., Burnand, B., LaCalle, J. R., Lazaro, P., ... & Kahan, J. P. (2000). RAND/UCLA appropriateness method user's manual. Santa Monica, CA: RAND corporation.
- 2) Diamond, I. R., Grant, R. C., Feldman, B. M., Pencharz, P. B., Ling, S. C., Moore, A. M., & Wales, P. W. (2014). Defining consensus: a systematic review recommends methodologic criteria for reporting of Delphi studies. *Journal of clinical epidemiology*, 67(4), 401-409.
<https://doi.org/10.1016/j.jclinepi.2013.12.000>
- 3) Sinha, I. P., Smyth, R. L., & Williamson, P. R. (2011). Using the Delphi technique to determine which outcomes to measure in clinical trials: recommendations for the future based on a systematic review of existing studies. *PLoS medicine*, 8(1), e1000393.
<https://doi.org/10.1371/journal.pmed.1000393>

別紙4

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の 編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ
なし							

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
なし					

厚生労働大臣 殿

機関名 早稲田大学
所属研究機関長 職 名 学長
氏 名 田中 愛治

次の職員の令和 6 年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 厚生労働行政推進調査事業費補助金（政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業））
2. 研究課題名 分娩取扱施設における出産に係る費用構造の把握のための調査研究（24AA2005）
3. 研究者名 （所属部署・職名） 早稲田大学 政治経済学術院・教授
（氏名・フリガナ） 野口 晴子・ノグチ ハルコ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無 有 無	左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
		審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（※3）	☐ ☒	☐		☐
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	☐ ☒	☐		☐
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	☐ ☒	☐		☐
その他、該当する倫理指針があれば記入すること （指針の名称： ）	☐ ☒	☐		☐

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査の場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ☒ 未受講 ☐
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合は委託先機関： ）
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 ☐ 無 ☒ （有の場合はその内容： ）

（留意事項） ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣 殿

機関名 聖路加国際大学
所属研究機関長 職 名 学長
氏 名 堀内 成子

次の職員の令和 6 年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 厚生労働行政推進調査事業費補助金（政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業））
2. 研究課題名 分娩取扱施設における出産に係る費用構造の把握のための調査研究（24AA2005）
3. 研究者名 （所属部署・職名） 聖路加国際大学 大学院看護学研究科・教授
（氏名・フリガナ） 片岡 弥恵子・カタオカ ヤエコ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無 有 無	左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
		審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（※3）	☐ ☒	☐		☐
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	☐ ☒	☐		☐
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	☐ ☒	☐		☐
その他、該当する倫理指針があれば記入すること （指針の名称： ）	☐ ☒	☐		☐

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査の場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ☒ 未受講 ☐
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合は委託先機関： ）
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 ☐ 無 ☒ （有の場合はその内容： ）

（留意事項） ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣 殿

機関名 聖路加国際大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 堀内 成子

次の職員の令和6年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 厚生労働行政推進調査事業費補助金（政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業））
2. 研究課題名 分娩取扱施設における出産に係る費用構造の把握のための調査研究（24AA2005）
3. 研究者名 （所属部署・職名） 聖路加国際大学 大学院看護学研究科・准教授
（氏名・フリガナ） 増澤 祐子・マスザワ ユウコ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（※3）	☐	☒	☐		☐
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	☐	☒	☐		☐
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	☐	☒	☐		☐
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称： ）	☐	☒	☐		☐

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

- （※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
- （※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ☒ 未受講 ☐
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合は委託先機関： ）
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 ☐ 無 ☒ （有の場合はその内容： ）

- （留意事項）
- ・該当する□にチェックを入れること。

・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。